コンバイン

取扱説明書

MCH400A



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

エアコンの簡易点検実施について

フロン排出抑制法が施行され、エアコン装備（キャビン仕様）の場合、「簡易点検の実施」、「記録の保管」を実施することが義務化されました。
詳しくは、巻末の「フロン排出抑制法によるお客様点検」と「簡易点検記録表」をお読みください。

輸出または非居住者に提供する場合

当社製品ならびに技術資料を、輸出または非居住者に提供する場合は、安全保障貿易管理に関する日本および関係各国の法規制を順守ください。
なお、お客様の違反に伴う損害について、当社は責任を負いません。

車両銘板とエンジン銘板

車両銘板とエンジン銘板には、アフターサービスをお受けになるときなどに必要な情報が記載されています。
車両銘板は、乗降ステップの内側の位置（図1）に、エンジン銘板は、グレンタンクをオープンしコンバイン前側のエンジン部分（図2）にそれぞれ貼り付けられています。

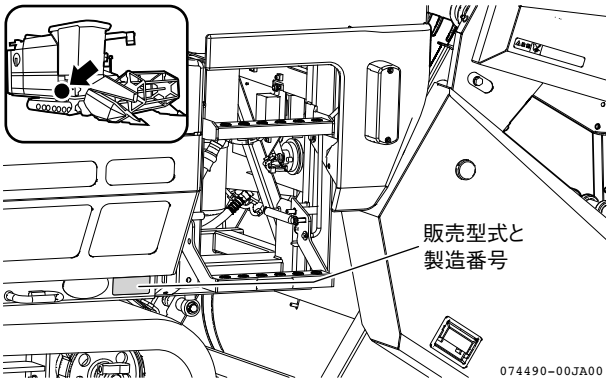


図 1 車両銘板

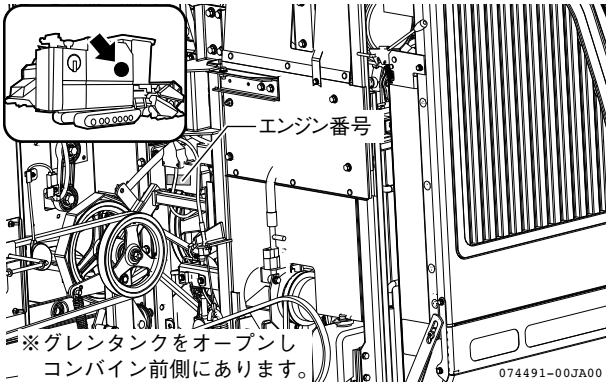


図 2 エンジン銘板

販売型式名、製造番号、キーナンバーなどを記入してください

コンバインの製造番号とエンジン番号は、アフターサービスをお受けになるときや、万一盗難被害にあった場合などに必要となりますので、各銘板に記載されている販売型式名や製造番号などを以下の表に記入してください。
また、本製品には個別キーを採用しております。万一、キーを紛失した場合に必要となりますので、付属のキーナンバーも記入し、キーナンバープレートは大切に保管してください。

販売型式名：	アタッチメント型式名および製造番号：
区分：	
製造番号：	
エンジン型式：	
エンジン番号：	
キーナンバー：	

※ご購入のコンバインによっては、該当しない項目もあります。
※アフターサービス、保証については、（292ページ）をご参照ください。

お客様へのお知らせ

[重要]

このコンバインは排出ガス規制対応のためコモンレールエンジン、排気フィルター(DPF※)を搭載しています。

日常点検項目や、使用する燃料・オイルは、安全・作業に関する重要項目ですので、必ずお読みいただき当社指定の燃料・オイルを使用し、および定期点検を必ず行ってください。

※ Diesel Particulate Filter; ディーゼル パティキュレート フィルター

1. ウォーターセパレータを表1に従って定期的に点検し、水が溜まっていたり、汚れのある場合は、水抜き・洗浄を行ってください。守らないと、サプライポンプまたはインジェクタが焼きつくおそれがあります。

表 1 ウォーターセパレータ

水抜き・洗浄	1回目:50時間目 2回目以降:100時間ごと

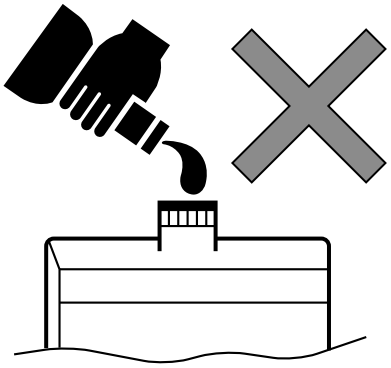
エンジンチェックランプが点灯し、警報ブザーが連続音で鳴った場合は、ウォーターセパレータに水がたまっています。すみやかに中の水を抜いてください。

2. 燃料コシ器内のカートリッジは、表 2に従って、定期的に交換してください。守らないと、エンジン出力が低下するおそれがあります。

表 2 燃料コシ器エレメント

燃料コシ器エレメント	交換	300時間ごと

3. 燃料は市販のディーゼル軽油をそのまま使用し、添加物等を加えないでください。添加物などで燃料噴射ノズルが目詰まりを起こし、エンジン出力が低下するおそれがあります。



4. このコンバインのエンジンは排出ガス規制対応のため、燃料噴射部品に精密部品および排出ガスの後処理装置である排気フィルターを使用しています。使用燃料を保管する場合は、亜鉛メッキ鋼板製の容器のご使用はさけ、樹脂製、ステンレス製などの容器を使用してください。燃料の中に亜鉛、または鉛物質が溶け出すと、エンジン不調の原因になる場合があります。
5. エンジンオイルは必ず表 3 のものを使用してください。

表 3 エンジンオイル

	指定オイル	一般販売店の相当オイル	
		JX日鉱日石エネルギー(ENEOS)	コスモ石油
エンジンオイル	スーパーグリーンディーゼルエンジンオイル SAE・10W-30 (DH-2級)	ディーゼルエンジン用 SAE10W-30相当品 (DH-2級、API分類、CJ-4級)	

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、三菱コンバインをお買い上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、コンバインの取り扱い方法と使用上の注意事項について記載しています。
本製品をご使用いただく前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。
また、お読みになった後も、この取扱説明書をシート後のポケットに入れ、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、必ずこの取扱説明書を本製品と共におわたしください。
- この取扱説明書および安全銘板を紛失または損傷された場合は、すみやかに当社の特販店、または JA にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1章必ずお読みください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気づきのことがございましたら、お買い上げいただいた特販店、または JA へご相談ください。
- 本書の表紙裏の記入欄にコンバインの製造番号、エンジンの番号、キーナンバーなどを記入してください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載漏れなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

このコンバインは、路上（公道）走行できません。

このコンバインは、道路運送車両法の保安基準に適合する装備をしておりませんので、法令により公道を自走することができません。公道を移動する場合は、必ずトラックなどにのせて運搬してください。
※積載するトラックの選定は、道路交通法を守ってください。（詳しくは8 ページをご覧ください。）

説明記号の見方

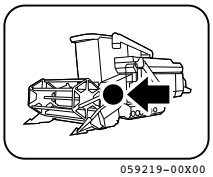
⚠危険　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠警告　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものを示します。

⚠注意　その警告文に従わなかった場合、けがを負う可能性があるものを示します。

[重要]　誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

[参考]　作業能率をよくしたり、誤った操作をしないための補足説明です。



説明個所の位置と、見ている方向を示します。
また、本書の「左側」や、「右側」という記載は前進方向を見た状態での左側、右側を示します。「左旋回」、「右旋回」という記載は前進方向を基準として示します。

●印：位置　　⬅印：見ている方向

本製品の使用目的について

本製品は、大豆の他に、小豆・ソバ・麦の作物の刈取・収穫用作業機としての農業用にご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは、しないでください。
小豆・そば・麦の場合は、必ず作業前に専用キットに交換し、各部の調整を必ず行ってください。
（詳細は、専用キットの取扱説明書をご覧ください。）
使用目的以外の作業や改造をした場合は、重大な事故や機械の破損をまねくおそれがあります。また、保証の対象になりませんので、ご注意ください。（詳細は、保証書をご覧ください。）

型式と仕様について

本製品には、つぎの仕様があり、取扱説明書の内容で、型式・仕様によっては該当しない項目もあります。

型式：MCH400A
仕様：Ｓ：　スプレッダ仕様
　　Ｅ：　排出コンベア仕様
　　C：　キャビン仕様
　　W：　２Ｍヘッダー仕様
　　Ｇ：　グレンタンク仕様
　　なし：ワンマンホッパ仕様

本製品の使用条件について

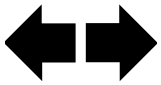
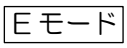
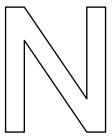
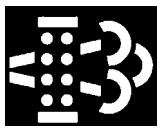
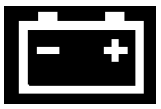
本製品は、収穫用のコンバインとして設計、製造されています。
表の条件で使用することにより本来の性能を発揮します。

表 1 使用条件

傾斜度	10度（17.6%）以下

運転操作のシンボルマーク

コンバインを安全に能率よく操作、作業していただくために、以下のシンボルマークをコンバインおよび取扱説明書の中で使用しています。シンボルマークの意味をよく理解していただき、安全にご使用ください。なお、各シンボルマークのさらに詳しい説明については、本書第2章「運転のしかた」に記載しています。

	ウインカパイロットランプ		エンジン回転高速		エンジン回転低速
	予熱		エンジン機能不良		アクセル回転
	Eモード		ニュートラル(中立)		オーバーロード警報
	排気フィルター再生		エンジン油圧警報		バッテリーチャージ
	エンジン冷却水				

関係法規

ナンバープレートの交付を､必ず受けてください

このコンバインは、小型特殊です。必ずコンバイン取得の届け出を行い、ナンバープレートの交付を受けてください。交付されたナンバープレートは、ナンバープレート取付穴に取り付けてください。(図1)

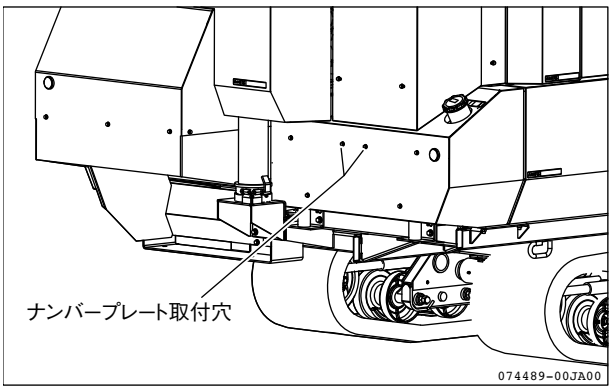


図 1

届け出のしかた

小型特殊自動車販売証明書（各特販店、またはJA が発行します）ならびに、小型特殊自動車届出書に軽自動車税を添えて、市町村役場へ提出してください。(市町村により、手続きが多少異なりますので、詳しくは特販店、またはJA にご相談ください。)

排出ガス規制について

このコンバインは、特定特殊自動車の排出ガス規制に適合しています。
規制適合を維持していくためには「主要消耗部品の点検・交換時期の目安表」(288 ページ）に従って、エンジンオイル・オイルフィルター・燃料フィルター、およびエアクリーナーエレメントなどの交換とエンジン以外も含む、定期メンテナンスを励行することが必要です。
定期的なメンテナンスを怠り、排ガス基準値をクリアできなかった場合は、罰則が科せられる場合があります。

ディーゼル燃料について

燃料規格について

表 2 燃料規格

ディーゼル燃料規格	地域
JIS K2204	日本
ASTM D975-05 No.1 D S15 No.2 D S15	米国
EN590:2004	EU(欧州連合)
ISO 8217 DMX	国際規格
BS 2869-A1(またはA2)	英国
KSM-2610	韓国
GB252	中国

その他の燃料基準

使用する燃料はつぎの条件を満たしているものをご使用ください。

- 燃料のセタン価は45 以上であること。
  なお、(EGR 付電子制御式) エンジンについては硫黄分0.1 %未満の燃料の使用が必須です。
  一般的に、高硫黄燃料を使用しますと、シリンダ内の硫酸腐食を発生させるおそれがあります。
  特にアメリカ合衆国・カナダにおいては Ultra Low Sulfur 燃料を使用すること。
- ディーゼル燃料には、灯油、使用済みのエンジンオイル、または余りの燃料を混ぜないこと。
- 燃料内の水および沈殿物は、全体の体積の0.05%未満であること。
- 燃料タンク、および燃料を取り扱う装置類は、常に清潔にすること。
- 品質が悪い燃料は、エンジン性能を低下させます。また、エンジン損傷の原因になります。
- 燃料添加剤を使用しないこと。一部の燃料添加剤は、エンジン性能が低下する原因になります。詳細は、お買い上げいただいた特販店、またはJAへお問い合わせください。
- 灰分は、全体の体積の0.01%未満であること。
- 残留炭素分は、全体の体積の0.35%未満であること。ただし、推奨値は0.1%未満。
- 芳香族分は、全体の体積の 35%未満であること。ただし、推奨値は30%未満。
- PAH (多環芳香族炭化水素) は、全体の体積の10%未満であること。
- 金属分 (ナトリウム、マグネシウム、ケイ素、アルミニウム) は、1 mass ppm 以下であること。(JPI-5S-44-95 試験分析手法)
- 潤滑性 - HFRR 試験での WS1.4 の摩耗キズが、最大で460μm までとする。

バイオディーゼル燃料について

- 「揮発油などの品質の確保に関する法律」で定める軽油規格を満足する B5 以下のバイオディーゼル燃料であることを確認してください。
- バイオ燃料は、必ず正規のディーゼル燃料販売店で購入してください。

目次

総目次

車両銘板とエンジン銘板 1

販売型式名、製造番号、キーナンバーなどを記入してください 1
お客様へのお知らせ 2

はじめに 3

関係法規 8
ナンバープレートの交付を、必ず受けてください 8
届け出のしかた 8
排出ガス規制について 8
ディーゼル燃料について 8
燃料規格について 8
バイオディーゼル燃料について 9

1章 必ずお読みください 20

安全な作業をするために必ずお守りください .. 20
運転（作業）する人について 20
運転（作業）するコンバインについて 22
運搬するときの注意事項 31
駐車・格納するときの注意事項 34
点検・給油・整備するときの注意事項 37
その他の注意事項 44
安全銘板 45
安全銘板の貼り付け位置 45
安全銘板の手入れについて 55

2章 運転のしかた 56

各部のはたらきと使いかた 56
フロントコラム部 56
サイドコラム部 59
ハンドル部 64
コンビネーションメータ部 66
キャビン関係（キャビン仕様のみ） 76
シート位置の調節のしかた 83
ならし運転（最初の 50 時間）について 86
運転前の点検 87
点検のしかた 89
運転前の準備 90
コンバインへの乗降のしかた 90
ステアリングハンドルの前後調節のしかた ... 91
エンジンの始動と停止 91
始動のしかた 91
寒冷時の始動のしかた 94
暖機運転のしかた 95
エンジンの停止のしかた 95
発進のしかた 96
発進操作のしかた 97
変速のしかた 98
旋回のしかた 98
停車のしかた 100
駐車のしかた 100
移動走行のしかた 102
エアコンの使いかた 106

3章 作業のしかた 109

刈取作業前の準備 109
刈り取りできる作物の条件について 109
作付・栽培管理 115
収穫時期について 115
刈取り作業ができるほ場の条件について 115
ほ場の準備と刈取方法について 116
刈取作業前の掃除のしかた 125
ほ場への出入りのしかた 126
作業について 127
刈取操作のしかた 127
作物に合わせた収穫作業について 133
作物や作業条件に合わせた各部の調節のしかた 136
作物別標準調節表 142
定置脱こくのしかた 143
警報装置が作動したときの処置のしかた 145
自動装置について 147
こく粒の排出のしかた 161
排出作業のしかた 162
グレンタンク点検窓の使いかた 165

4章 お手入れのしかた 168

各部の脱着・オープンのしかた 168
各部脱着・オープン一覧 168
主なカバーのなまえ 170
エンジンルームのオープンのしかた 172
ロータカバーのオープンのしかた 173
グレンタンクのオープンのしかた（グレンタンク仕様のみ） 174
脱こくサイド上カバーのオープンのしかた 176
ワンマンホッパのオープンのしかた（ワンマンホッパ仕様のみ） 176
補助こく粒受台の開閉のしかた（ワンマンホッパ仕様のみ） 177
ヘッダー部の脱着のしかた 178
作業後の手入れについて 181
作業後の手入れのしかた 181
コンバインの洗浄のしかた 182

刈取部ストッパ（刈取部固定）のセットのしかた 182
固定のしかた 182
各部の掃除のしかた....184
各部の注油のしかた....195
グリスアップのしかた....197
点検・整備のしかた 199
定期点検・整備の時期について 200
調整箇所規定量一覧表....201
オイル・グリス・不凍液一覧表 202
給油・給水一覧表 202
燃料の点検･補給のしかた....203
オイルの点検・補給・交換のしかた 204
冷却水の点検・補給・交換のしかた 209
エンジンオイルエレメントの交換のしかた 211
HST フィルターの交換のしかた....212
ウォーターセパレータエレメントの点検・ドレン抜き・掃除・交換のしかた.....213
燃料フィルターの交換のしかた 215
燃料タンクのドレン抜きのしかた 216
燃料の空気（エア）抜きのしかた 217
排気フィルターの再生のしかた 217
エアクリーナーの掃除・交換のしかた.....223
プレクリーナーの掃除のしかた 224
吸気口・ラジエータスクリーン・ラジエータフィンの掃除のしかた 225
ウォッシャー液の補充のしかた(キャビン仕様のみ)....228
バッテリーの点検・整備のしかた 228
パイプ類の点検のしかた....231
電気配線の点検のしかた....232
ヒューズ・スローブローヒューズの点検・交換のしかた....232
刈刃の調節のしかた....235
プラットホーム底板とスクリューコンベアのすき間調節のしかた.236
プラットホーム底板とフィンガのすき間調節のしかた....237
フィーダチェンの張り調節のしかた 238
リールの調節のしかた....240
各部チェンの点検・調節のしかた 242
各部ベルトの点検・調節のしかた 246
駐車ブレーキの点検・調節のしかた 255
クローラの点検・調節のしかた 257
強力ピンの交換のしかた(グレンタンク仕様のみ)....258
排出ガスの色について....259
クーラーガス（冷媒）の点検のしかた.....259
冷媒ガス（サービス缶）の取り扱い、および充てんの注意（キャビン仕様のみ)...262
投げ口シートの交換のしかた....263
不調診断のしかた 264
エラーコード一覧表 271

5章　保管のしかた..... 278

短期保管するときは（２か月以内) 278
保管のしかた 278
長期保管するときは（２か月以上) 279
保管のしかた 279
保管中の整備のしかた.... 280

6章　輸送のしかた..... 281

トラックへの積み・降ろしのしかた 281
アユミ板について.... 281
トラックの準備 282
コンバインの積み込みかた 282
コンバインの降ろしかた.... 285
積み・降ろし中のコンバインの停止・発進のしかた.... 286

7章　仕様..... 287

主要諸元.... 287
主要消耗部品の点検・交換時期の目安表.... 288

8章　廃棄物の処理について..... 291

廃棄するときは 291
廃油、不凍液の処理.... 291
バッテリーの処理.... 291
冷媒ガス（フロン類）の処理 291
ホース類の処理 291

9章　サービスと保証について..... 292

保証書は大切に保管してください.... 292
アフターサービスをお受けになるときは.... 292

10章 索引..... 293

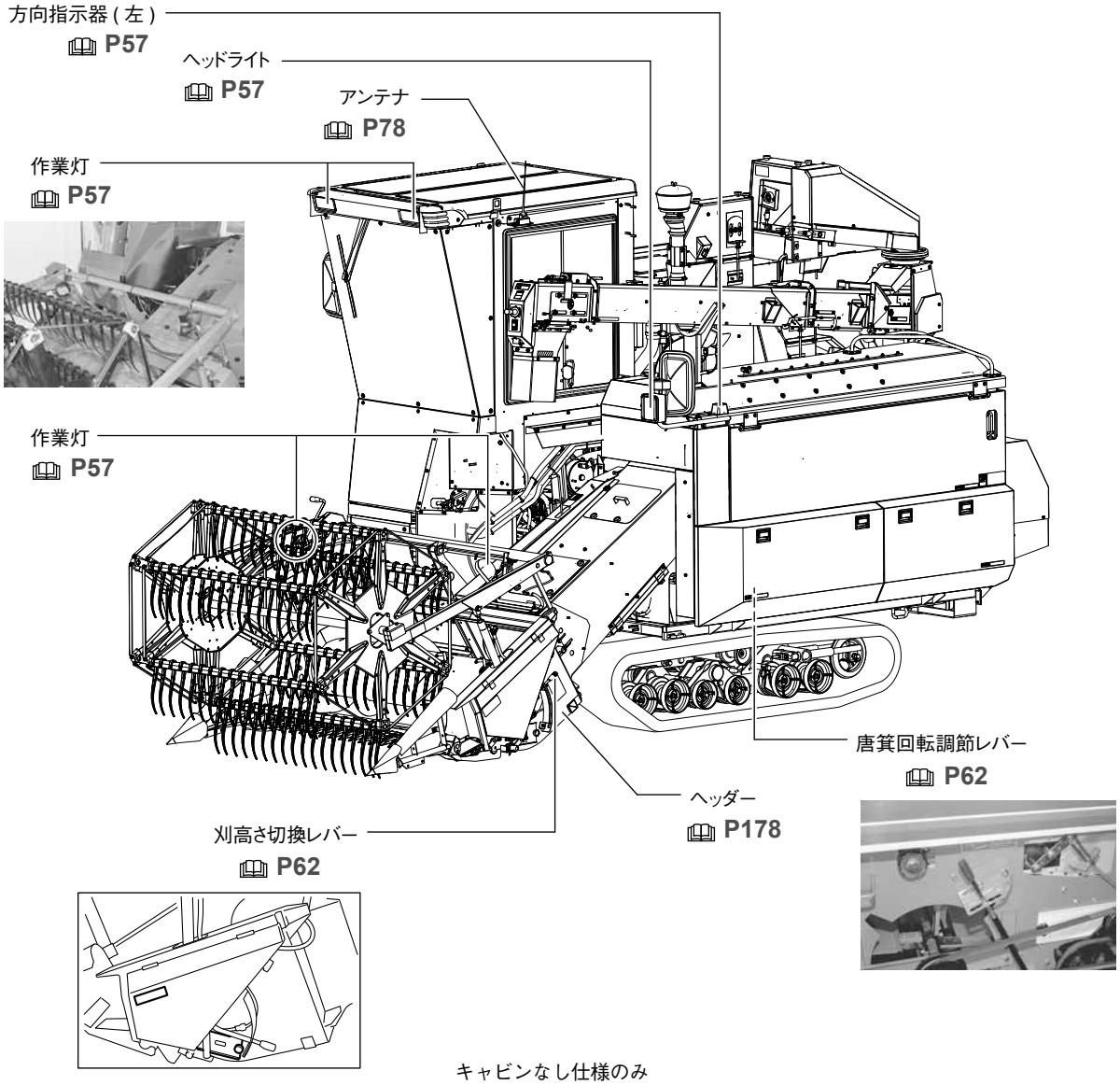
11章 部品リスト(部品早見表) 295

オプション 295
主要消耗部品 296

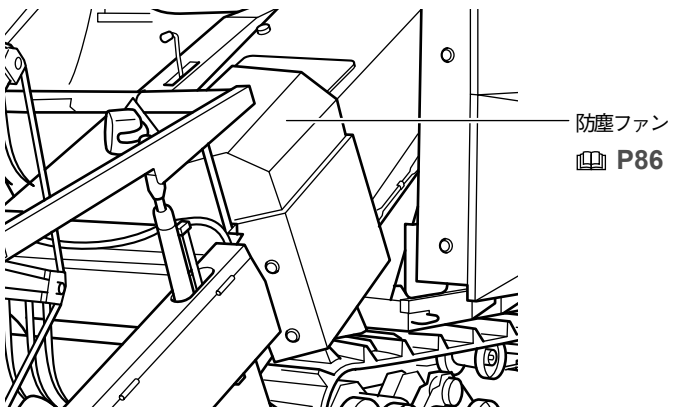
フロン排出抑制法によるお客様点検 ...298

イラスト目次

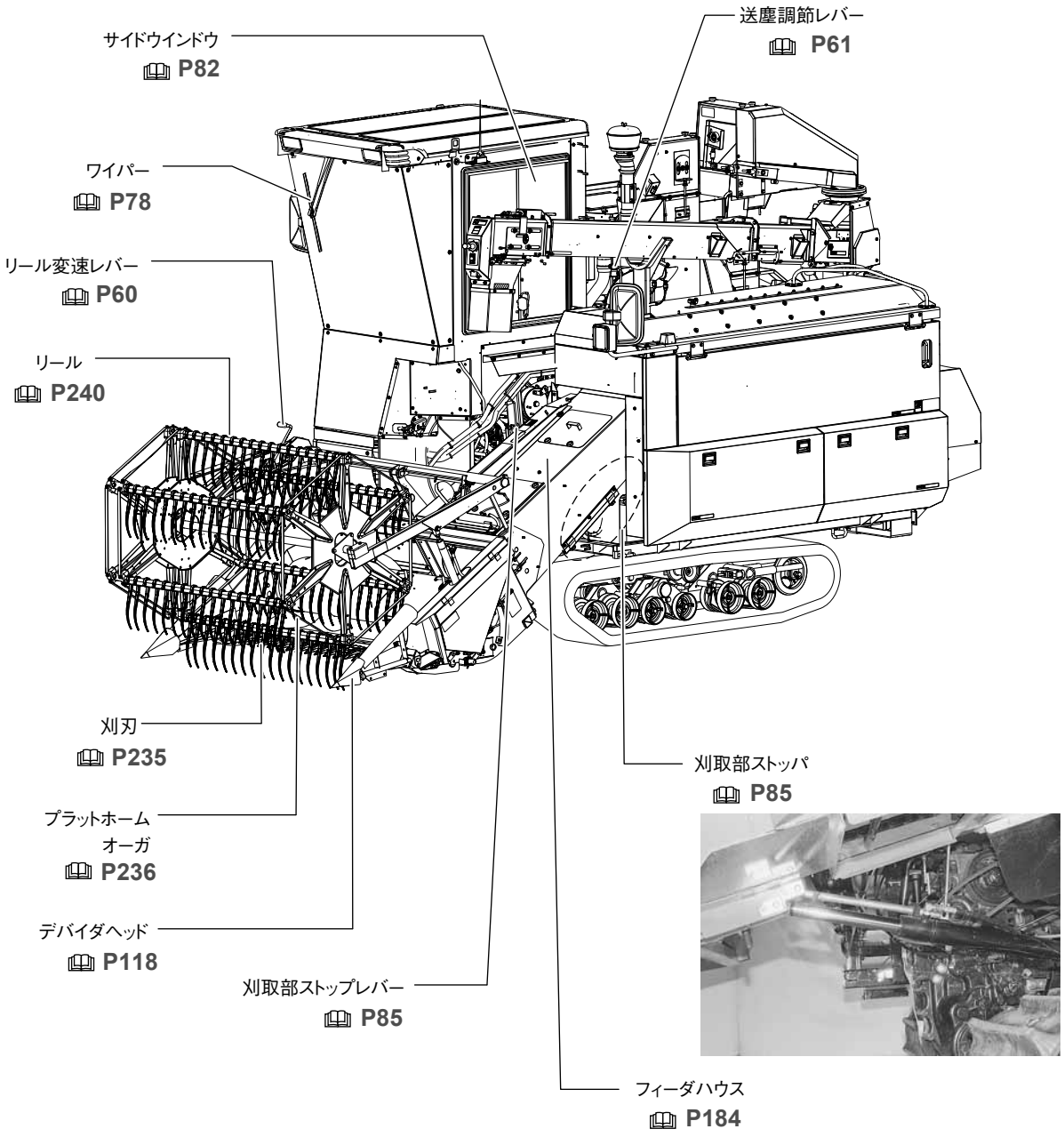
外観



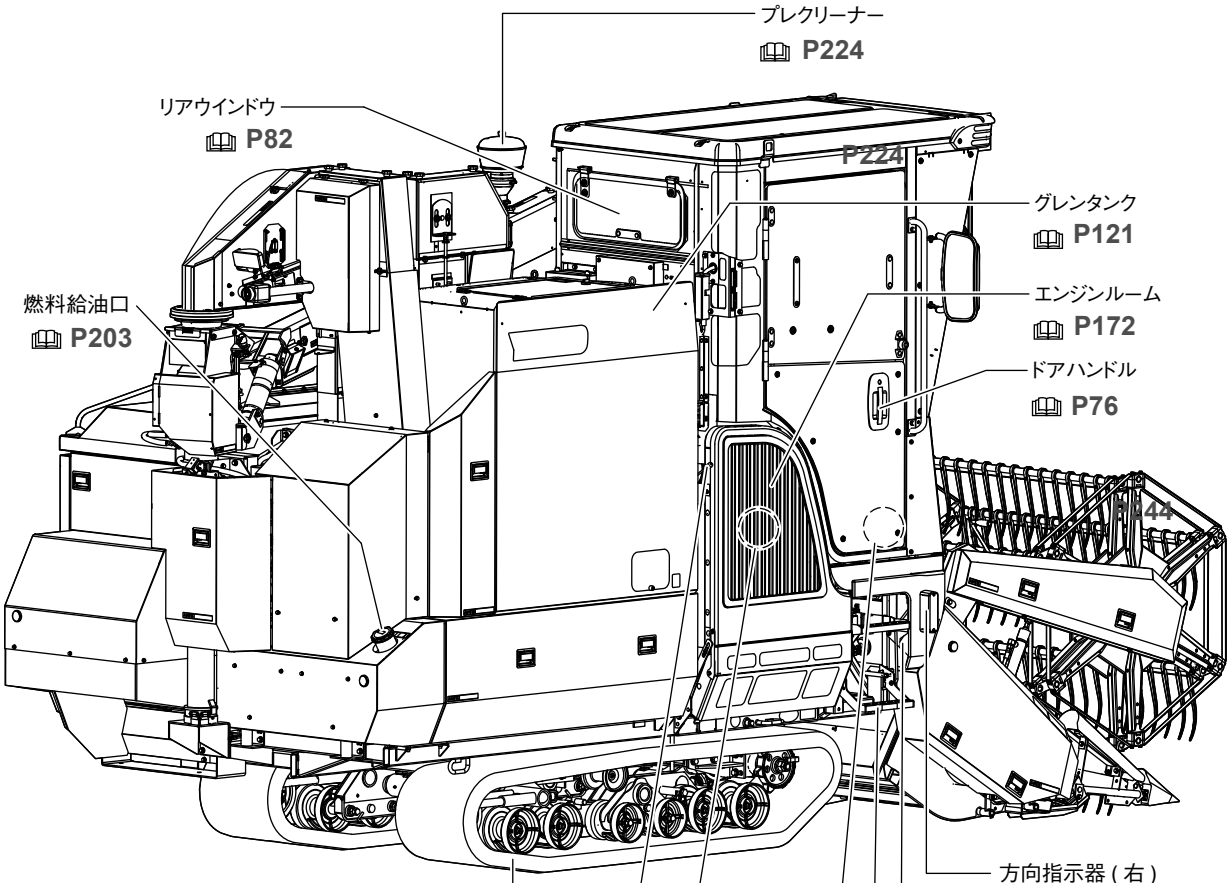
キャビンなし仕様のみ

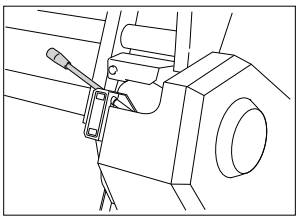


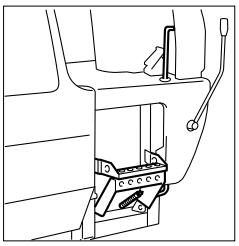
074493-00JA00



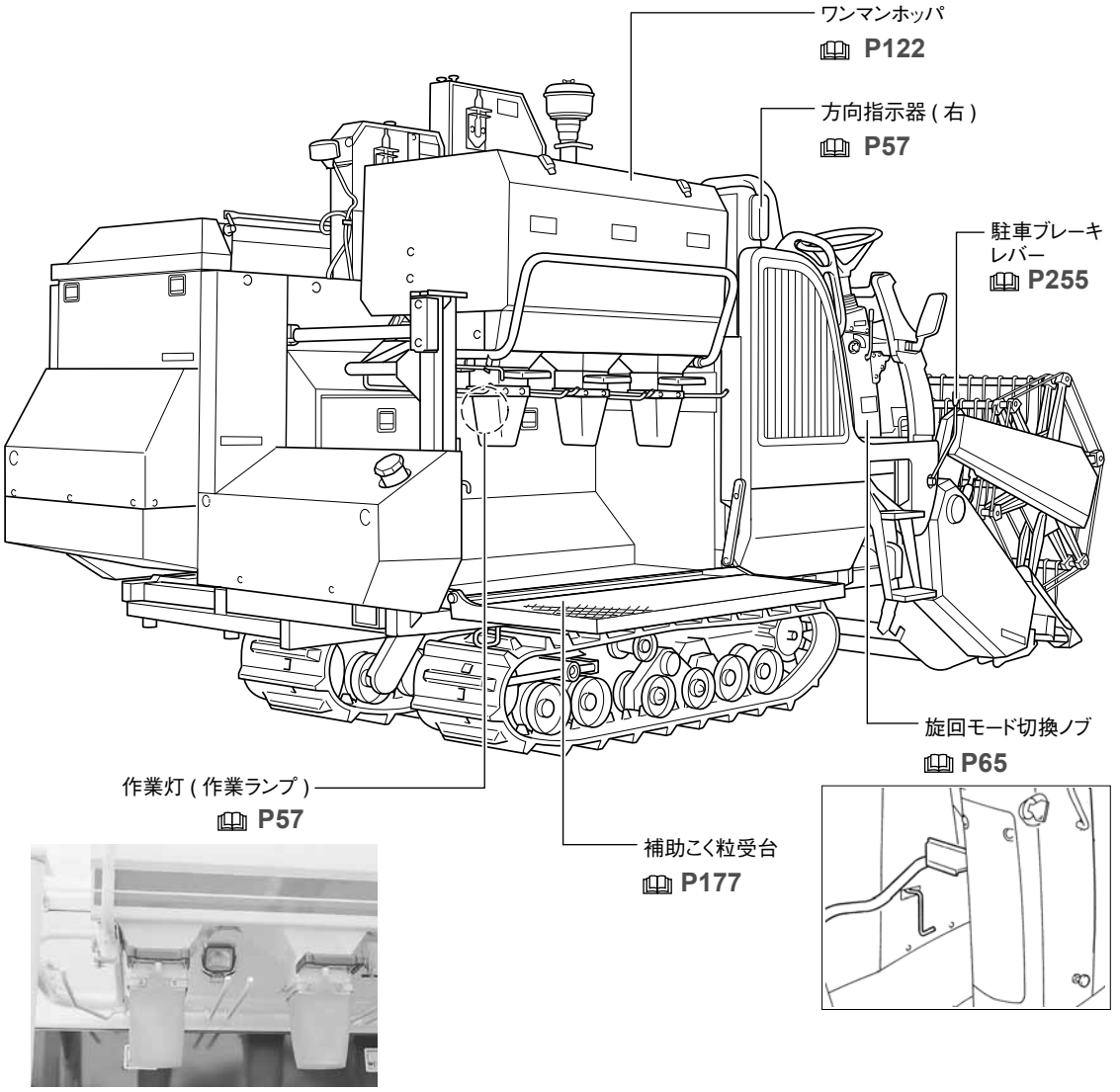
074494-00JA01


プレクリーナー
P224
リアウインドウ
P82
P224
グレンタンク
P121
燃料給油口
P203
エンジンルーム
P172
ドアハンドル
P76
P244
方向指示器 (右)
P57
クローラ
P257
刈刃・リールクラッチレバー
P60
エンジンルームロックレバー
P172
エアクリーナー
P223
乗降ステップ操作レバー
P86
乗降ステップ
P86
074495-00JA01



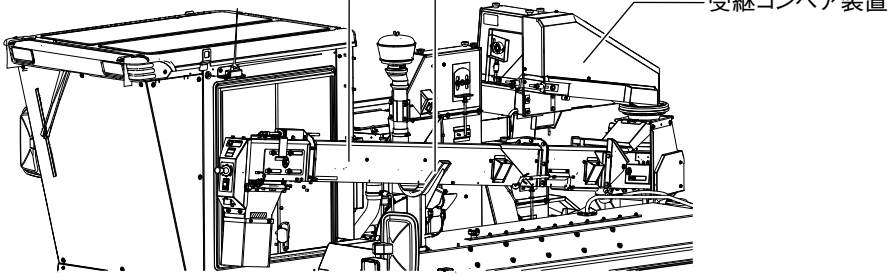


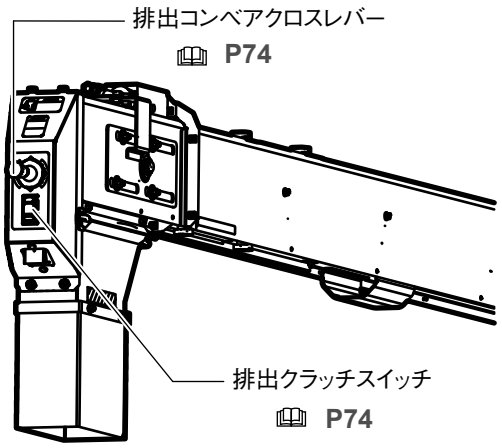
ワンマンホッパ仕様

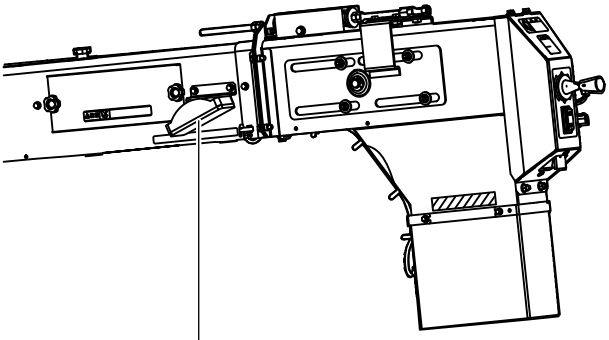


074496-00JA01

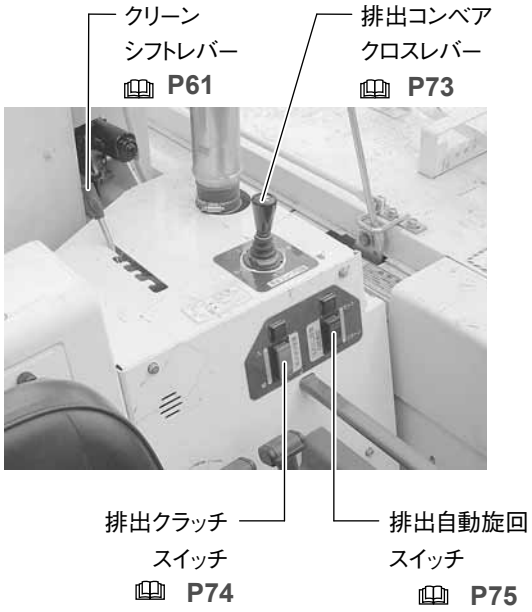
グレンタンク仕様



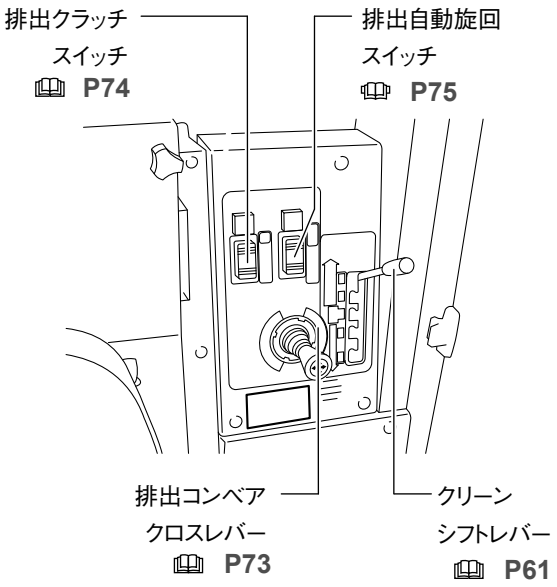




■キャビンなし仕様

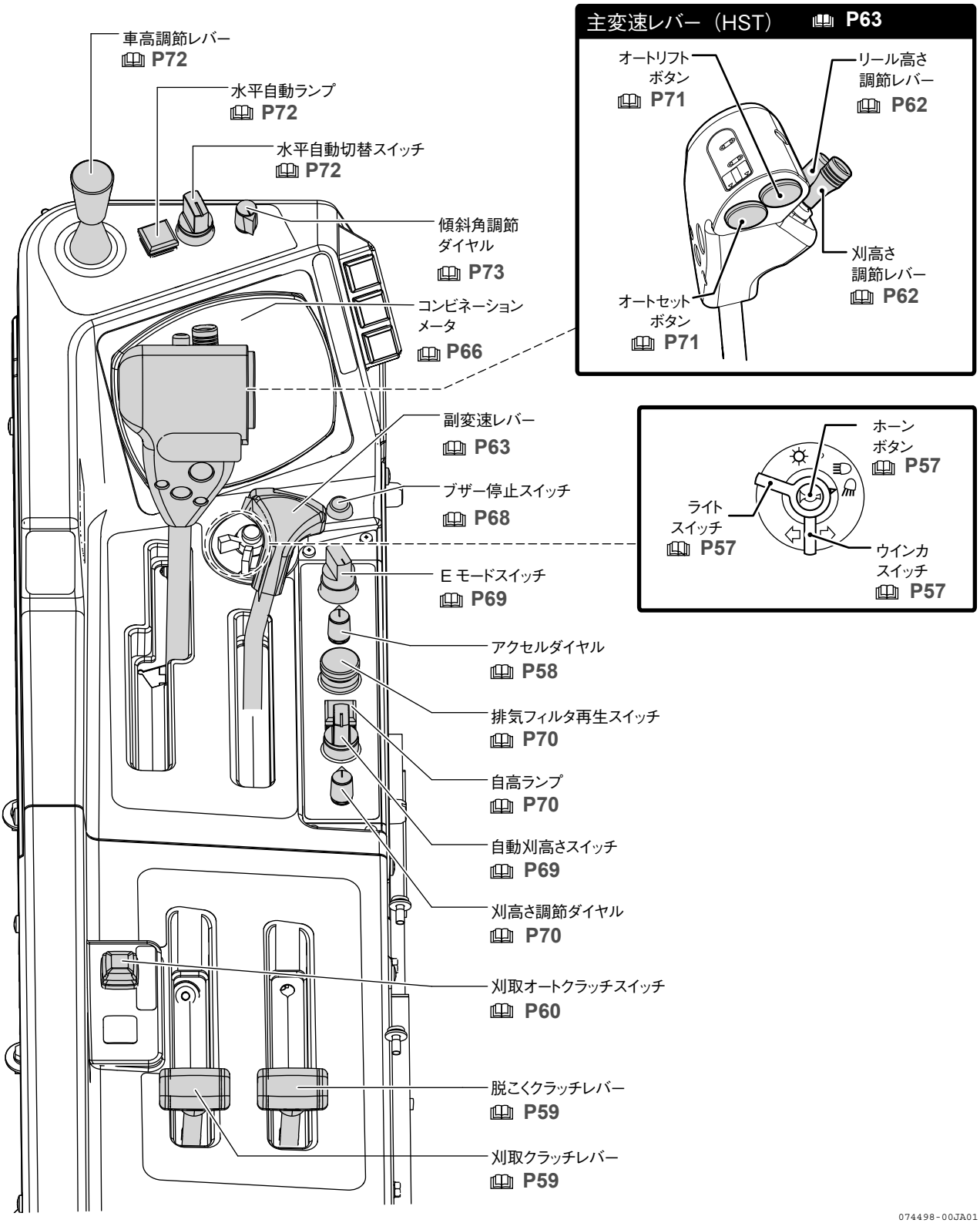


■キャビン仕様



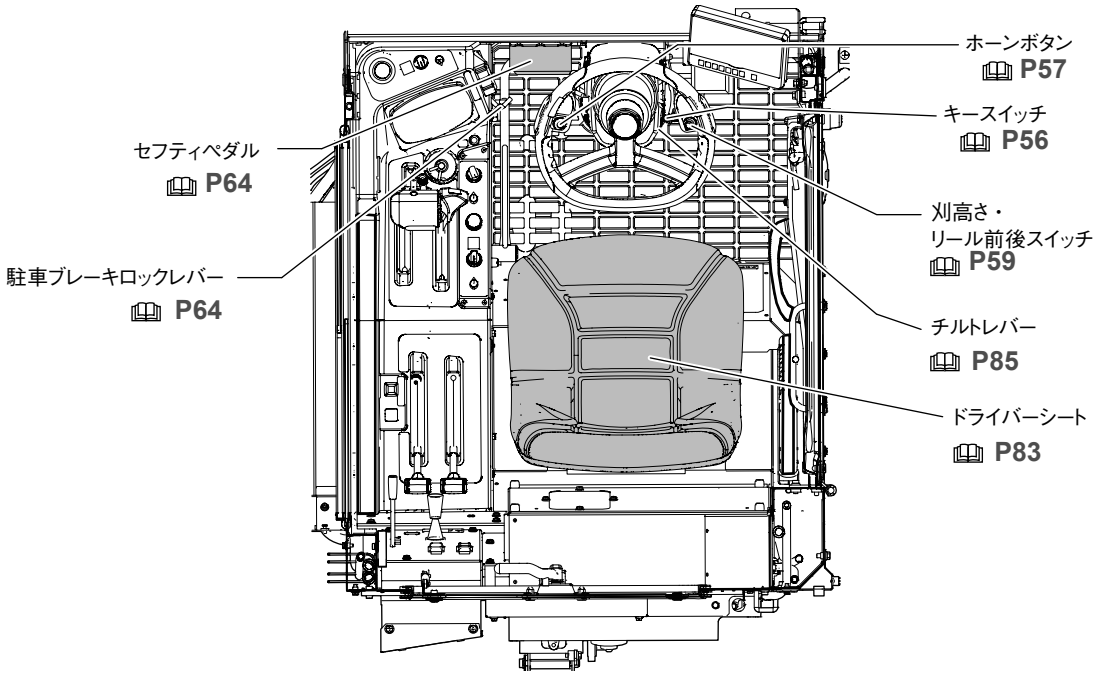
074497-00JA00

運転操作部

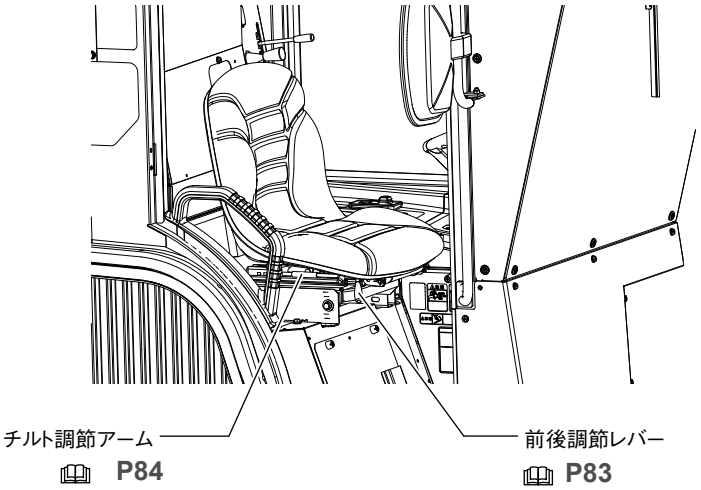


074498-00JA01

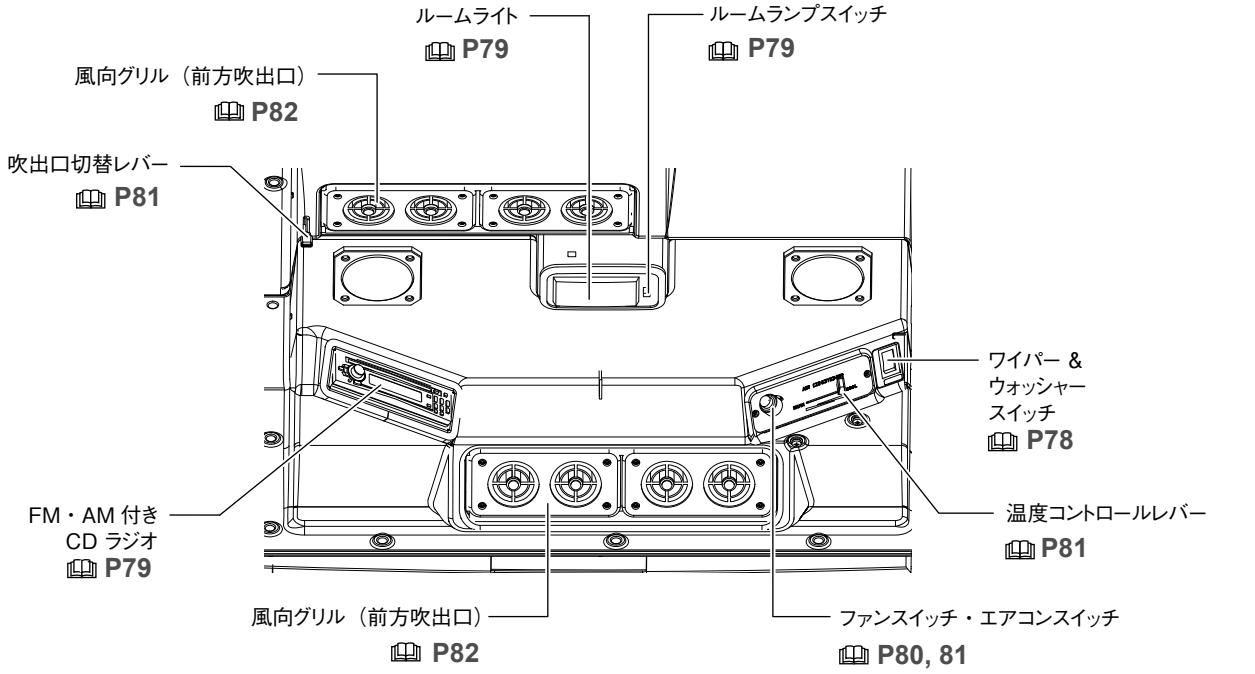
■ フロントコラム部・ハンドル部



■ シート部



キャビン天井


ルームライト
P79
ルームランプスイッチ
P79
風向グリル（前方吹出口）
P82
吹出口切替レバー
P81
ワイパー &
ウォッシャー
スイッチ
P78
FM・AM 付き
CD ラジオ
P79
温度コントロールレバー
P81
風向グリル（前方吹出口）
P82
ファンスイッチ・エアコンスイッチ
P80, 81
074500-00JA00

安全な作業をするために必ずお守りください。

- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。
- ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡事故や傷害事故を引き起こしたり、けがをするおそれがあります。また、損害事故等により機械の破損が生じる場合があります。
  ※ご購入いただいた製品によっては、一部該当しない内容も記載していますのでご了承ください。

⚠印付きのマークは、安全上、特に重要な項目です。必ずお守りください。

⚠危険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものを示します。
⚠注意	その警告文に従わなかった場合、けがを負う可能性があるものを示します。
[重要]	誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。
[参考]	作業能率をよくしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

運転(作業)する人について

⚠注意

■ コンバインおよび装着するアタッチメントの取扱説明書および安全銘板の内容を十分に理解する

【守らないと】
けがをするおそれがあります。



■ 取扱説明書および安全銘板の内容が理解できない人や子供は運転しない

作業前には、必ず取扱説明書および安全銘板をよく読み、内容を理解してから作業してください。また、取扱説明書の内容が理解できない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAへご連絡してください。

【守らないと】
誤作動などにより、けがをするおそれがあります。

⚠注意

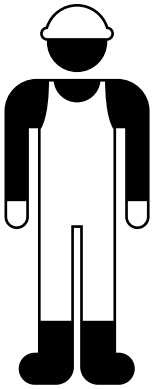
■ 体調が悪いとき、運転が未熟な人は運転をしない

つぎの項目にあてはまるときは、コンバインを運転しないでください。

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- お酒を飲んだとき。
- 妊娠中の人。
- 18才未満の人。

【守らないと】
誤作動などにより、けがをするおそれがあります。

■ 作業に適した服装をする



- だぶつきのない服（つなぎなど）を着用し、袖口はきっちりと止めてください。
- 滑り止めの付いた靴（安全靴など）を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- はち巻き・首巻き・腰タオルはしないでください。
- 音楽用のイヤホンなどを使用しないでください。

【守らないと】
コンバインに巻き込まれたり、滑って転倒してけがをするおそれがあります。

■ コンバインを他人に貸すときは



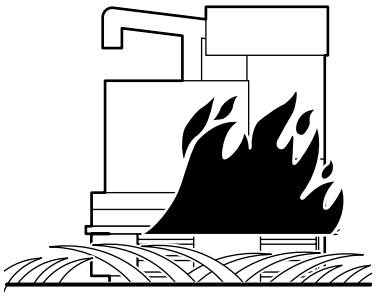
取り扱い方法や、安全な使いかたをよく説明し、使用前に必ず「取扱説明書」を読むように指導してください。

【守らないと】
けがをするおそれがあります。

運転(作業)するコンバインについて

⚠危険

■ ワラくずの上で絶対に作業しない

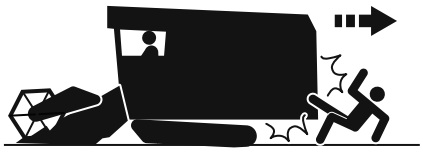


ワラくずが堆積している付近にコンバインを止めて、作業をしないでください。

【守らないと】

エンジン周辺の熱でワラくずが高温になって火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業中は絶対に人を近づけない



作業をするときは、十分周囲に注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。

また、補助者と組んで作業をするときは、作業の段取りを、補助者とよく打ち合わせてください。作業中は、ホーンなどでお互いに合図しあってください。

【守らないと】

死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 使用する前には、必ず各部を点検する



コンバインを使用するときは、必ず運転前（作業前）点検を行い、異常な箇所は整備してください。

- 紛失、または損傷した部品は必ず交換してください。
- クラッチ・ブレーキ・ハンドルや安全装置などの日常点検を行い、摩耗や破損した部品があれば必ず交換してください。
- ボルトやナットのゆるみがないか、定期的に点検してください。
- 異音や異常な振動がないか点検してください。

【守らないと】

整備不良により、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

運転前（作業前）点検箇所については、「運転前の準備」（90ページ）を参照ください。

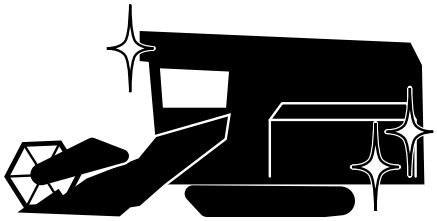
⚠警告

■ コンバインは常に掃除しておく

バッテリー、配線、排出ガス出口、エンジンの周辺部にごみや燃料の付着がないか確認し、付着がある場合は、必ず取り除いてください。

【守らないと】

付着物に引火して火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

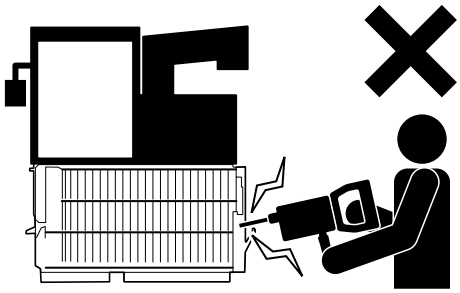


■ コンバインは改造しない

コンバインの改造は絶対にしないでください。

【守らないと】

コンバインの安全性がそこなわれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



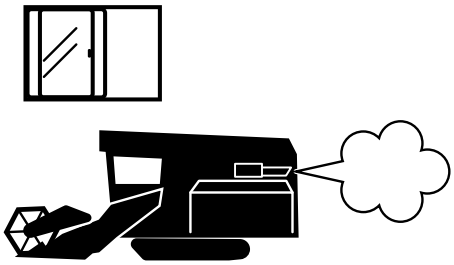
■ 排出ガスに十分注意する

倉庫や車庫など、閉め切った屋内ではエンジンを始動しないでください。

エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむをえず屋内でエンジンを始動するときは、ドアや窓を開けて、換気を十分に行ってください。

【守らないと】

排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



■ 寒冷時には必ず暖機運転を行う

寒冷時に運転する場合は、エンジンを始動してから必ず暖機運転を長く行ってください。その際、駐車ブレーキをかならずかけてください。

【守らないと】

駐車ブレーキワイヤーなどが凍結していると、誤作動する可能性があり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

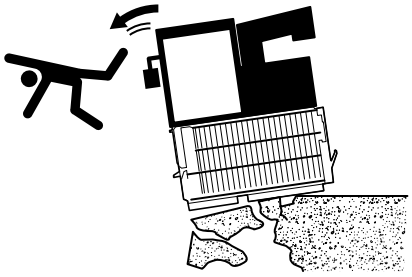
■ ブレーキのききや各レバー類の作動点検を行う

ブレーキの効き具合や、ステアリングハンドル・各レバー類に著しいガタや遊びがないか点検し、ある場合は必要な処置をしてください。

【守らないと】

正常な走行ができず、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 道路の端に寄りすぎない



溝・穴の近くや路肩など、コンバインの重みでくずれるおそれがある場所では、運転しないでください。

草の茂った場所や水たまりは、隠れて見えないくぼ地などがあるおそれがあります。必ずコンバインから降りて確認してください。走行時は、路肩との距離を十分にとってください。

【守らないと】

転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ グレンタンク内にこく粒が入っているときは

グレンタンク内にこく粒が入っていると、コンバインの重心が高くなり危険です。あぜ越え、トラックへの積み・降ろし、急旋回、坂道（前後左右の傾きが10度以上）での作業および走行はしないでください。

【守らないと】

バランスをくずして転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

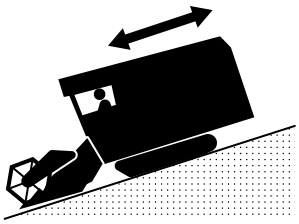
■ 坂道を走行するときは

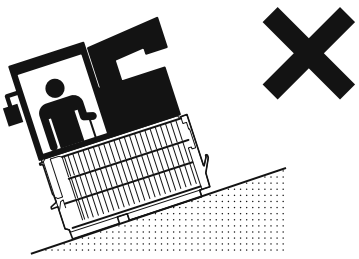
坂道を走行するときは、つぎの項目を必ず守ってください。

- 坂道の途中では駐車しないでください。
- 副変速を操作しないでください。
- 高速（移動）走行、急旋回をしないでください。
- 坂道を斜めに走行しないでください。

【守らないと】

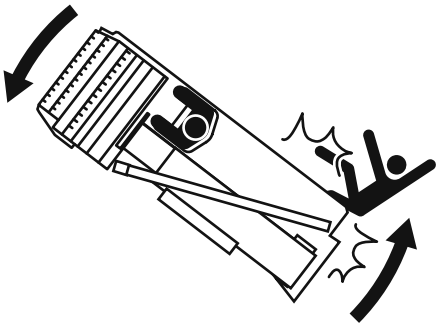
コンバインが不意に動き出したり、バランスをくずして転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。





⚠警告

■ 慎重な運転をする

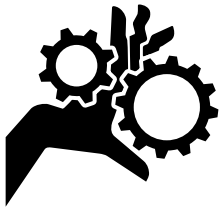


スピードの出し過ぎに注意し、慎重に運転をしてください。
走行時は、路肩との距離を十分にとってください。

- 急発進や急停止は、絶対にしないでください。
- 旋回をするときは、コンバインの速度を落としてください。
- 坂道や凹凸道、カーブの多い場所では、コンバインの速度を落としてください。
- わき見運転や、手放し運転は絶対にしないでください。

【守らないと】
転倒や追突により、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

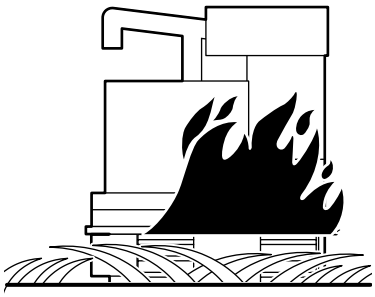
■ 作業部の回転が止まるまで触れない



脱こく部や刈取部の詰まりを取り除くときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。また、コンベア部チェン部に手を入れないでください。

【守らないと】
回転するこぎ歯に触れてけがをしたり、コンバインが急に動き出して、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ エンジンや排気フィルター周辺部、排出ガス出口、プーリ駆動部の周辺のごみは取り除く



作業中は、エンジンや排気フィルター周辺部、排出ガス出口、プーリ駆動部に付着しているワラくず・ごみ・燃料などを、ときどき取り除いてください。また、取り除くときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけ、作業関係レバーを全て「OFF」位置にして高温部が十分に冷めてから行ってください。

【守らないと】
付着物に引火して火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 手刈りした作物をプラットホームに投げ込まない



【守らないと】
回転する刃やリールに巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 刈取部の下にもぐったり、手足を突っ込まない



【守らないと】
刈取部が下がったときに、はさまれて傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ ドアを開放したまま作業しない

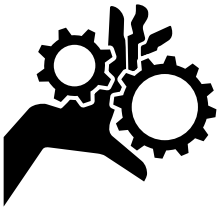
【守らないと】
作業中の衝撃などにより、不意にドアが閉まって手や体がはさまれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 異常と思ったらエンジンをすぐに止める

異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、各作業クラッチ（刈取クラッチ・脱こくクラッチ）を「OFF」にしてから点検してください。

【守らないと】
思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ こく粒排出作業中は、排出口に手を入れない



こく粒排出作業中は、排出コンベア内部でコンベアが回転しているので、排出口に手を入れないでください。

【守らないと】
回転部に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 傾斜地でエンジンを切ると、排出コンベアが動き出すおそれがある

【守らないと】
傷害事故を引き起こす原因になります。

■ 作業前に、補助者と作業の段取りを打ち合わせる

補助者と組んで作業をするときは、作業の段取りを、補助者とよく打ち合わせしてください。また作業中は、ホーンなどでお互いに合図し合って行ってください。

【守らないと】
傷害事故を引き起こす原因になります。

⚠警告

■ 詰りを取り除くときは、エンジンを停止する

脱こく部の詰まりを取り除くときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。また、コンベア部・チェン部に手を入れないでください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 関係法規を守り、ヘルメットを着用する

移動走行時は関係法規を守り、安全のため必ずヘルメットを着用してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

■ 必ず定期点検整備を受ける

1年ごとに定期点検整備を受け、各部の保守を行ってください。電気配線は50時間または1年ごと（どちらか早いほう）に点検してください。燃料パイプなどのゴムホース類は、時間が経過すると劣化します。2年ごとに交換してください。

【守らないと】

整備不良により、燃料・熱湯・作動油が漏れて、ヤケドや火災が起こり、けがをするおそれがあります。

■ コンバインの始動時、発進時は、周囲の安全を確認する

コンバインの始動や発進をするときは、周囲に合図をして、安全を確認してからゆっくりと発進してください。

- 周囲に人や障害物がないか確認してください。特に子供やペットには十分注意してください。
- プラットホームオーガやコンバインにあたる障害物がないかを確認してください。
- コンバインを発進するときや、作業クラッチレバーを操作するときは、ホーンをならすなど周囲に合図をしてから行ってください。

【守らないと】

けがをするおそれがあります。



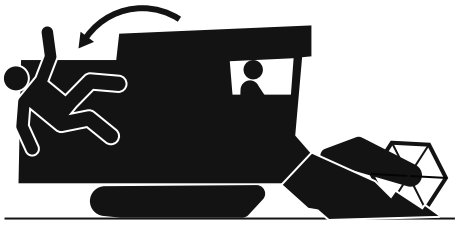
⚠注意

■ エンジンを始動するときは運転席に座る

エンジンを始動するときは、必ず運転席に座り、主変速レバーが「N」（中立）位置にあること、駐車ブレーキがかかっていること、各作業クラッチ（作業クラッチ・プラットホームオーガ）が「OFF」位置にあることを確認してください。
ブースター端子や安全スイッチを直結して、エンジンを始動しないでください。

【守らないと】
コンバインが突然動き出して転落し、けがをするおそれがあります。

■ 運転者以外はコンバインに乗らない



このコンバインの乗車定員は1名です。運転者以外の人をコンバインに乗せたり、周囲に近づけたりしないでください。

【守らないと】
コンバインが突然動き出して転落し、けがをするおそれがあります。

■ 暖機運転時､運転席から離れるときなどは駐車ブレーキをかける

つぎのようなことを行う場合､必ず安全のため主変速レバーが「N」（中立）位置にあること、駐車ブレーキがかかっていること、各作業クラッチ（刈取クラッチ・脱こくクラッチ）が「OFF」位置にあることを確認してください。

【守らないと】
コンバインが突然動きだし、けがをするおそれがあります。

■ デバイダヘッドを外し､サイドデバイダ･排出コンベアを収納する

デバイダヘッドを外し、サイドデバイダは内側に、排出コンベアはコンベアレストに収納してください。

【守らないと】
人や物に接触して、思わぬ事故により、けがをするおそれがあります。

⚠注意

■ ほ場を出る前に自動機能を「切」または「OFF」にする

ほ場以外で走行するときは、つぎの自動機能を「切」または「OFF」位置にしてください。

- リール高さ、リール変速自動
- Eモードスイッチ
- 水平自動（傾斜角制御機能）
- 刈高さ自動

また、旋回モード切替ノブを「標準モード」に切り替えてください。

【守らないと】

思わぬけがをするおそれがあります。

■ あぜを乗り越えるときは、最低速度であぜに対して直角に渡る

あぜを乗り越えるときは、斜めに渡らないでください。必ずあぜに対して直角に渡ってください。

【守らないと】

コンバインが転倒し、けがをするおそれがあります。

■ 刈取作業時以外は E モード切替スイッチを「OFF」にする

【守らないと】

Eモードスイッチが「ON」位置のときは、アクセルダイヤルでのエンジン回転調節ができないため、けがをするおそれがあります。

■ 溝越え時は最低速度で、コンバインを溝に対して直角に合わせる

ほ場の出入りで、急斜面の登り降りや溝越えをするときは、コンバインを斜面や溝に対して直角に合わせ、低速で走行してください。

【守らないと】

コンバインが転倒し、けがをするおそれがあります。

⚠注意

■溝や高いあぜを渡るとき、段差を乗り越えるときはアユミ板を使用する



ほ場に入るとき、溝や高いあぜを渡るとき、軟弱な場所を通るときは、必ずアユミ板を使用してください。使用するアユミ板はつぎの基準にあったものにしてください。

- 丈夫で滑り止めのあるもの
- 段差の4倍以上の長さがあるもの
- 幅、強度がコンバインに適したもの。

【守らないと】

バランスがくずれて転倒し、けがをするおそれがあります。

■夜間作業をするときは、作業灯を使用する

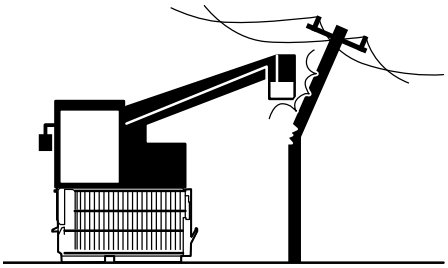


夜間作業をするときは、作業灯を点灯し、周囲が確認できる状態で作業をしてください。

【守らないと】

周囲の状況がわかりにくく、けがをするおそれがあります。

■排出コンベアを操作するときは、周囲の障害物に注意する



排出コンベアを上昇・下降・旋回させるときは、周囲に障害物がないことを確かめ、ゆっくりと操作してください。

【守らないと】

接触して、けがをするおそれがあります。

■排出コンベアの先端には、籾袋などを吊り下げ、作業をしないでください

【守らないと】

排出コンベアの変形や籾詰まりの事故および駆動系の破損により、けがをするおそれがあります。

運搬するときの注意事項

⚠警告

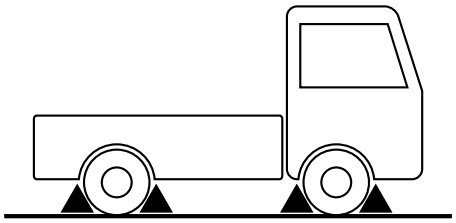
■ ほ場間の移動には、十分に強度のあるトラックを使う

積載荷重以上のトラックを使用してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ コンバインを積み込むときは、必ずトラックに車止めをする



コンバインを積み込むトラックは、エンジンを停止し、変速を「P」または「1 速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけ、さらにタイヤに車止めをしてください。

【守らないと】

トラックが動いて転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ トラックへの積み・降ろしをするときは、長さ・強度・幅の十分あるアユミ板を使用する

アユミ板は丈夫ですべり止めのある基準に合ったもので、トラックの荷台に設置したときに、傾斜角度が 15 度以下になる長さのものを使用してください。また、アユミ板は段差の4倍以上の長さがあるものを使用してください。

【守らないと】

アユミ板が折れたり、バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ トラックへの積み・降ろしをするときは、事前にアユミ板の平行や安定を確認する



アユミ板を設置するときは、平行や安定を必ず確認してください。積み・降ろしをするときは、アユミ板の先端のツメがトラックの荷台後方にあるフックにかかっている事を確認してください。荷台にアユミ板のツメをかけるフックがないトラックへの積み・降ろしは行わないでください。

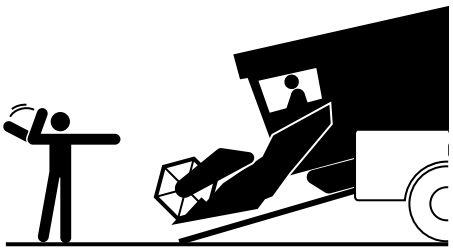
特にコンバインがアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、速度にも十分注意してください。

【守らないと】

積み・降ろし中にバランスを崩して転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 積み・降ろし作業は、誘導者をつけて行う



積み・降ろし作業を行う場合は、アユミ板を使い、コンバインに乗って誘導者の指示に従い、遅いスピードで積み・降ろし作業を行ってください。また、クローラがアユミ板から外れないように注意してください。

【守らないと】

万一、事故が発生した場合に、コンバインの下敷きになるなど、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

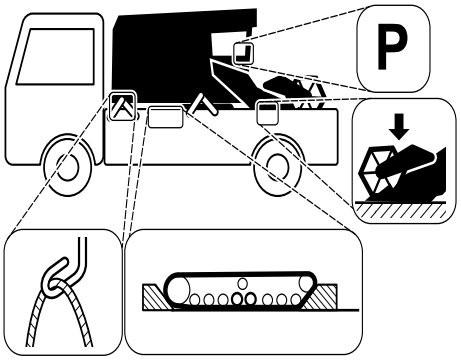
■ 運搬するときは、コンバインのエンジンを停止し、駐車ブレーキをかける

トラックに積み込んだら、コンバインのエンジンを停止し、必ず駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】

運搬中、荷台からコンバインが転落して、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 積み込んだコンバインをトラックにロープで確実に固定する



丈夫なロープをコンバインのロープフックにかけ、トラックと確実に固定してください。

【守らないと】

運搬中に、荷台からコンバインが転落して、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

コンバインのロープフックの位置は 282 ページをご覧ください。

■ トラックでの輸送時には、コンバインの各カバーを固定する

カバー類や折りたたみができる部品などは、運搬中、風圧で脱落するおそれがあります。確実に固定するか、外して荷台に置いてください。グレンタンク部、脱こくサイドカバー・グレンタンク下部カバーも確実にロックしてください。

【守らないと】

風圧で脱落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

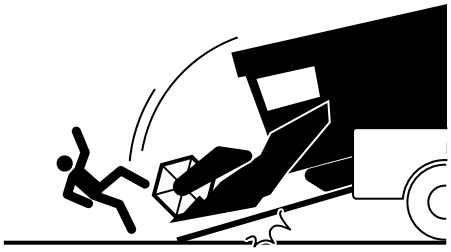
■ 積み･降ろしは平たんで安定した場所で行う

トラックなどへの積み・降ろしは、周囲に危険物のない、平たんで安定した場所で行ってください。

【守らないと】

転落・転倒により、けがをするおそれがあります。

■ 傾斜した荷台･アユミ板の上では､副変速操作､進路変更をしない



積み・降ろしをするときは、ゆっくりとした速度で、アユミ板に対して直角に進み､途中で副変速操作やハンドルを切らない（進路を変更しない）ようにしてください。

【守らないと】

コンバインが不意に動き出したり、バランスがくずれて転倒し、けがをするおそれがあります。

■ 長距離輸送をするときは特販店､またはJAにご相談ください

トラックによる長距離輸送の場合は､お買い上げいただいた特販店、またはJAにご連絡ください。

【守らないと】

思わぬ事故の原因になります。

駐車･格納するときの注意事項

⚠危険

■ 燃えやすいものが堆積した場所に駐車しない



乾燥した草やワラなど、燃えやすいものが堆積した場所にコンバインを駐車しないでください。

【守らないと】

堆積物に引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ グレンタンクを開くときは

グレンタンクを開くときは、つぎの事項を必ず守ってください。

- 必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
- グレンタンク内を空にしてください。
- コンバインを水平な状態にしてください。

【守らないと】

グレンタンクが不意に回動し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

グレンタンクの開きかたは174ページをご覧ください。

■ シートはコンバインの排気フィルター周辺や排出ガス出口､エンジンが十分に冷えてからかける

コンバインにシートをかけるときは､排気フィルター周辺や排出ガス出口､エンジンが十分に冷えていることを確認してから行ってください。

【守らないと】

高温の状態でシートをかけると、シートに引火して火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 駐車するときは、平たんで安定した場所に止める

コンバインを駐車するときは、平たんで安定した場所に止め、刈取部を接地させ、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

また、主変速レバーが「N」（中立）位置にあること、各作業クラッチ（刈取クラッチ・脱こくクラッチ）が「OFF」位置にあることを確認してください。

コンバインから離れるときは、必ずキーを抜いてください。

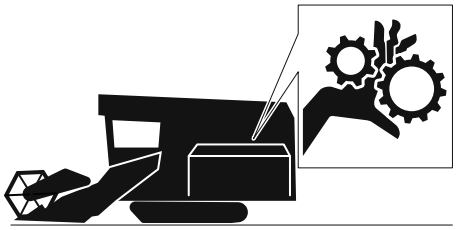
【守らないと】

コンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ ロータカバーを開閉するとき

ロータカバー開閉時は、つぎの事項に注意してください。

- 必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
- ロータの扱歯に注意し、素手で触らないでください。
- ロータカバーを閉じるときは、ロックハンドルが「ロック」位置にあることを確認してください。。

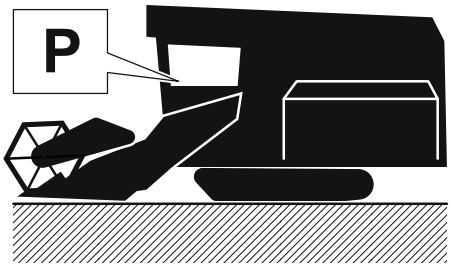


【守らないと】

回転部などでけがをするおそれがあります。また、作業中にロータカバーが開いたときは、ロータ内からの作物等の飛散により、けがをするなど、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 掃除をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかける

掃除をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

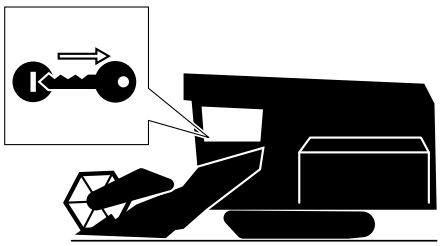


【守らないと】

回転刃や刈刃などで手をはさまれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 格納時には、バッテリーをコンバインから外し、キーを抜いておくこと

格納するときは、バッテリーをコンバインから外し、キーを抜いて保管してください。



【守らないと】

傷害事故を起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 1日の作業終了後は、各部を掃除する

1日の作業が終わったら、必ず点検・整備を行い、各部の掃除をして、ごみなどを完全に取り除いてください。

【守らないと】

火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 平たんな場所にコンバインを保管する

コンバインは、平たんな場所に刈取部を接地させ、駐車ブレーキをかけて保管してください。

【守らないと】

不意にコンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

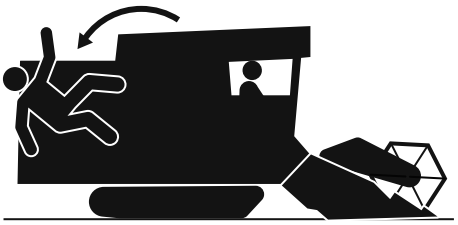


■ 運転席以外の場所にのらない

脱こく上やエンジンルームなど高い場所の整備や手入れをする場合は、脚立などを使用してください。

【守らないと】

エンジンルームの上などは高温となっているためヤケドをしたり、バランスを崩して高いところから転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



点検･給油･整備するときの注意事項

⚠危険

■ 燃料を補給するときは火気厳禁



燃料を補給するときは、くわえタバコや裸火照明をしないでください。また、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

燃料に引火して火災が起こり、ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります。

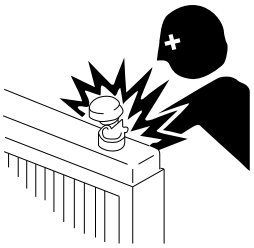
■ 注油･給油は、エンジンが冷えてから行う

エンジン回転中やエンジンが高温の間は、給油・注油を絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料に引火して火災が起こり、ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ ラジエータが高温のときは、ラジエータキャップを外さない



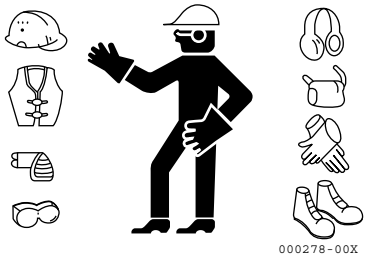
ラジエータが高温のときは、ラジエータキャップを絶対に外さないでください。

また、エンジン停止後30分以上経過し、エンジンが冷えてからラジエータキャップを徐々にゆるめ、蒸気の圧力を抜いてから開けてください。

【守らないと】

熱湯が噴き出し、ヤケドによる死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ バッテリーを点検するときは、保護メガネとゴム手袋を着用し、バッテリー液を体や衣服につけない



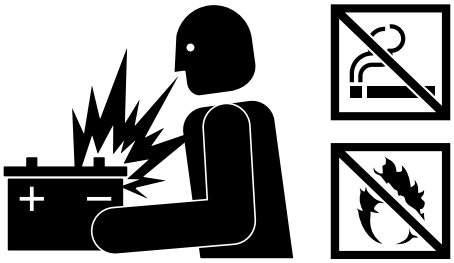
バッテリーに入っている電解液を体や衣服に付けないように注意してください。万一、付着したときは、すぐに水で洗い流してください。また、目に入ったときや飲み込んだときは、すぐに水でよく洗った後、必ず医師の治療を受けてください。

【守らないと】

バッテリーに入っている電解液（希硫酸）により、ヤケドなどによる死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠危険

■ バッテリーを点検するときは火気厳禁



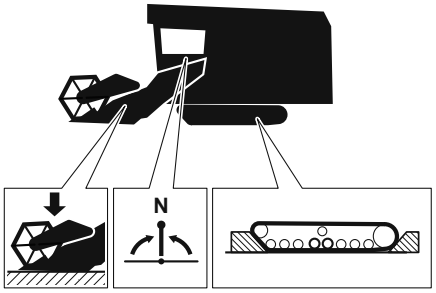
液槽キャップを開けると、バッテリーの液槽口から爆発性のあるガスがでます。バッテリーを点検するときや、液槽キャップを開けるときは、絶対に火気を近づけないでください。

【守らないと】

ガスに引火して火災が起こり、ヤケドによる死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 点検・給油・整備は平たんで安定した場所で行う



点検・給油・整備をするときは、交通の危険がなく、平たんで安定した場所にコンバインを駐車し、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、クローラに車止めをしてください。また、刈取部は地面に接地させ、主変速レバー、副変速レバーが「N」（中立）位置にあること、作業クラッチレバーが「OFF」位置にあることと、回転部が停止されていることを確認してください。

【守らないと】

コンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料を補給した後は、燃料キャップを締める

燃料キャップがゆるんでいると、燃料がこぼれ出ることがありますので、確実に締め込んでください。また、こぼれた燃料は、きれいに拭き取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こし、ヤケドによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料漏れに注意する

燃料パイプが破損していると、燃料漏れをおこしますので、必ず点検してください。

【守らないと】

火災が起こり、ヤケドによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 電気部品や電気配線を点検する

電気配線が他の部品のエッジ部に接触していないか、配線の被覆がはがれていないか、配線の固定部がゆるんでいないか点検し、不備がある場合は必要な処置をしてください。

【守らないと】

ショートして火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ バッテリー液を「下限(Lower)」以下にしない

バッテリー液が「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。

【守らないと】

「下限」以下になると、容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ バッテリーの脱着は、正しい手順で行う

バッテリー端子を外すときは、(-) 側のケーブルから先に外し、取り付けは (+) 側のケーブルから取り付けてください。

【守らないと】

ショートしてヤケドや火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 必ず指定のバッテリーを使用する

バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書で指定された型式のバッテリーを使用してください。

【守らないと】

ショートしてヤケドや火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

指定バッテリー：95D31R

■ バッテリーの上面および周辺は、常に清潔にする

バッテリーの上面および周辺は、常に清潔にし、バッテリーや配線に付着しているワラくず・ごみを取り除き、排気穴をふさがないようにしてください。

【守らないと】

火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ コモンレールエンジンの不調はお買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください

サプライポンプとインジェクタの間には高圧燃料が通っています。故障かなと思ったら、ご自身で分解・修理をせず、必ずお買い上げいただいた特販店、または JA までご連絡ください。

【守らないと】

高圧燃料により傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 刈取部を上げて作業するときは、必ず刈取部ストッパをかける

刈取部を上げて作業をするときは、刈取部ストッパで必ず固定してください。

【守らないと】

刈取部が急に下がり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

刈取部ストッパのしかたは182ページをご覧ください。

■ 各部の脱着・オープンを行うときは、必ずエンジンを停止する

各部の脱着・オープン、点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】

回転部に巻き込まれたり、傷害事故を引き起こすおそれあがります。

■ 定期的に各部のベルトを確認する

各部のベルトは定期的に確認し、損傷している場合は交換し、張りがゆるい場合は正規の寸法に調節してください。

【守らないと】

ベルトの切損やスリップにより、火災の原因になるおそれがあります。

⚠警告

■ ブレーキの点検整備は必ず行う

ブレーキのききが悪いとたいへん危険です。必ずブレーキの点検整備を行ってください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

ブレーキの調整については255ページをご覧ください。

■ 操作レバー、スイッチ類は必ず点検する

各操作レバー類に著しいガタや遊びがないか点検し、ある場合は、必要な処置をしてください。

【守らないと】

正常な作業ができず、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ ステアリングハンドルのきき具合を必ず点検・整備する

ステアリングハンドルの切れ角と旋回半径（きき具合）が同じか点検してください。異なる場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAへご連絡ください。

【守らないと】

正常な走行ができず、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ クローラの摩耗やキズを点検する

クローラが著しく摩耗していたり、キズが付いていないかまた張り具合が適正か点検してください。摩耗やキズが激しい場合は、新しいクローラに交換し、張り具合が適正でない場合は、適正な張り状態に調節してください。

【守らないと】

クローラの耳切れや破損による横滑り・転倒により、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 油圧ホースを外すときは、回路内の圧力を抜く

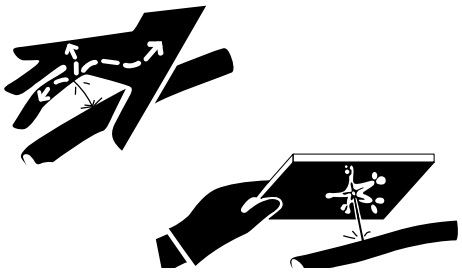
油圧の継手やホースを外すときは、油圧回路内の圧力を抜いてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚を突き破るほどの力があり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 燃料噴射管や油圧パイプなどからの油漏れは、厚紙や板などを使って点検する



高圧油に手や体が直接触れないようにしてください。もし、触れた場合は、ただちに医師の治療を受けてください。

【守らないと】

油が皮膚に侵入した場合、強度のアレルギーを引き起こすおそれがあります。

■ スプレッダの中に手を入れない

スプレッダを点検整備するときは、必ずエンジンを停止し、スプレッダの中に手を入れないでください。

【守らないと】

回転刃に触ると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ スプレッダの脱着は1人で行わない

スプレッダの脱着をするときは、必ずエンジンを停止し、2人以上で作業してください。

【守らないと】

スプレッダは重いので、1人で持ち上げるとバランスを崩し、思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

■ 排気フィルター周辺が高温のときは絶対にさわらない



【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。

■ 各部の点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止する

各部の点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】

けがをするおそれがあります。

⚠注意

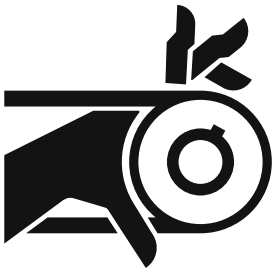
■ 点検・整備は高温部分が十分に冷めてから行う

点検・整備を行うときは、高温部分が十分に冷めてから行ってください。

【守らないと】

ヤケドやけがをするおそれがあります。

■ 外したカバー類は必ず元通りに取り付ける

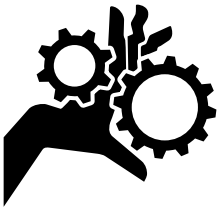


点検・整備などで外したカバー類は必ず元通りに取り付けてください。

【守らないと】

コンバインに巻き込まれたり、けがをするおそれがあります。

■ 回転部に注油するときは、必ずエンジンを停止する



回転部などへ注油するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】

回転部に巻き込まれけがをするおそれがあります。

■ 刈刃の手入れ・交換には、厚手の手袋を着用し、刃先をさわらない

刈刃の手入れ・交換時には、厚手の手袋を着用し、刃先を触らないでください。

また、刈刃は重いので、脱着をするときは、必ず二人以上で行ってください。

【守らないと】

素手で刃先に触ると、けがをするおそれがあります。

その他の注意事項

⚠注意

■ 廃棄物は適切な方法で処分する

廃棄物を間違った方法で処分すると、環境汚染につながります。このコンバインに使用されている、燃料・オイル・冷却水・フィルター・バッテリー・ファンベルト・油圧ホース・燃料ホースなどは、正しく処分してください。
廃油・使用済みの冷却水などは、地面・河川には絶対に流さないでください。
エアコンのフロンガスは、大気汚染につながる物質です。法律に基づいて、ガスの回収、リサイクルを実施してください。正しい処分方法がわからないときは、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。
【守らないと】
環境汚染につながります。

[重要]

■ エアコンの簡易点検実施について

フロン排出抑制法が施行され、キャビン仕様の場合、以下の項目を実施することが義務化されました。
1．簡易点検の実施
3か月に1回以上の目視による簡易点検を行ってください。
点検により冷媒の漏れや、その可能性を見つけた場合は、速やかにお買い上げいただいた特販店または JA へご連絡ください。
2．記録の保管
簡易点検を行ったこと、および点検を行った日を記録する必要があります。点検記録表は、機械を廃棄・譲渡するまで保管する必要があります。
【守らないと】
法令違反となります。

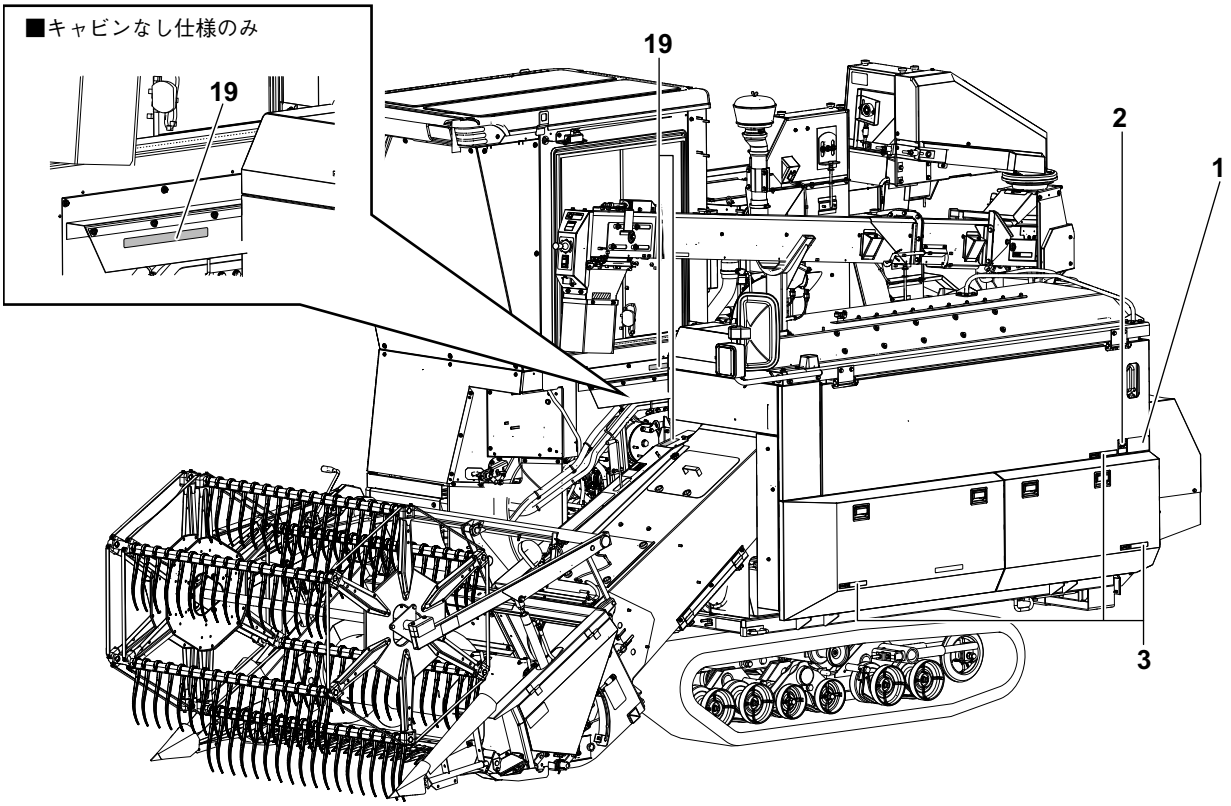
[参考]

簡易点検の方法については、298ページをご覧ください。

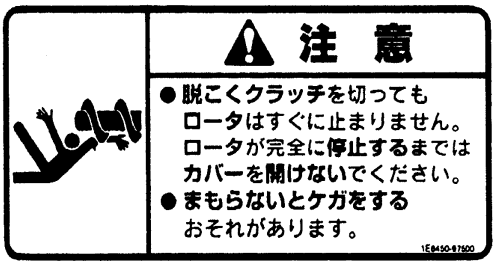
安全銘板

安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために安全銘板の貼り位置を示したものです。
安全銘板は、作業を始める前に必ず読んで、安全に作業を行っていただくための事項が記載されています。
常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。



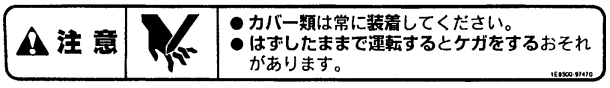
1. 94690070610 注意(ロータ)



2. 10020070160 注意(エンジン停止)



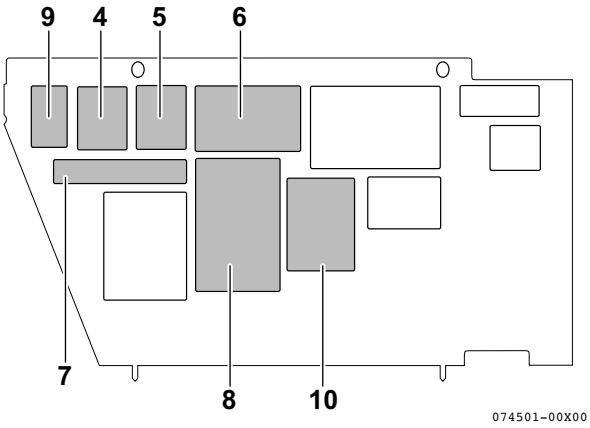
3. 94690070360 注意(ベルトカバーC)



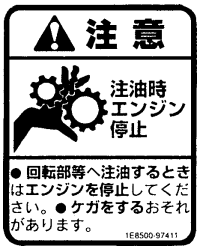
19. 90300029390 注意(マフラー)



■キャビン仕様の場合



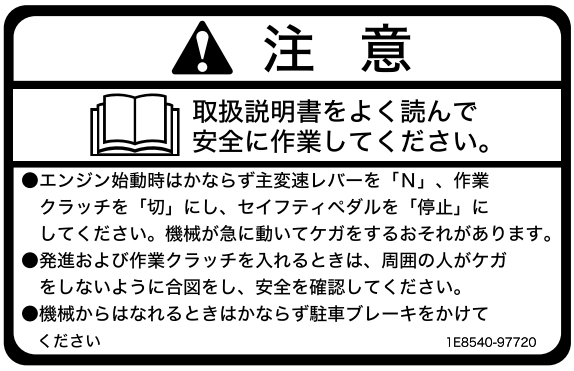
4. 94690070301 注意(注油)



5. 10020070160 注意(エンジン停止)



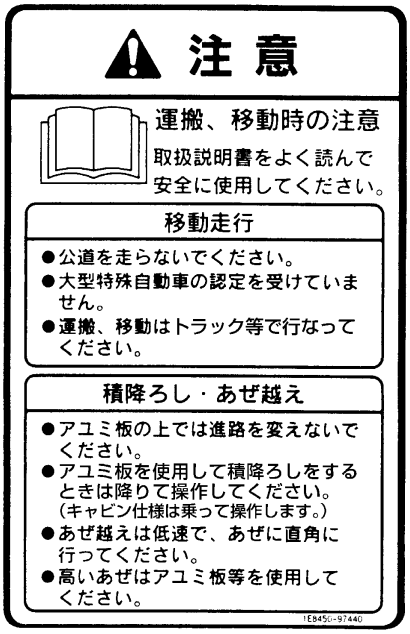
6. 97190000060 注意(取扱S)



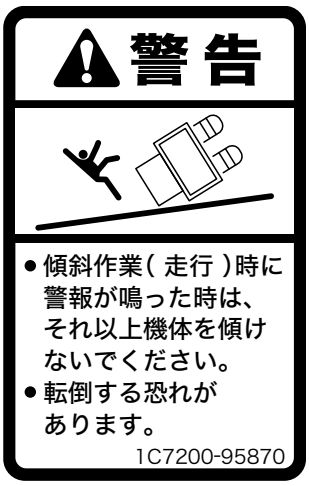
7. 94690070600 注意(水平自動)



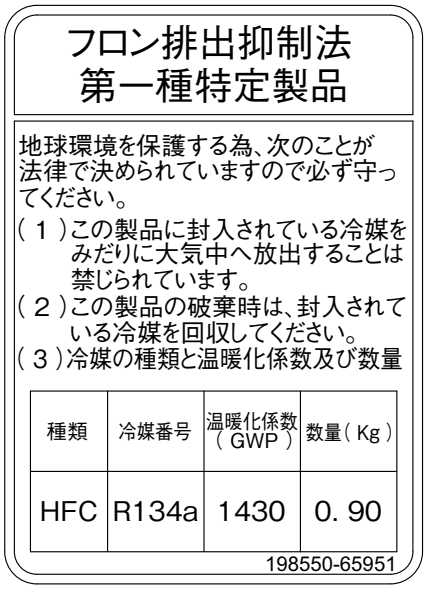
8. 94690070290 注意(走行 積降)



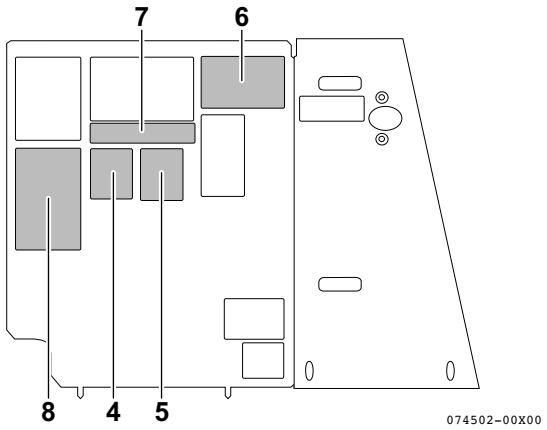
9. 97330000100 警告(ケイシャ)



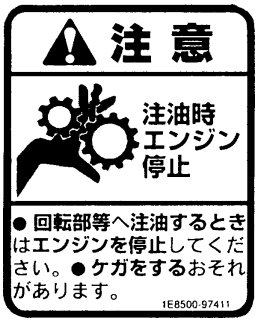
10. 97370000040 銘板(フロン回収)



■キャビンなし仕様の場合



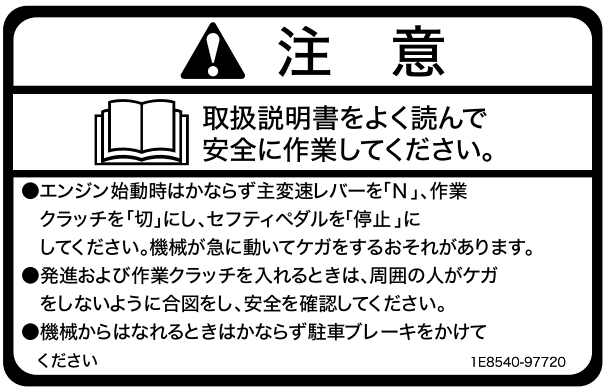
4. 94690070301 注意(注油)



5. 10020070160 注意(エンジン停止)



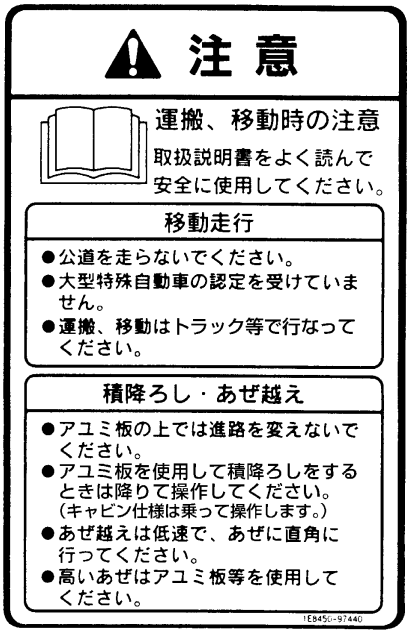
6. 97190000060 注意(取扱S)

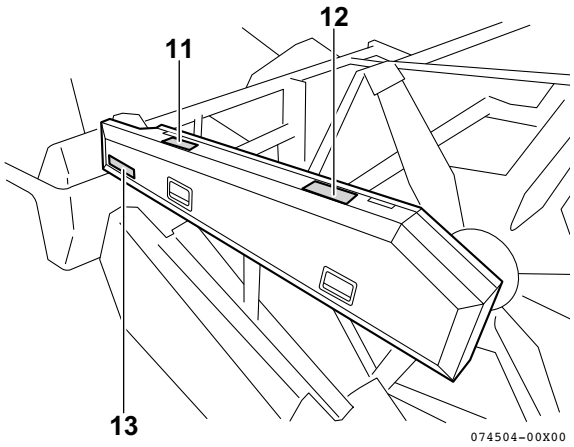


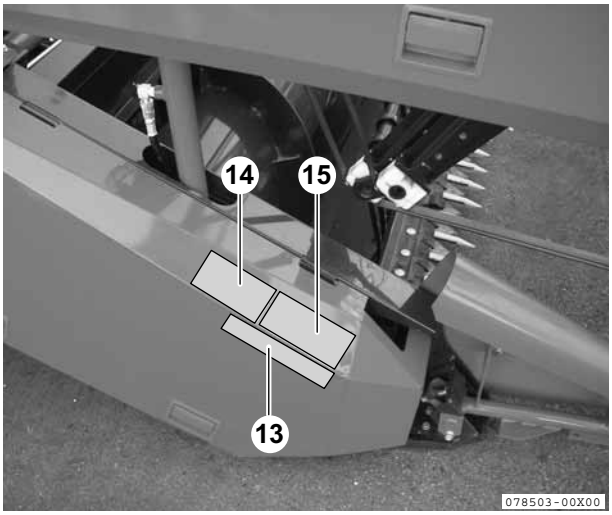
7. 94690070600 注意(水平自動)

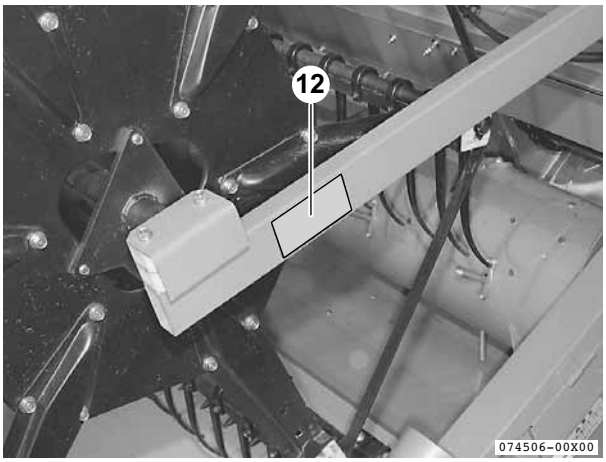


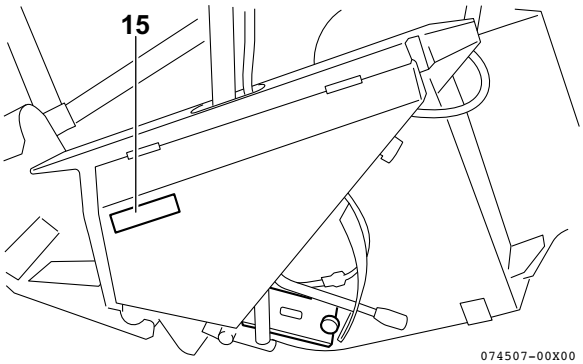
8. 94690070290 注意(走行 積降)







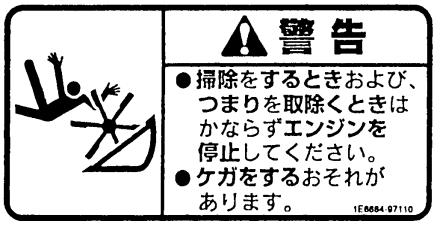




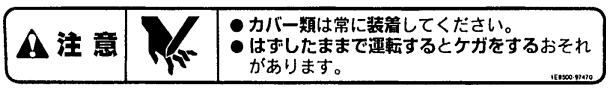
11. 97370000090 警告(リール変速)



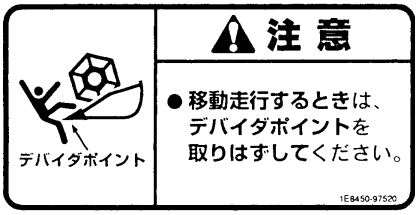
12. 94690070200 警告(リール)



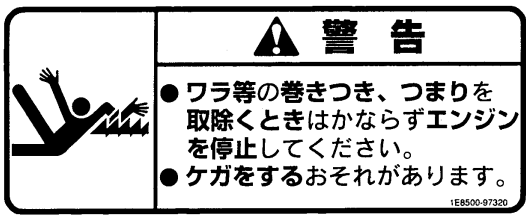
13. 94690070360 注意(ベルトカバーC)

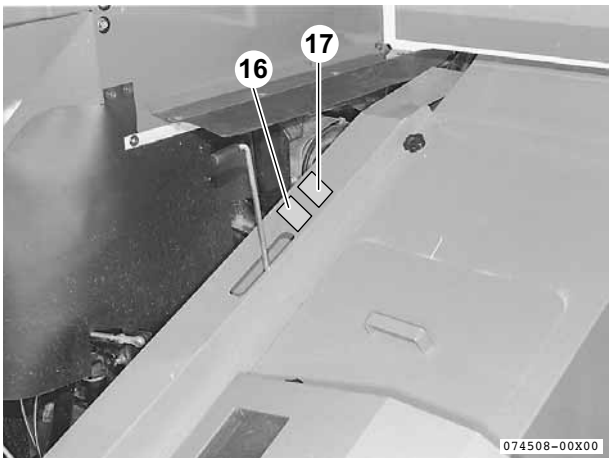


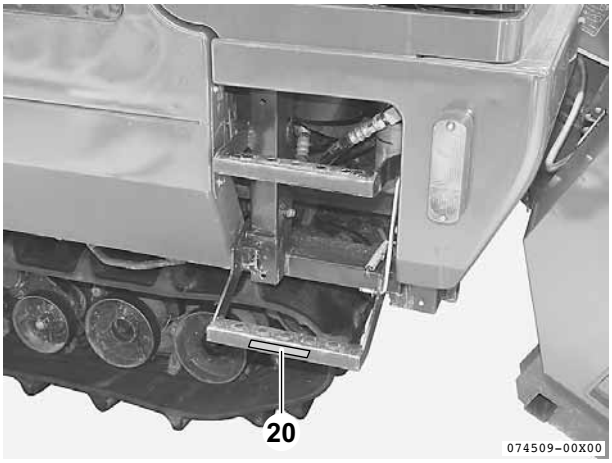
14. 94950001600 注意(デバイダ)

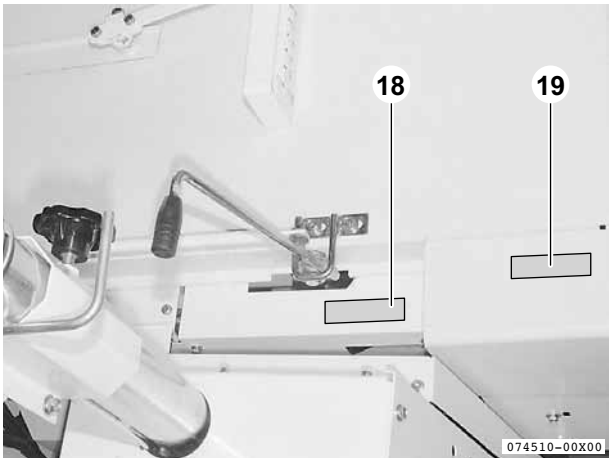


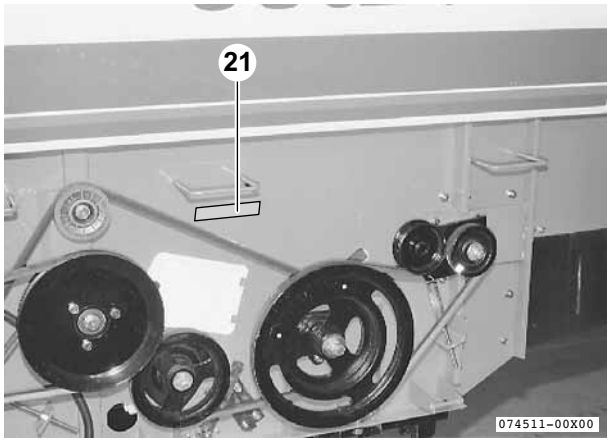
15. 94690070210 警告(点検A)







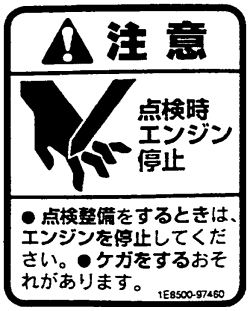




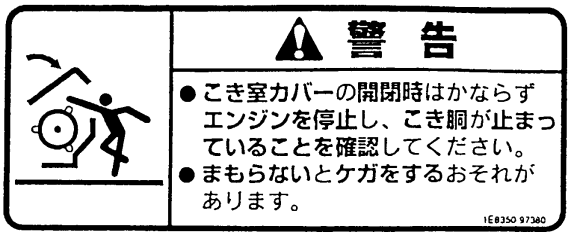
16. 94690070220 警告(刈取点検)



17. 10020070160 注意(エンジン停止)



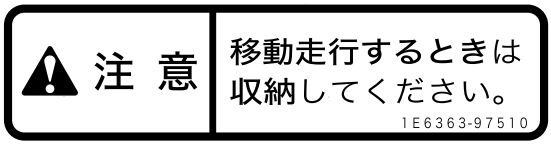
18. 94690070260 警告(こぎ室カバーB)



19. 90300029390 注意(マフラー)

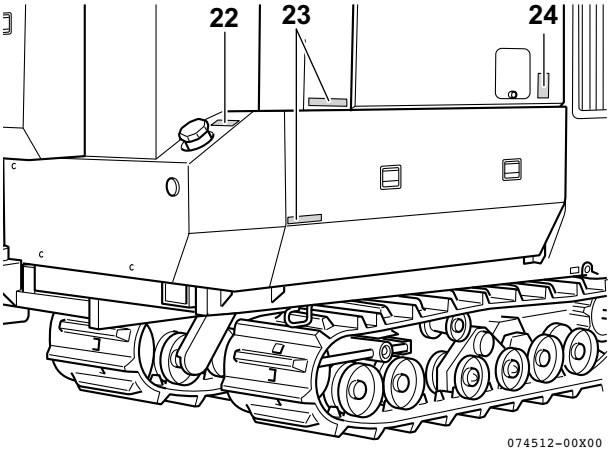


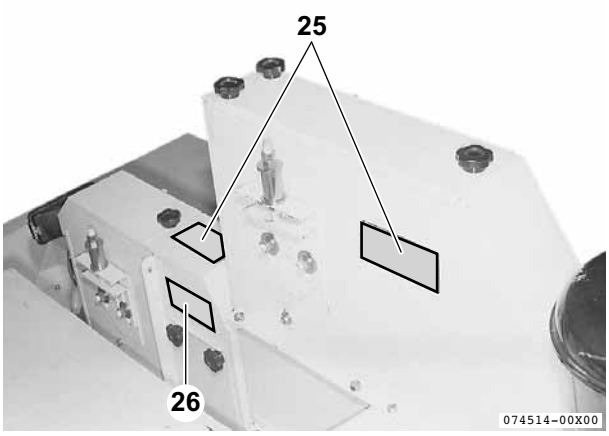
20. 94690070370 注意(収納)

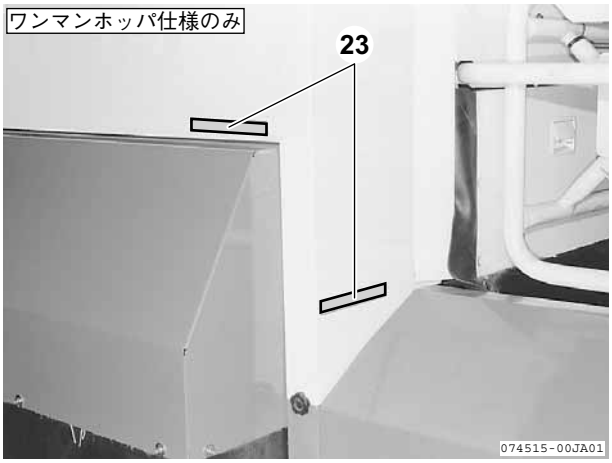


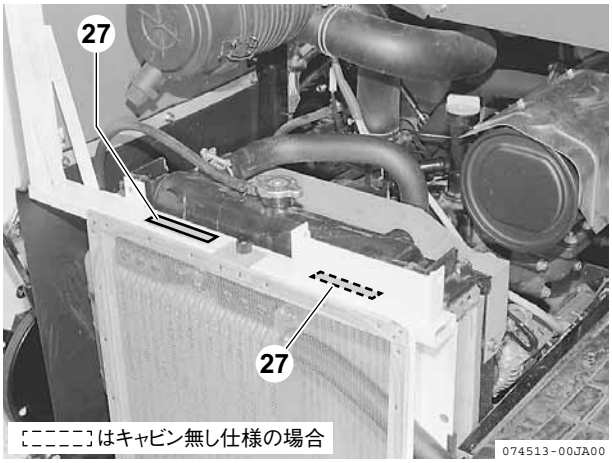
21. 94690070230 注意(コンベア樋)



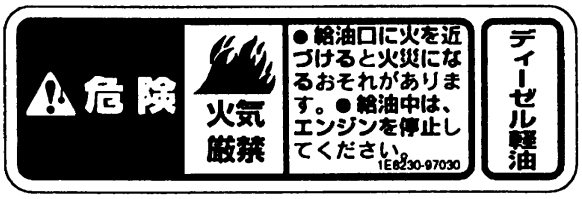




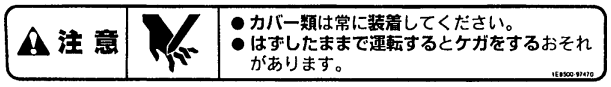




22. 94690070270 危険(火気厳禁B)



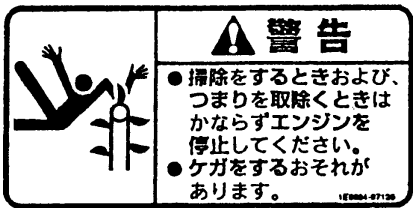
23. 94690070360 注意(ベルトカバーC)



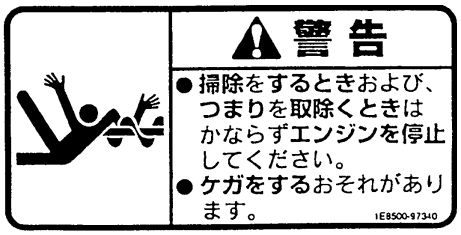
24. 94690070330 警告(点検E)



25. 94690070250 警告(バケット)

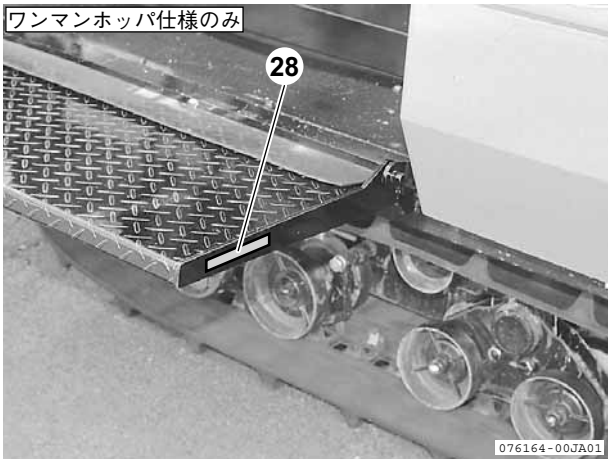


26. 94690070240 警告(点検C)

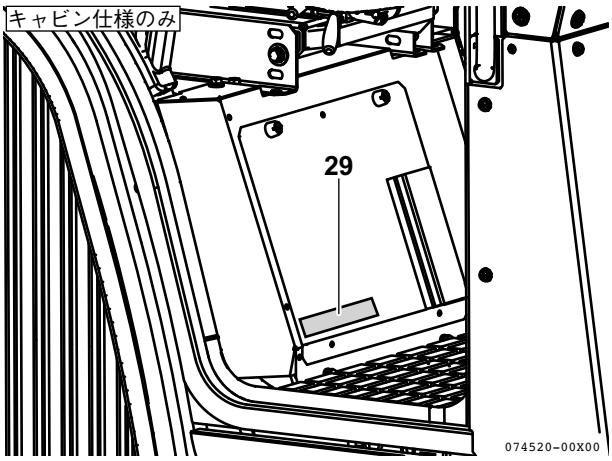


27. 90300029400 危険(ラジエータ)

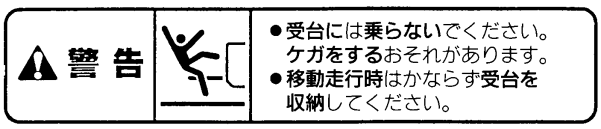




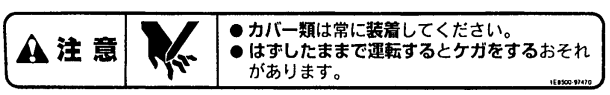


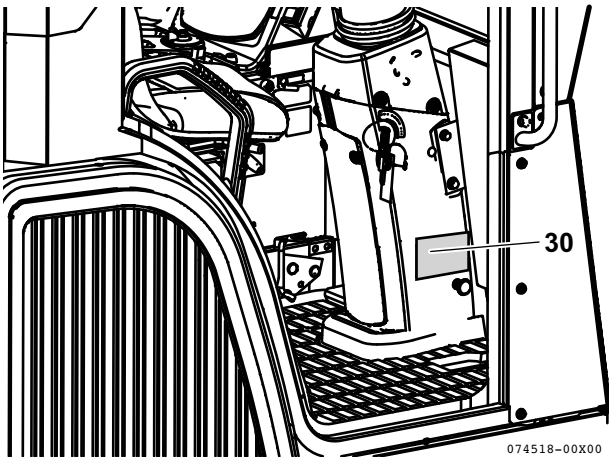


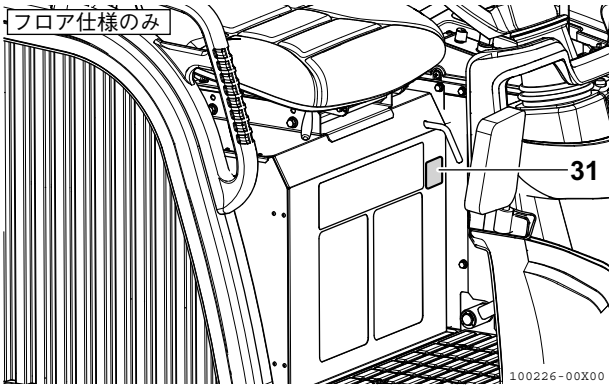
28. 97090014110 警告(受け台)



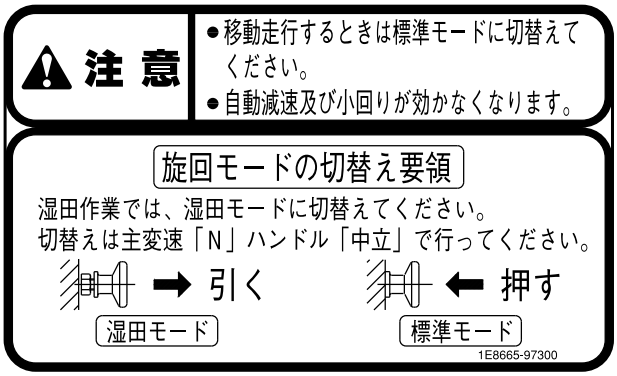
29. 94690070360 注意(ベルトカバーC)







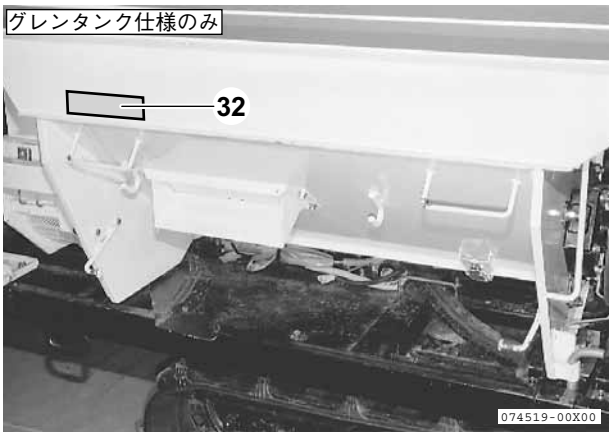
30. 97190000030 注意(旋回モード)



31. 97190000040 警告(ルームオープン)

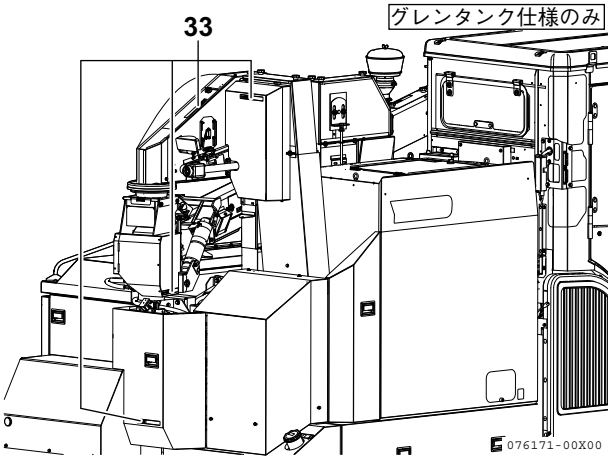


グレンタンク仕様のみ

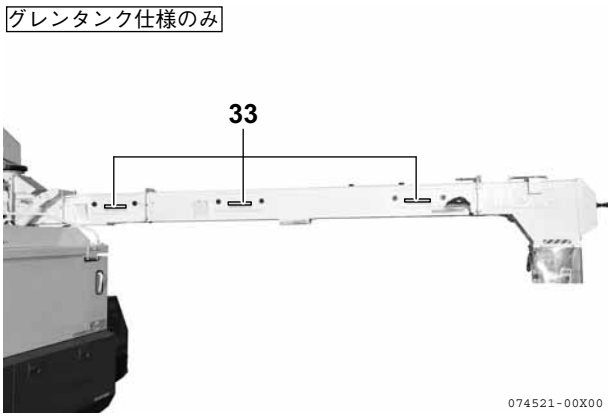


※下部カバーを取り外しています。

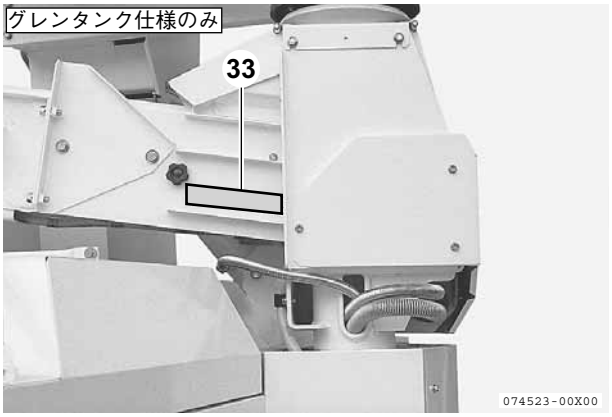
グレンタンク仕様のみ



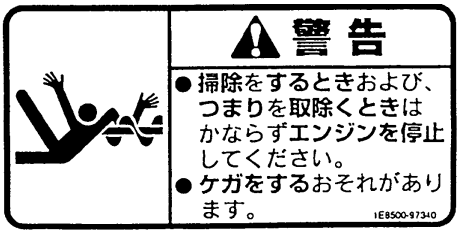
グレンタンク仕様のみ



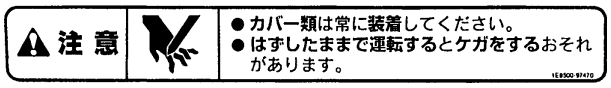
グレンタンク仕様のみ

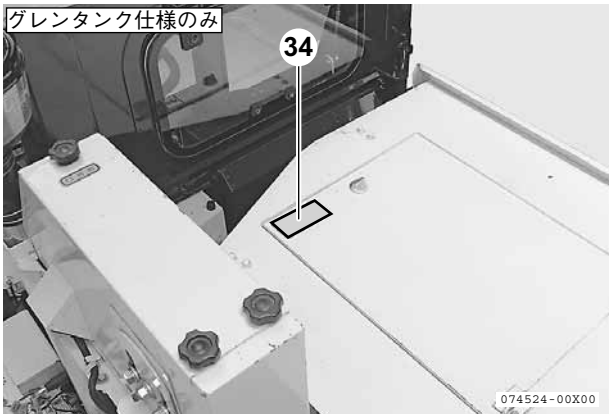


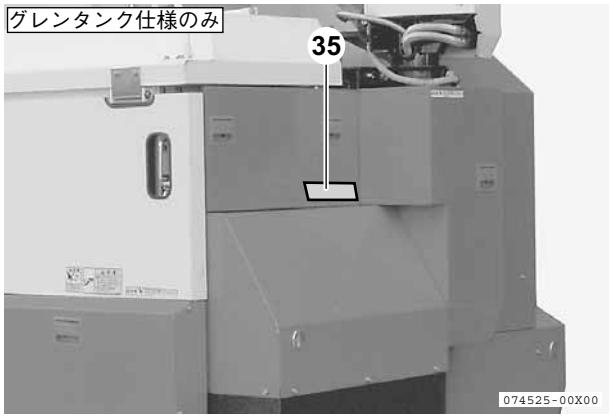
32. 94690070240 警告(点検C)

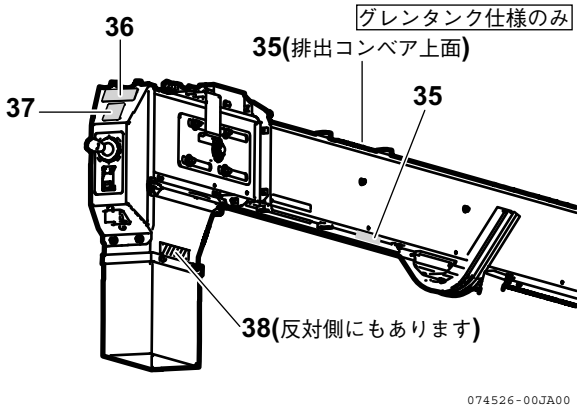


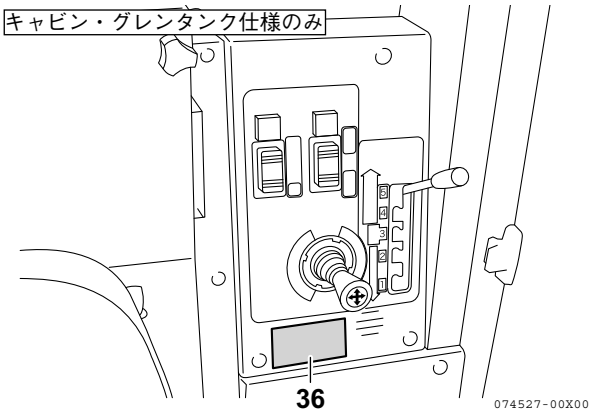
33. 94690070360 注意(ベルトカバーC)



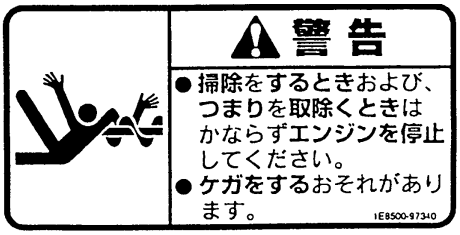




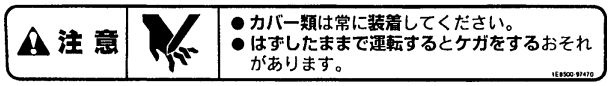




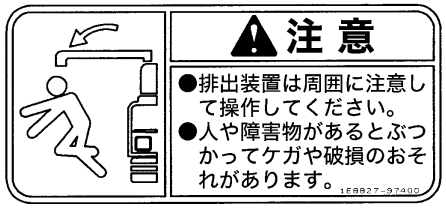
34. 94690070240 警告(点検C)



35. 94690070360 注意(ベルトカバーC)



36. 97190020160 注意(排出操作)



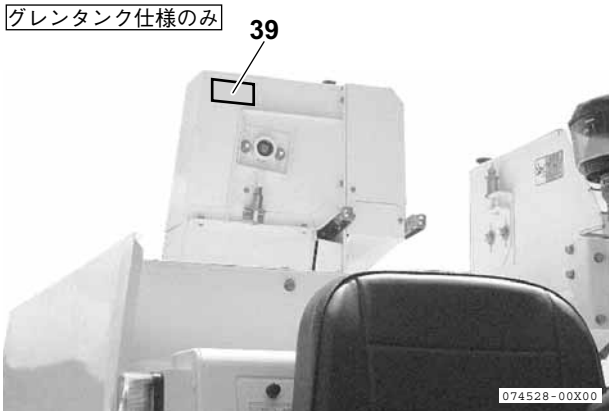
37. 97190020170 警告(点検E)



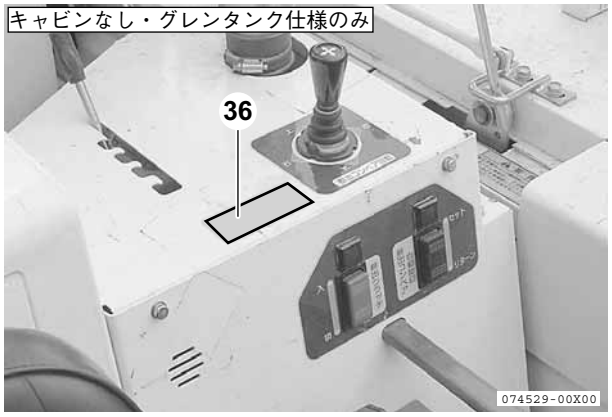
38. 94690074230 安全マークA



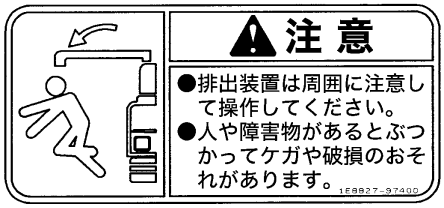
グレンタンク仕様のみ

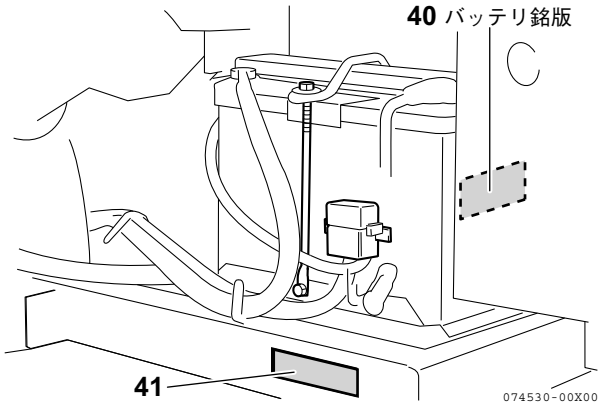


キャビンなし・グレンタンク仕様のみ

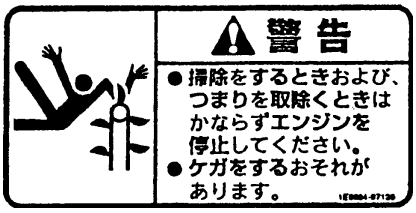


36. 97190020160 注意(排出操作)





39. 94690070250 警告(バケット)



40. 90300030400 危険（バッテリー）

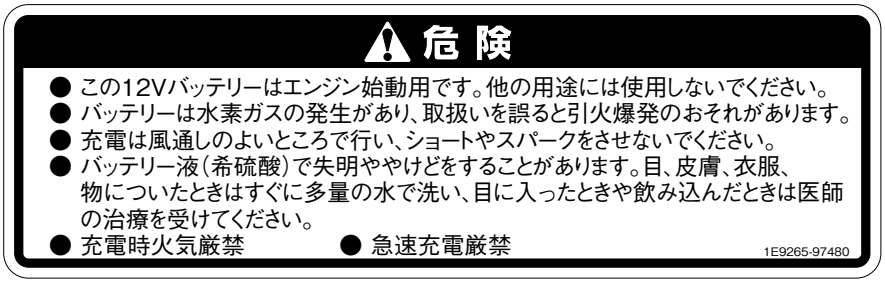


火気禁止　メガネ着用　こども禁止　硫酸注意　説明書熟読　爆発注意

危険

バッテリーは水素ガスの発生があり、取扱いを誤ると引火爆発のおそれがあります。
• この12Vバッテリはエンジン始動用です。他の用途には使用しないでください。
• 充電は風通しのよいところで行い、ショートやスパークをさせないでください。
• ブースタケーブルの使用は車両またはバッテリの取扱説明書をお読みください。
バッテリー液(希硫酸)で失明ややけどをすることがあります。目、皮膚、衣服、物についたときはすぐに多量の水で洗い、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは医師の治療は受けてください。
液面がLOWER　LEVEL近くになったら補水し、UPPER　LEVEL以上入れないでください。

41. 97370000110 危険(バッテリー)



安全銘板の手入れについて

- 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石けん水を付けた布でふき、やわらかい布で水分をふき取ってください。
- 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。剥がれるおそれがあります。
- 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。
  安全銘板はお買い上げいただいた特販店、またはJAにご注文ください。

各部のはたらきと使いかた

フロントコラム部

フロントコラム部周辺のレバー、スイッチについて説明します。

キー

エンジン始動用とドア開閉用にそれぞれ２本用意しています。1本は、スペアキーとしてメインキーとは別に大切に保管してください。

〈エンジン始動用キー〉

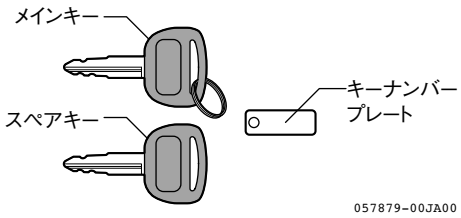


図 2-1 キー

〈キャビン用ドア開閉キー〉

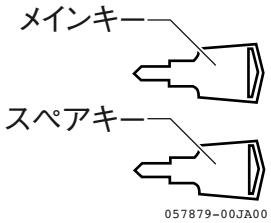


図 2-2 キー

[重要]

エンジン始動用キーのキーナンバープレートには、キーナンバーが記載してあります。キーナンバーはキーを紛失した際に必要となりますので、キーナンバープレートは大切に保管してください。また、キーナンバーを１ページ目の記入欄に記入しておいてください。

[参考]

コンバインを譲渡するときは、つぎにお使いになるかたのためにすべてのキーとキーナンバープレートをコンバインと一緒にお渡しください。

キースイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。

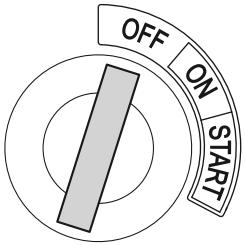


図 2-3 キースイッチ

「OFF」位置
　…エンジンが停止します。（電流は流れず、キーを抜き取れます。）
「ON」位置
　…各電装部品に電流が流れます。エンジンが停止している場合は、ウインカパイロットランプ以外が2秒間点灯し、その後消灯します。
「START」位置
　…セルモータが回転し、エンジンが始動します。エンジンが始動したらキーから手を離します。キーは自動的に「ON」位置に戻り、連続運転に入ります。

[参考]

- 寒冷時には、キースイッチを「ON」位置にしてから、数秒間はヒータが作動し、エンジンの始動を容易にします。ヒータ作動時には、グローパイロットランプが点灯します。
  作業クラッチレバーが「OFF」位置以外の場合には、安全のためにセルモータは回転しません。
- エンジンを始動せずに、キースイッチを「ON」位置のまま長時間放置すると、バッテリー上がりの原因になります。

コンビネーションスイッチ

■ ウインカスイッチ

方向指示器を点滅させるときに使用します。

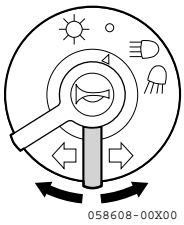


図 2-4 ウインカスイッチ

左へ倒す……左側が点滅します。
右へ倒す……右側が点滅します。

キースイッチを「ON」、または「START」位置にして、旋回する側の矢印方向にスイッチを回すと、方向指示器が点滅します。同時にコンビネーションメータのウインカパイロットランプも点滅します。

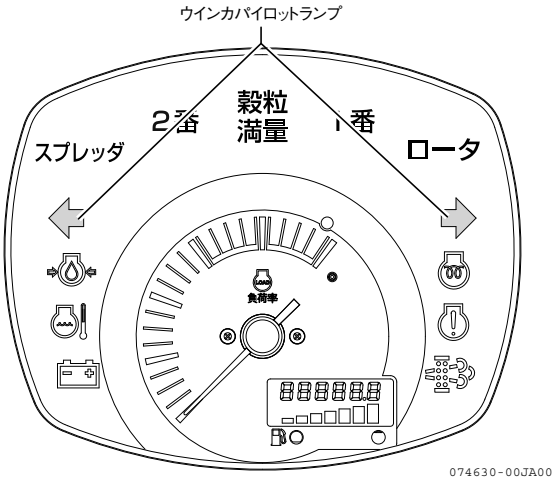


図 2-5 ウインカパイロットランプ

■ ライトスイッチ(作業灯スイッチ兼用)

ヘッドライトの照射、およびオプションの作業灯（プラットホームオーガ側方・こぎ胴入口・コンバイン後方）を点灯させるときに使用します。
ヘッドライト、作業灯を点灯させると車幅灯（前側左右、後側左右）も点灯します。

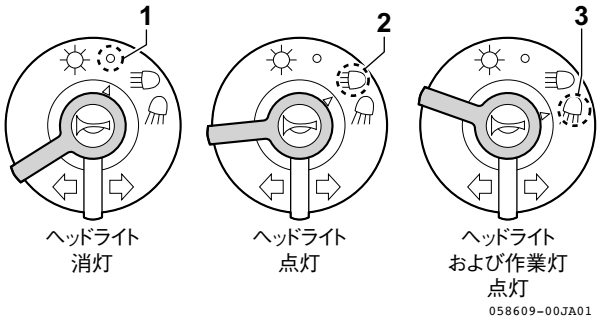


図 2-6 ライトスイッチ

キースイッチを「ON」位置にして、ライトスイッチを（2）（点灯）側に回すとヘッドライトが照射、（3）側へ回すと作業灯、車幅灯がします。
（1）（消灯）側に回すと消灯します。

■ ホーンボタン

ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。

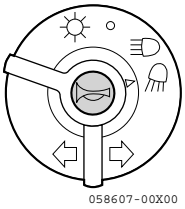


図 2-7 ホーンボタン

キースイッチを「ON」位置にして、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

〈ハンドル部〉

ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。

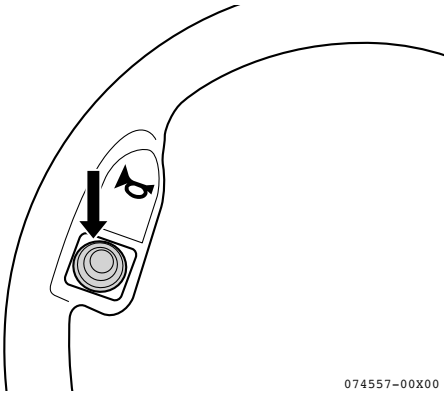


図 2-8 ホーンボタン

キースイッチを「ON」位置にして、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

アクセルダイヤル

エンジン回転の上げ下げに使用します。

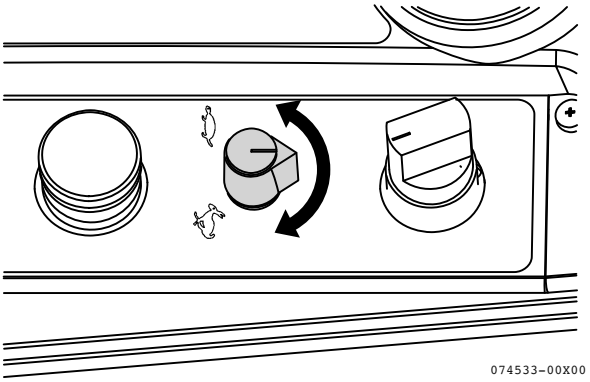


図 2-9 アクセルダイヤル

右へ回す( )……エンジンの回転が上がる

左へ回す( )……エンジンの回転が下がる

サイドコラム部

脱こくクラッチレバー

脱こく部の作動・停止に使用します。

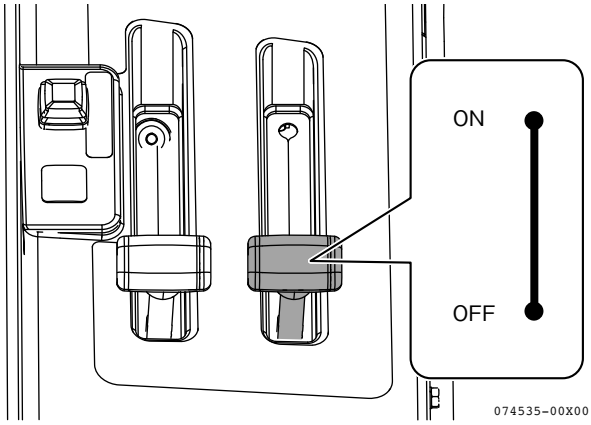


図 2-10 脱こくレバースイッチ

「ON」位置 ……脱こく部が作動する
「OFF」位置……脱こく部が停止する

刈取クラッチレバー

刈取部の作動・停止に使用します。

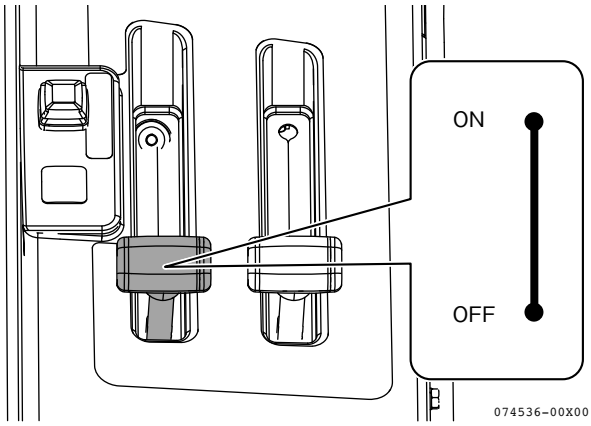


図 2-11 刈取クラッチレバー

「ON」位置 ……刈取部が作動する
「OFF」位置……刈取部が停止する

[参考]

- 刈取クラッチは、脱こくクラッチと連動しているため、脱こくクラッチレバーを「OFF」位置にすると、刈取部も同時に停止します。
- 刈取クラッチレバーを「ON」位置にすると、脱こくクラッチレバーも同時に「ON」位置になります。

刈高さ･リール前後スイッチ

ハンドルを握ったままで、刈取部の上昇・下降およびリールの前後位置を調節するときに使用します。

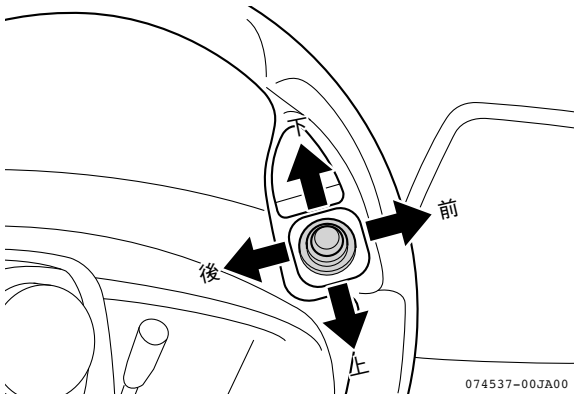


図 2-12 刈高さ・リール前後スイッチ

「前」側……リールが前方へ動く
「後」側……リールが後方へ動く
「下」側……刈取部が下がる
「上」側……刈取部が上がる

[重要]

- 主変速レバー部の刈高さ調節レバーとハンドル部の刈高さ・リール前後スイッチを同時に逆方向に使用したときには、刈取部の上昇・下降が止まります。
- 刈取部の昇降は、エンジンを始動しないとできません。

リール変速レバー

リールの回転速度を調節するときに使用します。

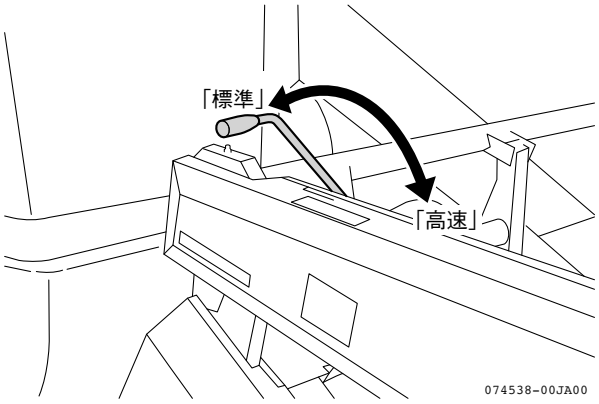


図 2-13 リール変速レバー

「標準」位置……リールの回転速度が遅くなる
（立毛・向い刈り倒伏時）
「高速」位置……リールの回転速度が速くなる
（追い刈り倒伏時）

刈刃･リールクラッチレバー

プラットホームに作物を投げ込んで、定置脱こくするときに使用します。

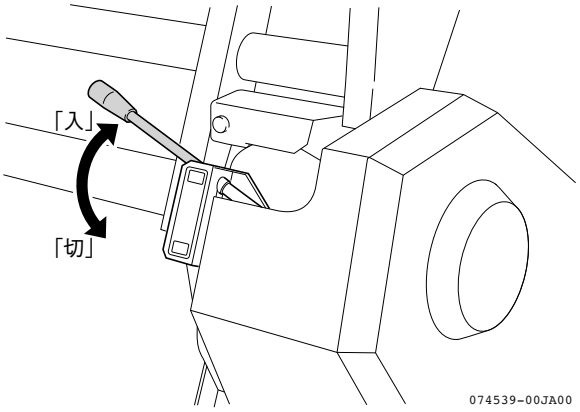
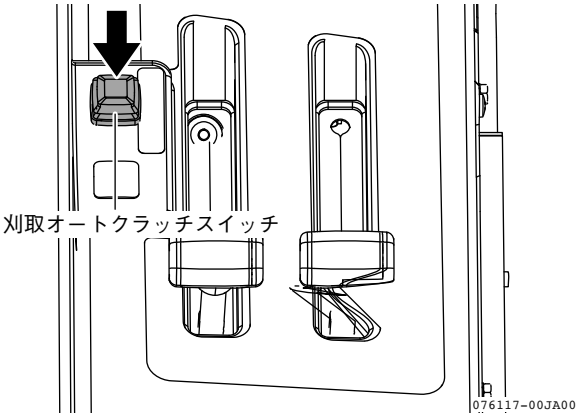


図 2-14 刈刃・リールクラッチレバー

「入」位置……刈刃とリールが作動する
「切」位置……刈刃とリールが停止する

刈取オートクラッチスイッチ

刈取部の駆動・停止を、刈取部の昇降に連動して自動的に行うときに使用します。



刈取オートクラッチ機構は、刈取部が駆動している状態で、オートリフトボタン・オートセットボタンで刈取部を昇降したときに作動します。

「入」（ランプ点灯）
…オートリフトボタンで刈取部を上昇させたときに、刈取部が自動的に停止する
オートセットボタンで刈取部を下降させたときに、刈取部が自動的に駆動する

「切」（ランプ消灯）
…刈取オートクラッチ機構は作動しない

送塵調節レバー

こぎ室内の作物の流れを、作物の種類や条件に応じて調節するときに使用します。

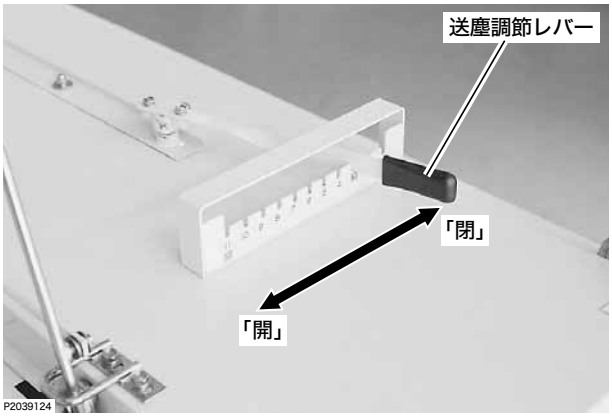


図 2-15 送塵調節レバー

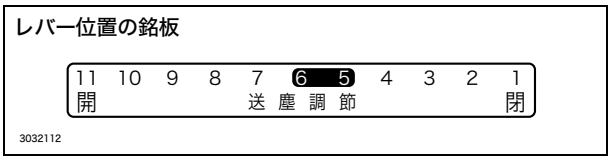


図 2-16

標準的な作物の調節位置
大豆……「5」～「6」
ソバ……「9」～「11」
麦……「3」～「6」
小豆……「8」～「11」

⇩

作物の条件により下記の目安で上手に使用してください。
大豆・麦：ロスがでない限り ➡「開」側へ動かす
ソバ　：水分の多いとき ➡「開」側へ動かす

[重要]
「閉」側にしすぎると、ロータにサヤクズなどがたまりやすくなり、こぎ室から異音が出る場合があります。

クリーンシフトレバー

脱こく内部のクリーンシフトの角度を、作物の条件に応じて調節するときに使用します

キャビンなし仕様の場合

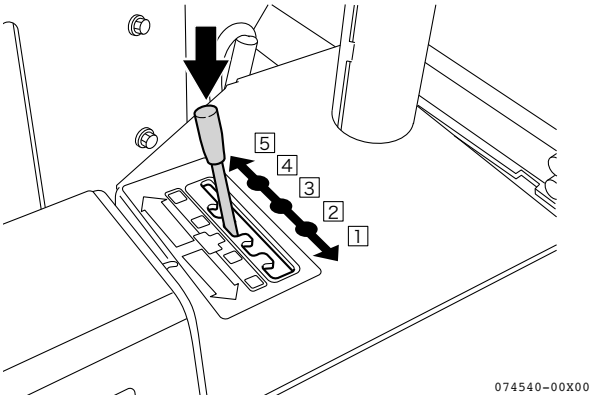


図 2-17 クリーンシフトレバー (キャビンなし仕様)

キャビン仕様の場合

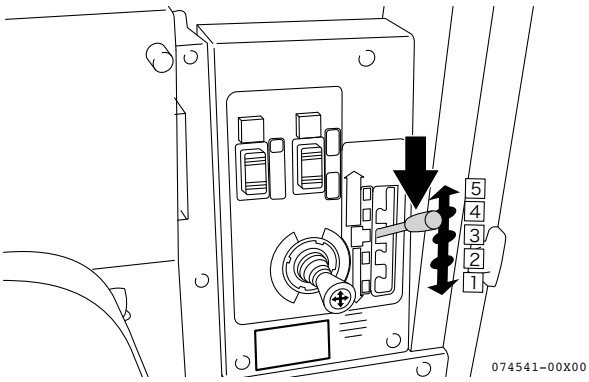


図 2-18 クリーンシフトレバー (キャビン仕様)

表 2-1 クリーンシフトレバーの調整

作業条件	レバーの位置
標準作業	「3」
選別が悪いとき	「1」・「2」
作物が湿材のとき・こく粒飛散が多いとき	「4」・「5」

[重要]
クリーンシフトレバーの調節を誤ると、詰まりやロスの原因になるので、特に注意してください。

唐箕回転調節レバー

作物の選別の精度を良くするときに使用します。

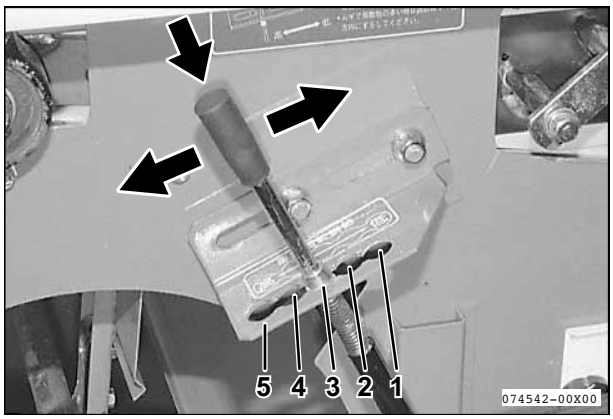


図 2-19 唐箕回転調節レバー

「高」側(1)……選別が悪いとき
「低」側(5)……乾材などで3番にロスが多いとき

[参考]

- 唐箕回転調節レバーを調節しても不具合が改善されないときは、唐箕回転調節板を調節してください。(119ページ参照)
- 標準位置は、唐箕回転調節板を「高」側いっぱいに寄せた状態で、「3」位置です。
- 唐箕回転調節レバーを操作するときは、レバーを押し込みながら行ってください。

刈高さ調節レバー

刈取部の上昇・下降に使用します。

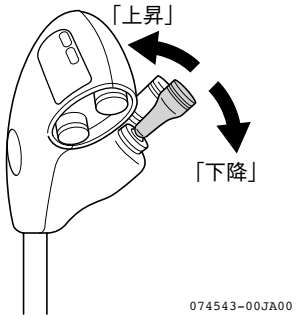


図 2-20 刈高さ調節レバー

「下降」側……刈取部が下がる
「上昇」側……刈取部が上がる

リール高さ調節レバー

リールの上昇・下降に使用します。

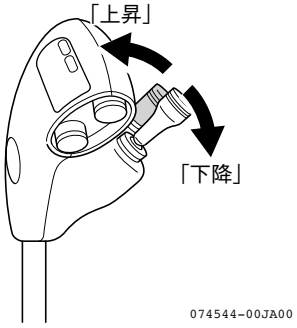


図 2-21 リール高さ調節レバー

「下降」側……リールが下がる
「上昇」側……リールが上がる

刈高さ切換レバー

刈高さ自動制御中の刈取部の下降高さを調節するときに使用します。

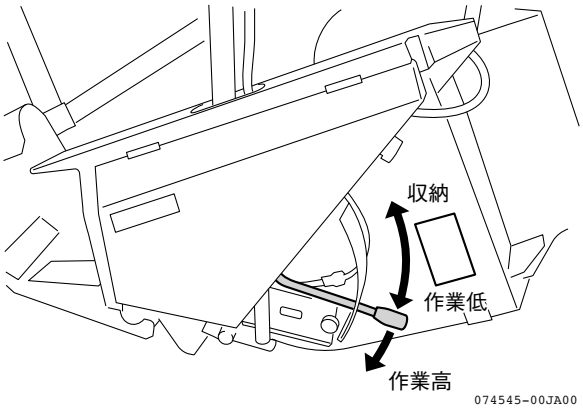


図 2-22 刈高さ切換レバー

「作業」位置 ……作業をするとき（センサソリが出る）に使用し、次の2つの切換がある
「作業低」 ……通常作業に使用
「作業高」 ……高刈作業時に使用
「収納」位置 ……積み・降ろし、移動するとき刈取部を脱着するとき（センサソリが収納される）

[参考]

刈高さ切換レバーを操作するときは、レバーを押し込みながら行ってください。

主変速レバー(HST)

前進・後進の進行方向と走行速度の調節、および走行の停止に使用します。

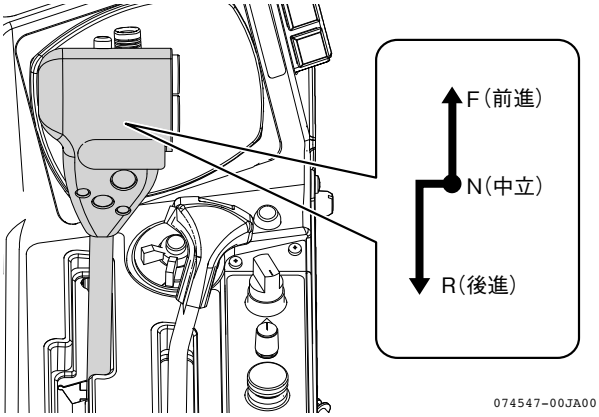


図 2-23

「前進」側 ……コンバインが前進する
「後進」側 ……コンバインが後進する
「N」(中立) 位置……コンバインが停止する

走行速度は、レバーの操作量によって無段階に選べます。

[重要]

駐車ブレーキレバーが「ブレーキ」位置、またはセフティペダルを踏み込んでいるときは、主変速レバーは「N」(中立)位置に戻り、主変速レバーの操作はできません。(駐車ブレーキレバーは、キャビン仕様にはありません。)

副変速レバー

使用目的や条件により、「低速」「標準」「走行」の3段階の走行速度が選べます。

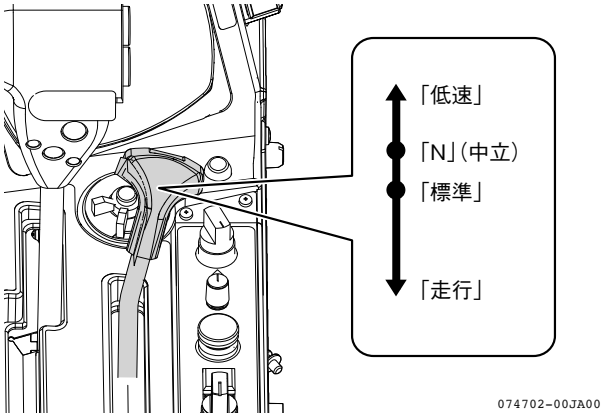


図 2-24

「低速」位置 ……半倒伏や悪条件作物
「標準」位置 ……標準的な刈取作業
「走行」位置 ……移動走行
「N」(中立) 位置……走行しない

[重要]

- 副変速レバーによる変速は、主変速レバーを、必ず「N」(中立) 位置にして、コンバインが完全に停止してから変速してください。
- セフティペダルを踏み込まない方が、スムーズに変速できます。
- 坂道では変速しないでください。

ハンドル部

ステアリングハンドル

コンバインを旋回するときに使用します。

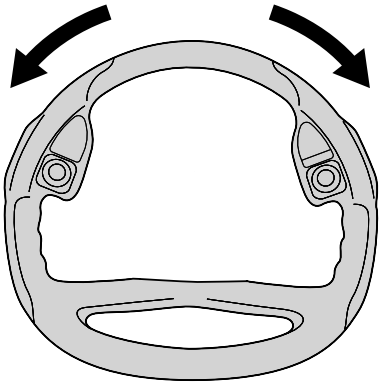


図 2-25 ステアリングハンドル

ハンドルを右へ回すとコンバインが右へ旋回し、左へ回すとコンバインが左へ旋回します。
さらにハンドルを右または左へ回すと、左右のクローラが逆転し、旋回半径が小さくなります。

セフティペダル

エンジン始動時、および走行中の緊急停止時に使用します。

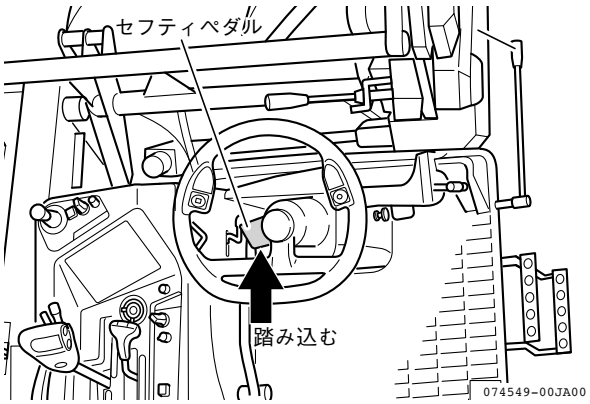


図 2-26 セフティペダル

セフティペダルを踏み込むと、主変速レバーが「N」（中立）位置に戻り、コンバインが停止し、ブレーキが効きます。

[参考]
通常の走行停止は、主変速レバーを「N」（中立）位置にして行ってください。

駐車ブレーキロックレバー

ドライバーシートに座って、駐車ブレーキをかけるときに使用します。

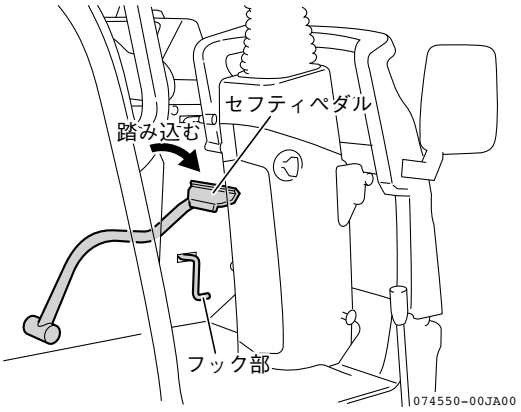


図 2-27 駐車ブレーキロックレバー

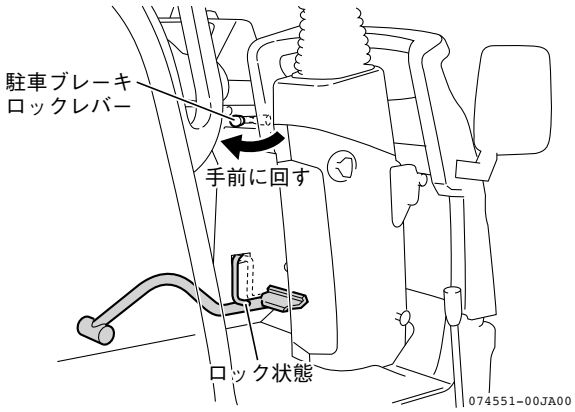


図 2-28 駐車ブレーキロックレバー

セフティペダルをいっぱいに踏み込んで、駐車ブレーキロックレバーを手前に引いて、セフティペダルにフック部をかけると、ロック状態になり駐車ブレーキがかかります。
解除するときは、セフティペダルをいっぱいまで踏み込むと、駐車ブレーキロックレバーが前方に戻り、フックが外れ解除できます。

[参考]
駐車ブレーキをかけると、主変速レバーは「N」（中立）位置に戻ります。

駐車ブレーキレバー（キャビンなし仕様のみ）

コンバインから降りて、駐車ブレーキをかけるときに使用します。

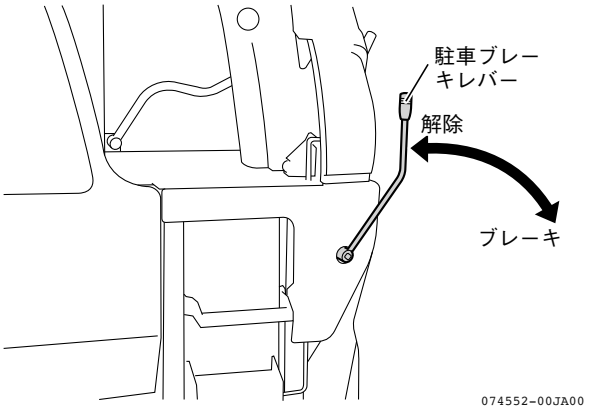


図 2-29 駐車ブレーキレバー

「ブレーキ」位置……駐車ブレーキがかかる
「解除」位置……駐車ブレーキが解除される

[参考]

駐車ブレーキをかけると、主変速レバーは「N」（中立）位置に戻ります。

旋回モード切替ノブ

旋回モードを切り替えるときに使用します。

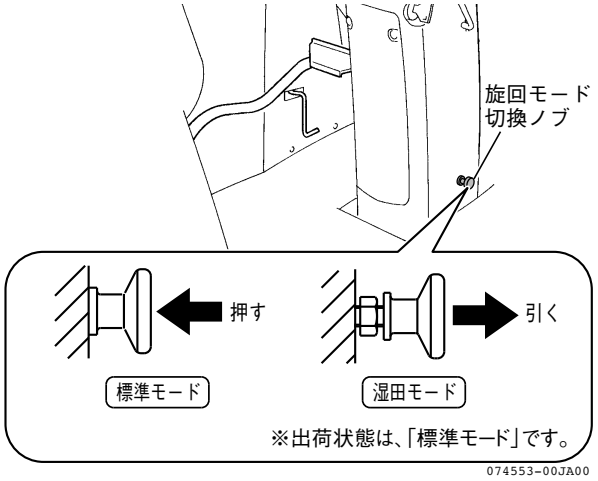


図 2-30 旋回モード切替ノブ

旋回モード切替ノブは、主変速レバーを「N」（中立）位置、ステアリングハンドルを中立にして操作してください。

ノブを押し込む…標準モード（スピンターンする）
ノブを引き出す…湿田モード（スピンターンしない）

[参考]

- 「標準モード」では、旋回時に自動減速が働いて小回りができますが、「湿田モード」では、自動減速せずに大回りになります。移動走行するときは、「標準モード」にしてください。
- 乾田作業・移動走行では、「標準モード」を使用してください。湿田作業をする場合は、「標準モード」でも十分に作業は可能ですが、コンバインの沈下が著しい場合は、「湿田モード」に切り替えると、さらに湿田性能が向上します。

表 2-2 旋回モードの切替

	標準モード	湿田モード
旋回時の車速	減速する	減速しない
副変速「標準」での旋回	スピンターンする（小回り）	スピンターンしない（大回り）
乾田での旋回	◎	○
湿田での旋回	○ ※ハンドルを切りすぎない	◎（旋回力大）
移動走行性能	◎	×（使用不可）
車庫入れ性能	◎	×（使用不可）

コンビネーションメータ部

運転中の各部の状態を確認できます。異常があった場合は、異常箇所をコンビネーションメータと警報装置のブザーでお知らせします。

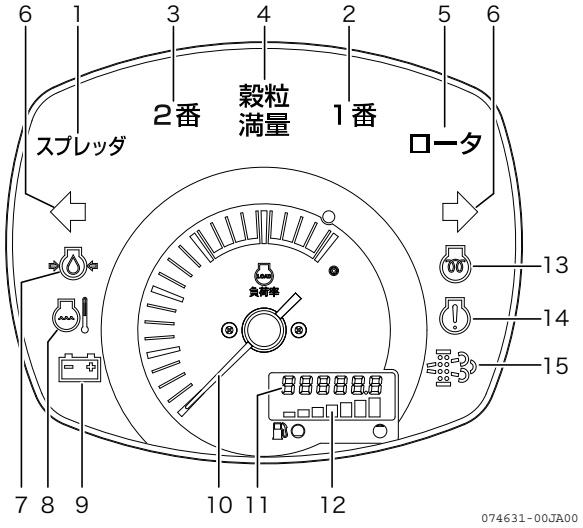


図 2-31 コンビネーションメータ部

- 異常箇所は、作業クラッチレバーを「OFF」位置にしても点滅、または点灯したままなので、確認が容易です。
- キースイッチを「OFF」位置にすると、表示をリセットできます。
- キースイッチが「ON」位置のときに、(2) ウインカパイロットランプ以外のすべてのランプが 2 秒間点灯します。ランプ切れのチェックが行えます。

1. スプレッダパイロットランプ

脱こくクラッチレバーが「ON」位置のとき、スプレッダの負荷が過負荷になり、スプレッダの回転数が低下すると、赤ランプが点灯し、ブザーが連続で鳴ります。

[参考]
スプレッダは、仕様およびオプションです。

2. 1番パイロットランプ

- 脱こくクラッチレバーが「ON」位置のとき、1番コンベア上部にこく粒が詰まると、赤ランプが点灯し、ブザーが連続で鳴ります。

3. 2番パイロットランプ

- 脱こくクラッチレバーが「ON」位置のとき、2番スラットコンベアにこく粒が詰まると、赤ランプが点灯し、ブザーが連続で鳴ります。
(145ページ参照)
- エンジン回転がアイドリング状態のとき、脱こくクラッチレバーを「ON」位置にすると、ブザーが鳴ることがあります。

4. 穀粒満量パイロットランプ

グレンタンク内にこく粒が満タンになるとランプが点滅し、ブザーが断続で鳴ります。(145ページ参照)

[参考]
ブザー停止スイッチを押すと、ブザーは鳴りやみますが、ランプは点滅したままです。

5. ロータパイロットランプ

脱こくクラッチレバーが「ON」位置のとき、ロータの負荷が過負荷になり、ロータの回転数が低下すると、赤ランプが点灯し、ブザーが連続で鳴ります。(145ページ参照)

6. ウインカパイロットランプ

ウインカスイッチを操作したときに、方向指示器と同時に点滅します。

7. 油圧パイロットランプ

エンジンの潤滑油の油圧が低下したときに、ランプが点灯し、ブザーが連続で鳴ります。

8. 水温パイロットランプ

エンジンの冷却水温が異常に上がったときに、ランプが点灯し、ブザーが連続で鳴ります。

9. チャージパイロットランプ

エンジン回転中、バッテリーに充電しなくなったときに、ランプが点灯し、ブザーが連続で鳴ります。

10. エンジン負荷率計

エンジン負荷率を表示します。

11. 液晶モニター

アワメータが初期表示となります。
ブザー停止スイッチを押すと、エンジン回転表示となります。再度ブザー停止スイッチを押すと、速度表示となります。再度ブザー停止スイッチを押すと、アワメータの表示に戻ります。

■ アワメータ

エンジンの使用時間を表示します。(エンジンを始動すると、カウントをはじめます。)

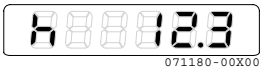


図 2-32 アワメータ

■ エンジン回転表示

エンジンの回転数を表示します。



図 2-33 エンジン回転表示

■ 車速表示(車速 m/s)

コンバインの速度を表示します。

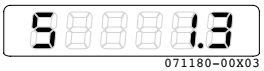


図 2-34 車速表示

■ エラーコード表示

センサやコントローラに異常が生じたときに、エラーコードが表示されます。(271ページ参照)

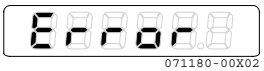


図 2-35 エラーコード表示

[参考]

エラーが発生すると、アワメータと「Error」が1秒間隔で交互に表示されます。ブザー停止スイッチを5秒間連続して押すと、エラーコードが表示されます。
発生しているエラーが解除されると、エラーが発生する直前の液晶画面に戻ります。

12. 燃料残量モニター

燃料の残量を表示します。



図 2-36 燃料残量モニター

燃料の残量が少なくなったときに、セグメント表示が点滅し、ブザーが断続音で鳴ります。ブザー停止スイッチを押すとブザーは鳴りやみますが、セグメント表示は点滅したままです。
また、キースイッチが「ON」位置の状態で、燃料給油時に満量になると、ブザーが断続音で5秒間鳴ったあとブザーは停止します。
ブザー断続音中にブザー停止スイッチを押すとブザーは停止します。

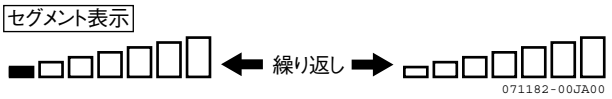


図 2-37 セグメント表示

13. グローパイロットランプ

グロー作動時に点灯します。

14. エンジン機能不良パイロットランプ

エンジン関係の警報とエンジン不良が発生したときに点灯します。

15. 排気フィルターパイロットランプ

排気フィルターの再生要求のときは、ランプが点滅し、ブザーが断続で鳴ります。排気フィルター再生スイッチを押すと、ランプが点灯し、ブザーは停止します。

表 2-3 排気フィルターパイロットランプ

排気フィルター パイロットランプ	状態
点滅	排気フィルター再生待ち
点灯	排気フィルター再生中

傾斜警報ブザー（グレンタンク・キャビン仕様のみ）

傾斜センサの働きにより、コンバインが左右14度以上傾くと、ブザーが連続で鳴ります。

ブザー停止スイッチ

警報ブザーを停止するときに使用します。

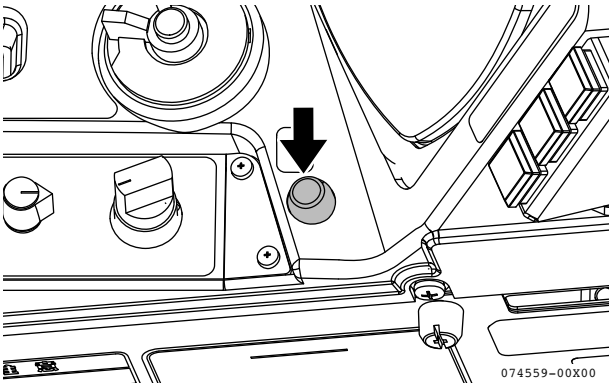


図 2-38 ブザー停止スイッチ

次の警報の場合は、ブザー停止スイッチを押すとブザーが鳴り止みます。

- エンジン系統（チャージ・油圧・水温）
- こく粒満量
- 燃料残量

次の警報の場合は、ブザー停止スイッチを押してもブザーは鳴り止みませんが、脱こくクラッチレバーを「OFF」位置にすると、ブザーは鳴り止みます。

- ロータ
- 1番
- 2番
- スプレッダ（オプション）

[参考]

警報装置については、145 ページを参照してください。

Eモードスイッチ

エンジン回転を、自動的に制御したいときに使用します。

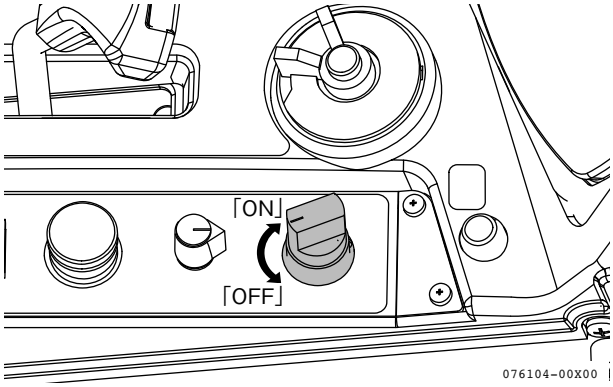


図 2-39 Eモードスイッチ

「OFF」位置……アクセルダイヤルでエンジン回転を調節できます。

「ON」位置…… 作業負荷が変動（負荷率 100% 未満）しても、エンジン回転数を定格回転数に保ちます。

Eモードスイッチが「ON」位置で、下記の条件のときに、自動的にエンジン回転が定格回転になります。

- 主変速レバーを前方・後方に倒して前後進する（移動走行）
- 脱こくクラッチレバーを「ON」位置にする
- 排出クラッチレバーを「ON」位置にする

その他のときは、自動的にローアイドリング（低回転）に保ちます。

[参考]

- Eモードスイッチが「ON」位置のときは、アクセルダイヤルでのエンジン回転の調節はできません。
- 脱こくクラッチレバーを「OFF」位置にし、排出クラッチスイッチを「OFF」にして、走行を停止しても、エンジン回転はすぐにはローアイドリング（低回転）になりません。エンジン回転は、約5秒間（定格回転）に保たれます。

自動刈高さスイッチ

刈高さを自動制御するときに使用します。

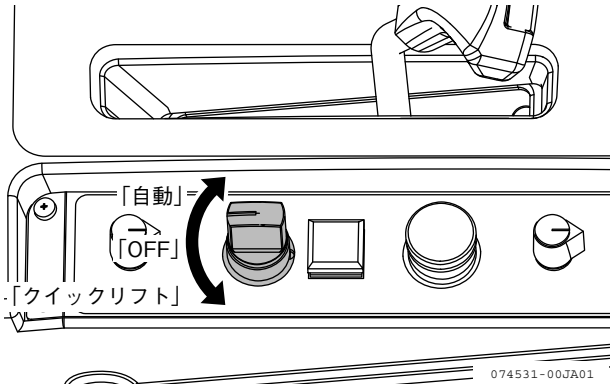


図 2-40 自動刈高さスイッチ

「クイックリフト」位置

…センサソリが刈高さ調節ダイヤルで調節した高さ以下になったときに、自動的に刈取部を上昇させる

「自動」位置

…自高ランプが点灯し、刈高さ調節ダイヤルで調節した刈高さに自動調節する

「OFF」位置

…刈高さ自動制御が働かない

[参考]

自動刈高さスイッチが「OFF」位置のときは、刈高さ調節レバーで調節してください。

[重要]

- クイックリフトは、上昇のみ作動します。下降は作動しません。
- 刈高さ自動制御が作動中に、刈高さ調節レバーを操作すると、その操作（手動操作）が優先されます。
- 後進するときは、センサソリが土を引っ掛けないように、必ず刈取部を上げてから行ってください。

刈高さ調節ダイヤル

刈高さ自動制御の刈高さを調節するときに使用します。

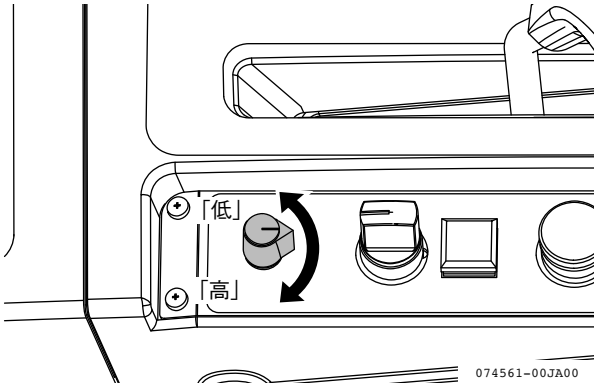


図 2-41 刈高さ調節ダイヤル

「高」方向に回す……刈取部が上がる
「低」方向に回す……刈取部が下がる

自高ランプ

自動刈高さ制御中に点灯します。

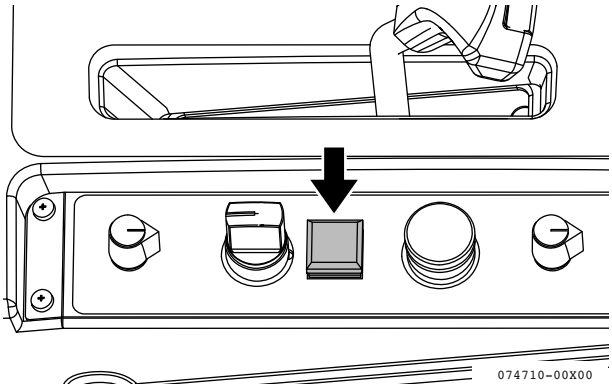


図 2-42 自高ランプ

脱こくクラッチレバーと刈取クラッチレバーが「ON」位置のときに、自動刈高さスイッチを「自動」位置にすると点灯し、刈高さ自動制御中を表示します。

[重要]

エンジンが停止している場合でも、刈取クラッチレバーとキースイッチが「ON」位置になると、刈取部が下降することがありますので注意してください。

排気フィルター再生スイッチ

排気フィルターに捕集したPM（ススなどの粒子状物質）を燃焼除去し、排気フィルターを再生するときに使用します。

排気フィルター再生スイッチのお知らせランプが点滅したら排気フィルターを再生（リセット再生）してください。

排気フィルターの再生についての詳細は、220 ページを参照してください。

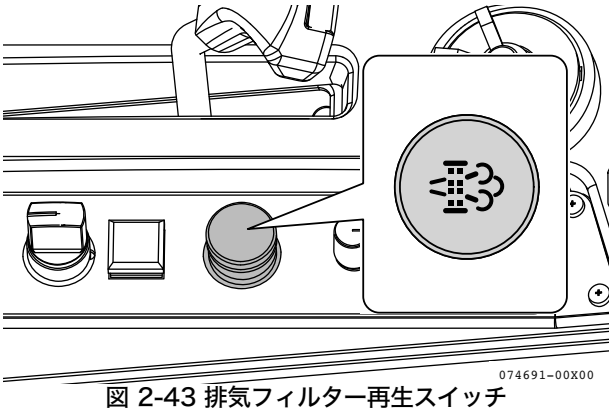


図 2-43 排気フィルター再生スイッチ

表 2-4 排気フィルター再生スイッチ

排気フィルター再生スイッチ（お知らせランプ）	状態
点滅	排気フィルター再生待ち
点灯	排気フィルター再生中

[参考]

お知らせランプが点滅しているときは、ブザーが鳴ります。

オートリフトボタン

設定している高さに、刈取部を上昇させるときに使用します。



図 2-44 オートリフトボタン

刈取クラッチレバーが「ON」位置のとき、オートリフトボタンを押すと、刈取部が設定位置まで上昇します。(148ページ参照)
刈取オートクラッチスイッチが「ON」(ランプ点灯)になっているときは、刈取部が上昇すると同時に、刈取部の駆動が止まります。(刈取オートクラッチ機構)

[参考]
出荷時の設定位置は刈刃の高さが、約70～80cmの高さに設定されています。

[重要]
エンジンが停止している場合でも、刈取クラッチレバーとキースイッチが「ON」位置になると、刈取部が下降することがありますので注意してください。

オートセットボタン

設定している適正な刈高さに、刈取部を下降させるときに使用します。

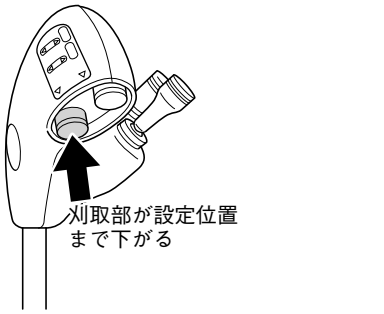


図 2-45 オートセットボタン

刈取クラッチレバーが「ON」位置で、刈高さ切換レバーが「作業」位置のときに、オートセットボタンを押すと、刈取部が設定位置まで下降します。
(148ページ参照)
刈取オートクラッチスイッチが「ON」(ランプ点灯)になっているときは、刈取部が下降すると同時に、刈取部が駆動されます。(刈取オートクラッチ機構)

[参考]
- 自動刈高さスイッチが「自動」位置または「クイックリフト」位置のときは、刈高さ調節ダイヤル設定高さまで下降します。
- 自動刈高さスイッチが「OFF」位置のときは、刈取部のセンサソリが接地するまで下降します。

[重要]
エンジンが停止している場合でも、刈取クラッチレバーとキースイッチが「ON」位置になると、刈取部が下降することがありますので注意してください。

車高調節レバー

手動で車高を調節するときに使用します。

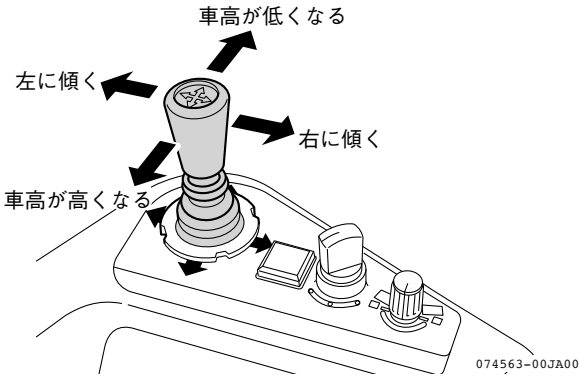


図 2-46 車高調節レバー

前方に倒す……車高が低くなる
後方に倒す……車高が高くなる
左に倒す……車体が左に傾く
右に倒す……車体が右に傾く

水平自動切替スイッチ

⚠ 注　意

傾斜地の走行、および積み・降ろしをするときは、必ず水平自動切替スイッチを「切」(ランプ消灯)にして、車高調節レバーで車高を最も低い位置まで下げてください。機械が急に傾き転倒し、けがをするおそれがあります。

車体の平行を自動制御するときに使用します。

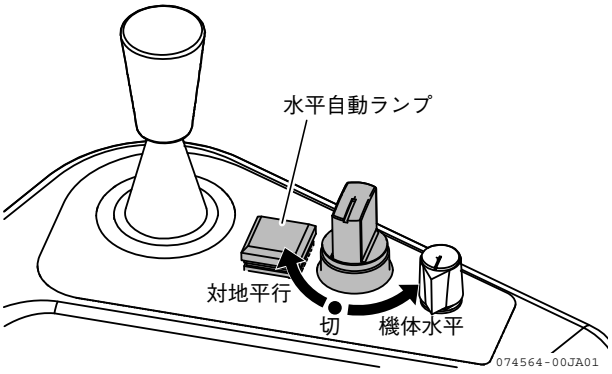
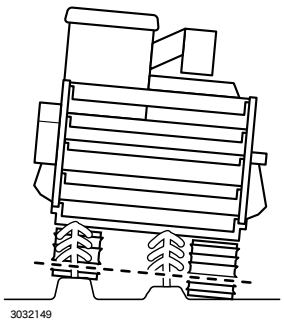


図 2-47 水平自動切替スイッチ

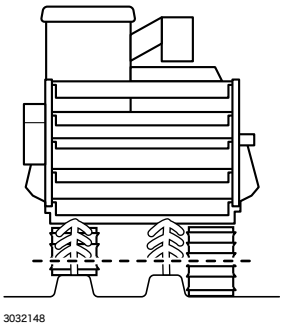
車高平行制御装置（機体平行制御と対地平行制御）は、脱こくクラッチレバーが「ON」位置のときに作動します。(59ページ参照)

「対地平行制御」位置…対地平行制御が働く
（水平自動ランプ点灯または点滅）
「機体平行制御」位置…機体平行制御が働く
（水平自動ランプ点灯または点滅）
「切」位置 ……車高平行制御が切れる
（水平自動ランプ(4)消灯）

〈対地平行制御〉
高さの異なるうねや傾斜地で、刈取部をうねに対して平行に保ちます。



〈機体平行制御〉
ほ場の起伏やうねの高さが変化しても、常にコンバインを平行に保ちます。



傾斜角調節ダイヤル

車体の角度を一定に保ちたいときに使用します。

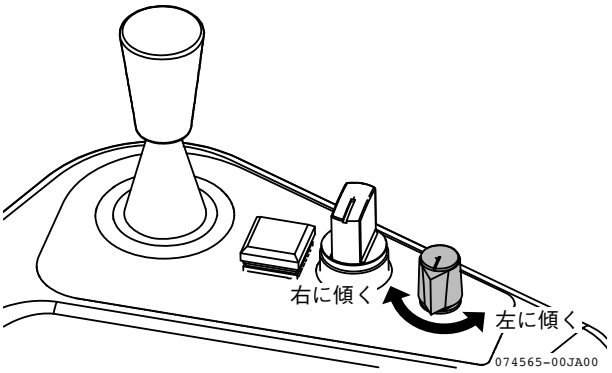


図 2-48 傾斜角調節ダイヤル

中央位置……車体が平行になる
方向に回す……車体が右に傾く
方向に回す……車体が左に傾く

[参考]
対地平行制御時は、傾斜角調節ダイヤルは使用できません。常に刈取部を地面に対して平行に保ちます。

排出コンベアクロスレバー(運転席側)

排出コンベアの昇降・左右旋回させるときに使用します。

〈キャビン仕様〉

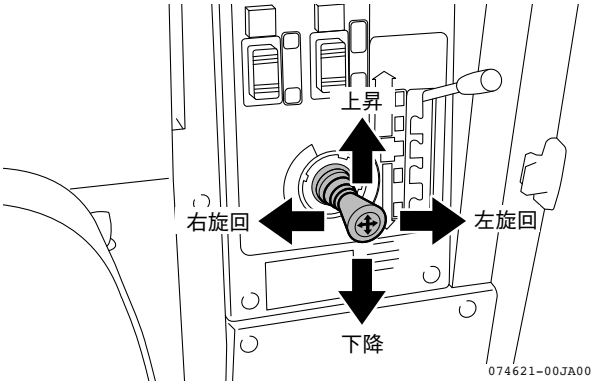


図 2-49 排出コンベアクロスレバー（運転席側）

〈キャビンなし仕様〉

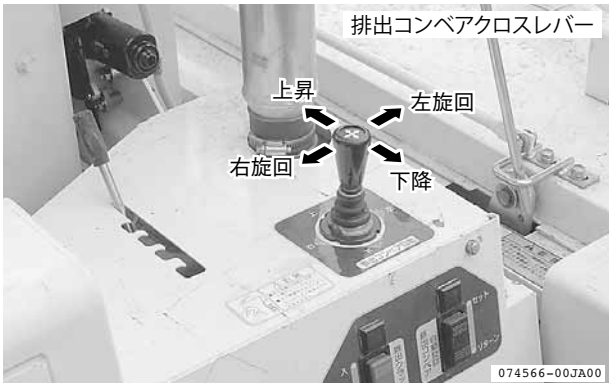


図 2-50 排出コンベアクロスレバー（運転席側）

「上昇」位置……排出コンベアが上昇する
「下降」位置……排出コンベアが下降する
「右旋回」位置…排出コンベアが右に旋回する
「左旋回」位置…排出コンベアが左に旋回する

排出クラッチスイッチ(運転席側)

グレンタンクのこく粒を、排出コンベアの先端から排出するときに使用します。

〈キャビン仕様〉

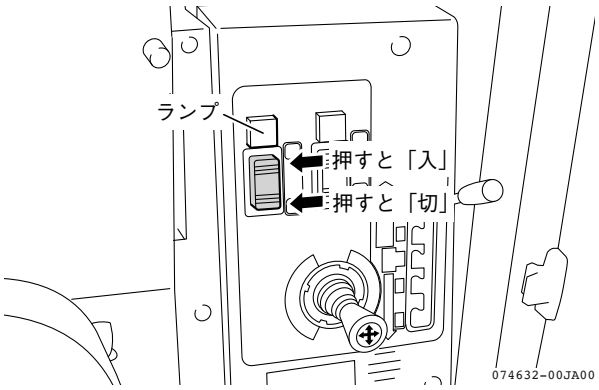


図 2-51 排出クラッチスイッチ（運転席側）

〈キャビンなし仕様〉

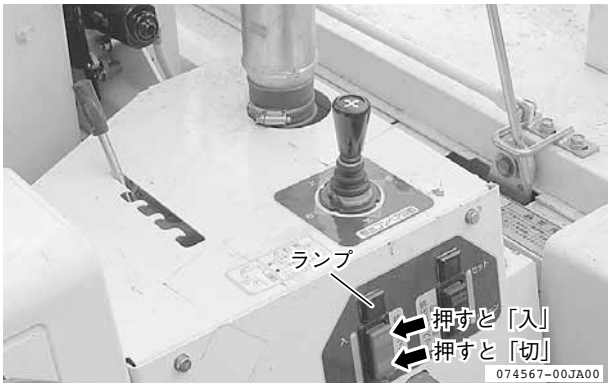


図 2-52 排出クラッチスイッチ（運転席側）

「入」位置……ランプが点灯し、こく粒が排出される

「切」位置……ランプが消灯し、こく粒の排出が停止する

排出クラッチスイッチ(排出コンベア先端)
排出コンベアクロスレバー(排出コンベア先端)

排出クラッチスイッチと排出コンベアクロスレバーは、排出コンベア先端にもあります。

トラック荷台上から、こく粒排出作業と排出コンベア位置の調節をするときに使用します。



図 2-53 排出クラッチスイッチ・コンベアクロスレバー（排出コンベア先端）

[参考]

操作要領は、運転席側のものと同じです。ただし、排出コンベアクロスレバーの操作は、排出コンベア先端で操作した方が運転席側で操作するより、排出コンベアはゆっくり動きます。

排出自動旋回スイッチ（オートセット、オートリターン装置）

排出コンベアを自動的に排出位置へ旋回、またはコンベアレストに収納するときに使用します。

〈キャビン仕様〉

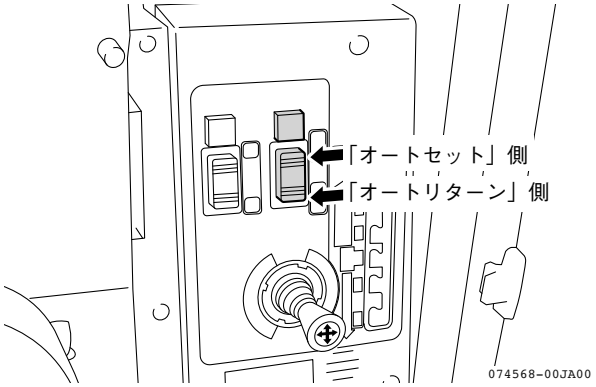


図 2-54 排出自動旋回スイッチ

〈キャビンなし仕様〉

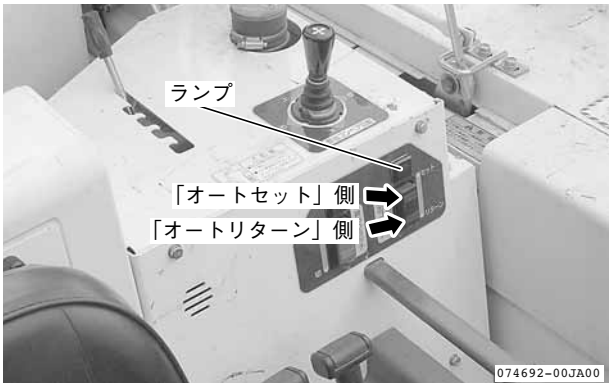


図 2-55 排出自動旋回スイッチ

「オートセット」側を押す
…ランプが点灯し、排出コンベアが自動的に本機の真後ろ側まで旋回する
「オートリターン」側を押す
…排出コンベアが自動的にコンベアレストに収納される

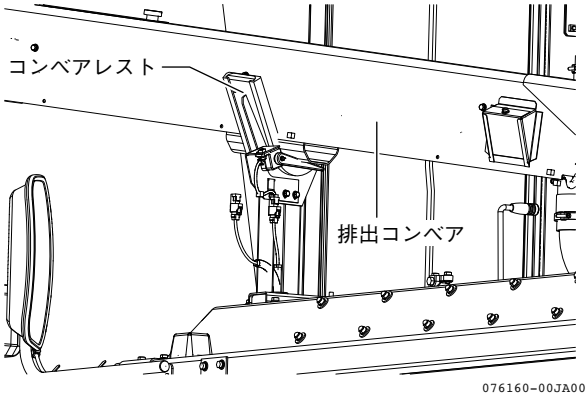


図 2-56 排出自動旋回スイッチ

[参考]

オートセット・オートリターン装置が作動中に、排出コンベアクロスレバーを操作すると、排出自動旋回が解除され、排出自動旋回スイッチのランプは消灯します。

キャビン関係(キャビン仕様のみ)

⚠ 注　意

- ドアを閉めるときは、手をはさまないよう注意してください。
- ドアを閉めたときは、確実にロックされているか必ず確認してください。

ドアハンドル(車外)

車外からドアを開閉するときに使用します。

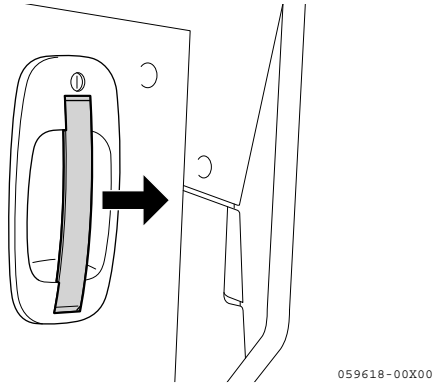


図 2-57 ドアハンドル（車外）

■ 開けかた

ドアハンドルを引くとロックが解除し、ドアが開きます。

■ 閉めかた

ドアハンドルを持ち、確実にロックされるまで閉めてください。

■ 施錠のしかた

キーを差し込み、右側に90度回してください。ドアが施錠されます。
キーを抜いてください。

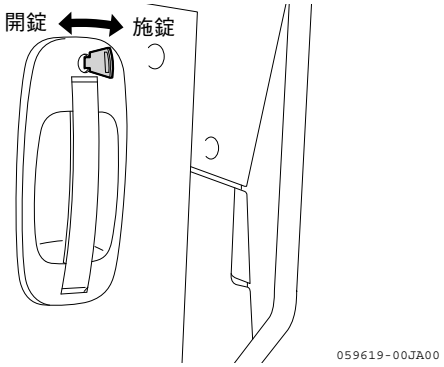


図 2-58 施錠・解錠

■ 解錠のしかた

キーを差し込み、左側に90度回してください。ドアが解錠されます。キーを抜いてください。

[参考]

キーの詳細については、56ページを参照してください。

ドア開閉レバー(車内)

車内からドアを開けるときに使用します。

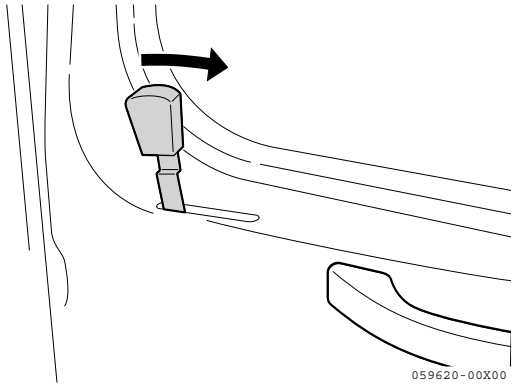


図 2-59 ドア開閉レバー（車内）

■ 開けかた

ドア開閉レバーを矢印の方向に引いてください。ドアが開きます。

■ 閉めかた

取っ手を持ち、確実にロックされるまで閉めてください。

[参考]

ドアを閉めたときは、確実にロックされているか必ず確認してください。

ドアウインドウ開閉レバー

ドアウインドウを開閉するときに使用します。

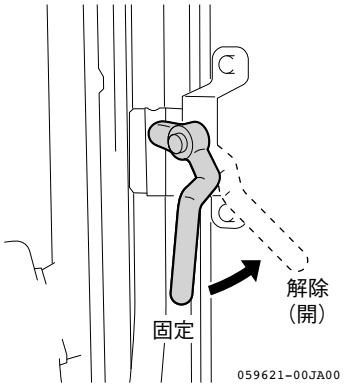


図 2-60 ドアウインドウ開閉レバー

■ 開けかた

ドアウインドウ開閉レバーを矢印方向に回してロックを解除し、外側に押して開いてください。

■ 閉めかた

ドアウインドウをいっぱいまで閉めて、ドアウインドウ開閉レバーで固定してください。

■ ハーフロックのしかた

ドアウインドウを閉めている状態から、約2cm開けた状態で固定できます。

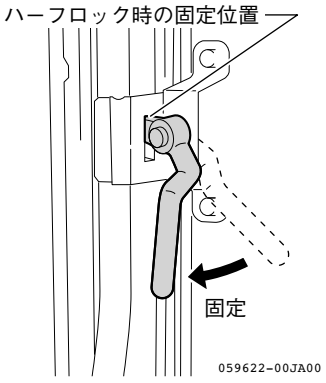


図 2-61 ハーフロック

ワイパー

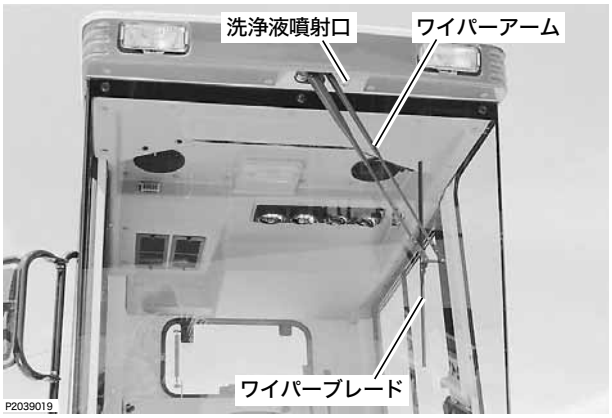


図 2-62 ワイパー

[参考]

操作のしかたは、「ワイパー＆ウォッシャースイッチ」の78ページを参照してください。

アンテナ

FM・AMラジオを使用するときに使用します。

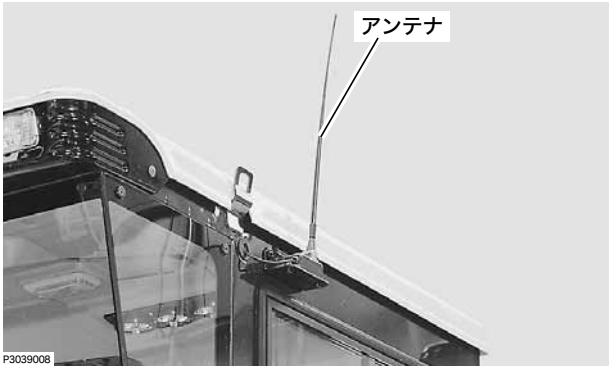


図 2-63 アンテナ

[重要]

- FM・AM付CDラジオを使用しないときは、必ずアンテナを収納してください。
- 格納するときは、必ずアンテナを収納してください。

ワイパー＆ウォッシャースイッチ

ワイパーの作動と、ウォッシャー液を噴出するときに使用します。

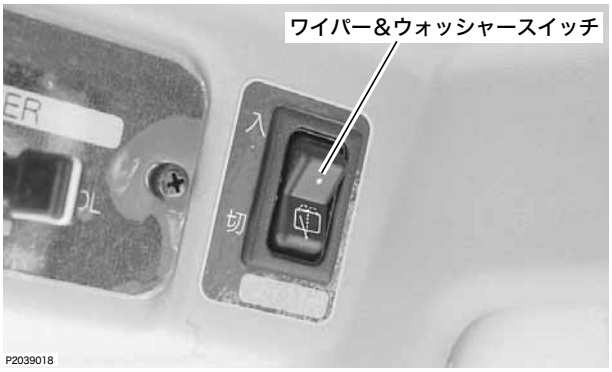


図 2-64 ワイパー＆ウォッシャースイッチ

キースイッチが「ON」位置のとき

●スイッチの上側を1段押す
……ワイパーが作動する

●スイッチの上側を最後まで押す
……押している間は、ワイパーが作動しながらウォッシャー液が洗浄液噴出口から噴出する

●スイッチの下側を1段押す
……ワイパーが停止する

●スイッチの下側を最後まで押す
……押している間は、ウォッシャー液が洗浄液噴出口から噴出する

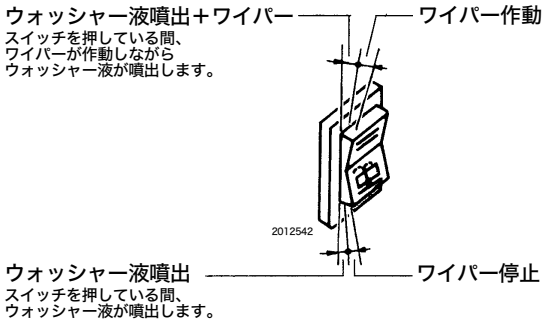


図 2-65 ワイパー＆ウォッシャースイッチ

[重要]

- ウインドウガラスが乾いているときは、ワイパーを作動させないでください。ガラスやワイパーが傷つくおそれがあります。必ず、ウォッシャー液で濡らしてからワイパーを作動させてください。
- ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。ウォッシャー液が出ない状態で作動させるとウォッシャーモータの故障の原因になります。
- ウォッシャー液が出ないときは、ウォッシャータンクの液量を確認してください。(78ページ参照)
- 寒冷時、ワイパーブレード（ゴム部）がガラス面に張りつくことがあります。張りついたまま作動させると、ワイパーが破損するおそれがありますので、吹出口切替レバーを「フロントガラス側」位置にして、温風でフロントガラスを暖めてください。
- エンジン停止状態でワイパーを長時間使用しますと、バッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

ルームランプスイッチ

キャビン内で作業するときに使用します。

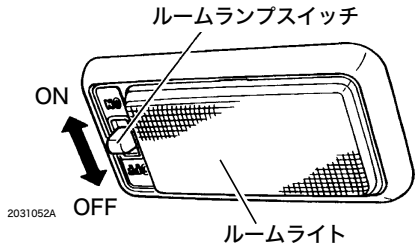


図 2-66 ルームランプスイッチ

キースイッチが「ON」位置のとき
●「ON」位置……ルームライトが点灯する
●「OFF」位置……ルームライトが消灯する

[参考]

「ON」と「OFF」の中間位置ではルームライトは点灯しません。

FM･AM付CDラジオ

取り扱いについては、付属の取扱説明書をお読みください。
また、ラジオを使用するときはアンテナを立ててください。(78ページ参照)

〈ハーネスの接続について〉
FM・AM付CDラジオへの電源の供給のしかたは変更できます。キャビンインナーカバー内のフィルタを外して、中にあるハーネスの接続を行ってください。

〈通常の接続について〉
ハーネスの接続は、赤白とピンクが接続されています。

[参考]

工場出荷時の接続では、キースイッチを「OFF」位置にすると、本体から電源が切れて、プリセットメモリーおよび時計表示が消えますので、再セットが必要です。
この接続状態は、バッテリー放電防止のために、バックアップ電源をキースイッチ「OFF」位置で切ってしまうためで、故障ではありません。

〈農繁期などで、コンバインを頻繁に使用するときの接続について(バックアップ電源「入」時)〉

1. 工場出荷時の接続（赤白とピンク）を外してください。
2. 赤黒（バックアップ電源用）とピンクを接続してください。

[参考]

この接続状態では、プリセットメモリーおよび時計表示は、キースイッチの「ON」「OFF」位置に関係なく作動します。

[重要]

赤黒とピンクを接続した状態では、長期間(1ヵ月以上)使用しないと、バッテリーが放電して使用できなくなることがあります。必ず赤黒(バックアップ電源用)を外し、工場出荷時の接続状態(赤白とピンク)に戻してください。

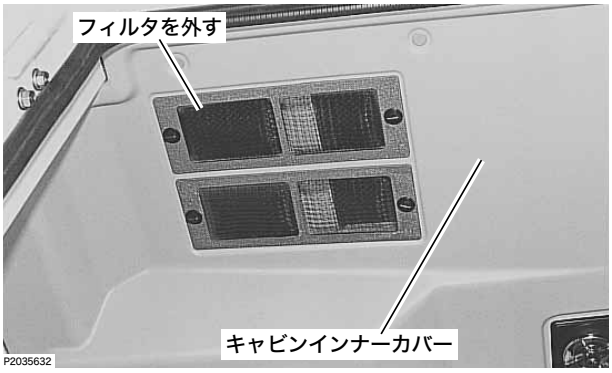


図 2-67 ハーネスの接続

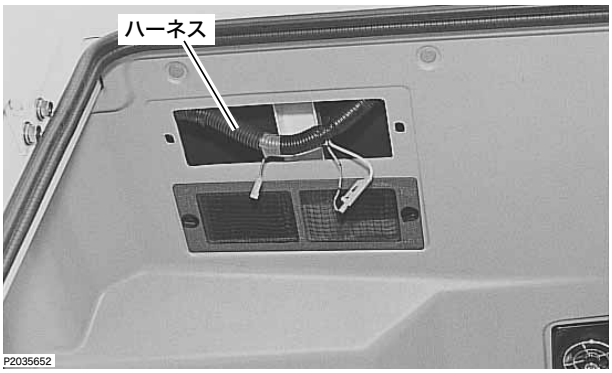


図 2-68 ハーネスの接続

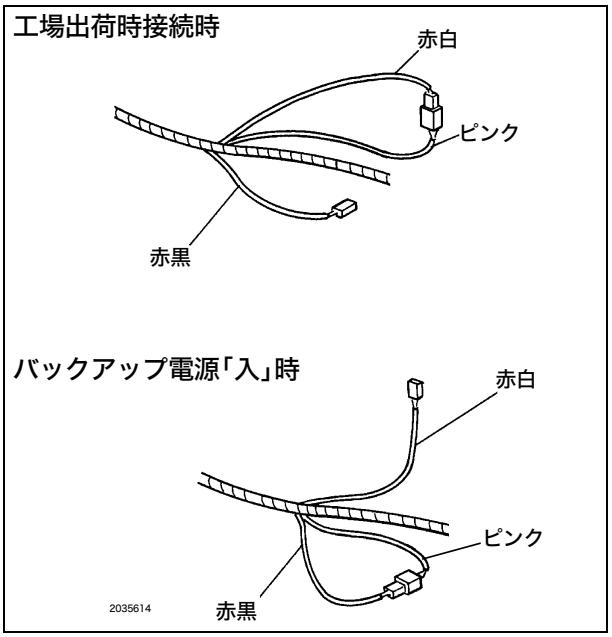


図 2-69 FM・AM付CDラジオ

ファンスイッチ

風量を調節するときに使用します。

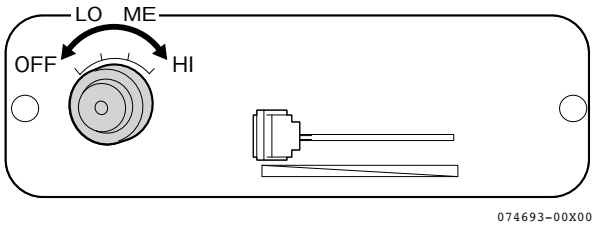


図 2-70 ファンスイッチ

風量を3段階に調節できます。
「OFF」位置…… ファン回転停止
「LO」 位置…… 弱風
「ME」 位置…… 弱風と強風の中間
「HI」 位置…… 強風

[参考]
エアコンスイッチを入れる前に、ファンスイッチを希望の風量位置にセットしておきます。

エアコンスイッチ

エアコンを「ON」「OFF」するときに使用します。

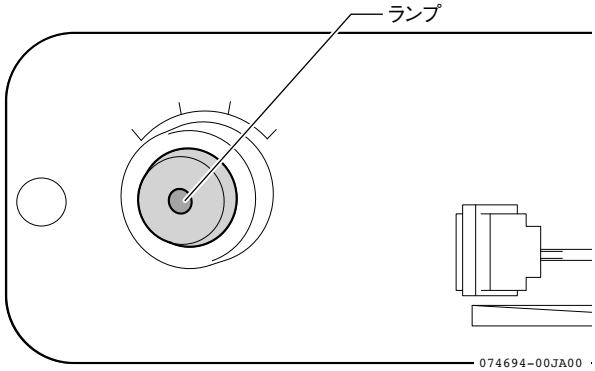


図 2-71 エアコンスイッチ

キースイッチが「ON」位置のとき
1回押す…… エアコン「ON」(ランプ点灯)
ランプ点灯時に押す…エアコン「OFF」(ランプ消灯)

[重要]

- エアコンスイッチは、コンプレッサなどに無理な力をかけないために、エンジンを始動してから「ON」(ランプ点灯)にしてください。
- エアコンスイッチ「ON」(ランプ点灯)の状態で、風が出ない、風力が弱い状態が続く、または冷房不良の場合は、エアコンスイッチを「OFF」(ランプ消灯)にしてください。異常な状態での連続運転は、ブロアモータやコンプレッサの損傷につながります。お買い上げいただいた特販店、またはJAで点検を受けてください。

[参考]

ファンスイッチが「OFF」位置のときは、エアコンスイッチを「ON」(ランプ点灯)にしてもエアコンは作動しません。

温度コントロールレバー

エアコンの風の温度を調節するときに使用します。

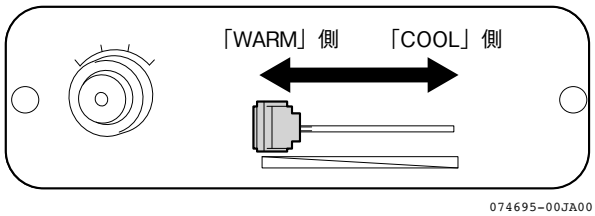


図 2-72 温度コントロールレバー

「WARM」側…近づけるほど風の温度は高くなります。
「COOL」側…近づけるほど風の温度は低くなります。

吹出口切替レバー

温風・冷風の吹出口を切り替えるときに使用します。

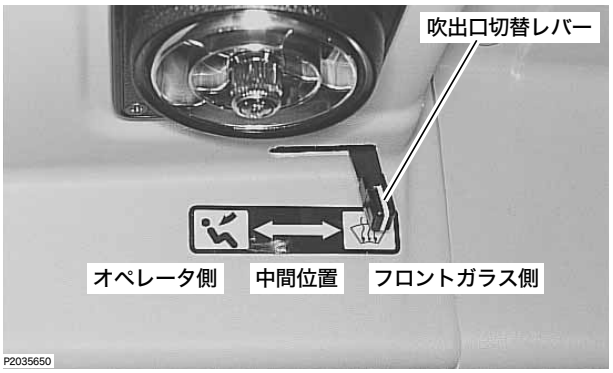


図 2-73 吹出口切替レバー

オペレータ側……オペレータ側に吹き出す
フロントガラス側……フロントガラスに向かって吹き出す
中間位置……オペレータ側・フロントガラス側からの吹き出し量が変わる

風向グリル

風量を変更するときに使用します。
風向グリルは、キャビン内の前方と後方にあります。

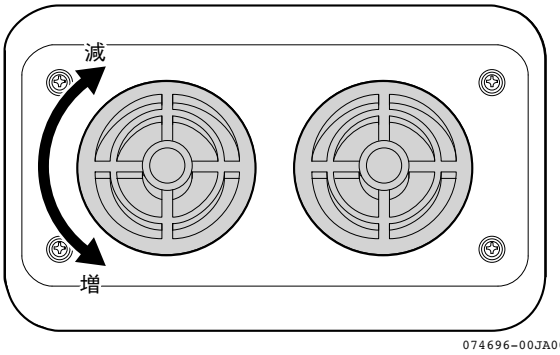


図 2-74 風向グリル

吹出口の風向グリルを矢印方向（右回転）に回転すると風量が少なくなり、反回転（左回転）にすると風量が多くなります。

サイドウインドウ

開閉することができます。

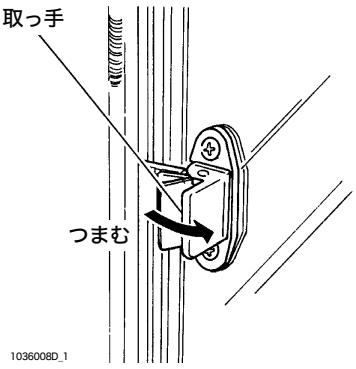


図 2-75 サイドウインドウ

〈開けかた〉
ウインドウの取っ手をつまんで横に引いてください。

〈閉めかた〉
ウインドウをいっぱいまで閉めると、自動的にロックされます。

リアウインドウ

開閉することができます。

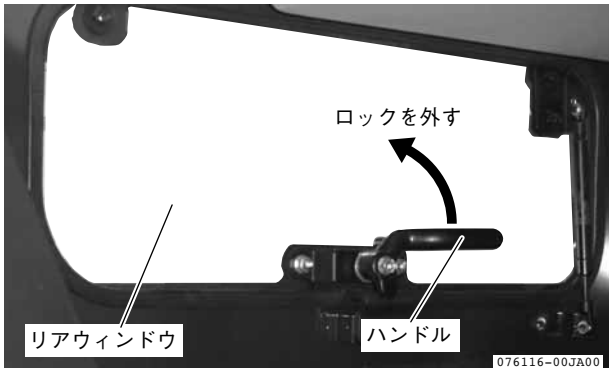


図 2-76 リアウインドウ

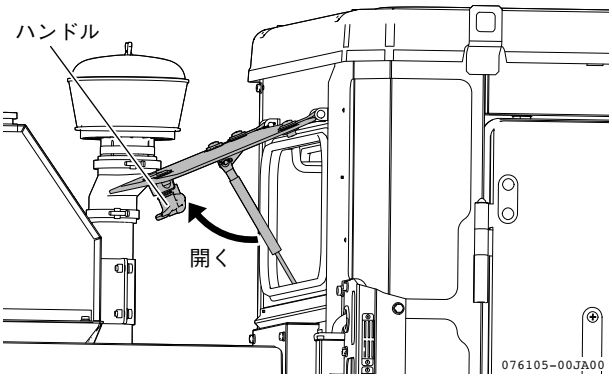


図 2-77 リアウインドウ

〈開けかた〉
ハンドルを回してロックを外し、そのまま外側に押してください。窓が自動的に開きます。

〈閉めかた〉
ハンドルを持って手前に引き寄せ、ハンドルを回してロックしてください。

シート位置の調節のしかた

⚠ 警　告

ドライバーシートの調節は､必ずコンバインが停止した状態で行ってください｡走行しながらの調節は傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ドライバーシートの上下・前後位置および前傾状態を、運転者の体格または作業状態に合わせて調節します。

前後調節のしかた

1. 前後調節レバーを矢印方向に引き上げます。（図 2-78）

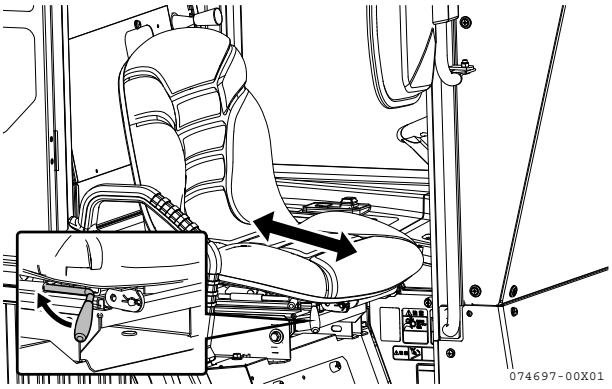


図 2-78 前後調節のしかた

2. ドライバーシートを作業しやすい位置に前後移動します｡前後調節レバーから手を離します。ドライバーシートが固定されます。

上下調節のしかた

⚠ 注　意

ドライバーシートの高さ調節をしたときには､ボルトM8(4本)を確実に締め付けて固定してください｡突然外れてけがをするおそれがあります。

つぎの要領は、下位置から上位置への調節のしかたです。上位置から下位置へ調節するときは、逆の手順で行います。

■ キャビンなし仕様

1. ボルトM8（1）（4本）を外します。（図 2-79）
2. ドライバーシート（2）のシートスライド部を持ちます。（図 2-79）
3. シートスライド部を上側の穴位置に合わせます。
4. ボルトM8（1）（4本）を締付けて固定します。

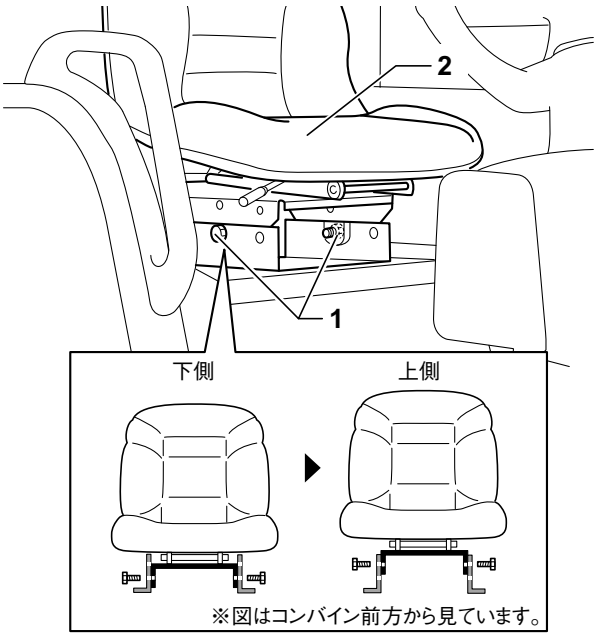


図 2-79 上下調節のしかた(キャビンなし仕様)

■ キャビン仕様

1. ボルトM8（1）（4本）を外します。(図 2-80)
2. ドライバーシート（2）のシートスライド部を持ちます。(図 2-80)
3. シートスライド部を上側の穴位置に合わせます。

[参考]

シートの高さは3段階に調節できます。

4. ボルトM8（1）（4本）を締付けて固定します。

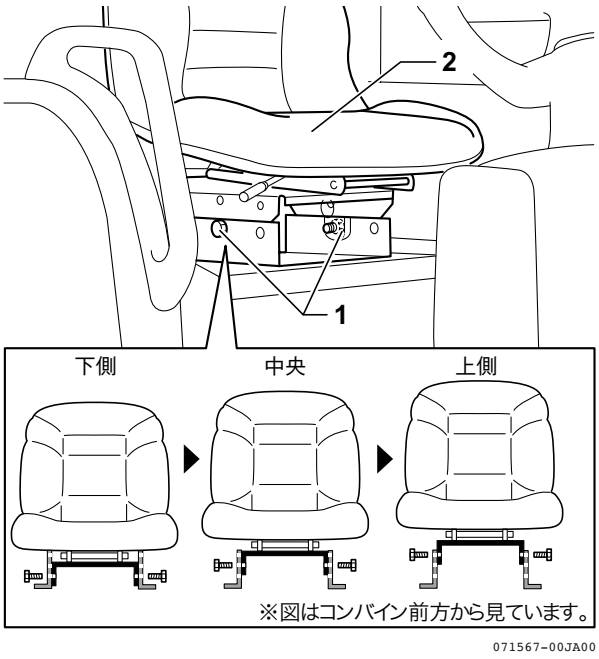


図 2-80 上下調節のしかた(キャビン仕様)

チルト調節のしかた

⚠ 注 意

前傾状態にするときは、チルトアームをいっぱいまで起こしてください。途中の位置でも止まりますが、シートが突然水平状態に戻り、けがをするおそれがあります。

1. ドライバーシートを前方に倒します。
2. チルトアーム（1）を出し入れして、ドライバーシートを水平状態・前傾状態と、作業しやすい角度に調節します。(図 2-81)（図 2-82)

■ シート水平状態

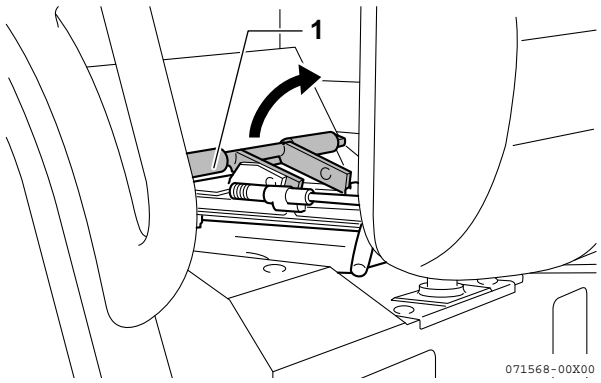


図 2-81 チルト調節のしかた

■ シート前傾状態

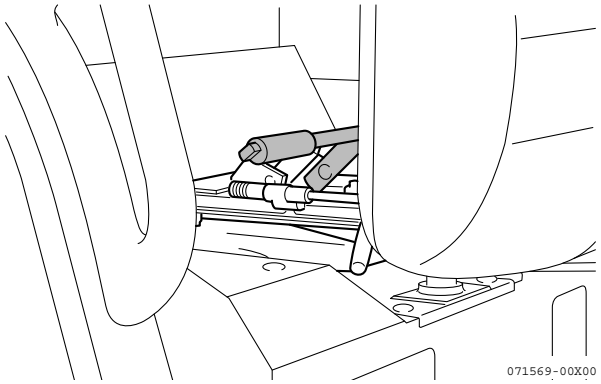


図 2-82 チルト調節のしかた

[参考]

チルトアームの調節は、シートを最後方位置にしてから調節してください。

チルトレバー

ステアリングハンドルの前後の角度を、調節するときに使用します。

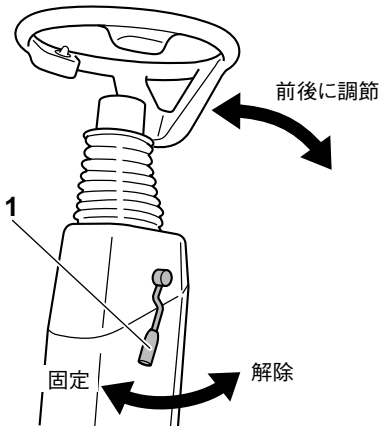


図 2-83 チルトレバー

「解除」方向……ハンドルの固定が解除される
「固定」方向……ハンドルが固定される

好みの角度に調節し、調節後は確実に固定してください。(91ページ参照)

エンジンルームロックレバー

エンジンルームの開閉に使用します。

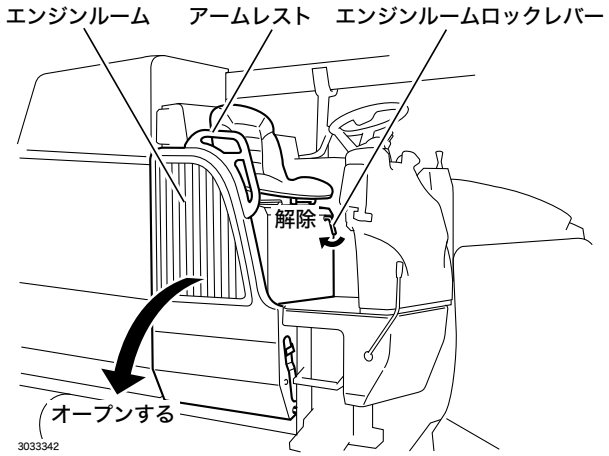


図 2-84 エンジンルームロックレバー
※図はキャビンなし仕様です

エンジンルームロックレバーの操作方法は 172 ページ参照してください。

刈取部ストッパレバー

刈取部とフィーダハウスの下降を、機械的に固定するときに使用します。

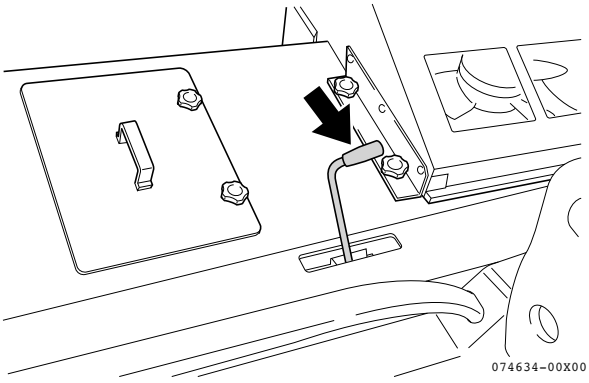


図 2-85 刈取部ストッパレバー

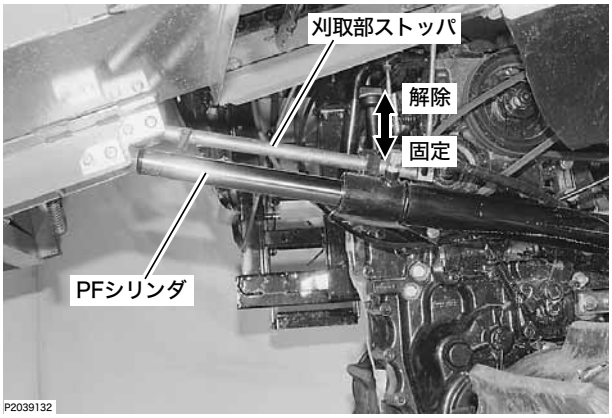


図 2-86 刈取部ストッパレバー

刈取部およびフィーダハウスの下で点検・整備するときには、刈取部ストッパを固定位置 (PFシリンダ) に掛けてください。(182ページ参照)

防塵ファン（キャビンなし仕様のみ）

オペレータを塵・ホコリから守るはたらきがあります。

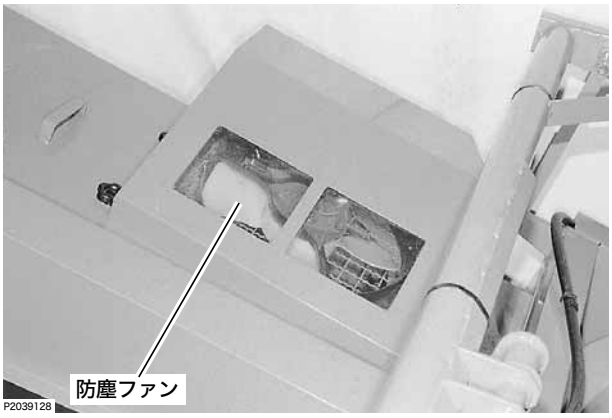


図 2-87 防塵ファン（キャビンなし仕様のみ）

キースイッチが「ON」位置のときに、刈取クラッチレバーを「ON」位置にすると、自動的に作動します。

[参考]

- 刈取部を、旋回などで刈取部高さ検出センサが作動する高さまで上げると、自動的に防塵ファンは停止します。
- 刈取クラッチレバーが「OFF」位置では、防塵ファンは作動しません。

乗降ステップ操作レバー

乗降ステップのセットおよび収納するときに使用します。

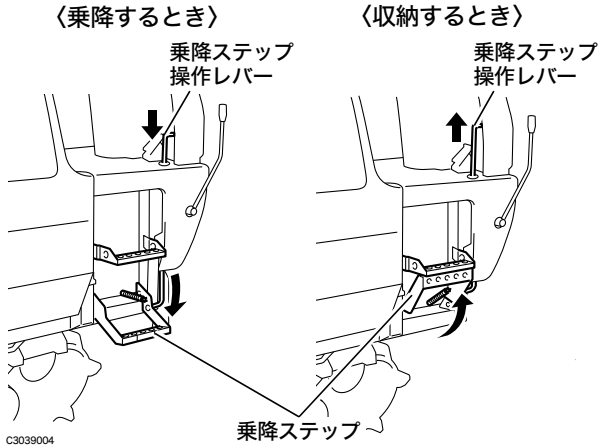


図 2-88 乗降ステップ操作レバー

ならし運転（最初の50時間）について

新車は、最初の50時間目までの取り扱いが寿命や性能に大きく影響します。この期間中は、特につぎのことを厳守してください。

- 急発進、急ブレーキは慎んでください。
- 必要以上の速度や負荷をかけないでください。
- 運転は、エンジンが十分に暖まってから行ってください。
- 悪路や傾斜地では、速度を落として、ゆっくり走行してください。
- 高速での刈取作業は避けてください。
- 最初の50時間目になったら、288ページの「主要消耗部品の点検・交換時期の目安表」に従って、各部の点検やオイル交換をしてください。

運転前の点検

⚠ 危　険

- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、注油・給油を絶対にしないでください。火災が起こり、ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。こぼれた燃料に引火して火災が起こり、ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油の漏れは厚紙や板などを使って点検し、高圧油に直接、手や体が触れないようにしてください。
  万一、触れた場合は、ただちに医者の診断を受けてください。油が皮膚に浸入した場合、強度のアレルギーを起こすおそれがあります。
- 点検・整備・調節を行うときは、平たんで安定した場所で行ってください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 運転・作業前の点検をするときは、点検者以外の人（特に子供）を近づけないでください。
- 運転・作業前の点検時に、エンジンを始動して行う場合は、閉めきった室内で行わないでください。
- コンバインは、常に掃除しておいてください。バッテリー、配線、排気フィルター周辺部、排出ガス出口、エンジンの周辺部にごみや燃料の付着があると火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料パイプが破損していると、燃料漏れを起こしますので、必ず点検してください。

⚠ 注　意

- 作業を行うときは、健康な状態で行ってください。過労・病気・薬物の影響、その他の理由で作業に集中できないときには、作業を行わないでください。特に、お酒を飲んで酔っている・妊娠している・18才未満の人は作業を行わないでください。

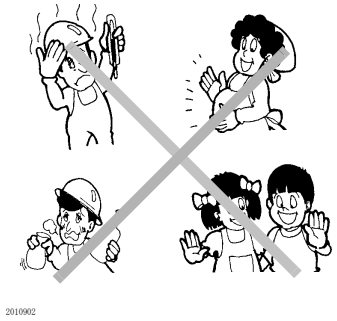


図 2-89

- 操作レバーや機械部品に引っかからない、だぶつきのない服装をしてください。
- 安全靴などの滑り止めの付いた靴を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- 作業によっては、保護メガネ・マスク・手袋などの保護具を必ず着用してください。
- タオルをはち巻き・首巻き・腰にはさんで作業を行わないでください。

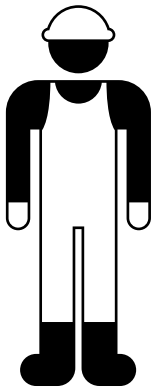


図 2-90

⚠ 注　意

- 点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてください。回転部に巻き込まれたり、けがをするおそれがあります。
- 点検・整備・調節を行うときは、排出ガス出口やエンジンなどの高温部分が十分に冷めてから行ってください。ヤケドやけがをするおそれがあります。
- 点検・整備・調節後は、外したすべてのカバー類は、元通りに取り付けてください。外した状態で運転すると、コンバインに巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

点検のしかた

運転・作業を行う前の点検は、次の順序で行ってください。

点検順序	点検箇所	参照ページ
前日の異常箇所	●前日の作業中に異常を感じたところはありませんか	264〜270
コンバインの周りを回ってみて  1039507D	●各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか	
	●燃料の量と燃料もれはありませんか	215・231
	●クローラの損傷・ゆるみはありませんか	257
	●各部注油箇所の油切れはありませんか	195〜198
	●各部ベルト・チェンのゆるみや折損はありませんか	242〜256
エンジンルームを開けてみて	●エンジンオイルの量と汚れ、油もれはありませんか	204〜206
	●燃料の量と燃料もれ、水もれ、オイルもれはありませんか	203・209・215
	●冷却水の量と水もれ、ホースの損傷はありませんか	209
	●エアクリーナー・プレクリーナーの汚れはありませんか	223・224
	●冷却ファンベルトの張りと損傷はありませんか	250
	●エンジン防塵装置のほこりやごみはありませんか	184〜194
	●配線コードの被覆のはがれや、接続部のゆるみはありませんか	232
ドライバーシートに座ってみて	●ランプ・メータ・スイッチの作動状態は正常ですか	66
	●ドライバーシートの状態は、体格に合っていますか	83
	●ステアリングハンドルが、チルト機構により固定されていますか、また作業に適正な位置になっていますか	85
エンジンを始動してみて	●エンジン始動後に異音はありませんか	
	●排出ガスの色は正常ですか	259
	●各レバー・スイッチの作動状態は正常ですか	
	●セフティペダルの作動具合は正常ですか	64
	●ステアリングハンドルで、コンバインの旋回が行なえますか	98
	●刈高さ・リール前後スイッチ、または刈高さ調整レバーで刈取部の昇降が行えますか	59・62
	●リール昇降・リール速度スイッチ、リール前後・リール速度スイッチで、リールの作動が行えますか	60
	●リール高さ調整レバーで、リールの昇降が行えますか	62
	●脱こくクラッチレバーで、脱こく部の作動・停止が行えますか	59
	●刈取クラッチレバーで、刈取部の作動・停止が行えますか	59
オプションについて	●それぞれの取扱説明書に従って点検してください	

運転前の準備

⚠ 警　告

取扱説明書および安全銘板の内容が理解できない人や子供は運転しないでください。また、作業前には、必ず取扱説明書および安全銘板をよく読み、内容を理解してから作業してください。誤作動などにより、コンバインが破損し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

コンバインへの乗降のしかた

⚠ 注　意

コンバインへの飛び乗り、飛び降りは、あぶないので行わないでください。乗降するときは、必ずつぎの手順に従って乗降してください。

乗降のしかた

運転席右側より乗降してください。
乗り降りのときには、必ず乗降ステップを下図のようにセットしてください。（図 2-91）（図 2-92）



図 2-91

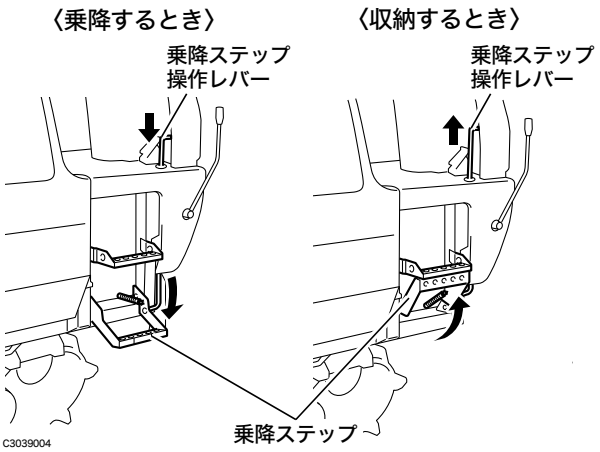


図 2-92

[重要]

- 移動走行するときやコンクリート畦畔などの横で作業するときは、ステップを収納してください。ステップの破損・変形を防ぐことができます。
- 乗降ステップ操作レバーを操作すると、ステップが飛び出しますので注意してください。

ステアリングハンドルの前後調節のしかた

⚠ 警　告

コステアリングハンドルの調節は、必ずコンバインが停止した状態で行ってください。走行しながらの調節は傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ステアリングハンドルの前後角度を、運転者の体格に合わせて調節してください。

調節のしかた

1. チルトレバー(1)を「解除」位置にしてください。ハンドルの固定がゆるみます。
2. ステアリングハンドルの前後の角度を、作業しやすい位置に調節してください。
3. チルトレバーを「固定」位置にしてください。ハンドルが固定されます。(図 2-93)

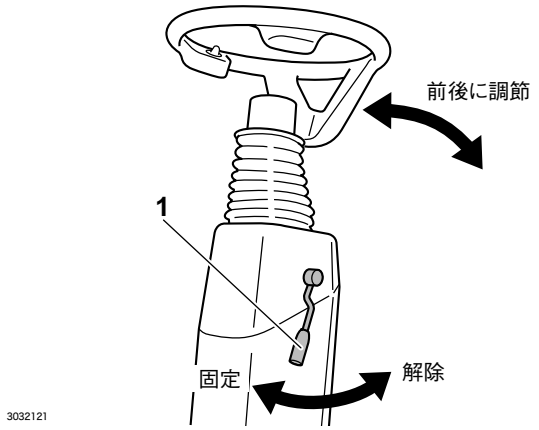


図 2-93

[重要]

ステアリングハンドルを調節したときは、チルトレバーで確実にハンドルを固定してください。

エンジンの始動と停止

始動のしかた

⚠ 警　告

- エンジンの始動および暖機運転は、閉めきった屋内で行わないでください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- エンジンを始動するときは、つぎのことを必ず守ってください。急にコンバインが動き出して、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
  - ・ 平たんな場所で運転席に座ってください。
  - ・ 駐車ブレーキがかかっているか確認してください。
- エンジンを始動する前に、運転前・作業前の点検を行ってください。点検せずにエンジンを始動すると、整備不良により、コンバインが故障し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- コンバインを使う前と後には、87ページの「点検」に従って必ず点検・整備をしてください。特に、セフティペダル・レバーやスイッチなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備をしてください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- エンジン始動時、異常がないか確認してください。異音や異常な振動がある場合は、ただちにエンジンを停止して点検・整備してください。それでも異常が改善されない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

⚠ 注　意

- エンジン始動時は、必ず運転席に座って周囲の安全を確認し、主変速レバーが「N」(中立)位置にあること、各作業クラッチが「OFF」位置にあることを確認してください。急にコンバインが動き出して、けがをするおそれがあります。
- 周囲の安全を確認し、エンジン始動前にホーンを鳴らして発進の合図をしてください。

エンジン始動前の確認･準備

1. グレンタンク仕様の場合は、グレンタンクをオープン（174ページ参照）します。ワンマンホッパワンマンホッパ仕様の場合は、ワンマンホッパをオープンして（176ページ参照）、脱こく右カバーとエンジン後カバーを取り外します。
2. ウォーターセパレータ(1)のコック(2)を「ON」(開)位置にします。（図 2-94）

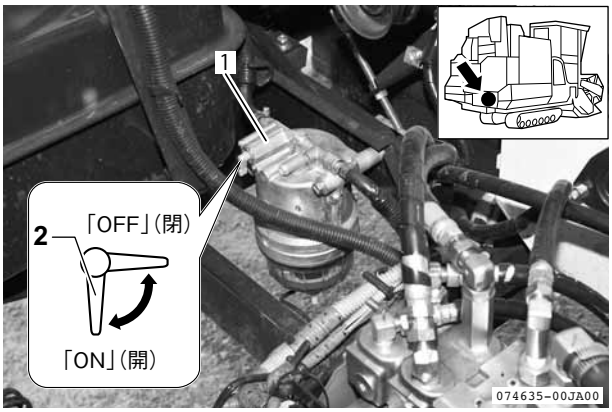


図 2-94

3. 取り外した部品を取り付け、グレンタンク仕様の場合はグレンタンクを、ワンマンホッパ仕様の場合はワンマンホッパを、オープンの逆の手順で閉じます。
4. ドライバーシートに座ります。
5. 主変速レバー (1)を「N」（中立）位置(2)にします。（図 2-95）

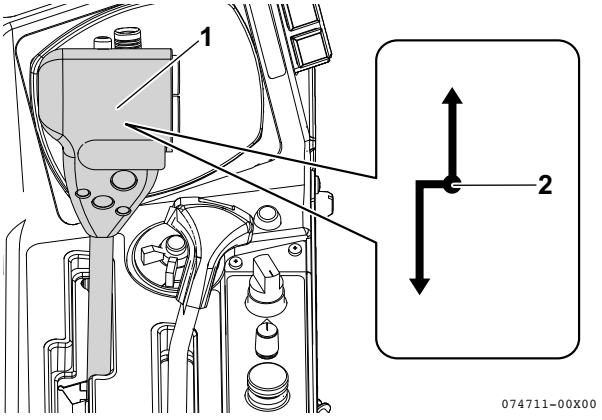


図 2-95

6. 脱こくクラッチレバー (1)　と、刈取クラッチレバー (2)を「OFF」位置(3)にしてください。（図 2-96）

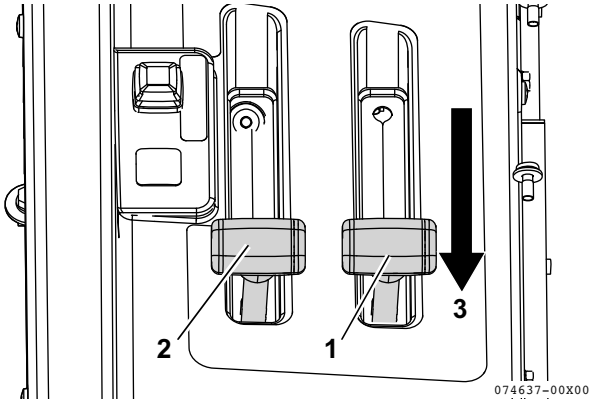


図 2-96

7. Eモードスイッチ (1) を「OFF」位置にしてください。（図 2-97）

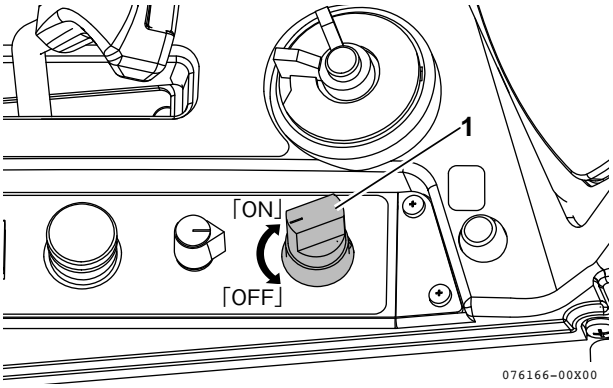


図 2-97

[参考]

Eモードスイッチが「ON」位置でもエンジンの始動はできますが、アクセルダイヤルでエンジン回転の調節ができなくなりますので、「OFF」位置にしておいてください。

エンジン始動操作のしかた

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。
2. キースイッチにキーを差し込んで、「ON」位置にしてください。(図 2-98)

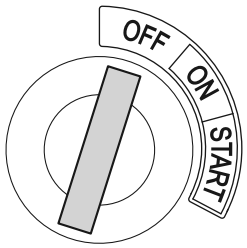


図 2-98

3. Eモードスイッチ(2)を「OFF」位置にして、アクセルダイヤル(1)を「🐢」位置にしてください。(図 2-99)

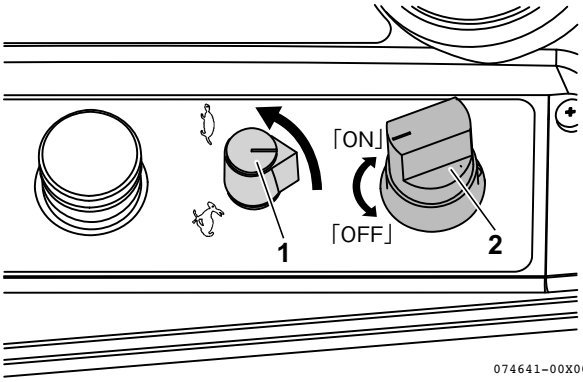


図 2-99

[参考]

Eモードスイッチが「ON」位置でもエンジンの始動はできますが、アクセルダイヤルでエンジン回転の調節ができなくなりますので、「OFF」位置にしておいてください。

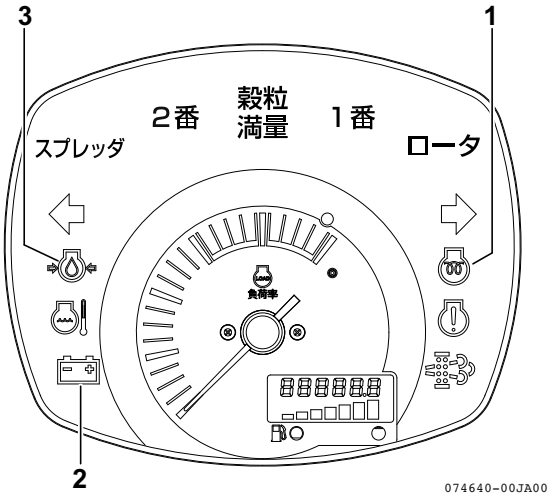


図 2-100

[参考]

- エアヒータに通電しているときは、コンビネーションメータのヒータパイロットランプが点灯します。
- このとき、コンビネーションメータの各ランプは、数秒間点灯してから消灯しますが、チャージパイロットランプと油圧パイロットランプは、エンジンが始動しないと消えません。(図 2-100)

4. セフティペダルをいっぱいに踏み込んで、キースイッチを「START」位置に回してください。(図 2-101)

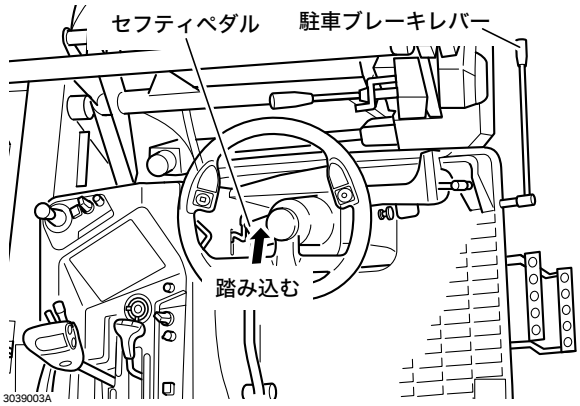


図 2-101

[重要]

- セフティペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンの始動ができません。
- セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。
  10秒以内で始動しなかった場合は、いったんキースイッチを「OFF」位置にして、1 分以上経ってから、再び始動してください。
- 脱こくクラッチレバー、および刈取クラッチレバーが「ON」位置では、エンジンの始動ができません。必ず脱こくクラッチレバー、および刈取クラッチレバーを「OFF」位置にしてから、エンジンを始動してください。

5. エンジンが始動したら、速やかにキースイッチから手を離してください。キースイッチは、自動的に「ON」位置に戻ります。

[重要]

エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「START」位置にしないでください。セルモータが破損することがあります。

寒冷時の始動のしかた

始動方法は、前述の「エンジン始動操作のしかた」と同じですが、キースイッチを「ON」位置にすると、ヒータパイロットランプ(1)が点灯し、エアヒータ通電中を表示します。ヒータパイロットランプが消灯してから、キースイッチを「START」位置にしてください。(図 2-102)

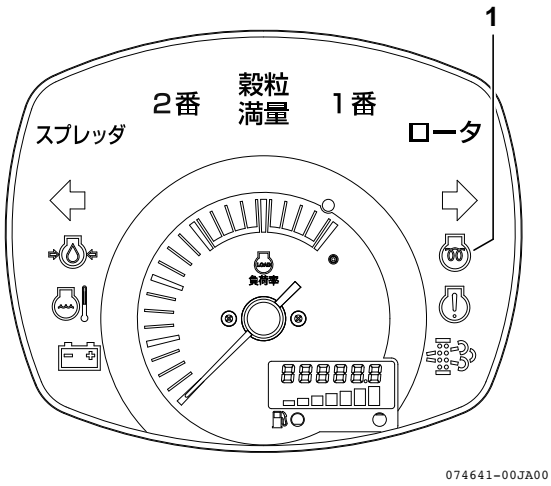


図 2-102

[参考]

エンジンを始動した後は、暖機運転（15分以上）を行ってください。

暖機運転のしかた

⚠ 警　告

倉庫や車庫など、閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。
エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむを得ず屋内で始動するときは、十分に換気をしてください。
守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

1. エンジン始動後、駐車ブレーキをかけてください。（100ページ参照）
2. Eモードスイッチ(2)を「OFF」位置にして、アクセルダイヤル(1)を「🐢」位置にしてください。エンジン回転が下がります。（図 2-103）

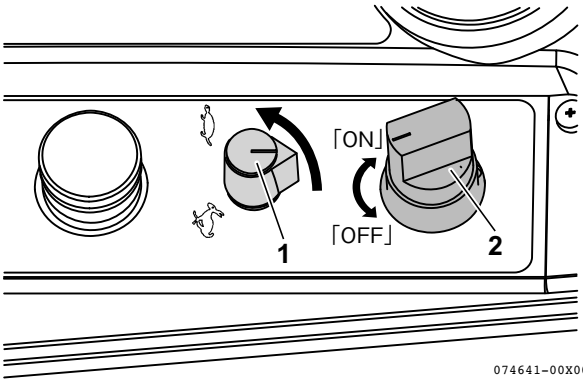


図 2-103

3. 約5分間は作業をせずに、エンジンをかけたままにしておいてください。

[参考]

- 寒冷時は、暖機運転を15分以上行ってください。
- 寒冷時には、エンジンアイドリング回転数が少し上がります。

エンジンの停止のしかた

1. 主変速レバーを「N」（中立）位置にしてください。（図 2-104）

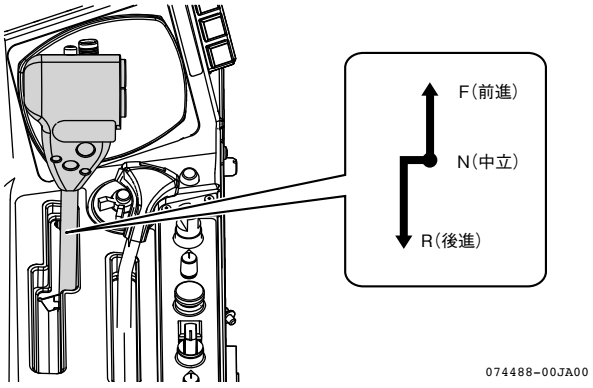


図 2-104

2. Eモードスイッチ(2)を「OFF」位置にして、アクセルダイヤルを「🐢」位置にしてください。エンジン回転が下がります。（図 2-105）

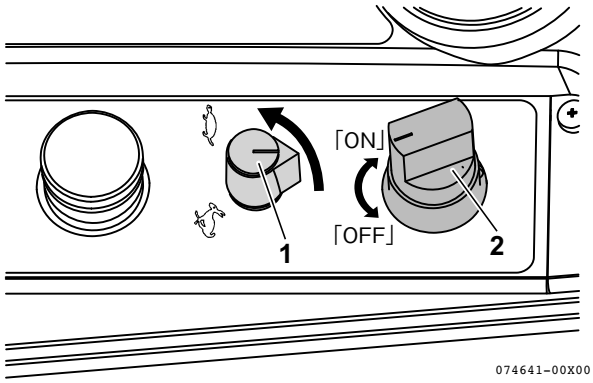


図 2-105

3. キースイッチを「OFF」位置にしてください。エンジンが停止します。
4. キーを抜いてください。

[重要]

主変速レバーが「N」(中立)位置でないときは、キースイッチを「OFF」位置にしないでください。
エンジンの再始動が行いにくくなることがあります。

発進のしかた

⚠ 警　告

- できるだけ低速で走行し、急発進・急旋回・急停止は絶対にさけてください。
- 坂道や凹凸、カーブの多い道路では、高速運転しないでください。

発進前の準備

1. セフティペダルをいっぱいまで踏み込みます。（101ページ参照）
2. エンジンを始動してください。（91ページ参照）
3. Eモードスイッチを「OFF」位置にして、アクセルダイヤル(1)を「🐇」位置にしてください。エンジン回転が上がります。（図 2-106）

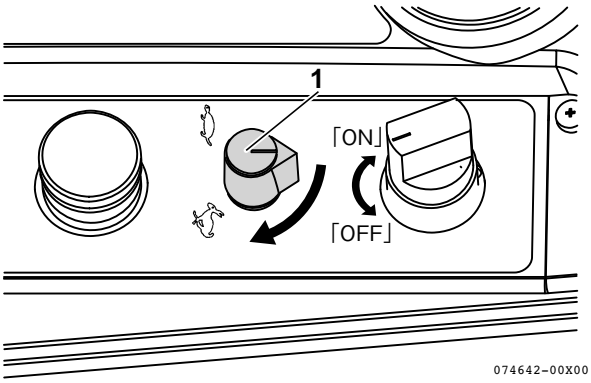


図 2-106

[参考]

コンビネーションメータは、回転計ではないため、エンジン回転を上げてもメータの針（1）はほとんど動きません。
エンジン回転速度が知りたい場合は、液晶モニターをエンジン回転表示（2）にしてください。
（図 2-107）（67ページ参照）

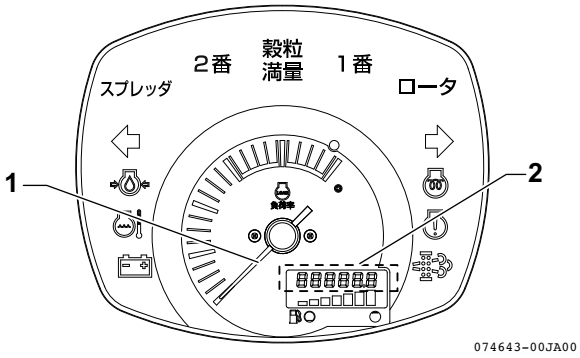


図 2-107

4. 刈高さ・リール前後スイッチ(1)を「上」側、または刈高さ調節レバー (2)を「上昇」側にしてください。刈取部が上昇します。（図 2-108）

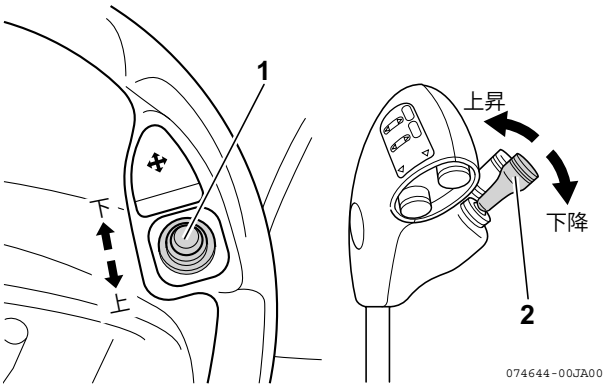


図 2-108

5. リール高さ調節レバー (1)を「下降」側にしてください。リールが下降します。（図 2-109）

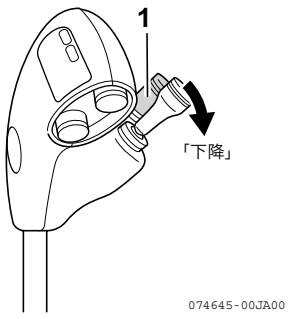


図 2-109

6. 副変速レバーを希望の位置にしてください。
（63ページ参照）（図 2-110）

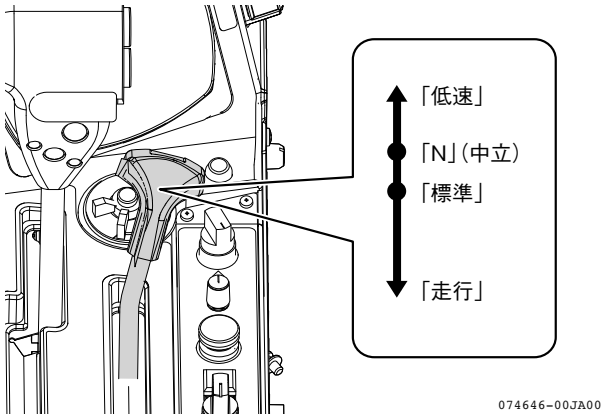


図 2-110

「低速」位置……半倒伏や悪条件作物
「標準」位置……標準的な刈取作業
「走行」位置……移動走行
「N」（中立）位置……走行しない

発進操作のしかた

1. 駐車ブレーキを解除してください。
（101ページ参照）
2. ステアリングハンドルを右手で持ってください。
3. 左手で主変速レバーをゆっくり前方へ倒してください。コンバインが発進します。（図 2-111）
   1）周囲の安全を十分に確認する。
   2）主変速レバーをゆっくり前方に倒して発進する。
   3）発進後、必要に応じて主変速レバーをさらに前方へ倒してスピードを上げる。

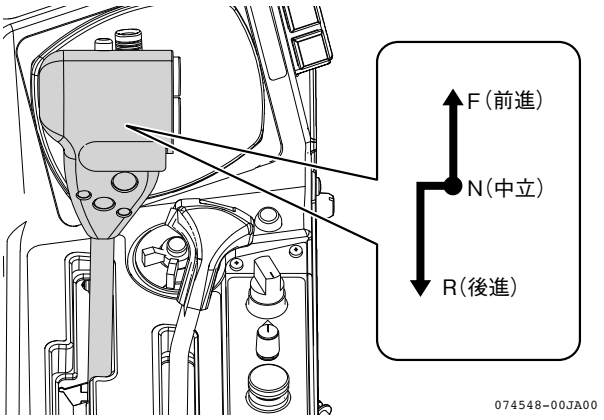


図 2-111

[重要]

- 主変速レバーは、セフティペダルを踏まずに操作してください。セフティペダルを踏むと、主変速レバーが「N」（中立）位置で固定されます。（セフティペダルを踏んだ状態では変速できません。）
- 主変速レバーを「F」（前進）から「R」（後進）、または「R」（後進）から「F」（前進）に操作する場合は、必ずコンバインが完全に停止してから行ってください。動いているときに行うと、コンバインが破損することがあります。

変速のしかた

⚠ 警　告

坂道では、副変速を操作しないでください。コンバインが不意に動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]

副変速レバーを操作する場合は、必ずコンバインが完全に停止してから行ってください。動いているときに行うと、コンバインが破損することがあります。

1. 主変速レバーを「N」（中立）位置にします。コンバインが停止したことを確認します。
(図 2-112)

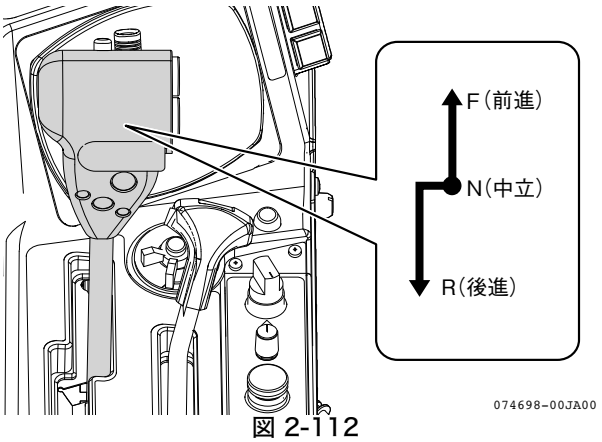


図 2-112

2. 副変速レバーを希望の位置にします。
(図 2-113)

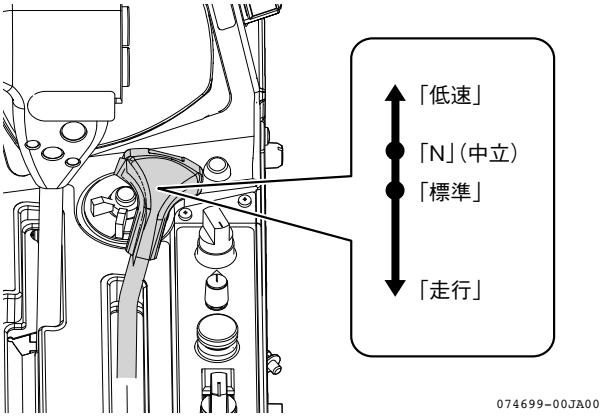


図 2-113

旋回のしかた

⚠ 警　告

副変速レバーが「走行」位置での高速移動時は、急旋回しないでください。必ず速度を落として行ってください。守らないと、接触・転倒事故のおそれがあります。

1. 主変速レバーで走行スピードを下げてください。
(図 2-114)

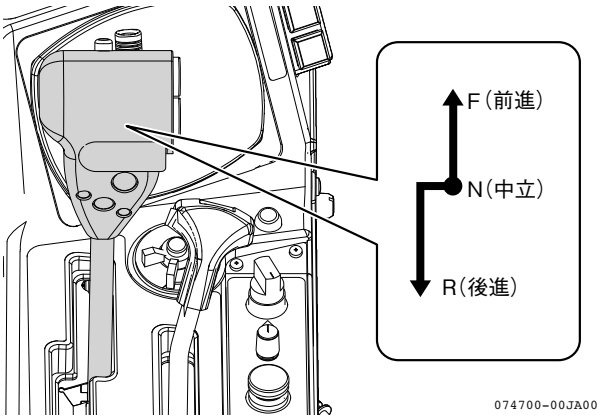


図 2-114

2. 旋回したい方向へステアリングハンドルを回すと、その方向へコンバインが旋回します。
(図 2-115)

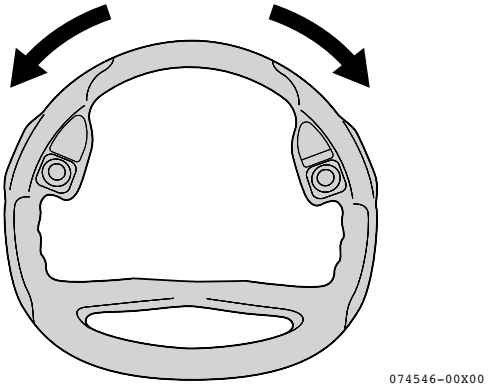


図 2-115

ステアリングハンドルの操作量と旋回角度について

ハンドルの操作量によって、旋回角度の調節ができます。ハンドルを回した側のクローラが徐々に減速され、約1/4回転（約90°）で、クローラの速度がゼロになり、ブレーキターンの状態になります。
さらにハンドルを回すと、徐々にクローラが逆転し始め、約 135° でスピンターンの状態になります。(図 2-116)

〈ハンドル切角と旋回状態〉

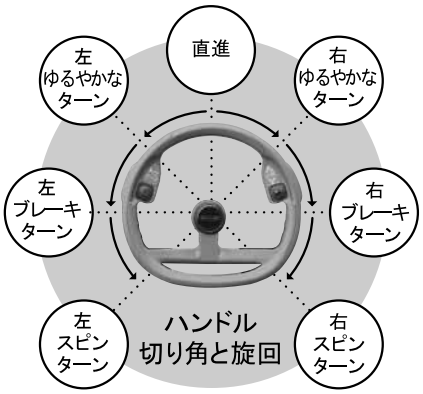


図 2-116

〈旋回モードの切り替えについて〉
旋回モード切替ノブ(1)で、旋回モードを切り替えることができます。(図 2-117)
「標準モード」位置……乾田作業・移動走行時
「湿田モード」位置……湿田作業時

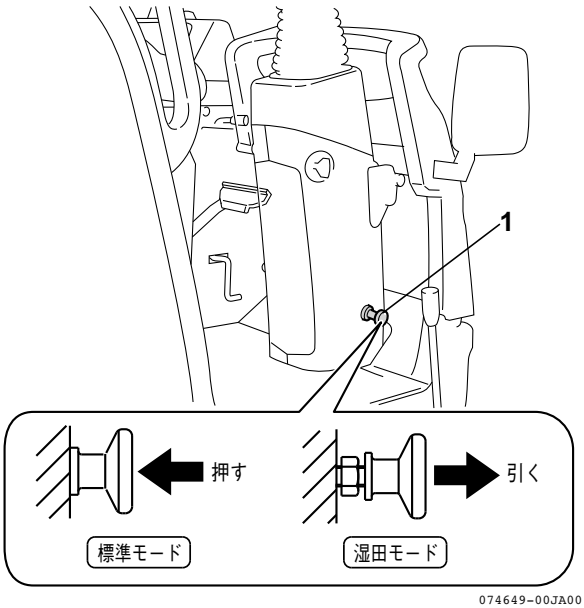


図 2-117

[参考]
「標準モード」でも十分に作業は可能ですが、コンバインの沈下が著しい場合は、「湿田モード」に切り替えると、さらに湿田性能が向上します。

停車のしかた

1. 主変速レバー (1)を「N」(中立) 位置にしてください。コンバインが停止したことを確認してください。(図 2-118)

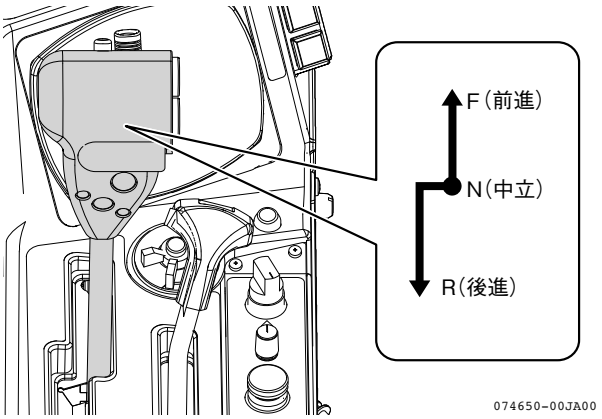


図 2-118

2. 駐車ブレーキをかけてください。
(100ページ参照)
3. アクセルダイヤルを「🐢」位置にしてください。エンジン回転が下がります。(図 2-119)

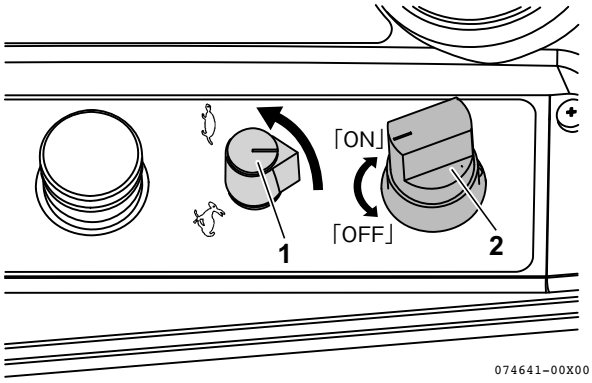


図 2-119

4. キースイッチを「OFF」位置にしてください。エンジンが停止します。

駐車のしかた

⚠ 警 告

- 駐車するときは、平たんで安定した場所に止め、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてクローラに車止めをしてください。
- 主変速レバーが「N」(中立)位置になっていることを確認してください。コンバインから離れるときは、必ずキーを抜いてください。コンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 坂道の途中では駐車しないでください。

〈駐車ブレーキのかけかた〉

1. 平たんで安全な場所にコンバインを移動してください。
2. 刈高さ・リール前後スイッチ(1)を「下」側、または刈高さ調節レバー (2)を「下降」側にしてください。刈取部を地面に接地させます。
(図 2-120)

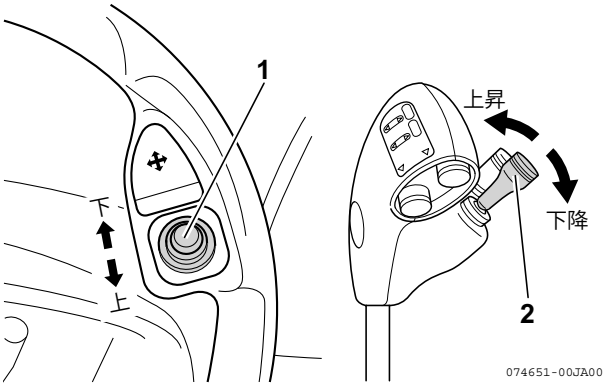


図 2-120

3. リール高さ調節レバー (1)を「下降」側にしてください。リールが下降します。(図 2-121)

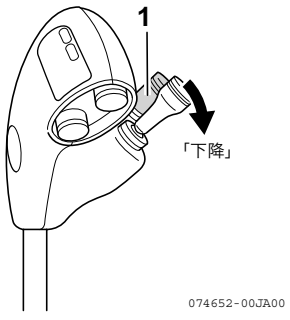


図 2-121

4. エンジンを停止してください。(95ページ参照)
5. セフティペダルをいっぱいに踏み込んでください。(図 2-122)

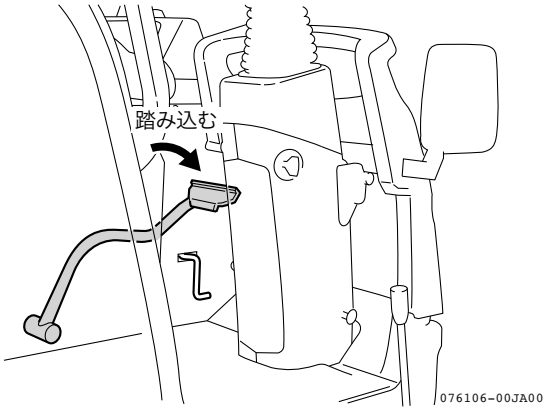


図 2-122

[参考]
セフティペダルをいっぱいまで踏み込むと、主変速レバーは「N」(中立) 位置に戻ります。

6. 駐車ブレーキロックレバー (1) を手前に引いて、セフティペダル(2)にフック部(3)をかけると、駐車ブレーキがかかります。(図 2-123)

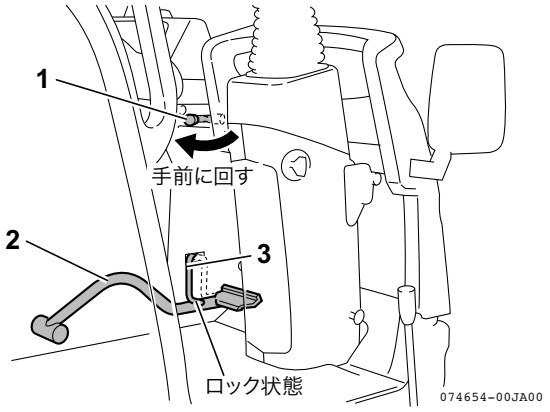


図 2-123

7. キャビンなし仕様の場合は、コンバインから降りて行うこともできます。駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にしてください。駐車ブレーキがかかります。(図 2-124)

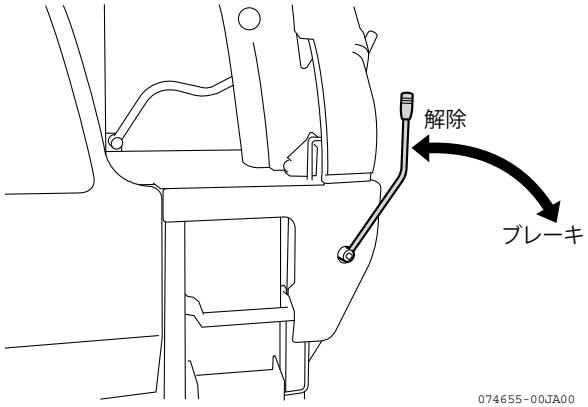


図 2-124

8. 運転席から離れる場合は、安全のためにキーを抜いてください。

[参考]
駐車ブレーキレバーをかけると、主変速レバーは「N」(中立) 位置に戻ります。

駐車ブレーキの解除のしかた

1. 駐車ブレーキを解除するときは、セフティペダルをいっぱいに踏み込んでください。駐車ブレーキロックレバーが前方に戻り、フック部が外れて解除できます。
2. 駐車ブレーキレバーで駐車ブレーキをかけている場合は、駐車ブレーキレバーを「解除」位置にしてください。(キャビンなし仕様のみ)

[参考]
セフティペダルがフック部で固定されている場合は、駐車ブレーキレバーを「解除」位置にしても、駐車ブレーキは解除できません。前記 1. の要領でセフティペダルを解除してください。

移動走行のしかた

⚠ 危　険

- グレンタンクおよびワンマンホッパ内にこく粒が入っていると、本機の重心が高くなり、転倒のおそれがあり大変危険です。必ずタンクは空にしてください。
- 排出コンベアは必ず、コンベアレストに収納してください。排出コンベア取付部が破損したり、当たってけがをするおそれがあります。

⚠ 警　告

- 発進するときは、周囲の安全を確かめて発進してください。
- 運転者の他に、人を乗せないようにしてください。
- 前後・左右とも10度を越える傾斜地は走行しないでください。転倒・けがをするおそれがあります。
- キャビン仕様の場合は、コンバインの左右の傾きが14度以上になると、警報ブザー（連続音）でお知らせします。警報ブザーが鳴ったときは、それ以上コンバインを傾けず、10度以下に戻してください。転倒事故につながります。
- 安全のために、ヘルメットを着用してください。
- 移動走行時は、路肩に十分注意して、スピードを落として走行してください。

⚠ 注　意

- デバイダヘッドを外して、補助こく粒受台（ワンマンホッパ仕様）を収納してください。破損したり、当たってけがをするおそれがあります。
- 傾斜地の走行、および積み・降ろしをするときは、水平自動切替スイッチを必ず「切」（水平自動ランプ消灯）にしてください。コンバインが急に傾いて転倒し、けがをするおそれがあります。
- 車高調節レバーで、車高を最も低い位置にセットしてください。車高が高いと、コンバインの重心が高くなり、転倒し、けがをするおそれがあります。
- 移動時は、刈取部の高さを地面より20cm程度上げてください。
- 移動走行するときは、旋回モード切替ノブを「標準モード」に切り替えてください。守らないと、旋回時に自動減速しないため、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]

移動走行するときは、乗降ステップを収納してください。ステップの破損・変形を防ぐことができます。

本機の走行姿勢について

1. 左右のデバイダヘッドを、M8ボルト（2本）を外して取り外してください。(図 2-125)

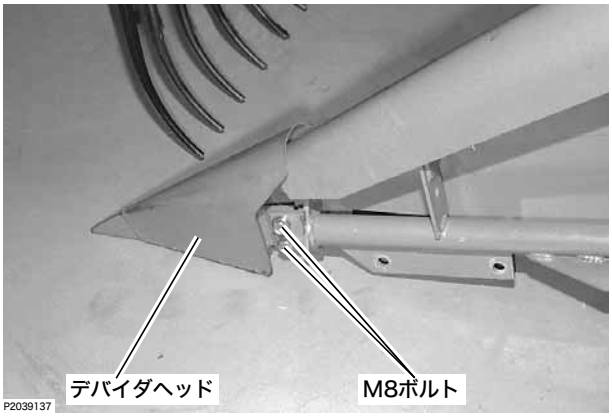


図 2-125

2. ワンマンホッパ仕様の場合は、補助こく粒受台を収納してください。(177ページ参照) (図 2-126)

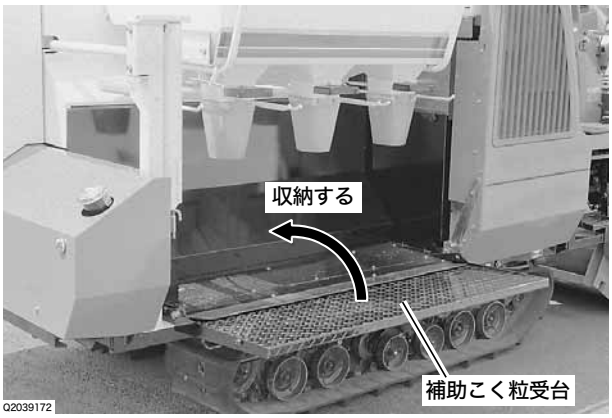


図 2-126

3. グレンタンクおよびワンマンホッパ内のこく粒を全て排出してください。(161ページ参照)
4. グレンタンク、およびワンマンホッパは、収納してください。(174・176ページ参照)
5. 排出コンベアを、コンベアレストに収納してください。(図 2-127)

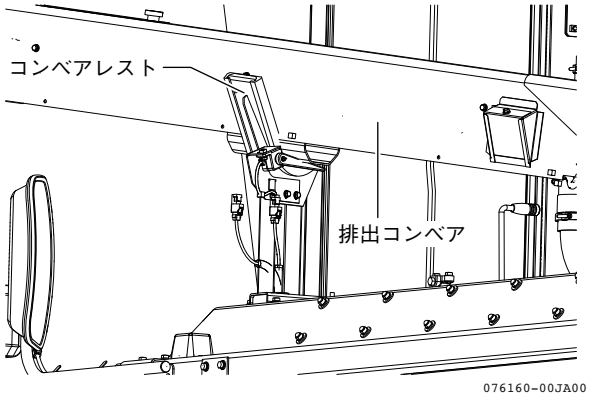


図 2-127

[参考]

排出コンベアが収納されていない状態で走行を開始すると、警報ブザーが鳴ります。主変速レバーを「N」(中立) 位置にしてコンバインを停止させるとブザーが止まります。ブザー停止スイッチでも警報を停止させることができますが、コンバインが動くと再度ブザーが鳴りますので、ブザーが鳴ったらコンバインを停止させて排出コンベアを収納してください。

6. Eモードスイッチ(1)を「OFF」位置にしてください。(図 2-128)

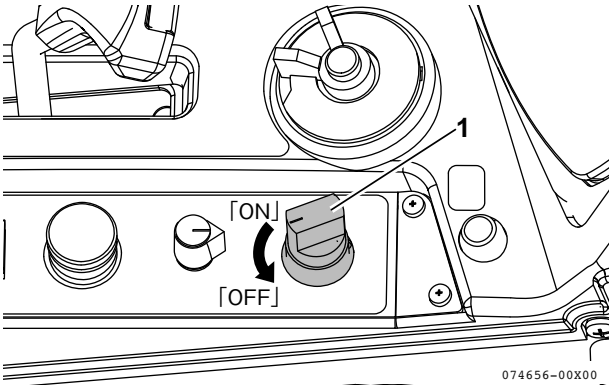


図 2-128

[参考]

Eモードスイッチが「ON」位置のときに、主変速レバーを操作すると、エンジン回転が急に上がり、アクセルダイヤルでエンジン回転の調節はできません。

7. 旋回モード切替ノブを「標準モード」にしてください。(図 2-129)

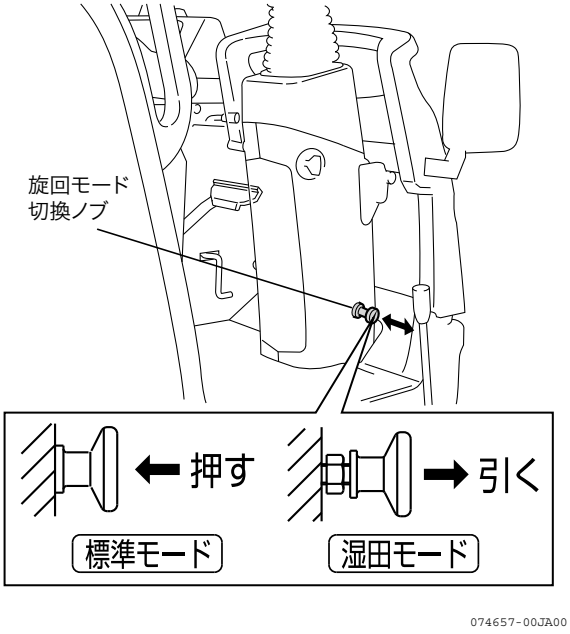


図 2-129

8. 刈高さ切換レバーを「収納」位置にしてください。センサソリが収納されます。(図 2-130)

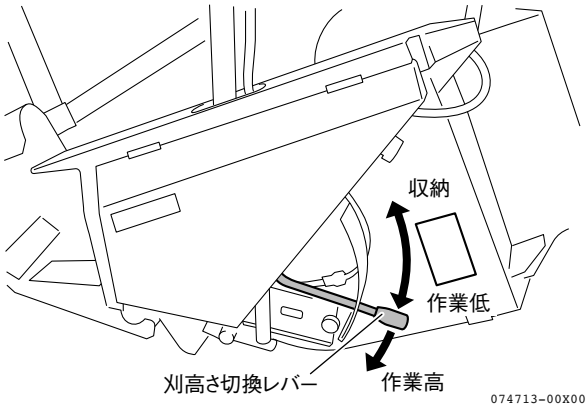


図 2-130

[重要]

2mヘッダーを装着している場合は、移動走行時および輸送時は必ず排出コンベア収納位置と排出コンベアセンサーを出荷状態に戻して走行してください。刈取作業後に戻さずに走行すると排出コンベア先がコンバイン最外側となって、事故につながる危険性があります。またこのときリールストップバルブを閉めて走行・輸送してください。守らないとリールを最上げにしたときに排出コンベア先端とリールが干渉するおそれがあります。

〈排出コンベア収納位置調節のしかた〉

⇒124ページ参照

〈排出コンベア収納位置センサー調節のしかた〉

⇒125ページ参照

〈リールストッパ(リール固定)のセットのしかた〉

⇒183ページ参照

移動走行操作のしかた

1. 乗降ステップを収納してください。
   (90ページ参照)
2. エンジンを始動してください。
   (93ページ参照)
3. 駐車ブレーキを解除してください。
   (101ページ参照)
4. アクセルダイヤル(1)を「 」位置にしてください。エンジン回転が上がります。(図 2-131)

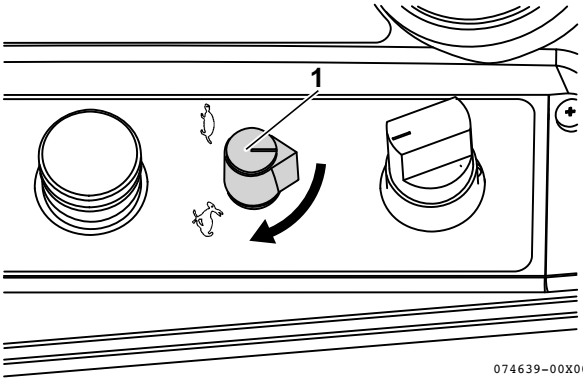


図 2-131

5. 刈高さ・リール前後スイッチ(1)を「上」側、または刈高さ調節レバー (2) を「上昇」側にして、刈取部を地面から 20cm 程度上げてください。(図 2-132)

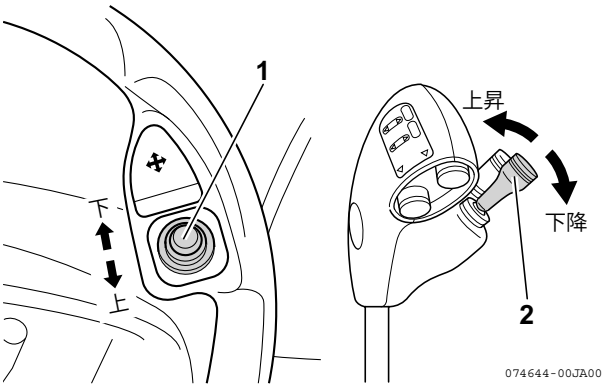


図 2-132

6. リール高さ調節レバー (1)を「下降」側にしてください。リールが下降します。(図 2-133)

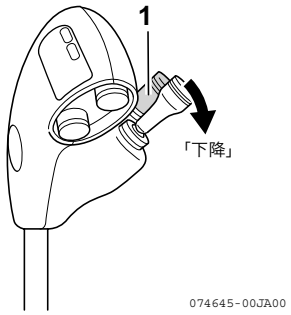


図 2-133

7. 主変速レバーを「N」(中立) 位置にします。
   (図 2-134)

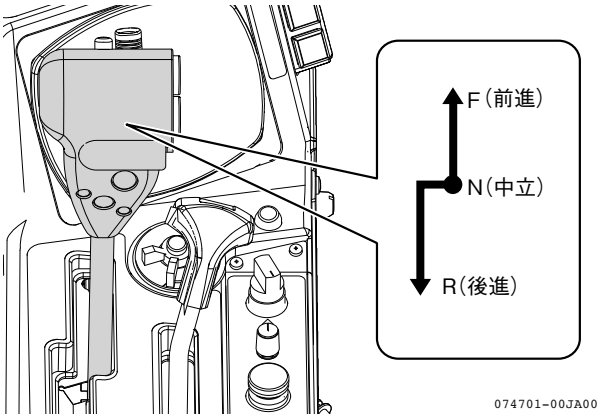


図 2-134

8. 副変速レバーを希望の位置にします。(図 2-135)

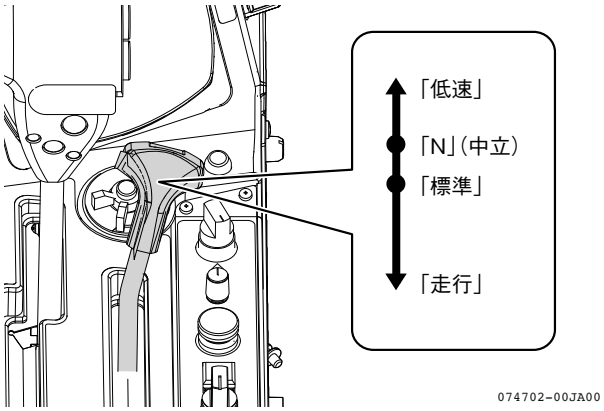


図 2-135

[参考]

このとき、セフティペダルを踏み込む必要はありません。セフティペダルを踏み込まないほうが、副変速レバーをスムーズに操作できます。

9. 主変速レバーを少しずつ前進方向に倒して、ゆっくりと発進し、徐々にスピードを上げてください。(図 2-136)

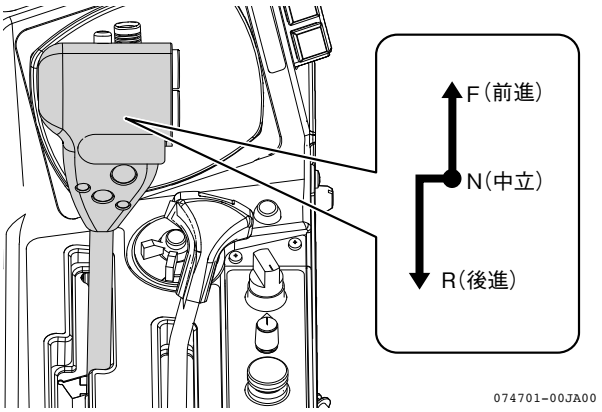


図 2-136

[重要]

走行スピードは、主変速レバーで調節してください。

エアコンの使いかた

[重要]

- エアコンスイッチは、コンプレッサなどに無理な力をかけないために、エンジンを始動してから「ON」(ランプ点灯)にしてください。
- エアコンスイッチ「ON」(ランプ点灯)の状態で、風が出ない、風力が弱い状態が続く、または冷房不良の場合は、エアコンスイッチを「OFF」(ランプ消灯)にしてください。異常な状態での連続運転は、ブロアモータやコンプレッサの損傷につながります。お買い上げいただいた特販店、またはJAで点検を受けてください。

暖房・冷房・除湿のしかた

1. エンジンを始動します。
2. ファンスイッチを希望の風量位置にセットします。(図 2-137)

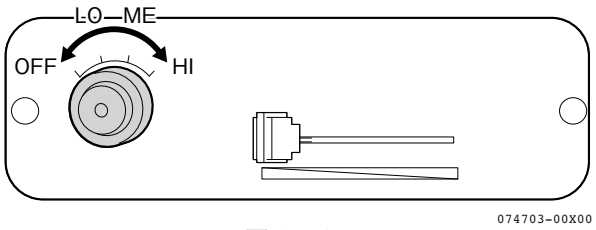


図 2-137

「LO」位置…… 弱風
「ME」位置…… 弱風と強風の中間
「HI」位置…… 強風

3. 温度コントロールレバーで低温から高温まで無段階に温度を調整できます。(図 2-138)

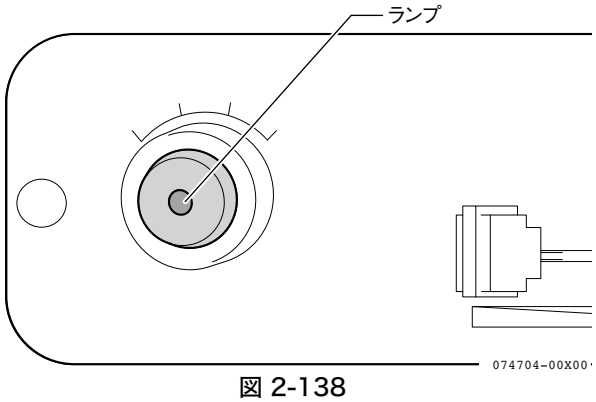


図 2-138

4. エアコンスイッチで「暖房」「冷房」「除湿」の選択をします。(図 2-139)

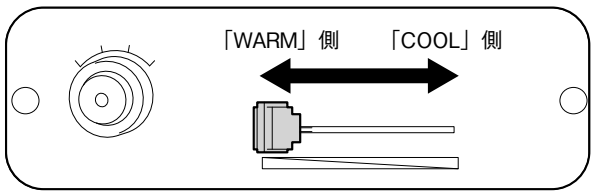


図 2-139

エアコンスイッチを押すことにより、エアコンの運転・停止が切り替わります。
「ON」(ランプ点灯) …エアコン運転
「OFF」(ランプ消灯) …エアコン停止

■ 暖房にするとき

レバーを「WARM」側に動かし、エアコンスイッチを「OFF」(ランプ消灯) にしてください。

■ 冷房にするとき

レバーを「COOL」側に動かし、エアコンスイッチを「ON」(ランプ点灯) にしてください。

■ 除湿にするとき

レバーを「WARM」と「COOL」の中間位置にし、エアコンスイッチを「ON」(ランプ点灯) にしてください。

温度調節のしかた

キャビン内の温度を高くしたいときは、温度コントロールレバーを「WARM」側に、低くしたいときは「COOL」側に動かしてください。(図 2-140)

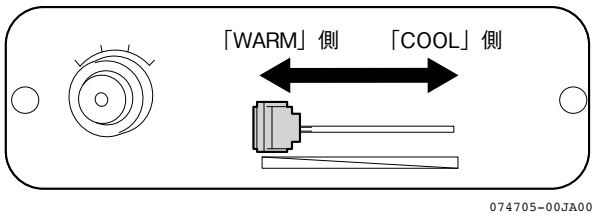


図 2-140

風吹出口の切り替えかた

吹出口切替レバーで温風・冷風の吹出口を切り替えることができます。(図 2-141)

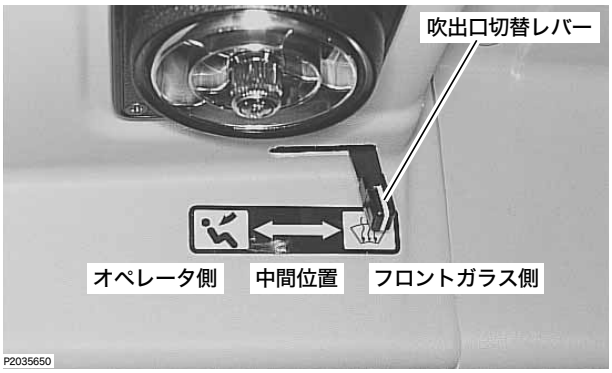


図 2-141

●「オペレータ側」にすると

後方の吹出口風向グリルより、オペレータ側に吹き出します。

●「フロントガラス側」にすると

前方の吹出口風向グリルより、フロントガラスに向って吹き出します。
ガラスが曇っているときや凍結しているときに使用してください。

●「中間位置 (3段階)」にすると

両吹出口から吹き出す量を変えることができます。

エアコン吹出口の風力調節のしかた

吹出口の風向きグリル（1）を右の方向（2）に回転すると風量が少なくなり、左の方向（3）に回転すると風量が多くなります。（図 2-142）

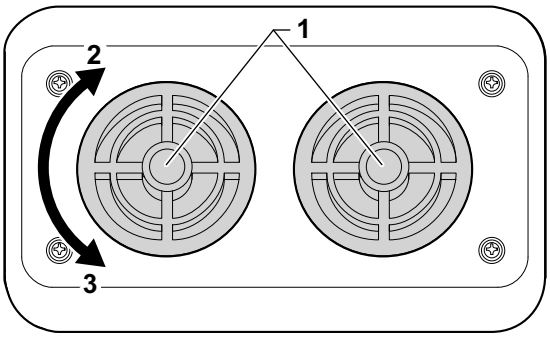


図 2-142

刈取作業前の準備

刈り取りできる作物の条件について

作物の状態やほ場の広さなどの条件により、刈取方法が多少異なります。作業に入る前に作物の状態やほ場の広さを確認して、能率よく作業を行ってください。

作物の水分

作物にツユが付いていたり、葉がぬれていると、選別が悪くなることがあります。ツユが完全に落ち、葉や茎も乾いてから刈取ってください。
やむを得ず、ぬれている作物を刈取る場合は、作業の状態を見ながらつぎの調節を行ってください。

- 送塵の調節（送塵調節レバー）（61ページ参照）
- クリーンシフトの調節（クリーンシフトレバー）（61ページ参照）

作物が病虫害にかかっている場合

病虫害にかかっている作物は、脱こく処理がしにくい場合がありますので、刈取速度は、副変速レバーを「高速」位置にして作業してください。

1. 大豆の場合

●大豆の刈取適応長さは50～100cmです。

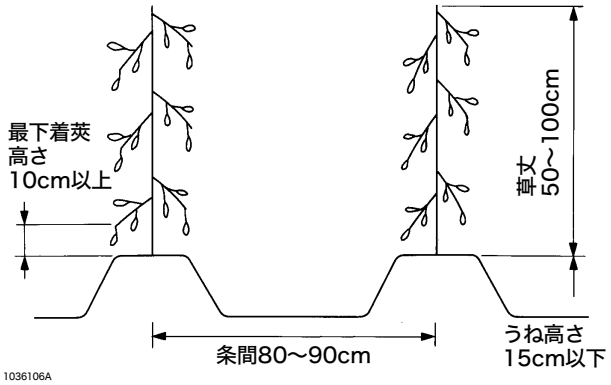


図 3-1

●刈取可能な作物の倒れた角度（倒伏角）は、
向い刈り……倒伏角45°まで
追い刈り……倒伏角30°まで

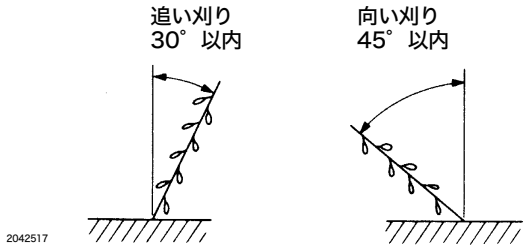


図 3-2

●雨中や雨上がり直後、朝つゆ・夜つゆのあるときは、作業しないでください。
子実水分……16～18%
（13～15%が望ましい）
茎稈水分……60%以下
（40%以下が望ましい）

[重要]
刈取り適期は、慣行よりも1週間程度遅くしてください。落葉後7～10日後が収穫のめどです。水分の多い場合は、汚粒・損傷粒の原因になります。

ほ場の条件

大豆は、湿害に弱いのでうねを立てるか、明きょなどで排水をよくする必要があります。しかし、うねの高さや幅によっては、コンバインで作業がしづらい場合があります。
能率よく刈取作業を行うためには、うねの高さ・幅・作物条間をコンバインに合わせて作付してください。(図 3-3)



図 3-3

[重要]
土の混入、刈り残しにつながります。本機本機の傾きはが水平になるように刈取部ではなく、クローラがうねに対称になるように、走行位置を合わせてください。

〈コンバインが傾かないようにするためには…〉
- 条間……80～90cm
- うね高さ…15cm以下

〈最下着莢位置を高くするためには…〉
- 播種株間…14～18cm
- 種子量……2～3粒の点播

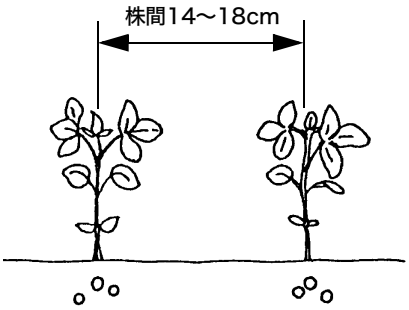


図 3-4

〈トラブルを防ぐためには…〉
- 雑草が多い場合……汚粒や機械のトラブル発生
- 石などが多い場合…刈刃の損傷
- 稈が青い場合・最下着稈莢位置が10cm以下の場合……土・青汁などによる汚粒の発生

作付・栽培管理

コンバインでの刈取作業では、下記の条件の品種が適していますが、品種の選定は、各都道府県の指導機関の指導に従ってください。

〈耐倒伏性が高いもの〉

倒伏すると、減収したり刈取り方向や作業速度が限定され能率が低下します。さらに、泥のかみ込みなどにより、汚粒が発生し品質も低下してしまいます。（図 3-5）



図 3-5

〈耐裂莢性がたかいもの〉

裂莢しやすいと、リールタインが作物に当たったときに、裂莢して豆がほ場に落ちて、刈取りロスが増えます。（例：エンレイ）（図 3-6）



図 3-6

〈着莢位置が高いもの〉

着莢位置が低いと、刈り残しが出たり、低刈りするために泥のかみ込みなどにより、汚粒が発生し品質も低下してしまいます。

[参考]

最下着莢位置を高くするためには、種子量2～3粒を株間14～18cmに点播するのが適当です。（図 3-7）



図 3-7

収穫時期(時間帯)

大豆の収穫は、水分が重要なポイントになります。コンバインでの収穫作業をロスなく能率的に行うためには、莢の水分と子実水分、さらに茎稈水分がポイントです。大豆の水分は、1日の中でも大きく変化しますので、収穫に適する時間内に作業を行うようにしてください。(図 3-8)



図 3-8

●刈取りに適している時間は、コンバインと従来のビーンハーベスタで大きく異なります。(図 3-9)

コンバイン……AM11:00～PM4:00

ビーンハーベスタ……AM6:00～AM10:00
PM5:00～PM8:00

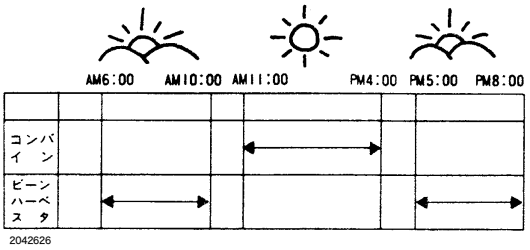


図 3-9

大豆の汚粒発生の原因

〈発生原因〉

- 1 操作技術的要因
  - 整備不良
  - 基本的操作ミス
  - 作業条件・収穫時期
- 2 栽培技術的要因
  - 不適切な培土
  - 不適切な栽植条件
  - 石れき除去、雑草防除の不徹底
  - 生育の不斉一
  - 病虫害防除の不徹底
- 3 品種的要因
  - 裂莢性
  - 倒伏性
  - 最下着莢位置
  - 粒径

コンバインでの収穫作業の汚粒発生には、上記の3大要因が複合して影響しています。したがって、汚粒の発生を防ぐには、これらをすべてを取り除く必要があり、栽培体系全体を見直さなくてはなりません。品種の選定・栽培技術については、各地域の指導機関との十分な協議をお願いしますが、メーカー側からお願いしたい取扱い方法は、本章の内容を熟読してご理解いただきたいと思います。

品質低下につながる原因

下記の項目が、品質の低下につながる原因です。

〈雑草や青立大豆が残っている〉

雑草や青立大豆が残っていると、汚粒の原因になり、品質低下につながりますので、作業前に必ず取り除いてください。(図 3-10)

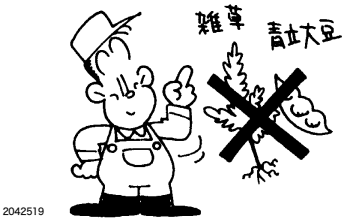


図 3-10

〈倒伏や下部腐敗莢がある〉

倒伏や下部腐敗莢があると、刈取作業がやりにくく、能率低下や刈取りロス、さらに汚粒の原因にもなり、品質低下につながります。(図 3-11)



図 3-11

2. ソバの場合 （オプションが必要です。）

収穫時期

●天候条件にもよりますが、慣行よりも2～3週間後が収穫期です。（図 3-12）



図 3-12

●子実が 80 ～ 90%黒色化してから収穫してください。（図 3-13）



図 3-13

3. 麦の場合 （オプションが必要です。）

作物の条件

●刈取適応高さは30cm以上です。（図 3-14）

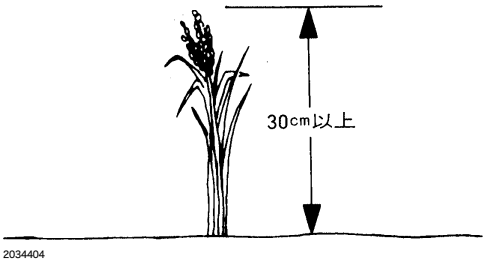


図 3-14

●刈取り可能な作物の倒れた角度（倒伏角）は、追い刈りで85°までです。（図 3-15）

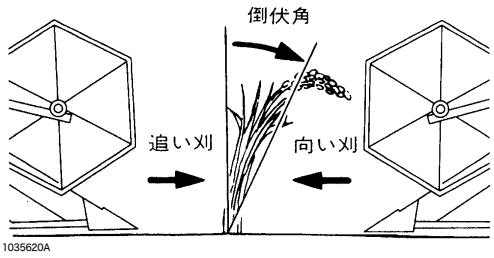


図 3-15

[重要]

- 倒伏作物は、追い刈りまたは横刈りで刈取ってください。
- ぬれている作物は、コンバインの作業を妨げます。十分に乾燥（手でしごいてぬれない状態）させてから行ってください。

作付・栽培管理

●草丈の低い品種を作付して、草丈のバラツキがないように栽培してください。(図 3-16)



図 3-16

●うね幅や条間などを本機に合わせてください。(図 3-17)



図 3-17

収穫時期について

刈取り時期を自脱形コンバインより、2〜3日程度遅らせると、下記のような利点があります。(図 3-18)

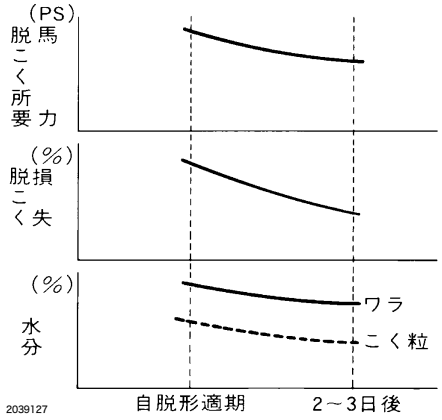


図 3-18

●脱こく所要馬力が減少し、作業能率が上がります。
●脱こく損失が減少します。
●こく粒の水分が減少し、乾燥コストが低減できます。

刈取り作業ができるほ場の条件について

足の沈み量（6cm）までのぬかるみであれば作業できますが、一度通ったクローラ跡はできるだけ通らないようにします。(図 3-19)

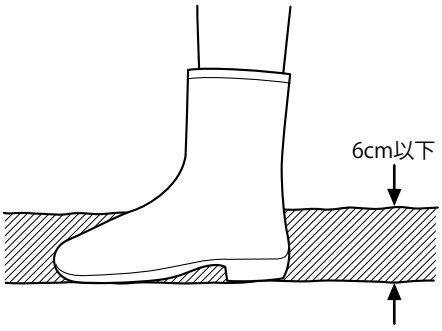


図 3-19

[重要]

沈下量が6cm 以上の悪条件で作業した場合は、作業終了後ただちに点検・掃除・注油を行ってください。そのまま作業を続けていると、刈刃に泥が詰まり、刈刃の駆動系が破損したり、耐久性が著しく低下する原因になります。

ほ場の準備と刈取方法について

⚠ 危　険

- 刈取作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。回転物に巻き込まれたり、旋回時の接触などにより、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- コンバインをササくずのたまった上などに止めないでください。火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- 後進するときは、後方の安全確認をし、低速で移動してください。
- 異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチを全て「OFF」または「切」位置にしてから点検してください。
- ササくずを取り除く場合や、排わらが詰まった場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチを全て「OFF」または「切」位置にしてください。
- ２人以上の共同作業では、ホーンなどでお互いに合図しあってから行ってください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- わき見、手放し運転はしないでください。

⚠ 注　意

ほ場への出入り、あぜ越え、段差を乗り越えるときは、高低差が大きいと危険です。アユミ板を使用してください。

ほ場の準備

全面刈りで能率よく作業を進めるためには、図のように四隅（旋回できる範囲）を手刈りします。
(図 3-20)

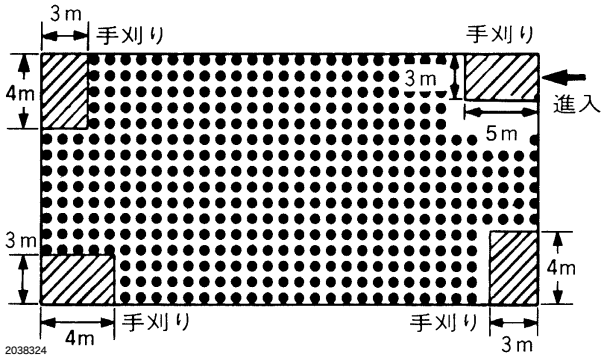


図 3-20

■手刈り用カマの収納場所

キャビンなし仕様の場合

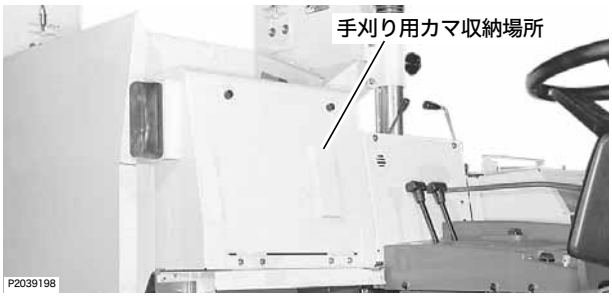


図 3-21

キャビン仕様の場合



図 3-22

■手刈りを少なくするには

コンバインに慣れてきたら、隅を3～4回ほど斜め刈りしてください。手刈りをほとんどしなくてすみ、能率的な作業ができます。

また、進入路の傾斜地が緩い場合は、微速で刈取りながら進入できます。(図 3-23)

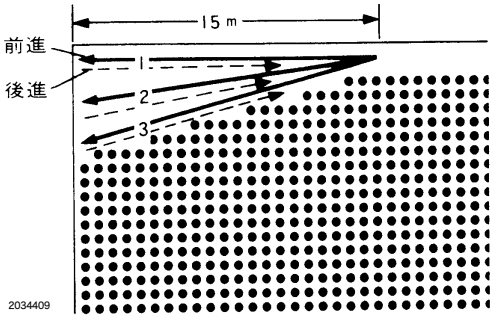


図 3-23

刈取方法

植付け条に沿って刈取るのが原則です。従って2方向刈りを基本とし、つぎの要領で刈取ります。

1. あぜぎわから、左回りで刈取ります。(図 3-24)

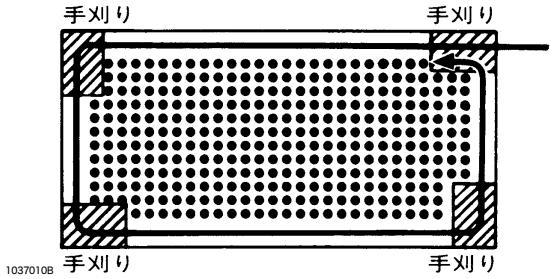


図 3-24

[参考]

- 手刈りした幅の分だけ、すべて左回りで刈取ってください。
- 手刈りした作物は、プラットホームに投げ込んで、定置脱こくしてください。(143ページ参照)

⚠ 警 告

手刈りした作物を、プラットホームに投げ込んで定置脱こくをする場合は、刈刃・リールクラッチレバーを必ず「OFF」位置にしてください。刈刃やリールに巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。(143ページ参照)

2. 切り返しを行い、左回りで刈り続けます。(図 3-25)

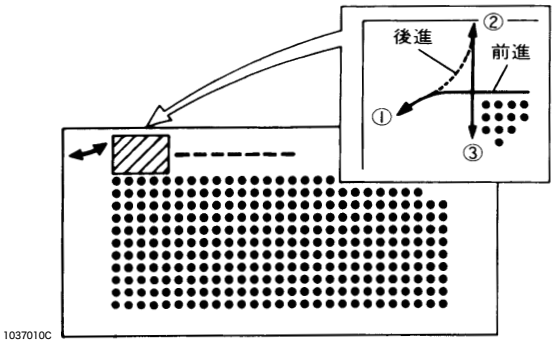


図 3-25

3. ほ場の両端で回行できるようになったら、2方向刈りを行ます。(図 3-26)

2方向刈り

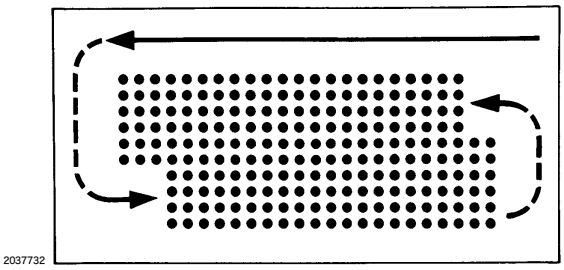


図 3-26

4. あぜぎわを残した場合は、あぜぎわ刈りをします。あぜぎわは、低速で、右回りで刈取ります。(図 3-27)

あぜぎわ刈り

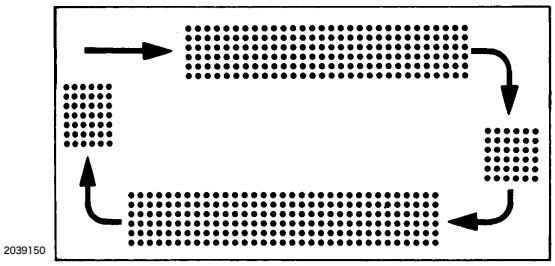


図 3-27

[重要]

- あぜぎわ刈りのときは、デバイダヘッドを突込んだり、ぶつけないように注意してください。
- 回行中もエンジン回転を下げないでください。下げると、選別が悪くなったり、詰まることがあります。

広いほ場の刈取方法

能率よく刈取作業をするために、広いほ場などは、中割り作業をしてください。(図 3-28)

中割り

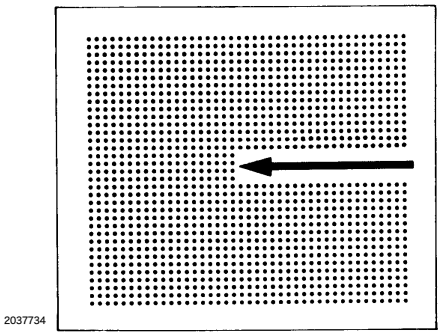


図 3-28

デバイダヘッドの取り付け

デバイダヘッド(1)を、M8ボルト(2)（2本）で取り付けてます。(図 3-29)

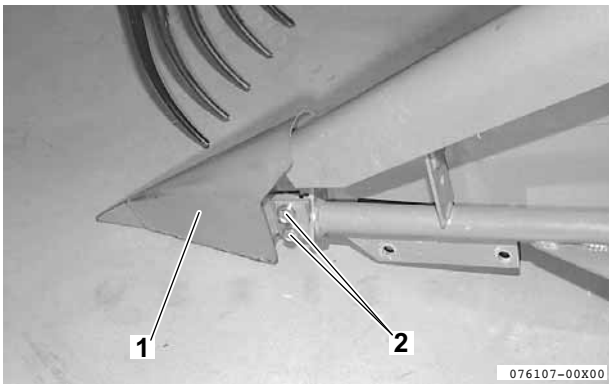


図 3-29

刈刃・チェンへの注油

⚠ 注　意

回転部などに注油するときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。けがをするおそれがあります。

作業前は、刈刃や各チェンに「各部の注油のしかた」（195ページ参照）に従って注油してください。

[参考]

- 刈刃やフィーダチェンには、食品機械用潤滑スプレーを使用してください。

表 3-1 品名、オプション部品

品　　名	オプション部品
食品機械用潤滑スプレー	OIL-19030000

- 低温時（5 ℃以下）には、オイルの一部が個体になり、分離しているような状態になる場合があります。分離しているときは、常温に戻してから使用してください。

唐箕回転数の調節のしかた

作物の選別の精度を良くするときに使用します。（図 3-30）

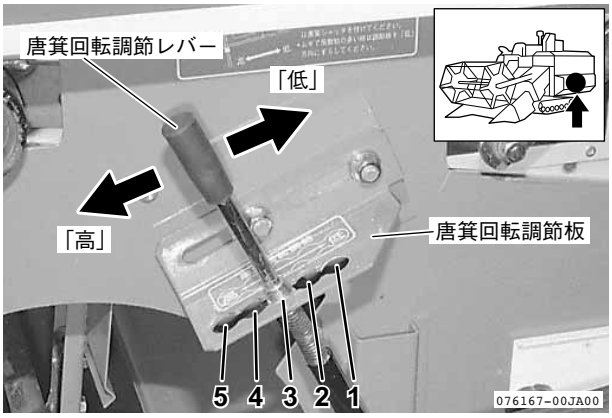


図 3-30

表 3-2 唐箕回転調節板の調整

	大豆・小豆	ソバ	麦
唐箕回転調節レバー	1～5	1・2	1・2
唐箕回転調節板	「高」位置	「低」位置	「高」位置

「高」側……選別が悪いとき
「低」側……乾材などで3番にロスが多いとき

[参考]

- 唐箕回転調節板を「低」側にして、風力を下げてもロスの多いときは、唐箕シャッター（ソバの場合のみ）を取り付けてください。
- 唐箕回転調節レバーを調節するときは、ベルトを少し押さえると操作が行いやすくなります。

リール変速レバーの調節のしかた

作物の種類や状態に合わせて、「標準」(1) または「高速」(2) 位置にしてください。(図 3-31)

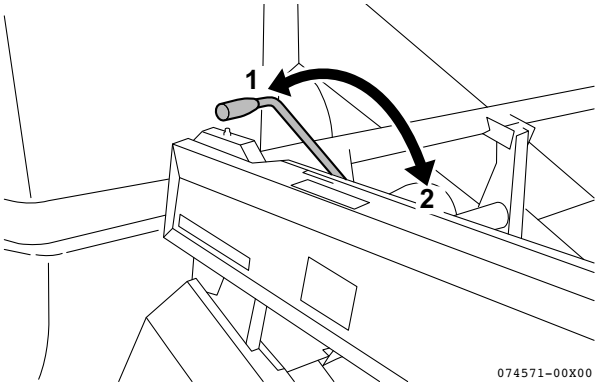


図 3-31

「標準」位置 (1) ……立毛・向い刈り倒伏時
「高速」位置 (2) ……追い刈り倒伏時

刈高さ切換レバーの調節のしかた

刈高さ自動制御、および刈取オートセット・オートリフトを行うときに使用します。(図 3-32)

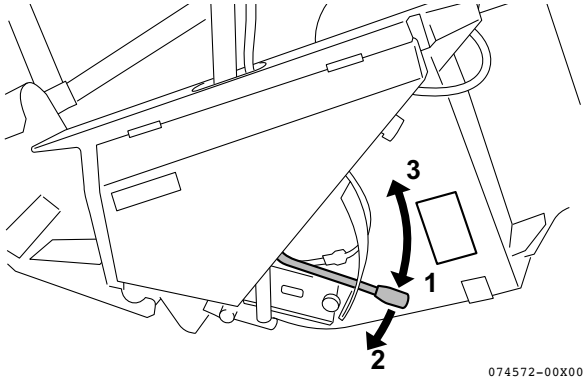


図 3-32

「作業」位置
…作業をするとき (センサソリが出る) に使用し、次の2つの切換がある
「作業低」(1) …通常作業に使用
「作業高」(2) …高刈作業時に使用
「収納」位置 (3)
…積み・降ろし、移動するとき刈取部を脱着するとき (センサソリが収納される)

デバイダヘッドの高さ調節のしかた

作物の倒伏状態と、ほ場の状態によって、左右とも同じ高さに調節してください。
調節は、上下調節ボルト(1)で行います。(図 3-33)

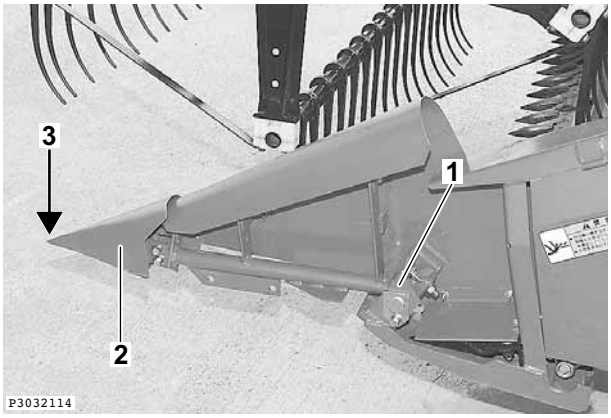


図 3-33

■立毛時
雑草が引っかからない程度に、刈株よりやや高めに調節します。

■倒伏時
デバイダヘッド (2) のトップポイント (3) が軽く接地する程度に、調節してください。デバイダヘッドの底が少し前上がりになるように調節します。
(図 3-33)

チャフシーブ後の調節のしかた

チャフシーブは、脱こくされたこく粒とサヤくずを選別します。作物の種類や脱こく状態に応じて、チャフシーブの角度を調節します。(図 3-34)

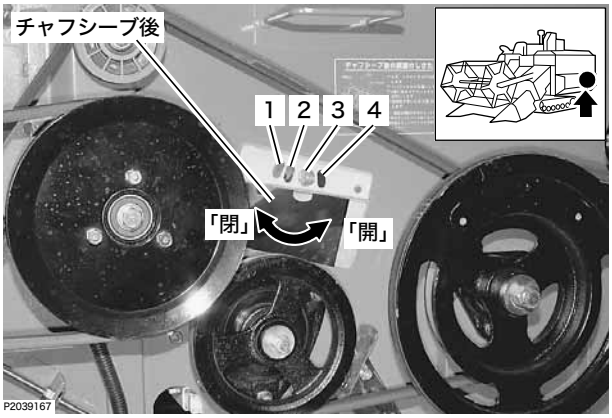


図 3-34

表 3-3 チャフシーブの調節

種類	チャフシーブの位置
大豆・小豆	「2」～「3」の位置
ソバ	「1」～「2」の位置
麦	「3」～「4」の位置

[参考]

- 出荷時は、「3」位置に調節されています。
- 2 番に詰まりやすいときは「閉」側に、ロスの多いときは「開」側に調節してください。

グレンタンクの準備 (グレンタンク仕様のみ)

1. グレンタンク(1)を、確実に収納します。(174ページ参照)(図 3-35)

[重要]

排出コンベアがコンベアレストから浮き上がった状態での作業は、絶対にしないでください。

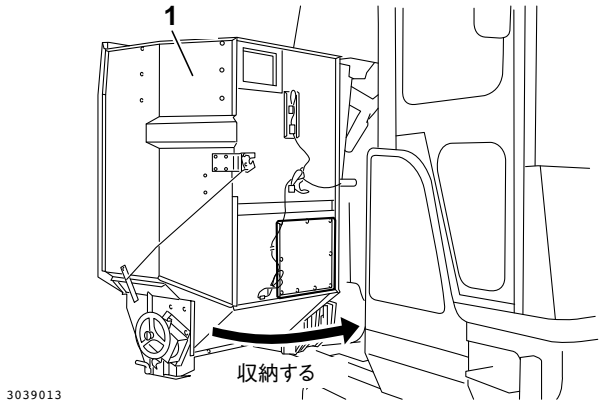


図 3-35

2. グレンタンク部およびグレンタンク駆動部で、つぎの確認をします。(図 3-36)
   - グレンクラッチベルト(1)が外れていませんか。
   - ベルトは、ベルト押えの内側にセットされていますか。
   - 固定ピンは(2)、差し込まれていますか。
   - グレンタンクロックレバー (3) は、確実にロック側にありますか。

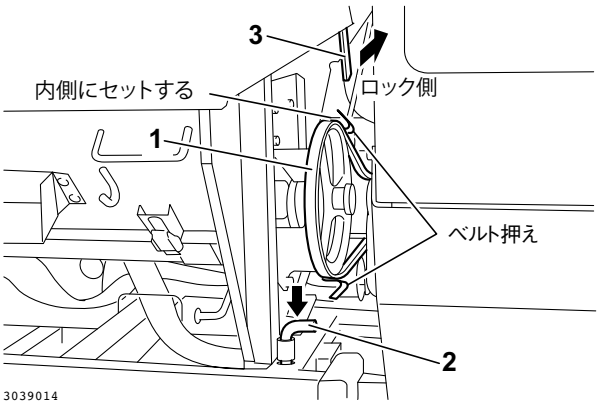


図 3-36

ワンマンホッパの準備（ワンマンホッパ仕様のみ）

⚠ 注　意

こく粒受台には乗らないでください。転落して、けがをするおそれがあります。

1. ワンマンホッパ(1)を確実に収納します。（176ページ参照）（図 3-38）

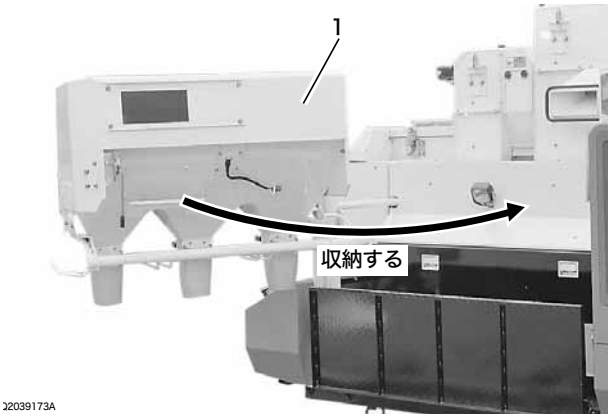


図 3-37

2. 補助こく粒受台(1)を作業位置に開きます。（177ページ参照）（図 3-38）

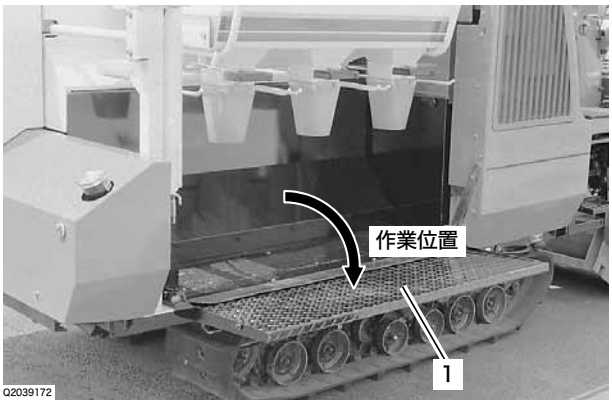


図 3-38

3. こく粒袋掛けに、袋を掛けます。

4. こく粒排出シャッター(1)を「開」位置にします。（図 3-39）

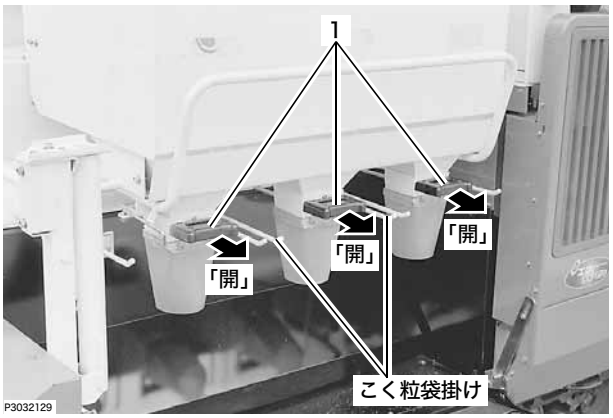


図 3-39

プレッシャプレートの取り付け･取り外しかた（グレンタンク仕様のみ）

麦およびソバの作業をするときは、グレンタンク内のプレッシャプレートを外して作業を行います。(麦およびソバの作業時は、オプションが必要です。)

プレッシャプレートの取り外し・取り付けは、以下の手順に従って、タンクカバーの取り外しから行います。

■タンクカバーの取り外しかた

1. グレンタンクをオープンします。
   （174ページ参照）
2. タンクカバー (1)（ボルト 8×16（バネ座金付・平座金付）：8本）を外します。(図 3-40)

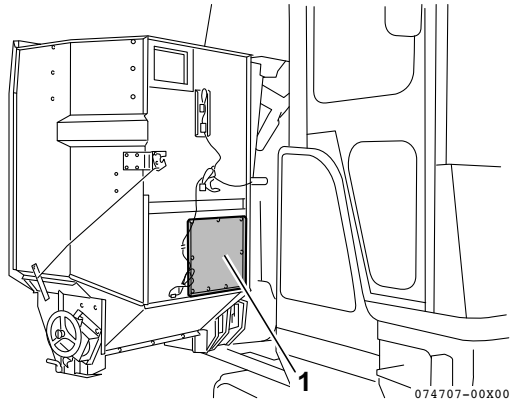


図 3-40

タンクカバーを取り外した状態(図 3-41)

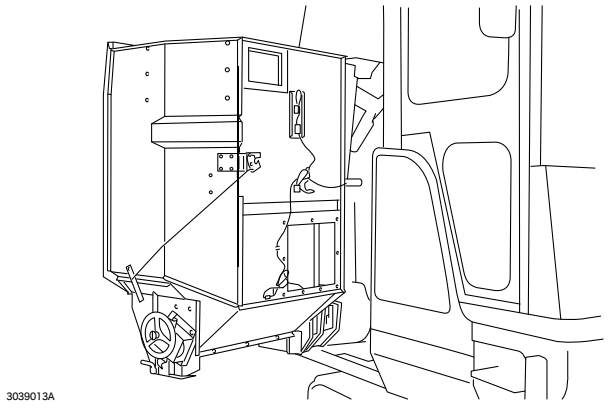


図 3-41

■プレッシャプレートの取り付け･取り外しかた

取り付けかた

1. プレッシャプレート(2)（2枚）を、グレンタンク下部のコンベア上板(1)に取り付けます。
   (図 3-42)

取り外しかた

1. グレンタンク下部のコンベア上板(1)に取り付いている、プレッシャプレート(2)（2枚）を外します。(図 3-42)

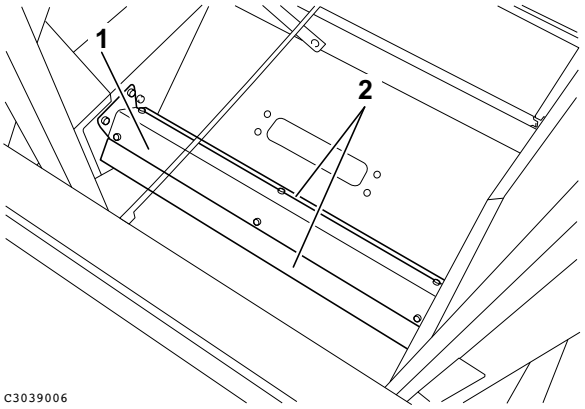


図 3-42

2. タンクカバー、タンク調整板、こく粒センサ取付板を元通りに取り付けます。
3. グレンタンクを収納します。

[参考]

プレッシャプレート(1)を元に戻すときは、逆の手順で行ってください。

プレッシャプレートをグレンタンクに取り付けるときは、図のようにグレンタンクとのすき間が60mmになるように取り付けてください。

(図 3-43)

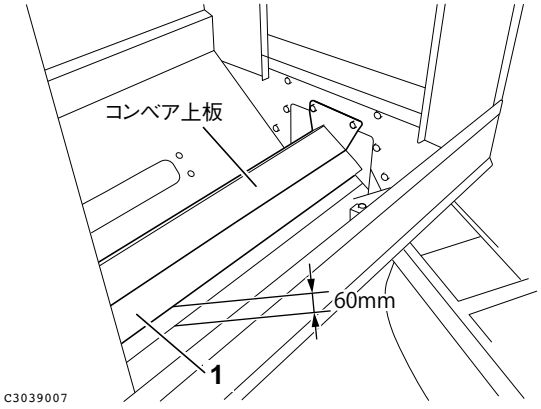


図 3-43

排出コンベア収納位置調節のしかた（2mヘッダー装着時）

[重要]

- 2m ヘッダーを装着している場合は、刈取作業前に必ず排出コンベア収納位置の調節と排出コンベアセンサーの調節を行ってください。守らないとリールを最上げにしたときに排出コンベア先端とリールが干渉するおそれがあります。
- コンバインの輸送，路上走行時には、逆の手順でコンベアレストをコンバイン右側（出荷状態）に戻してください。戻さないと排出コンベア先がコンバイン最外側となり事故につながる危険性があります。

刈幅２ｍの刈取部を装着している場合は、排出コンベアの収納位置をコンバイン左側に90mm移動が必要です。
コンベアレストの取付位置の調節を、以下の手順に従って行います。

■コンベアレストの取り外し･取り付け

1. 排出コンベアを上昇させます。（73ページ参照）
2. コンベアレスト (1) 取り付けボルトを外します。
   （ボルト8×20　平座金＋バネ座金　7本）
   （図 3-44）

出荷状態

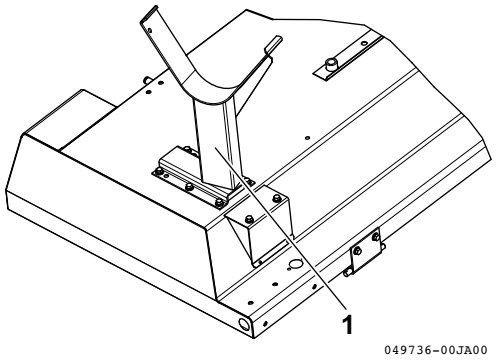


図 3-44

3. コンベアレストを下図の位置に取り付けます。
   （ボルト8×20　平座金＋バネ座金　8本）
   （図 3-45）
   ※同梱付属品
   ボルト8×20　平座金＋バネ座金　1本

刈取作業時

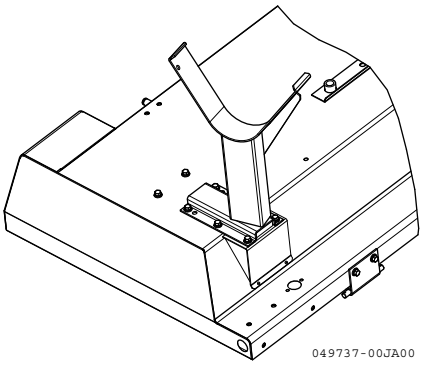


図 3-45

排出コンベア収納センサー調節のしかた（2mヘッダー装着時）

⚠ 注　意

リミットスイッチの調節ボルトは、指定の箇所以外を緩めないでください。出荷時の調整が狂い、オートセット・リターンが正しく機能しなくなり、思わぬけがをするおそれがあります。

[重要]

- 2m ヘッダーを装着している場合は、刈取作業前に必ず排出コンベア収納位置の調節と排出コンベアセンサーの調節を行ってください。守らないとリールを最上げにしたときに排出コンベア先端とリールが干渉するおそれがあります。
- コンバインの輸送，路上走行時には、逆の手順でコンベアレストをコンバイン右側（出荷状態）に戻してください。戻さないと排出コンベア先がコンバイン最外側となり事故につながる危険性があります。

コンベアレストの位置に合わせて排出コンベアの収納位置の再セットを、以下の手順に従って行います。

■排出コンベア収納位置再セット

1. 排出コンベアを手動でコンベアレスト位置に収納します。
2. 脱こく後中カバー (1)を外します。（図 3-46）

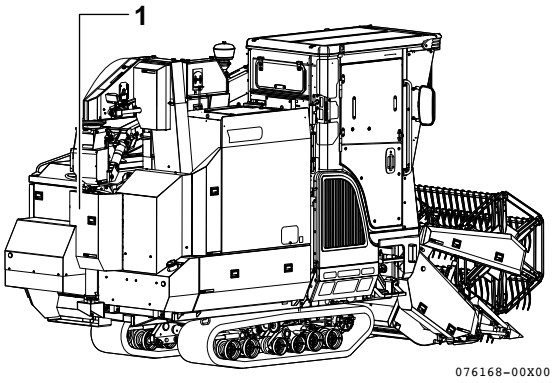


図 3-46

3. 右旋回リミットスイッチの左右調節ボルト (1) をコンバイン前側へ 2 mm 寄せて締め付けます。（図 3-47）

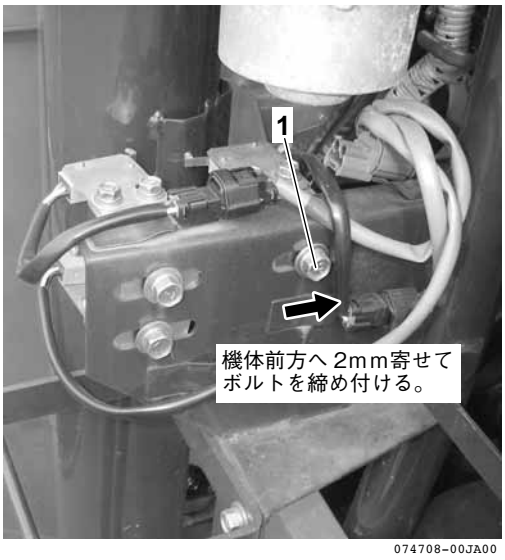


図 3-47

4. 排出コンベアを操作し、オートリターンでコンベアレストに収納することを確認します。
5. 脱こく後中カバーを取り付けます。

刈取作業前の掃除のしかた

足の沈み量（6cm）までのぬかるみであれば作業できますが、一度通ったクローラ跡はできるだけ通らないようにします。

収穫作業前には、こく粒の搬送通路を徹底的に掃除・洗浄します。（192ページ参照）

⚠ 警　告

各部の脱着、オープンをするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキを「ブレーキ」位置にしてから行ってください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

外したカバー類は、収納後に必ず取り付けてください。外したままで運転するとけがをするおそれがあります。

● 各部カバー類を外し、脱こく部・刈取部を空運転させて、コンバイン内部に残った塵を飛ばします。その後、エアコンプレッサで樋・受継部に残ったこく粒・塵を吹き飛ばします。
(図 3-48)

●1番樋
●2番樋
●2番受継部
●バケットコンベア受継部
●タンク樋
●チャフシーブ
●グレンタンク
●ワンマンホッパ
●排出コンベア

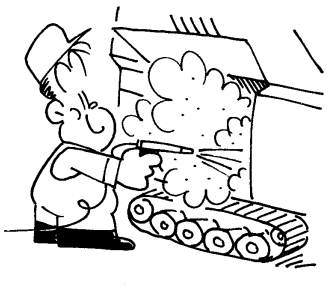


図 3-48

[重要]
高圧洗浄機でコンバイン内部、およびこく粒搬送通路を掃除・洗浄するときには、電装品に直接水をかけないでください。

[参考]
外した部品も同時に洗浄しておいてください。
(図 3-49)

●グレンタンク
●ワンマンホッパ
●バケットコンベア
●スラットコンベア
●2番コンベア(上)
●ロータ
●チャフシーブ
●フィーダハウス
●1番コンベア
●排出コンベア

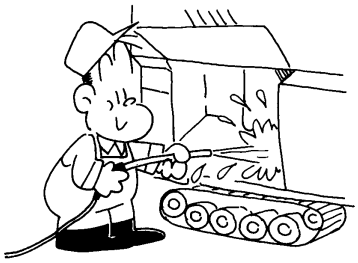


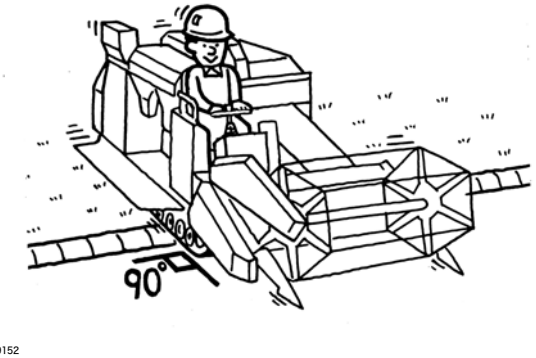
図 3-49

● カバーを装着した状態で、脱こく部・刈取部を空運転し、その後エアコンプレッサで付着した水分を吹き飛ばし、コンバイン内を乾かします。

[参考]
外した各部のカバー類は、忘れずに元通りに取り付けてください。

ほ場への出入りのしかた

● 副変速レバーを「低速」位置にして、主変速レバーをゆっくり「前進」側に倒してください。
● Eモードスイッチを「ON」位置にしてください。
● あぜに対して前進で直角に出入りしてください。
● 10cm 以上の高いあぜの場合は、アユミ板を使用してください。(図 3-50)



2039152

図 3-50

■急な坂道の場合
● 進行方向

表 3-4 進行方向

進行方向	登　り	前　進
	降　り	後　進

● 移動速度
副変速レバー「低速」位置、主変速レバーは最低速で、ゆっくり登り降りしてください。

⚠ 警　告

急な坂道の場合は、進行方向や速度を誤ると転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

作業について

刈取操作のしかた

⚠ 危　険

刈取作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。回転物に巻き込まれたり、旋回時の接触により、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- 後進するときは、後方の安全確認をし、低速で移動してください。
- 異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチを全て「切」位置にしてから点検してください。
- ワラくずを取り除く場合や、排わらが詰まった場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチを全て「OFF」または「切」位置にしてください。
- ２人以上の共同作業では、ホーンなどでお互いに合図しあってから行ってください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 刈取部の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。万一、刈取部が下がったときに傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- わき見、手放し運転はしないでください。

作業の手順

ほ場に入った後の作業の手順について説明します。

1. 刈高さ・リール前後スイッチを（1）「下」側、または刈高さ調節レバー（2）を「下降」側にしてください。刈取部が下がります。（図 3-51）

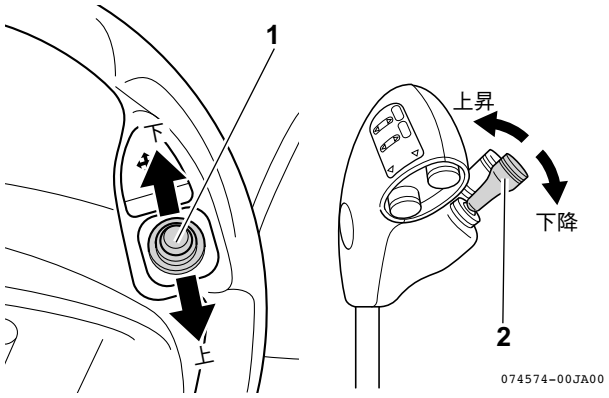


図 3-51

[参考]

〈立毛した作物の場合〉

- 低くたれ下がった莢を、刈り残さない刈高さに調節してください。

〈倒伏とからまった作物の場合〉

- 作物を拾い上げるために、地面すれすれに下げて、低刈りをしてください。

[重要]

刈取部を低くしすぎると、プラットホームに土が入り、汚粒が発生する原因になります。下げすぎないようにしてください。

2. 刈刃・リールクラッチレバー（1）を「入」位置にします。（図 3-52）

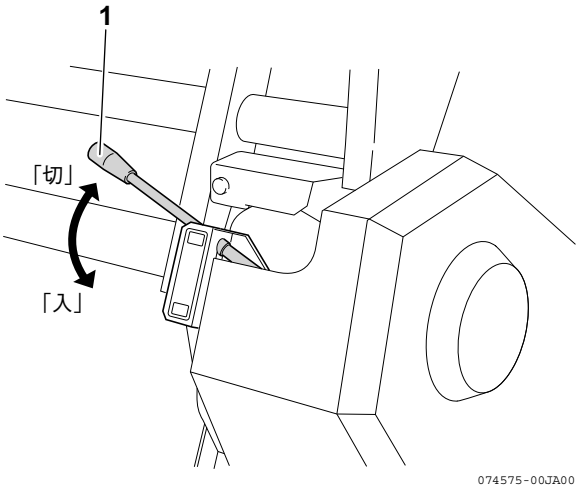


図 3-52

3. 副変速レバー（1）を作物条件に合わせて、「標準」「低速」位置のいずれかに入れます。（図 3-53）

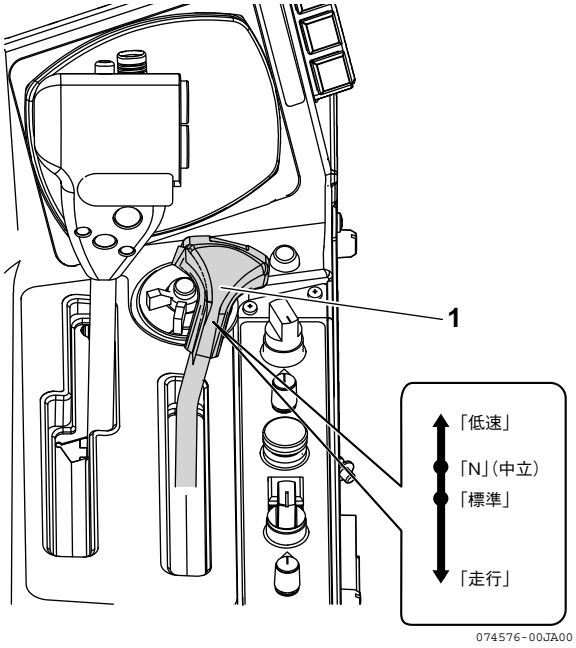


図 3-53

表 3-5 作業速度の選び方

副変速レバー位置	使　用　条　件
低　速	●全倒伏 ●半倒伏 ●周囲刈りで低速作業をする場合
標　準	●直立

4. Eモードスイッチを「ON」位置にします。（図 3-54）

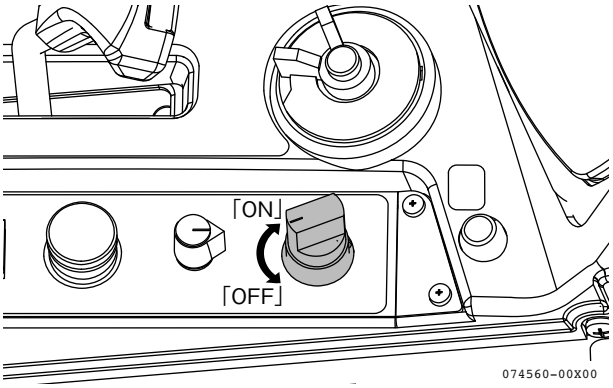


図 3-54

[重要]

刈取作業時は、アクセル調整ダイヤルでのエンジン回転速度調節は行わないでください。トラブルの原因となる可能性があります。

5. 脱こくクラッチレバー（1）・刈取クラッチレバー（2）を「ON」位置（3）にします。（図 3-55）

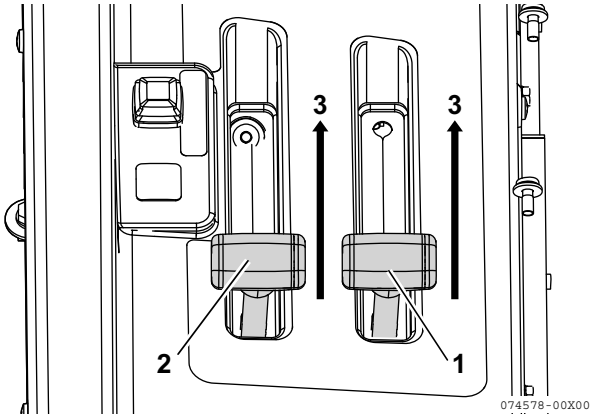


図 3-55

6. 刈取オートクラッチスイッチを押して「入」（ランプ点灯）にします。（図 3-56）

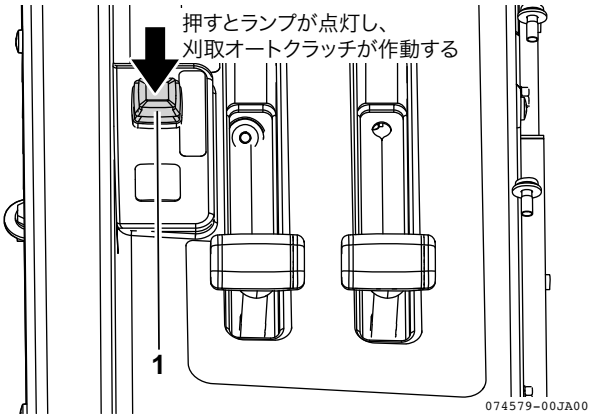


図 3-56

7. リール高さ調節レバーで、稈が刈刃で切断されるときに、タインバーが莢の下の茎稈に当たって作物を捕らえる位置に、リールをセットします。（図 3-57）

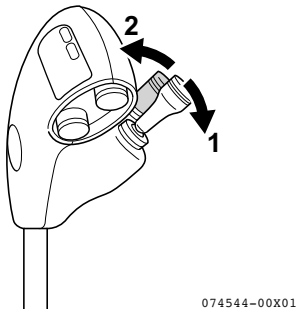


図 3-57

「下降」側（1）……リールが下がる
「上昇」側（2）……リールが上がる

[参考]

〈立毛した作物の場合〉

● 大豆（図 3-58）

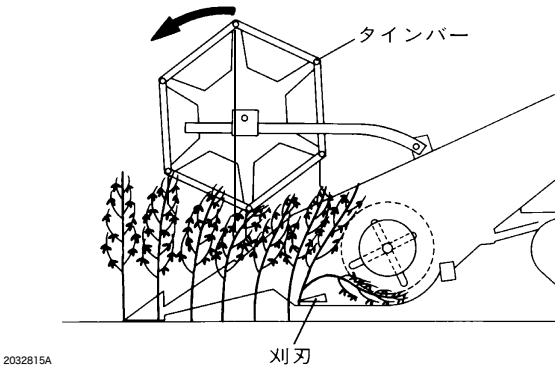


図 3-58

● 麦

刈高さ（図 3-56）



図 3-59

リール高さ（図 3-60）



図 3-60

[重要]

向い刈り時は、リールが穂先を押しつけないようにしてください。押しつけすぎると、刈刃で穂先を切ることがあります。

8. 刈高さ・リール前後スイッチ(1)で、リールの前後位置を調節します。（図 3-61）

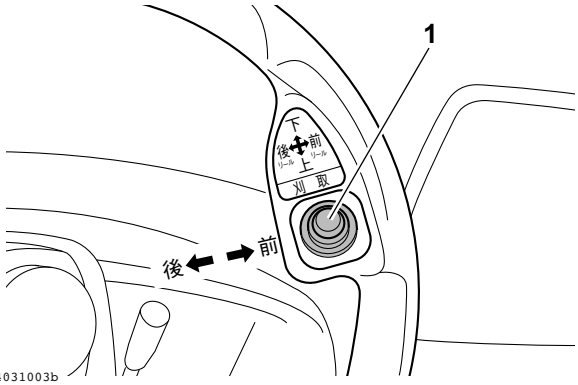


図 3-61

[参考]

〈立毛した作物の場合〉

リールの位置を最も後にしてください。(図 3-62)

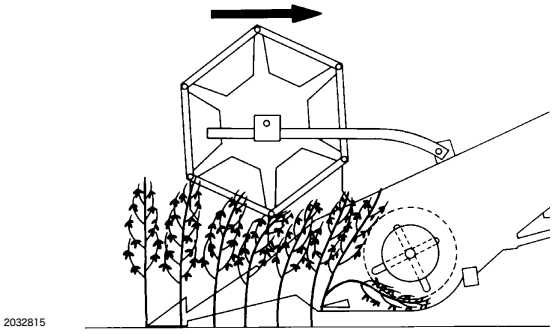


図 3-62

〈倒伏した作物の場合〉

リールの位置を前方にしてください。リールの作用位置が低くなり、引起こし性能がよくなります。(図 3-63)

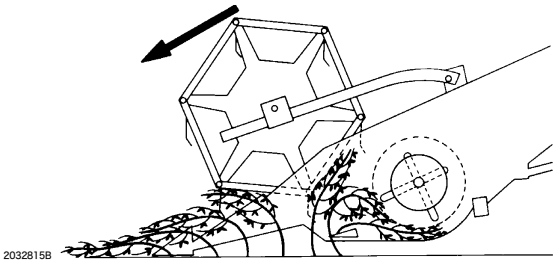


図 3-63

[重要]

- リールの位置が前すぎると、こく粒損失が増加します。また、取り込み不良が発生し、プラットホームオーガによるフィーダハウスへの送り込みが断続的になり、過負荷の原因になります。
- 麦などで向い刈り時は、リールが穂先を押し付けないようにしてください。押し付けすぎると、刈刃で穂先を切ることがあります。

9. 送塵調節レバーで、刈取るそれぞれの作物に応じた位置にセットします。
(61ページ参照)(図 3-64)

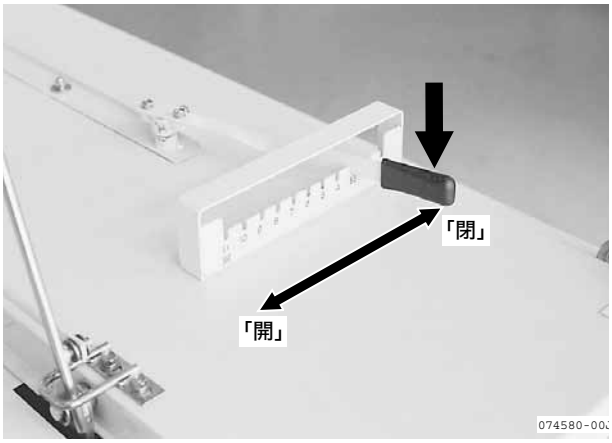


図 3-64

10. クリーンシフトレバーを「3」(標準) 位置にセットします。(61ページ参照)(図 3-65)

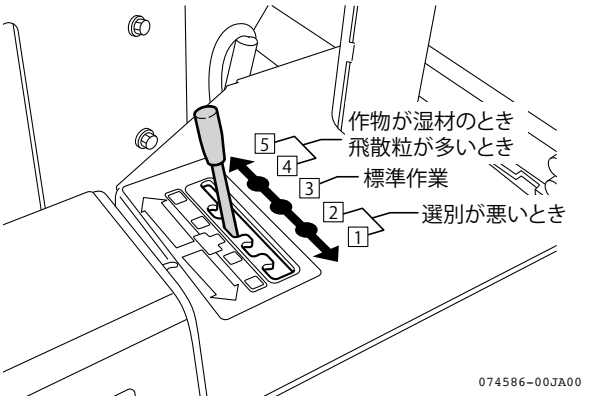


図 3-65

11. 主変速レバーを「前進」側にゆっくり動かして、刈り始めます。(図 3-66)

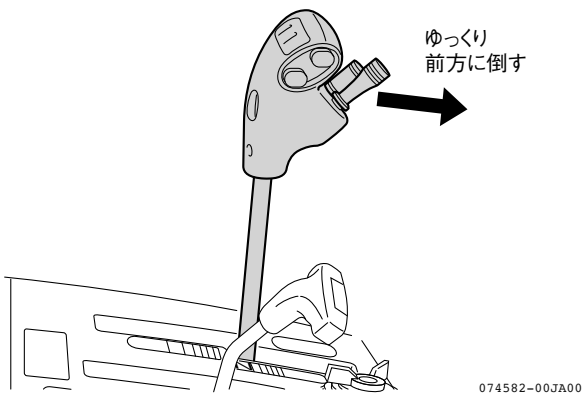


図 3-66

12. 作業状況に合わせて、コンビネーションメータの負荷率計の目盛りが「グリーンゾーン」（1）内に入るように主変速レバーで作業速度を調節します。
作物の条件によっては、主変速レバーを「F」側いっぱいまで倒しても「グリーンゾーン」内に入らない場合もありますが、問題はありません。
オーバーロードランプ （2）が点灯する場合は、主変速レバーを「N」側に戻しながら「グリーンゾーン」内に目盛りがくるよう調節します。
（図 3-67）

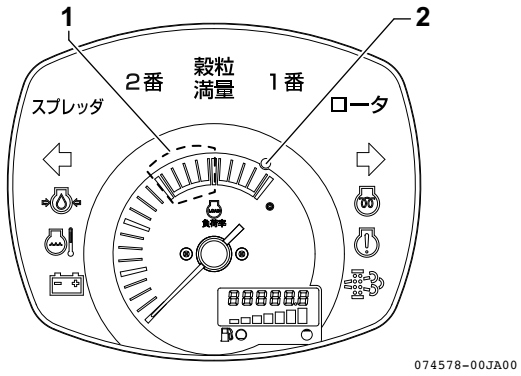


図 3-67

13. 刈り終ったら、以下の操作をしてください。
（図 3-68）
1）主変速レバーを「N」（中立）位置にします。
2）刈取クラッチレバー（1）を「OFF」位置（3）にします。
3）ロータでの作物の処理が終わってから、脱こくクラッチレバー（1）を「OFF」位置（3）にします。
4）エンジンを停止します。
（95ページ参照）
5）駐車ブレーキをかけます。
（100ページ参照）

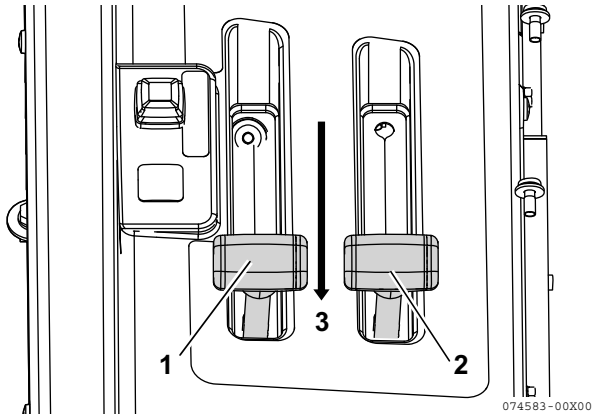


図 3-68

作業中の方向転換

刈取っている条が終り、コンバインを方向転換する場合は、刈高さ・リール前後スイッチ(1)または刈高さ調節レバーで、刈取部が刈株や排わらを引っかけない程度（10～15cm）に上げてください。
(図 3-69)（図 3-70）

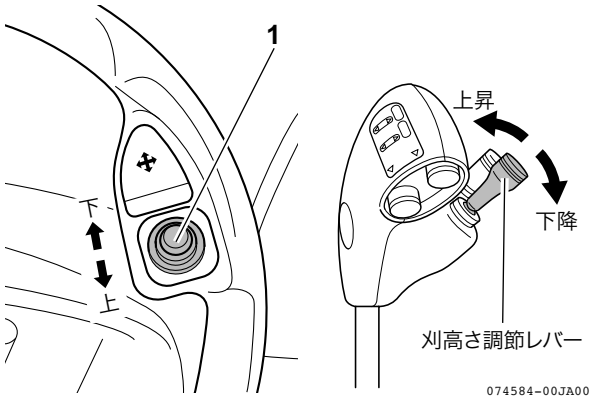


図 3-69

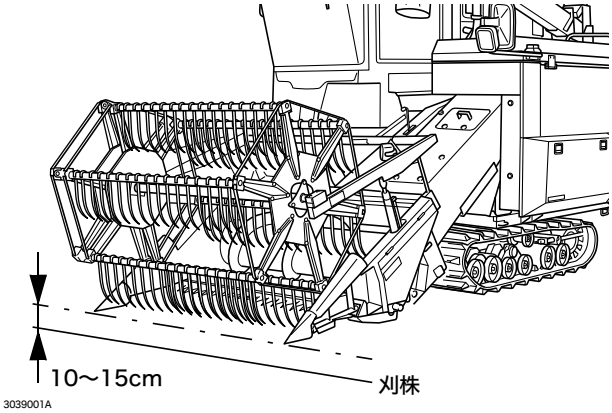


図 3-70

[重要]

- 刈取りが終了しても旋回中は、脱こくクラッチレバーを切ったり、エンジン回転を下げないでください。脱こく部では、作物の処理が続いています。
- 刈取オートリフトを使用すると、設定している刈高さに、刈取部が自動的に上昇します。
（148ページ参照）

作業速度の選びかた

作物の状態などや使用条件に合わせて、副変速レバーと主変速レバーを調節し、最適な状態で作業してください。（127ページ参照）

湿田ほ場の刈取りかた

コンバインが後傾する場合は、デバイダヘッドを下げて使用してください。（120ページ参照）

[重要]

- 超湿田作業で旋回しにくいときは、ステアリングハンドルを切りすぎていることが考えられますので、ハンドル切角度を小さくして、旋回半径を大きくとってください。
  スピンターン状態になると、思うように旋回できません。
- 湿田作業でコンバインの沈下が著しく、旋回しにくいときは、旋回モード切替ノブを「湿田モード」に切り替えてください。旋回半径が大きくなり、旋回しやすくなります。

スプレッダ(仕様･オプション)作業

スプレッダ（仕様・オプション）の使いかたについては、スプレッダ用の取扱説明書をご覧ください。

作物に合わせた収穫作業について

大豆作業の場合

- 約10m作業後に、大豆を袋取りして、汚粒がないか確認するか、グレンタンク点検窓から大豆を取り出して、汚粒がないか確認してください。
  作業の途中に、大豆を排出したときは、その都度汚粒の確認をしてください。

[重要]

- グレンタンク点検窓を開けて、大豆を取り出すときは、必ずエンジンを停止して行ってください。
- 作業中は、必ずグレンタンク点検窓を閉じてください。(図 3-71)

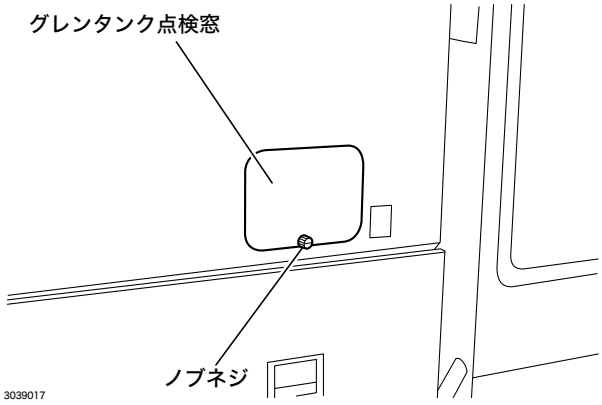


図 3-71

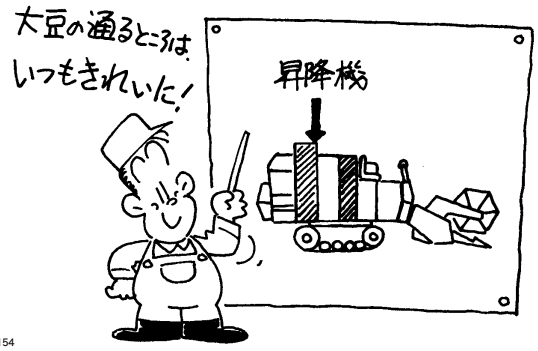


図 3-72



図 3-73



図 3-74

- 汚粒がある場合は、大豆を全て取り出して、きれいな大豆と一緒に混ぜないでください。品質低下につながります。(図 3-75)



図 3-75

- 走行位置は、本機が傾き、土に突っ込まないように両方のクローラが同じ位置を通るようにしてください。(図 3-76)

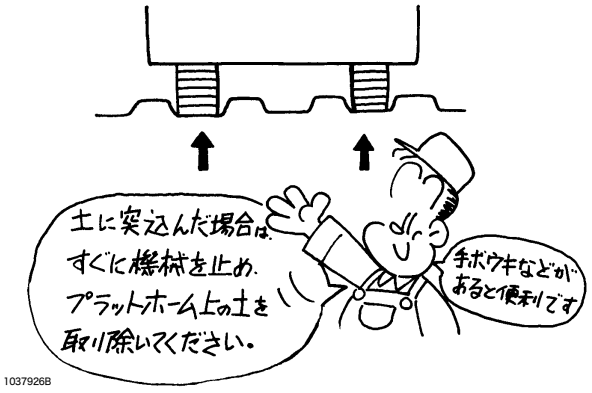


図 3-76

● 作業速度は、ヘッドロスおよび未脱粒を少なくするために、できるだけ速くしてください。
(図 3-77)

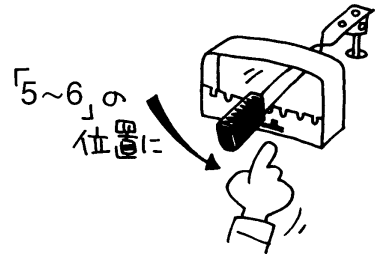


2032808C

図 3-77

● 送塵調節レバー

大豆の場合は、レバーを「5〜6」位置にしてください。「5 〜 6」でスタートし、徐々に「開」にして最適位置にしてください。また、「5 〜 6」の位置でも未脱粒が多い場合は、「閉」の方向へ調節してください。
(図 3-78)



2039151a

図 3-78

ソバ作業の場合(オプションが必要です。)

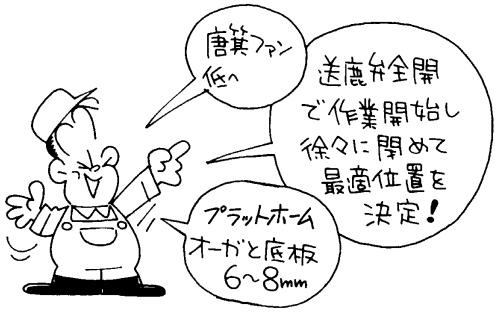
● 雑草が多い場合や慣行時期刈取りは、チャフシーブ・グレンシーブ・コーンケーブ 2 番などに詰まりやすいので注意してください。また、刈高さを高くしたほうが雑草の混入が少なくなります。
(図 3-79)



1037912C

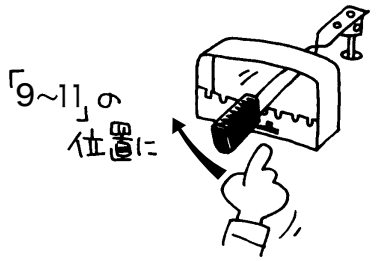
図 3-79

● こぎ残しの心配がないので、送塵調節レバーを「開」側いっぱいにして作業を開始し、徐々に「閉」側に調節してください。茎を長いまま排出する程度にしてください。「9〜11」の位置が目安です。
(図 3-80)(図 3-81)



1037924D

図 3-80



3039018

図 3-81

麦作業の場合(オプションが必要です。)

- 自脱形より2〜3日遅らせてください。(図 3-82)



図 3-82

- 作物を前方へ押倒し気味のときは、リールをいっぱいに上げてください。それでも上げ量が足らない場合は、高刈りしてください。(図 3-83)



図 3-83

- 刈幅いっぱいを低速で刈取るより、刈幅を狭くしてでも高速で刈取るようにしてください。
(図 3-84)



図 3-84

- リールを作用させすぎると、脱粒してヘッドロスが増加するため、リール回転速度・刈高さに注意してください。3〜6の位置が目安です。
(図 3-85)(図 3-86)



図 3-85

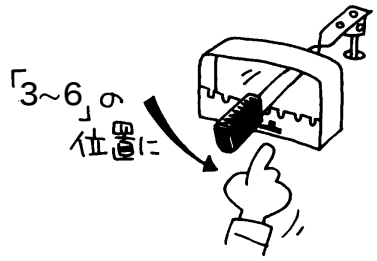


図 3-86

作物や作業条件に合わせた各部の調節のしかた

実際に作業を行っていて、次のような現象がでた場合は、説明に従って各部を調節してください。

倒伏した作物や、ロータ内で常時ゴトゴト音がする場合

送塵調節レバーを「開」側に、1ノッチずつ動かしてください。(図 3-87)

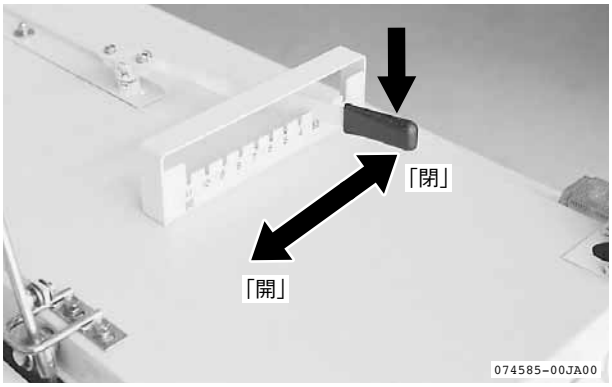


図 3-87

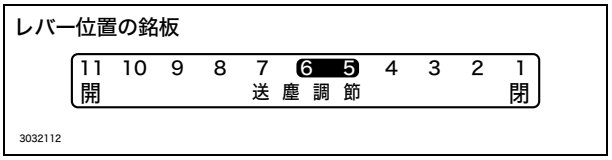


図 3-88

作物が湿材の場合

クリーンシフトレバーを「4」または「5」位置にしてください。(図 3-89)

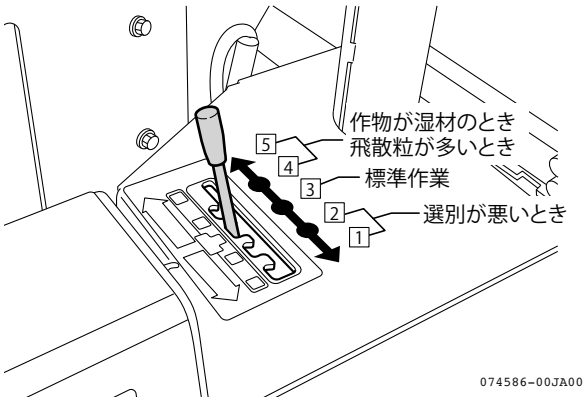


図 3-89

2番に詰まりやすい場合

チャフシーブ(1)後を「閉」側にしてください。(図 3-90)

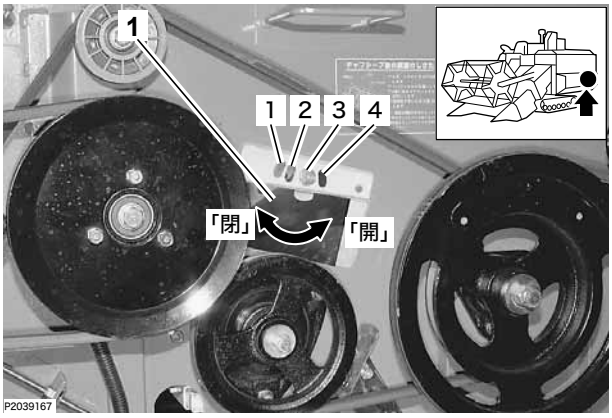


図 3-90

3番ロスが多い場合

- 乾材などで 3 番ロスが目立って多いときは、唐箕回転調節レバー(1)を「低」側にセットしてください。(図 3-91)

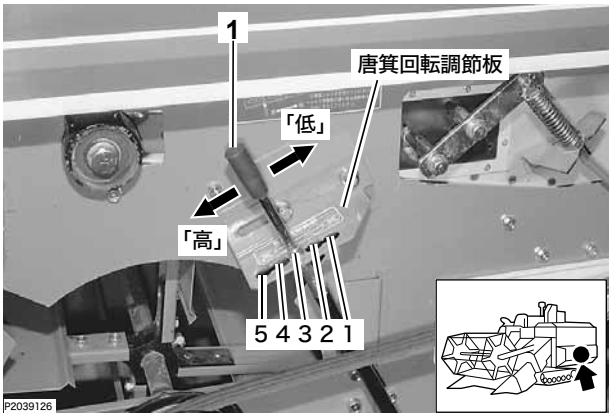


図 3-91

- クリーンシフトレバーを「4」または「5」位置にしてください。

● チャフシーブ(1)後を「開」側にしてください。

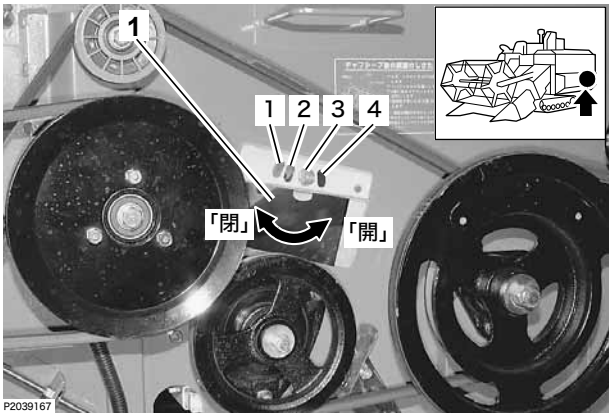


図 3-92

選別が悪い場合

● クリーンシフトレバーを「1」または「2」位置にしてください。

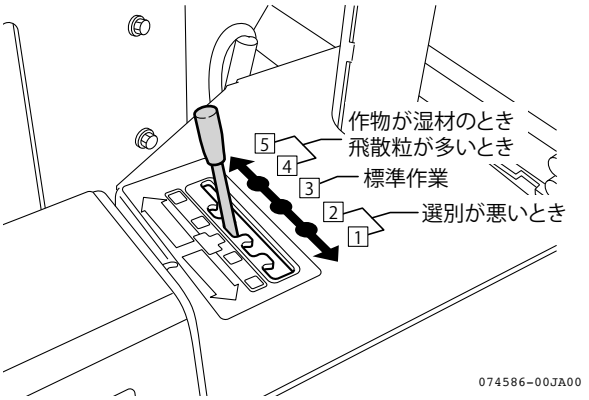


図 3-93

● 唐箕回転調節レバーを「高」側にセットしてください。(図 3-93)

[参考]

稈水分が高く、唐箕回転調節レバー (1) を「高」側いっぱいにしても選別が悪い場合は、唐箕回転調節板(2)の長穴を「高」側に調節してください。

■唐箕回転調節板の調節のしかた

1. 唐箕回転調節板(2)のナット (2個) をゆるめます。
2. 唐箕回転調節板を「高」側にいっぱいに寄せます。
3. ナット（2個）を締め付けて固定します。(図 3-94)

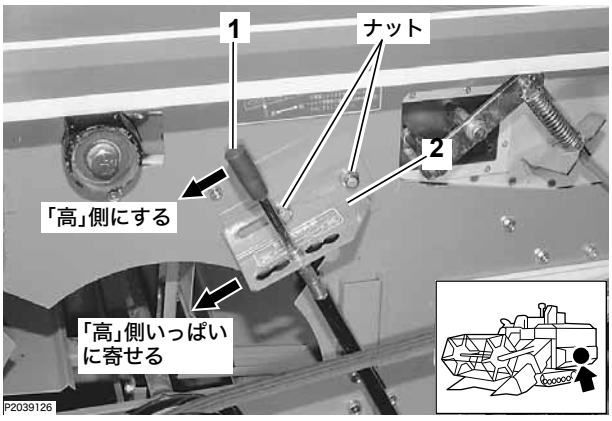


図 3-94

損傷粒が多い場合

クリーンシフトレバーを「4」または「5」位置にしてください。(図 3-95)

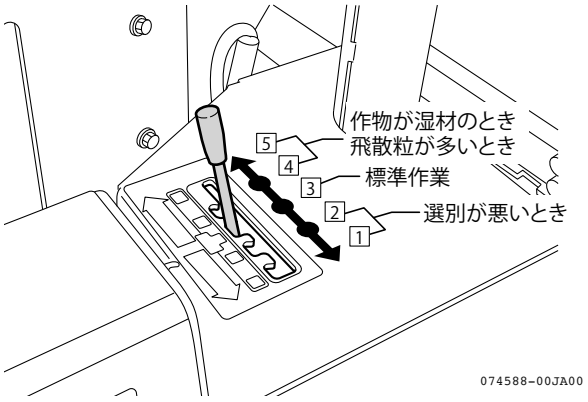


図 3-95

飛散粒(ソバ)が多い場合

唐箕回転調節レバー (1)を「低」側いっぱいにし、さらに唐箕回転調節板 (2) の長穴を「低」側にしても、飛散粒が多い場合は、唐箕シャッター (3)を取り付けてください。(図 3-96)(図 3-97)

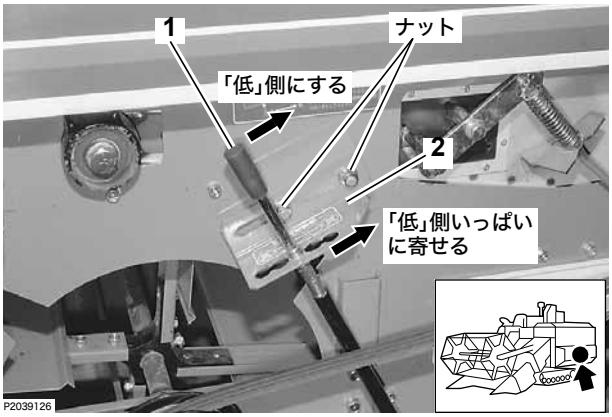


図 3-96

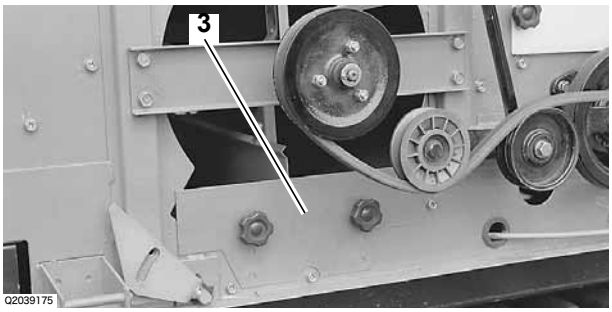


図 3-97

[参考]

唐箕シャッターは、ソバキットに入っています。

汚粒(大豆)が多い場合

汚粒（大豆）が多く出る場合は、還元板をロータ用から揺動用に組替えて、2番還元口を揺動に還元してください。

■組み替えのしかた

1. グレンタンクをオープンします。(グレンタンク仕様のみ)(174ページ参照)
2. ワンマンホッパをオープンします。(ワンマンホッパ仕様のみ)(176ページ参照)
3. ノブボルト(1) (2本) を外して、還元口ふたを取り外します。(図 3-98)

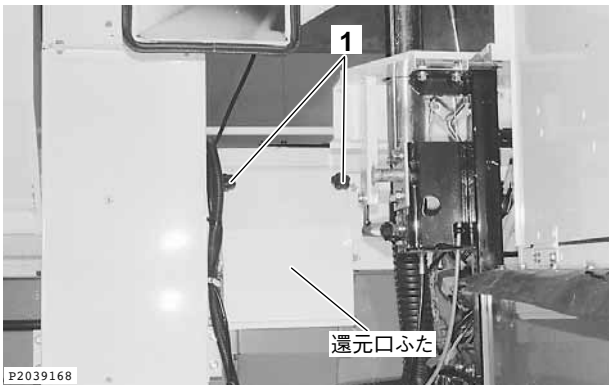


図 3-98

4. ロータ用還元板（ナット2個・ボルト2本）を取り外します。
5. 揺動用還元板 (1)（付属品として同梱）をボルト（3本）で取り付けます。(図 3-99)

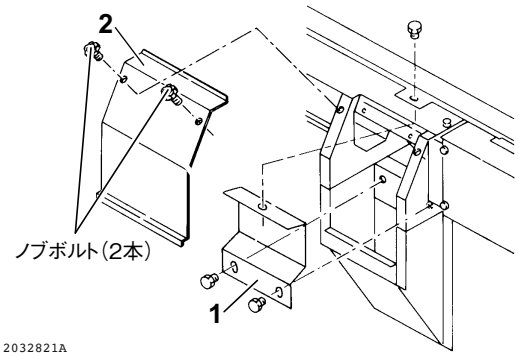


図 3-99

6. 還元口ふた (2) を取り付け、グレンタンクまたはワンマンホッパを収納します。

[重要]

取り外したロータ用還元板とボルト・ナットは、紛失しないように保管してください。

穀粒満量センサの調節のしかた（ワンマンホッパ仕様のみ）

こく粒の種類および流れ具合によって、こく粒満量センサの反応する量が異なることがあります。
タンクシグナルランプの反応が早い、または遅い場合は、こく粒満量センサの取り付け位置を変更してください。

■穀粒満量センサの調節のしかた

1. ワンマンホッパ上カバー (1)を開けます。（176ページ参照）
2. こく粒満量センサを取り付けている位置と、変更する位置を確認します。（図 3-100）

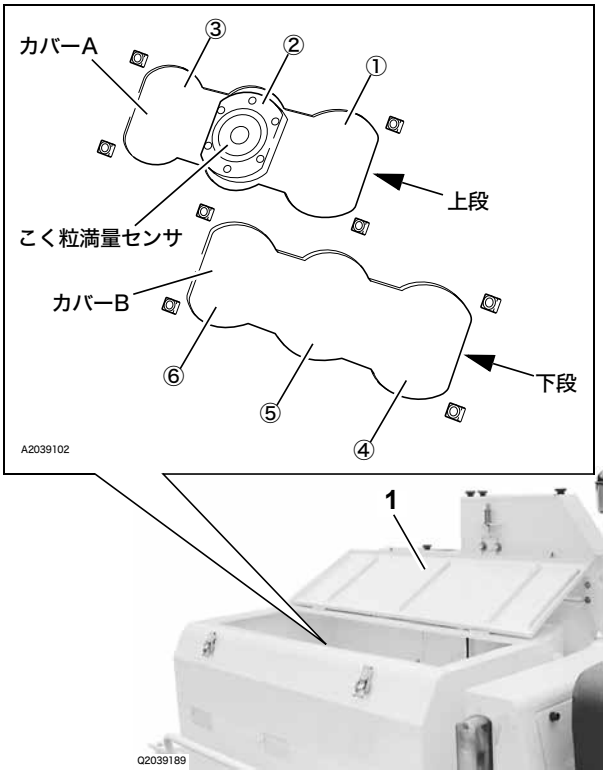


図 3-100

表 3-6 穀粒満量センサの調整

こく粒	センサ位置	状　態
大豆・麦	①	センサの反応が遅いときに取り付ける
	②	標準位置（出荷時の位置）に取り付ける
	③	センサの反応が早いときに取り付ける
ソバ	④	センサの反応が遅いときに取り付ける
	⑤	標準位置に取り付ける
	⑥	センサの反応が早いときに取り付ける

[参考]
センサの反応が遅いときとは、例えば1番パイロットランプの警報が、タンクシグナルランプより先に作動するような場合です。

3. ワンマンホッパ上カバー (1)を閉じます。
4. ワンマンホッパをオープンします。（176ページ参照）
5. 下記の要領で、センサの位置を付け替えてください。

[参考]
出荷時、カバー Aは上段（大豆・麦用）の②位置に取り付けられています。

■大豆・麦の場合

1）ワンマンホッパ背面にある、カバー A（センサ有）を取り外します。
2）センサの反応位置を、カバー Aの左右方向で調節して、①～③の位置に取り付けます。

■ソバの場合

ソバの場合は、カバー A(1)とカバー B(2)を取り替える必要があります。
1）ワンマンホッパの裏面にある、カバー A（センサ有）(1) とカバー B（センサなし）(2) を取り外します。
2）カバー A(1) を下段、カバー B(2) を上段に取り付けます。
3）センサの反応位置は、カバー A(1)の左右方向で調節して、④～⑥の位置に取り付けます。（図 3-101）

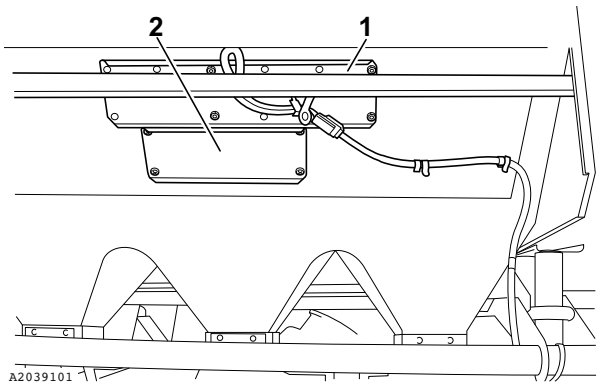


図 3-101

[参考]
前記 2. で確認した位置と左右方向が逆になります。注意してください。

6. ワンマンホッパを収納します。

グレンセンサの調節のしかた（グレンタンク仕様のみ）

グレンタンクのこく粒充填量は、タンク内のグレンセンサで行っています。グレンセンサは、タンク内のこく粒充填量を感知し、タンクシグナルランプの「3/3」の点滅および警報ブザーを鳴らします。
タンクシグナルランプの「3/3」が点滅し、警報ブザーが鳴っているのに、タンク内のこく粒充填量が少ない場合は、以下の要領で調節してください。

■調節のしかた

1. キャップ開閉カバー (1)を開きます。
（図 3-102）

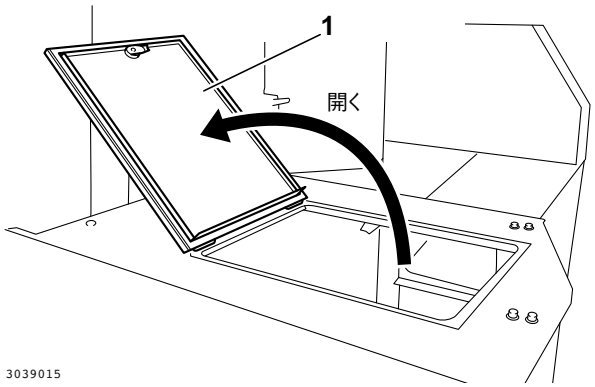


図 3-102

2. グレンタンクをオープンします。
（174ページ参照）

3. 取付ボルト (1)（4 本）を外して、グレンセンサ (2)を上下に調節します。（図 3-103）
● 充填量に余裕がある場合…取付位置を上げる。

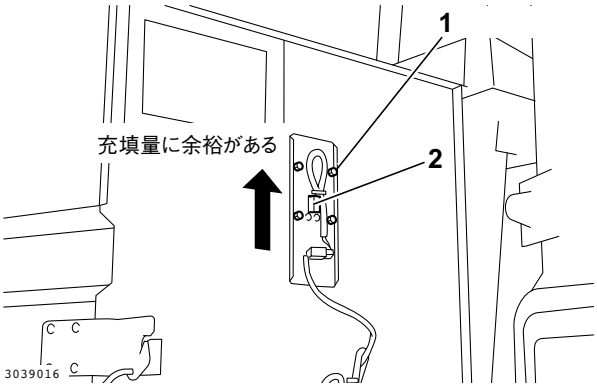


図 3-103

4. 取付ボルト(1)（4本）で締め付けて固定します。

[重要]
キャップ開閉カバーは、確実に閉めてください。開いていると、こく粒もれの原因になります。

排出コンベア受継部センサの調節のしかた（グレンタンク仕様のみ）

受継コンベアにこく粒が詰まった場合は、排出コンベア受継部センサ (2) が反応してベルトが停止します。エンジンを停止して、受継コンベア内の掃除をしてください。（192ページ参照）
稈や夾雑物を取り除いても、たびたび受継部センサが反応する場合は、センサの取付位置を調節して、センサの反応するタイミングを調節してください。

1. 取付ナット(1)（4個）をゆるめます。
2. 取付位置を以下の状態を踏まえて、上下に調節します。
   - ●センサの反応が早い…取付位置を上げる（反応が遅くなる）
   - ●センサの反応が遅い…取付位置を下げる（反応が早くなる）
3. 取付ナット(1)（4個）を締め付けて固定します。（図 3-104）

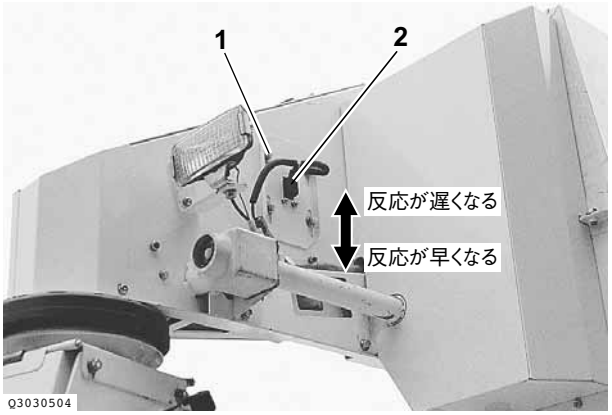


図 3-104

作物別標準調節表

表 3-7 作物別標準調整表

項目		作物			
		大豆	ソバ	麦	小豆
コーンケーブ		コーンケーブ パイプ21	コーンケーブ パイプ21	麦用コーンケーブ □16	コーンケーブ パイプ21
ロータ回転数		385rpm	385rpm	805rpm	385rpm
グレンシーブ		φ15	φ9	φ15	φ15
送塵弁		5〜6	9〜11	3〜6	8〜11
		ロスの出ない限り「開」の方向にする。			
チャフシーブ前 （クリーンシフト）		3〜5	3〜5	3〜5	3〜5
		稈切れが多いときは「低」、ロスの多いときは「高」の方向にする。			
チャフシーブ後 （2番チャフシーブ）		2・3	1・2	3・4	2・3
		2番に詰まりやすいときは「閉」、ロスの多いときは「開」の方向にする。			
	唐箕回転調節レバー	1〜5	1・2	1・2	1〜5
	唐箕回転調節板	長穴「高」	長穴「低」	長穴「高」	長穴「高」
	唐箕ファン	選別が悪いときは「高」、ロスの多いときは「低」の方向にする。	「低」位置でもロスの多いときは、シャッタを追加する。	選別が悪いときは「高」、ロスの多いときは「低」の方向にする。	選別が悪いときは「高」、ロスの多いときは「低」の方向にする。

注1.この表は、標準的な調節基準です。作物条件によって変わります。

2.小豆・ソバ・麦仕様に変更する場合は、専用部品が必要です。

3.唐箕回転調節板を、コンバイン前方にスライドさせると「高」位置で、後方にスライドさせると「低」位置です。

定置脱こくのしかた

⚠ 危　険

サヤくずおよびワラくずなどが堆積している付近に機械を止めて、定置脱こくしないでください。マフラーの熱でサヤくずおよびワラくずが高温になり火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- 定置脱こくするときは、必ず刈刃・リールクラッチレバーを「切」位置にしてください。「入」位置のままだと、リールに巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 定置脱こくをするときは、必ず刈取オートクラッチスイッチを「切」（ランプ消灯）にしてください。「入」（ランプ点灯）のままだと、プラットホームオーガ、リール、刈刃が急に回りだし巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. 刈刃・リールクラッチレバーを「切」位置にします。（図 3-105）

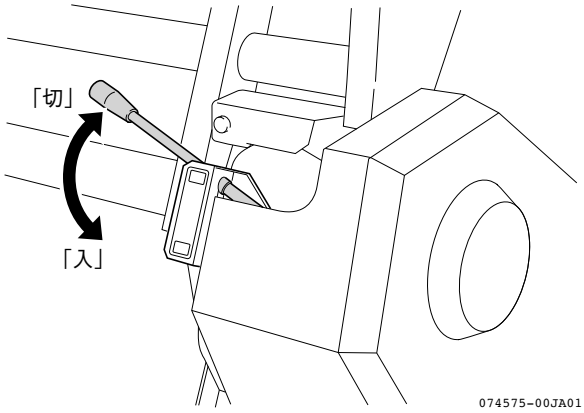


図 3-105

2. エンジンを始動します。
（93ページ参照）
3. 駐車ブレーキをかけます。
（100ページ参照）
4. 刈取オートクラッチスイッチ (1) を押して「切」（ランプ消灯）にします。（図 3-106）

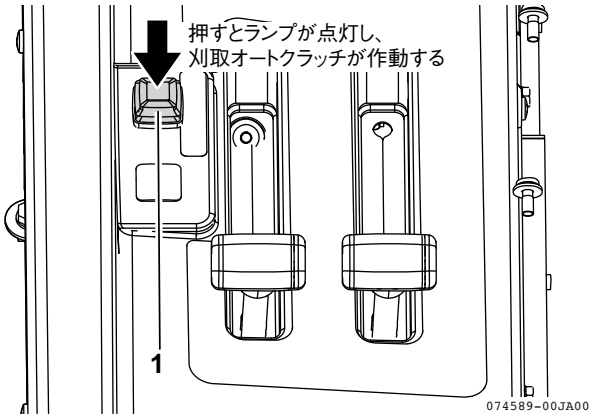


図 3-106

5. 刈高さ・リール前後スイッチ(1)を「下」側、または刈高さ調節レバー (2)を「下降」側にしてください。刈取部が下がります。（図 3-107）

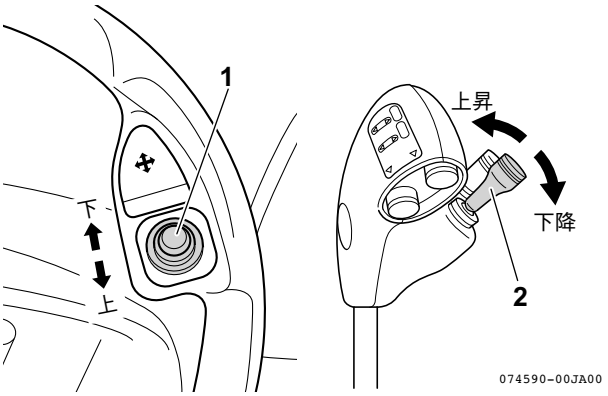


図 3-107

6. リール高さ調節レバーを「上昇」側にしてください。リールを最上げ位置にします。（図 3-108）

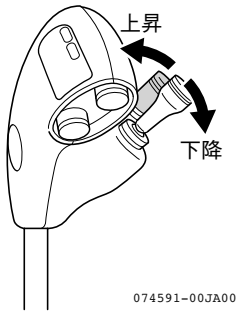


図 3-108

7. 刈高さ・リール前後スイッチの「後」側を押してください。リールを最後方位置にします。（図 3-109）

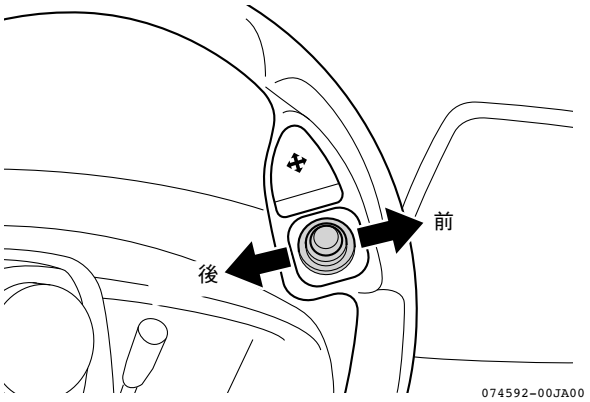


図 3-109

8. 刈取クラッチレバー（1）と脱こくクラッチレバー (2) を「ON」位置 (3) にします。(図 3-110)

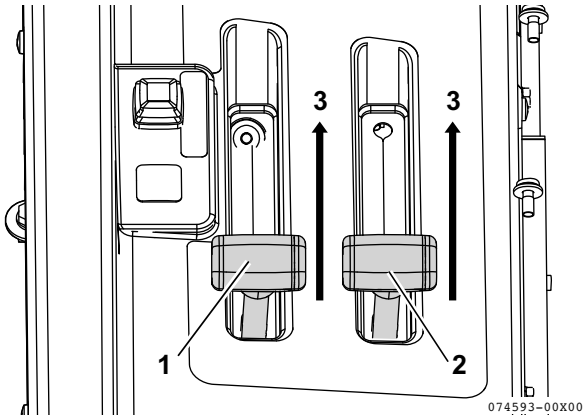


図 3-110

9. 副変速レバー (2)を「N」（中立）位置にします。

10. 主変速レバー (1) を少し「前進」側に倒します。（図 3-111）

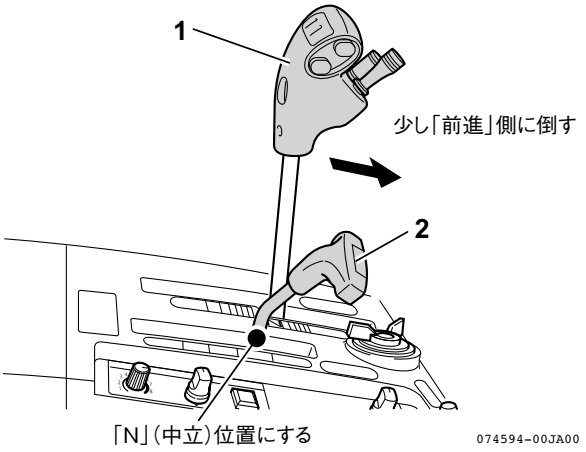


図 3-111

11. 作物を少量ずつ抱いて、プラットホームに投げ込みます。

[重要]

定置脱こくを行う場合は、ひとかかえの作物の手こぎを、同じ場所で 3 回以上行わないでください。稈が詰まり、排出部が破損するおそれがあります。

12. 作業が終了したら、主変速レバーを「N」(中立) 位置にして、刈取クラッチレバー・脱こくクラッチレバーを「OFF」位置にします。
13. エンジンを停止します。
14. コンバインを元の状態に戻します。

警報装置が作動したときの処置のしかた

⚠ 警　告

- 詰まりなどを取り除く場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- コンベア部・チェン部に手を入れないでください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- スプレッダ仕様の清掃は、回転刃に十分注意してください。回転刃へのわらの巻き付きや詰まりを取り除くときは、厚手の手袋を着用し、少しずつ取り除いてください。素手で取り除くと、刃先に触れて傷害事故を引き起こすおそれがあります。

コンビネーションメータのモニターランプが点灯したとき、およびブザーが鳴ったときは、異常箇所を確認して、つぎの表の処置を行ってください。(図 3-112)

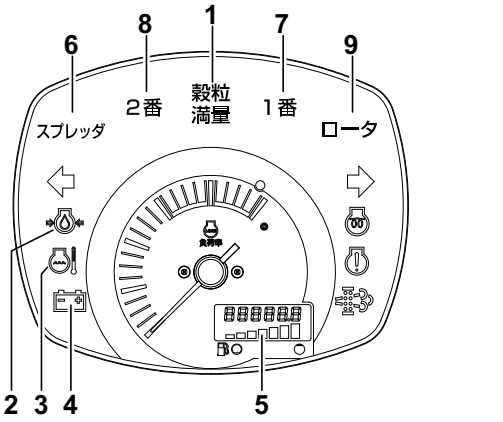
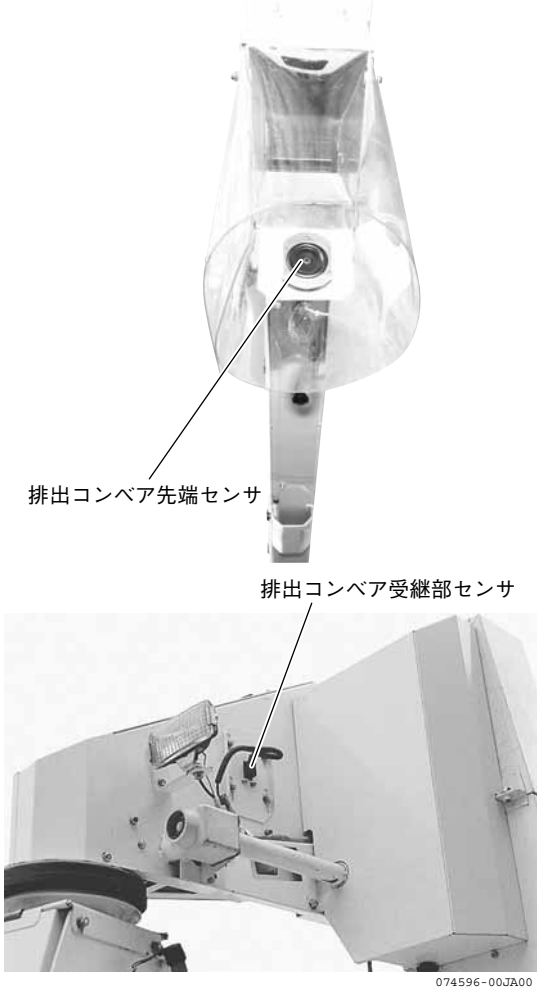


図 3-112

表 3-8 警報装置動作の処理

	名称	ランプ	ブザー	処置	点検・整備箇所
1	穀粒満量	点滅	断続	グレンタンク内にこく粒が充満しています。作業を中止し、こく粒を排出してください。	
2	油圧	点灯	連続	キースイッチが「入」位置で点灯し、エンジン始動と共に消えるのが正常です。運転中の点灯は、オイル量が正常か点検をして補給してください。	● エンジンオイル不足 ● オイル粘度低下
3	水温	点灯	連続	エンジンを停止し、冷却水が不足している場合は、エンジンが冷えてから補水してください。	● ファンベルトのゆるみ ● 水漏れの有無 ● エンジン防塵装置のごみの掃除
4	チャージ	点灯	連続	キースイッチが「入」位置で点灯し、エンジン始動と共に消えるのが正常です。運転中の点灯は、バッテリーへ充電されていません。充電回路の異常を調べてください。	● バッテリー充電 ● ファンベルトのゆるみ
5	燃量	点滅	断続	燃料を補給してください。	
		点滅	–	燃料センサとメータ間で断線しています。断線箇所を調べてください。	● コネクタの抜け
6	スプレッダ	点灯	連続	スプレッダ(仕様・オプション)の詰まりです。掃除を完全にしてください。 スプレッダなしの作業の場合は、センサカプラが外れていますので、ダミーカプラに接続してください。	● センサカプラの接続確認
7	1番	点灯	連続	パケットコンベアとグレンタンクの、およびワンマンホッパの詰まりです。掃除を完全にしてください。	
8	2番	点灯	連続	2番スラットコンベアの詰まりです。掃除を完全にしてください。(185ページ参照)	● センサカプラの接続確認
9	ロータ	点灯	連続	エンジン負荷が過負荷になっています。速度を落としてください。	

	名　　称	ランプ	ブザー	処　　置	点検・整備
10	排出 コンベア	消灯	連続	排出コンベア、または受継コンベアにこく粒が詰まって、ベルトが停止しています。 エンジンを停止して、作業を中止し、排出コンベア、または受継コンベア内を掃除してください。 (192ページ参照) コンベア内の詰まりは、センサ部で感知しています。  図 3-113	

自動装置について

自動装置について説明します。自動装置を使って、能率の良い作業を行ってください。

Eモードスイッチ

⚠ 注　意

あぜ越えや刈取部の脱着、トラックへの積み・降ろしをするときは、必ずを「OFF」位置にしてください。が「ON」位置になっていると、アクセルダイヤルで、エンジン回転の調節ができません。

エンジン回転を、自動制御したいときに使用します。

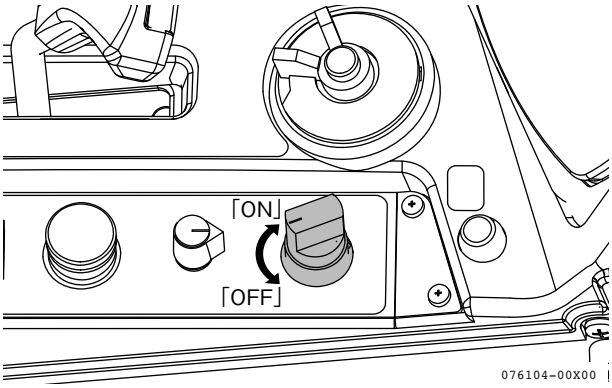


図 3-114

「OFF」位置……アクセルダイヤルでエンジン回転を調節できます。

「ON」位置…… 作業負荷が変動（負荷率 100% 未満）しても、エンジン回転数を定格回転数に保ちます。

■自動定回転制御機能

作業負荷率が変動（負荷率が100%未満）しても、エンジン回転数を定格回転数（回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置）に保ちます。

■オートデセル機能

Eモードスイッチが「入」（Eモードランプ点灯）状態で、つぎの条件のときに、自動的にエンジン回転がエンジン負荷率計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置になり、それ以外はアイドリング（1300rpm）回転数になります。

- 脱こくクラッチレバーが「OFF」位置のときに、前進または後進したとき
- 排出クラッチレバーを「ON」位置にしたとき
- 排出自動旋回中（グレンタンク仕様のみ）
- 排出コンベア先端のコンベアクロスレバーを上昇位置にしたとき

[参考]

Eモードスイッチが「ON」位置のとき、脱こくクラッチレバーが「OFF」位置でも、コンバインが停止してから５秒間は定格回転のままです。５秒後に、自動的にローアイドリング（低回転）に戻ります。

刈取オートリフト･刈取オートセット装置

⚠ 注　意

- 刈取クラッチレバーが「ON」位置で、刈高さ切換レバーが「作業」位置（オートセットのみ）のときは、コンバインが停止していても、オートリフトボタンを押すと、刈取部が上昇します。また、オートセットボタンを押すと、刈取部が下降します。周囲の安全を確認してから、オートリフトボタンおよびオートセットボタンを押してください。
- エンジンが停止している場合でも、刈取クラッチレバーとキースイッチが「ON」位置にあると、オートリフト・オートセットボタンを押したときに刈取部が下降することがあります。周囲の安全を確認し、操作を行ってください。

[参考]

刈取オートリフト装置

…取クラッチレバーが「ON」位置のときに、オートリフトボタンを押すと、刈取部を設定高さまで上昇させる装置です。

刈取オートセット装置

…取クラッチレバーが「ON」位置のときに、オートリフトボタンを押すと、刈取部を設定高さまで上昇させる装置です。

■操作のしかた

1. 刈高さ切換レバー (1) を「作業」位置にします。（レバーは押し込みながら操作してください。）（図 3-115）

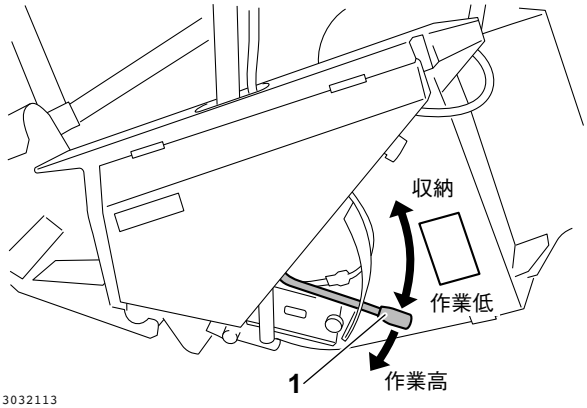


図 3-115

2. エンジンを始動します。（93ページ参照）
3. 脱こくクラッチレバー (1)・刈取クラッチレバー (2)を「ON」位置(3)にします。（図 3-116）

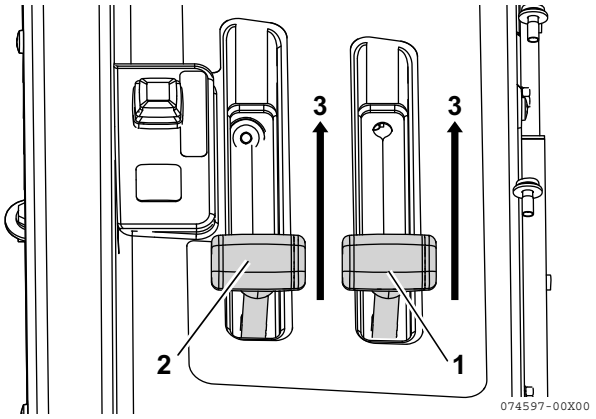


図 3-116

4. オートリフトボタンを押します。刈取部が設定された高さまで上昇します。（オートリフトの高さは、「オートリフト高さの設定のしかた」（151ページ参照）に従って設定してください。）（図 3-117）



図 3-117

5. オートセットボタンを押します。（図 3-118）



図 3-118

6. 刈高さ調節ダイヤルをゆっくり回して、希望の刈高さに設定します。(図 3-119)

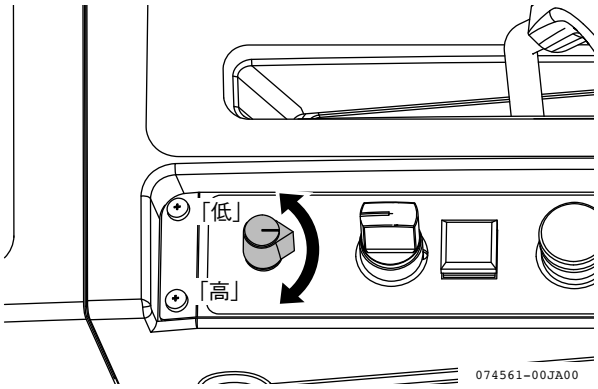


図 3-119

7. 自動刈高さスイッチ(1)が「自動」位置のときは、刈取部を設定した高さにセットし、自動刈高さ制御を開始します。(自高ランプは点灯します。)(図 3-120)

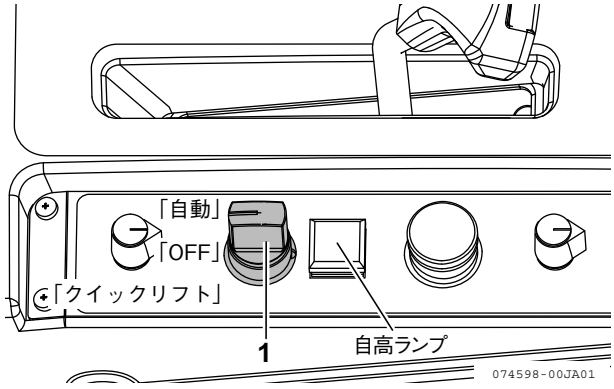


図 3-120

[参考]

- 自動刈高さスイッチが「自動」位置以外の場合は、以下の作動を行います。
  - ・「クイックリフト」位置……センサソリが刈高さ調節ダイヤルで調節した高さ以下になったときに、自動的に刈取部を上昇します。
  - ・「OFF」位置……刈取部をセンサソリが地面に接地するまで下降します。

- 刈高さ調節ダイヤルの調節範囲は下図の通りです。(図 3-121)

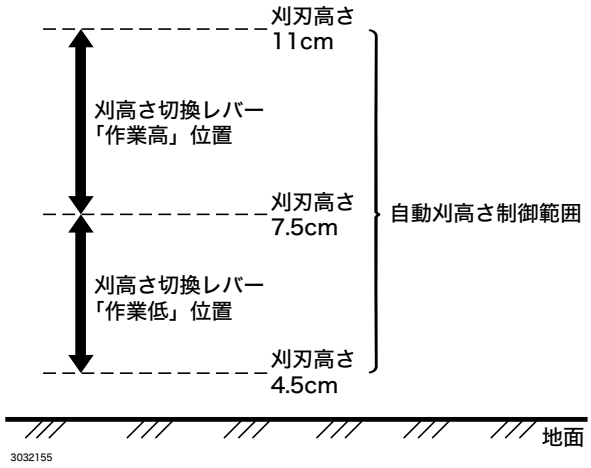


図 3-121

- 自動制御中に手動操作を行い、センサソリが接地からフリー状態(地面から離れる)になると、自高ランプが点灯から点滅に変わり、自動制御は中断されます。自動制御(自高ランプ点灯)に戻すためには、オートセットボタンを押すと復帰します。

■刈取オートクラッチ機構について

刈取オートクラッチ機構とは、刈取オートクラッチスイッチが「入」(ランプ点灯)で、刈取部が駆動している状態のときに、オートリフトボタンで刈取部を上昇させると、刈取部の駆動が自動的に止まり、また、オートセットボタンで刈取部を下降させると、刈取部が自動的に駆動する機構です。

■オートセット高さの設定のしかた

オートセットで、下降する刈取部の高さを設定することができます。

1. 刈高さ切換レバー (1)を「作業」位置にします。（レバーは押し込みながら操作してください。）（図 3-122）

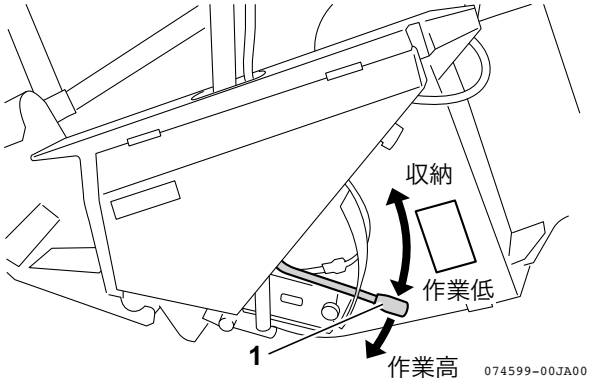


図 3-122

2. エンジンを始動します。（91ページ参照）
3. 脱こくクラッチレバー (1)・刈取クラッチレバー (2) を「ON」位置 (3) にします。(図 3-123)

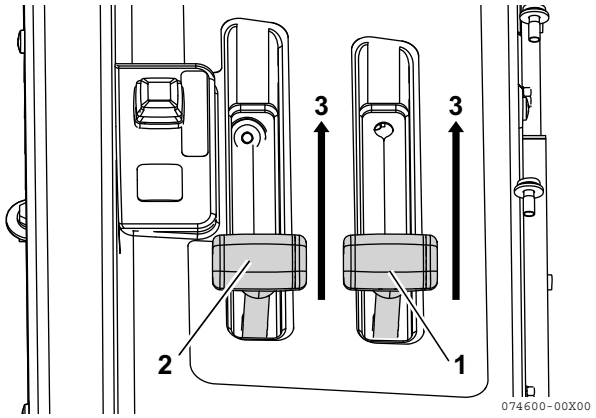


図 3-123

4. 自動刈高さスイッチ(1)を「自動」位置（自高ランプ点灯）にします。(図 3-124)

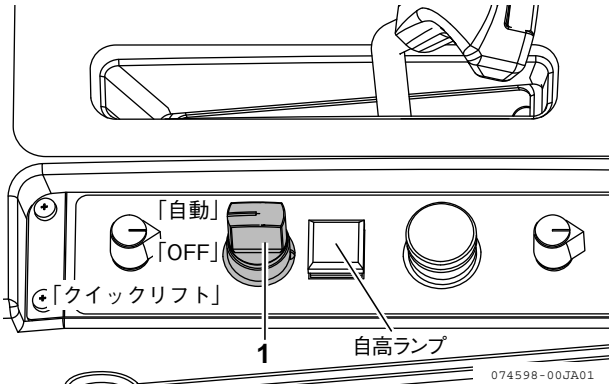


図 3-124

5. オートセットボタンを押して刈取部を下げます。
6. 刈高さ調節ダイヤルをゆっくり回して、希望の刈高さに設定します。(図 3-125)

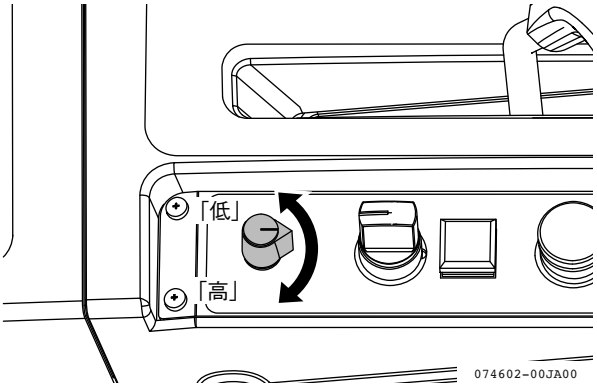


図 3-125

■オートリフト高さの設定のしかた

1. ロータカバーをオープンします。
   (173ページ参照)
2. 刈取部高さ検出センサ(1)の取付ボルト (2本) (2)をゆるめて、刈取部高さ検出センサを左右にスライドして調節します。(図 3-126)

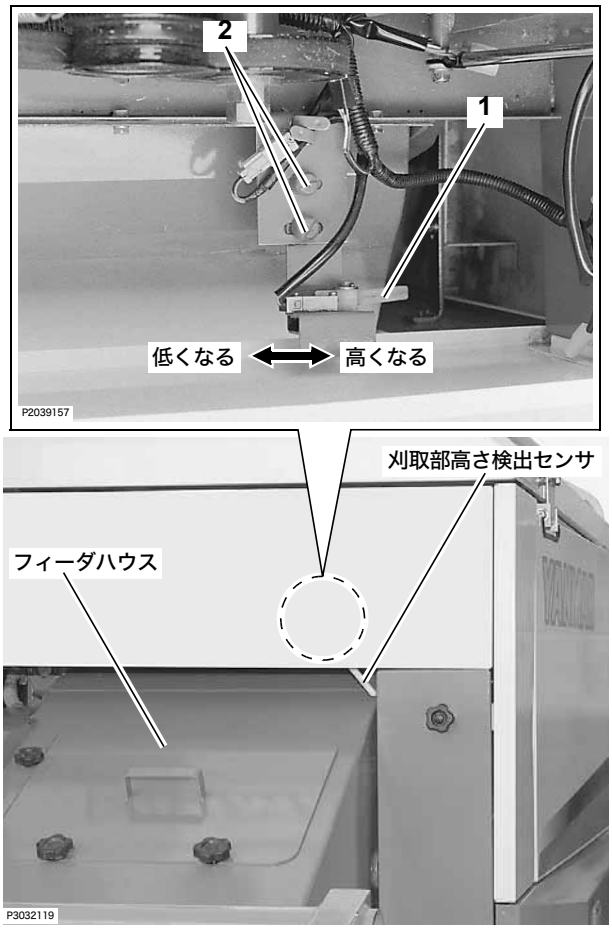


図 3-126

3. ロータカバーを閉じます。

刈高さ自動制御装置

⚠ 注 意

エンジンが停止している場合でも、刈取クラッチレバーとキースイッチが「OFF」位置のときに、自動刈高さスイッチが「自動」位置にあると刈取部が下降することがあります。周囲の安全を確認し、操作を行ってください。

刈高さ自動制御装置とは、希望の刈高さをセットすると、刈取部のセンサソリによって、刈取部の高さを感知し、ほ場の条件が変化しても希望の刈高さに自動調節する装置です。刈刃高さは、地面から4.5～11cmの範囲です。

〈操作のしかた〉

1. 刈高さ切換レバー (1)を「作業」位置にします。
   (レバーは押し込みながら操作してください。)
   (図 3-127)

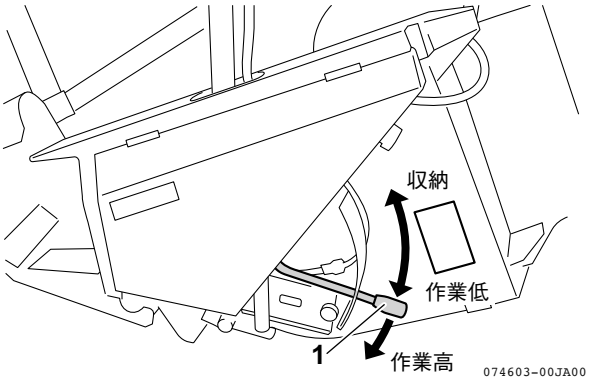


図 3-127

2. エンジンを始動します。
   (91ページ参照)

3. 脱こくクラッチレバー (1)・刈取クラッチレバー (2) を「ON」位置 (3) にします。(図 3-128)

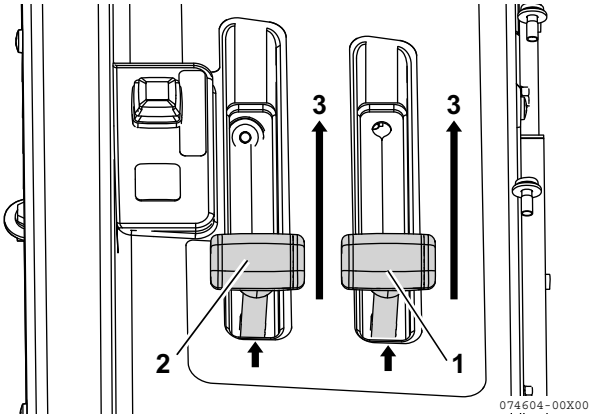


図 3-128

4. 自動刈高さスイッチ(1)を「自動」位置にします。刈取部のセンサソリが地面に接地していれば、自高ランプが点灯し、自動制御が働きます。(図 3-129)

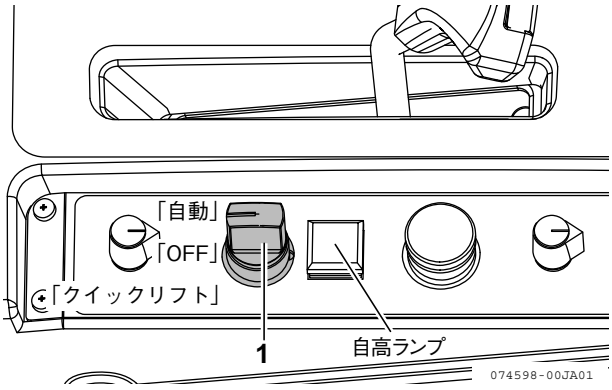


図 3-129

[参考]

- 自高ランプが点滅になっている場合は、自動制御は働きませんので、以下の操作を行ってください。
- オートセットボタン(1)を押すか、刈高さ・リール前後スイッチまたは刈高さ調節レバー(2)で、刈取部のセンサソリが接地するまで刈取部を下げてください。自高ランプが点灯し、自動制御が働きます。(図 3-130)

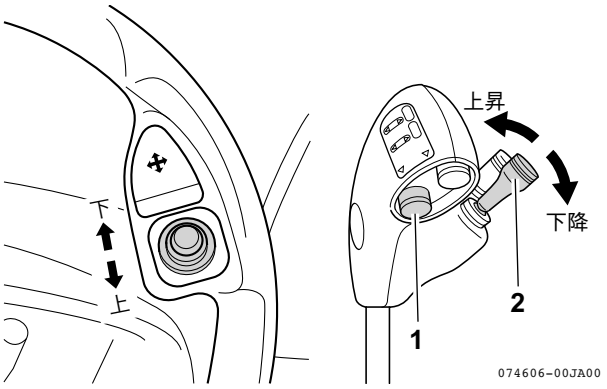


図 3-130

5. 刈高さ調節ダイヤル(1)をゆっくり回して、刈取部を希望の刈高さに設定します。刈取作業を始めると、自動的に刈高さが調節されます。(図 3-131)

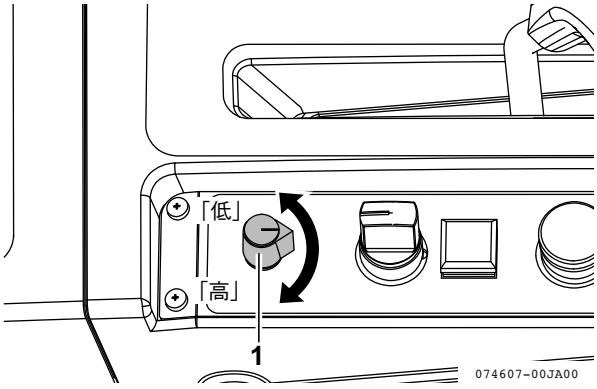


図 3-131

[参考]

- 自動刈高さスイッチが「自動」位置（自高ランプ点灯）のときに、刈高さ・リール前後スイッチまたは刈高さ調節レバーを操作すると、手動優先装置が働き、刈取部の昇降が行えます。

- 手動優先装置が働いて、刈取部のセンサソリが接地からフリー状態（地上から離れる）になると、自高ランプが点滅に変わり、自動制御は中断されます。
  自動制御（自高ランプ点灯）に戻すためには、オートセットボタンを押すか、刈高さ・リール前後スイッチまたは刈高さ調節レバーで、刈取部のセンサソリが接地するまで、刈取部を下げてください。

[重要]

- 刈取作業時は、刈高さ切換レバー (1)を「作業」位置にしてください。「収納」位置で使用すると、自動装置が正しく働きません。（図 3-132）

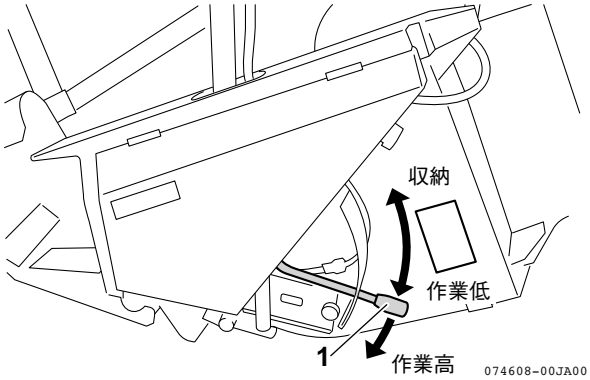


図 3-132

- 刈高さ切換レバー (1) が「収納」位置のときは、オートセットボタンを押さないでください。オートセットボタンを押すと、刈取部が下降し続け、破損する原因になります。刈高さ・リール前後スイッチまたは刈高さ調節レバー (1) で刈取部を昇降してください。（図 3-132）

- 刈高さセンサソリ(1)に稈切れ・雑草がからんだり泥が詰まっていると、適正な制御が行われないことがあるので、必ず取り除いてください。
  （図 3-133）

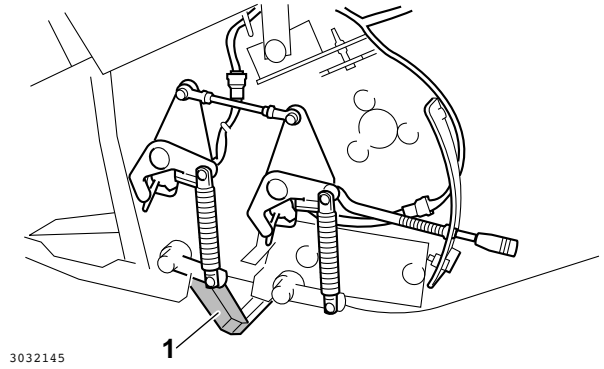


図 3-133

- コンバインを水洗いする場合は、スイッチ・パネル・コントローラ付近に水がかからないように注意してください。

⚠ 注　意

移動走行時は、必ず自動刈高さスイッチを「OFF」位置（自高ランプ消灯）にしてください。移動走行するときに刈高さ自動装置が働くと、刈取部が勝手に昇降して、障害物に接触し、破損によりけがをするおそれがあります。

刈取バックアップ装置

刈取バックアップ装置とは、重大な事故を防止するための補助的な装置です。刈取クラッチレバー「ON」位置、自動刈高さスイッチ「自動」位置で自高ランプが点灯のとき、コンバインを後進すると、センサソリがフリー状態になる位置まで刈取部が上昇し、その後30cm後進すると、オートリフト高さまで上昇します。
自高ランプが点滅のときは、コンバインが30cm後進すると、オートリフト高さまで上昇します。

[重要]

後進するときは、周囲の状況に注意して、刈取部を上昇させてから後進してください。

車高水平制御装置

■機体平行制御について

⚠ 注 意

移動走行時、およびトラックなどへの積み・降ろしをする場合は、必ず脱こくクラッチレバー・刈取クラッチレバーを「OFF」位置にし、水平自動切替スイッチを「切」（水平自動ランプ消灯）にして、車高を最下位置にしてください。機械が急に傾いて転倒し、けがをするおそれがあります。

- 脱こくクラッチレバーを「ON」位置にしたり、水平自動切替スイッチを「機体平行」位置（水平自動ランプ点灯）にしたときに、コンバインが昇降することがあります。周りに障害物がないことを十分に確認してから操作を行ってください。
- 自動制御中に手動でコンバインの角度や車高を変更したときは、水平自動ランプは消灯します。

機体平行制御は、ほ場の条件が変化しても、常にコンバインを水平に保つ装置のことです。また、傾斜角調節ダイヤルにより、コンバインを希望の角度に調節できるので、精度の高い刈取作業が行えます。車高調節レバーにより、平行制御の基準位置を変更できます。

〈操作のしかた〉

1. エンジンを始動します。
   （91ページ参照）
2. 水平自動切替スイッチ(1)を「機体水平」位置にします。（図 3-134）

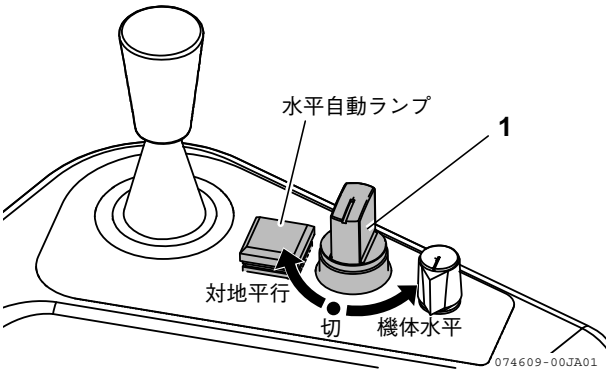


図 3-134

3. 傾斜角調節ダイヤル(1)を「水平」位置にします。（図 3-135）

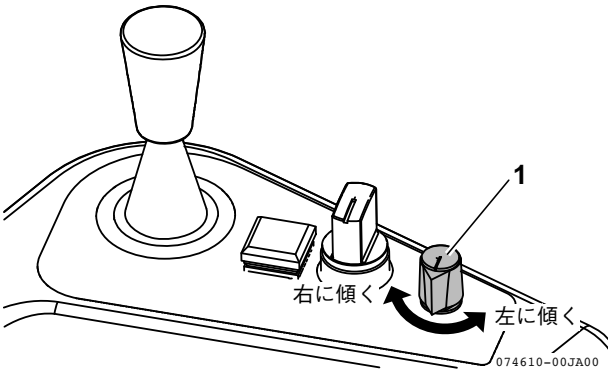


図 3-135

4. 脱こくクラッチレバー（1）を「ON」位置（2）にします。（図 3-136）

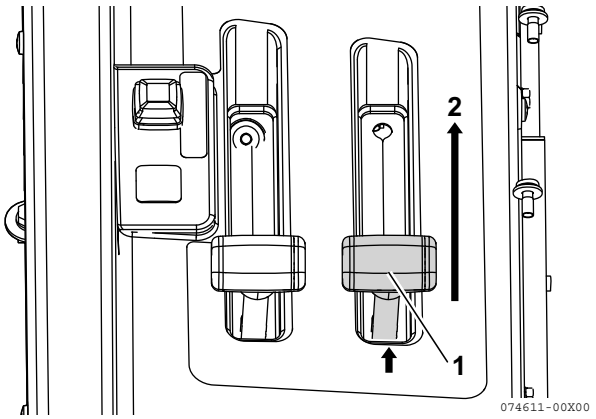


図 3-136

5. コンバインを左に傾斜させたいときは、傾斜角調節ダイヤル(1)をゆっくり側へ回し、右に傾斜させたいときは側へ回します。（図 3-137）

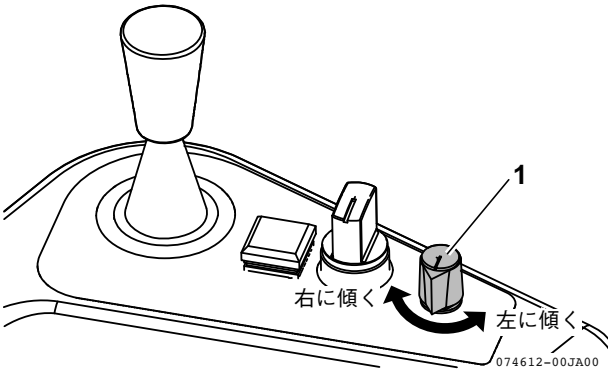


図 3-137

6. コンバインの車高を調節するときは、車高調節レバーを前後に操作します。（このとき、機体平行制御は左側の車高（機体平行制御の基準高さ）を保持するように行われます。）

[参考]

- 機体平行制御には、手動優先回路が組み込まれているので、自動制御中でも車高調節レバー(1)を操作すると、手動でコンバインの角度変更や昇降が行えます。（図 3-138）

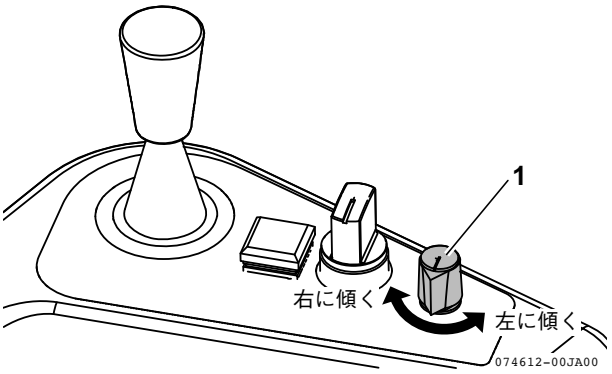


図 3-138

- 機体平行制御は、自動・手動ともに左右のクローラの高さを上下することで傾きを制御しています。
- 脱こくクラッチレバーを「OFF」位置にすると、元の高さの20 %の位置まで下降します。その後、再び脱こくクラッチレバーを「ON」位置にすると、水平自動切替スイッチが「機体平行」位置（水平自動ランプ点灯）のときは、コンバインが元の高さ（最後に車高調節レバーで車高を調節した高さ）に戻ります。

[重要]

- 車高検出センサ(1)に稈切れ・雑草がからんだり泥が詰まっていると、適正な制御が行われないことがあるので、必ず取り除いてください。
（図 3-139）

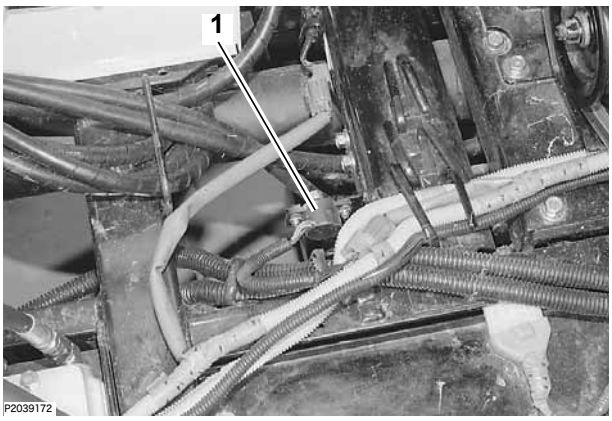


図 3-139

- コンバインを水洗いする場合は、スイッチ・パネル・コントローラ付近に水がかからないように注意してください。

■対地平行制御について

⚠ 注　意

移動走行時、およびトラックなどへの積み・降ろしをする場合は、必ず脱こくクラッチレバー・刈取クラッチレバーを「切」位置にし、水平自動切替スイッチを「切」(水平自動ランプ消灯)にして、車高を最下位置にしてください。機械が急に傾いて転倒し、けがをするおそれがあります。

対地平行制御は、ほ場の条件が変化しても、刈高さセンサソリが地面に接地しているときに、常にコンバインを地面に対して平行に保つ装置のことです。刈高さ自動制御装置と合わせて使用すると、コンバインが傾いたり、左右のうねの高さが異なったりしても、左右の刈高さが一定に保たれますので、精度の高い刈取作業が行えます。
刈高さ自動制御を使用しないときにも、左右の刈高さに差がなく保たれますので、精度の高い刈取作業が行えます。

■操作のしかた

1. 刈高さ切換レバー (1) を「作業」位置にします。(レバーは押し込みながら操作してください。) (図 3-140)

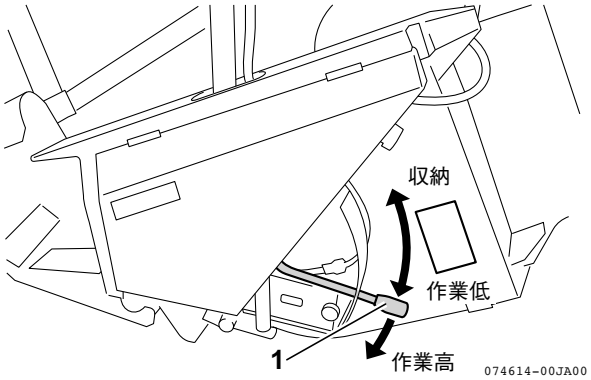


図 3-140

2. エンジンを始動します。
(91ページ参照)

3. 脱こくクラッチレバー (1)・刈取クラッチレバー (2) を「ON」位置 (3) にします。(図 3-142)

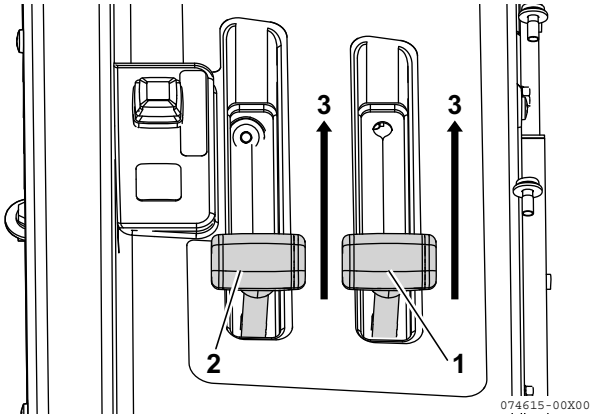


図 3-141

4. 水平自動切替スイッチ (1) を「対地平行」位置にします。刈高さセンサソリが地面に接地していると水平自動ランプが点灯し自動制御が働きます。(図 3-142)

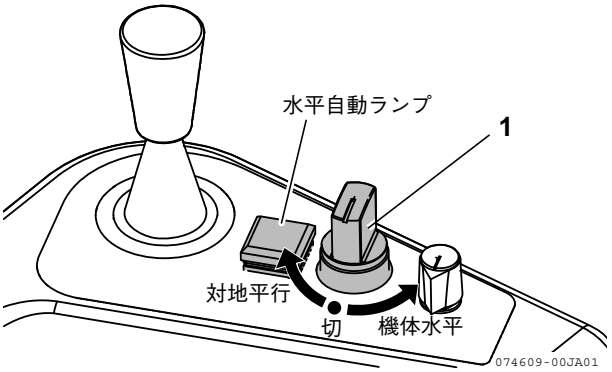


図 3-142

5. コンバインを左右に傾斜させたいときは、車高調節レバーを左右に操作します。

6. コンバインの車高を調節するときは、車高調節レバー (1) を前後に操作します。（このとき、対地平行制御は左側の車高（対地平行制御の基準高さ）を保持するように行われます。）
（図 3-143）

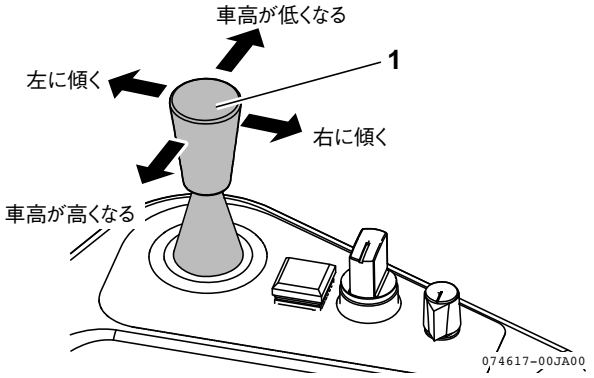


図 3-143

[参考]

- 水平自動ランプが点滅しているときには、自動制御は働きませんので、以下の操作を行ってください。
  オートセットボタンを押すか、刈高さ・リール前後スイッチ(1)または刈高さ調節レバー (2)で、刈取部の刈高さセンサソリが接地するまで刈取部を下げてください。水平自動ランプが点灯し自動制御が働きます。（図 3-144）

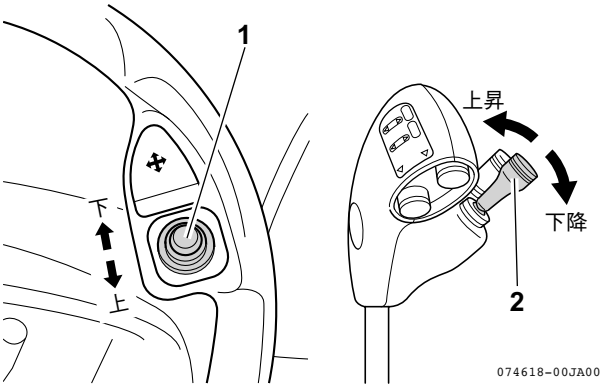


図 3-144

- 刈高さセンサソリが左右とも接地していない場合で、水平自動ランプが点滅しているときには、左右のクローラの高さが同じに制御されます。
- 対地平行制御には、手動優先回路が組み込まれていますので、自動制御中でも車高調節レバーを操作すると、手動でコンバインの角度変更や昇降が行えます。
- 水平自動切替スイッチが「対地平行」位置になっているときは、傾斜角調節ダイヤルを操作しても、コンバインの傾きは変わりません。
- 脱こくクラッチレバーを「OFF」位置にすると、元の高さの20%位置まで下降します。その後、再び脱こくクラッチレバーを「ON」位置にすると、水平自動切替スイッチが「対地平行」位置のときは、コンバインが元の高さ（最後に車高調節レバーで車高を調節した高さ）に戻ります。

⚠ 注 意

- 脱こくクラッチレバーを「ON」位置にしたり、水平自動切替スイッチを「対地平行」位置にしたときに、コンバインが昇降することがあります。周りに障害物がないことを十分に確認してから操作を行ってください。
- 自動制御中に手動でコンバインの角度や車高を変更したときは、水平自動ランプは消灯します。

[重要]

- 車高検出センサ(1)に稈切れ・雑草がからんだり泥が詰まっていると、適正な制御が行われないことがあるので、必ず取り除いてください。
（図 3-145）

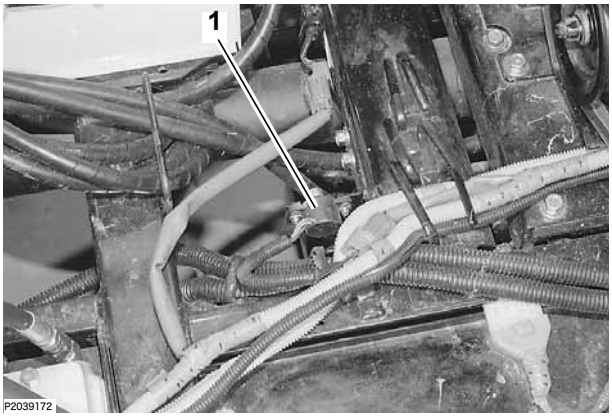


図 3-145

● 刈高さセンサソリ(1)に稈切れ・雑草がからんだり泥が詰まっていると、適正な制御が行われないことがあるので、必ず取り除いてください。
(図 3-146)

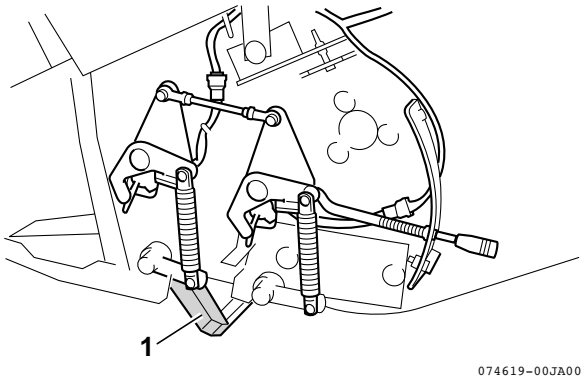


図 3-146

● コンバインを水洗いする場合は、スイッチ・パネル・コントローラ・センサ付近に水がかからないように注意してください。

排出自動旋回〈排出オートセット・オートリターン装置〉

⚠ 警 告

移動走行時、およびトラックなどへの積み・降ろしの場合は、排出自動旋回スイッチに触らないでください。排出コンベアが動き出し、非常に危険です。ランプが消えていることを確認してください。

排出コンベアをスイッチ(1)ひとつで、自動的に排出位置、またはコンベアレスト位置まで旋回させます。

■キャビン仕様

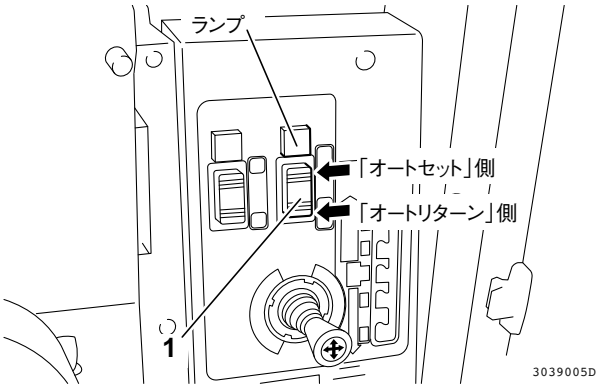


図 3-147

■キャビンなし仕様

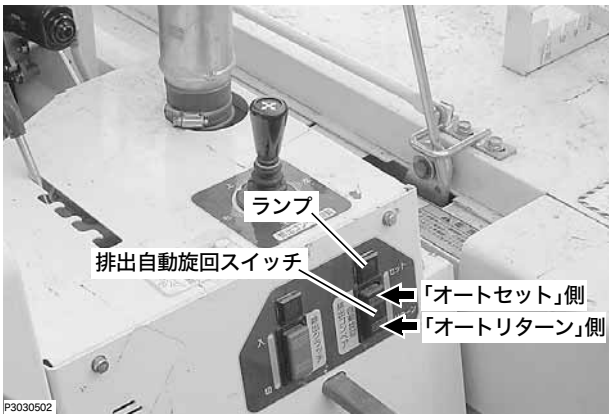


図 3-148

■オートセット操作のしかた

1. エンジンを始動します。(91ページ参照)
2. 排出自動旋回スイッチの「オートセット」側を押します。
3. ランプが点灯し、排出コンベアが最上位置まで上昇し、本機の真後ろ側の位置まで自動的に旋回します。(図 3-149)

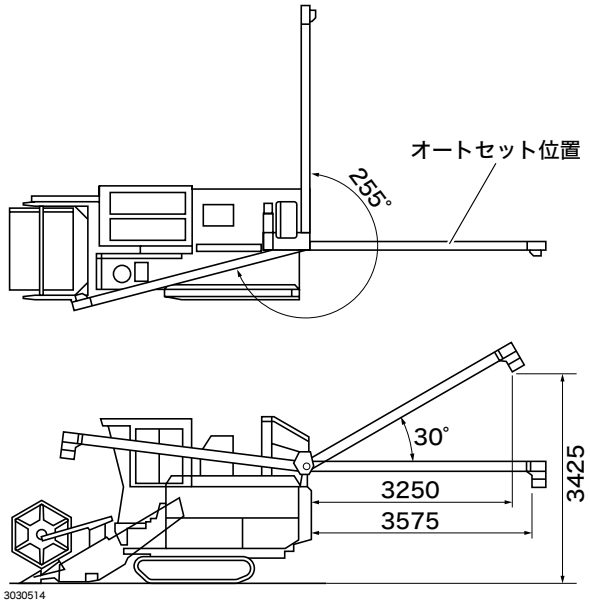


図 3-149

4. 排出コンベアを、排出コンベアクロスレバーでこく粒排出位置まで下降させて、こく粒を排出します。(図 3-150)(図 3-151)

■キャビン仕様

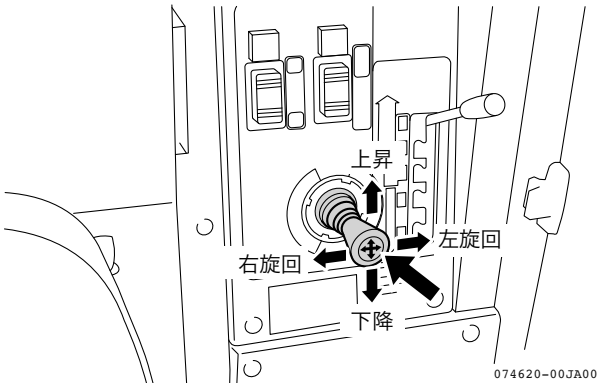


図 3-150

■キャビンなし仕様

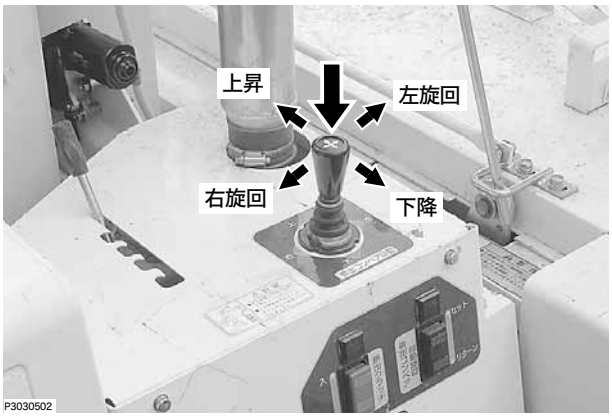


図 3-151

■オートリターン操作のしかた

⚠ 注 意

屋内や木の下などでは使用しないでください。排出自動旋回装置は、排出コンベアを最上まで上昇させるため、障害物に当り破損によりけがをするおそれがあります。

1. エンジンを始動します。(91ページ参照)
2. グレンタンクのこく粒を排出後、排出自動旋回スイッチの「オートリターン」側を押します。

3. 排出コンベア(2)が最上位置まで上昇し、旋回して自動的にコンベアレスト(1)に収納されます。（図 3-152）（図 3-153）

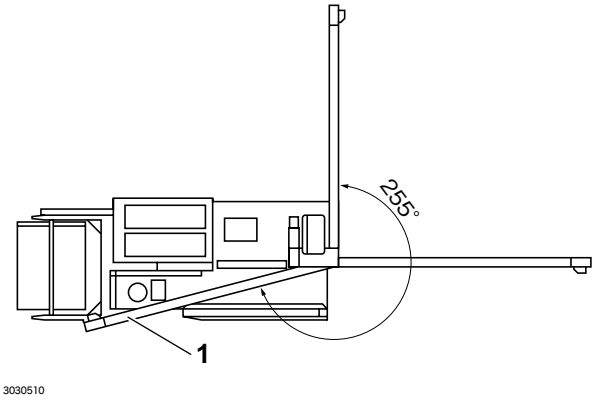


図 3-152

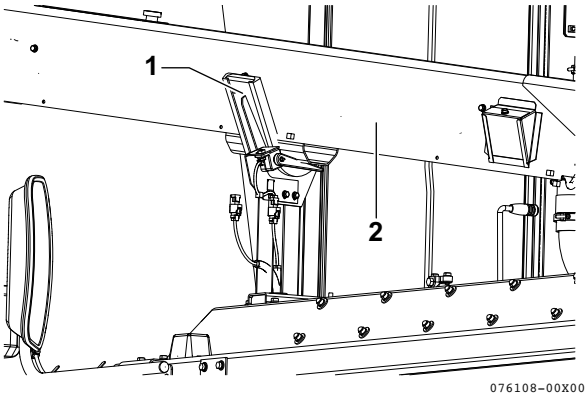


図 3-153

[参考]

- オートセット・オートリターン装置には、手動優先回路が組み込まれていますので、自動旋回中でも排出コンベアは、排出コンベアクロスレバーで操作することができます。
  また、手動操作をするとランプは消灯し、オートセット・オートリターン装置が「切」になります。再び排出自動旋回スイッチを押すと、最初の上昇動作から動き出します。
- オートセット・オートリターン装置が作動中に、排出自動旋回スイッチを押すと、排出コンベアが止まり、ランプは消灯します。再度排出自動旋回スイッチを押すと、前の動作の続きから動き出します。
- 排出コンベアが最上昇位置で、排出コンベア上昇リミットスイッチ(1)が押されている場合に、排出自動旋回スイッチを押すと、上昇動作が 5 秒間働いた後に自動旋回します。（図 3-154）

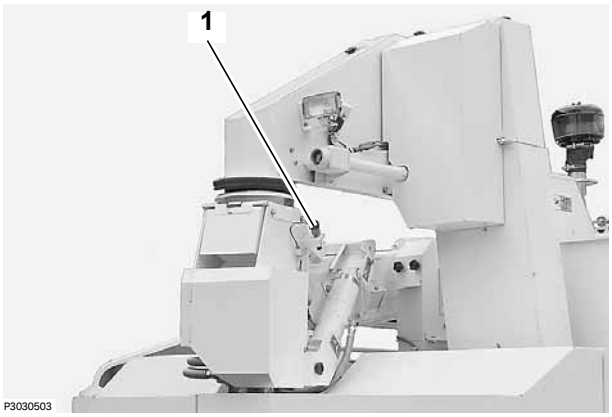


図 3-154

- Eモードスイッチが「ON」位置で、下記の条件のときに、自動的にエンジン回転が定格回転になります。
  ・主変速レバーを前方・後方に倒して前後進する（移動走行）
  ・脱こくクラッチレバーを「ON」位置にする
  ・排出クラッチレバーを「ON」位置にする
  その他のときは、自動的にローアイドリング（低回転）に保ちます。

[重要]

- 排出自動旋回装置の作動中や、排出コンベアがコンベアレストに収納されていない状態で、高速走行をしたり、急旋回をしないでください。排出コンベア取付部などの破損につながります。
- 刈取作業中や移動走行時、またはトラックなどへの積み・降ろしのときは、必ず排出コンベアをコンベアレストに収納してください。絶対にオートリターンスイッチや排出コンベアクロスレバーを操作しないでください。
- コンバインを水洗いする場合は、スイッチ・パネル・コントローラ付近に水がかからないように注意してください。

こく粒の排出のしかた

⚠ 危　険

こく粒がタンクに入った状態で、あぜ越え、トラックなどへの積み・降ろし、急旋回、坂道（前後左右各10度以上）での作業、および移動走行は絶対にしないでください。転倒し、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

排出作業時は、脱こく部を必ず停止させた状態で行ってください。回転部に巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

〈ワンマンホッパ仕様の場合〉

こく粒袋の交換のしかた

各こく粒袋が満タンになり、ワンマンホッパ内も満タンになると、下記の動作をします。手順に従ってこく粒袋を交換してください。（図 3-155）

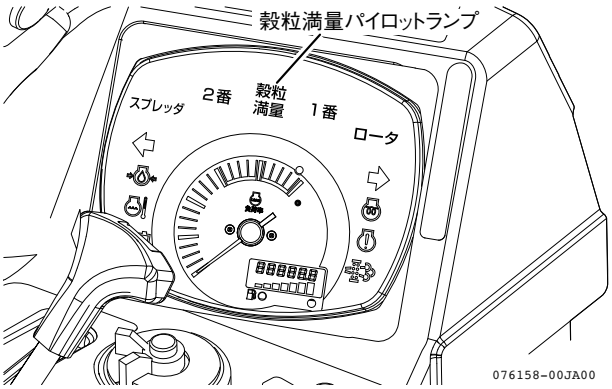


図 3-155

1. ワンマンホッパ内がほぼ満量になると、ブザーが断続で鳴ります。このとき、穀粒満量パイロットランプは点滅しています。ブザー停止スイッチを押すとブザーは鳴りやみますが、穀粒満量パイロットランプは点滅したままです。

[重要]

コンバインを停止したときは、必ず刈取クラッチレバーを「OFF」位置にし、脱こく部での作物の処理が終ったのを確認して、脱こくクラッチレバーを「OFF」位置にしてください。

2. こく粒排出シャッタ(1)を「閉」位置にして、こく粒袋を交換します。（図 3-156）

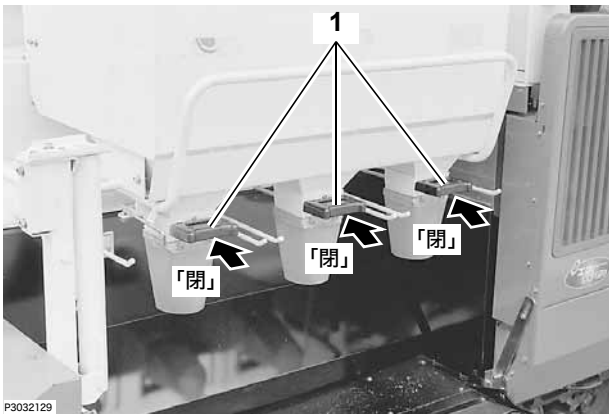


図 3-156

[重要]

ブザーが鳴っているのに作業を続けていると、こく粒が昇降機上部に詰まり、故障の原因になります。

〈グレンタンク仕様の場合〉

排出作業のしかた

排出コンベアの作業範囲(図 3-157)

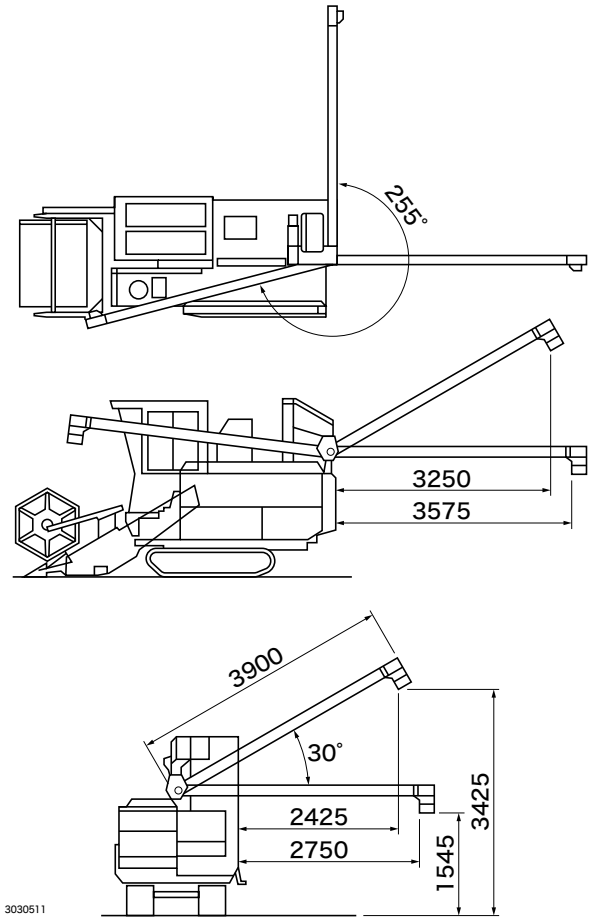


図 3-157

タンク内が満タン近くになると、つぎの動作をします。手順に従って排出作業をしてください。
(図 3-158)

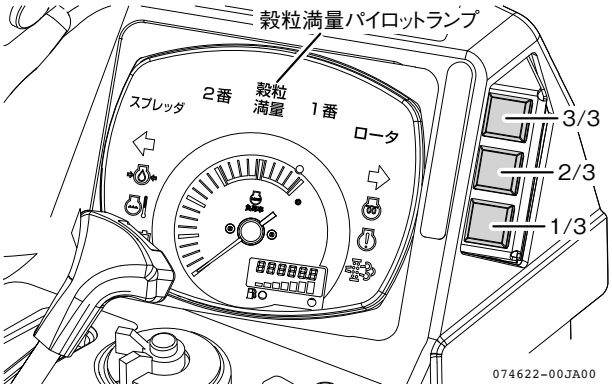


図 3-158

1. グレンタンク内がほぼ満量になると、タンクシグナルランプの「3/3」が点灯し、ブザーが断続で鳴ります。このとき、穀粒満量パイロットランプも点滅しています。ブザー停止スイッチを押すとブザーは鳴りやみますが、「3/3」のタンクシグナルランプは点灯したままです。

表 3-9 充てん状況確認表

充てん状況	警報の方法 ブザー	内容
3／3	断続	グレンタンク内に、こく粒がほとんど満量に充てんされています。できるだけ早く排出してください。
2／3	―	グレンタンク内に、こく粒が2/3充てんされています。
1／3	―	グレンタンク内に、こく粒が1/3充てんされています。

[重要]

ブザーが鳴っているのに作業を続けていると、こく粒があふれて故障の原因になります。

2. トラックへの排出が可能な所まで、コンバインを移動させます。

[重要]

コンバインは、できるだけ水平な状態にしてください。本機の傾斜が大きいと、排出時に排出コンベアがずれるおそれがあります。(図 3-159)

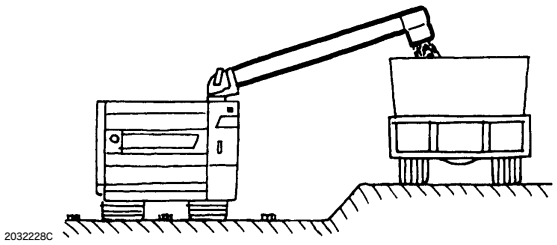
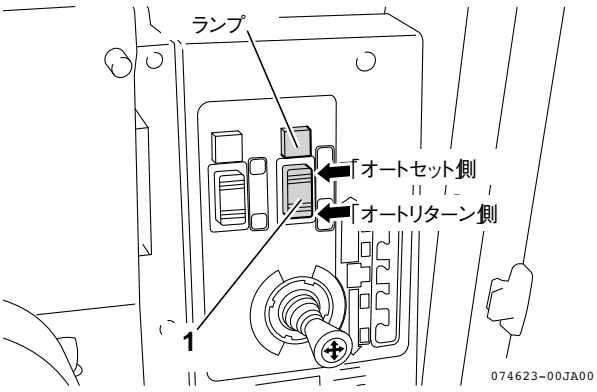


図 3-159

3. 排出自動旋回スイッチ(1)の「オートセット」側を押します。ランプが点灯し、自動的に旋回します。(158ページ参照)(図 3-160)



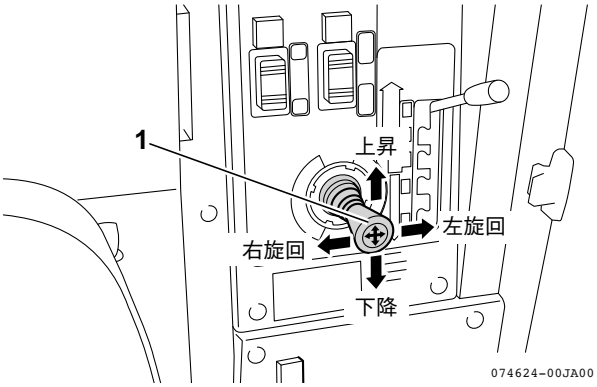
※図はキャビン仕様です。

図 3-160

[参考]

排出コンベアクロスレバーを操作しても、排出コンベアの旋回は行えます。

4. 排出コンベアクロスレバー (1)で、こく粒排出位置まで下降させます。(図 3-161)



※図はキャビン仕様です。

図 3-161

[重要]

排出コンベアを上昇・旋回させるときは、周囲に障害物がないか確認してください。破損の原因になります。

5. Eモードスイッチを「ON」位置にします。(図 3-162)

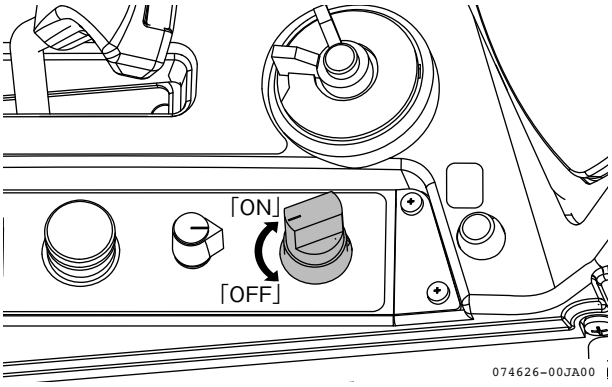
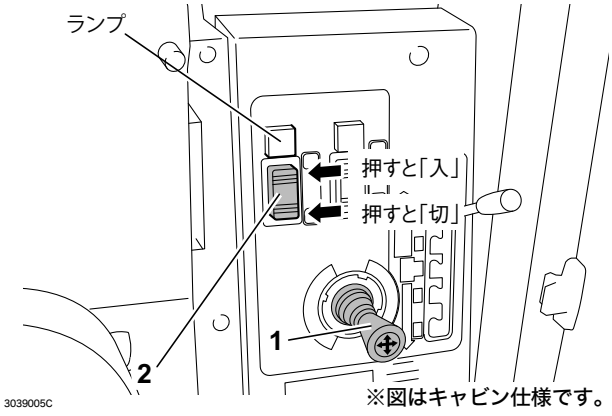


図 3-162

6. 駐車ブレーキをかけます。(100ページ参照)
7. 排出クラッチスイッチ(2)を「入」(ランプ点灯)にします。こく粒が排出されます。(図 3-163)



※図はキャビン仕様です。

図 3-163

[参考]

排出コンベア先端のクロスレバー(1)で排出コンベアの上下左右の操作ができます。排出コンベア先端の排出クラッチスイッチ (2) で排出クラッチの「入」「切」ができます。(図 3-164)

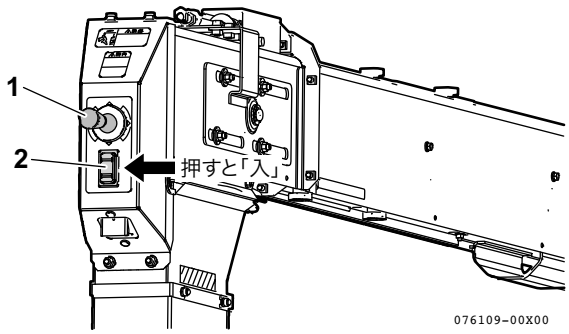


図 3-164

⚠ 注 意

- 排出中は、排出口に手を入れないでください。排出コンベア内部でコンベアが回転しているので、けがをするおそれがあります。
- クロスレバースイッチで排出コンベアの操作をする場合は、周囲に人がいないことを確認してください。急に動き出しけがをするおそれがあります。

[重要]

- 投口シート(1)が破損した場合は、速やかに交換してください。(図 3-165)

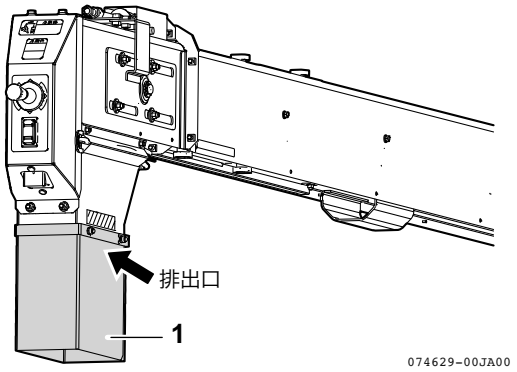


図 3-165

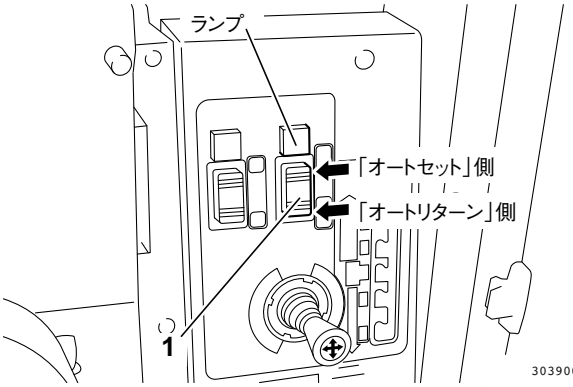
- 排出コンベアの昇降・旋回操作は、コンバインが停止した状態で行ってください。
- こく粒排出中は、排出口をこく粒がふさがないように注意し、排出位置を変更しながら行ってください。(図 3-166)



図 3-166

8. 排出が終了したら、排出クラッチスイッチを「切」(ランプ消灯) にします。

9. 排出自動旋回スイッチ (1) の「オートリターン」側を押します。排出コンベアは、自動的にコンベアレストに収納されます。(ランプは、消灯しています。) (図 3-167)



※図はキャビン仕様です。

図 3-167

[重要]

- 排出自動旋回スイッチの「オートリターン」側を押すと、排出コンベアは最上位置まで上昇してから旋回して収納されます。周囲に障害物がないか、確認してから操作してください。破損の原因になります。
- 刈取作業中は、排出コンベア(2)をコンベアレスト(1)に必ず収納してください。(図 3-168)
- オーガレストが収納位置にあることを確認してください。収納位置にない状態で動かすと警報が鳴ります。

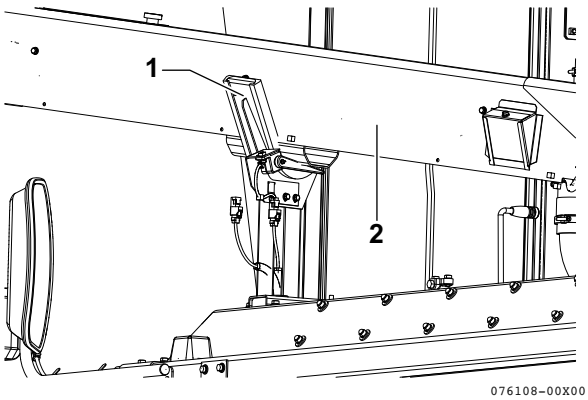


図 3-168

排出口からこく粒が排出できないとき

補助取出口から袋取りしてください。

1. エンジンを停止し、補助取出口のフックにこく粒袋をセットしてください。
2. 補助取出口(1)のシャッターを開いて、こく粒を取り出してください。(図 3-169)

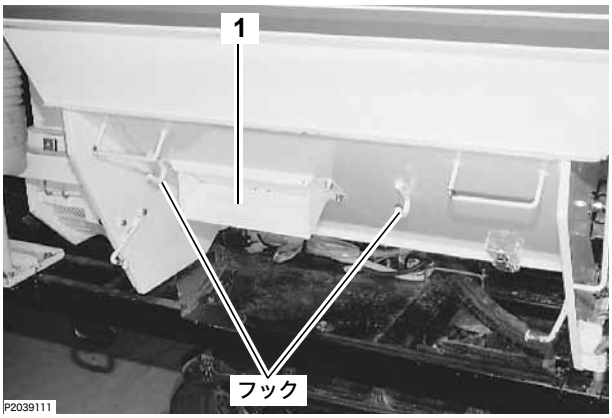


図 3-169

グレンタンク点検窓の使いかた

グレンタンク点検窓は、グレンタンク内のこく粒の汚粒状態などの確認に使用します。(図 3-170)

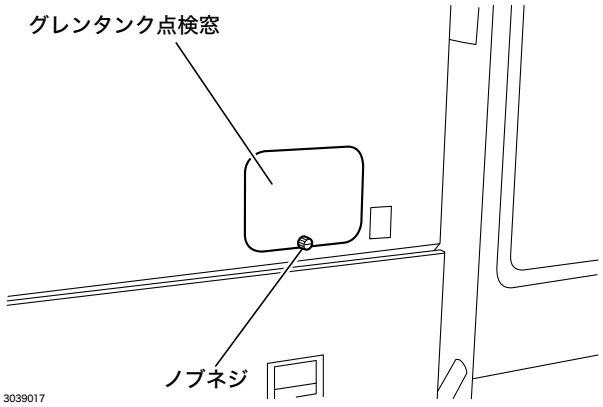


図 3-170

グレンタンク点検窓を開けるときは、ノブボルトを持って、上にスライドして開けてください。

[重要]

- グレンタンク点検窓は、グレンタンク点検窓の下枠以上にこく粒が入っているときは、開けないでください。こく粒がこぼれるおそれがあります。
- グレンタンク点検窓を開けて、大豆を取り出すときは、必ずエンジンを停止して行ってください。
- 作業中は、必ずグレンタンク点検窓を閉じてください。

memo

各部の脱着・オープンのしかた

⚠ 警　告

各部の脱着・オープンをするときは、平たんで安全な場所で必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。回転部に巻き込まれたり、重大な事故の原因になります。

⚠ 注　意

- 外したカバー類は、必ず取り付けてください。外したままで運転すると回転部に巻き込まれたり、重大な事故の原因になります。
- 各部の脱着・オープンをするときは、手などをはさまないよう注意してください。

各部脱着・オープン一覧

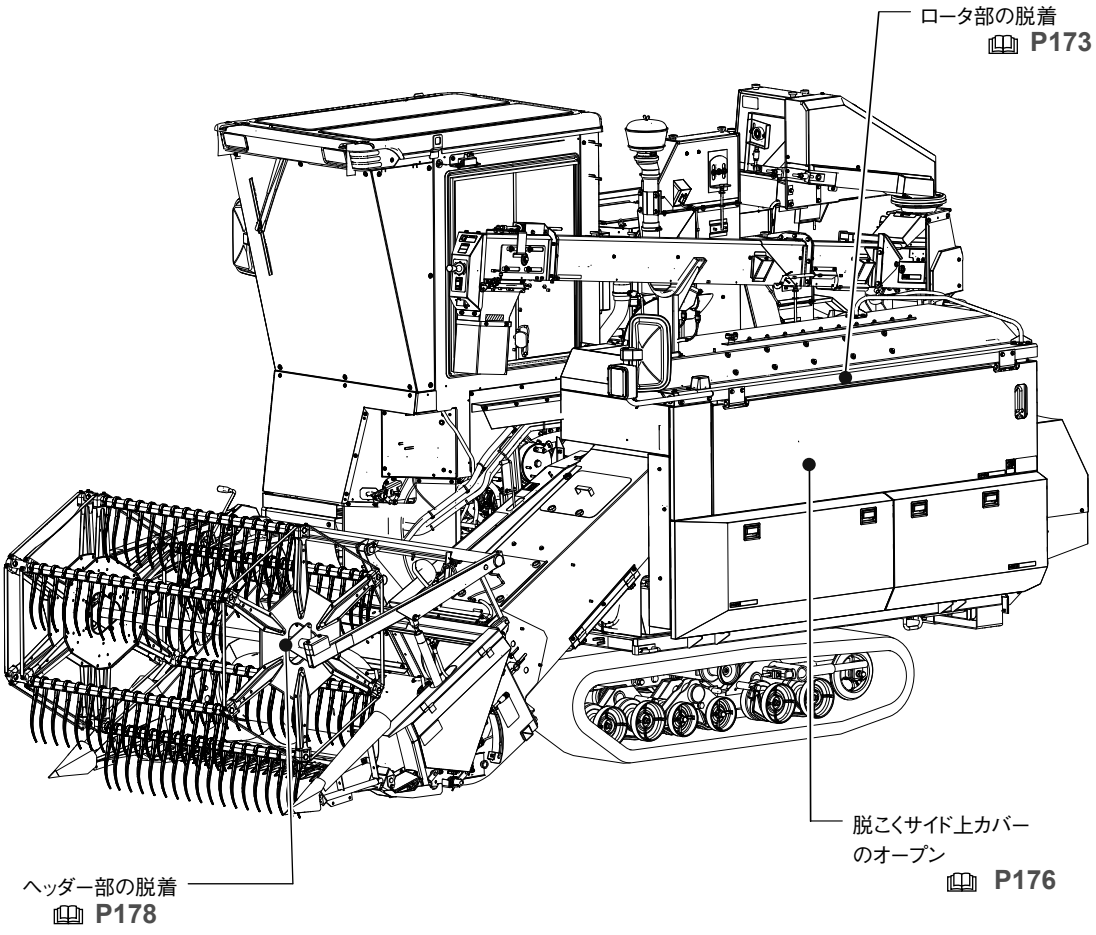


図 4-1

〈ワンマンホッパ仕様〉

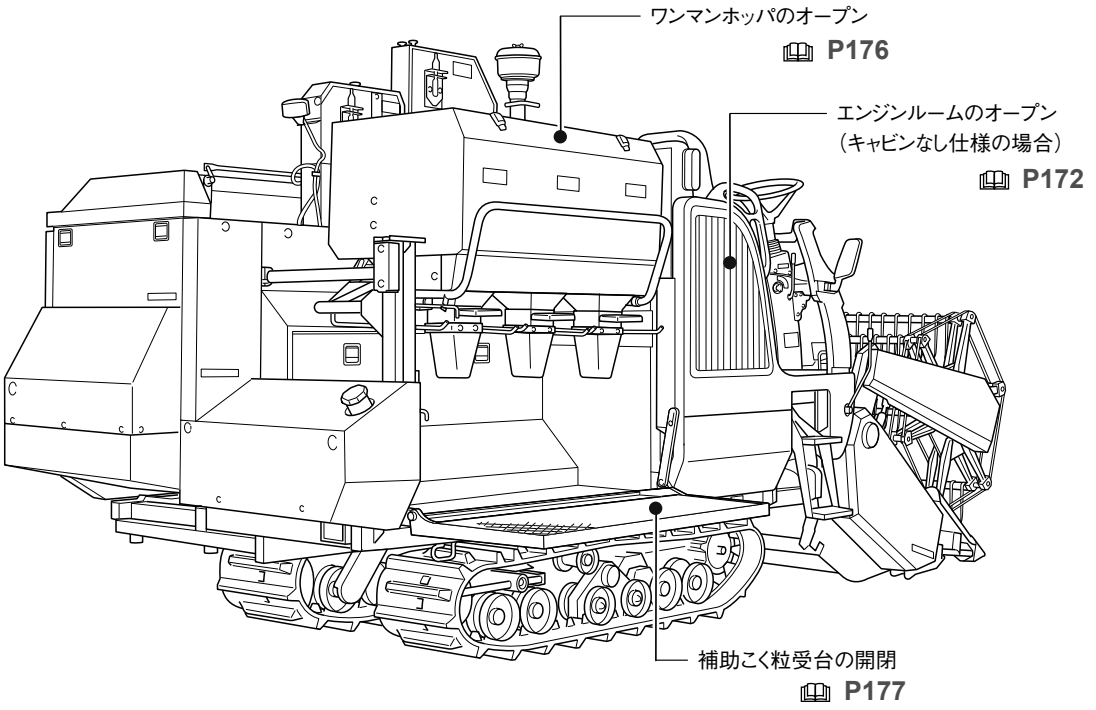


図 4-2

〈グレンタンク仕様〉

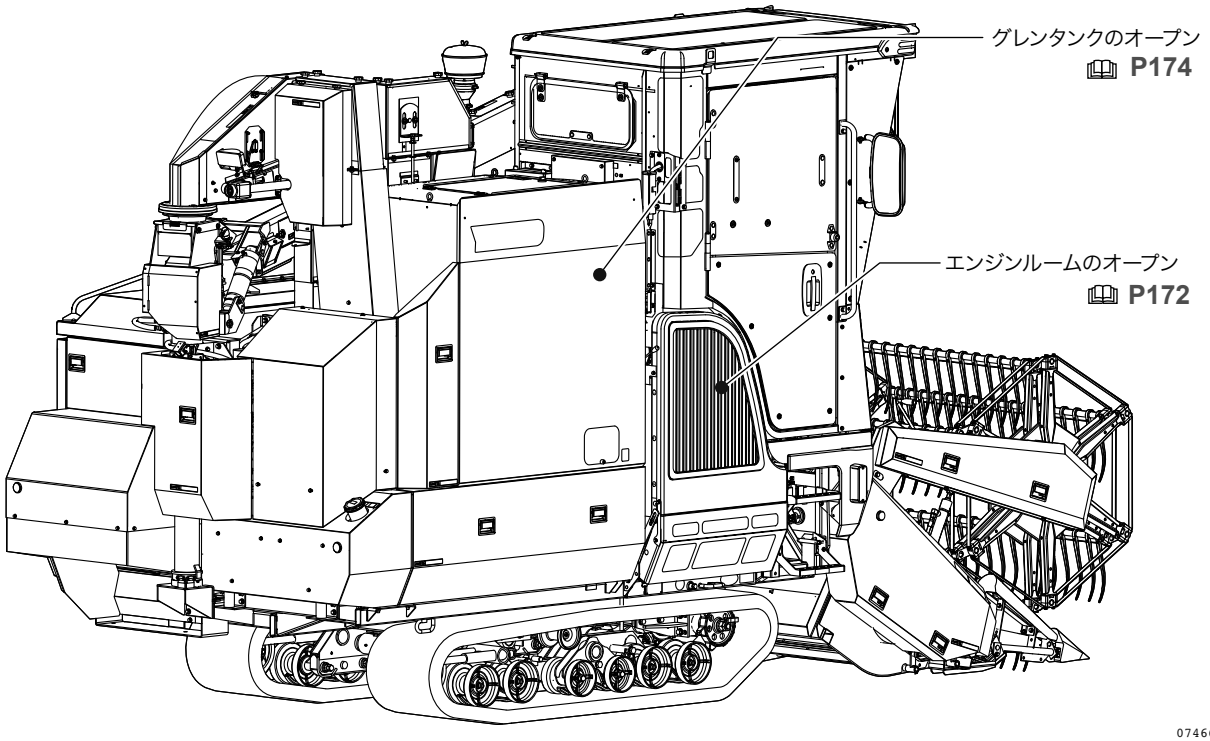


図 4-3

主なカバーのなまえ

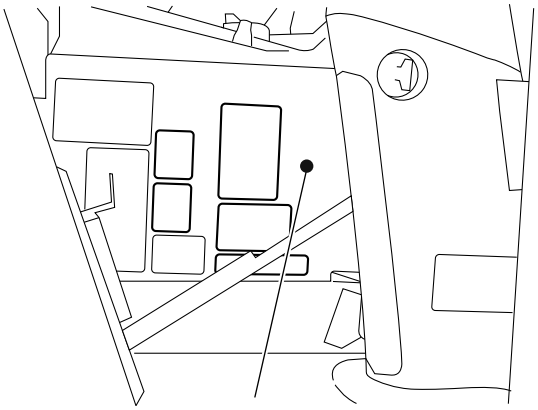


図 4-4

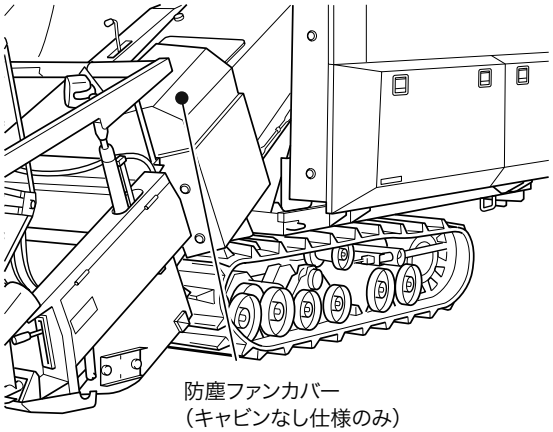


図 4-5

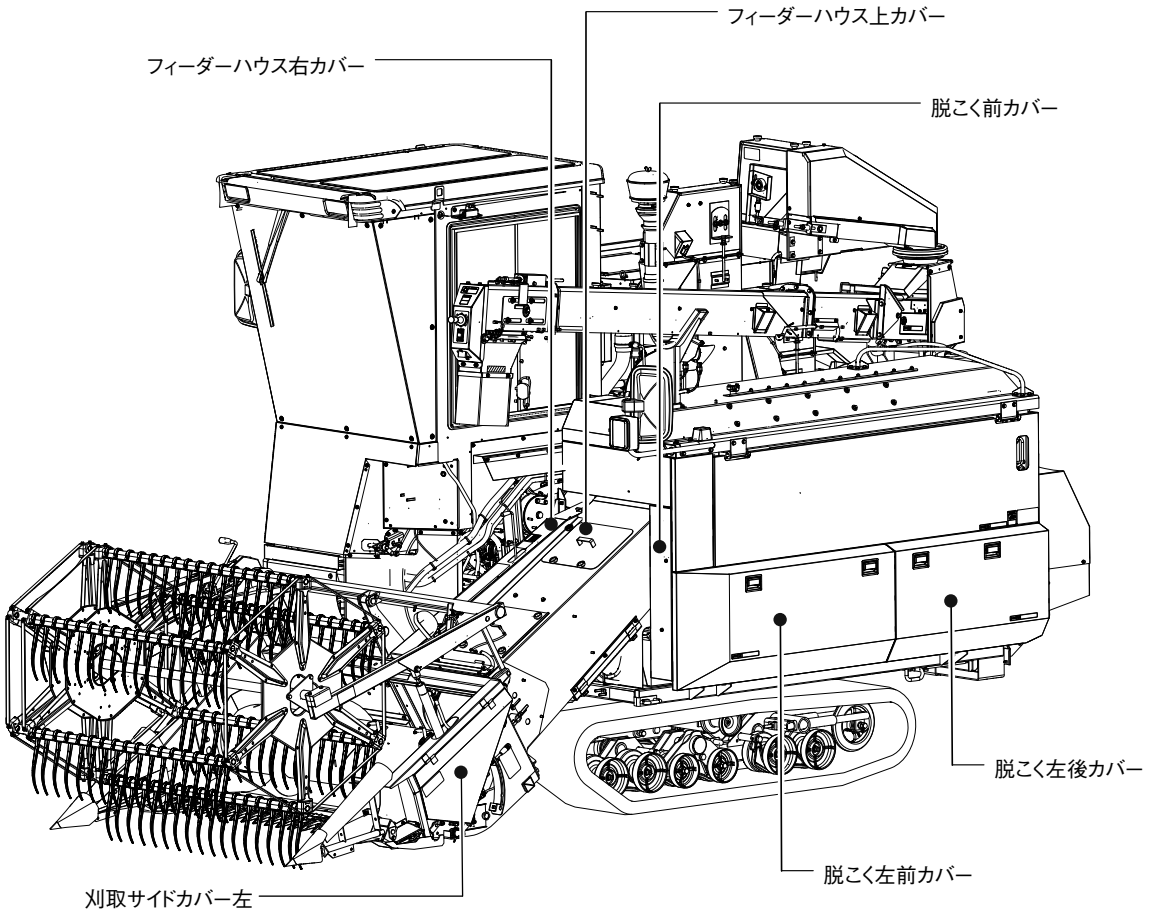


図 4-6

〈ワンマンホッパ仕様〉

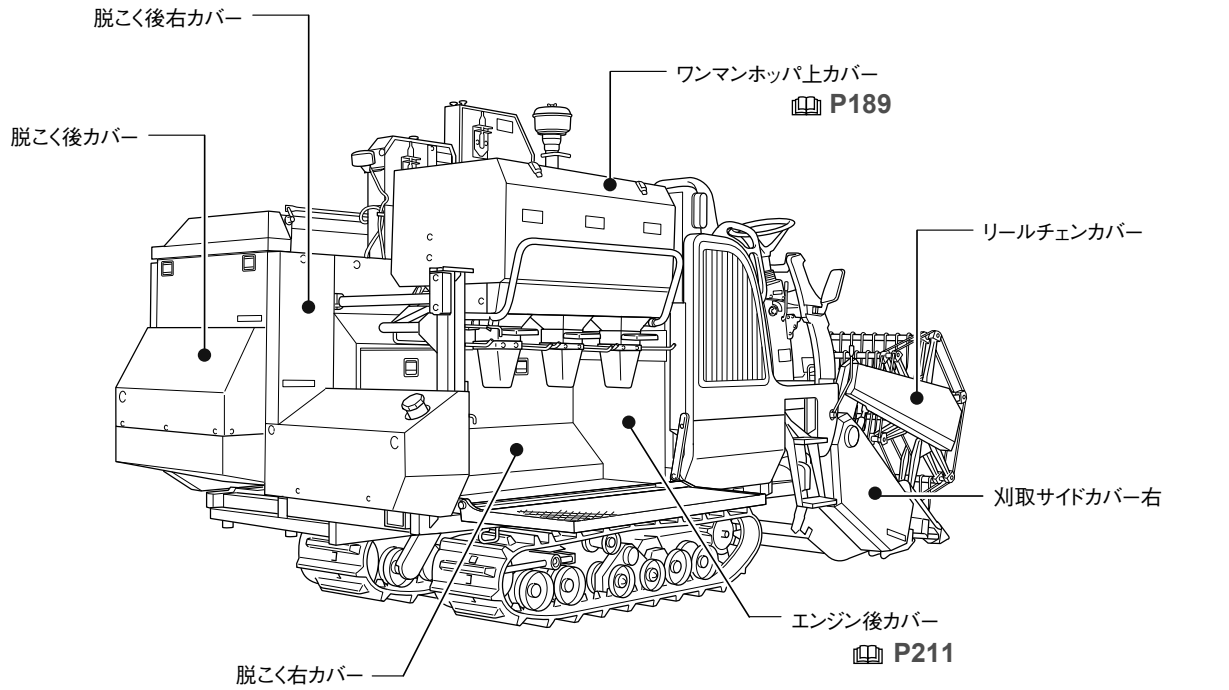


図 4-7

〈グレンタンク仕様〉

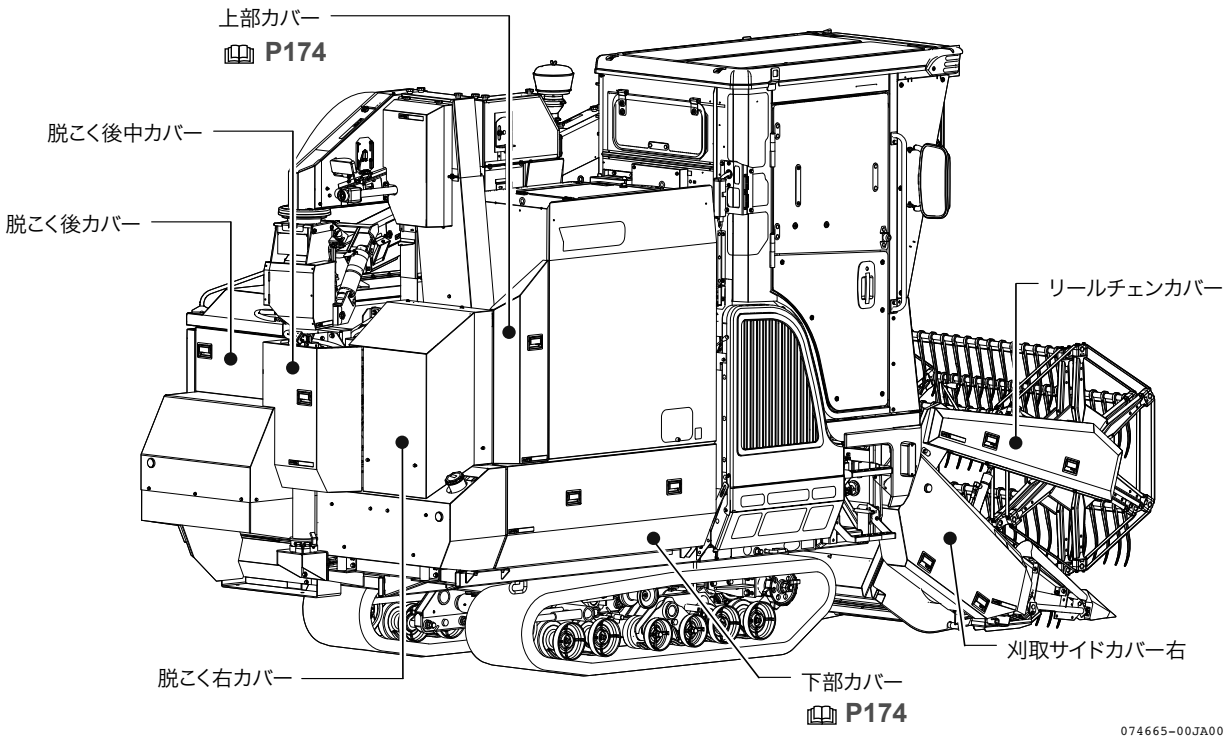


図 4-8

エンジンルームのオープンのしかた

キャビンなし仕様の場合

1. 左手でアームレストを持ちます。(図 4-9)
2. 右手で、エンジンルームロックレバー (1)を「解除」方向に引きながら、エンジンルームを矢印方向にオープンします。(図 4-9)
3. 収納は、エンジンルームを閉じると自動的にロックされます。(図 4-9)

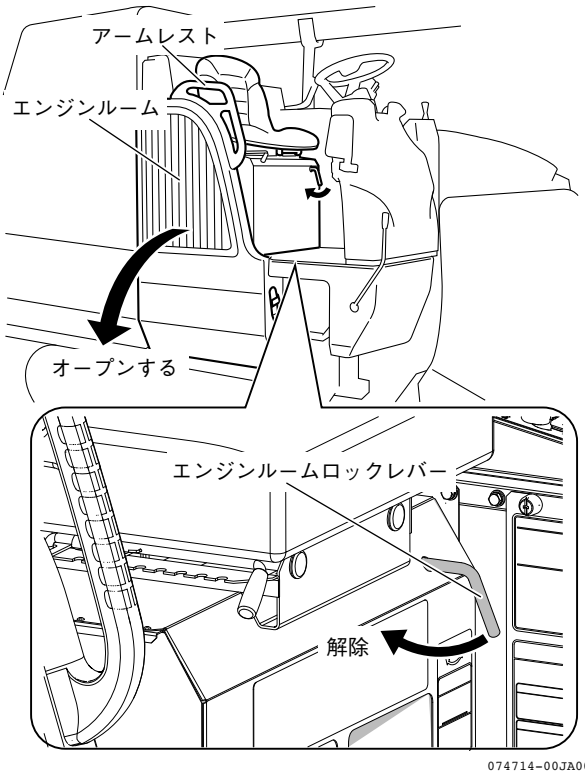


図 4-9

[参考]
エンジンルームを閉じたときは、ロックが確実にできているか確認してください。

[重要]
エンジンルームをオープンするときは、完全にオープンするまでアームレストを持って作業を行ってください。オープンの途中で手を離すと、エンジンルームの変形の原因になります。

キャビン仕様の場合

■オープンのしかた

1. ドアを確実に閉めます。
2. 右手でエンジンルームカバー (1) の上部を持ち、左手でエンジンルームロックレバー (2)を下方に引いて、エンジンルームをオープンします。(図 4-10)

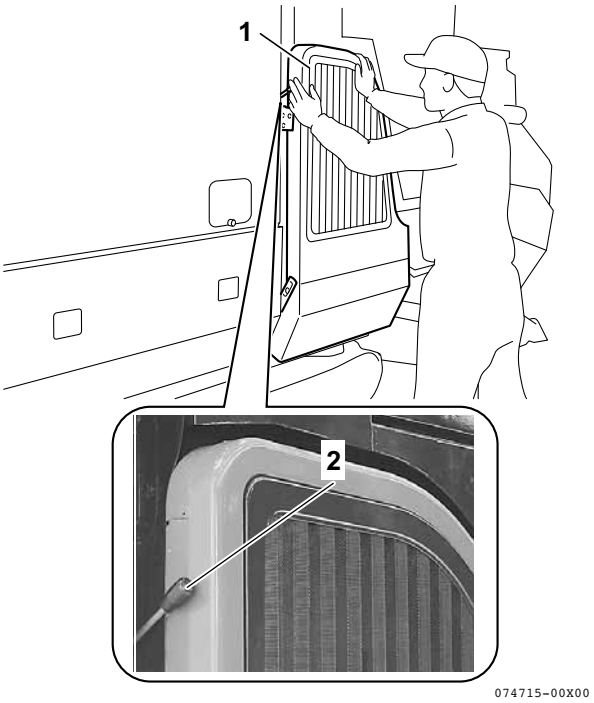


図 4-10

[重要]
エンジンルームをオープンするときは、完全にオープンするまでカバーの上部を持って作業を行ってください。オープンの途中で手を離すと、エンジンルームの変形の原因になります。

■収納のしかた

1. ドアを確実に閉めます。
2. エンジンルームを閉じると自動的にロックされます。

[参考]
エンジンルームを閉じたときは、ロックが確実にできているか確認してください。

ロータカバーのオープンのしかた

⚠ 注　意

脱こくクラッチレバーを「切」位置にして、エンジンを停止した直後は、慣性でロータが回転していますので、クラッチ「切」後 30 秒間は、絶対にカバーをオープンしないでください。

1. 運転席に乗り込みます。
2. グレンタンク仕様の場合は、エンジンを始動して、排出コンベアクロスレバーで排出コンベアを、コンベアレストから約50cm上昇させます。
3. エンジンを停止します。
4. ロックレバー (1) を「解除」位置（手前に引く）にして、ロックを解除します。(図 4-11)

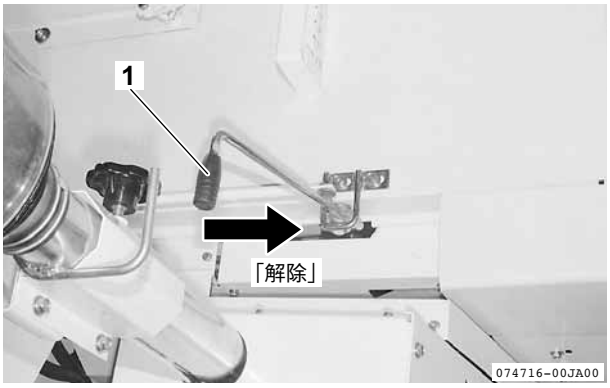


図 4-11

5. ロータカバー (1)　をいっぱいまでオープンします。(図 4-12)

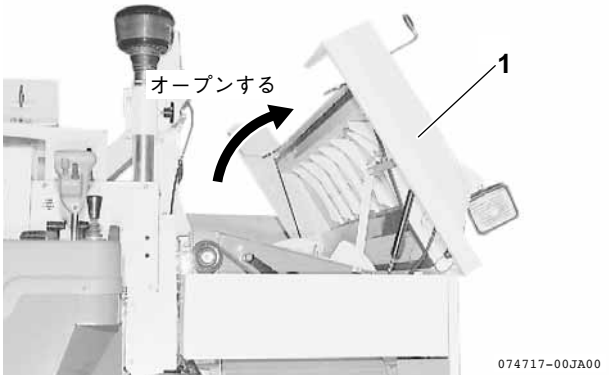


図 4-12

6. ロータカバーを閉めます。
7. ロックレバー (1)を「ロック」位置にして、確実にロックします。(図 4-13)

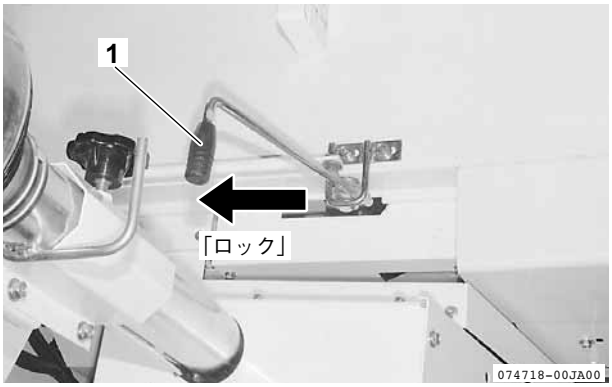


図 4-13

8. グレンタンク仕様の場合は、エンジンを始動して、排出コンベアクロスレバーで排出コンベアを、コンベアレストに収納します。
9. エンジンを停止します。

グレンタンクのオープンのしかた（グレンタンク仕様のみ）

⚠ 警　告

グレンタンクをオープンするときは、以下の事項を必ず守ってください。

- エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
- グレンタンク内を空にしてください。
- コンバインを水平な状態にしてください。

1. グレンタンク内にこく粒が入っているときは、こく粒をすべて排出します。
   （161ページ参照）
2. 路面が平たんな場所に本機を停め、刈取 (1)・脱こく(2)クラッチレバーを「OFF」位置(3)にします。（図 4-14）

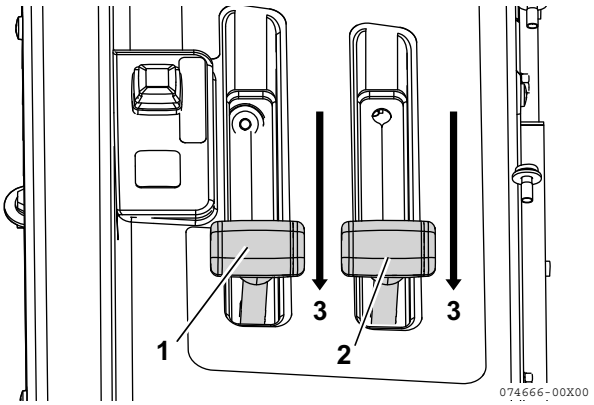


図 4-14

3. 駐車ブレーキをかけます。
   （100ページ参照）
4. エンジンを停止します。
   （95ページ参照）
5. 上部カバー (1)を取り外します。（図 4-15）

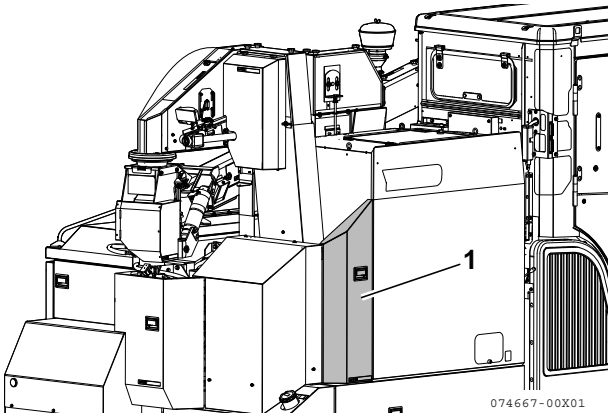


図 4-15

[重要]

- 上部カバーを取り外しておかないと、グレンタンクオープン時に上部カバーが破損します。
- 排出コンベアは必ず、コンベアレストに収納した状態で行ってください。受継コンベア装置と排出コンベアが干渉します。

6. 下部カバー (2)を取り外します。（図 4-16）

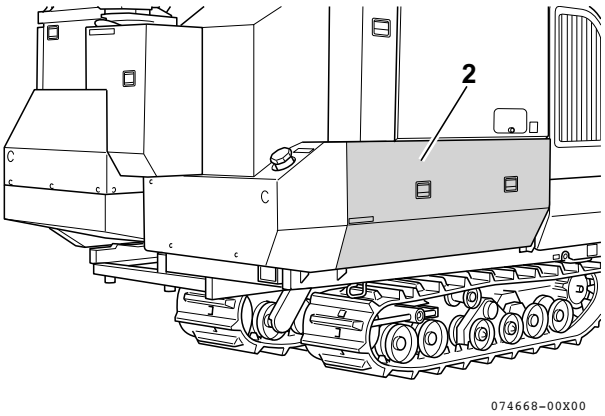


図 4-16

7. グレンクラッチベルト (1) をプーリ (2) から外して、固定ピン(3)を抜き取ります。(図 4-17)

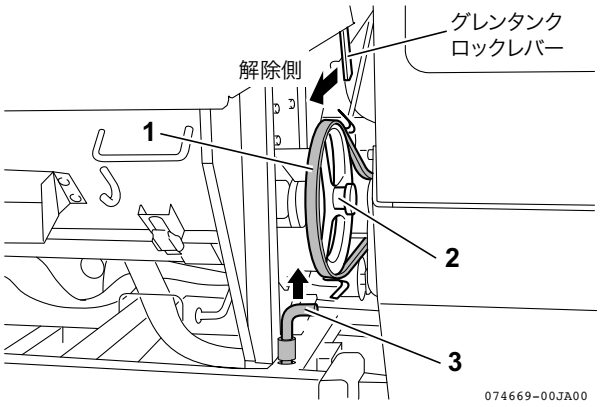


図 4-17

8. グレンタンクロックレバーを解除して、グレンタンク(1)をゆっくりと手前に引き出します。(図 4-18)

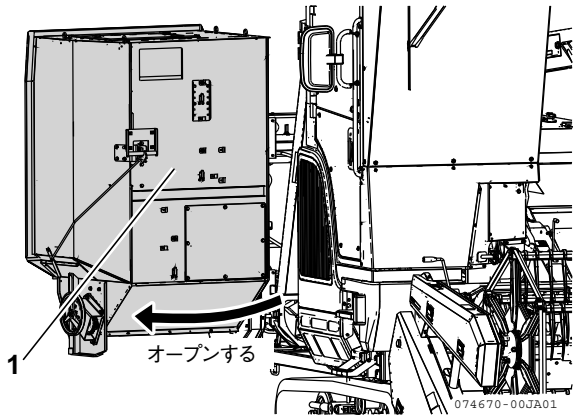


図 4-18

9. 前述 7. で外した固定ピンを、グレンタンク回動部の固定金具(1)の穴に差し込んで、グレンタンクを固定します。(図 4-19)

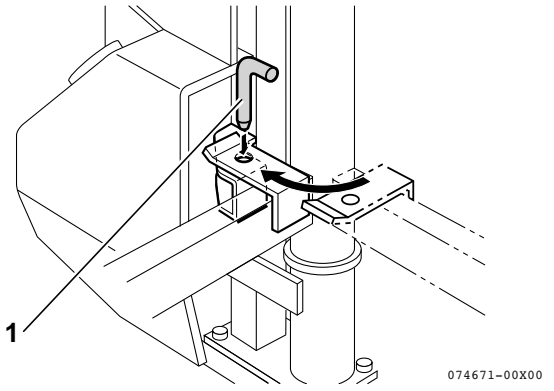


図 4-19

10. グレンタンクを収納するときは、逆の手順で行います。

[重要]

- **グレンクラッチベルトをベルト押えの内側にセットしてください。**(図 4-20)

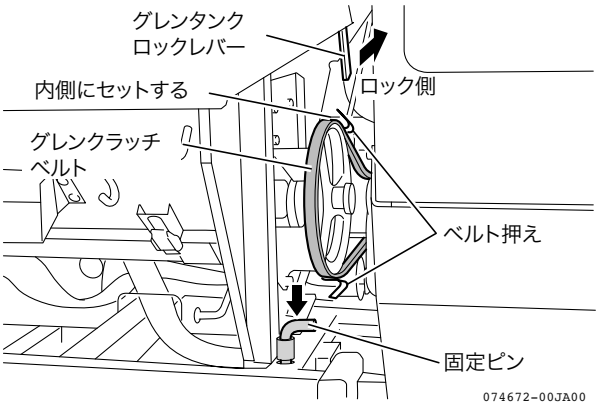


図 4-20

- **グレンタンク内にこく粒が入っている状態では、絶対にオープンしないでください。グレンタンク回動部の破損の原因になります。**
- **収納後は、グレンタンクが確実に収納されているか確認してください。**

脱こくサイド上カバーのオープンのしかた

1. ロックレバー (1)を手前に引きながら、脱こくサイド(2)上カバーをオープンします。
(図 4-21)(図 4-22)(図 4-23)

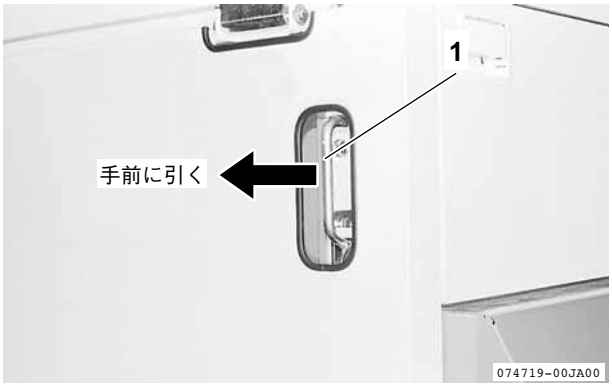


図 4-21

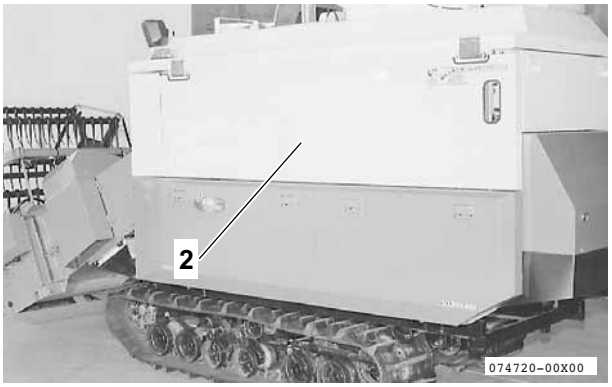


図 4-22

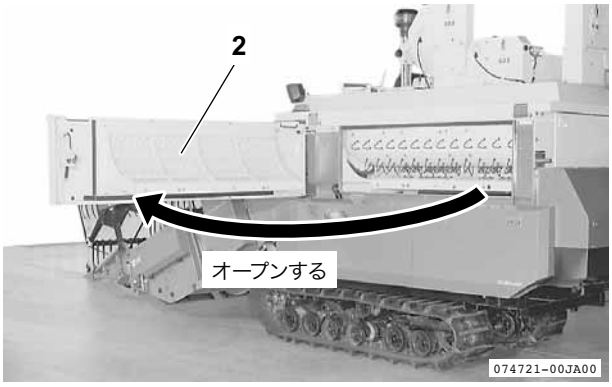


図 4-23

2. 閉じるときは、逆の手順で行います。

[重要]
脱こくサイド上カバーをオープンした状態で走行しないでください。脱こくサイド上カバーが変形することがあります。

ワンマンホッパのオープンのしかた (ワンマンホッパ仕様のみ)

⚠ 警 告

ワンマンホッパをオープンするときは、以下の事項を必ず守ってください。
- エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。
- ワンマンホッパ内は空にしてください。
- コンバインを水平な状態にしてください。

1. 補助こく粒受台を閉じます。
(177ページ参照)
2. ロックレバー (1)を手前に引きながら、支持パイプ(2)を持って、ワンマンホッパ(3)をオープンします。(図 4-24)(図 4-25)

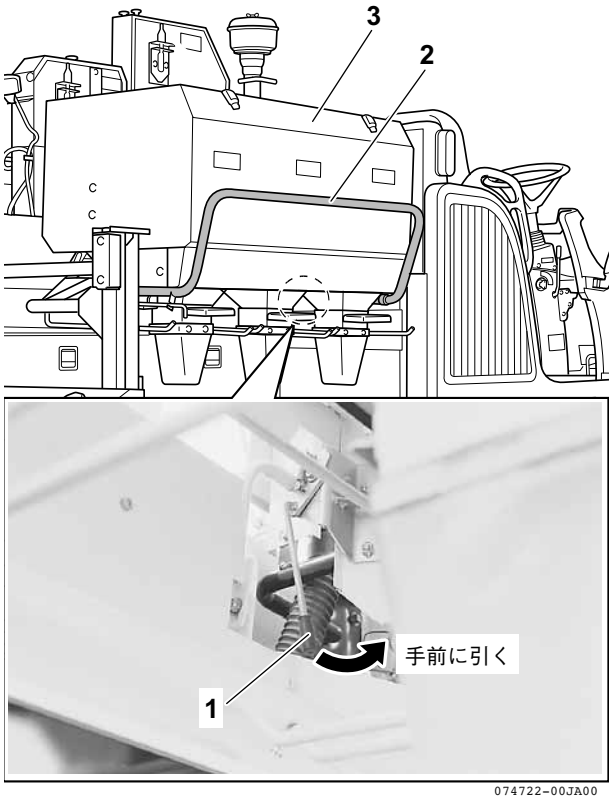


図 4-24

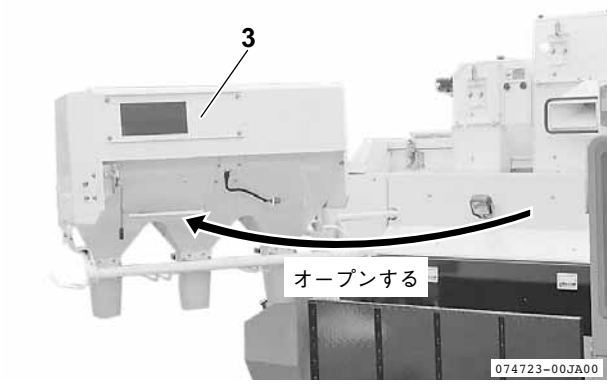


図 4-25

3. オープン後は、オープンロックレバー (1)をフック受け(2)に掛けて、ワンマンホッパを固定します。(図 4-26)

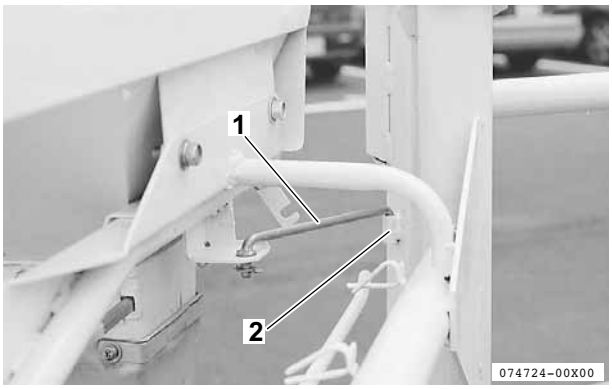


図 4-26

4. ワンマンホッパを収納するときは、逆の手順で行います。

[参考]

ワンマンホッパを収納するときは、オープンロックレバー (1) をワンマンホッパ側に収納してください。(図 4-27)

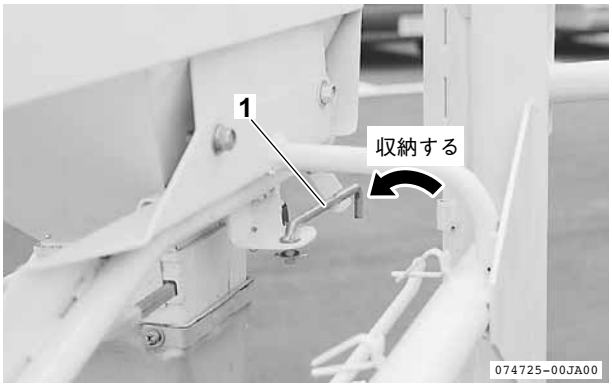


図 4-27

[重要]

- ワンマンホッパをオープンした状態で走行しないでください。ワンマンホッパが変形することがあります。
- ワンマンホッパを閉じたときは、ロックレバーで確実にロックされているか確認してください。

補助こく粒受台の開閉のしかた (ワンマンホッパ仕様のみ)

⚠ 注 意

移動走行やトラックへの積み・降ろしを行うときは、補助こく粒受台を収納してください。破損したり、当たってけがをするおそれがあります。

1. 固定バー (1) を引き上げて、固定を解除します。(図 4-28)

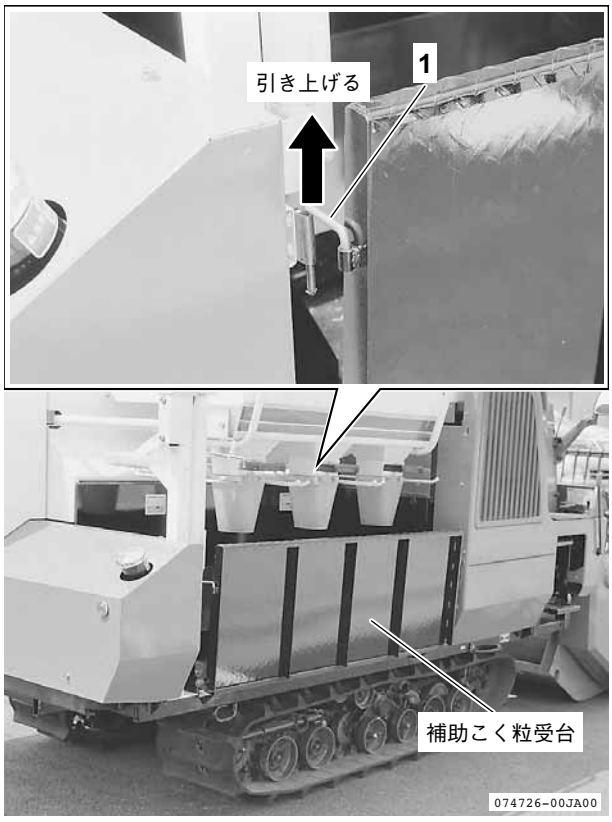


図 4-28

2. 補助こく粒受台(1)を作業位置に開きます。
(図 4-29)

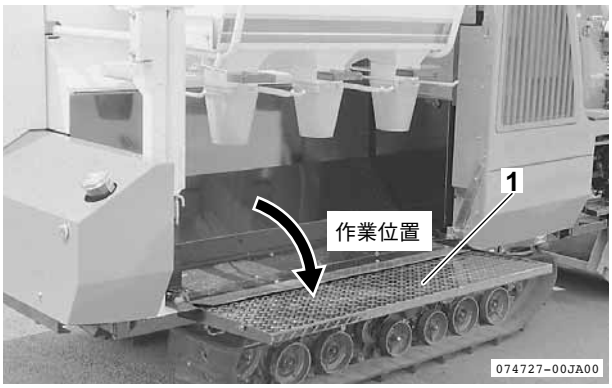


図 4-29

3. 補助こく粒受台を収納するときは、逆の手順で行います。

[重要]
補助こく粒受台を収納したときは、必ず固定バーで補助こく粒受台を固定してください。

ヘッダー部の脱着のしかた

⚠ 警 告

- **ヘッダー部を外すと、本機は後重心になります。走行するときは、低速で行ってください。また、急な坂道を走行したり、あぜ越えをするときは、登りは後進、下りは前進で行ってください。**
- **刈取部を上げて作業をするときは、刈取部ストッパレバーで刈取部を固定状態にしてください。刈取部を固定していないと、刈取部が急に下がりけがをするおそれがあります。**

1. 路面が平たんな場所に本機を止め、駐車ブレーキをかけます。(100ページ参照)
2. エンジンを始動します。(91ページ参照)
3. 刈高さ・リール前後スイッチまたは刈高さ調節レバーを操作して、刈取部を地面から10cm以上上げます。
4. エンジンを停止します。(95ページ参照)
5. 刈高さ切換レバー (1)を「収納」位置(2)にして、センサソリ(3)を収納します。
(図 4-30)(図 4-31)

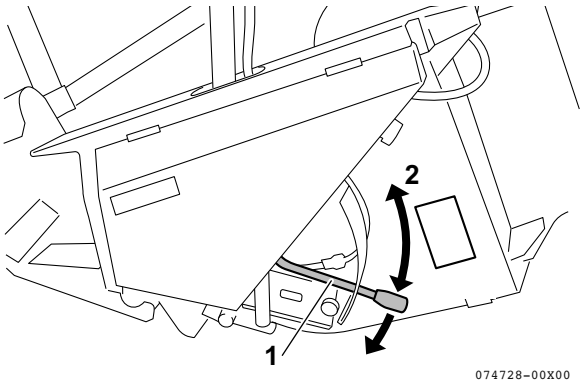


図 4-30

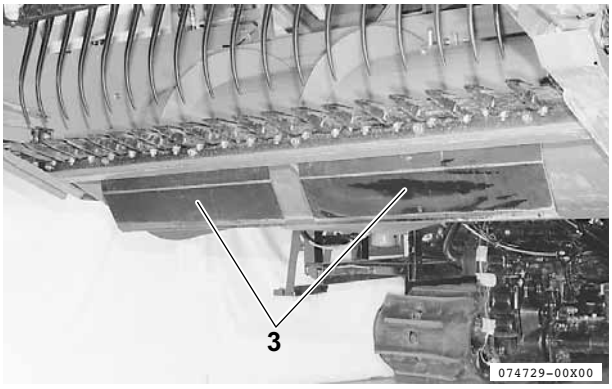


図 4-31

6. 刈取部と刈刃の下に角材を入れます。(図 4-32)

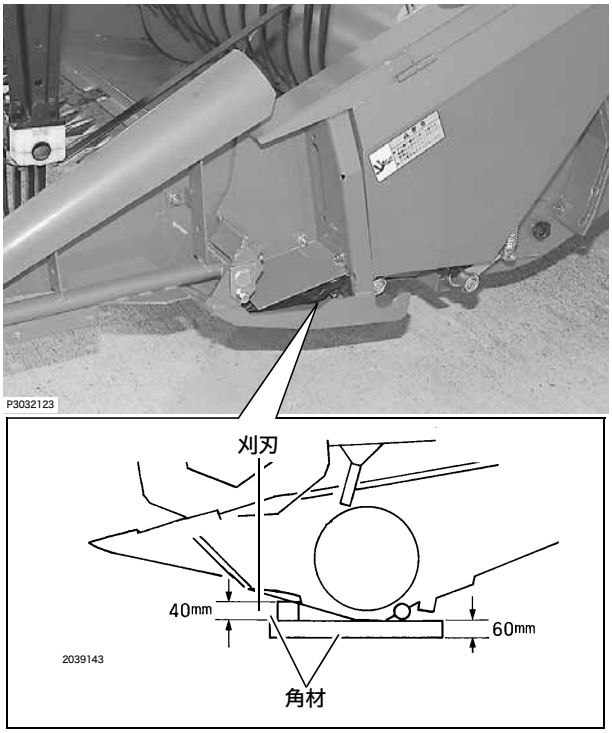


図 4-32

7. 再度エンジンを始動します。
8. 刈高さ・リール前後スイッチを「上」側、または刈高さ調節レバーを「上昇」位置にして、刈取部を最上げ状態にします。
9. 刈取部を刈取部ストッパレバーで固定します。(182ページ参照)
10. エンジンを停止します。
11. ストップバルブ(1)のレバーを「ロック」位置(2)にします。(図 4-33)

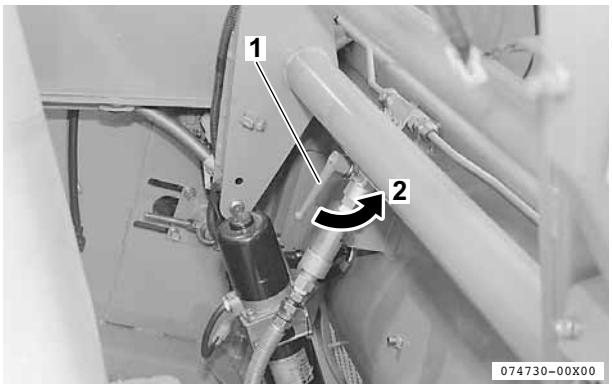


図 4-33

12. フィーダハウス右カバーを取り外します。
13. 刈取駆動チェン(1)を、テンションの調節ナット(2)をゆるめて、スプロケットから取り外します。(図 4-34)

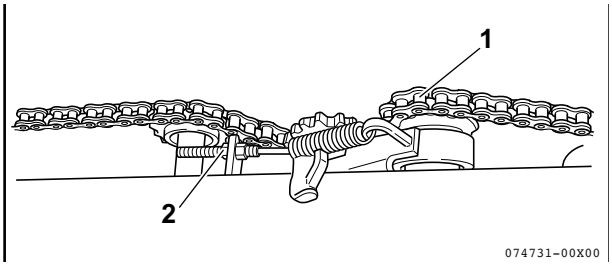


図 4-34

14. 刈取部右側後方の油圧カプラ（1か所）(1)とハーネスのカプラ（2か所）(2)を取り外してます。(図 4-35)

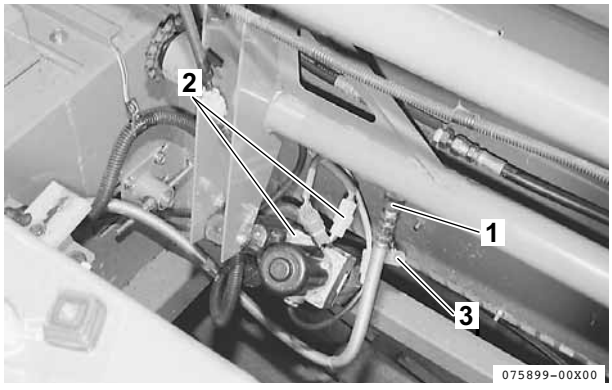


図 4-35

[重要]
油圧カプラを取り外したときは、キャップ (3) を取り付けてください。

15. 固定ボルト（3本）(1)を取り外します。
（図 4-36）（図 4-37）

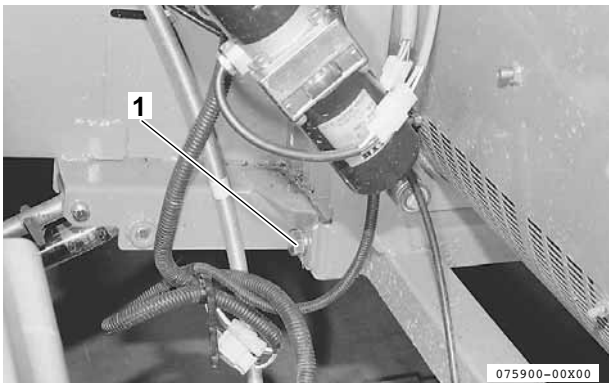


図 4-36

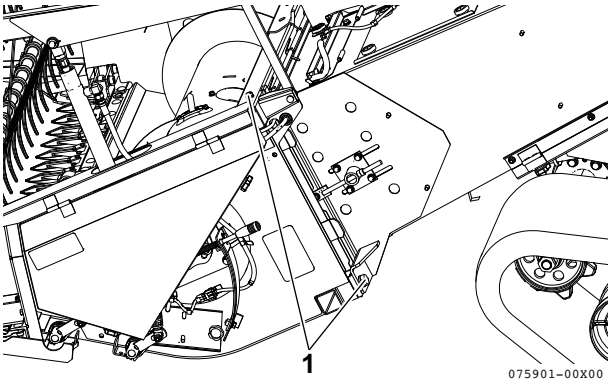


図 4-37

16. 刈取部ストッパレバーで、刈取部の固定を解除します。
17. エンジンを始動します。
18. フィーダハウスを下げます。（図 4-38）

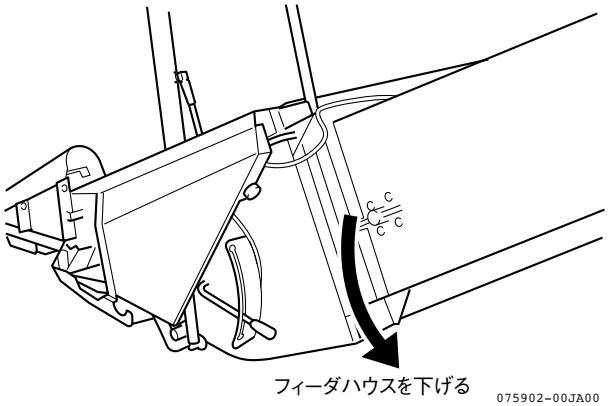


図 4-38

19. カプラ類が完全に切り離されているか確認した後、本機をゆっくり後進させます。（図 4-39）

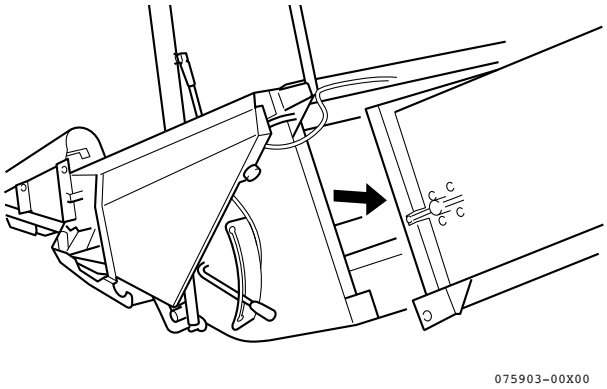


図 4-39

20. エンジンを停止します。
21. ヘッダー部を装着する場合は、逆の手順で行います。

[重要]

ヘッダー部を取り外している状態で、リール高さ調節レバーを操作すると、カプラ内の圧力が高圧になり、カプラが入りにくくなることがあります。入りにくい場合は、カプラをきれいなウエスで包み、カプラ先端の凸部をハンマーでたたいてください。オイルがもれて、カプラが入りやすくなります。

作業後の手入れについて

作業後の手入れのしかた

⚠ 危　険

- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、燃料を抜いたり、注油・給油を絶対にしないでください。燃料などに引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料補給や燃料を抜くときは、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料補給や燃料を抜いたあとは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。火災が起こり、ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- エンジンが高温の間は、シートなどを絶対にかけないでください。火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、平たんで安定した場所で行ってください。コンバインの転倒により、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 刈取部の下で点検・整備をするときは、必ず刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- 点検・整備や修理をするときは、作業に適した服装をしてください。コンバインに巻き込まれたり、滑って転倒して傷害事故につながるおそれがあります。
  - ・ だぶつきのない服（つなぎなど）を着用し、袖口はきっちりと止めてください。
  - ・ 滑り止めの付いた靴（安全靴など）を着用してください。
  - ・ ヘルメットを着用してください。
  - ・ はち巻き・首巻き・腰タオルはしないでください。
  - ・ 音楽用のイヤホンなどを使用しないでください。コンバインに巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、可動部で手足をはさんだり、鋭利なものでけがをしないように十分注意しながら作業してください。

⚠ 注　意

- 点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、キーを抜いてから行ってください。回転部に巻き込まれて、けがをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、高温部分が十分冷めてから行ってください。ヤケドやけがをするおそれがあります。
- 高いところの手入れをするときは、脚立などを用いて行ってください。エンジンルームなどの上に直接登ると、高温の場所もあり危険です。

コンバインの洗浄のしかた

その日の内にコンバインを水洗いし、水洗い後はつぎに従って、掃除を行っいます。

- 回転部に巻き付いているごみを取り除く。
- 水分をよくふき取る。
- 油をしみこませた布で清掃する。
- 刈刃の先端などサビやすい所にグリスを塗る。
- チェン・ワイヤー類、および回転部や摺動部に注油する。（195ページ参照）

[重要]

水洗いをするときは、センサ・スイッチ・パネル・コントローラ付近、およびエンジン部・電装品に水をかけないでください。故障の原因になります。（図 4-40）



図 4-40

刈取部ストッパ（刈取部固定）のセットのしかた

⚠ 警　告

刈取部の下で点検・整備をするときは、必ず刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がってけがをするおそれがあります。

固定のしかた

1. エンジンを始動します。（91ページ参照）
2. 刈高さ・リール前後スイッチを「上」側、または刈高さ調節レバーを「上昇」位置にして、刈取部を最上げ位置にします。
3. エンジンを停止します。（95ページ参照）
4. 刈取部ストッパレバー (1)を持ち上げて、レバー受けからフックを解除します。
5. そのままレバーを後方に倒して、下げてます。刈取部ストッパが下がり、PF シリンダに固定されます。（図 4-41）（図 4-42）

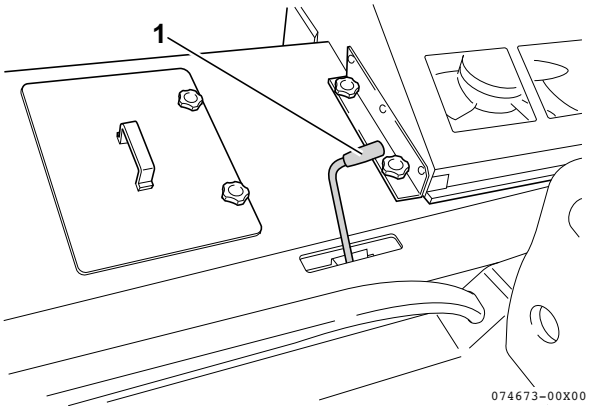


図 4-41

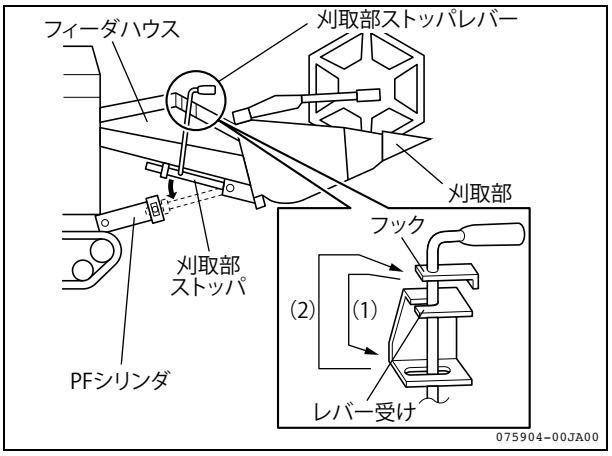


図 4-42

※(1) は固定動作、(2) は解除動作を表しています。

[重要]

刈取部ストッパが、PF シリンダに確実に固定されていることを確認してください。(図 4-43)

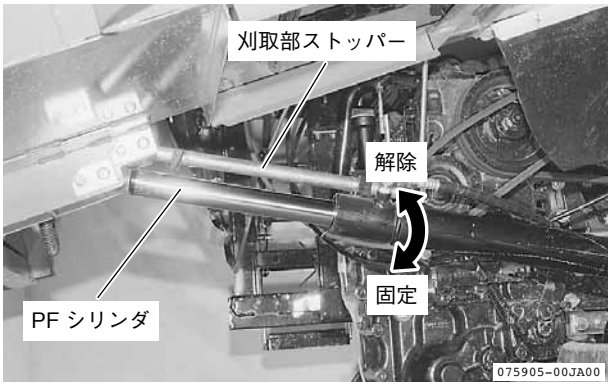


図 4-43

固定の解除のしかた

1. 刈取部ストッパレバーを持ち上げて、後方に倒します。PF シリンダから刈取部ストッパが解除されます。
2. そのままレバーを一番上まで引き上げて、前方へ倒して、レバー受けにフックを掛けます。
3. エンジンを始動して、刈取部を下げます。

[重要]

輸送時や移動走行時は、刈取部ストッパを使用しないでください。

リールストッパ(リール固定)のセットのしかた

⚠ 注 意

リールの下で点検・整備をするときは、必ずリールストッパでリールを固定します。固定しないと、リールが急に下がってけがをするおそれがあります

1. エンジンを始動します。(91ページ参照)
2. リール上下スイッチを押して、リールを任意の高さに調整します。
3. リールストッパレバー (1)を持ち、レバーが水平になるよう回します。(図 4-44)

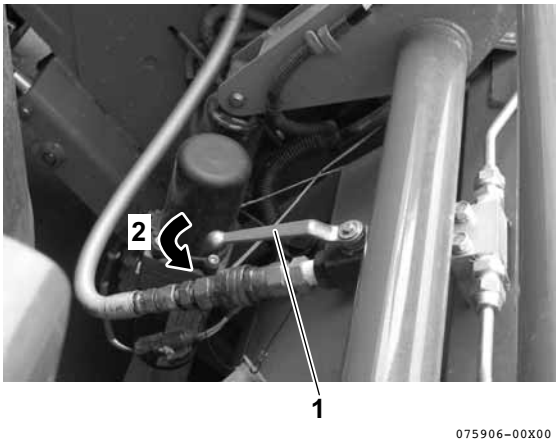


図 4-44

各部の掃除のしかた

⚠ 警　告

- 掃除するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- エンジンをかけたまま手入れをすると、刈刃などで手をはさまれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

掃除口による掃除箇所

異品種や麦・ソバの混種を防ぎ、脱こく内部に残留しているこく粒を取り除くために、各部の掃除口を開き、きれいに掃除します。(図 4-45〜図 4-66)

■ ロータカバー

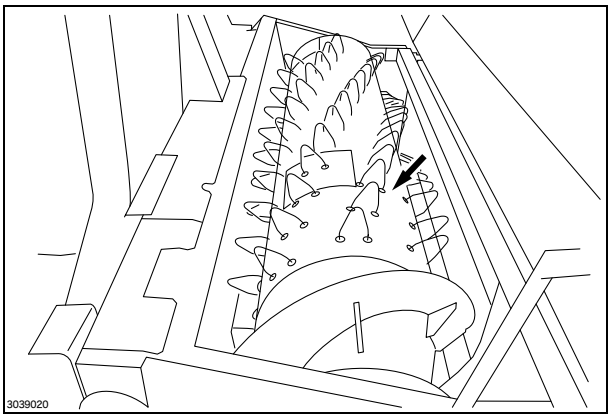


図 4-45

■ コーンケーブ

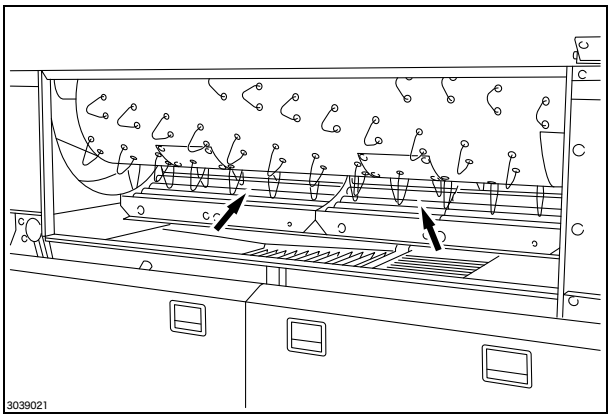


図 4-46

■ フィーダハウス

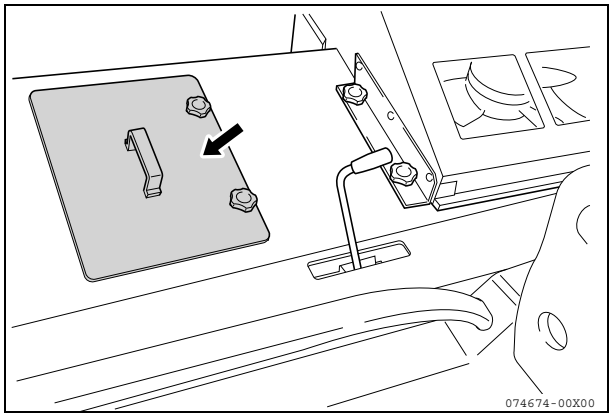


図 4-47

■ プラットホーム横

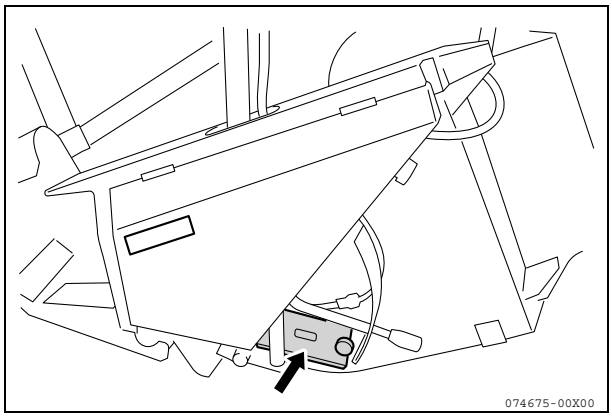


図 4-48

※刈取サイドカバー左(ノブボルト:2本)を開きます。

■ 防塵ファン吸入口(キャビンなし仕様のみ)

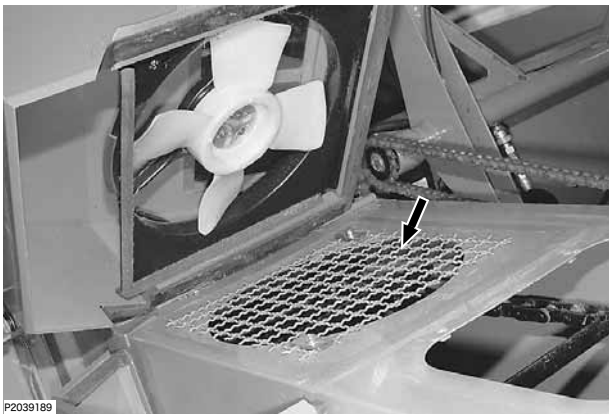


図 4-49

■ フィーダハウスシートメタル

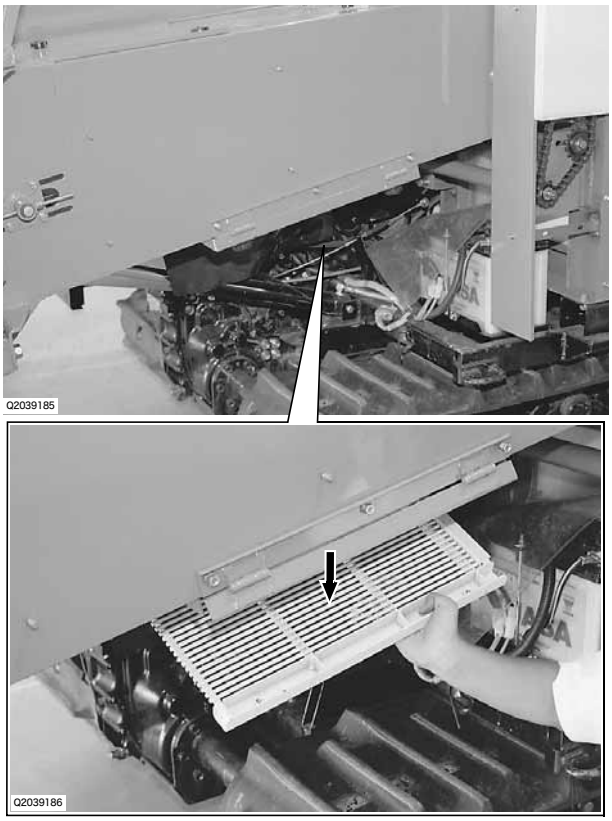


図 4-50

■ バケットコンベア・スラットコンベア

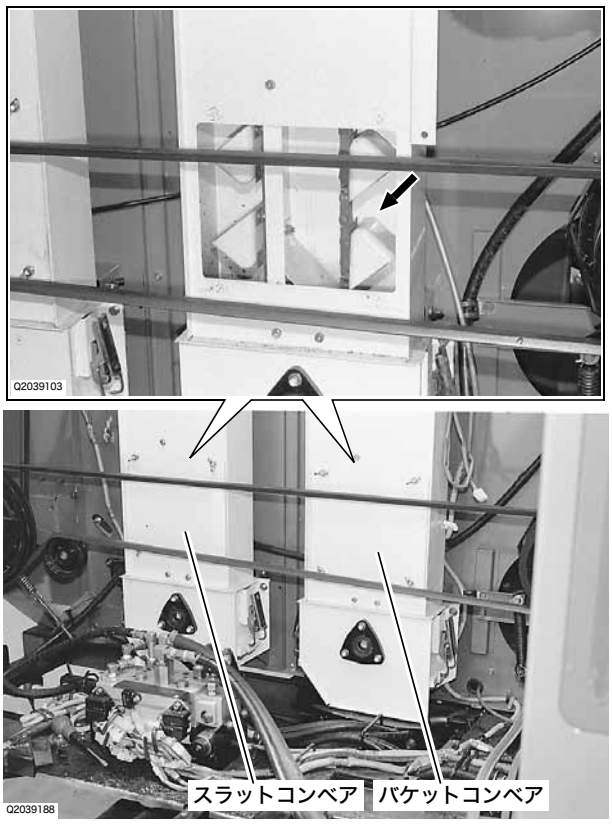


図 4-51

■ 1番・2番昇降機底板

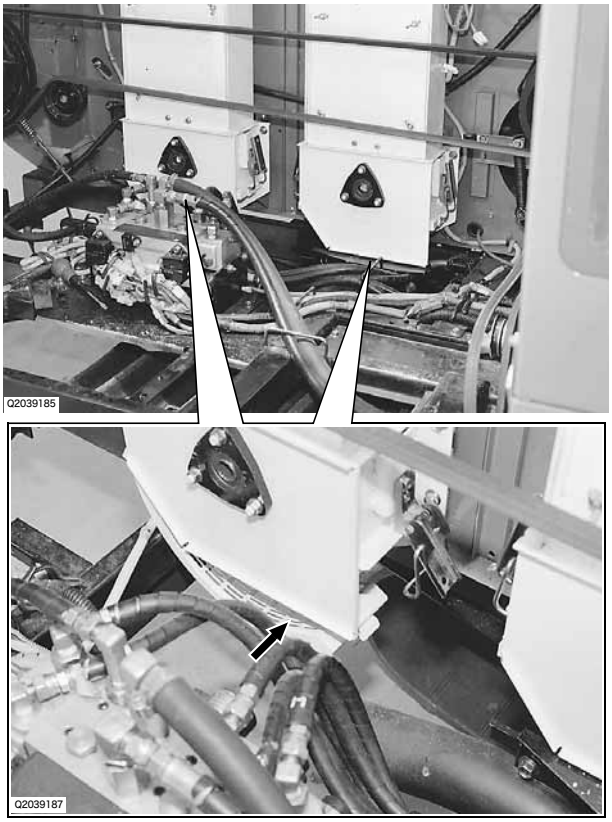


図 4-52

■ 2番掃除口

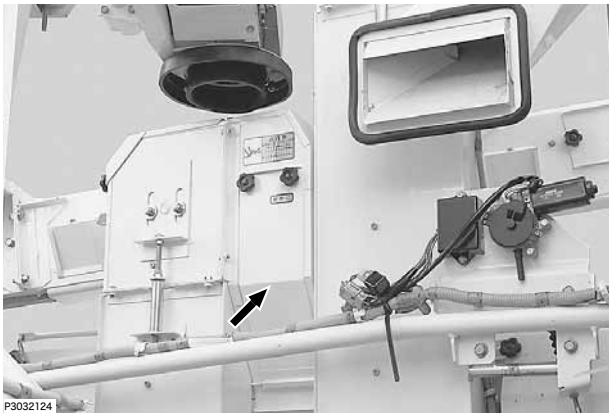


図 4-53

■ 還元口ふた

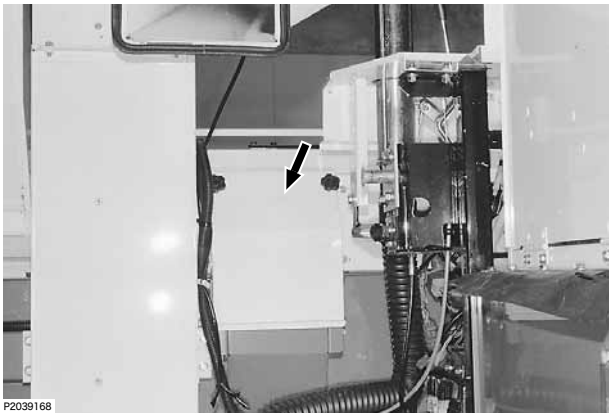


図 4-54

■ 1番・2番コンベア樋

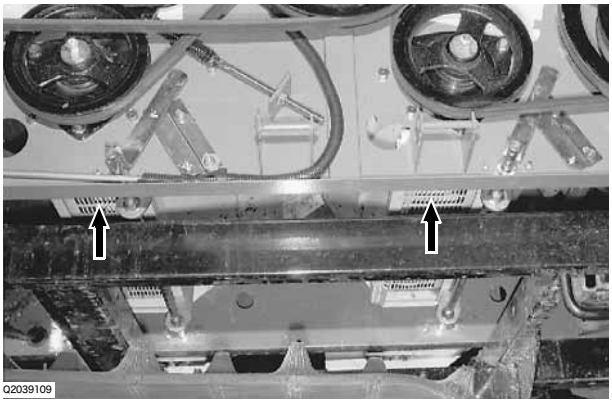


図 4-55

■ グレンタンク下部(グレンタンク仕様のみ)

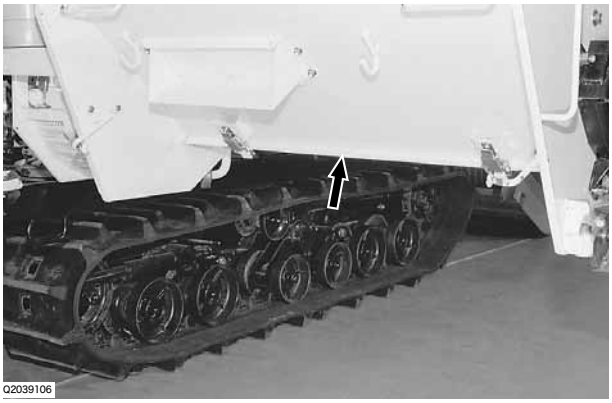


図 4-56

■ グレンタンク昇降機
(グレンタンク仕様のみ)

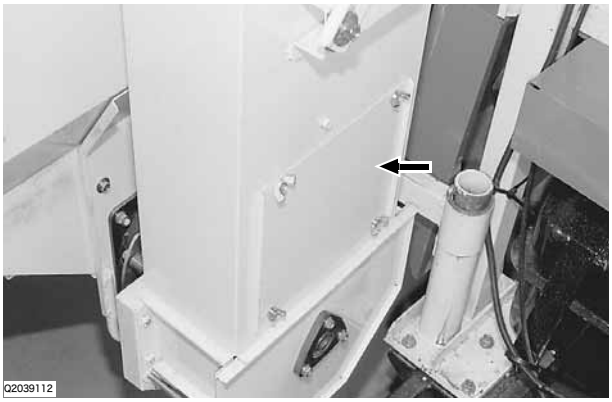


図 4-57

■ グレンタンク受継部
(グレンタンク仕様のみ)

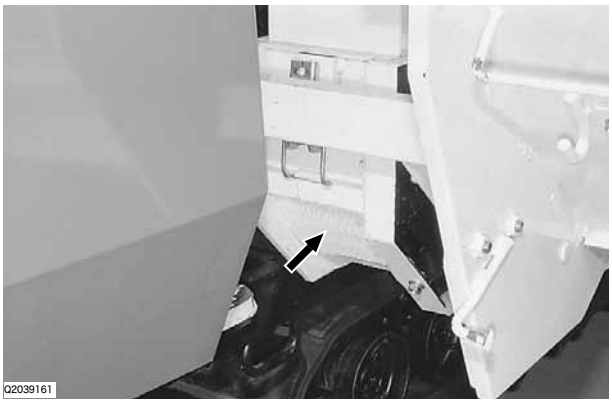


図 4-58

■ 1番昇降機上板

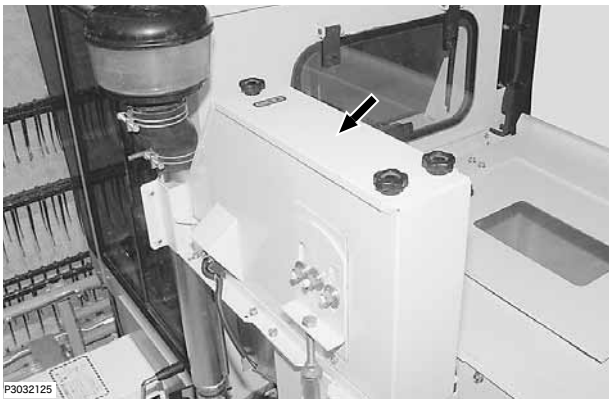


図 4-59

■ 2番昇降機上板

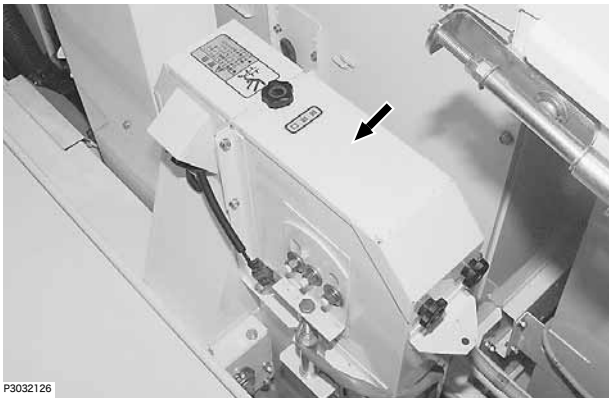


図 4-60

■ 唐箕風路掃除口

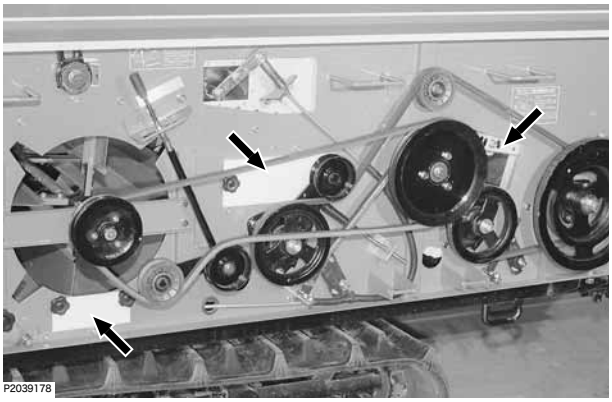


図 4-61

■ 選別室

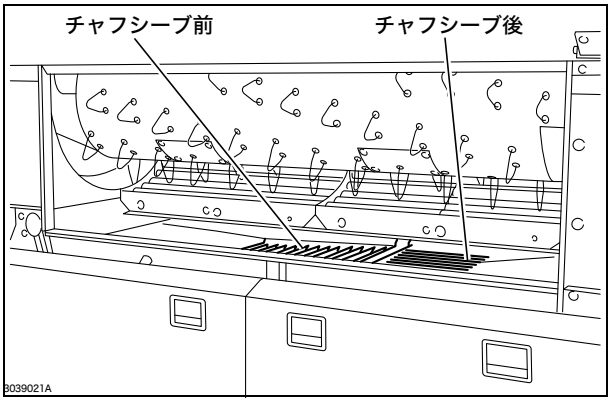


図 4-62

■ 2番上コンベア掃除口

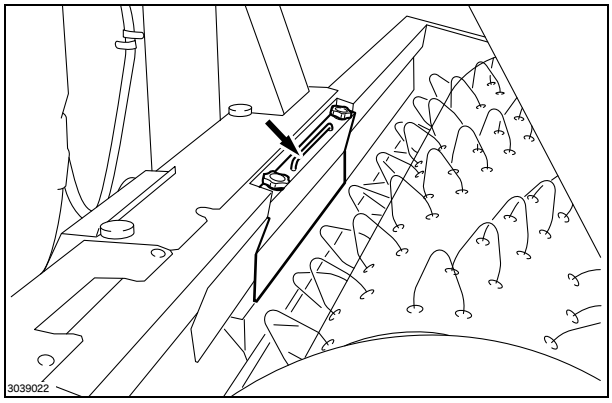


図 4-63

※カバーを取り外します。

■ 排出コンベア受継部
（グレンタンク仕様のみ）

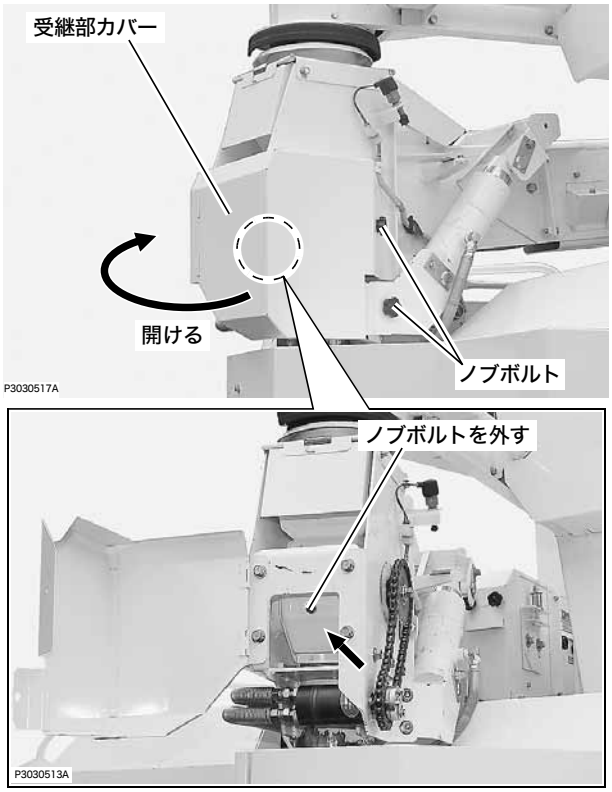


図 4-64

■ 昇降機上板2(グレンタンク仕様のみ)

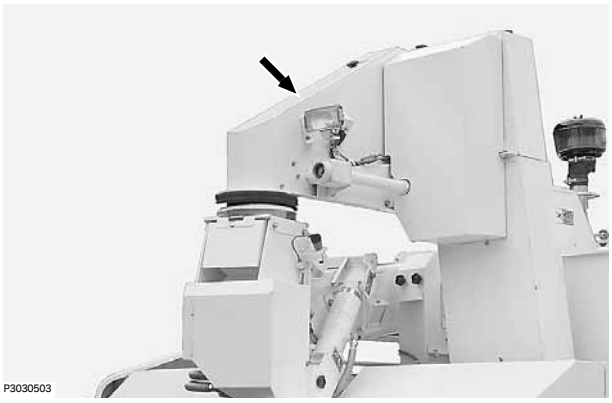


図 4-65

■ 昇降機上板1(グレンタンク仕様のみ)

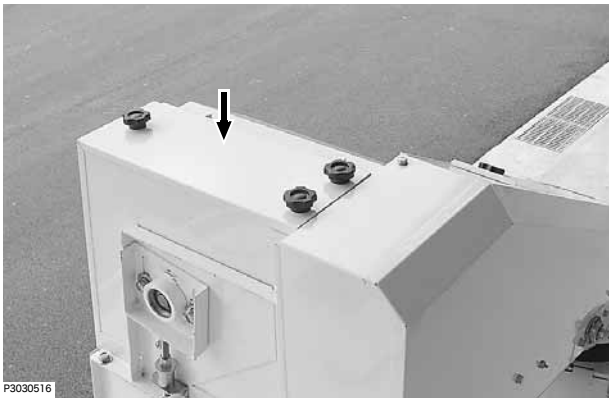


図 4-66

グレンタンク内の掃除のしかた (グレンタンク仕様のみ)

1. キャップ開閉カバーを開いて、グレンタンク内部の壁面にわずかに残留したこく粒を、ホーキなどでスクリューコンベア部に落とし込みます。(図 4-67)(図 4-68)

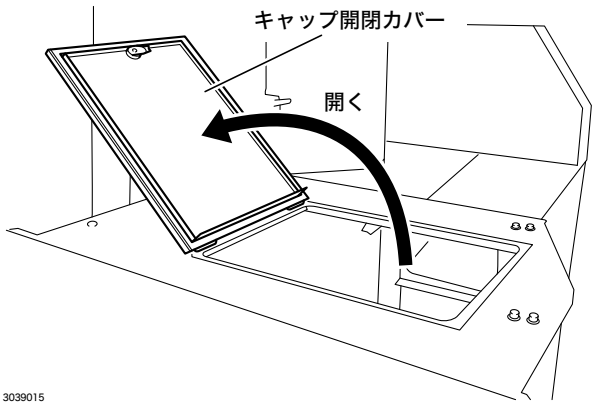


図 4-67

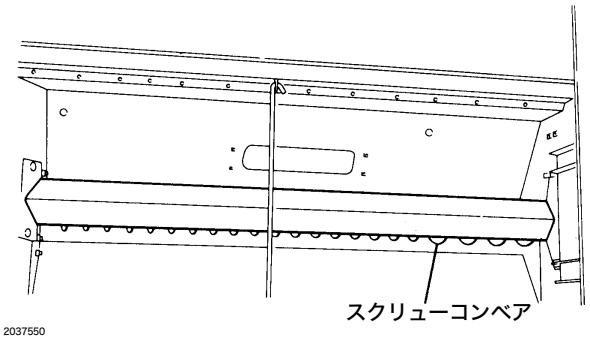


図 4-68

2. グレンタンクをオープンします。
(174ページ参照)
3. パッチン錠 (2か所) (1)を解除して、グレンタンク下部ふた (2) を開けます。スクリューコンベア部に溜まっているこく粒を掃除します。(図 4-69)

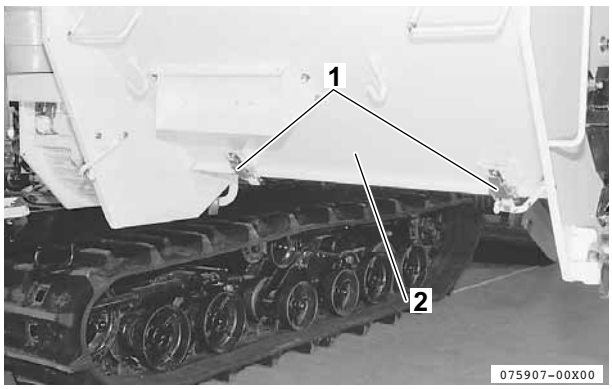


図 4-69

[参考]

さらにグレンタンク (1) 裏側の掃除カバー (2) を取り外すと、タンク内およびスクリューコンベア部のこく粒の掃除が行いやすくなります。(図 4-70)

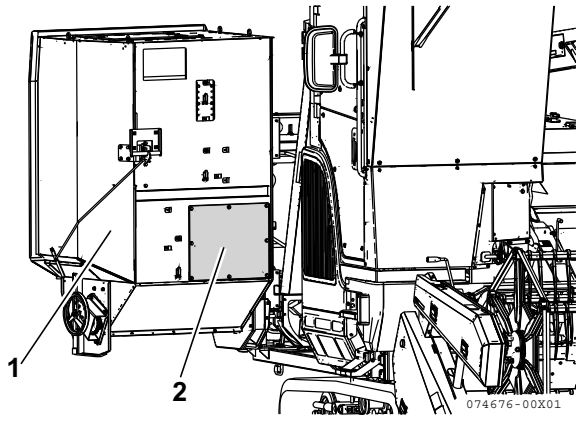


図 4-70

4. グレンタンク受継部のパッチン錠（1）を解除して、カバー (2)を開けて、スクリューコンベアと昇降コンベア部との受継部に溜まったこく粒を掃除します。（図 4-71）

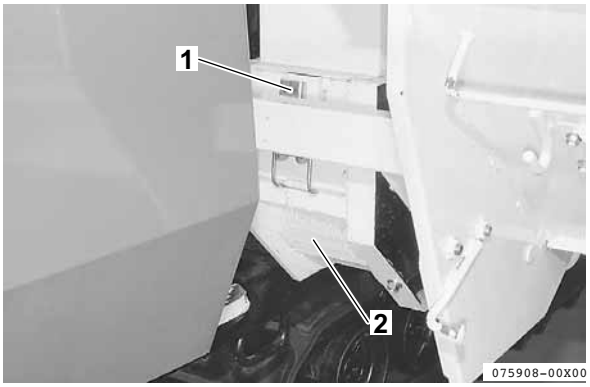


図 4-71

ワンマンホッパ内の掃除のしかた（ワンマンホッパ仕様のみ）

1. こく粒排出シャッター (1)を「開」位置(2)にします。（図 4-72）

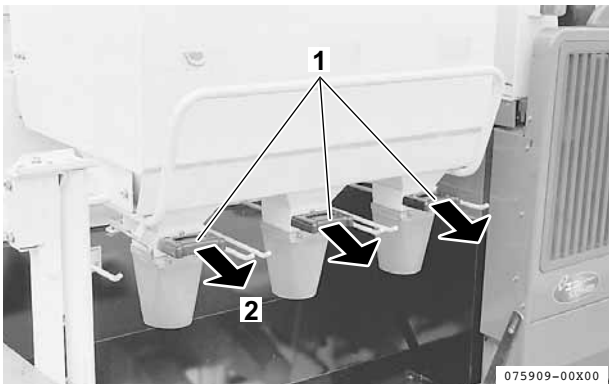


図 4-72

2. ワンマンホッパ上部のパッチン錠(1)（2か所）を解除して、ワンマンホッパ上カバー (2)を開きます。（図 4-73）

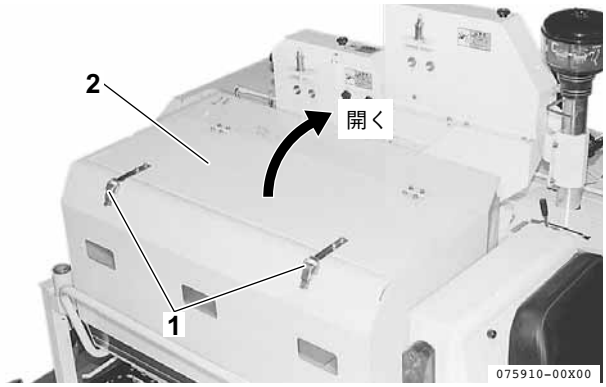


図 4-73

3. ワンマンホッパ内部の壁面にわずかに残留したこく粒を、ホーキなどで排出口に落とし込みます。(図 4-74)



図 4-74

フィーダハウス内、および防塵ファン吸入口(キャビンなし仕様のみ)の掃除のしかた

1. フィーダハウス上面のノブボルト(1) (4本) を取り外します。(図 4-75)

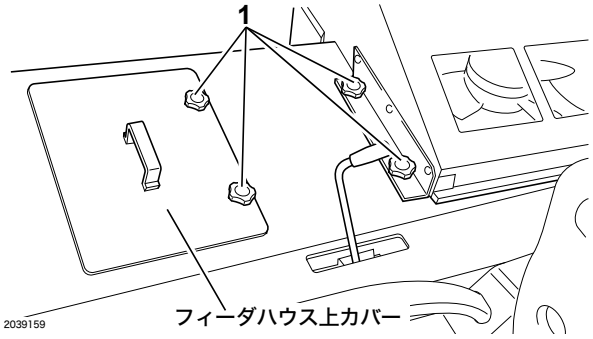


図 4-75

2. 防塵ファン上カバー (1)をオープンして、フィーダハウス上カバーを取り外します。(図 4-76)

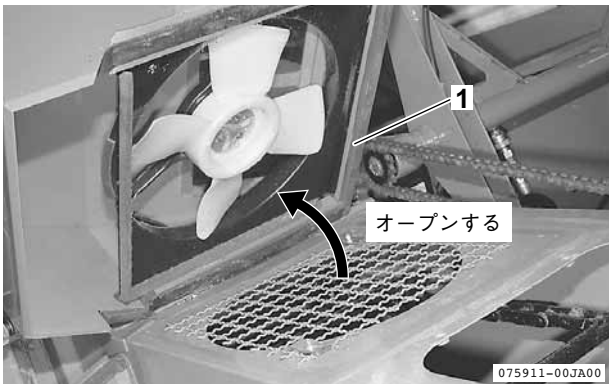


図 4-76

3. フィーダハウス下のノブボルト (2本) を外して、フィーダハウスシートメタルを取り外して、掃除します。

[参考]

必要に応じて、防塵ファン左カバー (1)もオープンして、掃除してください。(図 4-77)

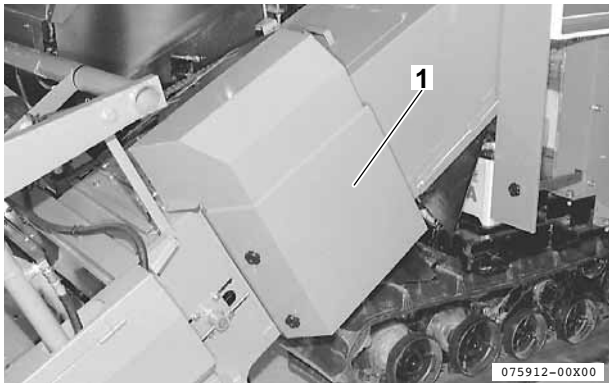


図 4-77

1番･2番コンベア樋の掃除のしかた

1. 脱こく左前カバーと脱こく左後カバーを取り外します。
2. 1番・2番コンベア樋の各ロックレバーを「解除」位置にします。
   操作方法は、レバー(1)を外側に引っ張り、「ロック」位置(2)のピンから外して、「解除」位置にします。(図 4-78)

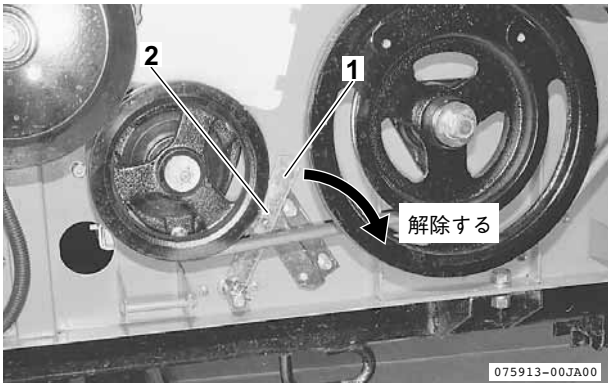


図 4-78

3. 1番・2番コンベア樋(1)を取り外して、コンベア樋に溜まっている､こく粒をきれいに取り除きます。(図 4-79)

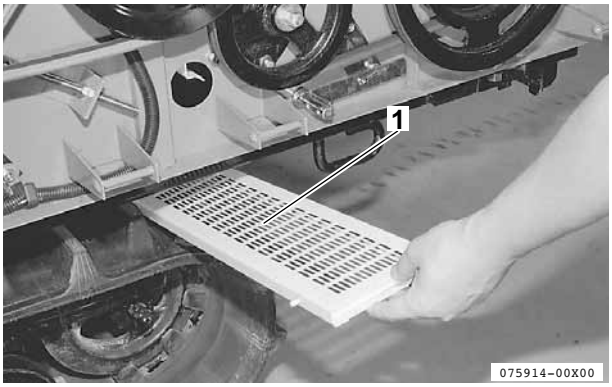


図 4-79

4. 前述と逆の手順で、1番・2番コンベア樋を取り付けて、1番・2番コンベア樋の各ロックレバー(1)を「ロック」位置のピンに掛けて、1番(2)・2番(3)コンベア樋を固定します。(図 4-80)

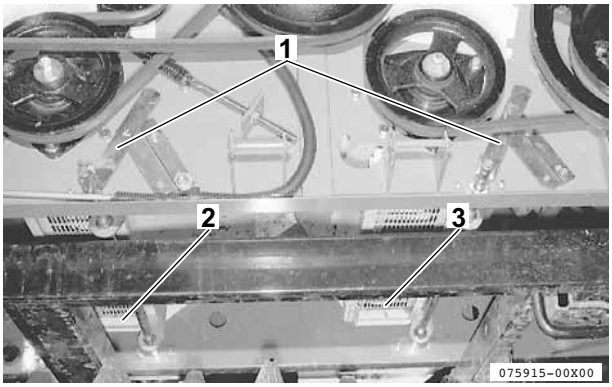


図 4-80

1番･2番昇降機底板の掃除のしかた

1. グレンタンクをオープンします。(グレンタンク仕様のみ)(174ページ参照)
2. ワンマンホッパをオープンして(176 ページ参照)、脱こく右カバーを取り外します。(ワンマンホッパ仕様のみ)
3. パッチン錠(1)(各2か所)を解除して、1番・2番昇降機底板(2)を取り外します。(図 4-81)

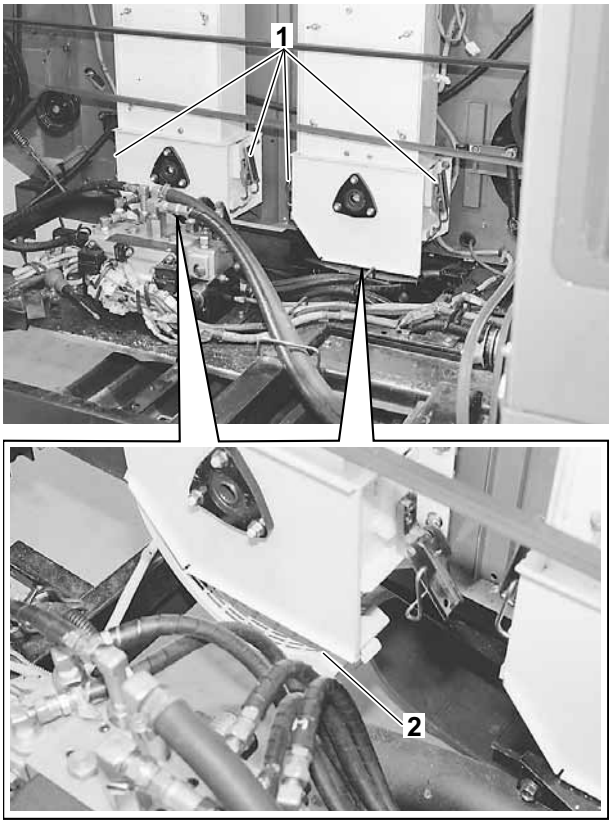


図 4-81

4. 1番・2番昇降機底に溜まっている、こく粒をきれいに取り除きます。
5. 上記と逆の手順で、1番・2番昇降機底板を取り付けて、パッチン錠で固定します。

排出コンベアの掃除のしかた

1. 排出コンベアを排出位置にセットします。
2. 排出コンベア上部(1か所:ノブナット2個)と、下部(1か所:ノブナット2個)の掃除カバーを取り外します。(図 4-82)

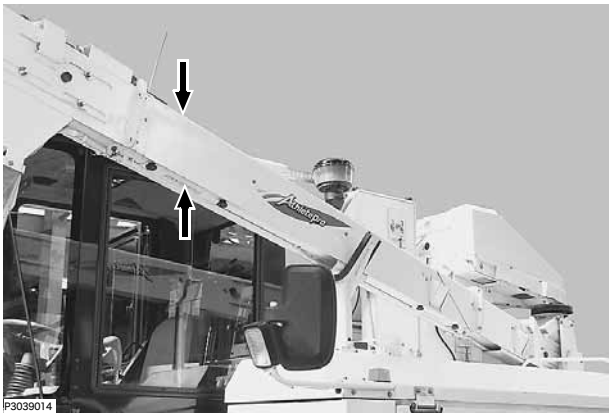


図 4-82

3. 排出コンベア右側面の掃除カバー(1)を(3か所:ノブボルト(2)各2本)を取り外します。(図 4-83)

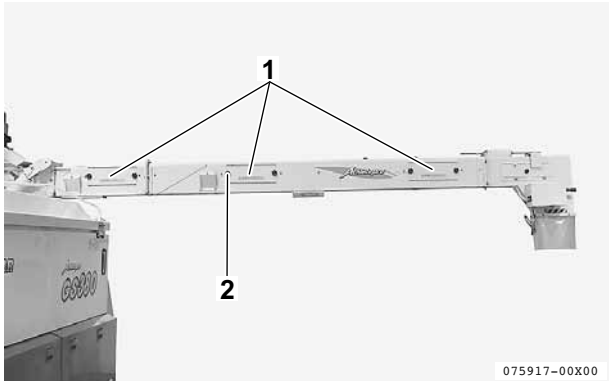


図 4-83

4. 排出コンベア左側面の掃除カバー(1か所:ノブボルト1本)を取り外します。(図 4-84)

5. 排出コンベア左右側面の掃除ふた(1)（左右各3か所：ボルト各1本）を取り外します。（図 4-84）

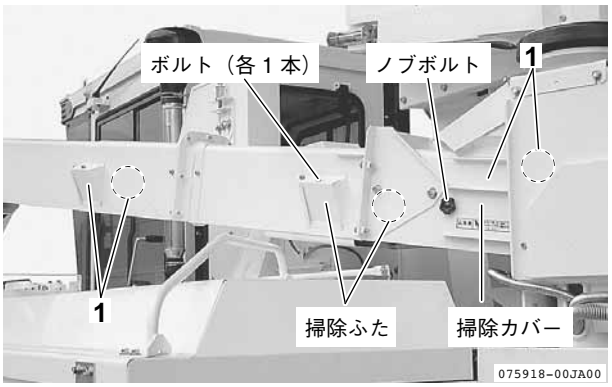


図 4-84

6. 昇降機上板1(1)（ノブナット3個）(2)と昇降機上板2(3)（ノブボルト1本）(4)を取り外します。（図 4-85）（図 4-86）

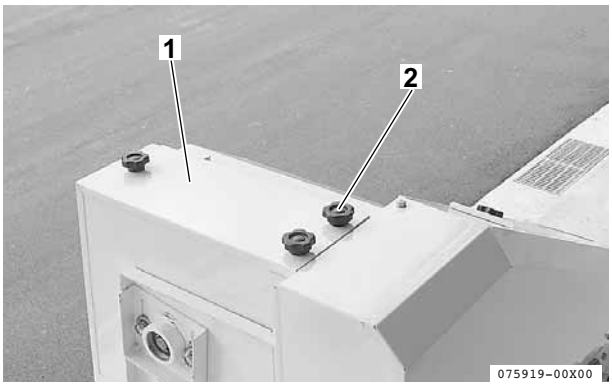


図 4-85

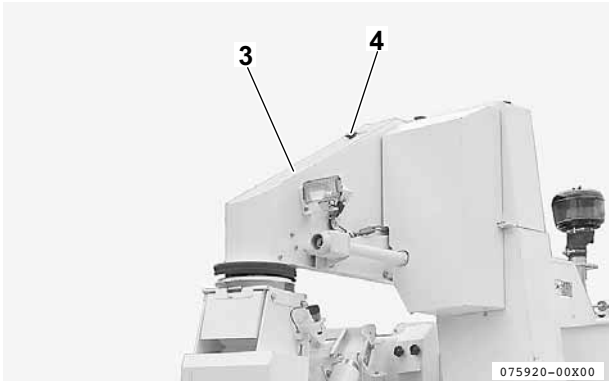


図 4-86

7. 排出コンベア受継部のノブボルト(1)（2本）を外して、受継部カバー (2)を開けます。（図 4-87）

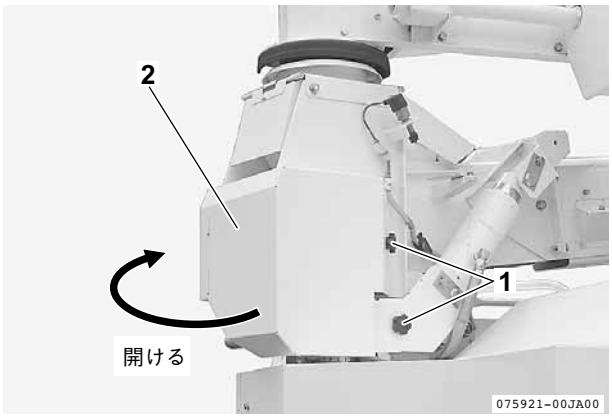


図 4-87

8. ノブナット(1)（1個）を外して、掃除ふた(2)を取り外します。（図 4-88）

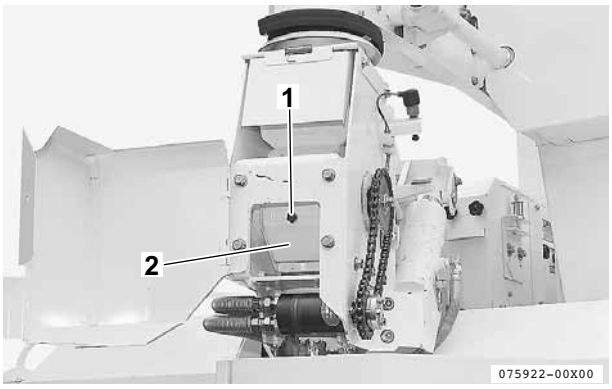


図 4-88

9. 排出コンベアを駆動させます。排出コンベア内にたまったこく粒が排出できます。

2番上コンベア掃除口の掃除のしかた

1. ロータカバーをオープンします。
   (173ページ参照)
2. 掃除口のふた(1)（ノブボルト2本）(2)を取り外します。(図 4-89)

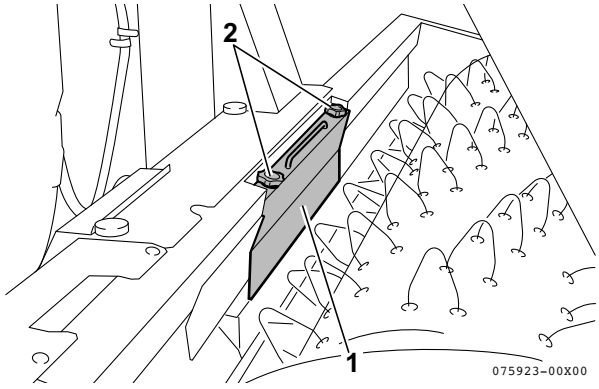


図 4-89

3. 掃除口から、2番上コンベア(1)の掃除をします。
   (図 4-90)

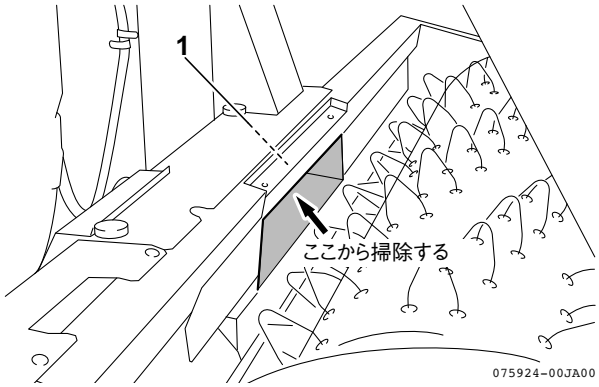


図 4-90

4. 掃除口のふたを取り付けて、ロータカバーを閉めます。

排気フィルター関係の掃除のしかた

⚠ 注　意

高温部分が十分に冷めてから行ってください、ヤケドをするおそれがあります。

1. グレンタンク仕様の場合は、グレンタンクおよびエンジン後カバーを開きます。ワンマンホッパ仕様の場合は、ワンマンホッパをオープンし、エンジンルームをオープンします。
2. 排出ガス出口（1）および連結パイプ付近（2）に堆積、付着しているワラくずなどを掃除します。(図 4-91)

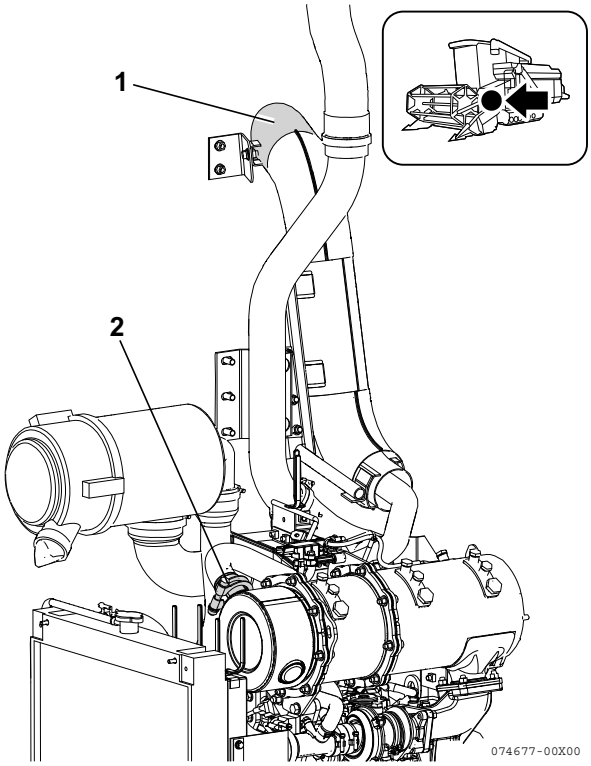


図 4-91

各部の注油のしかた

⚠ 注　意

注油をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。けがをするおそれがあります。

注油：

※刈刃・フィーダチェンには、食品機械用潤滑スプレーを使用してください。（119ページ参照）

食品機械用潤滑スプレー：

[参考]

低温時（5℃以下）には、オイルの一部が固体になり、分離しているような状態になる場合があります。分離しているときは、常温に戻してから使用してください。

■ リール駆動チェン

リールチェンカバーを外します。

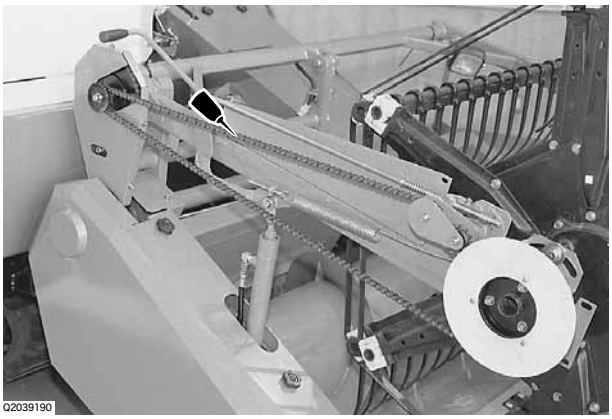


図 4-92

■ リールカウンタチェン

刈取サイドカバー右を外します。

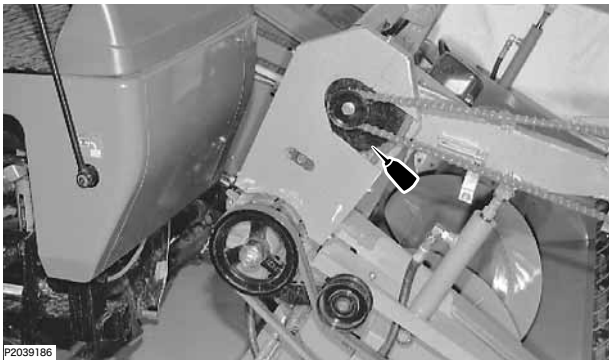


図 4-93

■ プラットホームオーガ駆動チェン

刈取サイドカバー右を外します。

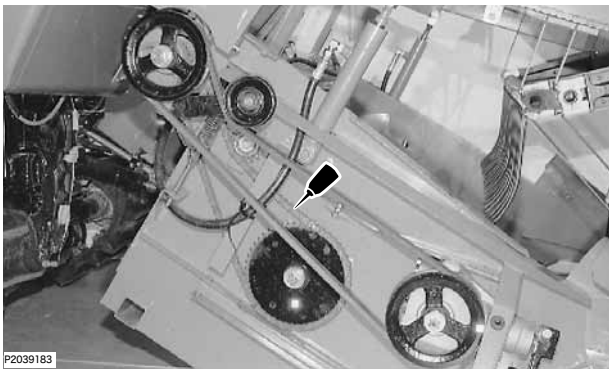


図 4-94

■ センサソリ

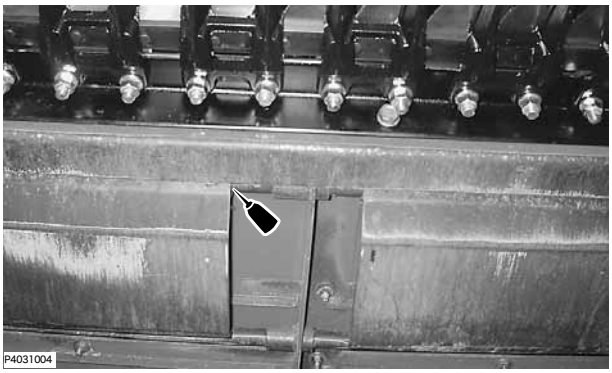


図 4-95

■ フィーダチェン

フィーダハウス上カバーを外します。

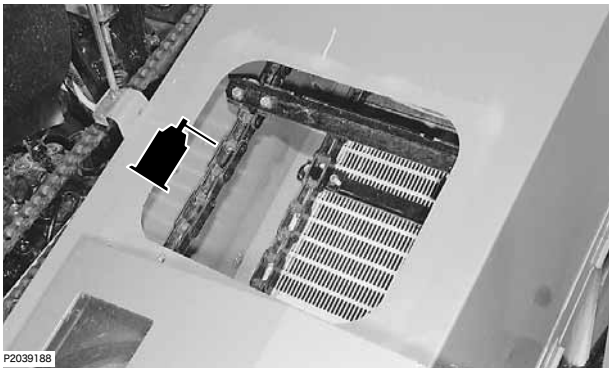


図 4-96

■ 刈刃

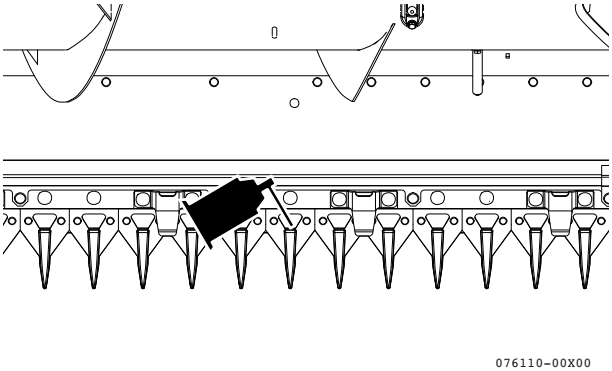


図 4-97

■ 刈取駆動チェン

フィーダハウス右カバーを外します。



図 4-98

■ 排出コンベア駆動部

受継部カバーを開けます。（187ページ参照）

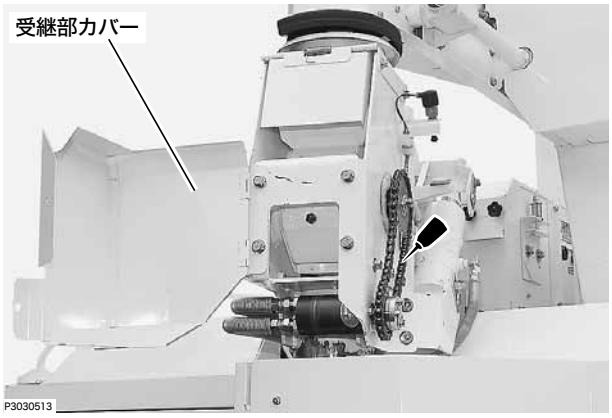


図 4-99

■ グレンタンク排出駆動チェン部

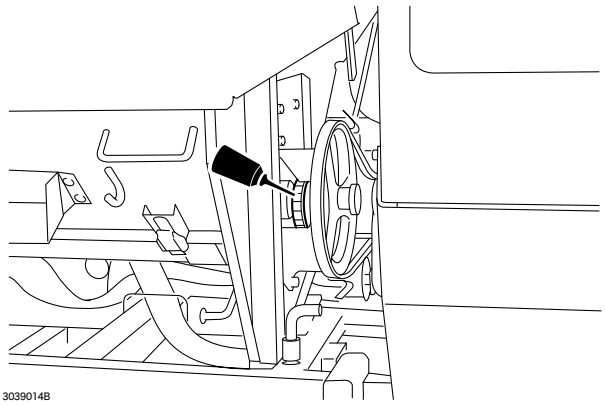


図 4-100

グリスアップのしかた

掃除をした後、下図の位置にグリスアップを行います。

■ PFシリンダピン



図 4-101

■ フィーダハウス回動支点左部

脱こく前カバーを取り外します。

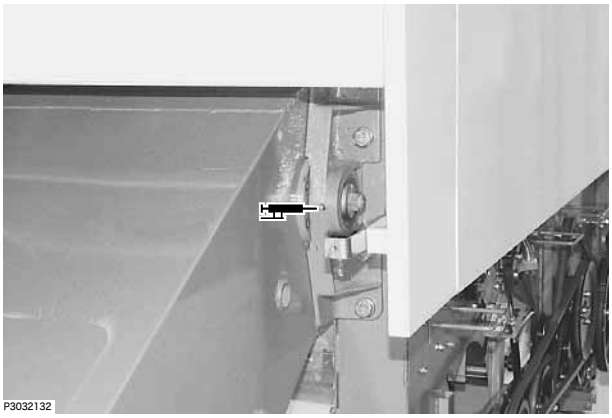


図 4-102

■ フィーダハウス回動支点左部

フィーダハウス右カバーを外します。

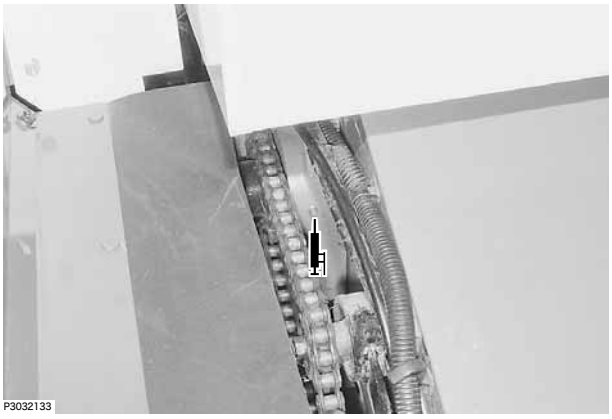


図 4-103

■ ロータ軸受部後部

脱こく後カバーと脱こく後右カバーを取り外します。

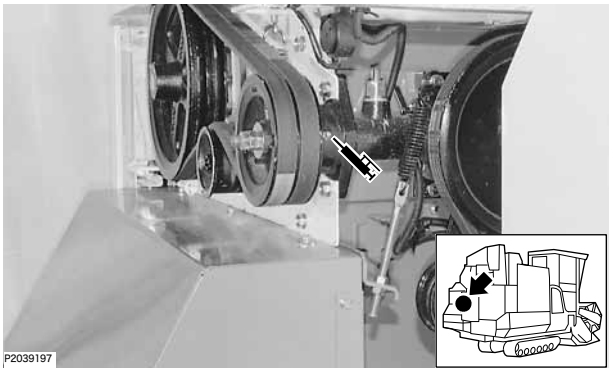


図 4-104

■ リール変速切替部

リールチェンカバーを取り外します。

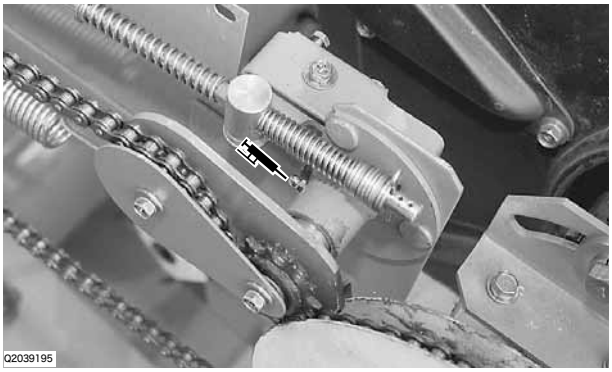


図 4-105

■ 排出コンベア昇降駆動部

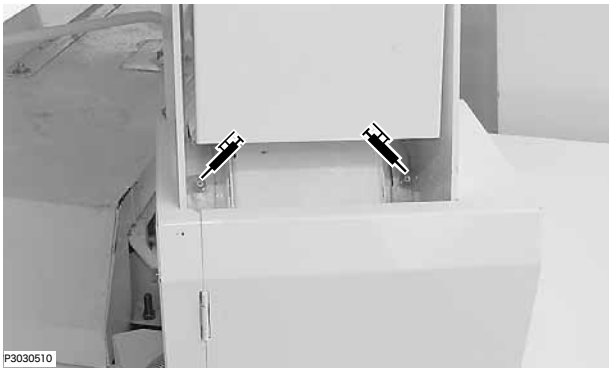


図 4-106

■ 排出コンベア上部回動支点メタル

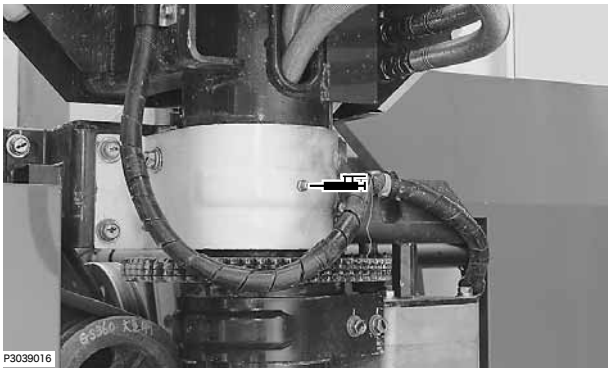


図 4-107

■ 排出コンベア下部回動支点メタル

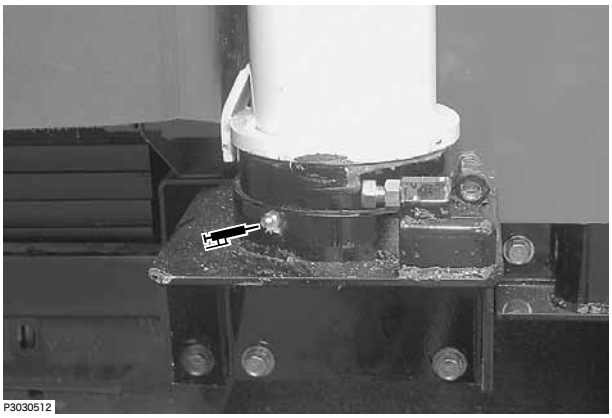


図 4-108

■ キャリアローラ・イコライザ・
トラックローラ・アイドラ

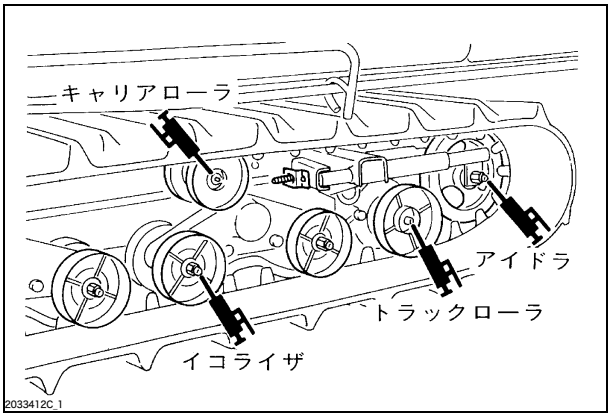


図 4-109

■ スイングアームL・R

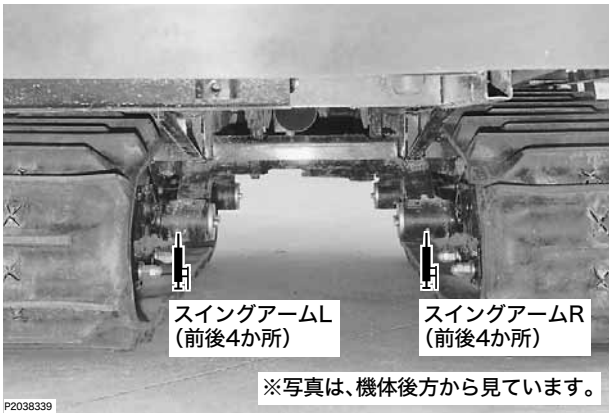


図 4-110

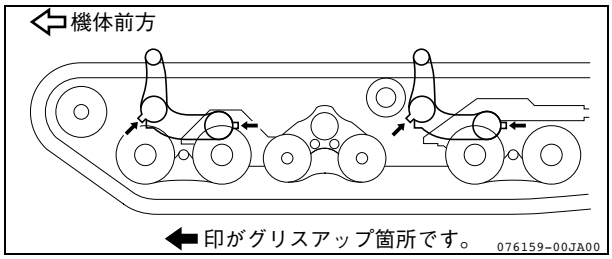


図 4-111

点検･整備のしかた

⚠ 警　告

- コモンレールエンジンの不調は購入先にご相談ください。サプライポンプとインジェクタの間には高圧燃料が通っています。故障かなと思ったら自分で分解・修理せずに、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。守らないと、整備不良によるコンバインの故障、また高圧燃料による傷害事故のおそれがあります。
- 点検・整備・調節をするときは、交通の危険がなく、平たんで安定した場所で行ってください。コンバインが転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。
- 点検・整備・調節をするときは、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、各レバーを「OFF」または「切」位置にして、回転部の停止を確認してからキーを抜いて行ってください。回転部に巻き込まれたり、重大な事故の原因になります。
- 刈取部を上げて点検・整備・調節をするときは、必ず刈取部ストッパを「固定」位置にして、刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がって傷害事故を起こす原因になります。
- 室内で点検・整備をするときは、換気を十分に行ってください。エンジンの排出ガスで中毒を起こすおそれがあります。
- リールの下で作業するときは、必ずストップバルブのレバーをロックしてください。
  リールが下降して、傷害事故を起こす原因になります。
- 点検・整備をするときは、作業に適した服装にしてください。また、可動部で手足を挟んだり、鋭利なものでけがをしないように十分注意しながら作業してください。

⚠ 注　意

- 点検・整備をするときは、排出ガス出口などの高温部分が十分に冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
- カバーを外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。元通りに取り付けないと、回転部に巻き込まれたり、けがをするおそれがあります。
- 複数で作業するときは、安全を確保するために、キースイッチのキーを抜いてください。

[重要]

- 廃油や不凍液などの地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルター・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- オイルや燃料をクローラおよびエンジン防振ゴムにかけないようにしてください。もしオイルがかかったときは、十分に洗浄してください。そのままにしておくとクローラやエンジン防振ゴムの劣化や寿命が短くなるおそれがあります。
- 電気系統の点検・整備をするときは、バッテリーの（−）側のケーブルを外してください。

定期点検･整備の時期について

シーズン中でも、点検整備が必要な使用時間や状態になったら、定期点検一覧表や主要消耗部品のリストを参考に整備を行ってください。
また、定期点検や整備は、農閑期に行われることをお勧めします。農閑期に行いますと農繁期にはコンバインの性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。
コンバインの整備不良による事故を未然に防止するため、1シーズンごとに整備工場での定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。特に、燃料パイプやラジエータホースなどのゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常にコンバインを最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。



図 4-112

■ 重要保安部品の点検･交換時期

つぎの部品は、保安上、非常に重要な部品ですので、定期的に点検・交換をしてください。

表 4-1 重要保安部品の点検･交換時期

	点検	交換
燃料ホースおよび結合部	1年ごと	2年ごと
電気配線	1年ごと	ー
油圧ホース	1年ごと	2年ごと

■ 燃料ホースおよび結合部の点検

- 燃料ホースおよび結合部からの燃料もれやにじみがないか、点検してください。ある場合は、きれいに拭き取ってください。
- 燃料ホース結合部のホースバンドが、ゆるんでいないか点検してください。ゆるんでいる場合は、締め付けてください。
- 燃料ホースにひび割れ・硬化・膨張がないか点検し、ある場合はホースを交換してください。

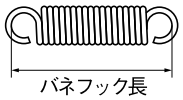
■ 電気配線の点検

- 電気配線の接続部が、ゆるんでいないか点検してください。ゆるんでいる場合は、しっかり取り付けてください。
- 電気配線に損傷がないか、また、クランプにゆるみがないかを、目視などで点検してください。
  損傷がある場合は、適切な修理や交換をしてください。

■ 油圧ホースおよび結合部の点検

- 油圧ホース・パイプおよび結合部より、オイルのもれ・にじみがないか点検してください。もれ・にじみがある場合は、きれいに拭き取ってください。
- 油圧ホースの接続部がゆるんでいないか点検してください。ゆるんでいる場合は、しっかり取り付けてください。
- 油圧ホースにひび割れ･キズがないか点検し、ある場合はホースを交換してください。

調整箇所規定量一覧表



テンションバネフック長は、
両端フックの内寸法を示します。

表 4-2 調整箇所規定量一覧表

点検・調節箇所	規定量	内容	参照ページ
刈刃のすき間調節	1.2mm	受刃と刈刃上面の最大すき間	235
	0.3～0.8mm	受刃と刈刃下面のすき間	235
	0.8mm	刈刃の前後最大すき間	235
プラットホーム底板とスクリューコンベアのすき間調節	大豆12～15mm	プラットホーム底板とスクリューコンベアのすき間	236
	ソバ・麦6～8mm		236
プラットホーム底板とフィンガのすき間調節	4～6mm	プラットホーム底板とフィンガのすき間	237
フィーダチェン	25～27mm	フィーダチェンスラットと底板のすき間（A部）	238
	3～6mm	フィーダチェンスラットと底板のすき間（B部）	238
刈刃上面とリールタイン先端のすき間調節	10～15mm	刈刃上面とリールタイン先端のすき間	240
スクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間調節	10～15mm	スクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間	241
リールカウンタチェン	10～15mm	指で押したときのたわみ量	242
プラットホームオーガチェン	14～20mm	指で押したときのたわみ量	242
刈取駆動チェン	98～102mm	テンションバネフック長	243
刈取カウンタチェン	76～80mm	テンションバネフック長	243
バケットコンベアチェン・スラットコンベアチェン	0～0.5mm	座金とカラーの間（A寸法）	244
1番・2番駆動ベルト	100～104mm	テンションバネフック長	247
選別駆動ベルト	83～87mm	テンションバネフック長	247
刈刃駆動ベルト	136～140mm	テンションバネフック長	248
ロータ駆動ベルト1	103～107mm	テンションバネフック長	248
ロータ駆動ベルト2	140～144mm	テンションバネフック長	249
グレン駆動ベルト2（グレンタンク仕様のみ）	138～142mm	テンションバネフック長	249
2番駆動ベルト上	80～84mm	テンションバネフック長	250
冷却ファンベルト（ジェネレータ駆動ベルト）	10～15mm	指で押したときのたわみ量	250
グレン駆動ベルト1（グレンタンク仕様のみ）	96～100mm	テンションバネフック長	251
刈取駆動ベルト	40～45mm	レバー「切」側からの寸法	251
脱こく駆動ベルト	35～40mm	レバー「切」側からの寸法	252
脱こくカウンタベルト	170～174mm	テンションバネフック長	252
HST走行駆動ベルト	224～228mm	テンションバネフック長	253
コンプレッサ駆動ベルト	6～8mm	指で押したときのたわみ量	253
受継駆動ベルト	90～94mm	テンションバネフック長	254
受継ベルト	0～0.5mm	座金とカラーのすき間	254
排出コンベア搬送ベルト	180～184mm	バネのバネ長	255
駐車ブレーキの調節	102～106mm	テンションバネフック長	255
クローラの調節	10～15mm	シャーシをジャッキアップしたとき、クローラと第2転輪のすき間	257

オイル・グリス・不凍液一覧表

表 4-3 オイル・グリス・不凍液一覧表

	純正品	一般販売店の相当オイル	
		JX日鉱日石エネルギー（ENEOS）	コスモ石油
燃料	ー	ディーゼル軽油	
エンジンオイル（JASO分類、DH-2級）（API分類、CJ-4級）	スーパーグリーンディーゼル 10W-30（SAE・DH-2級）	ディーゼルエンジン用SAE10W-30相当品（DH-2級またはCJ-4級）	
グリス（マルチパーパスタイプ）	ー	エピノックグリース AP2 または リゾコックグリース EP2	コスモグリース ダイナマックス EP
不凍液（JIS K2234 2種 パーマネントタイプ）	アンチフリーズPT	アンチフリーズPT	アンチフリーズPT（ゴールド、シルバー）
ミッションオイル（油圧・HSTオイル兼用）	トランスミッションフルードTF300	ー	
ミッションオイル（駆動ケース）	マルチSHPギアオイル（SAE90.GL-5）		
食品機械用潤滑スプレー	部品コード:OIL-19030000		

[重要]

気温がー5℃以下のとき、燃料は3号または特3号軽油を使用してください。

給油・給水一覧表

表 4-4 給油・給水一覧表

項目		給油量	種類	交換時期	参照ページ
燃料		50L	ディーゼル軽油	作業前	203
冷却水	ラジエータ	6.0L	清水・不凍液	1年ごと	209
	サブタンク	0.45L	清水・不凍液	1年ごと	209
	サブタンク（キャビン仕様）	1.1L	清水・不凍液	1年ごと	209
エンジンオイル		4.7L	スーパーグリーンディーゼル 10W-30（SAE・DH-2級）	1回目：50時間または1シーズン後 2回目：以降100時間ごと、または1シーズンごとのどちらか早い方	204
ミッションオイル（ミッションケース内油量）		7.8L	トランスミッション フルードTF-300	1回目：50時間または1シーズン後 2回目：以降400時間ごと、または2年ごとのどちらか早い方	206
刈刃駆動ケース		0.7L	ミッションオイル90番	1回目：50時間または1シーズン後 2回目：以降300時間ごと、または2年ごとのどちらか早い方	208
ロータ駆動ケース		0.3L	ミッションオイル90番	1回目：50時間または1シーズン後 2回目：以降300時間ごと、または2年ごとのどちらか早い方	208

[重要]

定期点検を実施するとともに、オイルの交換は純正（指定）オイルをご使用ください。

燃料の点検･補給のしかた

⚠ 危　険

燃料の点検･補給をするときは､くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください｡燃料に引火して､火災を起こす原因になります。

⚠ 警　告

燃料の補給をしたときは､燃料キャップを確実に締め､こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください｡火災やヤケドの原因になります。

燃料の残量点検のしかた

燃料の残量は、キースイッチを「ON」位置にして、コンビネーションメータの燃料計 (1) で確認します。燃料の残量が少なくなったときは、セグメント表示が点滅し、ブザーが断続的に鳴ります。
ブザーを止めるときは、ブザー停止スイッチを押します。
ブザーは鳴りやみますが、セグメント表示は点滅したままです。(図 4-114)

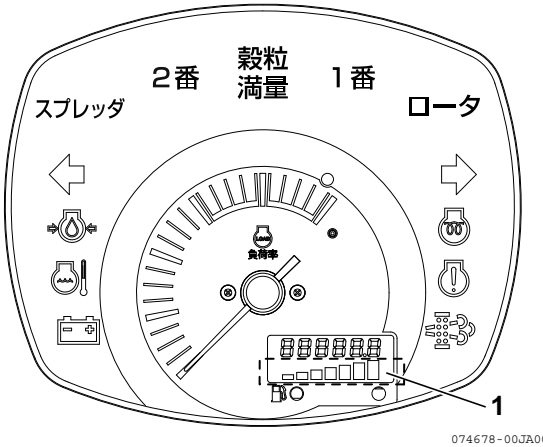


図 4-113

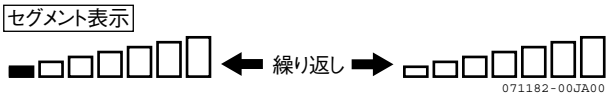


図 4-114 セグメント表示

燃料の補給のしかた

[重要]

- コモンレールエンジンの燃料噴射関係の部品は精密部品です。燃料補給の際には、水や異物が混入しないように注意してください。
- 燃料を補給するときは､燃料フィルターを必ず装着してください｡燃料フィルターを外したまま､燃料を補給すると､配管内で異物が詰まり､出力低下やエンジンストップの原因になるおそれがあります。

1. 燃料キャップを取り外します。(図 4-115)
2. 燃料を、フィルター (1)から液面が見え始めるまで補給します。(図 4-116)

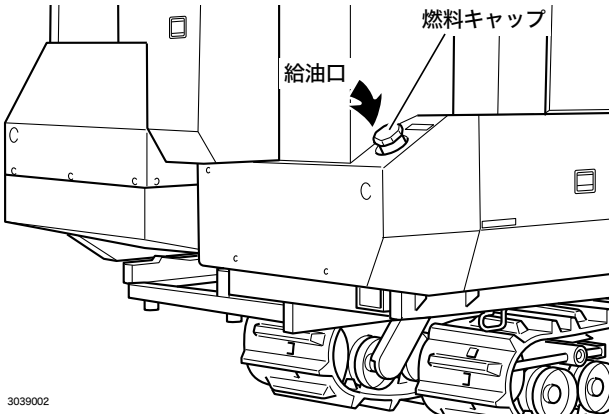


図 4-115

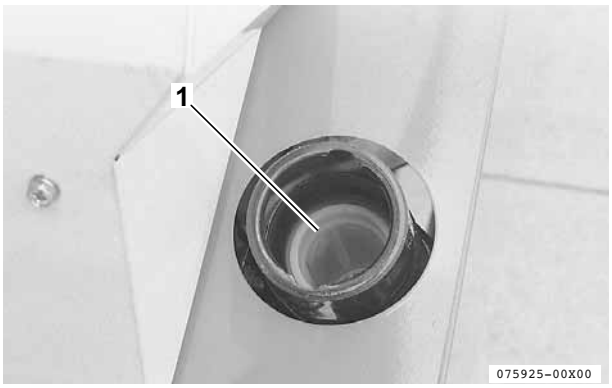


図 4-116

[重要]

- 燃料を補給するときは、燃料フィルターを必ず装着してください。燃料フィルターを外したまま、燃料を補給すると、配管内で異物が詰まり、出力低下やエンジンストップの原因になるおそれがあります。
- 燃料補給は、給油口のフィルター下方に液面が見えてきたら、給油をやめてください。冬季など燃料の温度が低いときに、燃料を給油口いっぱいまで入れていると、気温の上昇とともに膨張し、ブリーザパイプからもれることがあります。
- このコンバインのエンジンは排出ガス規制対応のため、燃料噴射部品に精密部品を使用しています。使用燃料を保管する場合は、亜鉛メッキ鋼板の容器の使用は避け、樹脂製、ステンレス製などの容器を使用してください。燃料の中に亜鉛、または鉛物質が溶け出すと、エンジン不調の原因になる場合があります。

[参考]

キースイッチが「ON」位置のときは、燃料給油時に満量になるとブレーキランプが点滅し、ブザーが断続で鳴ります。OFF（ブザー停止）スイッチを押すと、ブザーは鳴り止みます。

オイルの点検･補給･交換のしかた

[重要]

- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルター・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- オイルや燃料をクローラおよびエンジン防振ゴムにかけないようにしてください。もしオイルがかかったときは、十分に洗浄してください。そのままにしておくとクローラやエンジン防振ゴムの劣化や寿命が短くなるおそれがあります。
- オイルや燃料を補給・交換するときは、電装部品にかからないようにしてください。故障の原因になるおそれがあります。

エンジンオイル

エンジンオイルの点検・補給・交換は、エンジン始動前か、エンジンが冷えているときに行います。
作業は、エンジンルームをオープンしてから行います。（172ページ参照）
またキャビン仕様の場合は、ドライバーシート下のカバー（ノブボルト(1)：4本）を取り外します。（図 4-117）



図 4-117

作業終了後は、元通りにセットします。

〈推奨オイル〉

推奨エンジンオイル	交換時間	規定量
スーパーグリーン ディーゼルオイル 10W-30 (SAE・DH-2級)	1回目: 50時間後、または 1シーズン後 2回目以降: 100時間ごと、または 1シーズンごとの どちらか早い方	4.7L

■点検のしかた

1. 検油ゲージ(1)を抜いて、先端をきれいに拭き取ります。
2. 検油ゲージを元通りに差し込んだ後、もう一度抜き出して、ゲージの上限と下限の間にオイルがあることを点検します。(図 4-118)
3. 点検後は、検油ゲージ(1)を元通りに取り付けます。点検時、オイルもれのないことも確認してください。

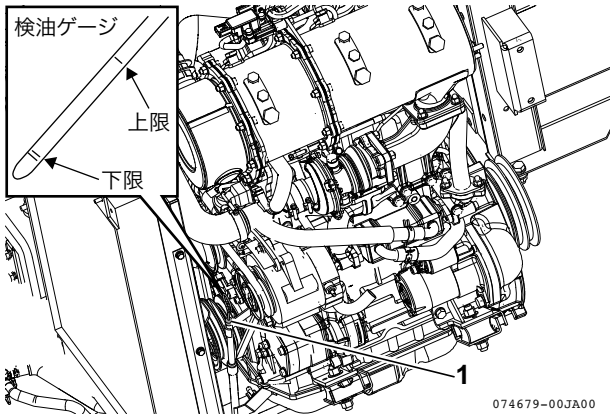


図 4-118

■補給のしかた

オイルが不足している場合は、グレンタンクをオープンしてエンジン後方の給油口(1)から規定量になるまで補給します。(図 4-119)

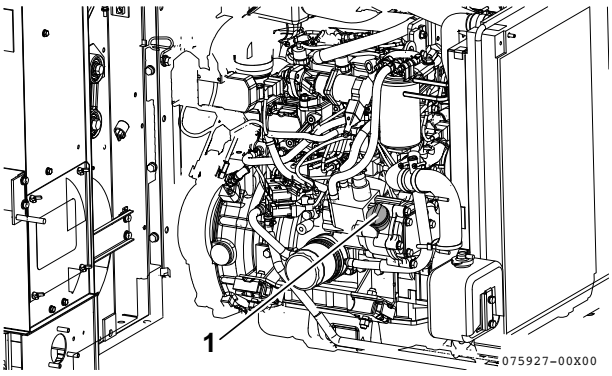


図 4-119

■交換のしかた

1. ドレンプラグ(1)の下に、古いオイルを受ける容器を置きます。
2. 給油口のふたを外した後、ドレンプラグ(1)を取り外します。古いオイルが流れ出てきます。

[参考]

給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグ(1)を元通りに取り付けます。(図 4-120)

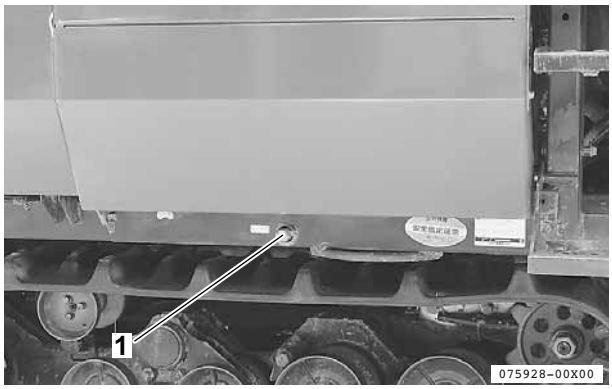


図 4-120

4. 給油口から、エンジンオイルを規定量まで給油します。
5. 給油口(1)にふたを取り付けます。(図 4-121)

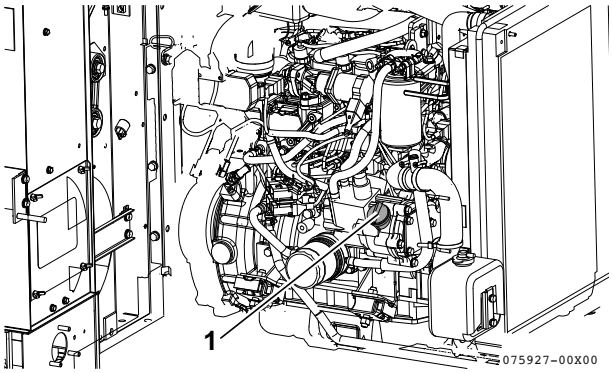


図 4-121

6. エンジンを始動し、油圧パイロットランプ(1)が消えるまで、ローアイドリング（低回転）で回します。(図 4-122)

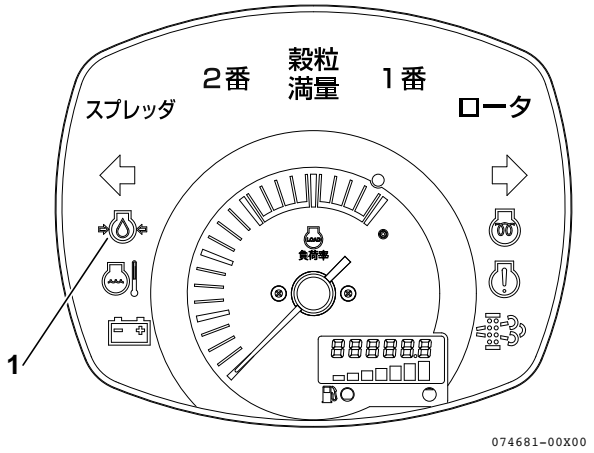


図 4-122

7. 油圧パイロットランプが消えたら、エンジンを停止し、約5分間待ちます。
8. 検油ゲージ(1)でオイル量を点検します。不足している場合は、補給します。(図 4-123)

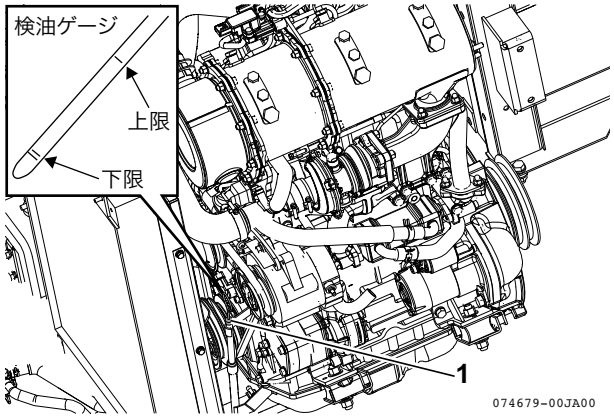


図 4-123

ミッションオイル

ミッションオイルの点検・補給・交換は、コンバインを水平な状態にし、刈取部を最上げ状態にして、刈取部をロックしてから行ってください。
(182ページ参照)
作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈推奨オイル〉

推奨ミッションオイル	交換時間	規定量
トランスミッション フルードTF-300	1回目: 50時間後、または 1シーズン後 2回目以降: 400時間ごと、または 2年ごと	7.8L

■点検のしかた

1. ミッションケース(1)左側面にある検油窓(2)を点検します。2つの検油窓のうち、下側の窓がオイルで満たされていれば規定量です。(図 4-124) (図 4-125)

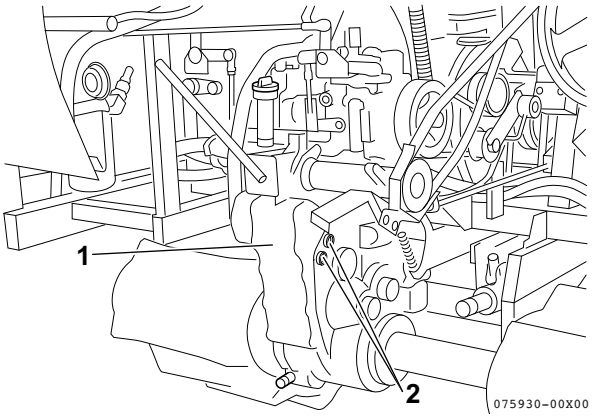


図 4-124

検油窓の見かた

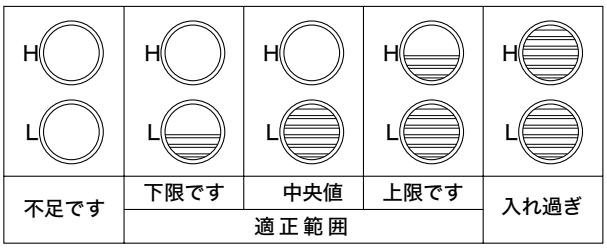


図 4-125

2. オイルもれのないことを確認してください。

■補給のしかた

オイルが不足している場合は、給油口(1)から規定量（下側の検油窓がオイルで満たされる量）まで補給します。（図 4-126）

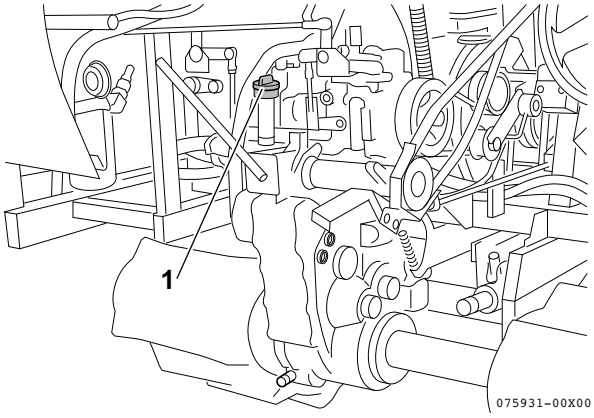


図 4-126

■交換のしかた

1. ミッションケース下部のドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置きます。
2. 給油口のふたを外した後、ドレンプラグを取り外します。古いオイルが流れ出てきます。

[参考]

給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグ(1)を元通りに取り付けます。
4. 給油口からエンジンオイルを給油します。下側の検油窓(2)が、オイルで満たされていれば規定量です。（図 4-127）

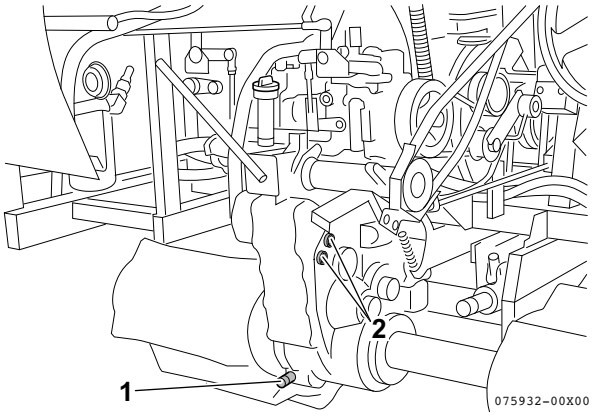


図 4-127

[参考]

上側の検油窓は、入れ過ぎ防止のために設けてあります。入れ過ぎた場合でも、上側の窓の中央以下になるように油量を調整してください。

5. 給油口(1)のふたを取り付けます。（図 4-128）

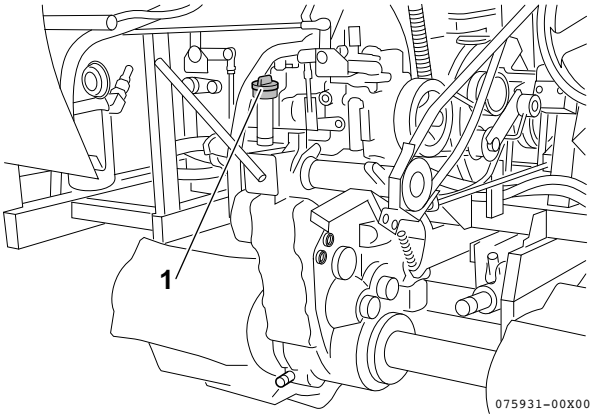


図 4-128

その他の給油箇所

[参考]

オイルの点検・補給・交換の必要なときは、販売店にご相談ください。

〈推奨オイル〉

	推奨オイル	交換時期	規定量
刈刃駆動ケース	ミッションオイル 90番	1回目: 50時間後、または1シーズン後	0.7L
ロータ駆動ケース	ミッションオイル 90番	2回目以降: 300時間ごと、または1シーズンごとのどちらか早い方	0.3L

■刈刃駆動ケース

刈取サイドカバー右を外します。(図 4-129)

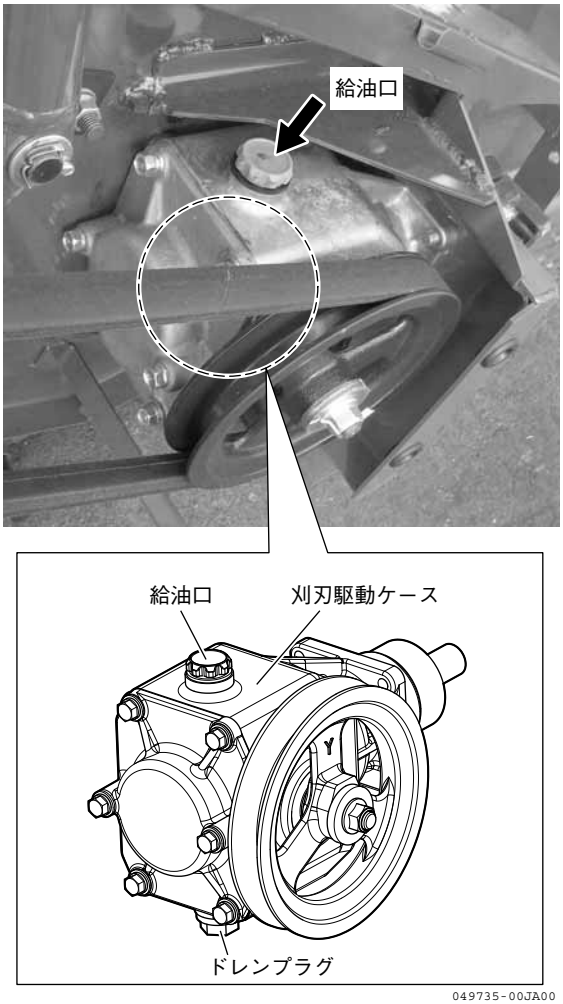


図 4-129

■ロータ駆動ケース

脱こく後カバーと脱こく後右カバーを取り外します。(図 4-130)

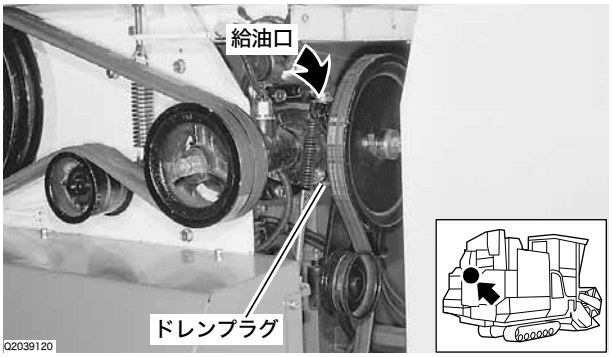


図 4-130

冷却水の点検･補給･交換のしかた

⚠ 警　告

ラジエータキャップは､エンジン運転中や停止直後には絶対に開けないでください｡開けると熱湯が吹き出し､ヤケドするおそれがあります｡エンジン停止後､エンジンが十分冷えていることを確認してからキャップをゆっくり回し､余圧を抜いてから開けてください。

⚠ 注　意

エンジンルームなどの上には､直接登らないでください｡高温になっている箇所もあり危険です。

[重要]

地面へのたれ流しや川･沼への廃棄は絶対にしないでください｡廃油･燃料･冷却水･冷媒･溶剤･フィルター･バッテリー･その他有害物を捨てるときは､購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

冷却水の点検・補給・交換は、エンジン後カバーを開いてから行ってください。
作業終了後は、元通りにセットしてください。

■点検のしかた

サブタンク(1)内の冷却水が、「FULL」「LOW」の範囲内にあるか点検します。(図 4-131)(図 4-132)

[参考]

点検時、水もれのないことも確認してください。

〈キャビン仕様の場合〉

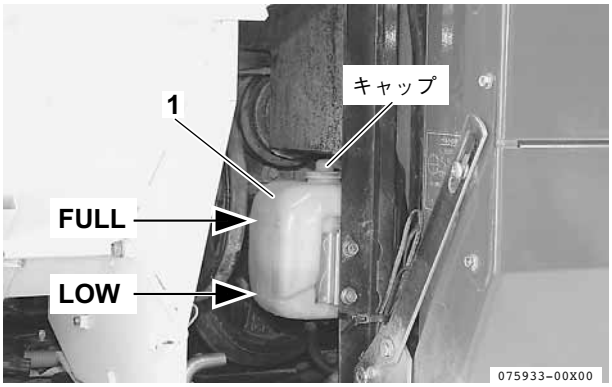


図 4-131

〈キャビンなし仕様の場合〉

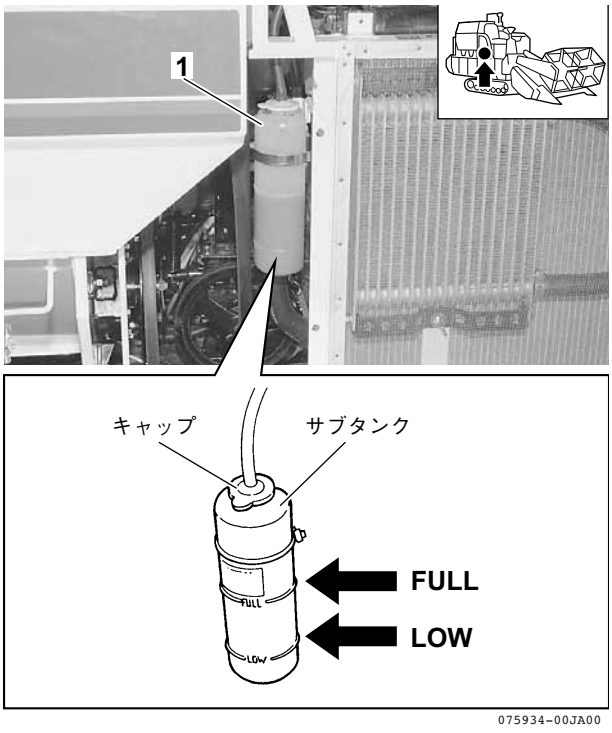


図 4-132

■交換のしかた

1. ラジエータキャップ(1)を取り外します。(図 4-133)

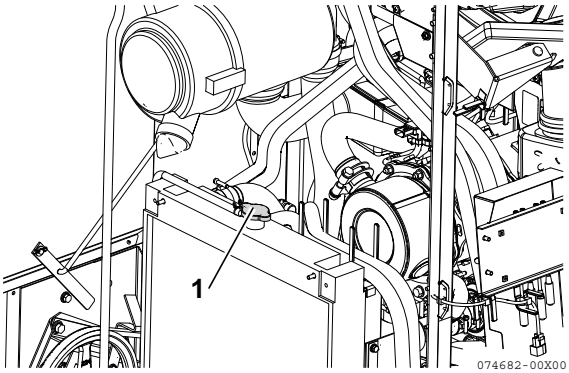


図 4-133

2. ドレンコック(1)を取り外し、ラジエータ内の水をすべて抜きます。(図 4-134)

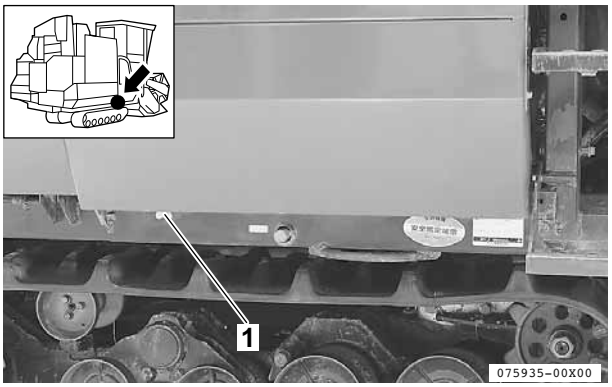


図 4-134

3. 水道水で、ごみやさびが出なくなるまでラジエータ内を洗います。

[参考]

ラジエータ内をいっそうきれいにしたいときは、ラジエータ洗浄剤を混合した水をラジエータに入れ、15分以上エンジンを空回転してから、水を抜き取ってください。

4. ドレンコックを元通りに取り付け、不凍液を必要量入れた後、水道水をあふれるまで入れます。
5. ラジエータキャップを取り付けます。
6. エンジンを始動し、5分間エンジンを空運転して、不凍液の混合を早めます。

不凍液の取扱いについて

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果があります。不凍液の混合比によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯などではつぎの表を参考にして、安全な濃度で使用してください。

表 4-5 推奨不凍液・交換時期

推奨不凍液	交換時間	冷却水量
アンチフリーズPT	1年ごと	6.45ℓ 7.1ℓ (キャビン仕様)

表 4-6 不凍液混合率表

外気温度(℃)		-5	-10	-15	-20	-25	-30
比率	水(%)	85	75	70	65	60	55
	不凍液(%)	15	25	30	35	40	45

- 出荷時には、不凍液が入っています。冷却水交換時には、新たに不凍液を入れてください。
- 不凍液の混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱説明書の指示に従ってください。
- 冷却水が自然に不足した場合は、水道水だけを入れてください。また、パーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して確認してください。
- 不凍液の有効期限は 1 年です。毎年、新しい不凍液と交換してください。

エンジンオイルエレメントの交換のしかた

エンジンオイルエレメントは、エンジンオイル内の小さな異物をこし取るものです。カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。定期的に交換してください。
作業は、グレンタンク仕様はグレンタンクをオープンして（174ページ参照）、ワンマンホッパ仕様は補助こく粒受台を作業位置にしてから行ってください。（176ページ参照）
作業終了後は、元通りにセットしてください。

表 4-7 エンジンオイルエレメントの交換のしかた

交換時期	1回目：50時間後 2回目以降：オイル交換2回ごと

[参考]
エンジンオイルエレメントの交換と同時に、エンジンオイルの交換も行ってください。
（204ページ参照）

■交換のしかた

エンジンオイルエレメントの交換は、エンジンオイルを抜き取った後に行います。

1. グレンタンク仕様の場合は、エンジン後方のゴムタレ(1)のボルト(2)（1本）を外して、ゴムタレをめくります。（図 4-135）

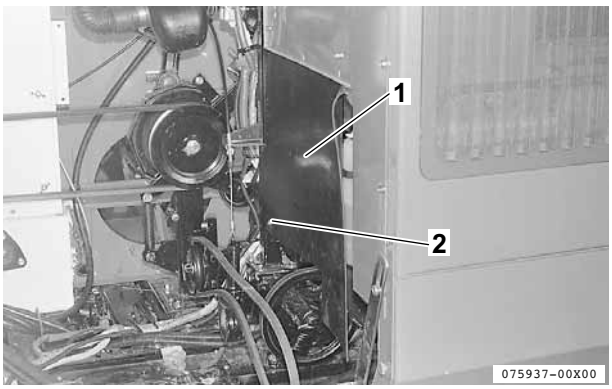


図 4-135

2. ワンマンホッパ仕様の場合は、エンジン後カバー(1)（ノブボルト(2)：2本）を取り外します。（図 4-136）

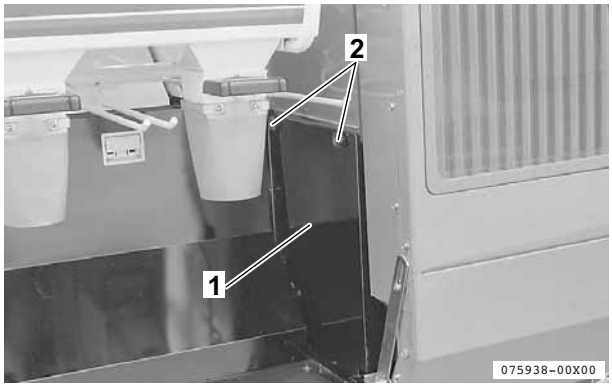


図 4-136

3. オイルエレメント(1)を、矢印方向に回して取り外します。（図 4-137）

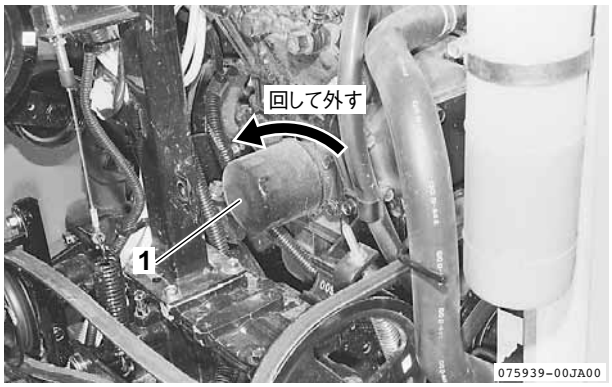


図 4-137

4. 新しいオイルエレメントの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布します。
5. オイルエレメントを、ゴムリングがエンジンケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3回転締め付けます。

[重要]

- 締めすぎに注意してください。締めすぎると、ゴムリングを破損させオイルもれを起こす場合があります。
- 交換後は、オイルエレメント取付面からのオイルもれやにじみがないか、必ず点検してください。
- エンジンオイルエレメントは、純正部品をご使用ください。

表 4-8 名称、コードNo.

名　称	コードNo.
指定エレメント (フィルタCMP)	90300004972

HSTフィルターの交換のしかた

HSTオイルは、ミッションオイルと兼用しています。HST フィルターは、カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。ミッションオイルの交換をするときに、HST フィルターも同時に交換してください。

表 4-9 HSTフィルターの交換のしかた

交換時期	1回目:50時間後 2回目以降:400時間ごと

■交換のしかた

1. HSTフィルター (1)を、矢印方向に回して取り外します。(図 4-138)

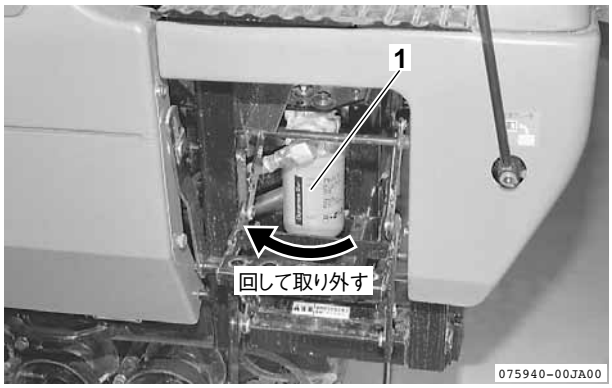


図 4-138

2. 新しい HST フィルターの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布します。
3. HST　フィルターを、ゴムリングがミッションケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3回転締め付けます。

[重要]

- 締めすぎに注意してください。締めすぎると、ゴムリングを破損させオイルもれを起こす場合があります。
- 交換後は、HSTフィルター取付面からのオイルもれやにじみがないか、必ず点検してください。
- HSTフィルターは、純正部品をご使用ください。

表 4-10 名称、コードNo.

名　称	コードNo.
HSTフィルター (エレメントCMP)	94690071390

ウォーターセパレータエレメントの点検･ドレン抜き･掃除･交換のしかた

表 4-11 ウォーターセパレータエレメント

水抜き･洗浄	100時間ごと

[重要]

- ウォーターセパレータを表 4-11 に従って定期的に点検し、水がたまっていたり、汚れのある場合は、水抜き・洗浄を行ってください。サプライポンプまたはインジェクタが焼き付くおそれがあります。
- ウォーターセパレータに多くの水がたまっている場合は、エンジンを始動せず、購入先に連絡して点検・整備を受けてください。サプライポンプまで水が浸入しているおそれがあります。

点検のしかた

1. グレンタンク仕様の場合は､グレンタンクをオープンしてください。(174ページ参照) ワンマンホッパ仕様の場合は､ワンマンホッパをオープンして (176ページ参照)、脱こく右カバーとエンジン後カバーを取り外してください。
2. 燃料タンクの前側にウォーターセパレータ(油水分離器)(1) があります。表 4-11に従って定期的に点検します。(図 4-139)

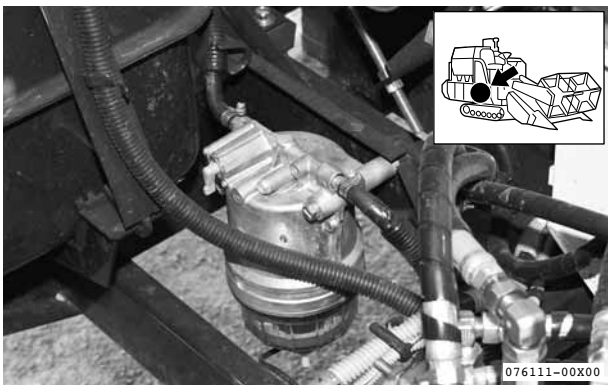


図 4-139

ドレン抜きのしかた

1. グレンタンク仕様の場合は､グレンタンクをオープンしてください。(174ページ参照) ワンマンホッパ仕様の場合は､ワンマンホッパをオープンして (176ページ参照)、脱こく右カバーとエンジン後カバーを取り外してください。
2. ウォーターセパレータ(1) のコック(2) を「OFF」(閉) 位置にします。(図 4-140)

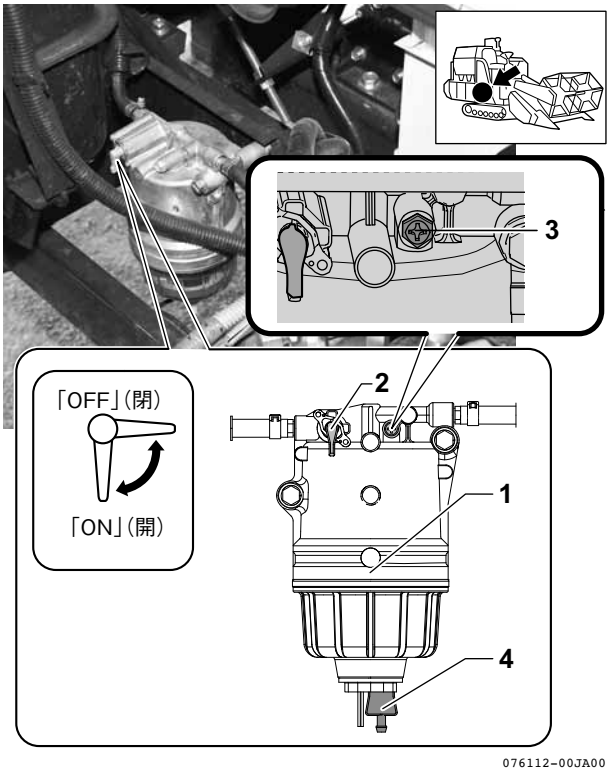


図 4-140

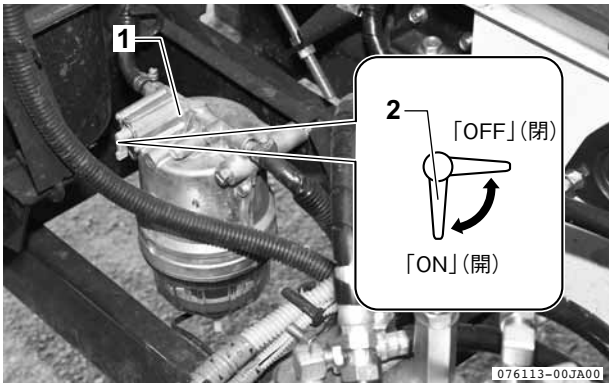
3. エア抜きプラグ (3) をゆるめます。(図 4-140)
4. ドレンプラグ (4) を回してエア抜きプラグを外し､中の燃料と水をすべて抜きます。(図 4-140)
5. ドレンプラグとエア抜きプラグを元通りに締めます。
6. 燃料タンクのドレン抜きを行います。(216ページ参照)
7. 燃料のエア抜きを行います。(217ページ参照)

[重要]

- 空気が入ったときは、燃料のエア抜きをしてください。(217ページ参照)
- ドレン抜きを行うときは、ドレン下方に容器を用意してください。

掃除のしかた

1. グレンタンクをオープンしてください。
   (174ページ参照)
2. ウォーターセパレータ（1）のコック（2）を「OFF」(閉）位置にします。(図 4-141)



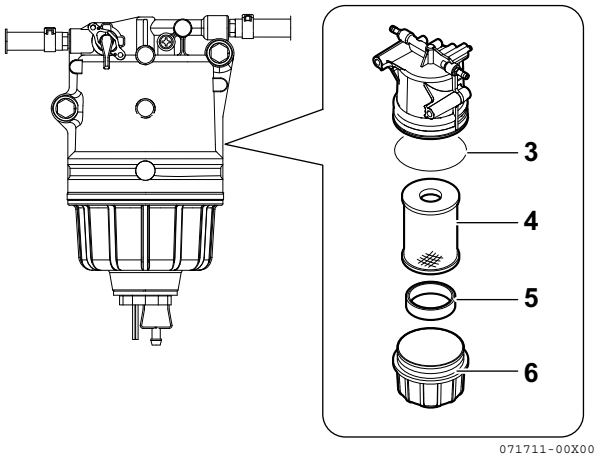


図 4-141

3. FOフィルターカップ (6)、フロート (5)、Oリング (3) を外し、水・ごみを取り除きます。
   (図 4-141)
4. コシ器の洗浄が終わったらエレメントとFOフィルターカップ、フロート、エレメントとOリングを元通りに取り付けます。
5. ウォーターセパレータのコックを「ON」(開) 位置にします。

[参考]

ウォーターセパレータのコックは機体右側を向いていますが、図の位置にあります。真下になっていると「ON」(開）位置です。

交換のしかた

コシ器内のエレメントは、300 時間ごとに交換が必要です。

要領は、掃除のしかたと同じです。前記3.のときに、エレメントを交換してください。

表 4-12 交換時期

交換時期	300時間ごと

表 4-13 品名、コードNo.

品名	部品コード
エレメント	97360000240

燃料フィルターの交換のしかた

⚠ 注　意

マフラーに、燃料がかからないように注意してください。万一、マフラーに燃料がかかった場合は、ウエス(布)などでふき取ってください。守らないと、火災の原因になります。

燃料フィルターは、燃料内の小さな異物をこし取るものです。カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。定期的に交換してください。
作業は、グレンタンクをオープンしてから行ってください。(174ページ参照)
作業終了後は、元通りにセットしてください。

表 4-14 燃料フィルター

交換時期	300時間ごと

表 4-15 品名、コードNo.

品名	部品コード
FOフィルター	97370000030

交換のしかた

1. キャビン仕様の場合はボルト(1)(4個)、ナット(2)を外してエンジン後方のカバーを取り外します。(図 4-142)
   キャビンなし仕様の場合はエンジン後方のゴムタレのボルト(3)を外してめくります。(図 4-143)

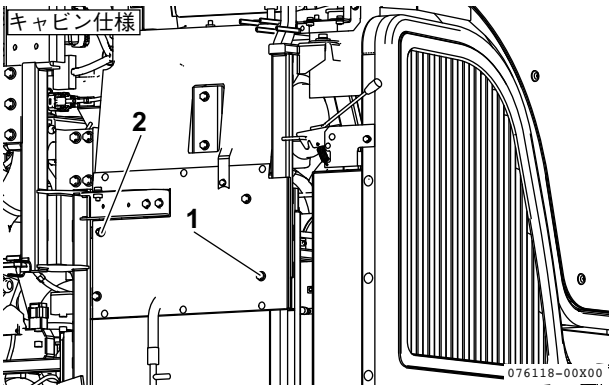


図 4-142

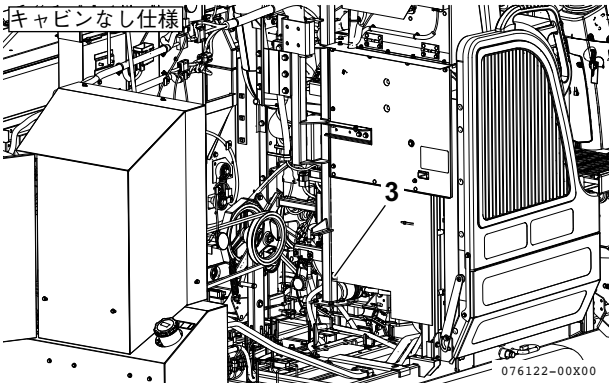


図 4-143

2. 燃料フィルターのカートリッジ（1）を、矢印方向に回して外します。(図 4-144)

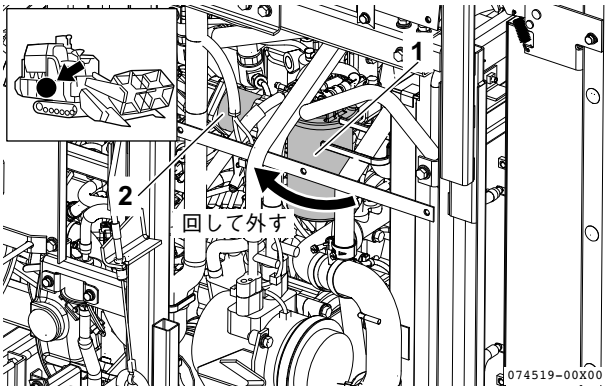


図 4-144

3. 新しいカートリッジの底面にあるゴムリングに、軽油またはオイルを塗布します。
4. カートリッジを、ゴムリングがフィルターブラケット（2）に接触する位置までねじ込んだあと、2/3 回転締め付けます。(図 4-144)

[重要]

- **交換後は、オイルエレメント取付面からのオイル漏れやにじみがないか、必ず点検してください。**
- **燃料フィルターは、純正部品をご使用ください。**

燃料タンクのドレン抜きのしかた

⚠ 警　告

燃料ホースを確実に接続してください。燃料がもれると火災の原因になり大変危険です。

燃料タンクの底部には、水やごみが沈殿しています。これらの沈殿物が燃料ポンプに入ると不具合の原因になりますので、定期的に取り除いてください。

表 4-16 燃料タンクのドレン抜きのしかた

実施時期	100時間ごと

[参考]

燃料タンクのドレン抜きと同時に、ウォーターセパレータの水抜きも、必ず行ってください。
(213ページ参照)

■ドレン抜きのしかた

1. 燃料タンク (1) 下部にあるドレンボルト (2) の下に、燃料を受ける容器を置きます。
2. ドレンボルトを取り外します。
   燃料が流れ出て、タンク内の沈殿物が排出されます。(図 4-145)

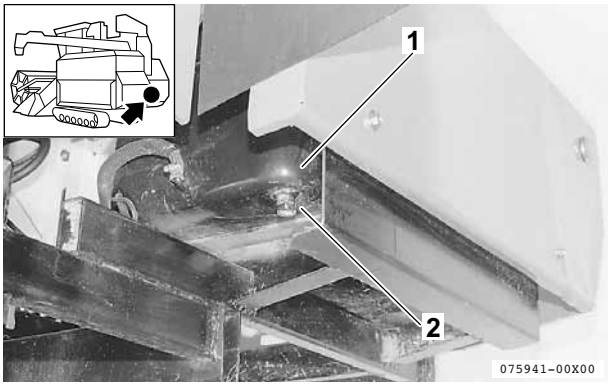


図 4-145

3. 排出後、ドレンボルトを取り付けます。
4. 燃料キャップ(1)を取り外し、新しい燃料を補給します。(203ページ参照)(図 4-146)

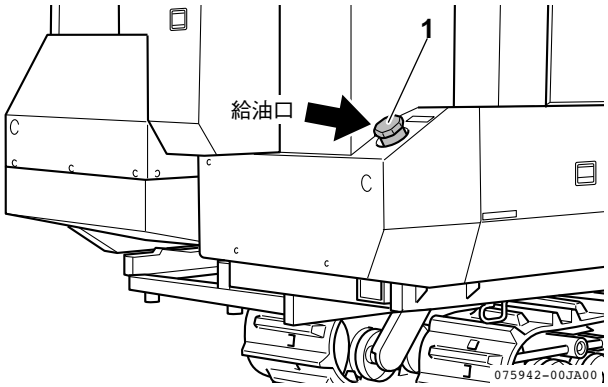


図 4-146

燃料の空気(エア)抜きのしかた

⚠ 危　険

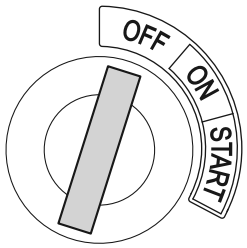
エンジン周りのベルト・防振ゴム・ホースなどに、燃料がかからないように注意してください。もし、燃料がかかった場合は、十分に水洗いしてください。燃料がかかっていると、火災の原因になり、大変危険です。

燃料タンクが空になったり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まります。下記の要領で空気抜きをします。

燃料タンクが空になったり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まります。つぎの要領で空気抜きをします。

1. 燃料タンクを満タンにします。
2. キースイッチを「ON」位置にしたまま20～30秒待ち、「START」位置にします。
3. 自動的に空気（エア）抜きが行われ、エンジンが始動します。

以上で空気（エア）抜きは完了です。(図 4-147)



074532-00X00

図 4-147

排気フィルターの再生のしかた

⚠ 危　険

再生中は、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないようにし、コンバインから離れないでください。火災や死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- **再生中および再生直後は、排気フィルター周辺や排出ガスの出口が高温になります。絶対に触らず近づかないようにしてください。ヤケドなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。可燃性のものが周囲にないように常にきれいにしてください。また、再生直後はシートをかけないようにしてください。**
- **倉庫や車庫など、閉めきった屋内では排気フィルターの再生をしないでください。再生するときは、風通しのよい屋外で行ってください。排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。**

[重要]

エンジンオイルは、必ず指定のオイルを使用してください。指定以外のオイルを使用すると、排気フィルターが目詰まりして故障の原因となります。

[参考]

- 再生中の排出ガスは、通常時とは異なる臭いが発生しますが故障ではありません。
- 排気フィルター再生中は、吸気スロットルが作動するため作動音が発生することがありますが故障ではありません。
- 再生中、エンジン音が変化したり、白煙が出ることがありますが故障ではありません。
- アイドリング中は、PMが堆積しやすくなります。
- 不要なアイドリング（低回転）はしないでください。

排気フィルターについて

排気フィルターは、エンジンと排出ガス出口の間に装着され、PM（ススなどの粒子状物質）を捕集することで、大気中に放出しないようにするためのフィルター装置です。
排気フィルターにたまった PM を燃焼除去することにより、排気フィルターの機能を再生できます。
（図 4-148）

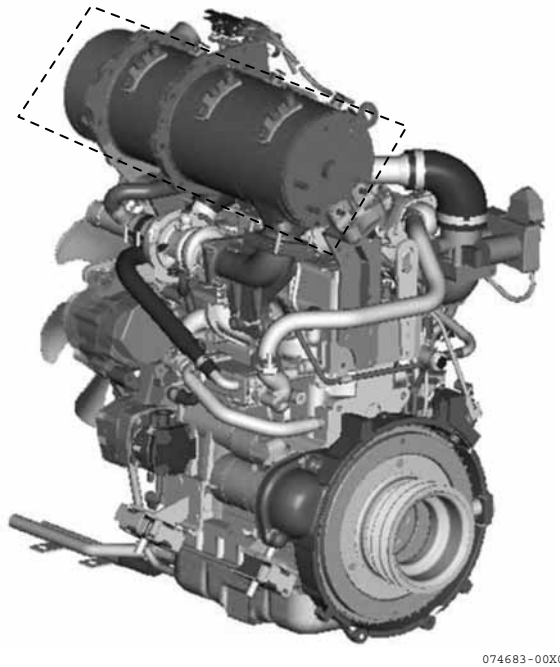


図 4-148

[参考]
捕集した PM を放置すると目詰まりを起こしエンジン性能が低下します。このため定期的に排気温度を上昇させて、PMを燃焼除去する必要があります。これを排気フィルターの再生といいます。

排気フィルターのメンテナンスについて

⚠ 警　告

アッシュには、エンジンオイルの添加剤の燃え残りで人体に有害な成分が含まれています。メンテナンスは、必ず特販店、またはJAに依頼してください。

排気フィルターは、PM（ススなどの粒子状物質）以外に潤滑油の添加剤に含まれる金属成分のアッシュ（灰分）がたまります。
アッシュは、PMのように排気フィルター内で燃焼除去ができませんのでメンテナンスが必要です。
（図 4-149）

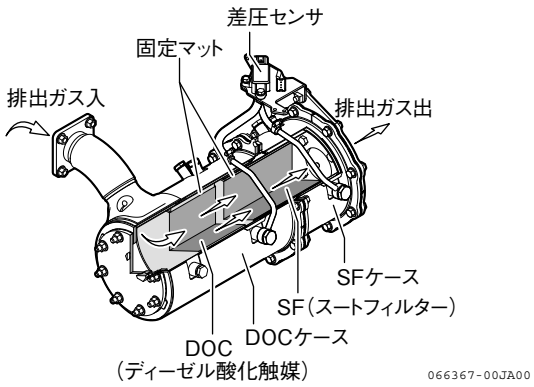


図 4-149

表 4-17 メンテナンス・交換時期

部品名	メンテナンス時期	交換時期
SF （スートフィルター）	6000時間	9000時間
DOC （ディーゼル酸化触媒）	不要	9000時間

[重要]

- 燃料は、必ず低硫黄ディーゼル軽油を使用してください。
- エンジンオイルは、排気フィルター搭載用ディーゼルエンジンオイル（三菱純正オイル：DH-2級）を使用してください。
- メンテナンス・交換時期（表 4-17）は、三菱指定の燃料、エンジンオイルをご使用した場合の目安です。指定以外のものをご使用された場合、故障の原因となります。
- 排気フィルターは、定期的なメンテナンスが必要です。堆積されたアッシュのメンテナンスを行わないとエンジン出力の低下や燃費悪化の原因となります。

排気フィルターの再生モードについて

排気フィルターの再生には、PM の堆積量、稼働時間に応じた５つの再生モードがあります。この内、自己再生、アシスト再生は自動で再生が行われますが、リセット再生、駐車再生、リカバリ再生については手動で再生を行う必要があります。排気フィルター再生要求画面が表示されたら、必ず手動で再生操作を行ってください。

[重要]

再生せずに放置すると、排気フィルターの目詰まりによるエンジン性能の低下や燃費悪化の原因となります。また、手動再生を行わずに一定時間以上運転を継続すると、修理が必要となる場合があります。

表 4-18 再生モードについて

警告（PM堆積）レベル	再生モード		モニター表示	排気フィルタースイッチ（お知らせランプ）	ブザー	作業	処置のしかた
小 ↓ 大	自動	自己再生	ー	ー	ー	可	コンバインは、エンジンの排熱で自己再生を行います。
	自動	アシスト再生	ー	ー	ー	可	PM が一定量堆積すると自動で再生を行います。
	手動	リセット再生	2秒間に1回点滅（0.5Hz）	2秒間に1回点滅（0.5Hz）	2秒間に1回鳴る（0.5Hz）	可	リセット再生を行ってください。 〈リセット再生要求発生条件〉 ・初回アワメータ約 50 時間、以降約100時間ごと または ・PM の推積量がリセット再生レベルに達したとき
	手動	駐車再生（警告1）	1秒間に1回点滅（1Hz）	ー	1秒間に1回鳴る（1Hz）	不可	作業を中止してコンバインを安全な場所に駐車して ・作業クラッチレバー「OFF」 ・駐車ブレーキ「ロック」 ・エンジンローアイドル にします。
	手動	駐車再生（警告1）	1秒間に1回点滅（1Hz） 2秒間に1回点滅（0.5Hz）	2秒間に1回点滅（0.5Hz）	2秒間に1回鳴る（0.5Hz）	不可	PM が推積していますのでただちに駐車再生を行ってください。
	手動	リカバリ再生（警告2）	点灯	ー	ー	不可	作業を中止して安全な場所に駐車し、エンジンを停止してください。ただちに特販店、またはJAに修理を依頼してください。

表 4-19 排気フィルター再生とお知らせ機能について

排気フィルター再生スイッチ（お知らせランプ）	ブザー	状態
点滅	鳴る	排気フィルター再生待ち
点灯	停止	排気フィルター再生中（約30分）
消灯	停止	排気フィルター再生終了

リセット再生の手順

1. 排気フィルター再生スイッチのお知らせランプが点滅し、ブザーが0.5Hzで鳴ります。(図 4-150)

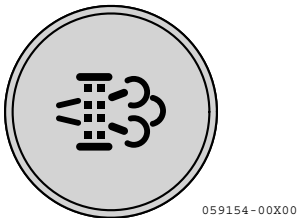


図 4-150

2. 排気フィルター再生要求の警報(1)が表示されます。(図 4-151)

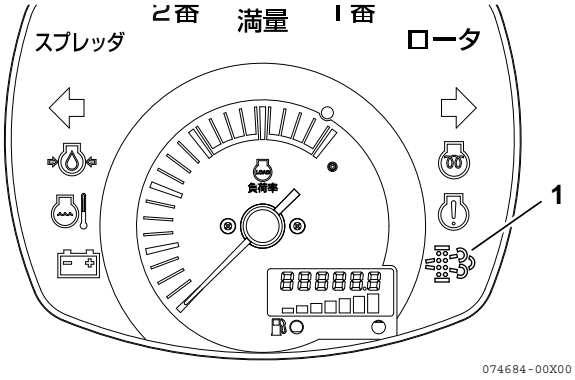


図 4-151

3. コンバインを停車します。
4. 排気フィルター再生スイッチを 3 秒以上長押しします。(図 4-152)

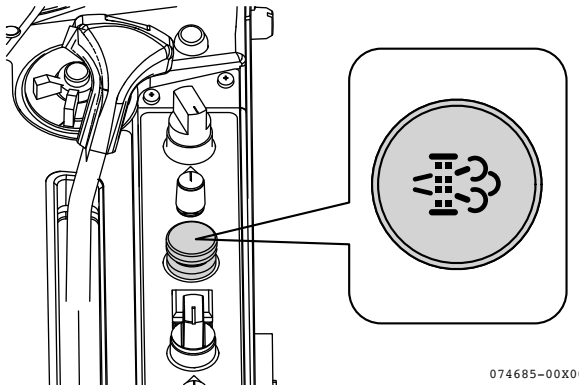


図 4-152

5. ブザーが停止して再生がはじまり、スイッチのお知らせランプが点灯します。終了するとランプは消灯します。

[重要]

- リセット再生は必ず刈取作業中に行ってください。刈取作業中以外では再生条件が満たされず、再生要求ランプが点灯したまま、再生が終わらない場合があります。
- 刈取作業が終了している場合は、つぎの刈取作業時にリセット再生を行ってください。再生要求が出た状態で保管しても、エンジンには影響ありません。
- リセット再生を行わずエンジンを始動していると、駐車再生の要求が出る場合があります。その場合は、222ページの「駐車再生の手順」に従って、駐車再生を行ってください。

[参考]

- リセット再生は、つぎの条件では再生が開始されません。冷態時は、暖機運転をしてください。条件がそろうと自動的に再生が開始されます。
  ・エンジン冷却水温が低いとき
  ・排気フィルターの温度が低いとき
- 再生は、約30分で終了しますが、再生終了までの時間は、外気温によって異なります。あらかじめ燃料残量を確認して、再生を開始してください。
- 再生は、できるだけ中断せず終了するまで実行してください。やむをえず、再生を中断したい場合は、キースイッチを「OFF」の位置にしてください。再生が完了しないままエンジン停止すると、つぎにエンジンを始動したときに排気フィルター再生要求の警告が表示されますので、できるだけ早く再開してください。
- エンジンのエラーが発生しているときは、再生要求の警報が表示されません。ただちにお買い上げいただいた特販店、またはJA へご連絡ください。
- 再生中は、エンジン音が変化したり、白煙が出たりすることがありますが故障ではありません。
- 再生中の排出ガスは、通常時とは異なる臭いが発生しますが故障ではありません。
- 排気フィルター再生中は、吸気スロットルが作動するため作動音が発生することがありますが故障ではありません。

駐車再生の手順

⚠ 警　告

排気フィルター再生(駐車再生)の要求を無視して、運転を継続すると、PM が過剰に堆積するため場合によっては PM が異常に燃焼して、排気フィルターが破損し、火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. 排気フィルター再生スイッチのお知らせランプが点滅し、ブザーが1Hzで鳴ります。(図 4-153)

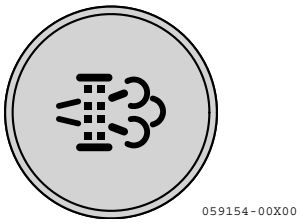


図 4-153

2. 排気フィルター再生要求 1 の警報が表示されます。
   エンジン機能不良ランプ(1) と排気ガスフィルターランプ(2)が1秒間に1回点滅します。
   (図 4-154)

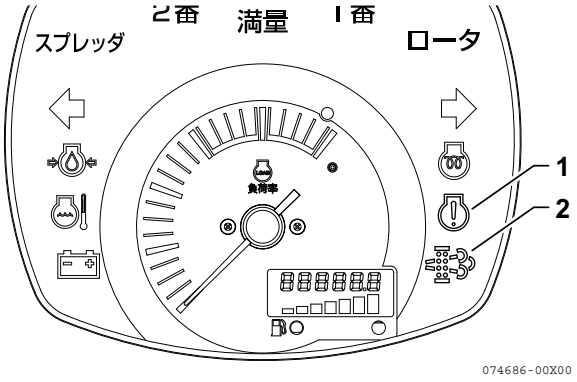


図 4-154

3. 安全な場所に停車し、作業クラッチレバーを「OFF」位置にし、駐車ブレーキをかけてアイドリング（低回転）にします。

[参考]

Eモードを「ON」にしている場合は、「OFF」にし、アクセル調節ダイヤルでエンジン回転を低回転にしてください。

4. 排気フィルター再生スイッチを 3 秒以上長押しします。
   エンジン機能不良ランプが1秒間に1回点滅し、排気ガスフィルターランプが2秒間に1回点滅します。
   (図 4-155)

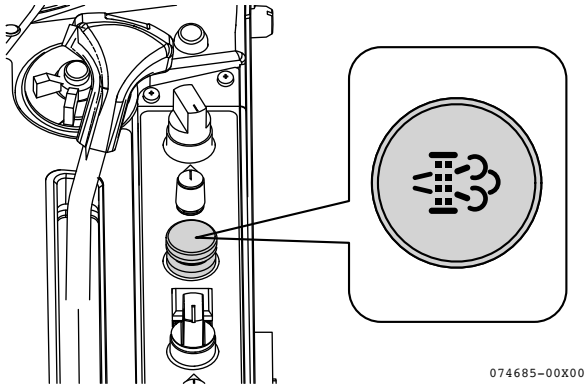


図 4-155

5. ブザーが停止して再生がはじまり、スイッチのお知らせランプが点灯します。終了するとランプは消灯します。

[参考]

- 再生中は、エンジン回転が自動的に上がります。
- つぎの操作を行うと再生が中断されます。
  - ・アクセルダイヤルを「🐇」回転側に回したとき
  - ・作業クラッチレバーを「OFF」以外の位置にしたとき
  - ・駐車ブレーキを解除したとき
- 再生は、約30分で終了しますが、再生終了までの時間は、外気温によって異なります。あらかじめ燃料残量を確認して、再生を開始してください。
- 再生は、できるだけ中断せず終了するまで実行してください。やむをえず、再生を中断する場合は、キースイッチを「切」の位置にしてください。再生が完了しないままエンジン停止すると、つぎにエンジンを始動したときに排気フィルター再生要求画面が表示されますので、できるだけ早く再開してください。
- エンジンのエラーが発生しているときは、再生要求の警報が表示されません。ただちにお買い上げいただいた特販店、またはJA へご連絡ください。
- 再生中は、エンジン音が変化したり、白煙が出たりすることがありますが故障ではありません。
- 再生中の排出ガスは、通常時とは異なる臭いが発生しますが故障ではありません。

● 排気フィルター再生中は、吸気スロットルが作動するため作動音が発生することがありますが故障ではありません。

エアクリーナーの掃除・交換のしかた

⚠ 警　告

エアクリーナーエレメントの掃除は作業前に行ってください。運転中、および運転直後は掃除をしないでください。排出ガス出口やエレメントフックが高温になって、ヤケドをするおそれがあります。

エアクリーナーは吸入された空気に含まれている砂塵を取り除き、シリンダやピストンリングの摩耗を防ぐ装置です。刈取作業は、ホコリがよく出ますので、毎日、作業後に掃除してください。

[参考]

エアクリーナーの掃除と同時に、プレクリーナーの掃除も行ってください。
(224ページ参照)

表 4-20 掃除・交換時期

掃除時期	エレメントの交換時期
毎日	・300時間ごと ・ホコリの多い所では200時間ごと (規定時間未満でも1年間で交換)

■掃除・交換のしかた

1. カバーのクランプを外して、エレメントを取り出します。
2. エレメントは、内側から空気（7kg/cm^2 以下）を吹きつけます。(図 4-156)(図 4-157)(図 4-158)
3. 取り付けるときは、取り外しの逆手順で行います。

[参考]

カバーは、矢印のシールを合わせて取り付けてください。

〈キャビン仕様の場合〉

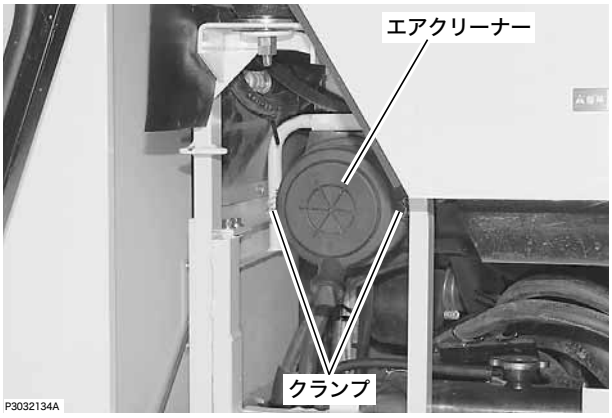


図 4-156

〈キャビンなし仕様の場合〉

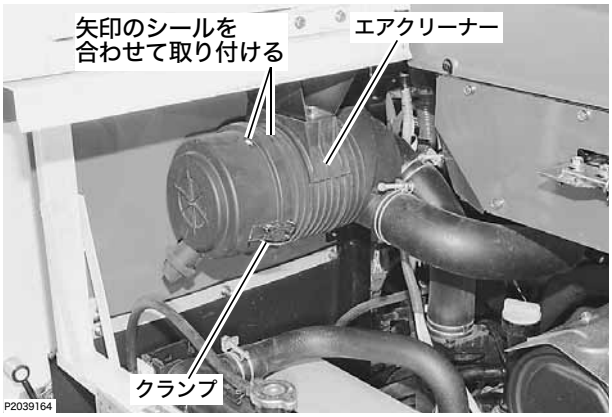


図 4-157

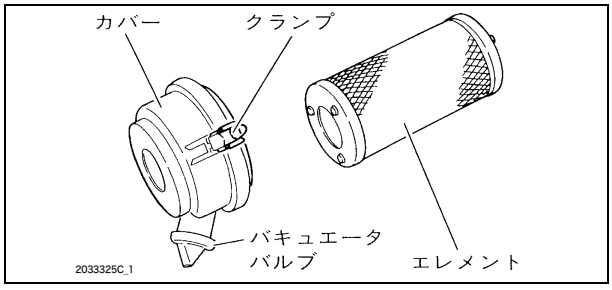


図 4-158

[重要]

- エレメントを交換するときは、純正部品をご使用ください。

表 4-21 名称、コードNo.

名　称	コードNo.
エレメント(アウター)	97370000020

- エレメントを洗ったときは、完全に乾かしてください。生乾きのエレメントは、絶対に使用しないでください。エンジン作動不良の原因になります。
- 中性洗剤の水溶液でザブ洗いするときは、ろ紙を傷つけないようにゆっくり洗ってください。

プレクリーナーの掃除のしかた

⚠ 注　意

エンジンルームなどの上には、直接登らないでください。高温になっている箇所もあり危険です。

プレクリーナーの中にたまったごみは、毎日、作業後に掃除してください。

[参考]

プレクリーナーは、ホコリをすべて集めるものではありません。プレクリーナーの掃除と同時にエアクリーナーも掃除してください。(223ページ参照)

掃除のしかた

プレクリーナー (1)上部のチョウナット(2)を外して、たまっているごみを取り除いてください。
(図 4-159)

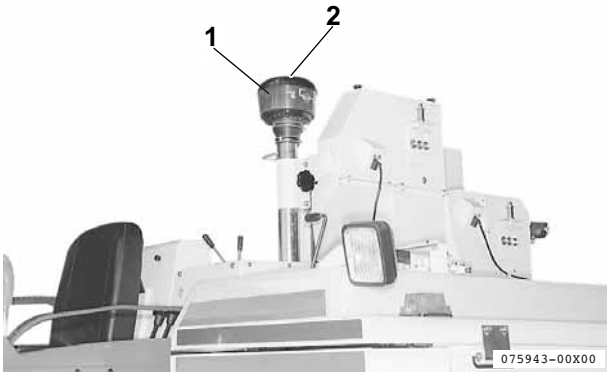


図 4-159

吸気口･ラジエータスクリーン･ラジエータフィンの掃除のしかた

吸気口・ラジエータスクリーンは、エンジンの防塵装置です。冷却風を吸入する大切な装置ですから、作業前・作業後には必ず掃除をしてください。

吸気口･エンジンルーム内の掃除のしかた

〈吸気口の掃除のしかた〉

吸気口(1)の網面にごみが付着しているときは、エンジンを停止してから、網面を軽くこすってごみを落としてください。(図 4-160)

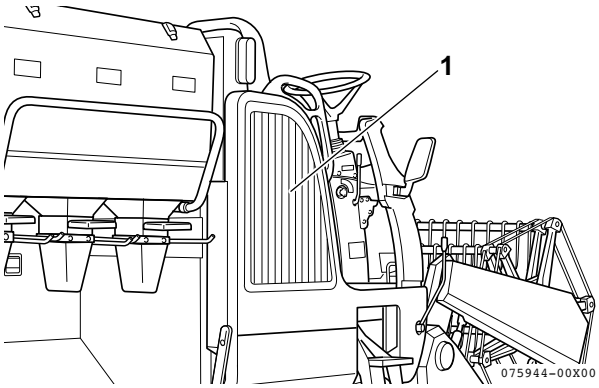


図 4-160

〈エンジンルーム内の掃除のしかた〉

1. エンジンルームをオープンします。
   (172ページ参照)
2. エンジンルームの掃除カバーのボルト(1)（2本）を外して、掃除カバー (2)を開きます。
   (図 4-161)

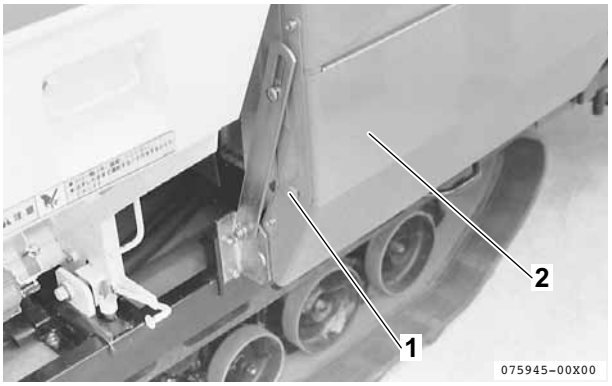


図 4-161

3. エンジンルーム内の矢印部分に溜まっているごみを取り除きます。(図 4-162)



図 4-162

[重要]

網面へのごみの付着には常に注意し、ごみが付着していれば掃除するようにしてください。ごみが付着したままにしておくと、エンジンの冷却水、およびミッションオイルの冷却不良の原因になります。

〈エアコン用コンデンサフィン（キャビン仕様のみ）〉

1. ドライバーシートを前面に倒します。
2. キャビン室内の後面のカバー(1)のノブボルト(2)（4本）を外して、カバーを取り外します。（図 4-163）（図 4-164）

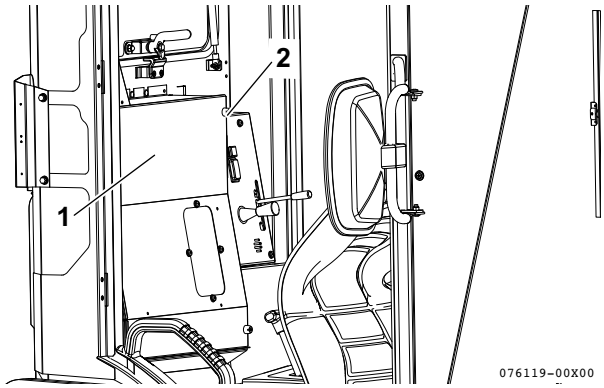


図 4-163

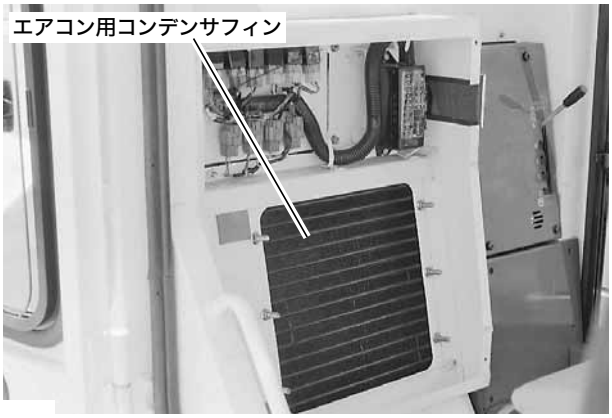


図 4-164

[重要]

- 網面やスクリーンへのごみの付着には常に注意し、ごみが付着していれば必ず掃除してください。
- コンデンサが目詰まりすると、冷房能力が低下しますので、定期的に掃除をしてください。

〈外気吸気口の掃除のしかた（キャビン仕様のみ）〉

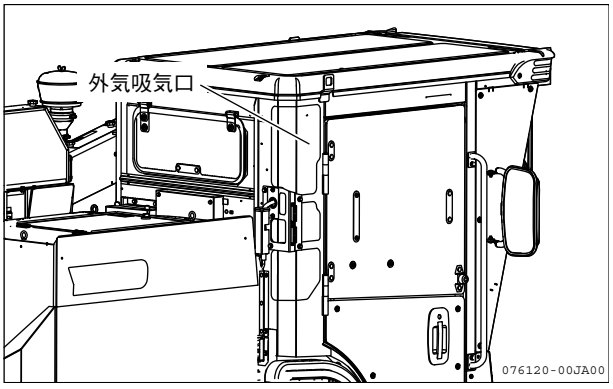


図 4-165

ラジエータスクリーンの掃除のしかた

1. エンジンルームをオープンします。（172ページ参照）
2. ラジエータスクリーン(1)上部のノブボルト(2)を外して、ラジエータスクリーンを引き上げて、取り外します。
3. ラジエータスクリーン(1)に付着したワラくずやホコリを、払い落とします。（図 4-166）

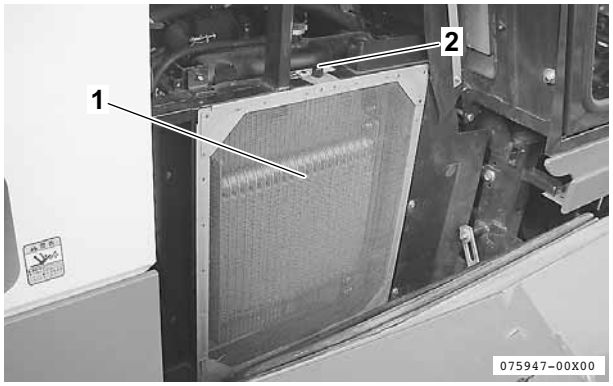


図 4-166

[重要]

ラジエータスクリーンへのごみの付着には常に注意し、ごみが付着していれば掃除するようにしてください。ごみが付着したままにしておくと、エンジンの冷却水、およびミッションオイルの冷却不良の原因になります。

オイルクーラフィン・ラジエータ冷却フィンの掃除のしかた

粉塵が特に多い場合は、下記の要領でオイルクーラフィン、およびラジエータ冷却フィンを掃除します。

1. エンジンルームをオープンします。(172ページ参照)
2. ラジエータスクリーン上部のノブボルトを外して、ラジエータスクリーンを引き上げて、取り外します。(226ページ参照)
3. オイルクーラフィン (1)・ラジエータ冷却フィン (2) に付着しているサヤくずやホコリを、エアガン、あるいはブロアなどで取り除きます。(図 4-167)

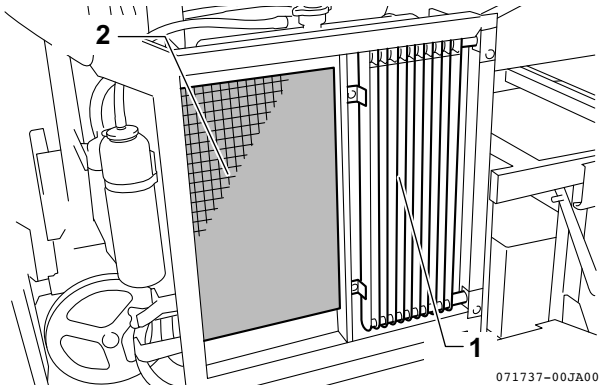


図 4-167

[重要]

ラジエータ冷却フィンは変形させないでください。

フィルタの掃除のしかた(キャビン室内)

⚠ 警 告

- フィルタの掃除や点検・整備をするときは、必ずキースイッチを「OFF」位置にしてください。
- 空気の吸い込み口や吹出口に、棒や手を入れないでください。内部でファンが回転していますので、けがをするおそれがあります。

1. キースイッチを「OFF」位置にします。
2. フィルタを取り外して、エアガン、あるいはブロアなどで洗浄します。

〈フィルタの汚れや詰まりが著しい場合〉

1. 中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて、フィルタ(1)を上下左右に動かしながら洗浄します。
2. 清水でよくすすいだ後、完全に自然乾燥させます。(図 4-168)

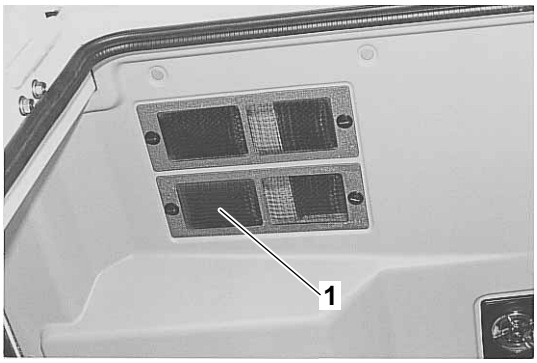


図 4-168

[重要]

洗浄に有機溶剤(ガソリン・シンナーなど)を使用しないでください。

ウォッシャー液の補充のしかた（キャビン仕様のみ）

ウォッシャータンクは、ステップマット下のカバー内にあります。ウォッシャー液が無くなったときは、下記の要領で補充します。補充後は、元通りにセットします。

1. ステップマット(1)をめくり、ボルト(2)３本を外します。ステップ板(3)を外します。（図 4-169）

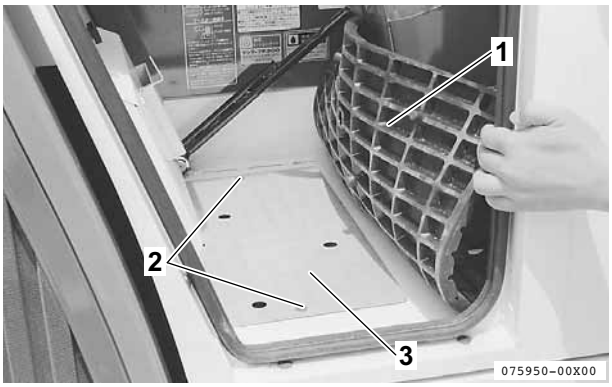


図 4-169

2. ウォッシャータンク (1) にウォッシャー液を入れます。（図 4-170）

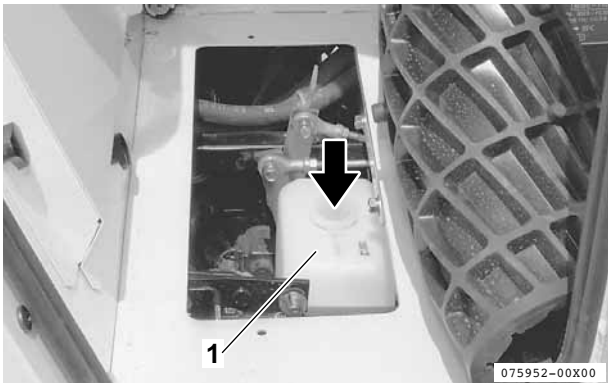


図 4-170

バッテリーの点検･整備のしかた

⚠ 危　険

- バッテリーを点検するときおよびコンバインから外すときは、必ずエンジンを停止し、ショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーから発生する水素ガスに引火して、爆発するおそれがあります。
- バッテリーの液槽キャップを外すときは、火気厳禁です。液槽キャップを開けると、液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、引火してヤケドや火災を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- バッテリーの点検時には、保護メガネとゴム手袋を着用してください。
- バッテリー液は、「下限（LOWER）」以下にしないでください。容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。
- バッテリーの電解液は希硫酸ですので、取り扱いには注意してください。もし、皮膚や衣服についたときは、直ちに水洗いし、石けんでよく硫酸分を洗い流してください。万一、目に入ったときは、すぐに流水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
- バッテリー端子を取り付けるときは、（＋）側を先に取り付け、外すときは（－）側から外してください。ショートしてヤケドや火災の原因になります。
- バッテリーの上面および周辺は、常に清潔にしてください。排気穴をふさぐと、火災の原因になります。

[重要]

- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルター・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

- バッテリーの各槽に電解液を入れすぎると、充電時にバッテリー液が吹き出し、コンバインの金属部を腐蝕させます。
- 急速充電はしないでください。
- バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した型式のバッテリーを使用してください。

表 4-22 名称、コードNo.

名　称	コードNo.
バッテリー	97250008180

バッテリー液の点検・補給のしかた

各槽のバッテリー液が、上限（1）と下限（2）のラインの間にあることを確認します。不足しているときは、蒸留水を補給します。(図 4-171)

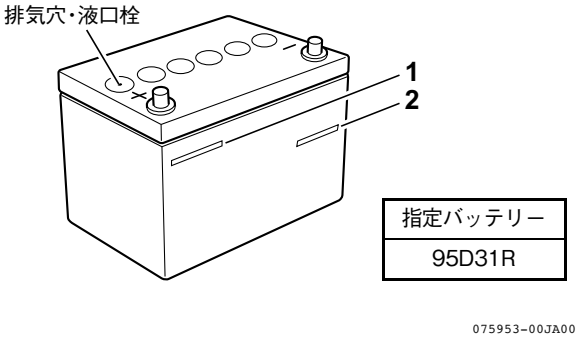


図 4-171

[重要]

- バッテリー液は、常に規定量を保ってください。
- バッテリー端子がゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。

バッテリーの取り外しかた

バッテリーは、脱こく部前下にあります。以下の要領に従って取り外します。

1. エンジンを始動して、刈取部を最上げ位置にします。
2. エンジンを停止します。
3. 刈取部を刈取部ストッパで固定します。(182ページ参照)
4. 脱こく前カバーを取り外します。
5. バッテリーのビニールカバー (1)のクランプを解除して、ビニールカバーをめくります。(図 4-172)

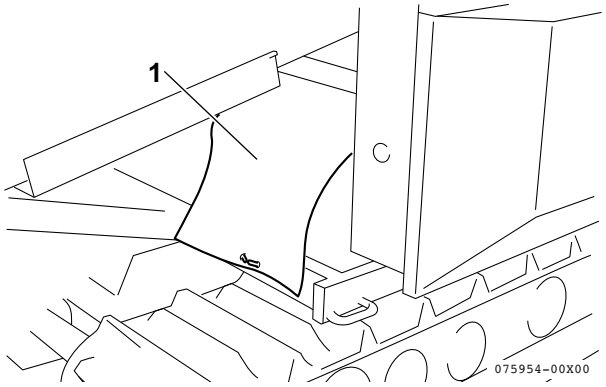


図 4-172

6. バッテリーを固定している、取付ナット (1)（2個）を外します。
7. バッテリーの押え金具(2)とバッテリーカバー(3)を取り外します。(図 4-173)

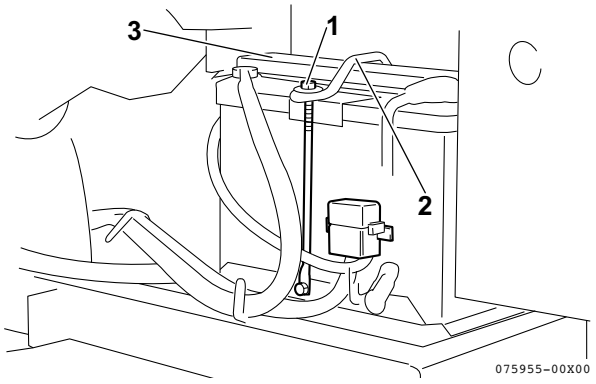


図 4-173

8. バッテリーコードの（−）端子を外した後、（+）端子を外します。
9. バッテリーを抜き出します。
10. バッテリーの取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。

補充電のしかた

寒冷地など気温の低い地域で使うとき、エンジンの始動がしにくくなったとき、ライトが暗くなったとき、自然放電によってセル始動ができないときは、下記の要領で補充電をします。

1. バッテリーを取り外します。(前項参照)
2. 液口栓を外し、バッテリーの（+）を充電器の（+）に、バッテリーの（−）を充電器の（−）に接続します。
3. 3アンペア程度で8〜10時間行います。
4. 充電が完了したら、充電用の接続を外し、液口栓を取り付けます。
5. バッテリーを本機に、元通りに取り付けます。

[重要]

- 急速充電はしないでください。
- 取り付けるときは、ターミナル接触部の油分などを拭き取ってください。また、取り付け後は、ターミナル部にグリスを塗布してください。
- バッテリーの（+）ターミナル部のゴムブーツは、必ず取り付けてください。
- 充電完了後は、液口栓を確実に締め付けて取り付けてください。

ブースター端子を使ったエンジン始動のしかた

ブースターケーブルをバッテリーに接続できない場合は下記の要領でエンジンを始動してください。
ブースター端子は、ブースターケーブル用端子でバッテリーの電圧がかかっています。
バッテリー容量が低下して、エンジンの始動ができない場合は、ブースター端子を使ってエンジンを始動することができます。

1. ステップ板を取り外します。
2. ブースター端子(1)にブースターケーブルの（+）側を、ブースターケーブルの（−）側をシャーシに接続します。(図 4-174)

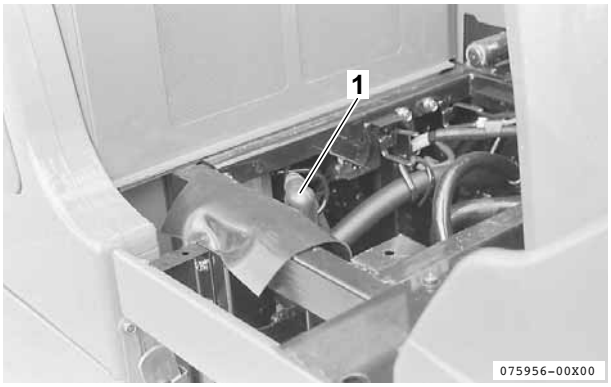


図 4-174

以上で、エンジンを始動することができます。

3. ステップ板を元通りに取り付けます。

[重要]

- ブースターケーブルの（+）側が、シャーシなどの金属部に接触しないよう注意してください。
- バッテリーの（+）ターミナルとブースター端子のゴムブーツは、必ず取り付けておいてください。
- 取り付けるときは、ターミナル接触部の油分などを拭き取ってください。また、取り付け後は、ターミナル部にグリスを塗布してください。
- ブースター端子では、充電しないでください。
- ブースター端子でのエンジン始動は、バッテリーに接続できない場合のみとしてください。

バッテリーの手入れのしかた

バッテリー端子が腐蝕していたり、白い粉が付いている場合は、お湯でぬらしたウエスなどで掃除し、グリスを塗布します。

バッテリーの自然放電について

エンジンを長期間運転しないで放置していると、バッテリーは自然放電します。使用しないときでも、ときどきエンジンがかかることを点検し、必要に応じて充電します。

パイプ類の点検のしかた

⚠ 警　告

- 燃料噴射管や油圧パイプなどから高圧油のもれは厚紙や板などを使って点検してください。油が皮膚に浸入した場合、強度のアレルギーを起こすおそれがあります。
- 作業前・作業後に、燃料パイプの老化や傷による燃料もれがないか点検し、燃料もれのある燃料パイプは交換してください。燃料もれがあると火災の原因になります。

燃料パイプやラジエータホースなどの傷みによる燃料もれ、水もれがないか点検してください。また、締付バンドがゆるんでいないか点検してください。
燃料パイプやラジエータホースは、傷みがなくても2年ごとに交換してください。
燃料パイプを交換したときは、空気（エア）抜きをしてください。（217ページ参照）

[重要]

- 燃料パイプを交換するときは、ホース、またはサプライポンプに異物が入らないように注意してください。サプライポンプが故障するおそれがあります。
- 廃油チューブも必ず点検してください。廃油チューブが破損していると、エンジン焼付きの原因になります。

電気配線の点検のしかた

⚠ 警　告

- ワイヤハーネスおよびバッテリーケーブルが損傷しているとショートを起こします。
- バッテリーや配線に付着しているワラくずやごみは、作業前・作業後にきれいに取り除いてください。ワラくずやごみが付着していますと、火災の原因になります。

電気配線コードが他の部品のエッジ部に接触して、被覆のはがれや傷、接続部のゆるみがないか点検してください。配線コードが傷んでいる場合は、特販店、または JA で修理してください。配線コードは、傷みがなくても 50 時間使用または、1 年ごとに定期点検を受けてください。

ヒューズ・スローブローヒューズの点検・交換のしかた

⚠ 警　告

ヒューズおよびスローブローヒューズは、必ず規定アンペアのものを使用してください。火災につながるおそれがあります。

ヒューズの交換のしかた

1. ヒューズボックスのふたを外して、ヒューズを点検します。
2. ヒューズがが切れていれば、規定容量のものと交換します。

[重要]

規定容量のヒューズと交換してもすぐに切れてしまう場合は、お買い上げいただいた特販店、また JA で点検を受けてください。

■キャビンなし仕様の場合

サイドコラム内

サイドコラムカバーを取り外します。

(170ページ参照) (図 4-175) (図 4-176) (図 4-177)

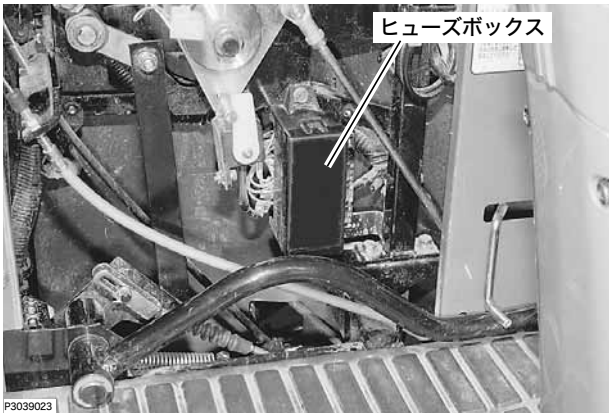


図 4-175

	〈予備〉5A	10A	15A	20A
	キースイッチ 10A			EGR 20A
	水平自動 ECU 5A			エンジン電装 20A
	刈取 ECU 10A			キースイッチON 5A
	刈取クラッチ 15A			作業灯 20A
	リール前後 30A			フラッシャ 5A
	ソレノイド 20A			保安装置 15A
※	排出コンベアモータ 30A			防塵モータ 15A
※	排出クラッチ 15A			
※	排出 ECU 5A			
	予備電源 30A			

ヒューズ銘板

図 4-176

[重要]

端子の「＋」「－」を間違えないでください。間違えると、ヒューズが切れることがあります。

[参考]

ワンマンホッパ仕様は ※ マーク部分は使用しません。（銘板は共用としています。）

バッテリー前方

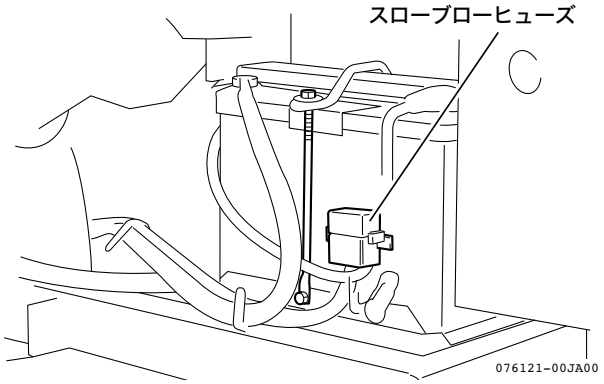


図 4-177

60A	50A	100A
電源 1	電源 2	ジェネレータ スタータ

指定容量以外のヒューズは使用しないでください
1E6C55-97280

図 4-178

キャビン仕様の場合

ステップマット下のカバー内(図 4-179)

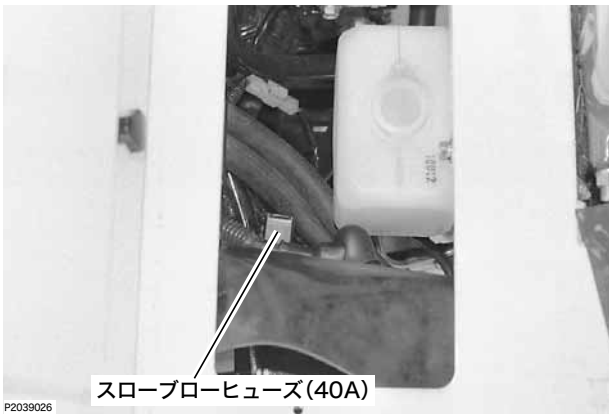


図 4-179

50A
キャビン電源

指定容量以外のヒューズは使用しないでください
1E6C55-97290

図 4-180

60A	50A	100A
電源 1	電源 2	ジェネレータ スタータ

指定容量以外のヒューズは使用しないでください
1E6C55-97280

図 4-181

シート後のカバー内

ノブボルト（4本）を外し、カバーを取り外します。(図 4-182)（図 4-183）(図 4-184)

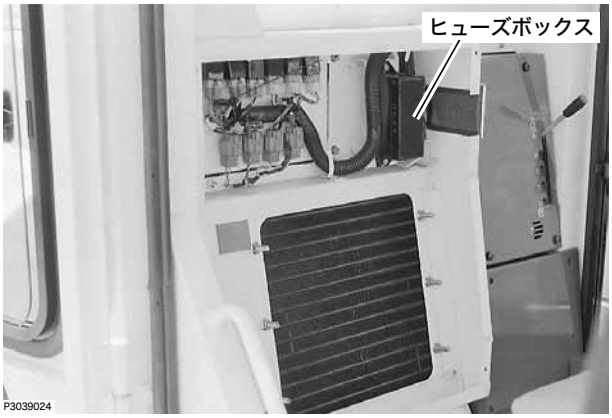


図 4-182

〈予備〉 5A 10A 15A 20A

キースイッチ 10A	EGR 20A
水平自動 ECU 5A	エンジン電装 20A
刈取 ECU 10A	キースイッチON 5A
刈取クラッチ 15A	作業灯 20A
リール前後 30A	フラッシャ 5A
ソレノイド 20A	保安装置 15A
排出コンベアモータ 30A	防塵モータ 15A
排出クラッチ 15A	
排出 ECU 5A	
予備電源 30A	

ヒューズ銘板

図 4-183

キャビン内の頭上

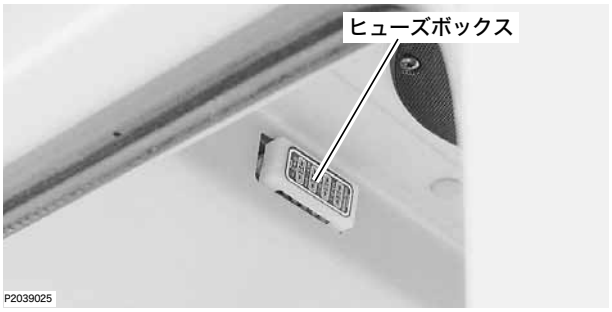


図 4-184

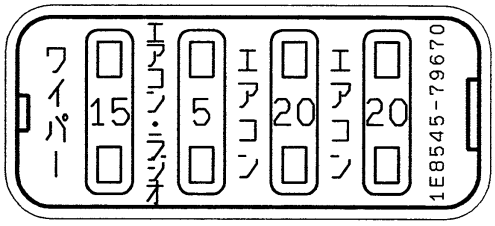


図 4-185

刈刃の調節のしかた

⚠ 警　告

刈取部を上げて作業するときは、刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がり、けがをするおそれがあります。

⚠ 注　意

刈刃の手入れや交換をするときは、厚手の手袋を着用し、刃先をさわらないでください。けがをするおそれがあります。

[重要]

刈跡が揃わなくなったときは、刈刃のすき間を調節してください。

調節時期	100時間または1シーズンごと

■調節のしかた

1. リールを最上げにします。
2. 受刃(1)と刈刃(2)上下面のすき間は、受刃先端を銅ハンマーで軽くたたいて調節するか、締付ナット（M10）をゆるめて、シムで調節します。(図 4-186)
   - 受刃と刈刃上面……最大すき間1.2mm
   - 受刃と刈刃下面……すき間0.3～0.8mm
3. 刈刃の前後すき間は、締付ナット（M10）をゆるめて、摩擦板を前後に動かして、最大0.8mmに調節します。
4. 締付ナット（M10）を締め付けて固定します。(図 4-187)

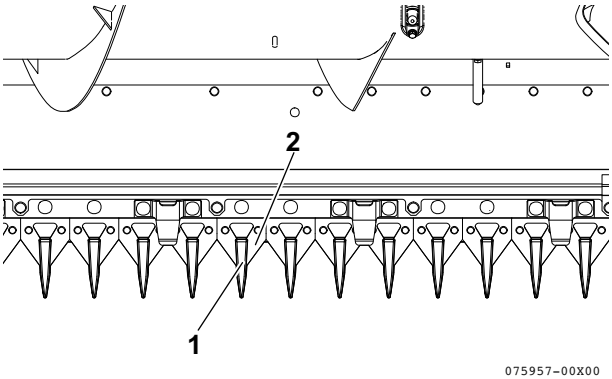


図 4-186

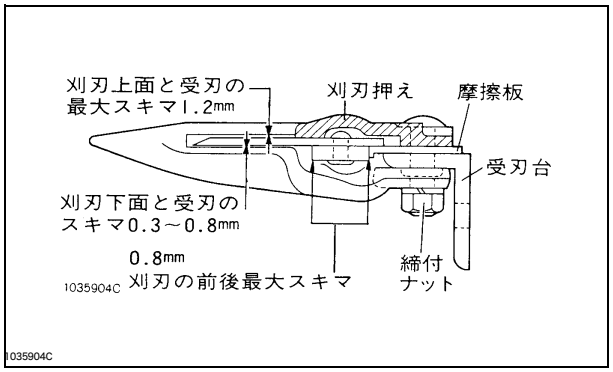


図 4-187

[重要]

- 締付ナットは、締め付けすぎないように注意してください。
- 刈刃には食品衛生上、食品機械用潤滑スプレーを使用して、たっぷり注油してください。
- シーズン終了後には、刈刃に付着した泥やワラくずを取り除き、注油してください。

プラットホーム底板とスクリューコンベアのすき間調節のしかた

⚠ 警　告

プラットホームオーガを手で回転させるときは、刈刃やリールが動くので、十分注意してください。

■調節のしかた

1. リールを最上げにします。
2. 左右の刈取サイドカバーを外します。
3. プラットホーム底板(1)とスクリューコンベア(2)とのすき間が、大豆の場合は12～15mm、ソバ・麦の場合は6～8mmになるように、オーガハンガ調節ボルトで調節します。
   (図 4-188)(図 4-189)(図 4-190)

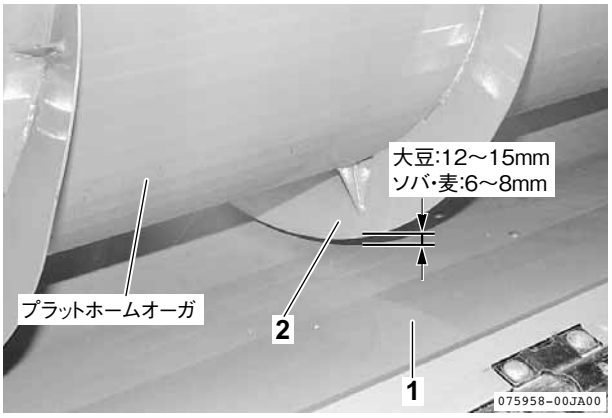


図 4-188

プラットホーム左側

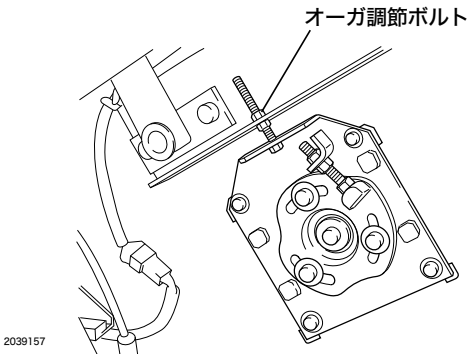


図 4-189

プラットホーム右側

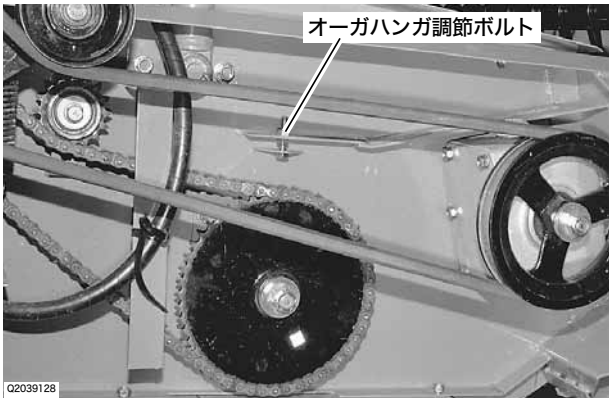


図 4-190

プラットホーム底板とフィンガのすき間調節のしかた

⚠ 警　告

プラットホームオーガを手で回転させるときは、刈刃やリールが動くので、十分注意してください。

■点検のしかた

1. リールを最上げにします。
2. プラットホームオーガを手で回転させ、中央部のオーガフィンガが、プラットホーム底板に最も近い位置で、底板からフィンガ先端までの寸法を測定し、4〜6mmになっていることを確認します。

■調節のしかた

1. 刈取サイドカバー左を外します。
2. 基準範囲内（4〜6mm）にないときは、ボルト（3本）とフィンガアジャスタのロックナットをゆるめます。
3. フィンガアジャスタを回転させて調節します。
4. ストッパボルトで固定します。
（図 4-191）（図 4-192）

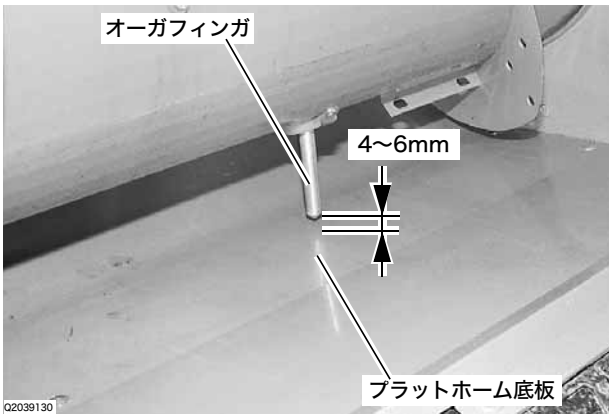


図 4-191

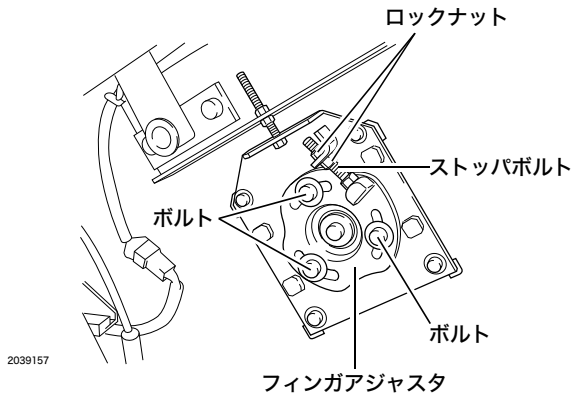


図 4-192

フィーダチェンの張り調節のしかた

■点検のしかた

1. フィーダハウス上カバーを外します。
2. フィーダハウス下カバー (1)を外します。
   (図 4-193)

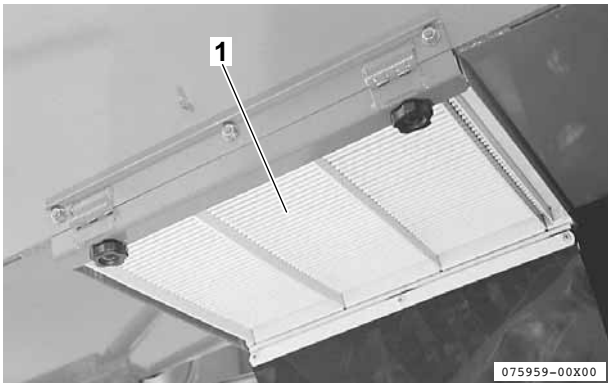


図 4-193

3. フィーダチェン (1) を手で回し、スラット (2) をフィーダハウスドラムを下部の位置にしたときの各すき間寸法を確認します。(図 4-194)
   ●スラットとフィーダハウス底板のすき間
   ドラム部（A）……25～27mm
   中央部（B）……3～6mm
   (図 4-195)

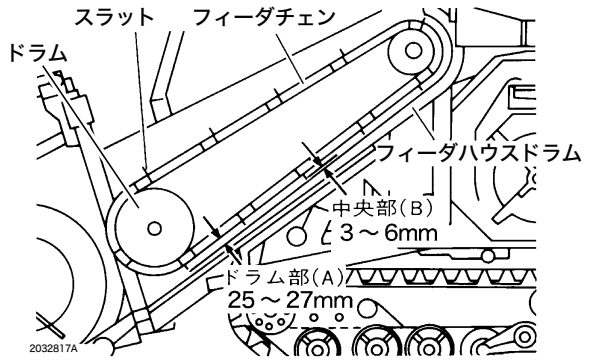


図 4-194

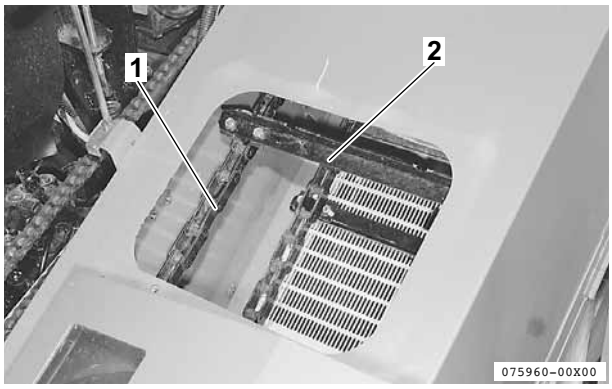


図 4-195

■調節のしかた

調節は、左右同時に行います。

キャビン仕様の場合

1. フィーダハウス上面のカバー (1)を外します。(図 4-196)

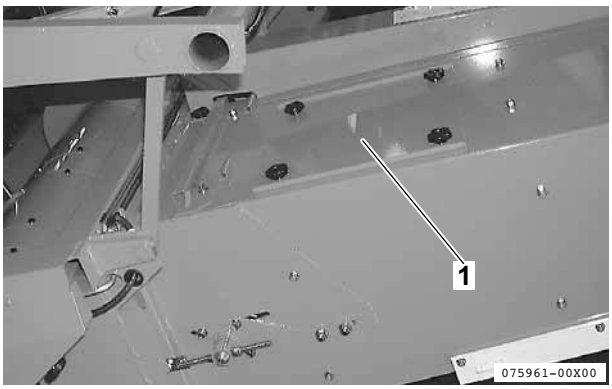


図 4-196

キャビンなし仕様の場合

1. 防塵ファン上カバーと防塵ファン左カバーを取り外し、防塵アミ(1)を取り外します。(図 4-197)

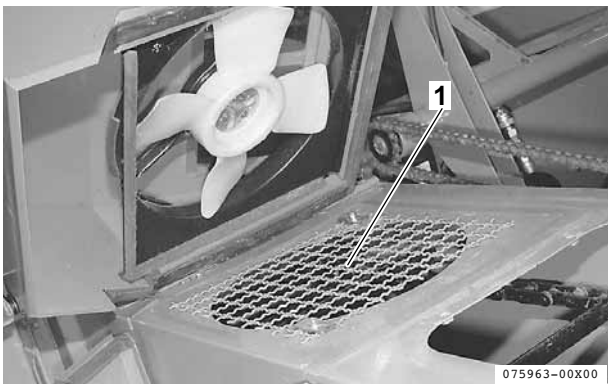


図 4-197

2. フィーダハウスドラムテンションの固定ボルト(4本)をゆるめます。
3. ロックナットをゆるめます。
4. 調節ナットを回して、すき間を調節します。
5. ロックナットと固定ボルト(4本)を締め付けて固定します。(図 4-198)

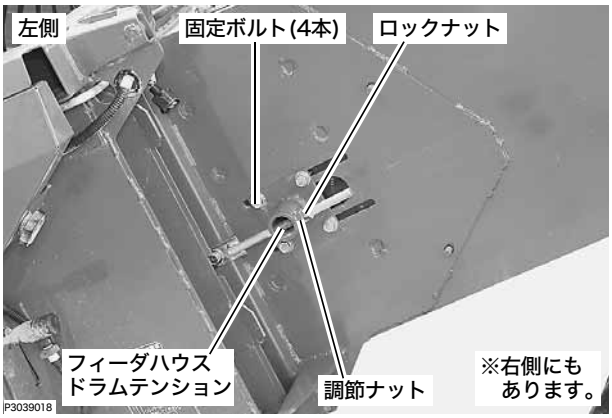


図 4-198

6. 1. で外した防塵アミ（キャビンなし仕様のみ）および各カバーを元通りに取り付けます。

リールの調節のしかた

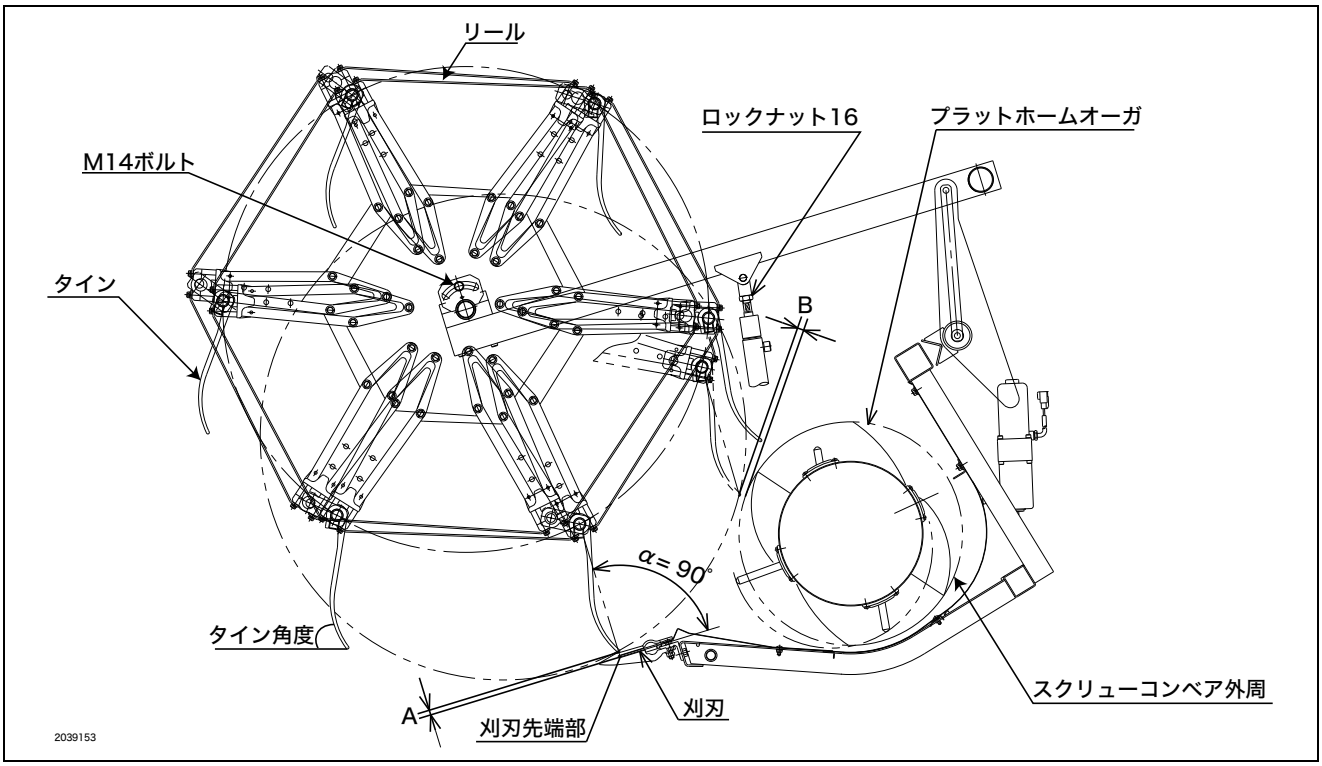


図 4-199

刈刃上面とリールタイン先端のすき間調節のしかた

■調節のしかた

1. M14ボルトをゆるめます。(図 4-200)
2. M14 ボルト (1) の中心とリールブラケット R (2) の長穴部 (3) の中心が合うように、リールディスク (4) を動かします。(図 4-200)
3. M14ボルトを締め付けます。(図 4-200)

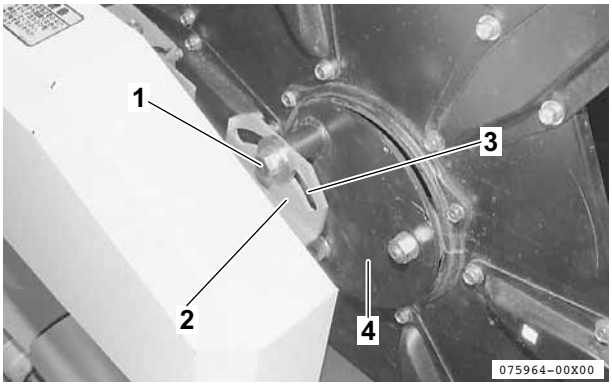


図 4-200

4. エンジンを始動します。
5. 刈高さ・リール前後スイッチを「後」側に押して、リールを後方へ移動し、リール高さ調節レバーを「下降」側にして、リールをいっぱいまで下げます。
6. エンジンを停止します。
7. 刈刃 (1) 上面とリールタイン (2) 先端のすき間が、刈刃先端で10～15mm（上図A）になるように、リール上下シリンダのロックナット16(3)をゆるめて、シリンダにスパナをかけて回しながら調節します。(図 4-201)（図 4-202)

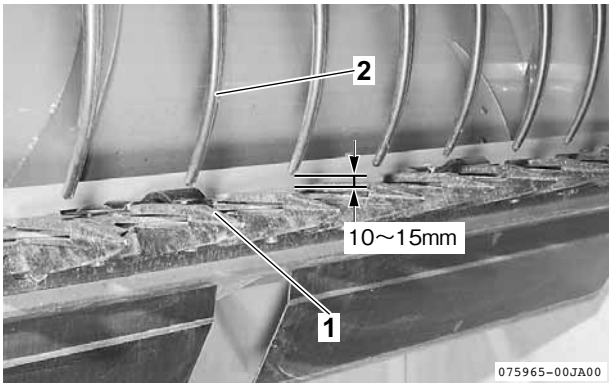


図 4-201

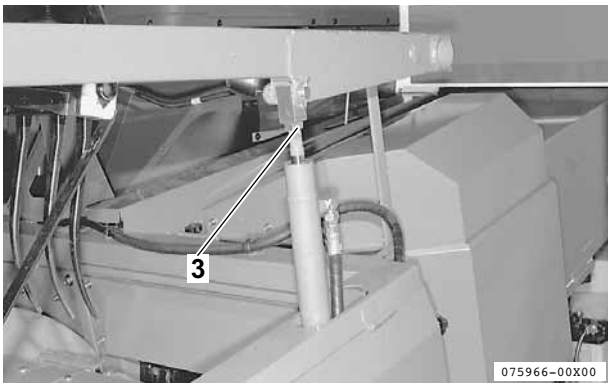


図 4-202

8. リールを回転させて、プラットホームオーガのスクリューコンベア(1)の外周とリールタイン(2)先端のすき間が、10～15mm（240ページ 上図B）でスクリューコンベアの外周と接触しないことを確認します。（図 4-203）

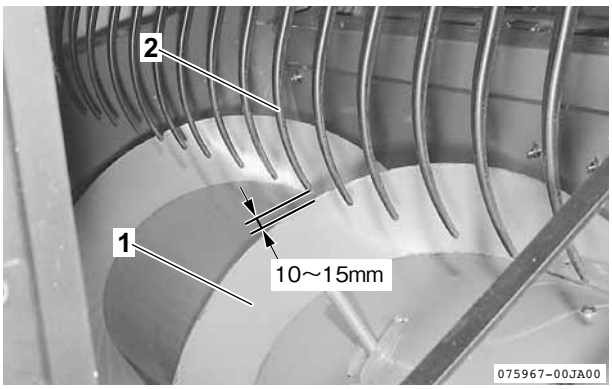


図 4-203

スクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間が、適正でない場合の調節のしかた

■調節のしかた

1. M14ボルト(1)をゆるめ、すき間が10～15mm（240ページ 上図B）で、スクリューコンベア(3)の外周と接触しないように調節します。（図 4-204）（図 4-205）
2. M14ボルト(1)を締め付けます。

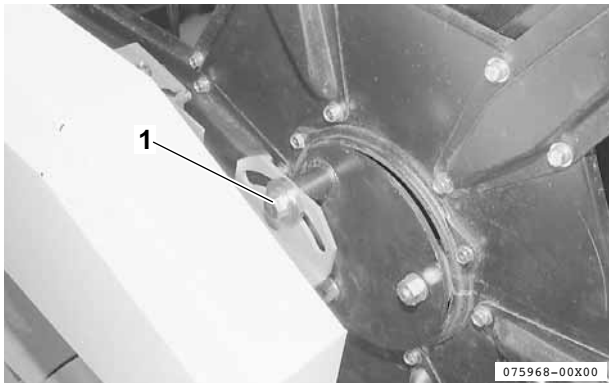


図 4-204

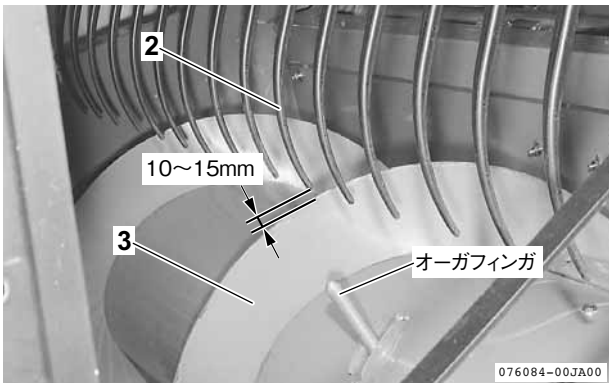


図 4-205

3. 再度、刈刃上面とリールタイン先端(2)のすき間を確認します。

倒伏した作物で引き起こし性能が不足する場合

■調節のしかた

1. リールディスクの位置を前に動かし、タイン角度を小さくします。
2. 小さくしすぎると、プラットホームオーガと当たる場合がありますが、このときはリールを少し前へ出します。

立毛した作物で、リールの回転によりリールが稈を持ち回る場合

■調節のしかた

リールディスクを後に動かし、タイン角度を大きくします。

各部チェンの点検･調節のしかた

リールカウンタチェン

リールチェンカバーと刈取サイドカバー右を取り外して、下記の点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■点検のしかた

1. カウンタチェンカバー (1)を取り外します。(図 4-206)
2. チェン(2)の中央を、軽く指で押したときのたわみ量が、10～15mmであるか確認します。(図 4-207)

■調節のしかた

1. 固定ボルト(3)（M８）をゆるめます。(図 4-207)
2. テンションスプロケット(4)を移動させて、チェンを張ります。(図 4-207)
3. 固定ボルト(3)を締め付けて固定します。(図 4-207)

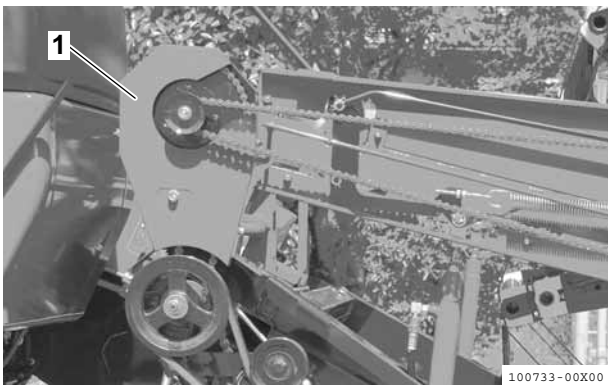


図 4-206

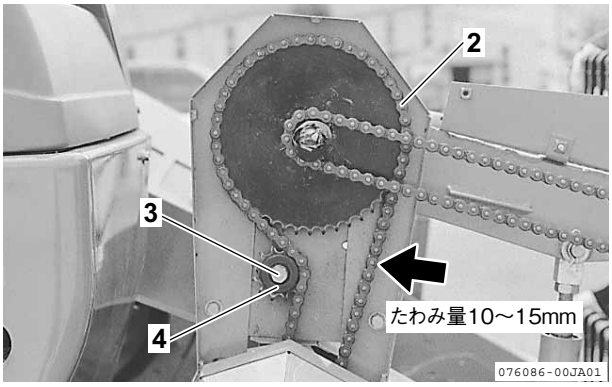


図 4-207

プラットホームオーガチェン

刈取サイドカバー右を取り外して、下記の点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■点検のしかた

プラットホームオーガチェンの中央を指で押したとき、たわみ量が14～20mmであるか確認します。

■調節のしかた

1. 固定ボルト(1)（M10）をゆるめます。
2. テンションスプロケット(2)を移動させて、チェン(3)を張ります。(図 4-208)
3. 固定ボルト(1)を締め付けて固定します。

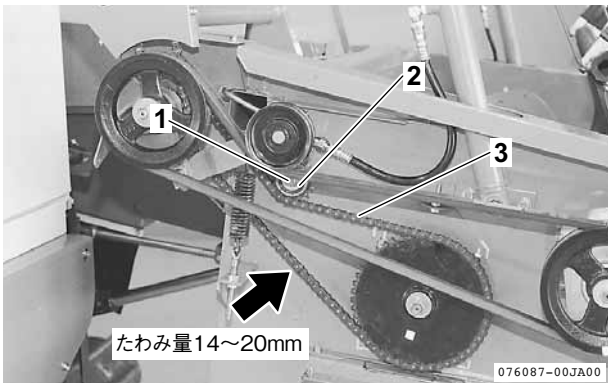


図 4-208

刈取駆動チェン

フィーダハウス右カバーを取り外して、下記の点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■点検のしかた

テンションバネのバネフック長が、98～102㎜であるか確認します。

■調節のしかた

1. ロックナットをゆるめます。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してます。(図 4-209)(図 4-210)
3. ロックナットを締め付けて固定します。

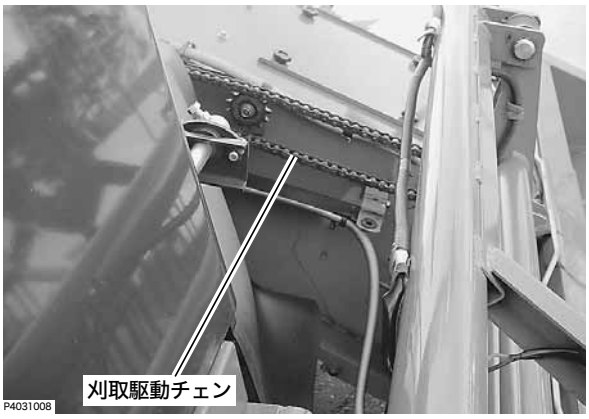


図 4-209

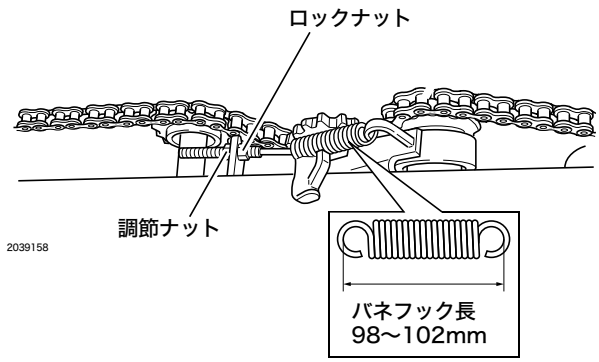


図 4-210

刈取カウンタチェン

脱こく左前カバーを取り外して、下記の点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■点検のしかた

テンションバネのバネフック長が、76～80mmであるか確認します。

■調節のしかた

1. ロックナット(1)をゆるめます。(図 4-211)
2. 調節ナット(2)を回して、バネフック長を調節します。(図 4-211)
3. ロックナット(1)を締め付けて固定します。

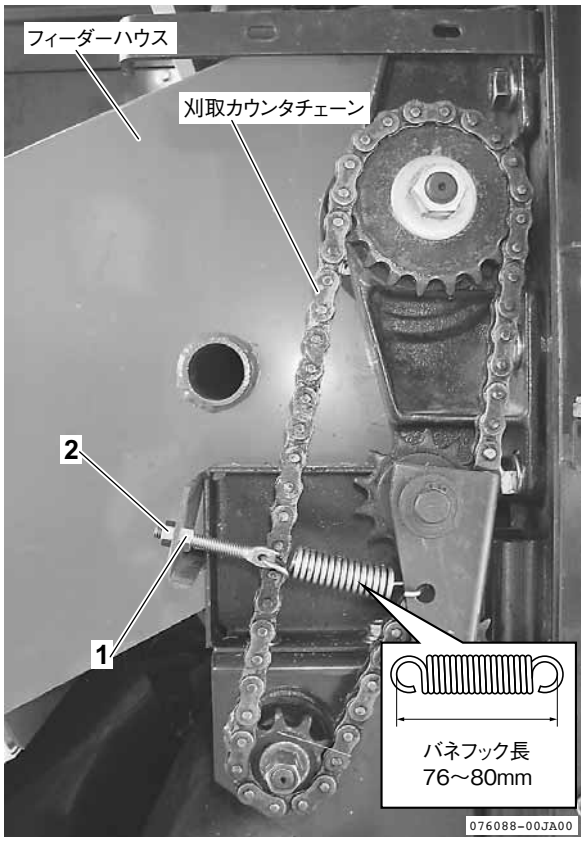


図 4-211

バケットコンベアチェン・スラットコンベアチェン・グレンタンク昇降機チェン（グレンタンク仕様のみ）

チェンがゆるむと、バケットおよびスラットが壁に当たり、騒音や破損の原因になります。グレンタンク仕様の場合は、グレンタンクをオープンして（174ページ参照）、ワンマンホッパ仕様の場合は、ワンマンホッパをオープンして（176ページ参照）、脱こく右カバーを取り外して、下記の点検・調節をします。点検・調節後は、オープン部を元通りにセットします。

■点検のしかた

座金とカラーの間（A寸法）が、0～0.5mmであるか確認します。（図 4-208）

■調節のしかた

（図 4-212）（図 4-213）（図 4-215）

1. ロックナットをゆるめます。
2. 調節ナットを左右交互に回して、チェンを引っ張ります。
3. 座金とカラーのすき間を調節します。
4. ロックナットを締め付けて固定します。

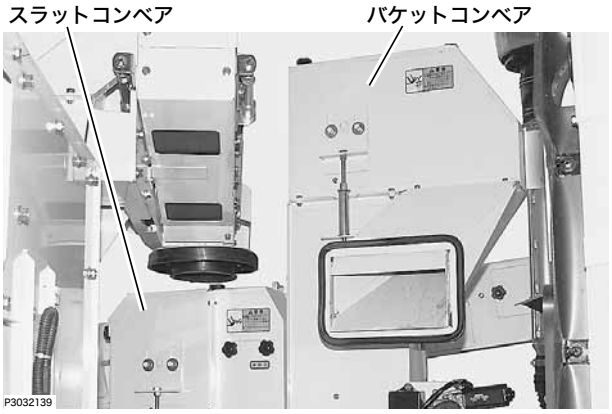


図 4-212



図 4-213

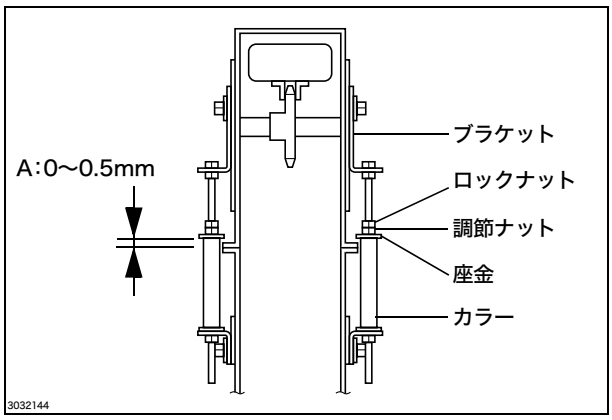


図 4-214

[参考]

調節後には、点検カバー (1)のチョウナット4本をゆるめてコンベアチェンのたわみ量をグレンタンク内部の点検口から確認してください。チェンとチェンレールを指でつまんで、50～60mmであるか確認してください。

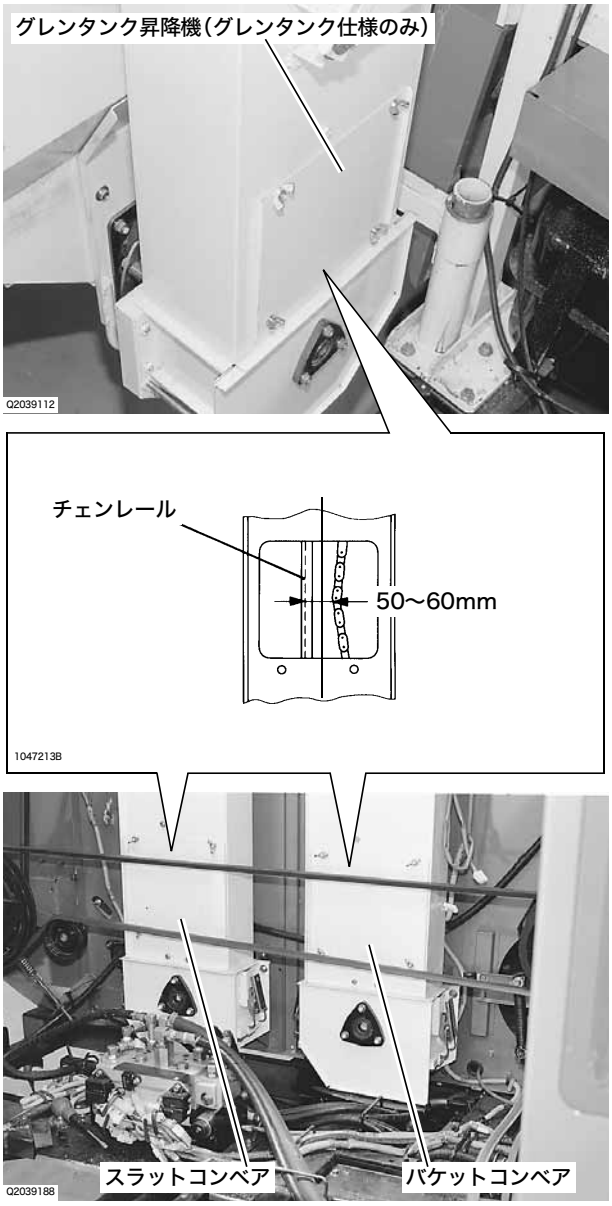


図 4-215

各部ベルトの点検･調節のしかた

ベルトにキズがあるときや切れたときは、主要消耗部品（288ページ参照）に紹介されているベルトと交換します。

ベルトの配置図

ベルトの位置を探すときの参考にしてください。（図 4-216）

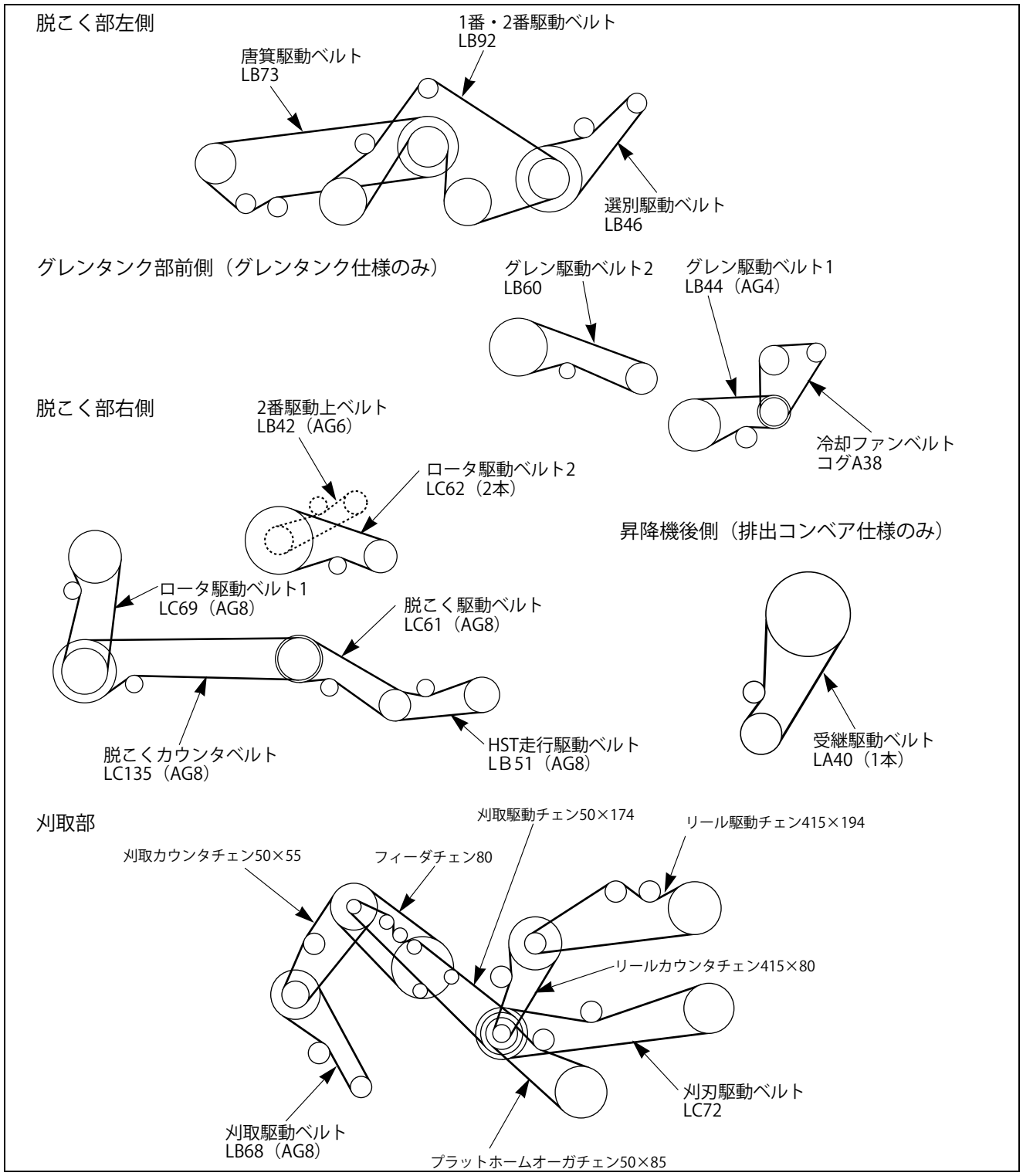


図 4-216

1番･2番駆動ベルト

脱こく左前･左後カバーを取り外して、下記の点検･調節をします。点検・調節後は元通りに取り付けます。

■点検のしかた

テンションバネのバネフック長が、100～104mmであるか確認します。(図 4-217)

■調節のしかた

1. ロックナット(1)をゆるめます。(図 4-217)
2. 調節ナット(2)を回して、バネフック長を調節します。(図 4-217)
3. ロックナット(1)を締め付けて固定します。(図 4-217)

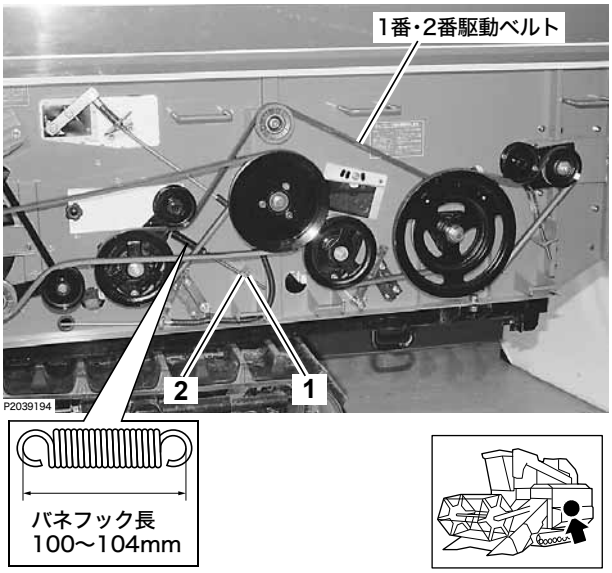


図 4-217

選別駆動ベルト

脱こく左後カバーを取り外して、下記の点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■点検のしかた

テンションバネのバネフック長が、83～87mmであるか確認します。(図 4-218)

■調節のしかた

1. ロックナット(1)をゆるめます。(図 4-218)
2. 調節ナット(2)を回して、バネフック長を調節します。(図 4-218)
3. ロックナット(1)を締め付けて固定します。(図 4-218)

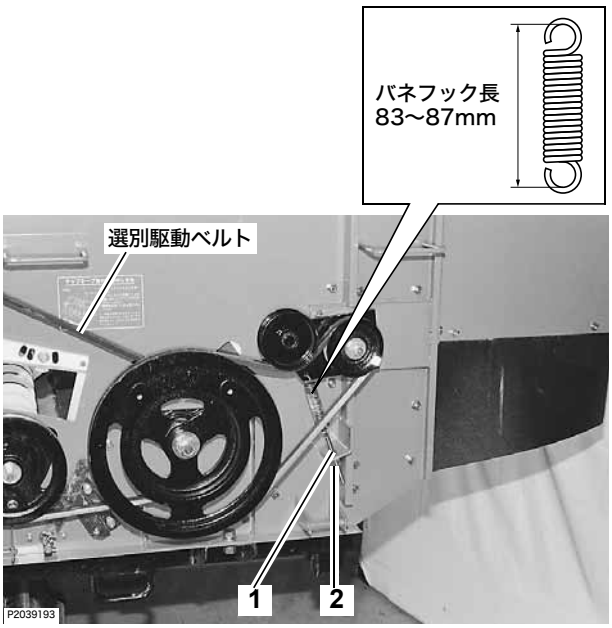


図 4-218

刈刃駆動ベルト

刈取サイドカバー右を取り外して、下記の点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■点検のしかた

テンションバネのバネフック長が、136～140mmであるか確認します。

■調節のしかた

1. ロックナット(1)をゆるめます。(図 4-219)
2. 調節ナット(2)を回して、バネフック長を調節します。(図 4-219)
3. ロックナット(1)を締め付けて固定します。(図 4-219)

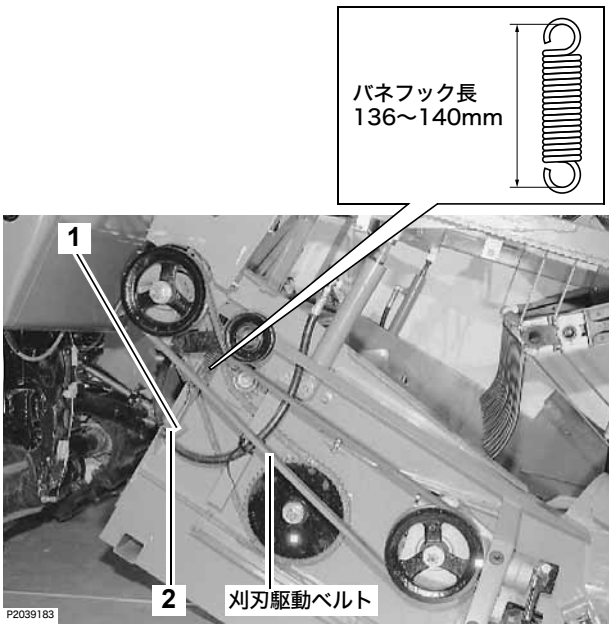


図 4-219

ロータ駆動ベルト1

脱こく後カバーと脱こく後右カバーを取り外して、下記の点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■点検のしかた

テンションバネのバネフック長が、103～107mmであるか確認します。(図 4-220)

■調節のしかた

1. ロックナット(1)をゆるめます。(図 4-220)
2. 調節ナット(2)を回して、バネフック長を調節します。(図 4-220)
3. ロックナット(1)を締め付けて固定します。(図 4-220)

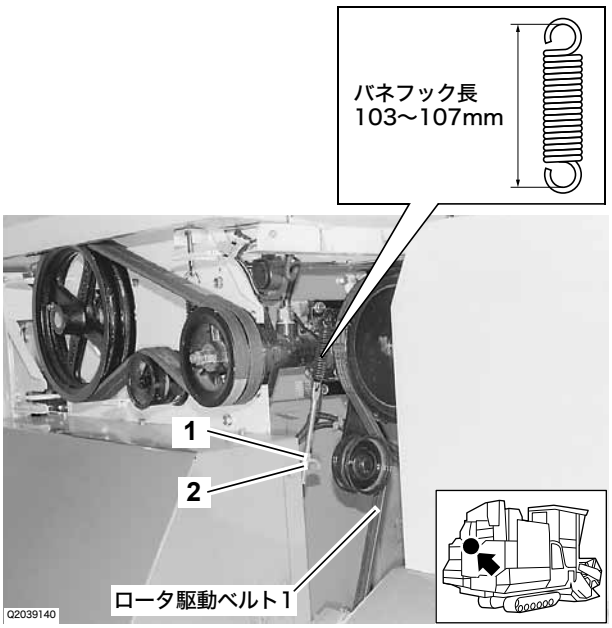


図 4-220

ロータ駆動ベルト2

脱こく後カバーを取り外して、下記の点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■点検のしかた

テンションバネのバネフック長が、140～144mmであるか確認します。(図 4-221)

■調節のしかた

1. ロックナット(1)をゆるめます。(図 4-221)
2. 調節ナット(2)を回して、バネフック長を調節します。(図 4-221)
3. ロックナット(1)を締め付けて固定します。(図 4-221)

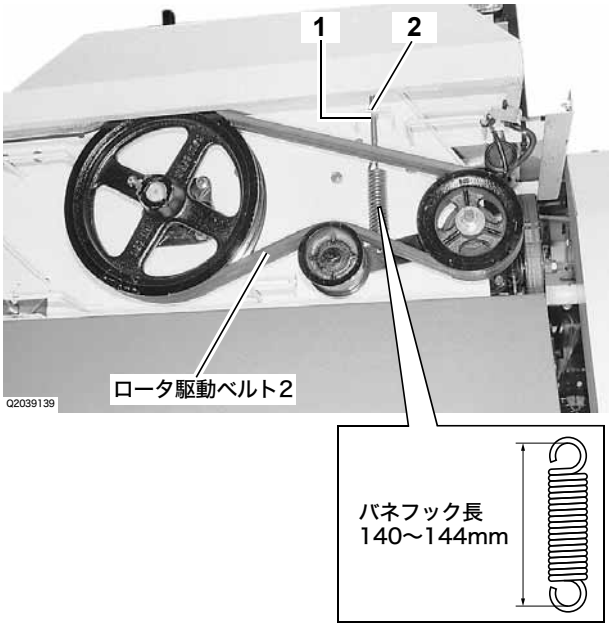


図 4-221

グレン駆動ベルト2 (グレンタンク仕様のみ)

下部カバーを取り外し、エンジンルームをオープンして (172ページ参照)、下記の点検・調節をします。
点検・調節後は、元通りに閉めます。

■点検のしかた

排出クラッチレバーを「入」位置にします。
テンションバネのバネフック長を測り、138 ～ 142mmであるか確認します。(図 4-222)

■調節のしかた

1. グレンタンクをオープンします。(174ページ参照)
2. ロックナット(1)をゆるめます。(図 4-223)
3. 調節ナット(2)を回して、バネフック長を調節します。(図 4-223)
4. ロックナット(1)を締め付けて固定します。(図 4-223)
5. グレンタンクを収納します。
6. バネフック長の寸法を確認します。規定寸法になっていない場合は、上記の作業を繰り返します。
7. 排出クラッチレバーを「OFF」位置にします。

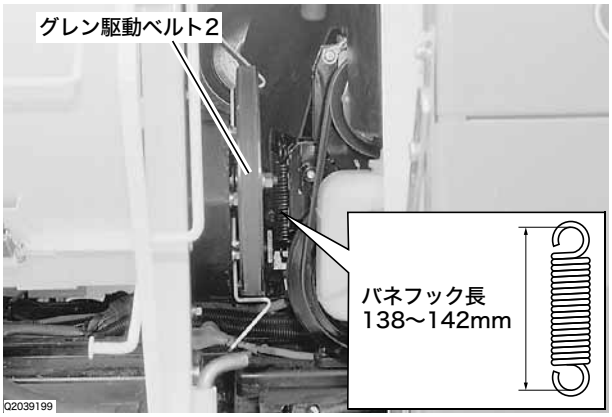


図 4-222

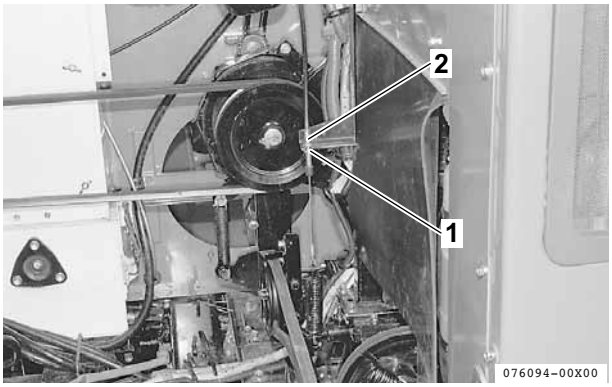


図 4-223

※グレンタンクをオープンしています。

2番駆動ベルト上

ロータカバーをオープンして（173ページ参照）、下記の点検・調節をします。
点検・調節後は、元通りに閉じます。

■点検のしかた

テンションバネのバネフック長を測り、80～84mmであるか確認します。（図 4-224）

■調節のしかた

1. ロックナット(1)をゆるめます。（図 4-224）
2. 調節ナット (2) を回して、バネフック長を調節します。（図 4-224）
3. ロックナット(1)を締め付けて固定します。（図 4-224）

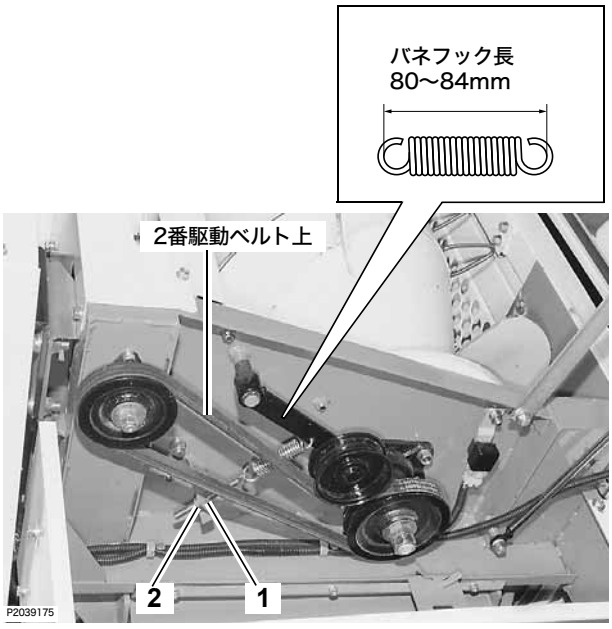


図 4-224

冷却ファンベルト（ジェネレータ駆動ベルト）

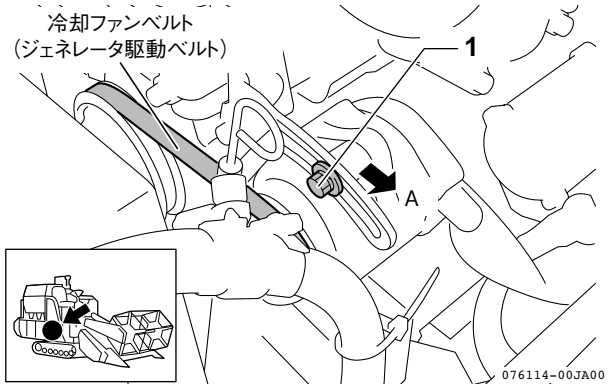
エンジンルームをオープンして（172 ページ参照）、下記の点検・調節をします。
点検・調節後は、元通りに閉めます。

■点検のしかた

ベルトの中央を指で押したとき、たわみ量が 10 ～ 15mmであるか確認します。（図 4-225）

■調節のしかた

1. ジェネレータ取付ボルト（1）とジェネレータボルト（2）をゆるめます。（図 4-225）
2. ジェネレータ（3）を下図の矢印Aの方向に引っ張り、ベルトを張ります。（図 4-225）
3. ジェネレータ取付ボルトとジェネレータボルトを締め付けて固定します。（図 4-225）



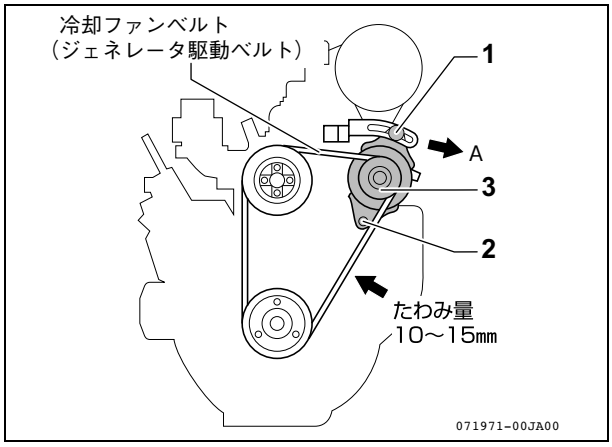


図 4-225

グレン駆動ベルト1 (グレンタンク仕様のみ)

グレンタンクをオープンして（174ページ参照)、下記の点検・調節をします。
点検・調節後は、元通りに閉めます。

■点検のしかた

テンションバネのバネフック長を測り、96 ～ 100mmであるか確認します。(図 4-226)

■調節のしかた

1. ロックナット(1)をゆるめます。(図 4-226)
2. 調節ナット(2)を回して、バネフック長を調節します。(図 4-226)
3. ロックナットを締め付けて固定します。(図 4-226)

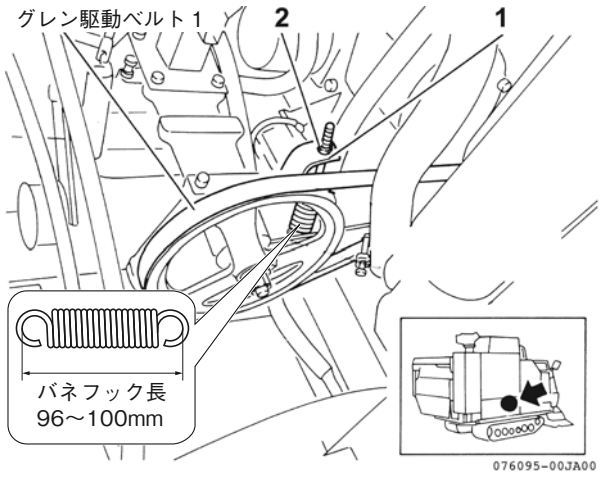


図 4-226

刈取駆動ベルト

サイドコラムカバーを取り外して、下記の点検・調節をします。
点検・調節後は、元通りに取り付けます。

■点検のしかた

1. 刈取クラッチレバーを「ON」方向に軽く倒します。(図 4-227)
2. レバーの止まる位置が、「OFF」位置から40～45 mmであるか確認します。(図 4-227)

■調節のしかた

1. 刈取クラッチワイヤー(1)のロックナット(2)をゆるめます。(図 4-228)
2. 調節ナット(3)を回して、レバー可動範囲を調節します。(図 4-228)
3. ロックナット(2)を締め付けて固定します。(図 4-228)

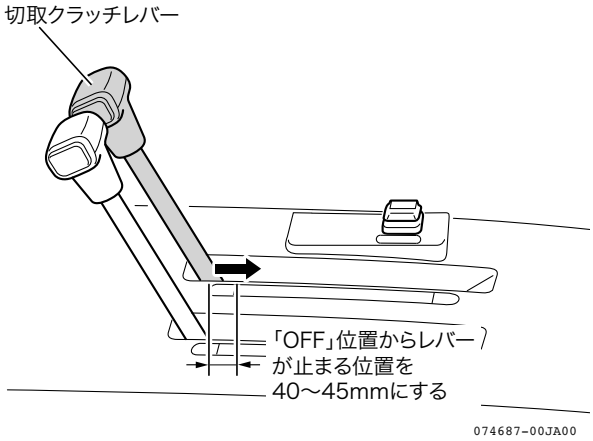


図 4-227

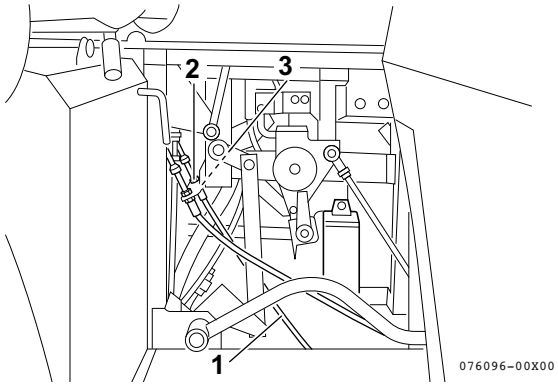


図 4-228

脱こく駆動ベルト

サイドコラムカバーを取り外して、下記の点検・調節をします。
点検・調節後は、元通りに取り付けます。

■点検のしかた

1. 脱こくクラッチレバーを「入」方向に軽く倒します。(図 4-229)
2. レバーの止まる位置が、「切」位置から 35 ～ 40mmであるか確認します。(図 4-229)

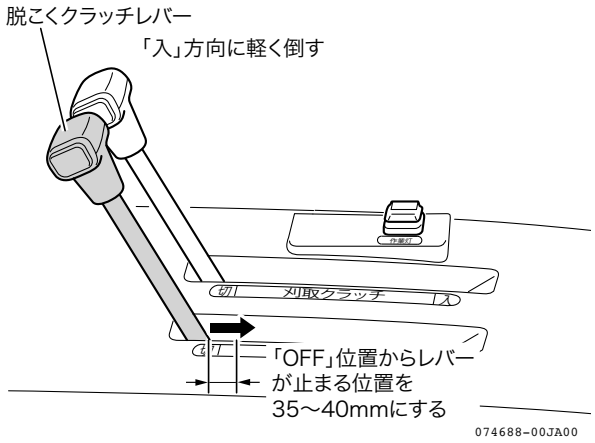


図 4-229

■調節のしかた

1. 脱こくクラッチワイヤー(1)のロックナット(2)をゆるめます。(図 4-230)
2. 調節ナット(3)を回して、レバー可動範囲を調節します。(図 4-230)
3. ロックナット(2)を締め付けて固定します。(図 4-230)

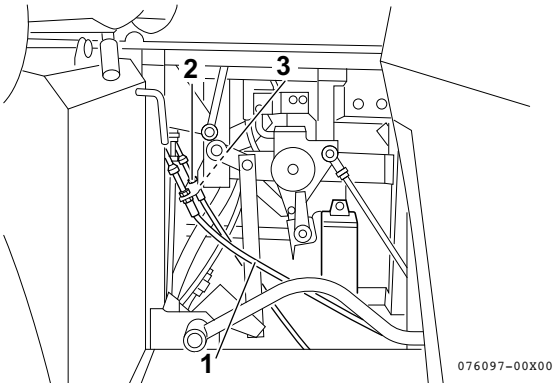


図 4-230

脱こくカウンタベルト

グレンタンク仕様の場合は、グレンタンクをオープンして（174ページ参照)、ワンマンホッパ仕様の場合は、ワンマンホッパをオープンし（176 ページ参照)、脱こく右カバーを取り外して、下記の点検・調節をします。
点検・調節後は、元通りにセットします。

■点検のしかた

テンションバネのフック長を測り、170～174mmであるか確認します。(図 4-231)

■調節のしかた

1. ロックナット(1)をゆるめます。(図 4-232)
2. 調節ナット(2)を回して、バネフック長を調節します。(図 4-232)
3. ロックナット(1)を締め付けて固定します。(図 4-232)

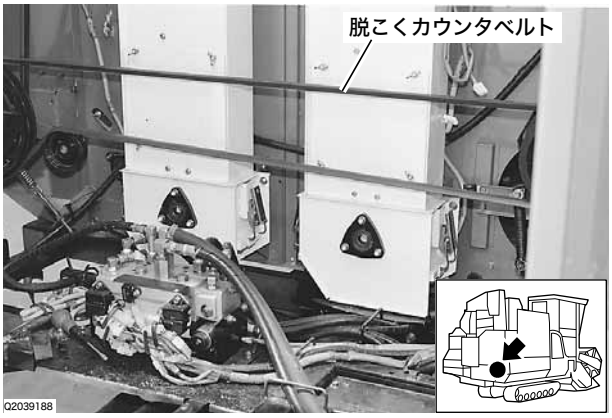


図 4-231

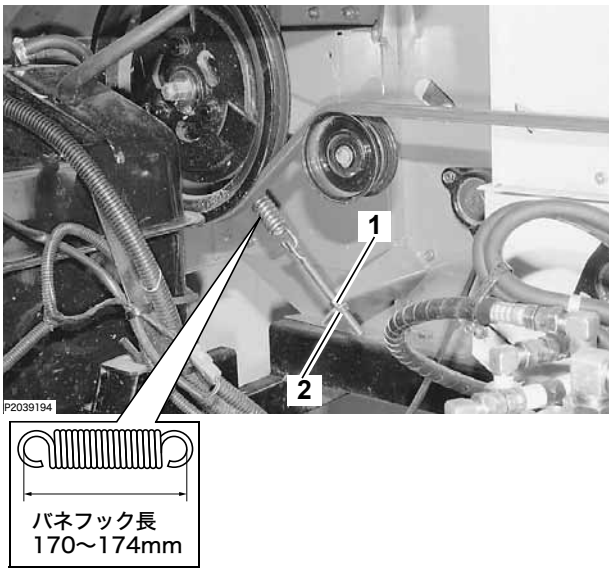


図 4-232

HST走行駆動ベルト

刈取部を最上げ状態にして、刈取部をロックして（182ページ参照）から、下記の点検・調節をします。点検・調節後は、元通りに下げます。

■点検のしかた

テンションバネのバネフック長を測り、224 ～ 228mmであるか確認します。(図 4-233)

■調節のしかた

1. ロックナット(1)をゆるめます。(図 4-233)
2. 調節ナット(2)を回して、バネフック長を調節します。(図 4-233)
3. ロックナット(1)を締め付けて固定します。(図 4-233)

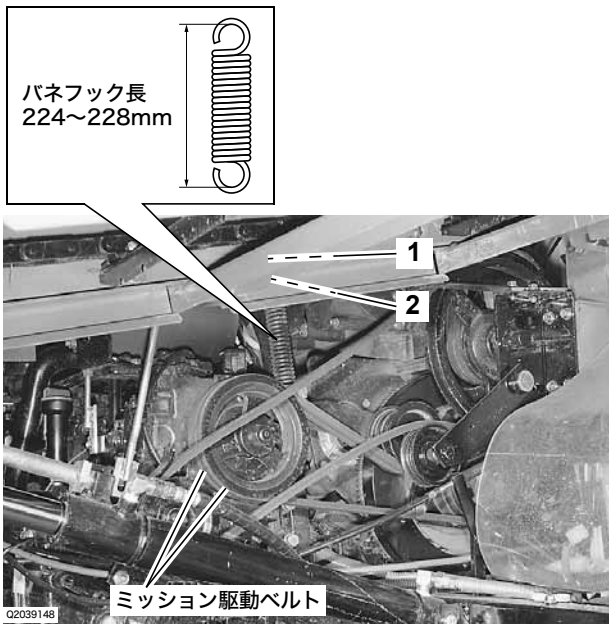


図 4-233

※写真は、刈取部を取り外しています。

コンプレッサ駆動ベルト（キャビン仕様のみ）

グレンタンクをオープンして（174ページ参照）、下記の点検・調節をしてます。点検・調節後は、元通りに収納します。

■点検のしかた

ベルトの中央を指で強く（荷重10kgf）押したとき、たわみ量が6～8mmであるか確認します。
(図 4-234)

■調節のしかた

1. 固定ボルト(1)（2本）を約1回転ゆるめます。(図 4-234)
2. ロックナット(2)をゆるめ、テンションボルト(3)を締め込み、ベルトを張ります。(図 4-234)
3. 固定ボルト (1) とロックナット (2) を締め込みます。(図 4-234)

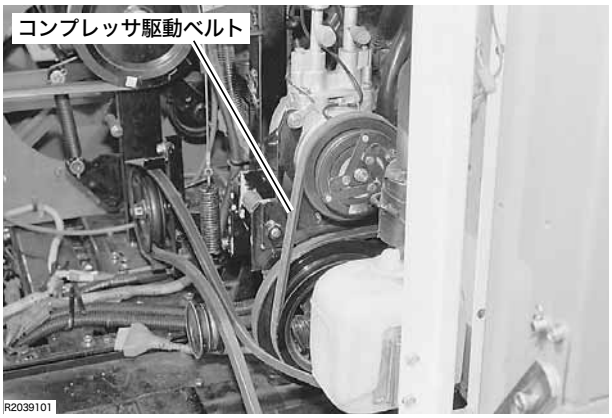


図 4-234

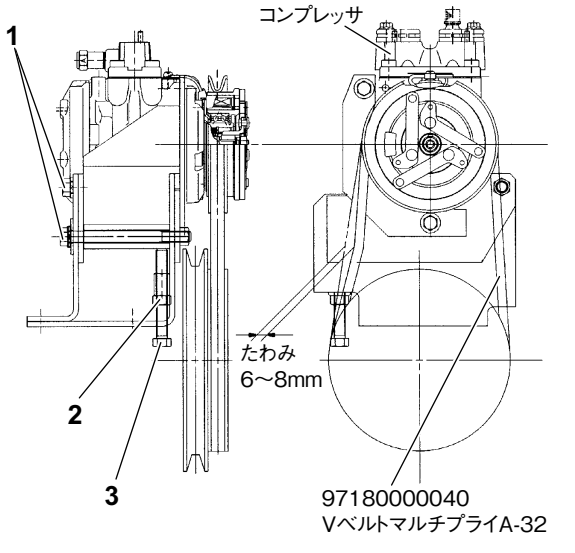


図 4-235

受継駆動ベルト（グレンタンク仕様のみ）

下記の点検・調節をします。
点検・調節後は、元通りにカバーを取り付けます。

■点検のしかた

1. 受継部カバーを取り外します。（図 4-236）

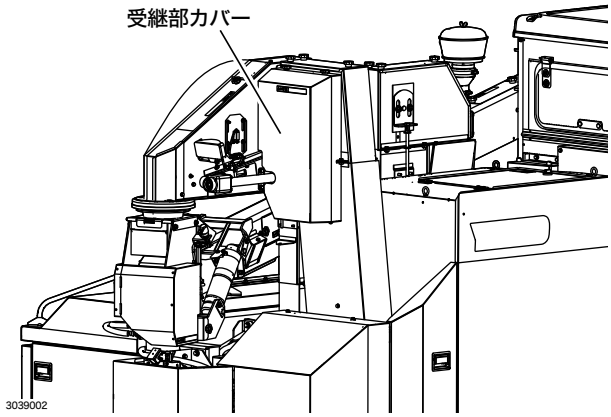


図 4-236

2. テンションバネのフック長を測り、90～94㎜であるか確認します。（図 4-237）

■調節のしかた

1. ロックナット(1)をゆるめます。（図 4-237）
2. 調節ナット (2) を回して、バネフック長を調節します。（図 4-237）
3. ロックナット(1)を締め付けて固定します。（図 4-237）

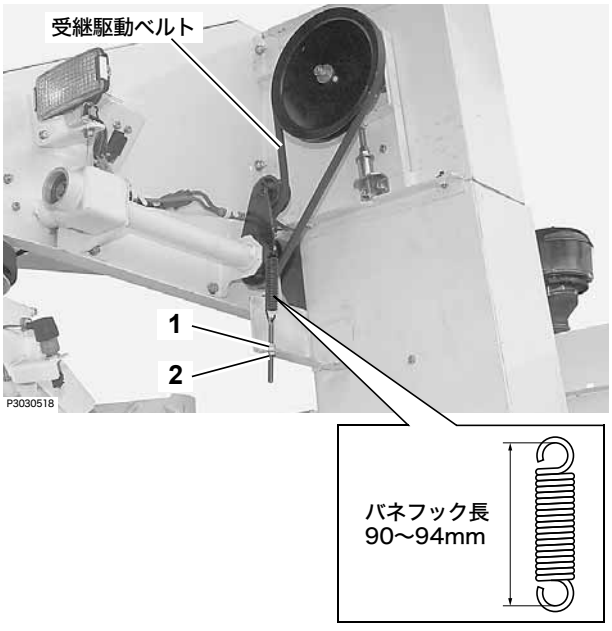


図 4-237

受継ベルト（グレンタンク仕様のみ）

ベルトがゆるむと、騒音や詰まりの原因になります。
下記の点検・調節をします。
点検・調節後は、元通りにセットします。

■点検のしかた

座金とカラーのすき間を測り、0～0.5mmであるか確認します。（図 4-239）

■調節のしかた

1. ロックナット(1)をゆるめます。（図 4-239）
2. 調節ナット(2)を回して、ベルトを引っ張ります。（図 4-239）
3. 座金とカラー (3)のすき間を調節します。（図 4-239）
4. ロックナット(1)を締め付けて固定します。（図 4-239）

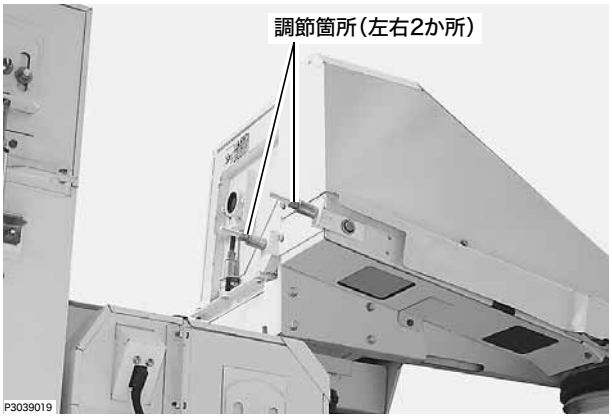


図 4-238

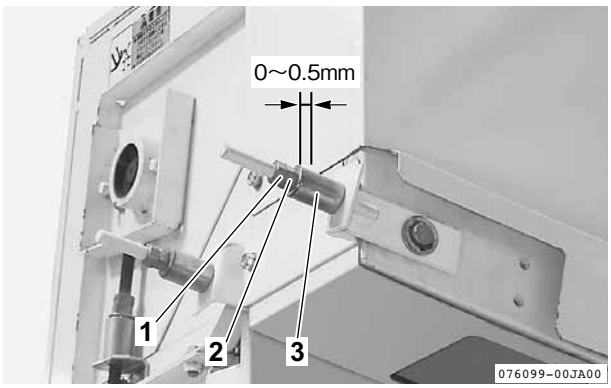


図 4-239

排出コンベア搬送ベルト

ベルトがゆるむと、騒音や詰まりの原因になります。
下記の点検・調節をします。
点検・調節後は、元通りにセットします。

■点検のしかた

1. 排出コンベア上部の保護カバー (1)を取り外します。(ボルト(2)左右各1本)(図 4-240)

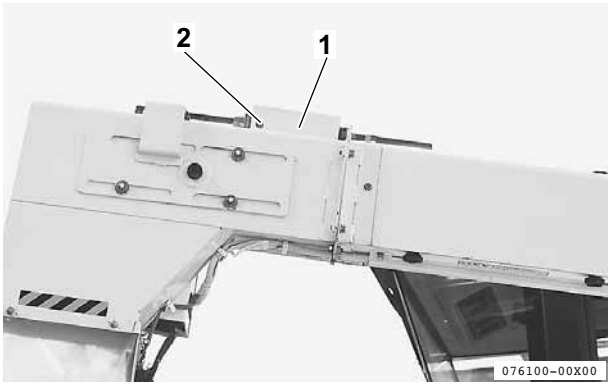


図 4-240

2. バネのバネ長を測り、180～184mmであるか確認します。(図 4-241)

■調節のしかた

1. ロックナット(1)をゆるめます。(図 4-241)
2. 調節ナット(2)を締め込んで、バネ長を調節をします。(図 4-241)
3. ロックナット(1)を締め付けて固定します。(図 4-241)

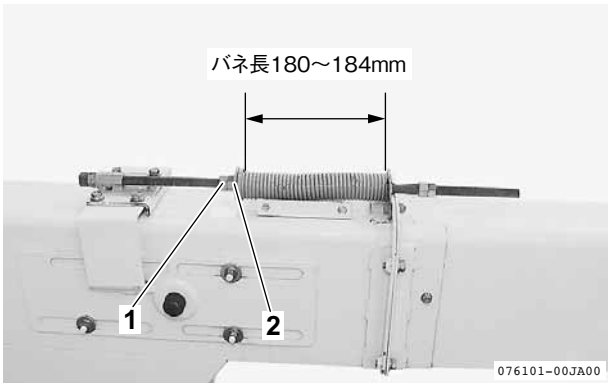


図 4-241

駐車ブレーキの点検･調節のしかた

サイドコラムカバーを取り外し、下記の点検・調節をします。
点検・調節後は、元通りに取り付けます。

■点検のしかた

1. 駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にします。(64ページ参照)
2. バネのバネフック長を測り、102～106mmであるか確認します。(図 4-242)

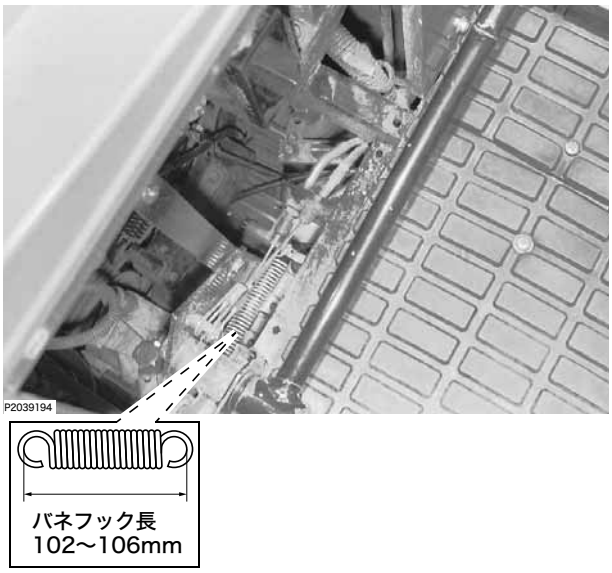


図 4-242

3. 調節後、駐車ブレーキレバーを「解除」位置にして、バネが自由長になっていることを確認します。

■調節のしかた

1. ロックナット(1)をゆるめます。(図 4-243)
2. 調節ナット(2)を締め込みながら調節します。(図 4-243)
3. ロックナット(1)を締め付けて固定します。(図 4-243)

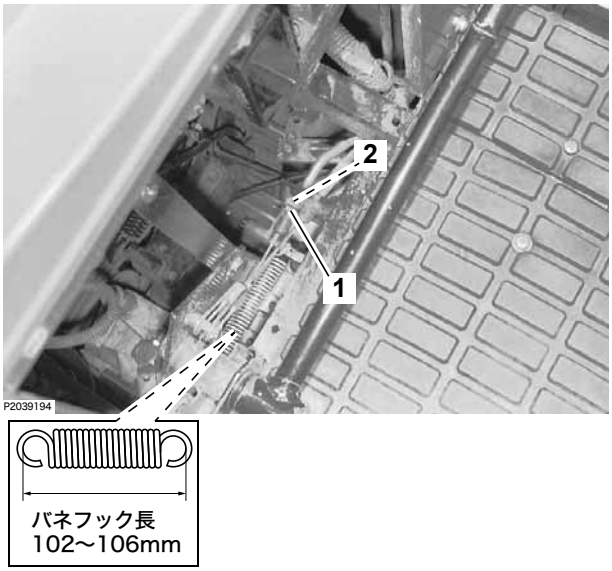


図 4-243

※写真では、調節するバネは見えていません。下図を参照してください。(図 4-244)

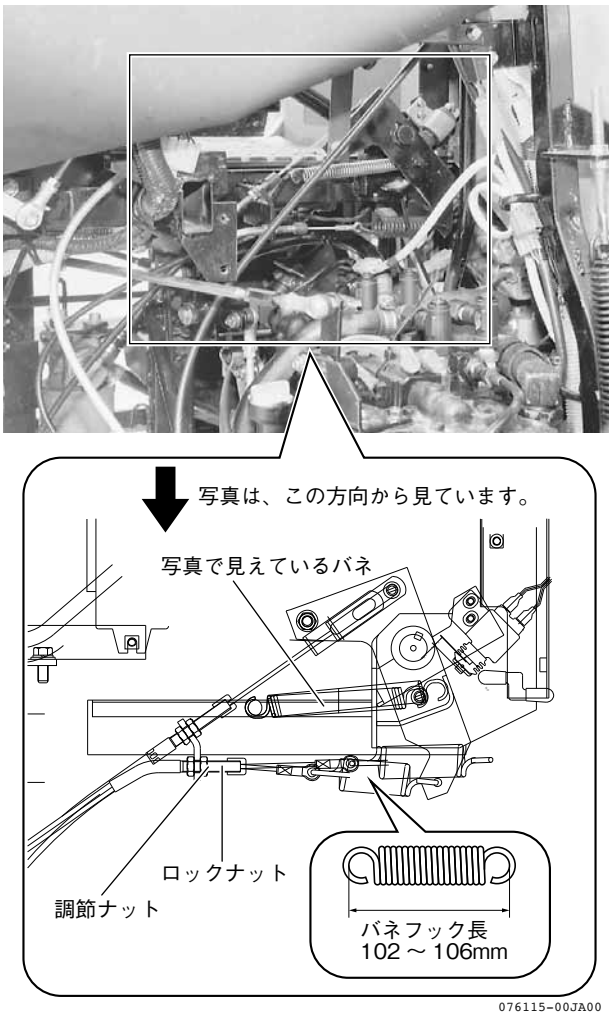


図 4-244

クローラの点検･調節のしかた

ミッション下部およびシャーシ左後・右後の3か所を同時にジャッキアップし、クローラを浮かせた状態で下記の点検・調節をします。

⚠ 警　告

ジャッキアップをするときは、地面が固く、平たんな場所で、必ず５トン以上の容量のジャッキを使用して行ってください。バランスをくずして転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。

■ミッション下部

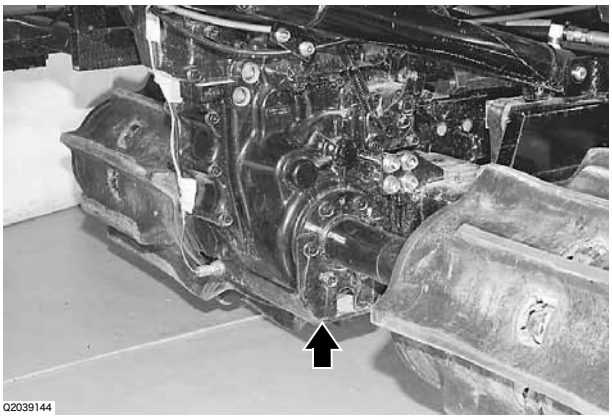


図 4-245

■シャーシ左後

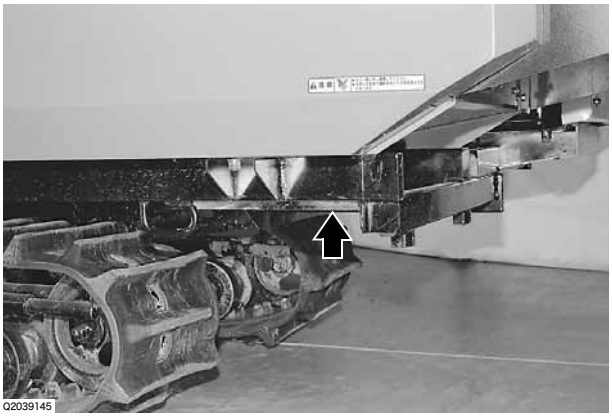


図 4-246

■シャーシ右後

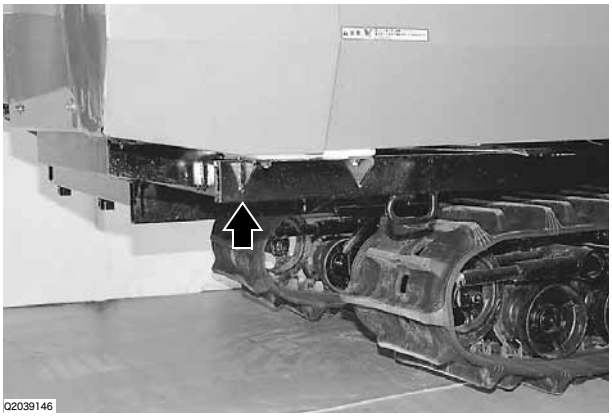


図 4-247

■点検のしかた

第2転輪とクローラのすき間を測り、10～15mmであるか確認します。(図 4-248)

■調節のしかた

1. ボルトM8(1)を外します。(図 4-248)
2. 回り止め金具(2)を取り外します。(図 4-248)
3. ロックナット(3)をゆるめます。(図 4-248)
4. 調節ナット (4) を回して、すき間を調節します。(図 4-248)
5. ロックナットを締め付けて固定してます。(図 4-248)

6. 回り止め金具を取り付けて、ボルトM8で固定します。(図 4-248)

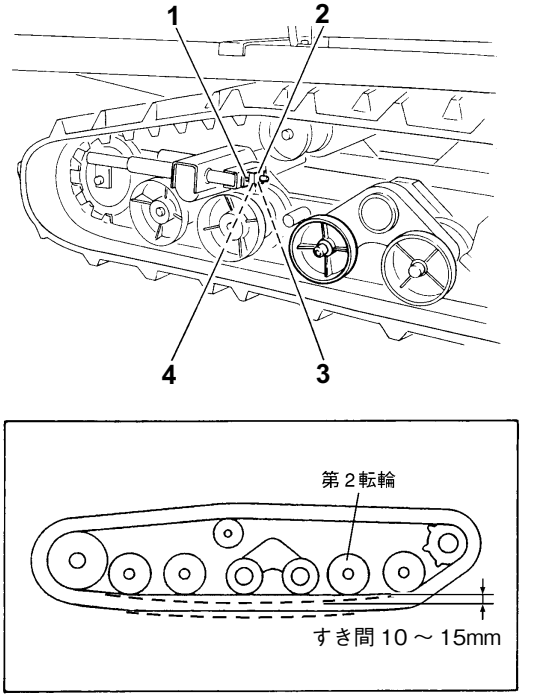


図 4-248

強力ピンの交換のしかた (グレンタンク仕様のみ)

過負荷から駆動部を保護するために、排出コンベア回動モータには強力ピンを設けています。
万一切れたときは、下記の要領で交換します。

■交換のしかた

1. 脱こく後中カバーを取り外します。
2. C形止め輪(1)をずらして、強力ピン(2)を交換してます。(図 4-249)
3. C形止め輪(1)を元の位置に戻します。(図 4-249)
4. 脱こく後中カバーを取り付けます。(図 4-249)

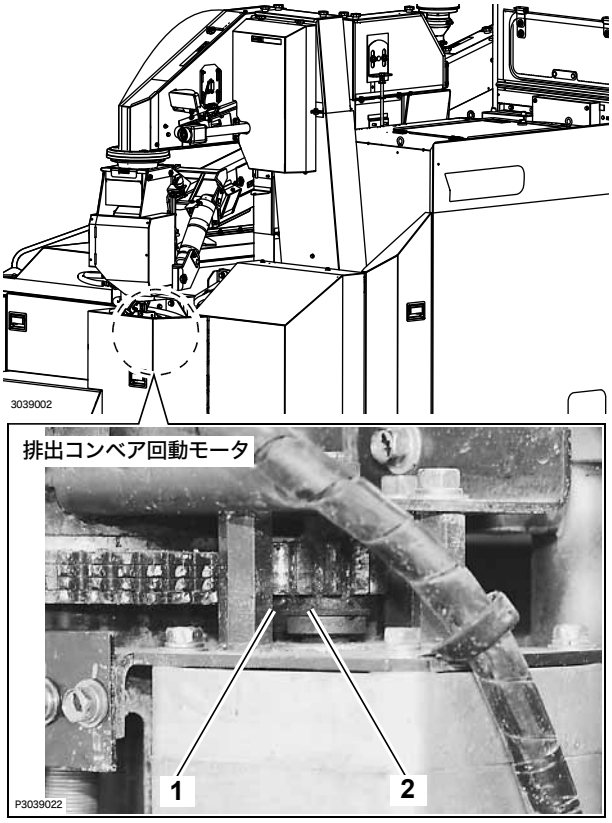


図 4-249

排出ガスの色について

気温が低い場合は、エンジン始動時に排気フィルターおよび排気管から白煙が出ることがあります。白煙は水蒸気のため問題ありません。
構造上、排気フィルターを搭載していない従来機にくらべ排出ガス中の水蒸気が白煙として見えやすくなります。

クーラーガス(冷媒)の点検のしかた

クーラーガス（冷媒）が不足していると、冷房性能が低下します。
特販店、またはJAで点検・補充を受けてます。

⚠ 警　告

- 冷媒回路の分解は絶対しないでください。クーラーガスの液が目に入ったり手にかかると、失明したり凍傷にかかるおそれがあります。
- エンジン回転中は、エンジンや回転部に手を触れないよう十分に注意してください。

[重要]

- クーラーガスはR-134aを使用しています。これ以外のクーラーガスは、絶対に使用しないでください。

表 4-23 冷媒(クーラー)ガス

使用冷媒 (クーラーガス)	フロン　R-134-a
充てん量	900

- フロン類をみだりに大気中へ放出することは、法律で禁じられていますので、絶対にしないでください。

■点検のしかた

1. エンジンを始動し、エンジン回転数を定格回転にします。
2. ファンスイッチを「HI」位置（最大風量）にします。(図 4-250)

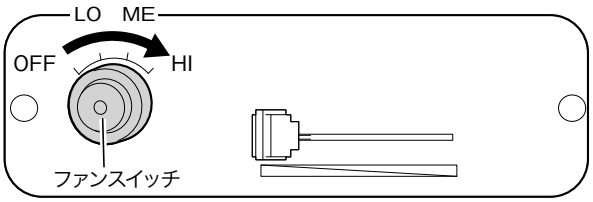


図 4-250

3. 温度コントロールレバーを「COOL」位置（強冷）にします。(図 4-251)

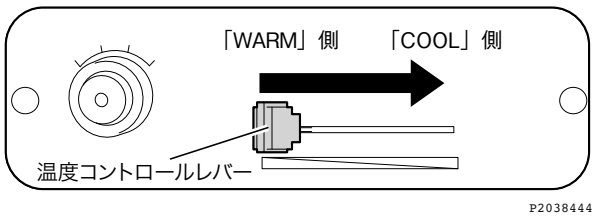


図 4-251

4. エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にします。

5. リキッドタンク(1)のサイトグラス（点検窓）から、クーラーガスの気泡の流れを見て、ガス量の点検をします。(261ページ参照)（図 4-252）

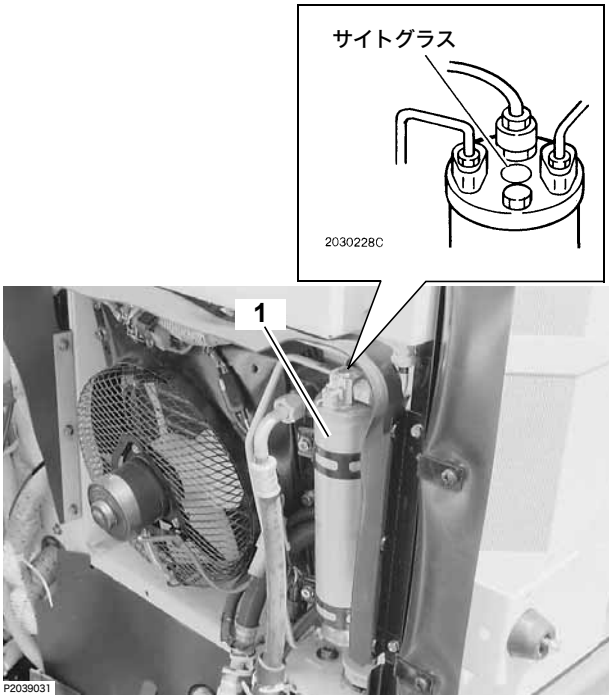
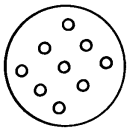
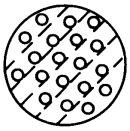
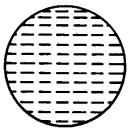
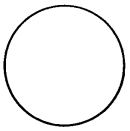


図 4-252

クーラーガス量チェック表

クーラーの状態	異常なし	異常あり		
高･低圧パイプの温度	高圧パイプは熱く、低圧パイプは冷たい。温度差がはっきりある。 ●コンプレッサ吐出側温度70℃ ●コンプレッサ吸入側温度5℃	高圧パイプは暖かく､低圧パイプはやや冷たい。温度差はあまりない。	高圧パイプ､低圧パイプにほとんど温度差が感じられない。	高圧パイプは熱く､低圧パイプはやや暖かい。温度差はあまりない。
サイトグラスの状態	ほとんど透明｡気泡の流れが見えても､エンジン回転を上げたり下げたりすると透明になる。 ※1  1018720D	気泡の流れるのが見える｡透明または白泡のときもある。  1018720D	霧のようなものが流れているのがわずかに見える。  1018720D	ドアを全開にして､ファンを最大風量にし､アイドリングで回しても気泡が見えない。 ※2  1018720D
パイプ接続部の状態	異常なし。	油が汚れている所がある。	油の汚れが著しい所がある。	異常なし。
このクーラーの状態は	ガス量も不足なく異常はない。	少しガスがもれている所がある。	ガスがほとんどもれてなくなってしまった。	ガスが過充てんになっている。

※1 外気温度が低いときには､ガス充てん量が適正でも気泡が見えることがあります。
※2 クーラーガスがない場合があるので､高･低圧パイプの温度差がないことを確認してください。
この場合､全く冷えない状態にあります。

[重要]

- **連続した気泡が見えるときは、冷媒が不足していますので、特販店、またはJAですぐに補充を受けてください。冷媒不足の状態で運転を続けると、コンプレッサの破損の原因になります。**
- **点検窓に全く冷媒が確認できず、エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にしても冷えないときは､冷媒が入っていませんので､つぎの処置を行ってください。**
- **冷媒もれによって、サイクル内のオイルが不足していると、そのまま冷媒だけを追加してもコンプレッサロックの原因になります。**

1. 特販店、またはJAで、冷媒もれ箇所のチェックをします。
（配管ジョイント部、ホースなど）
2. 冷媒を規定量補充します。（点検窓でチェック）
3. ND-8 オイルを 120cc、低圧側より追加します。
（コンプレッサ内・低圧ホース内など）

冷媒ガス（フロン類）の処理について

- **フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられていますので絶対にしないでください。**
- **冷媒ガス（フロン類）は回収が必要です。廃棄する場合は、専門の業者に引き取ってもらってください。**

冷媒ガス(サービス缶)の取り扱い､および充てんの注意(キャビン仕様のみ)

取り扱いを誤ると、有害物質が発生したり、缶が破裂して、失明・凍傷などの危険があります。

⚠ 警　告

- 裸火や高温部のある所では、冷媒ガスをもらさないでください。
  通常の取り扱いでは無毒・無害ですが、冷媒ガスが裸火や高温部（ストーブやタバコなど）に触れると、分解して有害物質が発生します。
- 換気の悪い場所では作業はしないでください。充てん作業は、換気の良い場所で行ってください。
- ハライドトーチ式リークデテクターでの冷媒ガスもれ点検は、絶対に行わないでください。従来のハライドトーチ式リークデテクターは、塩素との反応を利用して冷媒ガスもれを検知するため、塩素を含まないR-134aは、ガスもれ検知できないだけでなく、吸い込んだR-134aを分解して有害物質も発生させます。
- 冷媒ガスが、裸火や高温部に触れて分解し、発生したガスを吸い込まないでください。裸火や高温部（ストーブやタバコなど）に触れて発生したガスは、有害です。
- サービス缶は加熱しないでください。
  - 温度が 40 ℃以上になるところに置かないでください。
  - 缶を、エンジンやラジエータの上に置かないでください。
  - 缶の温度を40℃以上に上げないでください。
  - やむを得ずサービス缶を暖める場合は、40℃以下の温水を使用してください。
  - 缶を火の中に入れないでください。
- 缶に 1MPa（10kgf/cm^2）以上の圧力を加えないでください。
- 缶に冷媒を戻さないでください。
- 缶を落としたりして、缶に衝撃を与えないでください。
- 缶は強く振らないでください。サービス缶バルブが取付不十分だと外れることがあり、冷媒がもれる原因になります。

⚠ 警　告

- サービス缶を、顔の近くで取り扱わないでください。また、必ず保護メガネを着用してください。
- 冷媒が直接皮膚にかからないように注意してください。
- エンジン回転中、マニホールドゲージの高圧側バルブ（HI）を開かないでください。エンジン回転中に高圧バルブを開くと、高圧ガスがサービス缶に逆流して破裂する危険があります。
- 冷媒液が目に入ったときの処置
  - 目を､手やハンカチでこすらないでください。
  - 直ちに清浄な流水で15分以上洗眼し､速やかに専門の眼科医の手当てを受けてください。
- フロン類をむやみに大気中へ放出することは､法律で禁じられていますので、絶対にしないでください。
- 冷媒ガス（フロン類）を廃棄する場合には、専門の業者に引き取ってもらうなどの適切な方法で処分してください。

投げ口シートの交換のしかた

投げ口シートが破損している場合は、以下の手順で交換します

〈交換のしかた〉

1. 取付ナット(1)（6か所）を外して、投げ口シート(2)を取り外します。（図 4-253）
2. 新しい投げ口シートを取り付け、取付ナット（6か所）で元通りに固定します。

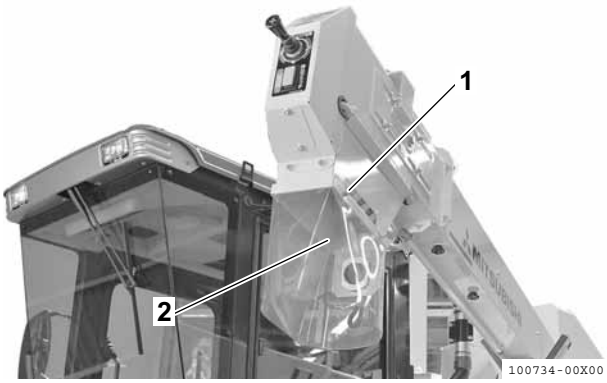


図 4-253

不調診断のしかた

⚠ 注　意

コンバインの調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから診断してください。回転物にはさまれてけがをするおそれがあります。

つぎの処置をしても改善されないときは、お買い上げいただいた特販店、またはJAに連絡してください。

1. キースイッチを「始動」位置にしてもスタータが回らない場合

この確認をしてください	処置	参照ページ
セフティペダルを踏み込んでいますか。	セフティペダルを完全に踏み込んでから、キースイッチを「START」位置にしてください。	93
バッテリーが放電していませんか。	バッテリーを満充電にしてください。	230
バッテリー端子部のゆるみ・外れ、または腐蝕していませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けて、グリスを塗布し防錆してください。	231
スローブローヒューズ、またはヒューズが溶断していませんか。	スローブローヒューズ、またはヒューズを交換してください。	232
バッテリーの接続がプラス・マイナス逆になっていませんか。	指定したバッテリーを使用して、プラス・マイナスを正しく接続してください。	229
脱こくクラッチレバー、または排出クラッチレバーが「ON」位置になっていませんか。	脱こくクラッチレバー・排出クラッチレバーを「OFF」位置にしてください。	92

2. スタータは回るがエンジンが始動しない場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
副変速レバーが「N 」(中立) 位置になっていますか。	副変速レバーを「N 」(中立) 位置にしてください。(走行中または作業中にエンジンが停止したときは、副変速レバーを「N 」(中立) 位置にしないと、エンジンが始動しない場合があります。)	93
燃料タンクに燃料が入っていますか。	燃料を満タンに給油し、エア抜きをしてください。	203
燃料にエアが混入していませんか。	燃料のエア抜きを行ってください。	217
燃料コックが「閉」位置になっていませんか。	燃料コックを「開」位置にしてください。	92
燃料に水が入っていませんか。	燃料コシ器に水がたまっていれば、水を抜いてください。	213

3. 運転中に水温パイロットランプが点灯し、ブザーが鳴る場合

⚠ 注　意

エンジンのオーバーヒートですので、すみやかに本機を停止し、作業クラッチレバーを「OFF」位置にして、エンジン回転をローアイドリング（低回転）に下げ、冷却運転をしてください。水温パイロットランプが消灯してから、エンジンを停止し、エンジンが確実に冷えてから適正な処置を行ってください。

この確認をしてください	処 置	参照ページ
冷却水が不足していませんか。	冷却水を補給してください。	209
ファンベルトがゆるんでいませんか、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換してください。	250
ラジエータ冷却フィンが目詰まりしていませんか。	清掃してください。	227
エンジンオイルが不足していませんか。	オイルを補給してください。	204
過負荷運転をしていませんか。	負荷を軽くしてください。(作物の状態に応じて、適正な作業速度を選んでください。)	127

4. 運転中に油圧パイロットランプが点灯し、ブザーが鳴る場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
エンジンオイル量が少なくなっていませんか。	オイルを規定量まで補給してください。	204
エンジンオイルの粘度が低くありませんか。	適正粘度のオイルと交換してください。	204
プレッシャスイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。	—
オイルポンプが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。	—

5. 運転中にチャージパイロットランプが点灯し、ブザーが鳴る場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
ジェネレータが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。	—
冷却ファンベルトのゆるみ、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換してください。	250

6. 作物を搬送しない場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
刈刃駆動ベルトがスリップしていませんか。	刈刃駆動ベルトの調節を行ってください。	248
刈取駆動ベルト、脱こく駆動ベルトの張りがゆるくないですか。	刈取駆動ベルトおよび脱こく駆動ベルトの調節を行ってください。	251･252
刈刃や搬送部に、雑草、引き抜き株、泥、石などの異物がかみ込んでいませんか。	刈刃･搬送部を点検して、異物があれば取り除いてください。	—

7. 株の引き抜きがある場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
デバイダが株の根元に突っ込んでいませんか。	刈高さ調節レバーで、デバイダの先端を地面から 5 ～ 10cmの範囲に調節してください。	120
刈取速度が速すぎませんか。	作物、ほ場の状態に合わせて、適正な速度で刈取りを行ってください。	127
刈刃がよく切れますか。	刈刃と受刃のすき間を調節してください。	235

8. 刈取部でのロスが多い場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
刈刃の前で作物が滞留していませんか。	リールの高さを低くセットし、作物が刈刃からプラットホームオーガへスムーズに送り込まれるようにしてください。	127～131
プラットホームが高すぎて、作物を短く刈りすぎていませんか。	作物をプラットホームオーガへ均一に送り込むのに必要な長さになるまで、プラットホームを低くしてください。	—
向い刈りで、リールが作物を押さえつけていませんか。	リール高さを適正にしてください。	127～131

9. リールに巻き上げや巻き付きがある場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
タイン角度が小さすぎませんか。	タイン角度を適正にしてください。	127～131
リール高さが低すぎませんか。	リールの高さを適正にしてください。	127～131

10.土や石が入る場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
プラットホームが低すぎませんか。	プラットホームは、できるだけ高く上げてください。	127～131
刈高さ自動制御を使っていますか。	刈高さ自動制御を使ってください。	129

11.こぎ残しがでる場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
ロータの回転数が低くありませんか。	E モードスイッチを「ON」位置にしてください。また、ロータのプーリが作物に合っているか、確認してください。	127～131
送塵調節レバーが「開」側になっていませんか。	「標準」または、「閉」側にしてください。	136
作物の供給量が不十分ではありませんか。	走行速度を少し速くしてください。	—
作物の不均一な送り込みがありませんか。	走行速度を少し速くしてください。リールが前過ぎれば、後ろに下げてください。	127～131

12.こく粒の飛散が多い場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
送塵調節レバーが「開」側になっていませんか。	送塵調節レバーを「閉」側に調節してください。	136
チャフシーブ後の調節は適正ですか。	チャフシーブ後を「 開」 の側に調節してください。	121
エンジンの回転数が高くありませんか。	Eモードスイッチを「ON」位置にしてください。	128
クリーンシフトの調節が間違っていませんか。	正しく調節してください。	137
唐箕の回転数調節は適正ですか。	正しく調節してください。	137

13.こぎ室内でゴトゴト音がして、能率があがらない場合

この確認をしてください	処置	参照ページ
作物が朝つゆなどでぬれていませんか。	よく乾燥してから刈取ってください。	109～112
ロータの回転数が低くありませんか。	E モードスイッチを「ON」位置にしてください。また、ロータのプーリが作物に合っているか、確認してください。	129～133
作業速度が速すぎませんか。	現在の速度より少し落として作業してください。	—
送塵調節レバーが「閉」側になっていませんか。	こく粒の含水率が高いときには、送塵調節レバーを「開」側にしてください。	136
作物の不均一な送り込みがありませんか。	不均一な送りの原因を調べて、取り除いてください。	—

14.選別が悪い場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
クリーンシフトの調節が間違っていませんか。	作物の条件に合わせて、クリーンシフトレバーで適正位置に調節してください。	137
エンジンの回転数が低すぎませんか。	Eモードスイッチを「ON」位置にしてください。	128
唐箕の風路、および風吸入口にワラくずなどがたまっていませんか。	ワラくずなどを取り除いてください。	184
唐箕の回転数調節は適正ですか。	正しく調節してください。	119

15.損傷粒が多い場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
供給量が不適正ではありませんか。	走行速度を速くしてください。こぎ室内でゴトゴト音がしているときは、走行速度を落として作業してください。	—
作物の不均一な送り込みがありませんか。	不均一な送りの原因を調べて、取り除いてください。	—
クリーンシフトレバーの調節が間違っていませんか。	正しく調節してください。	137
揚こく、排出シュータ部に土が付着していませんか。	土をきれいに落としてください。	—
ロータ回転数が高くありませんか。	Eモードスイッチを「ON」位置にしてください。	128

16.脱こくクラッチを切っても車高が下がらない場合

この確認をしてください	処置	参照ページ
ヒューズボックスの「排出 ECU 5A」のヒューズが切れていませんか。	車高調節レバーを使用して、車高を下げてください。 ヒューズボックス内のヒューズを点検し、切れている場合は、交換してください。 ※ヒューズが切れていない場合は、サービス工場に修理の依頼をしてください。	232

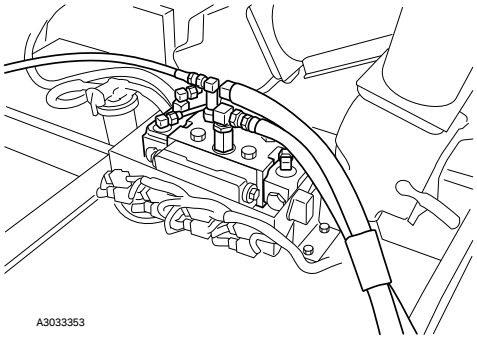
17.キャビン内が冷えない場合（キャビン仕様のみ）

この確認をしてください	処置	参照ページ
風量が少ない。また、風が出ないのではありませんか。	ブロアモータの作動を調べてください。	—
吹出し空気が送風になっていませんか。	温度コントロールレバーを「COOL」側にしてください。	106
吹出し空気温度が高くありませんか。	コンプレッサの回転を調べてください。	—
コンプレッサが回転しないのではありませんか。	ベルトの張りを適正に調整してください。	253
	電磁クラッチの作動を調べてください。	—
冷媒量が不足していませんか。	補充してください。	259
コンデンサが詰まっていませんか。	掃除してください。	226

18.キャビン内が冷えすぎる場合（キャビン仕様のみ）

この確認をしてください	処置	参照ページ
クーラー吸気口（室内）が開いていませんか。	閉じてください。	ー

19.油圧が作動しない場合

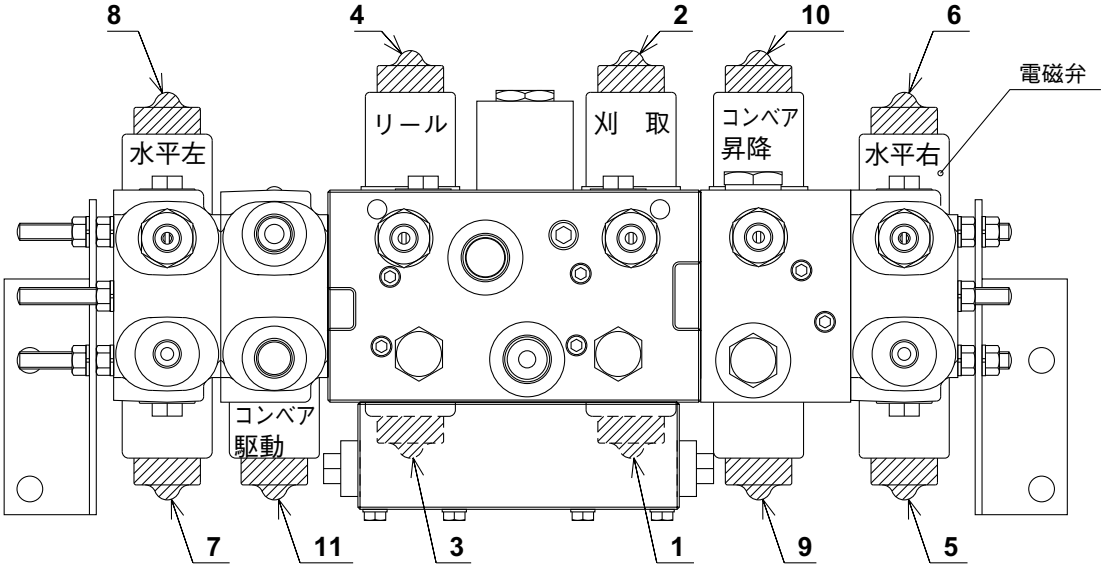
この確認をしてください	処置
油圧バルブを操作する各操作レバーと、電磁弁のカプラの接続を確認してください。	各カプラを確実に差し込んでください。
	作動しない場合の応急処置 グレンタンクをオープンして、油圧バルブを下記要領で手動操作していってください。  A3033353

〈グレンタンク仕様の場合〉

バルブの手動操作方法

※. ▨印は各電磁弁の両端の黒いゴムキャップです、強く押して操作してください。

1. 刈取部を上げる時、▨ 1を押す。
2. 刈取部を下げる時、▨ 2を押す。
3. リールを上げる時、▨ 3を押す。
4. リールを下げる時、▨ 4を押す。
5. 水平右を上げる時、▨ 5を押す。
6. 水平右を下げる時、▨ 6を押す。
7. 水平左を上げる時、▨ 7を押す。
8. 水平左を下げる時、▨ 8を押す。
9. 排出コンベアを上げる時、▨9を押す。
10. 排出コンベアを下げる時、▨10を押す。
11. 排出コンベアを駆動する時、▨11を押す。

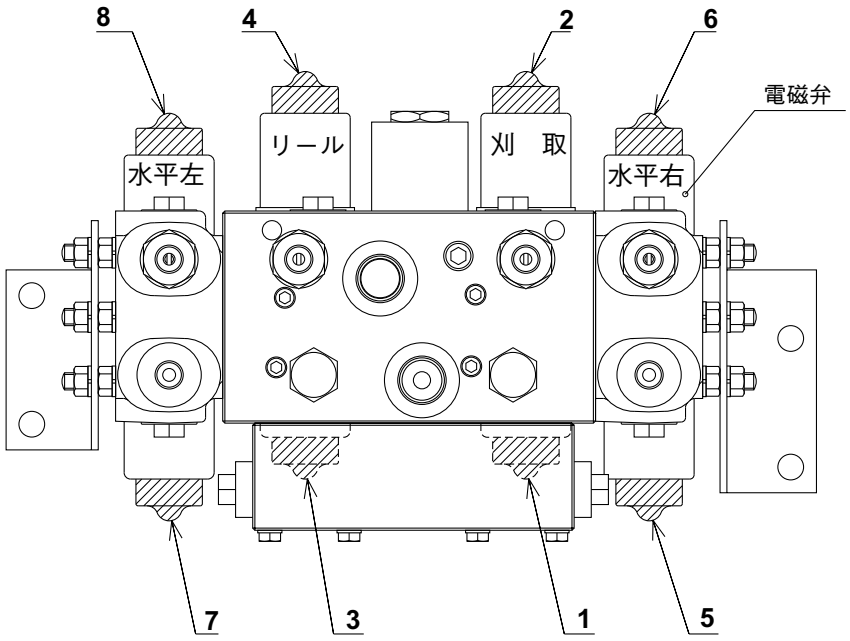


〈ワンマンホッパ仕様の場合〉

バルブの手動操作方法

※. 印は各電磁弁の両端の黒いゴムキャップです、強く押して操作してください。

1. 刈取部を上げる時、 1を押す。
2. 刈取部を下げる時、 2を押す。
3. リールを上げる時、 3を押す。
4. リールを下げる時、 4を押す。
5. 水平右を上げる時、 5を押す。
6. 水平右を下げる時、 6を押す。
7. 水平左を上げる時、 7を押す。
8. 水平左を下げる時、 8を押す。



エラーコード一覧表

つぎの表のエラーが表示された場合は、特販店、またはJAにご相談ください。

● コントローラ自己診断について

このコンバインでは、コントローラが自己診断を行い、通信によって診断結果をコンビネーションメータの液晶モニターにエラーコードとして表示します。

エラー発生時には、コンビネーションメータの液晶モニターに「アワメータ」と「Error」が1秒間隔で交互に表示されます。このとき、ブザー停止スイッチを5秒間連続して押すと、エラーコードが表示されます。

発生しているエラーが解除されると、エラーが発生する直前の液晶画面に戻ります。

表 4-1 エラーコード一覧表

00:エンジン　　28:メータ
88:レベル2(刈取コントローラ、排出コントローラ)
84:レベル1 ECU

エラーコード（表示内容）			部位	エラー内容
28	03B00	0	燃料センサ断線異常	燃料センサ　断線
28	06FC0	2	排気フィルタスイッチ異常	排気フィルタ再生スイッチ異常
28	08100	9	ＣＡＮ受信異常(エンジンECU)	メータとエンジンコントローラ　との通信異常
28	08102	9	ＣＡＮ受信異常(レベル1 ECU)	メータとレベル1コントローラ　との通信異常
28	08106	9	ＣＡＮ受信異常(レベル2 ECU)	メータとレベル2コントローラ　との通信異常
28	08110	12	ＣＡＮ送信異常	メータのCAN送信異常
28	08610	12	初期化タイムアウト	コントローラデータの内部データ異常
28	08B10	12	メータＥＥＰＲＯＭ異常	所定時間内での入力が異常
84	06600	3	排出クラッチスイッチ	キーON時、排出クラッチスイッチ入・切どちらかON又は同時ON
84	069A0	0	電源電圧高	レベル1　電源電圧高
84	069A0	1	電源電圧低	レベル1　電源電圧低
84	08240	9	CAN(エンジン⇒レベル1)	エンジンからレベル1へのCAN受信エラー
84	08241	9	CAN(メータ⇒レベル1)	メータからレベル1へのCAN受信エラー
84	08740	12	初期化タイムアウト	キーON時のレベル1初期化異常
84	08B60	12	EEPROM	レベル1　EEPROM異常
84	08D40	14	ECU判別ポート	レベル1　判別ポート異常
84	08E40	12	ROMチェックサム	レベル1　ROM異常
88	02300	4	傾斜角調節ダイヤル電圧低	傾斜角調節ダイヤル電圧低
88	02300	3	傾斜角調節ダイヤル電圧高	傾斜角調節ダイヤル電圧高
88	02500	2	刈高さ設定ダイヤル	刈高さ設定ダイヤルの電圧高又は低
88	03220	14	上昇端リミットスイッチ	上昇出力が一定時間継続しても上昇端リミットスイッチがONしない又は、3秒間下降出力がでても上昇端リミットスイッチがOFFしない
88	03230	14	右旋回リミットスイッチ	右旋回出力が一定時間継続しても右旋回リミットスイッチがONしない
88	03240	7	オートセット位置スイッチ	左旋回が一定時間継続してもオートセット位置スイッチがOFF→ONにならない場合又は右旋回を一定時間継続してもオートセット位置スイッチがON→OFFにならない
88	03800	2	刈高さセンサソリ左	刈高さセンサソリ左の電圧高又は低
88	03810	2	刈高さセンサソリ右	刈高さセンサソリ右の電圧高又は低
88	03900	4	傾斜角センサ電圧低	傾斜角センサ電圧低

エラーコード（表示内容）			部位	エラー内容
88	03900	3	傾斜角センサ電圧高	傾斜角センサ電圧高
88	03D00	4	車高センサ左電圧低	車高センサ左電圧低
88	03D00	3	車高センサ左電圧高	車高センサ左電圧高
88	03E00	4	車高センサ右電圧低	車高センサ右電圧低
88	03E00	3	車高センサ右電圧高	車高センサ右電圧高
88	03F10	2	対地平行制御入力	"キーON時、対地平行右傾斜指示入力もしくは対地平行左傾斜指示入力が同時にON又は対地平行自動モード時に、対地平行右傾斜指示入力もしくは対地平行左傾斜指示入力が同時にON"
88	04500	8	車速センサ	車速センサチェック入力がOFF
88	04501	8	車速センサ	車速センサチェック入力がOFF
88	06220	2	刈取昇降スイッチ	キーON時刈取昇降スイッチがON又は上下両方ON
88	06310	2	オートリフト・セットスイッチ	キーON時、オートリフト・セットスイッチが一方又は両方ON
88	06330	3	排出コンベア操作スイッチ	排出コンベア操作スイッチ入力が２つ以上同時に入り、先端操作入力OFFの時又は電源投入時、いずれかの排出コンベア操作スイッチがONの時
88	06500	3	排出コンベア自動スイッチ	キーON時、オートリターン又はオートセットスイッチがON
88	06710	2	車高調節レバー	"キーON時、レバー入力ON又はレバー入力が2方向以上同時にON
88	06961	2	センサ電源	センサ電源異常
88	069A0	0	電源電圧大	レベル2　電源電圧高
88	069A0	1	電源電圧小	レベル2　電源電圧低
88	06D10	2	自動刈高さスイッチ	刈高さ自動とＯＫリフトが同時にＯＮ
88	08200	9	CAN(エンジン⇒レベル2)	エンジンからレベル2へのCAN受信エラー
88	08201	9	CAN(メータ⇒レベル2)	メータからレベル2へのCAN受信エラー
88	08202	9	CAN(レベル1⇒レベル2)	レベル1からレベル2へのCAN受信エラー
88	08700	12	初期化タイムアウト	キーON時のレベル2　初期化異常
88	08B20	12	EEPROM	レベル2　EEPROM異常
88	08B21	12	EEPROM	EEPROM異常
88	08B22	12	EEPROM	EEPROM異常
88	08C80	9	シリアル通信(レベル2受信)	レベル2シリアル受信異常
88	08C81	9	シリアル通信	シリアル通信異常
88	08C82	9	シリアル通信	シリアル通信異常
88	08D00	14	ECU判別ポート	レベル2　判別ポート異常
88	08E00	12	ROMチェックサム	レベル2　ROM異常

表 4-2 エンジンエラーコード一覧表

エラーコード（表示内容）			部位	エラー内容
00	0001C	0	アクセルセンサ3	アクセルセンサ3　フートペダル開位置異常
00	0001C	1	アクセルセンサ3	アクセルセンサ3　フートペダル閉位置異常
00	0001C	3	アクセルセンサ3	アクセルセンサ2　電圧高
00	0001C	4	アクセルセンサ3	アクセルセンサ2　電圧低
00	0001D	3	アクセルセンサ3	アクセルセンサ3　電圧高
00	0001D	4	アクセルセンサ3	アクセルセンサ3　電圧低
00	0001D	8	パルスアクセル	パルスアクセル　異常
00	00033	3	吸気スロットル開度センサ	吸気スロットル開度センサ　電圧高
00	00033	4	吸気スロットル開度センサ	吸気スロットル開度センサ　電圧低
00	0005B	3	アクセルセンサ1	アクセルセンサ1　電圧高
00	0005B	4	アクセルセンサ1	アクセルセンサ1　電圧低
00	00064	1	油圧スイッチ	油圧低下警報
00	00064	4	油圧スイッチ	油圧スイッチ　断線
00	00066	3	EGR低圧側センサ	EGR低圧側センサ　電圧高
00	00066	4	EGR低圧側センサ	EGR低圧側センサ　電圧低
00	00066	13	EGR低圧側センサ	EGR低圧側センサ　学習値異常
00	00069	3	吸気温度センサ	吸マニ温度センサ　電圧高
00	00069	4	吸気温度センサ	吸マニ温度センサ　電圧低
00	0006C	3	大気圧センサ	大気圧センサ　電圧高
00	0006C	4	大気圧センサ	大気圧センサ　電圧低
00	0006C	10	大気圧センサ	大気圧センサ　特性異常
00	0006E	0	冷却水温センサ	冷却水温センサ　オーバーヒート
00	0006E	3	冷却水温センサ	冷却水温センサ　電圧高
00	0006E	4	冷却水温センサ	冷却水温センサ　電圧高
00	0009D	0	レール圧異常	レール圧異常　実レール圧過大エラー
00	0009D	3	レール圧異常	レール圧センサ　電圧高
00	0009D	4	レール圧異常	レール圧センサ　電圧低
00	0009D	15	レール圧異常	レール圧異常　実レール圧過大時のレール圧偏差エラー
00	0009D	16	レール圧異常	PLV（コモンレール圧力制限バルブ）　PLV開弁
00	0009D	18	レール圧異常	レール圧異常　実レール圧過小時のレール圧偏差エラー
00	000A7	1	チャージスイッチ	チャージ警報
00	000A7	5	チャージスイッチ	チャージスイッチ　断線
00	000AC	3	新気温度センサ	新気温度センサ　電圧高
00	000AC	4	新気温度センサ	新気温度センサ　電圧低
00	000AD	3	排気温度センサ	排マニ温度センサ　電圧高
00	000AD	4	排気温度センサ	排マニ温度センサ　電圧低
00	000AE	0	燃料温度センサ	燃料温度センサ　温度異常上昇
00	000AE	3	燃料温度センサ	燃料温度センサ　電圧高
00	000AE	4	燃料温度センサ	燃料温度センサ　電圧低
00	000BE	0	過回転	エンジン過回転
00	000ED	13	V(I CANメッセージ)	CAN2　VIの受信データ異常
00	000ED	31	V(I CANメッセージ)	CAN2　VIの受信タイムアウト
00	0019C	3	EGRガス温度センサ	EGRガス温度センサ　電圧高

エラーコード（表示内容）			部位	エラー内容
00	0019C	4	EGRガス温度センサ	EGRガス温度センサ　電圧低
00	00276	12	EEPROM	EEPROMメモリ消去エラー
00	00279	3	SCV(MPROP)	SCV(MPROP)　HサイドVB短絡
00	00279	5	SCV(MPROP)	SCV(MPROP)　断線
00	00279	6	SCV(MPROP)	SCV(MPROP)　HサイドGND短絡
00	0028B	5	インジェクタ	インジェクタ1　断線(インジェクタ固有個所)
00	0028C	3	インジェクタ	Cyl No. 3　短絡
00	0028C	5	インジェクタ	Cyl No. 3　断線(インジェクタ固有個所)
00	0028C	6	インジェクタ	Cyl No. 3　コイルショート
00	0028D	3	インジェクタ	Cyl No. 2　短絡
00	0028D	5	インジェクタ	Cyl No. 2　断線(インジェクタ固有個所)
00	0028D	6	インジェクタ	Cyl No. 2　コイルショート
00	0028E	3	インジェクタ	Cyl No. 1　短絡
00	0028E	5	インジェクタ	Cyl No. 1　断線(インジェクタ固有個所)
00	0028E	6	インジェクタ	Cyl No. 2　コイルショート
00	004B9	3	EGR高圧側センサ	EGR高圧側センサ　電圧高
00	004B9	4	EGR高圧側センサ	EGR高圧側センサ　電圧低
00	004B9	13	EGR高圧側センサ	EGR高圧側センサ　学習値異常
00	005CD	2	メインリレー	メインリレー　早期開き
00	005CD	7	メインリレー	メインリレー　接点固着
00	00AE7	0	EGR	EGRバルブ　過電圧異常
00	00AE7	1	EGR	EGRバルブ　低電圧異常
00	00AE7	7	EGR	EGRバルブ　フィードバック異常
00	00AE7	9	EGR	EGRバルブ　ECMデータ異常
00	00AE7	12	EGR	EGRバルブ　モータコイル間断線
00	00AED	6	インジェクタ駆動回路	インジェクタ駆動回路(バンク1)短絡
00	00AEE	6	インジェクタ駆動回路	インジェクタ駆動回路(バンク2)短絡
00	00B86	3	吸気スロットル駆動回路1	吸気スロットルバルブ駆動Hブリッジ出力1の電源短絡
00	00B86	4	吸気スロットル駆動回路1	吸気スロットルバルブ駆動Hブリッジ出力1のGND短絡
00	00B86	5	吸気スロットル駆動回路1	吸気スロットルバルブ駆動Hブリッジ回路の無負荷
00	00B86	6	吸気スロットル駆動回路1	吸気スロットルバルブ駆動Hブリッジ回路の過負荷
00	00B87	3	吸気スロットル駆動回路2	吸気スロットルバルブ駆動Hブリッジ出力2のVB電源短絡
00	00B87	4	吸気スロットル駆動回路2	吸気スロットルバルブ駆動Hブリッジ出力2のGND短絡
00	00CAA	0	DPF入口温度センサ	DPF入口温度センサ　温度異常上昇
00	00CAA	3	DPF入口温度センサ	DPF入口温度センサ　電圧高
00	00CAA	4	DPF入口温度センサ	DPF入口温度センサ　電圧低
00	00CB2	0	DPF中間温度センサ	DPF中間温度センサ　温度異常上昇(ポスト噴射不良)
00	00CB2	1	DPF中間温度センサ	DPF中間温度センサ　温度異常低温
00	00CB2	3	DPF中間温度センサ	DPF中間温度センサ　電圧高
00	00CB2	4	DPF中間温度センサ	DPF中間温度センサ　電圧低
00	00CB3	0	DPF差圧センサ	DPF差圧センサ　差圧異常上昇
00	00CB3	3	DPF差圧センサ	DPF差圧センサ　電圧高
00	00CB3	4	DPF差圧センサ	DPF差圧センサ　電圧低
00	00CB3	13	DPF差圧センサ	DPF差圧センサ　学習値異常

エラーコード（表示内容）			部位	エラー内容
00	00E19	3	DPF高圧側センサ	DPF高圧側センサ　電圧高
00	00E19	4	DPF高圧側センサ	DPF高圧側センサ　電圧低
00	00E6F	14	DPF OPインターフェース	リセット再生禁止
00	00E87	0	DPF OPインターフェース	バックアップモード
00	00E87	7	DPF OPインターフェース	リカバリ再生禁止
00	00E87	9	DPF OPインターフェース	リカバリ再生失敗
00	00E87	16	DPF OPインターフェース	ステーショナリ再生スタンバイ
00	00E88	0	DPF OPインターフェース	Ashクリーニング要求2
00	00E88	16	DPF OPインターフェース	Ashクリーニング要求1
00	010A1	12	インジェクタ駆動回路	インジェクタ駆動ICエラー
00	7F803	5	始動補助リレー	始動補助リレー　断線
00	7F803	6	始動補助リレー	始動補助リレー　GND短絡
00	7F853	0	エアクリーナースイッチ	エアクリーナー詰まり警報
00	7F859	0	油水分離器スイッチ	油水分離警報
00	7F8A0	2	クランク速度センサ	クランク速度センサ　信号異常
00	7F8A0	5	クランク速度センサ	クランク速度センサ　信号なし
00	7F8A1	2	カム速度センサ	カム速度センサ　信号異常
00	7F8A1	5	カム速度センサ	カム速度センサ　信号なし
00	7F8A1	7	カム速度センサ	カム速度センサ　角度オフセット異常
00	7F94B	3	高圧ポンプ駆動回路	SCV（MPROP）　LサイドVB短絡
00	7F94B	6	高圧ポンプ駆動回路	SCV（MPROP）　LサイドGND短絡
00	7F94C	6	高圧ポンプ駆動回路	SCV（MPROP）　過電流異常
00	7F94C	11	高圧ポンプ駆動回路	SCV（MPROP）　ポンプ過負荷異常
00	7F94D	0	DPF	過堆積（C法）
00	7F94E	0	DPF	過堆積（P法）
00	7F94F	7	DPF	再生不良（ステーショナリ再生失敗）
00	7F950	12	EEPROM	EEPROMメモリ読み出しエラー
00	7F951	11	DPF	再生不良（ステーショナリ再生未実施）
00	7F952	12	EEPROM	EEPROMメモリ書き込みエラー
00	7F953	12	EGR	EGRバルブ　モータコイル間ショート
00	7F954	12	EGR	EGRバルブ　ポジションセンサ異常
00	7F955	7	EGR	EGRバルブ　開弁固着異常
00	7F956	7	EGR	EGRバルブ　イニシャライズ異常
00	7F957	1	EGR	EGRバルブ　高温サーミスタ異常
00	7F958	1	EGR	EGRバルブ　低温サーミスタ異常
00	7F959	12	ECU内部異常	CY146 SPI通信エラー
00	7F95C	12	ECU内部異常	サプライ1電圧過大エラー
00	7F95D	12	ECU内部異常	サプライ1電圧過小エラー
00	7F95E	12	ECU内部異常	センササプライ電圧エラー1
00	7F95F	12	ECU内部異常	センササプライ電圧エラー2
00	7F960	12	ECU内部異常	センササプライ電圧エラー3
00	7F964	9	TSC1（CANメッセージ）	CAN2　TSC1の受信タイムアウト（SA1）
00	7F965	9	TSC1（CANメッセージ）	CAN2　TSC1の受信タイムアウト（SA2）
00	7F967	9	Y_ECR1（CANメッセージ）	CAN2　Y_ECR1の受信タイムアウト

エラーコード（表示内容）			部位	エラー内容
00	7F968	9	Y_EC（CANメッセージ）	CAN2　Y_ECの受信タイムアウト
00	7F969	9	Y_RSS（CANメッセージ）	CAN2　Y_RSSの受信タイムアウト
00	7F971	9	Y_ETCP1（CANメッセージ）	CAN2　Y_ETCP1の受信タイムアウト
00	7F972	9	EGR	CAN1（EGR用）：受信タイムアウト
00	7F973	9	排気スロットル	CAN1（排気スロットル用）：受信タイムアウト
00	7F979	12	EGR	EGRバルブ　目標値レンジ外れ
00	7F97A	9	EBC1（CANメッセージ）	CAN2　EBC1の受信タイムアウト
00	7F97B	9	Y_DPFIF（CANメッセージ）	CAN2　Y_DPFIFの受信タイムアウト
00	7F980	7	アクセルセンサ	アクセルセンサ1 + 2　閉位置異常
00	7F98F	7	アクセルセンサ	アクセルセンサ1 + 2　開位置異常
00	7F9F8	4	アクチュエータ駆動回路1	アクチュエータ駆動回路1　GNDショート
00	7F9FA	12	排気スロットル	排気スロットル　電圧異常
00	7F9FB	12	排気スロットル	排気スロットル　モータ異常
00	7F9FC	12	排気スロットル	排気スロットル　センサ異常
00	7F9FD	12	排気スロットル	排気スロットル　MPU異常
00	7F9FE	12	排気スロットル	排気スロットル　PCB異常
00	7F9FF	19	排気スロットル	排気スロットル　CAN異常
00	7FAF2	4	アクチュエータ駆動回路2	アクチュエータ駆動回路2　GNDショート
00	7FBF1	5	クランク、カム速度センサ	クランク、カム速度センサ　信号なし
00	7FCC4	7	レール圧センサ異常	レール圧センサ異常時の高圧ポンプ、燃料温度センサ異常
00	7FCC6	13	インジェクタ1	インジェクタ 1（補正値異常）
00	7FCC7	13	インジェクタ2	インジェクタ2（補正値異常）
00	7FCC8	13	インジェクタ3	インジェクタ3（補正値異常）
00	7FCC9	13	インジェクタ4	インジェクタ4（補正値異常）
00	7FCCC	9	レール圧異常	PLV（コモンレール圧力制限バルブ）　作動不良
00	7FCCD	0	レール圧異常	PLV（コモンレール圧力制限バルブ）　開弁回数超過
00	7FCCE	0	レール圧異常	PLV（コモンレール圧力制限バルブ）　開弁時間超過
00	7FCCF	6	ECU内部異常	アクチュエータ駆動回路3　GNDショート
00	7FCD1	12	ECU内部異常	ADコンバータ異常1
00	7FCD2	12	ECU内部異常	ADコンバータ異常2
00	7FCD3	12	ECU内部異常	外部監視ECUとCPU異常1
00	7FCD4	12	ECU内部異常	外部監視ECUとCPU異常2
00	7FCD5	12	ECU内部異常	ROM異常
00	7FCD6	12	ECU内部異常	シャットオフバス異常1
00	7FCD7	12	ECU内部異常	シャットオフバス異常2
00	7FCD8	12	ECU内部異常	シャットオフバス異常3
00	7FCD9	12	ECU内部異常	シャットオフバス異常4
00	7FCDA	12	ECU内部異常	シャットオフバス異常5
00	7FCDB	12	ECU内部異常	シャットオフバス異常6
00	7FCDC	12	ECU内部異常	シャットオフバス異常7
00	7FCDD	12	ECU内部異常	シャットオフバス異常8
00	7FCDE	12	ECU内部異常	シャットオフバス異常9
00	7FCDF	12	ECU内部異常	シャットオフバス異常10
00	7FCE1	0	レール圧異常	PLV（コモンレール圧力制限バルブ）　非作動

エラーコード（表示内容）			部位	エラー内容
00	7FCE3	0	レール圧異常	レール圧制御　PLV開弁時の燃料温度高
00	7FCEO	0	ECU内部異常	エンジン回転速度認識異常

短期保管するときは（2か月以内）

[重要]
各部にこく粒やワラくずが残っていると、ネズミの巣になったり、配線部をかじられて、つぎの年の作業に差し支えますので、きれいに掃除してください。

[参考]
床が汚れないように、コンバインの下に板を敷いてください。

保管のしかた

コンバインを保管する場合は、つぎの要領で整備し、保管してください。

〈用意するもの〉

- 防錆油
- グリス
- バッテリー充電器

1. コンバインを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取ります。

[重要]
さびの発生を防ぐため、電装品やコネクタなどに水が入り込まないように注意してください。

2. 「運転前の点検」（87 ページ）に従って点検を行い、不具合箇所は整備します。
3. 外部のさびやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ります。
4. 「グリスアップのしかた」（197 ページ）に従って、グリスアップします。
5. 直射日光や雨水のあたらない、風通しのよい平たんな屋内に置きます。

[重要]
やむをえず屋根のない場所に保管する場合は、カバーなどをかけてください。

6. 刈取部をいっぱいまで下げます。

[参考]
やむをえず刈取部を上げたまま保管する場合は、必ず刈取部ストッパをロック位置にしてください。

7. 各操作スイッチ・レバーを「OFF」、「切」位置、または「N」位置にします。
8. バッテリーの（−）側ケーブルを外します。

[重要]
バッテリーは、使わなくても自然放電します。1 か月に 1 度は充電器で完全充電してください。
（230ページ参照）

9. 必ずキーを抜き取って保管します。

長期保管するときは（2か月以上）

⚠ 警　告

長期保管するときは、バッテリーを外し、キーを抜き取ってから保管してください。電気配線被覆の劣化による漏電で火災事故を起こすおそれがあります。

[重要]

- **各部にこく粒やワラくずが残っていると、ネズミの巣になったり、配線部をかじられて、つぎの年の作業に差し支えますので、きれいに掃除してください。**
- **床が汚れないように、コンバインの下に板を敷いてください。**

保管のしかた

コンバインを長期間使用しない場合は、つぎの要領で整備し、格納してください。

〈用意するもの〉

- 防錆油
- グリス
- バッテリー充電器
- ポリエチレンなどの袋

1. コンバインを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取ります。

[重要]

さびの発生を防ぐため、電装品やコネクタなどに水が入り込まないように注意してください。

2. 「運転前の点検」（87 ページ）に従って点検を行い、不具合箇所は整備します。

[重要]

「主要消耗部品の点検・交換時期の目安表」（288ページ）でメンテナンス時期を確認し、必要に応じてメンテナンスをしてください。

3. 外部のさびやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ります。
4. 「グリスアップのしかた」（197 ページ）に従って、グリスアップします。
5. 直射日光や雨水のあたらない、風通しのよい平たんな屋内に置きます。

[重要]

やむをえず屋根のない場所に保管する場合は、カバーなどをかけてください。

6. 刈取部をいっぱいまで下げます。
7. さびを防ぐため、燃料タンクの燃料を最小量まで抜きます。
8. ウォーターセパレータは OFF（閉の状態）にします。
9. 冷却水を抜き取ります。

[重要]

整備等でエンジンを運転する場合は、規定量の冷却水を給水して行ってください。エンジンが破損します。

[参考]

不凍液を入れた冷却水でも、凍ることがあります。（209ページ参照）

10. 各操作スイッチ・レバーを「OFF」、「切」位置、または「N」位置にします。
11. バッテリーを完全充電し、コンバインから外し、風通しの良い冷暗所に保管します。

⚠ 警　告

バッテリーを、外すときは（－）側のケーブルから外し、取り付けるときは（＋）側のケーブルを（＋）側の端子に取り付けてください。ショートによるヤケドや火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]
バッテリーは、使わなくても自然放電します。1 か月に 1 度は充電器で完全充電してください。
(230ページ参照)

12. エアクリーナー・排出ガス出口・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないよう、ポリエチレンなどの袋で密閉します。
13. 必ずキーを抜き取って保管します。

[参考]
長期間使用されない間に、保守整備契約制度による、点検整備をお受けになりますと、次期使用時に最良の状態でご使用いただけます。

運転を再開するときは

長期間保管後、再使用するときはつぎの要領で準備してください。

1. 塗布した防錆油をふき取ります。
2. さびや部品などの劣化がないか確認します。
3. 燃料タンク、燃料フィルターに異常がないことを確認し、新しい燃料を補給します。
4. 「主要消耗部品の点検・交換時期の目安表」(288ページ) でメンテナンス時期を確認し、必要に応じてメンテナンスをします。
5. バッテリーをコンバインに取り付けます。
6. エンジンを始動し、異常がないことを確認します。

[重要]
エンジン始動後は、暖機運転を長く行い、各部を十分になじませてください。

保管中の整備のしかた

保管中は、つぎのような整備を行ってください。
また、作業装置を作動させるときは油圧シリンダロッドに塗った防錆油をふき取ってください。

- 1か月に一度はエンジンをかけて、コンバインを動かしてください。各潤滑部に新たな油膜ができ、格納中の油膜切れが防げます。
- バッテリーは、使用しなくても自然に放電します。1 か月に一度は、充電してください。(230ページ参照)
- 2 ～3週間ごとに1～2回は、エンジンをアイドリング (低回転) で、エアコンを10分以上作動させてください。

トラックへの積み・降ろしのしかた

⚠ 警　告

- ほ場間の移動でトラックを使用される場合は、十分な強度のあるトラックを使用してください。
- コンバイン重量以上の積載トン数のトラックを使用してください。
- 積み込むトラックは、車止めなどで動かないように処置してください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- アユミ板は、基準に合ったものを使用してください。転落により、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 積み・降ろしのコンバイン方向は、「コンバインの積み込みかた」（282 ページ参照）の表 6-1 に従って行ってください。バランスを崩し、転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- コンバインが不意に動いたときに危険なので、コンバインの直前・直後には、絶対に立たないでください。
- コンバインがアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、十分に注意してください。特に、スピードが速いときは、転倒のおそれがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。
- トラックの荷台に積み込んだコンバインは、エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。コンバインは強度が十分にあるロープで確実に固定してください。転落により、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

- 長距離の移動などでトラックを使用されるときは、安全のため、必ずお買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。
- 積み・降ろしをする場所は、平たんで安定した、交通などの危険がない場所を選んでください。けがをするおそれがあります。
- アユミ板の上では、進路変更を絶対に行わないでください。クローラがアユミ板から外れて、転倒し、けがをするおそれがあります。
- アユミ板の上では、副変速の操作をしないでください。コンバインが不意に動き出し、事故の原因になります。また、バランスを崩して転倒し、けがをするおそれがあります。
- 移動走行時およびトラックなどへの積み・降ろしの場合は、必ず作業クラッチレバーを「OFF」位置にし、E モード切替スイッチを「OFF」にしてください。車速が勝手に変化することがあり危険です。

アユミ板について

アユミ板は、つぎの基準に合ったものを使用してください。

- 長さ…トラックの荷台の高さの4倍以上
- 幅…45cm以上
- 強度 …1 枚がコンバインの重量に十分耐えられるもの
- 表面…すべらないように処理してあるもの
- トラックの荷台に引っ掛けるためのフックが付いているもの

トラックの準備

⚠ 警　告

トラックは、平たんで安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車し、エンジンを停止してください。

[重要]

荷台からコンバインがはみださないトラックを準備してください。やむをえず、コンバインが荷台からはみだす場合は、道路交通法規を守って積み込んでください。

- **デバイダヘッドは外して移動してください。**
- **トラックの荷台に、ダンプ機構が付いていない場合は、基準に合ったアユミ板を使用してください。**

1. トラックの変速は、オートマチック車は「P」、マニュアル車は「1 速」または「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけます。
2. トラックのタイヤに車止めをします。
3. トラックの荷台にアユミ板（1）のフックを、段差 (2) がでないように確実に掛けます。(図 6-1)

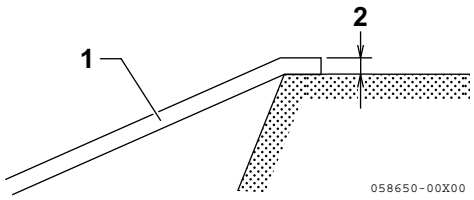


図 6-1

コンバインの積み込みかた

1. コンバインを走行姿勢と同じ状態にします。（103ページ参照）

[重要]

乗降ステップは、必ず収納してください。セットしたまま行うと、ステップの破損・変形の原因になります。

2. Eモード切替スイッチが「OFF」位置にあることを確認してください。(図 6-2)

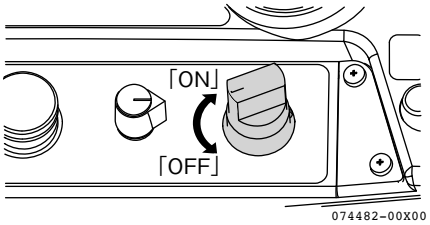


図 6-2

3. 車高調節レバーを前方に倒して、車高を最下位置にします。(図 6-3)

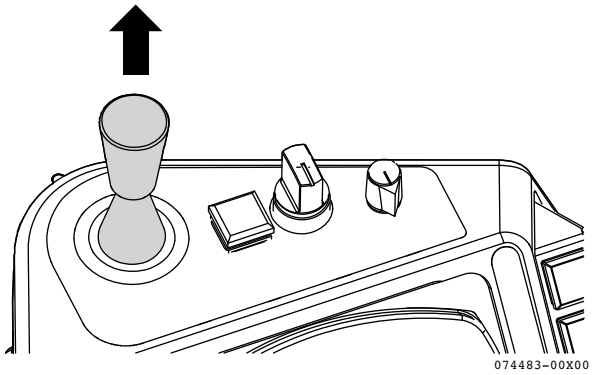


図 6-3

4. コンバインは、アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように、アユミ板に対してまっすぐに方向を定めます。

5. 刈高さ調節スイッチ（1）を「上」側、または刈高さ調節レバー（2）を「上昇」側にして、刈取部がアユミ板に接触しないようにできるだけ上げます。(図 6-4)

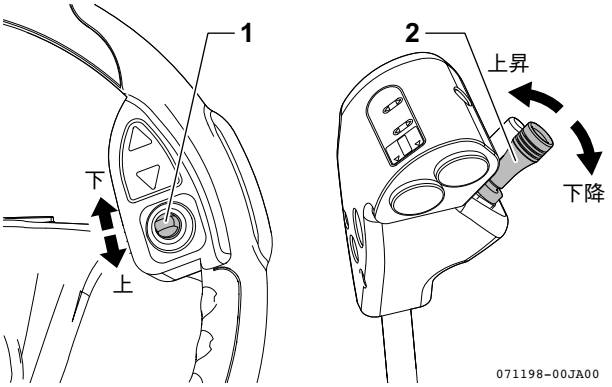


図 6-4

コンバインの積み込み方向は、表 6-1を参照してください。

表 6-1 積み込み方向

進行方向	積み込み	前　進
	降ろし	後　進

6. 副変速レバー（1）を「低速」位置、主変速レバー（2）をゆっくり「F」(前進）側に倒します。コンバインはゆっくり動きはじめます。(図 6-5)

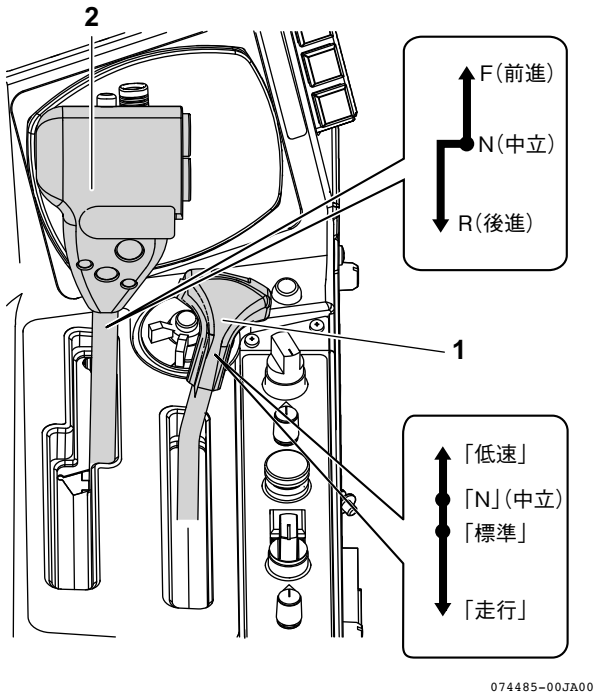


図 6-5

⚠ 警　告

アユミ板の上では、ハンドルを持たずに、キャビンなし仕様の場合はサイドアシスト (1) やアシストバー(2) を持ってください。キャビン仕様の場合はサイドアシスト (1) を持ってください。ハンドルを持っていると、コンバインの重心が変わったときに思わずハンドルを切ってしまい、思わぬ方向に旋回し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。(図 6-6)

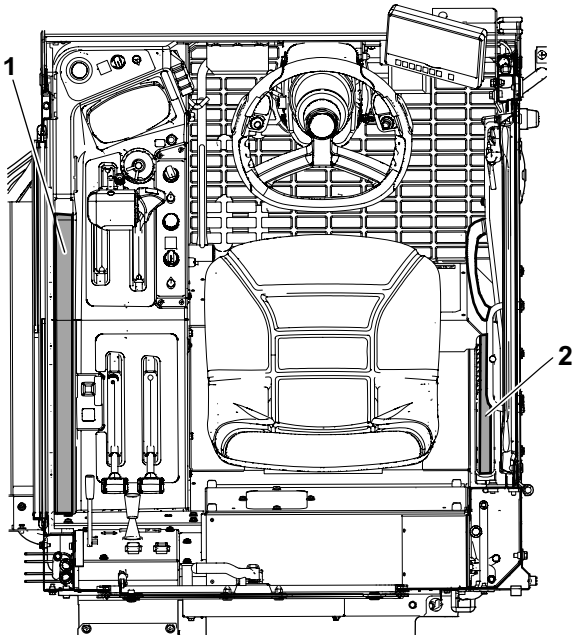


図 6-6

7. コンバインをトラックに積み込んだら、主変速レバーを「N」(中立）位置にして、コンバインを停止します。

8. セフティペダルをいっぱいまで踏み込み、駐車ブレーキロックレバーを手前に引いて、セフティペダルにフック部をかけ、駐車ブレーキをかけます。(図 6-7)

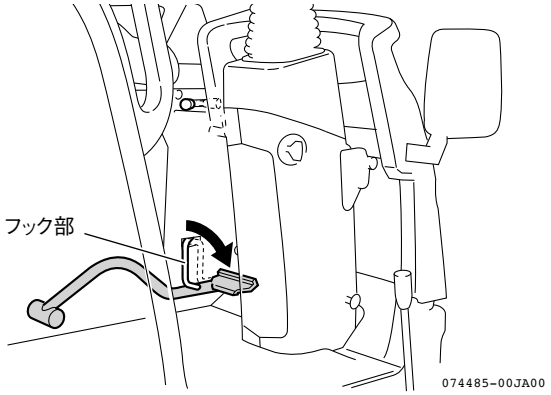


図 6-7

9. 刈高さ調節スイッチ（1）を「下」側、または刈高さ調節レバー（2）を「下降」側にします。刈取部をトラックの荷台に接地させます。(図 6-8)

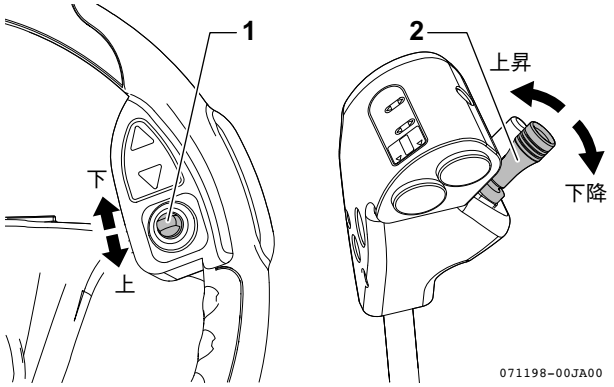


図 6-8

10. エンジンを停止します。(95ページ参照)

11. コンバイン左右のロープフック（1）(4カ所) に、十分強度のあるロープをかけて、コンバインを確実に固定します。(図 6-9)

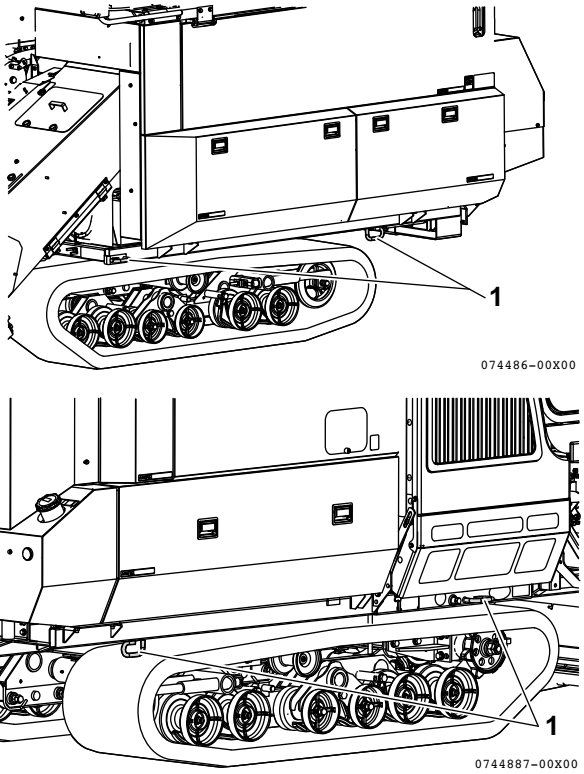


図 6-9

[重要]

- ロープフック以外には、ロープをかけないでください。破損するおそれがあります。
- ロープを強く締めすぎないでください。変形などのおそれがあります。

コンバインの降ろしかた

⚠ 警 告

トラックは、平たんで安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車し、エンジンを停止してください。

1. コンバインを固定しているロープを外します。
2. エンジンを始動します。
   (91ページ参照)
3. Eモード切替スイッチが「OFF」位置にあることを確認します。(図 6-10)

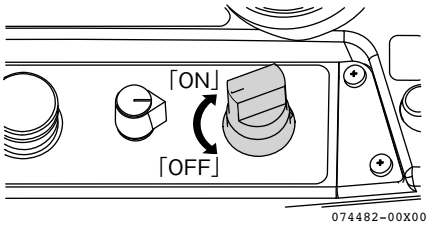


図 6-10

4. 刈高さ調節スイッチ (1) を「上」側、または刈高さ調節レバー (2) を「上昇」側にします。刈取部が上昇します。(図 6-11)

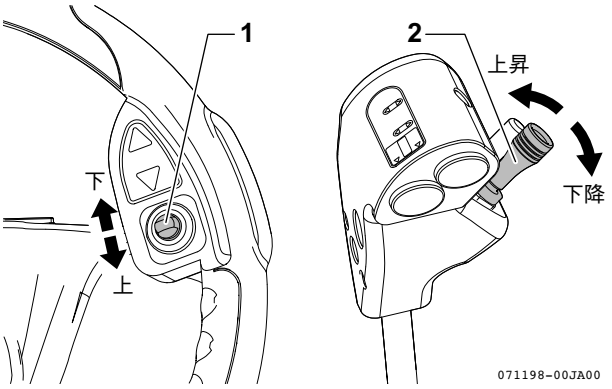


図 6-11

5. 駐車ブレーキを解除します。(101ページ参照)
6. 副変速レバー (1) を「低速」位置、主変速レバー (2) をゆっくり「R」(後進) 側に倒します。コンバインはゆっくり動きはじめます。
   (図 6-12)

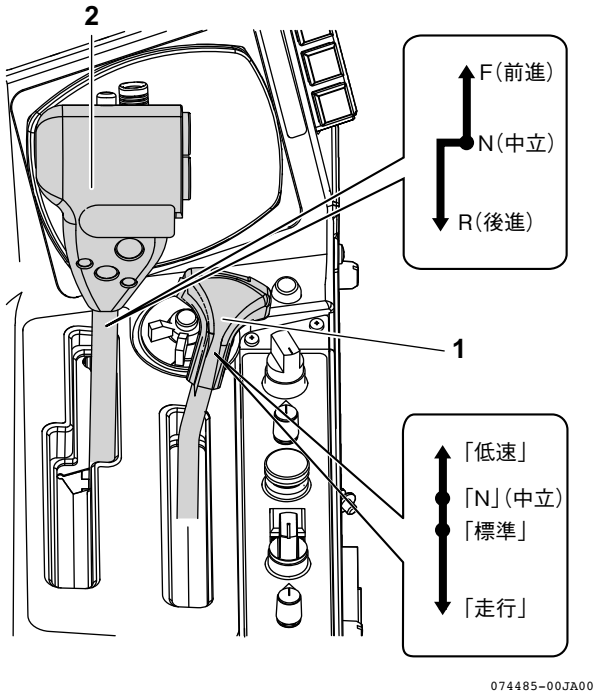


図 6-12

7. コンバインはアユミ板の上で進路変更をしなくてよいように、アユミ板に対してまっすぐに方向を定めます。
8. コンバインを完全にトラックから降ろせたら、主変速レバーを「N」(中立) 位置にして、コンバインを停止し、駐車ブレーキをかけます。
   (図 6-13)

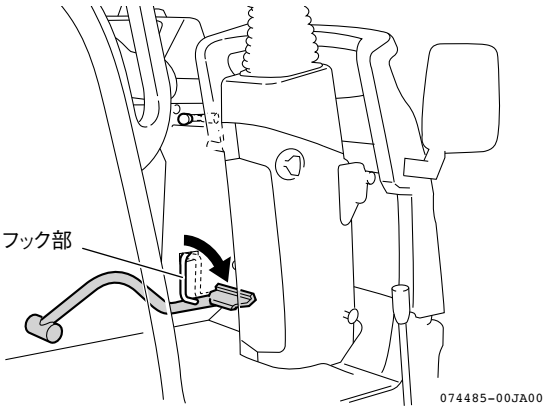


図 6-13

9. エンジンを停止します。

積み･降ろし中のコンバインの停止･発進のしかた

積み・降ろしの途中でコンバインを停止し、その後再発進するときは、以下の要領で行ってください。

1. 主変速レバーをゆっくり「N」（中立）位置にして、コンバインを停止します。（図 6-14）

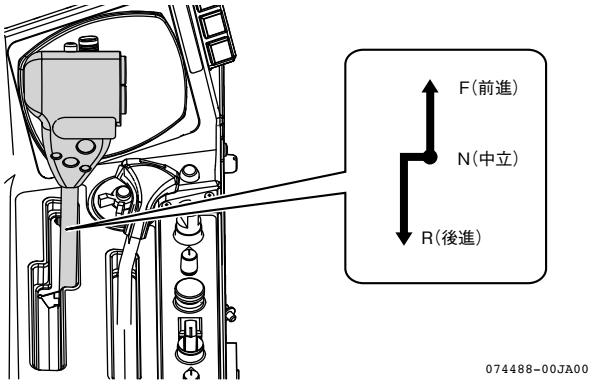


図 6-14

2. 再度動かすときは、主変速レバーをゆっくり操作して、コンバインをゆっくりと動かします。

主要諸元

表 7-1 主要諸元

名称				三菱普通型コンバイン					
型式名									
販売型式名				MCH400A					
区分				-	GE	GCE	GCES	GCWE	GCWES
機体寸法	全長		(mm)	5050			5490	5050	5490
	全幅		(mm)	1790	2050	2170		2310	
	全高		(mm)	2690		2750			
機体質量(重量)			(kg)	2700	2900	3075	3145	3230	3300
エンジン	型式名			3TNV86CT					
	種類			水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル					
	総排気量		(L{cc})	1.568{1568}					
	出力／回転速度		(kW{PS}/rpm)	28.9{39.3}/2800					
	使用燃料			ディーゼル軽油					
	燃料タンク容量		(L)	50					
	始動方式			セルスタータ式					
走行部	クローラ	幅×接地長	(mm)	400×1420					
		中心距離	(mm)	1030		1065			
		平均接地圧	(kPa{kgf/cm^2})	23.3 {0.238}	25.0 {0.255}	26.5 {0.271}	27.1 {0.277}	27.9 {0.284}	28.5 {0.290}
	変速方式			HST無段変速(FDS)					
	変速段数		(段)	前後進無段×副変速3段					
	変速速度 (エンジン定格回転速度時)		(m/sec)	前進=低速:0～0.74, 標準:0～1.38, 走行:0～2.53 後進=低速:0～0.65, 標準:0～1.18, 走行:0～2.14					
刈取部	デバイダ先端間隔		(mm)	1535				2065	
	刈取装置形式			リール+プラットホーム					
	刃幅		(mm)	1444				1976	
	刈高さ範囲		(mm)	-50～880					
	リール	回転径×幅	(mm)	1000×1283				1000×1815	
		回転速度	(rpm)	低:0～38、高:0～47(車速同調)					
脱こく・選別部	形式			軸流(扱歯)式					
	ローター	個数	(個)	1					
		こぎ歯の種類		ワイヤーツース					
		径×長さ	(mm)	350(ロータ外径)×1700					
		回転速度	(rpm)	大豆・小豆・そば=385　麦=805					
	コンケーブ面積		(m^2)	0.94					
	チャフシーブ面積		(m^2)	0.24					
	グレンシーブ面積		(m^2)	0.09					
	総選別面積		(m^2)	0.33					
籾処理部	こく粒処理方式			ワンマンホッパ、3口排出	グレンタンク、バケット＋ベルトコンベア排出				
	タンク容量		(L)	200	850				
	排出高さ		(mm)	-	3430				
排わら処理装置				-			スプレッダ	-	スプレッダ
諸装置	警報装置・自動化装置			新モニタ(ロータ・1番・2番・タンクシグナル・水温・燃料・チャージ)、 排出コンベア未収納警報、自動刈高さ制御、機体水平制御、対地平行制御、 オートリフト/オートセット、セイフティーリフト、刈取オートクラッチ、自動定回転制御、 オーバーロード警報、オートデセル、排出オートセット/オートリターン					
	その他装置			排出コンベア先端操作					
作業能率(計算値)			(分/10a)	12～54(大豆)				9～39(大豆)	
適用作物				大豆・そば・麦					
安全鑑定番号				申請予定					

主要消耗部品の点検・交換時期の目安表

※ コンバインの使用状況やほ場の状態により、交換時間などは変化します。以下の表は、点検・交換の目安時間です。運転・作業中に異常を感じた場合は、速やかに点検を実施し、特販店、またはJAに相談してください。

○：点検と調整・掃除・締結け　●：初期運転後の点検と調整　▲：交換

点検箇所		点検・交換時期																							
		アワメータ表示時間（時間）																				それ以降 (時間：h)	
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	点検	交換
エンジン	ジェネレータ駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200h毎	400h毎
	冷却水	○	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	毎日点検	200h毎(1年)
	防塵網、ラジエータフィンの目詰まり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日点検	−
	プレクリーナのほこり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日点検	−
	エアクリーナーエレメントの目詰まり	○	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	毎日点検	200h毎(1年)
	燃料フィルタエレメント							▲						▲						▲			−	300h毎
	ウォーターセパレータ（交換部品：エレメント）	○	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	▲	○	○	毎日点検	300h毎
	オイルフィルタ		▲				▲				▲				▲				▲				−	オイル交換2回毎
	エンジンオイル	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	毎日点検	100ｈ毎
	燃料ホース				○			▲			○			▲			○			▲			150ｈ毎	300h毎
	エンジンドレンホース				○			▲			○			▲			○			▲			150ｈ毎	300h毎
	ラジエータホース						○					▲					○					▲	250ｈ毎	500h毎
	エアクリーナーホース		▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	50h毎	100ｈ毎
	燃料タンク			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100h毎	
	ＤＰＦリセット再生		●		○		○		○		○		○		○		○		○		○		100h毎	
	スートフィルタ（ＤＰＦ）																					※	※6000ｈ毎	※9000h毎
ミッション	駐車ブレーキワイヤ		●			○				○		▲		○				○				▲	50、200h毎	500h毎
	ＨＳＴオイルフィルタ		▲								▲								▲				−	400h毎
	ミッションオイル		▲								▲								▲				−	400h毎
	スプロケット									○								○					400h毎	
	車軸オイルシール									○								○					400h毎	
走行部	ＨＳＴ駆動ベルト	●	○	○	○	○	○	○	○	▲	●	○	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	"20	50h毎"
	コンプレッサ駆動ベルト	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	●	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	"20	50h毎"
	バッテリー			○		○		○		○		▲		○		○		○		○		▲	100h毎	500h(2～3年)
	ＨＰフィルター							▲												▲			−	600h毎
	クローラ		●			○				▲	●			○				▲				○	"50	200h毎"
	スプロケット			○		○		▲		○		○		▲		○		○		▲			100h毎	300h毎
	トラックローラ					○				▲				○				▲				○	200h毎	800h毎
	トラックローラベアリング					○				▲				○				▲				○	200h毎	400h毎
	トラックローラスリーブ					○				▲				○				▲				○	200h毎	400h毎
	トラックローラオイルシール					○				▲				○				▲				○	200h毎	400h毎
	アイドラ					○				▲				○				▲				○	200h毎	400h毎
	アイドラベアリング					○				▲				○				▲				○	200h毎	400h毎
	アイドラスリーブ					○				▲				○				▲				○	200h毎	400h毎
	アイドラオイルシール					○				▲				○				▲				○	200h毎	400h毎
	クローラガイド									○								▲					400h毎	800h毎
	イコライザ					○				▲				○				▲				○	200h毎	400h毎
	キャリアローラ					○				▲				○				▲				○	200h毎	400h毎
	イコライザ、キャリアローラベアリング					○				▲				○				▲				○	200h毎	400h毎
	イコライザ、キャリアローラオイルシール					○				▲				○				▲				○	200h毎	400h毎

点検箇所		点検・交換時期																					それ以降(時間:h)	
		アワメータ表示時間(時間)																						
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	点検	交換
刈取部	刈取駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200h毎	400h毎
	刈刃駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200h毎	400h毎
	刈刃(含む隙間調整)			○		○		▲		○		○		▲		○		○		▲		○	100h毎	300h毎
	リールカウンタチェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100h毎	500h毎
	リール駆動チェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100h毎	500h毎
	刈取駆動チェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100h毎	500h毎
	刈取カウンタチェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100h毎	500h毎
	プラットホームオーガチェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100h毎	500h毎
	フィーダチェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100h毎	500h毎
	刈取クラッチワイヤ		●	○		○		○		▲	●	○		○		○		▲		●		○	50, 200h毎	400h毎
	刈刃駆動ケースオイル		▲						▲						▲						▲		−	300h毎
	刈刃駆動アームベアリング		▲					▲						▲						▲			−	300h毎
	刈取駆動ケースオイル		▲						▲						▲						▲		−	300h毎
脱こく部	脱穀カウンタベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200h毎	400h毎
	脱穀駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200h毎	400h毎
	ロータベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200h毎	400h毎
	唐箕駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200h毎	400h毎
	ファンベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200h毎	400h毎
	2番駆動上ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200h毎	400h毎
	1番2番駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200h毎	400h毎
	選別駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				▲	50, 200h毎	400h毎
	エレベータチェン1番、2番		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100h毎	500h毎
	脱穀クラッチワイヤ		●	○		○		○		▲	●	○		○		○		▲		●		○	50, 200h毎	400h毎
	選別ワイヤ		●							○								▲					400h毎	800h毎
	1番コンベア											▲										▲	−	500h毎
	2番軸B											▲										▲	−	500h毎
	羽根											▲										▲	−	500h毎
	バケット											▲										▲	500h毎	先端5mm磨耗
	バケットチェン			○		○		○		○		▲		○		○		○		○		▲	100h毎	500h毎
	扱歯											▲										▲	500h毎	先端5mm磨耗
	排カン羽根											▲										▲	500h毎	先端5mm磨耗
	コンケーブ											▲										▲	500h毎	パイプ1/2磨耗
	ロータ駆動ケースオイル		▲						▲						▲						▲		−	300h毎
グレンタンク部	グレン駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200h毎	400h毎
	受継コンベア駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200h毎	400h毎
	受継搬送ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200h毎	400h毎
	排出コンベア搬送ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200h毎	400h毎
	エレベータチェン排出		●			○				▲				○				▲				○	50, 200h毎	400h毎
	下部コンベア											▲										▲	500h毎	板厚0.3mm以下
	グレン駆動チェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100h毎	500h毎
	排出コンベア駆動チェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100h毎	500h毎
	Gクラッチワイヤ		●	○		○		○		▲	●	○		○		○		▲		●		▲	"50	200h毎"
キャビン	コンプレッサ駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200h毎	400h毎
	内気フィルタ	30時間毎に掃除																						
	コンデンサフィン	●		○		○		○		○		○		○		○		○		○		▲	100h毎	−
電　装	バッテリー	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50h毎	−
		充電または交換																						
	ワイヤハーネス、バッテリーケーブル"	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50h毎	−
		破損している時交換																						

点検箇所		点検・交換時期																					それ以降 (時間:h)	
		アワメータ表示時間(時間)																						
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	点検	交換
電　装	ヒューズ、スローブローヒューズ"		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100h毎	−
		破損している時交換																						
	ランプ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100h毎	−
		破損している時交換																						
	ホーンスイッチ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100h毎	−
		破損している時交換																						
CSS	回転刃、受刃			○		▲		○		▲		○		▲		○		▲		○		▲	100h毎	200h毎
	スプレッダ切替えワイヤ		●							○								▲					400h毎	800h毎
	スプレッダ駆動ベルト		●			○				▲				○				▲				○	50, 200h毎	400h毎

8章　廃棄物の処理について

廃棄するときは

廃棄物を間違った方法で処分すると、環境汚染につながります。このコンバインに使用されている、燃料・オイル・冷却水・冷媒ガス・フィルター・バッテリー・ファンベルト・油圧ホース・燃料ホースなどは、正しく処分してください。

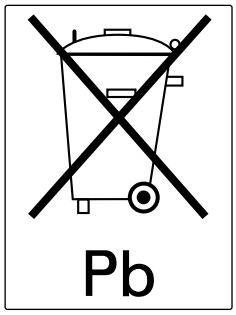


図 8-1

廃油、不凍液の処理

オイル交換で出た廃油や交換した不凍液は、河川や下水道、溝、空地などに絶対に捨てないでください。環境汚染につながります。
廃油の処分については、お買い上げいただいた特販店、またはJAへご相談ください。

バッテリーの処理

環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリーは、放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリーを購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

冷媒ガス(フロン類)の処理

- フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられていますので絶対にしないでください。
- 冷媒ガス（フロン類）は、回収が必要です。廃棄する場合は、専門の業者に引き取ってもらってください。

表 8-1 冷媒ガス

使用冷媒(クーラーガス)	フロン　R-134a
充填量	900g

ホース類の処理

ホース類の合成ゴム製品は、放置したり、捨てたりせずに、購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

保証書は大切に保管してください

「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

コンバインの調子が悪いときは、264ページの「不調診断のしかた」に従って、点検・処置してもなお不具合があるときは、つぎの「連絡していただきたい内容」を明確にして、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 販売型式名と製造番号（車両銘板）
- エンジンの場合は、エンジンの番号（エンジン銘板）
- ご使用状況は？
  （何速で、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか？
  （約□□アールまたは約□□時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えください。

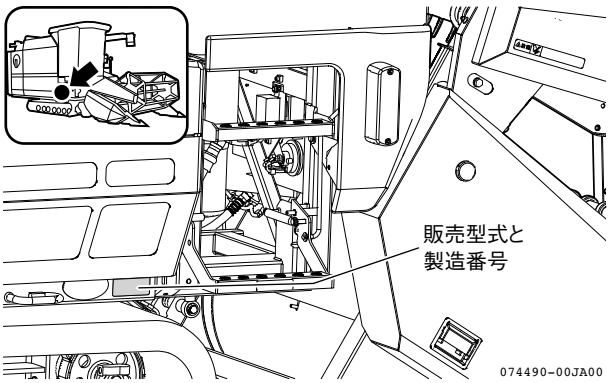


図 9-1 車両銘板

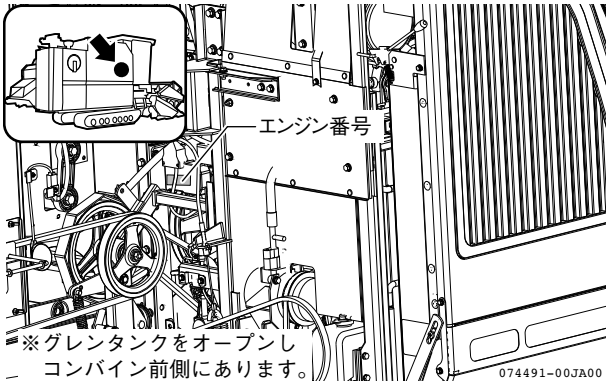


図 9-2 エンジン銘板

補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

メーカー純正部品･オイルについて

純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ね、きびしい品質検査に合格したもので、安心して使用していただけます。
部品・オイルを交換する場合には、必ず純正部品・純正オイルとご指定ください。



改造について

勝手な改造はしないでください。安全性・性能・耐久性の保証の対象外となります。

10章 索引

英数字

E モードスイッチ....69
FM・AM 付 CD ラジオ....78
HST フィルタ....212

あ

アクセルダイヤル....58

う

ウォーターセパレータ....92
ウォッシャー液....228
ウォッシャースイッチ....78
ウォッシャータンク....228

え

エアクリーナー....223
エアコン....106
エアコンスイッチ....81
エラーコード....67
エンジン銘板....1
エンジンオイル....202, 204
エンジンオイルエレメント....211
エンジン銘板....1
エンジンルーム....172
エンジンルームロックレバー....85

お

オートセットボタン....71
オートデセル機能....147
オートリフトボタン....71
オイル....204, 211
温度コントロールレバー....81

か

刈高さ・リール前後スイッチ....59
刈高さ切換レバー....62
刈高さ調節レバー....62
刈取オートクラッチスイッチ....60
刈取クラッチレバー....59
刈取部ストッパ....85
刈刃....119
刈刃・リールクラッチレバー....60

き

キー....56
キースイッチ....56
キャビン....76
強力ピン....258

く

クリーンシフトレバー....61
グリス....197
グレンタンク....121
クローラ....257

け

警報装置....145

こ

コンビネーションスイッチ....57
コンビネーションメータ....66

さ

サイドウインドウ....82
作業灯....57

し

シート....83
自動刈高さスイッチ....69
車両銘板....1
主変速レバー（HST）....63
乗降ステップ....86

す

水平自動切替スイッチ....72
ステアリングハンドル....64

せ

セフティペダル....64

そ

送塵調節レバー....61

た

脱こくクラッチレバー....59
脱こくサイド上カバー....176

ち

駐車ブレーキレバー....65
駐車ブレーキロックレバー....64
チルトレバー....85

て

ディーゼル燃料....8

と

ドア開閉レバー....77
ドアウインドウ開閉レバー....77
ドア開閉レバー....77
ドアハンドル....76
唐箕回転調節レバー....62

ね

燃料キャップ....203
燃料残量表示....203
燃料フィルター....203, 215

は

バイオディーゼル燃料....9
排気フィルター....194, 217
排気フィルター再生スイッチ....70
バッテリー....228

ひ

ヒューズ・スローブローヒューズ....232

ふ

ファンスイッチ....80
風向グリル....82
不凍液....202
プレクリーナー....224

へ

ヘッドライト....57

ほ
ホーンボタン 57

ら
ライトスイッチ.....57

り
リール高さ調節レバー.....62
リール変速レバー.....60

わ
ワンマンホッパ.....122

11章 部品リスト(部品早見表)

オプション

表 11-1 オプション

部位	名称	型式、仕様	MCH400A					
			-	GE	GCE	GCES	GCWE	GCWES
脱穀部	そば・麦共用部品	BW400-K,KM	○	○	○	○		
	そば・麦共用部品(2M用)	BW400W-K,KM					○	○
	そば専用部品	BW400-K,SM	○	○	○	○	○	○
	麦専用部品	BW400-K,MM	○	○	○	○	○	○
	ナタネ部品	BW400-K,NM	○	○	○	○	○	○
	雑穀部品	BW400-K,ZM	○	○	○	○	○	○
	雑穀部品(チャフシーブ前)	BW400-K,ZAM	○	○	○	○	○	○
	小豆専用部品	RB400,M	○	○	○	○		
	小豆専用部品(2M用)	RB400W,M					○	○
	切刃キット	B400KKIT,KIHM	○	○	○	○	○	○
刈取部	リフター	B400-K,LFTM	○	○	○	○	○	○
	防塵ファンキット	B400-K,FANM	●	●	○	○	○	○
	2inch刈刃キット	BW400-K,2KM	○	○	○	○		
	2inch刈刃キット(2M用)	B400W-K,2KM					○	○
排藁部	スプレッダ	CSS360,M	○					
		CSS360,GEM		○				
		CSS360,GCEM			○	●	○	●
その他	バック&オーガ+モニター	DM-YH400,ZZZM			○	○	○	○

○は装備可能対象、●は標準装備

主要消耗部品

表 11-2 主要消耗部品

	No.	部品名称	部品コード	個　数	備　　考
ベルト	1	HST走行駆動ベルト LB51-AG8	97320000110	2	エンジンプーリ～走行HST CMP
	2	刈取駆動ベルト トクB68	97190000130	1	PTO2軸～FHカウンタージク
	3	刈刃駆動ベルト トクC72H	97090000120	1	PF駆動軸～刈刃駆動ケース
	4	脱こく駆動ベルト トクC61(AG8)	97270001010	1	エンジンプーリ～脱穀カウンタ
	5	脱こくカウンタベルト LC135(AG8)	97250005690	1	脱穀カウンタ～カウンタージク
	6	選別駆動ベルト トクB46H	97090000020	1	カウンタージク～揺動軸
	7	1番2番駆動ベルト トクB92H	97090000050	1	揺動軸～1･2番コンベア
	8	唐箕駆動ベルト トクB73H	97090000070	1	揺動軸～唐箕
	9	ロータ駆動ベルト トクC69	97190000090	1	カウンタージク～ロータ駆動ケース
	10	ロータ駆動ベルト トクC62H	97090000040	2	ロータ駆動ケース～ロータ
	11	2番駆動上ベルト B42(AG6)	97090015590	1	ロータ～2番コンベア
	12	オーガ入力ベルト LB44(AG4)	97190000140	1	エンジン～Gニュウリョク1ジク
	13	コンプレッサ駆動ベルト(マルチプライ A32)	97180000040	1	Gニュウリョク1ジク～コンプレッサ
	14	クラッチベルト トクB60H	97190000150	1	Gニュウリョク2ジク～下部コンベア
	15	冷却ファンベルト コグA38	97370000140	1	エンジン～CWポンプ～ジェネレータ
	16	受継コンベア駆動ベルト トクA40H	97190022750	1	下部コンベア～受継１軸
	17	受継搬送ベルト	97190020230	1	受継1軸～受継ローラB
	18	排出コンベア搬送ベルト	97190020241	1	油圧モータ～Eコンベア排出口
	19	スプレッダクラッチベルト LB42H	96000062881	1	カウンタージク～スプレッダ
	20	ロータ駆動ベルト トクC59H	97090013760	2	ロータ駆動ケース～ロータ
	21	ロータ駆動ベルト LB62	97330000040	3	ロータ駆動ケース～ロータ
	22	刈刃駆動ベルト トクC70H	97090015570	1	PF駆動軸～刈刃駆動ケース
チエン	23	チエン 50X55L	97190000200	1	刈取駆動
	24	チエン 50X174L	97190000190	1	
	25	チエン 415X80	97190000160	1	リールカウンタ
	26	チエン 415X194	97190000170	1	リール駆動
	27	チエン 50X85L	97330000080	1	掻き込み駆動
	28	フィーダチエン 80	97190023620	2	FHコンベア
	29	エレベータチエン 1バン	97250004860	1	ヨウコクコンベア
	30	エレベータチエン 2バン	97090000340	1	2番コンベア
	31	チエン 415X33	97190020200	1	下部コンベア
	32	エレベータチエン ハイシュツ(152L)	97190020250	1	排出駆動
	33	チエン 415X53	97190020210	1	Eコンベア駆動
	34	チエン 50X82L	97370000120	1	掻き込み駆動(オプション)
その他	35	タイン 268	97190020610	108	1．5mヘッダー
				150	W:2mヘッダー
	36	刈刃仕組	97190024010	1	1．5mヘッダー
		刈刃CMP(3INCH W ALL	97370000130	1	W:2mヘッダー
	37	扱歯 R7 EX	97300001250	96	
	38	ワイヤ(ブレーキ	97370000050	1	
	39	ワイヤ(刈取クラッチ	97370000060	1	
	40	ワイヤ(脱穀クラッチ	97370000070	1	
	41	選別ワイヤー	97300002190	1	
	42	Gクラッチワイヤー	97190020220	1	
	43	１番コンベア	97090000300	1	
	44	下部コンベア	97370000080	1	
	45	２番軸B	97090000310	1	
	46	羽根	97090000320	1	

	No.	部品名称	部品コード	個　数	備　　考
その他	47	バケット 75	97090000350	37	標準
				31	ワンマンホッパ仕様
	48	排稈羽根	94690005660	2	
	49	コンケーブパイプ 21	97300003871	4	
	50	コンケーブ(クリンプアミ	97370000100	4	ムギキット部品
	51	コンケーブ(クリンプ 12	97300002840	4	雑穀キット部品
	52	コンケーブ A	97330000050	3	黒大豆部品
	53	コンケーブ B	97330000060	1	黒大豆部品
	54	コンケーブ 25X625	97090000370	2	ハトムギ部品(前側
	55	バッテリー 95D31R	97250008180	1	
	56	2番スラット	97090000360	27	
	57	サイドシール L	97190022781	1	
	58	サイドシール R	97190023630	1	
	59	スクレーパ上	97190022980	1	
	60	投げ口シート	97190023540	1	
	61	フィルター 80XL80	90300004972	1	
	62	エレメントASY(HSTフィルタ)	94690071390	1	
	63	エレメント(ウォーターセパレータ)	97360000240	1	
	64	FOフィルタ(燃料フィルタ)	97370000030	1	
	65	エレメント(アウタ(エアクリーナーエレメント)	97370000020	1	

フロン排出抑制法によるお客様点検

フロン排出抑制法とは
「フロン類の使用の合理化および管理の適正化に関する法律」（略称「フロン排出抑制法」）として施行されました。

対象機種	エアコン装備（キャビン仕様）のトラクター・コンバインや玄米低温貯蔵庫、ガスヒートポンプなど、第一種特定製品が該当します。 ※ 13 馬力以上のガスヒートポンプは、ガスエンジンの定格出力が7.5kW 以上となり、別途「定期点検」が必要となります。詳細は販売店にご確認ください。

機械の管理者（お客様）は、以下のことを行う必要があります。	
1. 簡易点検の実施 3ヶ月に1回以上の目視による簡易点検（外観点検※）を行う必要があります。 点検により冷媒の漏れや、その可能性を見つけた場合は、速やかに販売店にご連絡ください。 ※ 目視で確認可能な配管部分などの異音・異常振動、製品外観の損傷・腐食・錆、油のにじみなどの点検です。簡易点検はお客様自身でもできる点検のため、資格などは必要はありません。	**2. 記録の保管** 簡易点検を行ったこと、および点検を行った日を記録する必要があります。点検記録表は、機械を廃棄・譲渡するまで保管が必要となっています。 ※ 機械を他者に売却・譲渡する場合は、点検記録表またはその写しを相手に引き渡す必要があります。点検記録表はつぎのページを参照してください。
点検サービスについて	販売店では、簡易点検に関するアドバイスを行っております。 点検に関するご相談や代行の依頼など、お気軽にご相談ください。

お客様点検用

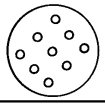
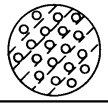
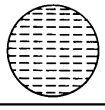
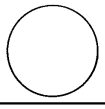
フロン排出抑制法に基づく
第一種特定製品（農業機械用エアコン機器等）

簡易点検記録表

機　種		管理責任者	
型　式			
機　番			

点　検				項目	機器の損傷・腐食	機器の冷媒の漏れ	冷媒量 サイトグラスの状態・点検	機器の騒音	機器の振動	機器の温度調整機能	気づいたこと
点検者	年	月	日	基準	損傷・著しい腐食	油漏れ・にじみ		異常な音	異常な振動	温度変化があること	
				3ヶ月に1回以上点検すること	有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	

■冷媒量チェック表

エアコンの状態	異常なし	異常あり		
サイトグラスの状態	ほとんど透明 泡の流れが見えてもエンジン回転をあげると透明になる 	気泡の流れるのが見える。 透明または白泡のときもある 	霧のようなものが流れているのがわずかに見える 	ファンを最大で回し、窓を全開にしてアイドリングで回しても気泡が見えない 

※不具合や不明なことがあった場合は、販売店にお問い合わせください。
　冷媒の漏えいを発見した場合は、速やかに漏えい箇所の特定および修理を依頼してください。漏えい箇所が不明の場合は充填しないでください。
※［記録の保管］エアコン機器を廃棄するまで点検記録表を保管してください。
※点検記録表は、この用紙を複写してお使いください。

071250-00JA00